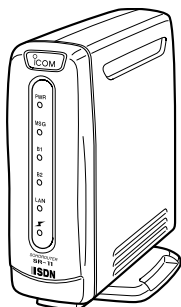


取扱説明書[基本編]



SOHOROUTER SR-11

本書は、最初にお読みください。
本製品を使うための基本的な内容について説明しています。
付属のCD-ROMには、取扱説明書[応用編]と「USBを使うか
たへ」を収録していますので、必要に応じてご覧ください。



- 1 ご使用になる前に
- 2 本製品と回線をつなぐ
- 3 パソコンを設定する
- 4 本製品とパソコンをつなぐ
- 5 簡単設定ソフトで設定する
- 6 WWWブラウザで設定する
- 7 インターネットにつなぐ
- 8 無線LANを構築する
- 9 アナログ機能を設定する
- 10 保守について
- 11 ご参考に

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LAN機能を備えたISDN ROUTERです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、未長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、iCOM は、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

意図しない自動接続による通信料課金に注意!!

本製品をダイヤルアップルータとしてご使用になる場合は、自動接続の機能をよくご理解の上、ご使用ください。
ダイヤルアップルータを自動接続する設定にして、パソコンやLANに接続した場合、ダイヤルアップルータはパソコンのアプリケーション(メールソフト、ブラウザなど)が送信するデータやLAN上を流れるデータの宛先を監視し、WAN側への宛先があると本体に設定された内容にしたがって自動的に回線への接続を行います。そのため設定まちがい、回線切断忘れ、ソフトウェアや機器が定期送信パケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダー接続料金がかかる場合があります。ときどき本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプが点灯や点滅を繰り返していないか、または通信記録や累積料金を調べて、意図しない接続がないか、累積料金が適当であるかどうかをご確認ください。

情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるように要求されることがあります。

ユーザー登録について

本製品のユーザーサポート用愛用者カードに必要な事項をご記入いただき、必ずご返送ください。
ご返送いただけない場合、サポートサービスをご提供できませんのでご注意ください。

はじめに

本製品でできること

本製品の設定は、すべてWWWブラウザから行えます。

最大11Mbpsの無線LAN機能を備えていますので、弊社製の11Mbps対応無線LANカードを装着するパソコン(PC/AT互換機)から本製品にワイヤレス接続できます。また、無線LANは、現在発売されている弊社製の11Mbps対応無線LANカードで使えます。

アドレス自動割り当て(DHCPサーバ)機能を備えていますので、簡単に有線および無線LANの構築が行えます。

無線LAN機能として、有線LAN上のパソコンが本製品を介して、無線LAN上のパソコンとワイヤレス接続できるアクセスポイント(ローミングを含む)機能を搭載しています。

お手持ちのDSU(デジタルサービスユニット)やDSU内蔵型TA(ターミナルアダプター)、G4ファクシミリ、デジタル電話機の接続に必要な[ISDN S/T]ポートを備えています。

ISDNや専用回線(OCNなど)に直接接続できます。また、本製品に内蔵のDSUを切り離して、市販のDSUやDSU内蔵型TAと接続できます。

ISDN回線の課金情報をはじめとする各種情報を、WWWブラウザの画面で確認できます。通信エラーの原因や、回線使用料などの管理も簡単です。

プロバイダーが提供するメール着信通知サービスを利用できます。本製品の表示ランプが点滅して、メールが着信したことを知らせます。

WWWブラウザでメールの送信者と題名を確認することもできます。

本製品のファームウェアは、インターネット経由で更新できます。専用ソフトウェアを使うので、操作が簡単です。

ISDN回線で使うとき、電話機、FAX、モデムなどのアナログ機器を利用できます。また、アナログ機器どうして内線通話や内線転送もできます。

不慮の停電に備えて、停電対策用電池ボックスを備えていますので、停電のときはその電池を使って電話などのアナログ機器をバックアップします。また、デジタル電話での通話もできます。
(約1時間の連続通話が可能)

NTTのINSネット64の便利なサービスを利用できます。

「フレックスホン」、「INS ボイスワープ」や「INS ナンバーディスプレイ」、「フレッツ ISDN」をはじめ、NTTが提供している各種サービスを利用できます。

[Ethernet]ポートが装備されていない場合でも、パソコン(Windows)に[USB]ポートが装備されていれば、本製品は、TA(ターミナルアダプタ)として動作しますので、本製品を介してインターネットと接続できます。

[USB]ポートに接続されたパソコンは、Ethernetや無線で接続されたパソコンのネットワークグループの一員として使うことはできません。

取り扱い上のご注意

動作中に接続ケーブルなどが外れたり、接続が不安定になると、誤動作の原因になります。コネクタをしっかりと接続して、動作中は、コネクタの接続部に触れないでください。

静電気などの影響により、誤動作や動作停止がまれに起こることがあります。

そのようなときは、本製品に接続するDCプラグを約5秒間外した状態にして、もう一度接続しなおしてください。

パソコンおよびその他の周辺機器の取扱いは、それぞれに付属する取扱説明書に記載する内容にしたがってください。

本製品を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。このようなときは、本製品を、妨害を受けている機器からできるだけ離して設置してください。

本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、改変や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

本書の著作権およびハードウェア、ソフトウェアに関する知的財産権は、すべてアイコム株式会社に帰属します。

本書の内容の一部または全部を無断で転用することは、禁止されています。

本書およびハードウェア、ソフトウェア、外観の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

はじめに

無線LANの電波法についてのご注意

本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、特定無線設備の認証を受けています。したがって、本製品を使用するときには無線局の免許は必要ありません。

本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。

本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。

心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品をご使用にならないでください。

心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

医療機器の近くで本製品を使用しないでください。医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。

電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。

本製品の無線装置は、電波法に基づく認証を受けていますので、以下の事項を行なうと法律で罰せられることがあります。

本製品を分解 / 改造すること

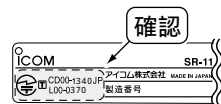
本製品の裏面に貼ってある証明ラベルをはがすこと。

無線通信LAN製品は、電気通信端末機器の適合認定を受けた弊社製品を、ご使用ください。

上記以外の無線通信LAN製品を使用して、公衆電話回線に接続することは、法律で禁じられています。

機器本体には、右図のような技適証明マークと技適証明番号および認定番号が印刷されたシールが貼られていることを確認してからご使用ください。

無線LANをご使用になるときは、次ページの「無線LANの電波干渉についてのご注意」も併せてお読みください。



無線LANの電波干渉についてのご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)が運用されています。

この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。

万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための対処等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談してください。

その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：アイコム株式会社 サービス課 06-6792-4949

表記について

本書は、次の表記規則にしたがって記述しています。

- 「 」表記オペレーションシステム(OS)、ユーティリティ、メニュー、ウィンドウ(画面)の名称を(「」)で囲んで表記します。
- []表記タブ名、アイコン名、テキストボックス名、チェックボックス名などを([])で囲んで表記します。
 - 表記ダイアログボックスのコマンドボタンなどの名称を()で囲んで表記します。

Windows98 Second Editionは、Windows98 SEと表記します。

Windows Millennium Editionは、Windows Meと表記します。

本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

はじめに

取扱説明書の構成について

本書では、本製品をご使用になる前に知っておいていただきたい内容と、インターネットやLANへ接続するための基本的な方法や設定について説明しています。

本製品を使って複雑な運用をする場合は、取扱説明書の応用編を参照してください。

基本編(本書)

本製品をISDN回線に接続して基本的な運用形態の設定を行ったあと、ダイヤルアップ接続してインターネットができるようになるまでを説明しています。また、本書を順番に読みながら作業を進められるようになっています。詳細な運用機能についての情報は、応用編で説明していますので、必要に応じて参照してください。

応用編

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。本製品の多様な機能を設定する画面についての説明と、回線種別ごとに、具体的な運用形態に対する設定例を説明しています。

USBを使うかたへ

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。本製品の[USB]ポートからTA機能をご使用になるとき必要なドライバーのインストールと、TA機能の設定に使うATコマンドについて説明しています。

Telnetコマンドガイド

本製品のCD-ROMにPDF形式で収められています。本製品をWindows98などに付属するTelnetから設定を行うためのコマンドリファレンスについて説明しています。

基本編の構成について

基本編について、作業の流れをつかみやすいように、各章のタイトルと内容をなるべくわかりやすく記載しています。

第1章 使う前に準備をしましょう

本製品の梱包内容、および各部の名称について説明しています。

第2章 本製品と回線でつなぎましょう

本製品とISDN回線、および専用線の接続についての説明です。

第3章 パソコンを設定しましょう

本製品でご使用になるパソコンの設定についての説明です。

第4章 パソコンを本製品につなぎましょう

設定したパソコンを本製品につなぐ方法についての説明です。

第5章 簡単接続設定ソフトで設定しましょう

「簡単接続設定ウィザード」で設定を行うときの説明です。

第6章 WWWブラウザで設定しましょう

WWWブラウザで設定を行うときの説明です。

第7章 インターネットにつなぎましょう

ダイヤルアップで回線接続する方法についての説明です。

第8章 無線LANを構築しましょう

ネットワークに無線LANを含める方法についての説明です。

第9章 アナログ機能を設定しましょう

電話機で使える基本的な設定項目についての説明です。

第10章 本製品の保守を行いましょう

本製品を常に正常な状態でご使用いただくための説明です。

第11章 参考にしましょう

出荷時の設定値や用語解説の説明です。

はじめに

取扱説明書[基本編]の使いかたについて

目的に応じて次の箇所をお読みください。

電話を 使いたい ↓ 1章 2章 9章	ダイヤルアップ で接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 5・6章 7章	専用線で 接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 CD-ROM	無線LANで 接続したい ↓ 1章 2章 3章 4章 8章	既存のLAN で使いたい ↓ 1章 3章 4章	USBを 使いたい ↓ 1章 CD-ROM
CD-ROMを 使いたい ↓ 10章	設定内容を 初期化したい ↓ 10章	設定内容を 保存したい ↓ 10章	搭載機能を 調べたい ↓ 11章	詳しく設定 したい ↓ 6章 8章 11章 CD-ROM	用語を 調べたい ↓ 11章

はじめに	i
もくじ	x
安全上のご注意(必ずお読みください)	xiv
1. ご使用になる前に	1
1-1. 梱包内容の確認	2
1-2. 前面パネル	3
1-3. 後面パネル	4
1-4. 側面パネル	5
1-5. スイッチの設定	6
1-6. フェライトコアのつけかた	7
1-7. スタンドのつけかた	7
1-8. バックアップ用電池の入れかた	8
電池を用意する	8
電池を入れる	8
停電中の動作について	9
1-9. 設置場所について	10
1-10. NTTとの回線契約について	11
ISDN回線	11
専用線	11
1-11. プロバイダーとの契約について	12
「端末型ダイヤルアップ接続」で契約	12
「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約	12
「フレッツISDN接続」で契約	12
「OCNエコノミーサービス」で契約	13
「専用線接続」で契約	13
1-12. [Ethernet]ポートについて	14
デスクトップ型パソコンの場合	14
ノートブック型パソコンの場合	14
1-13. 無線LANカードについて	15
デスクトップ型パソコンの場合	15
ノートブック型パソコンの場合	15
[USB]ポートがあるパソコンの場合	16
1-14. [USB]ポートについて	16
2. 本製品と回線をつなぐ	17
2-1. ISDN回線をつなぐ	18
本製品のDSUを使う場合	18
ほかのISDN機器のDSUを使う場合	19
2-2. 電話機やファクシミリをつなぐ	20
2-3. アース線と電源をつなぐ	21
2-4. 電話機やファクシミリの動作を確認する	22

2-5.ほかのISDN機器をつなぐ	24
ほかのISDN機器の動作を確認する	25
2-6.専用線をつなぐ	27
本製品のDSUを使う場合	27
ほかのISDN機器のDSUを使う場合	28
3. パソコンを設定する	29
3-1.パソコンをEthernetでつなぐには	30
Ethernetカードを用意する	30
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	
【Windows Meの場合】	30
【Windows 2000の場合】	33
【Mac OSの場合】	35
3-2.パソコンを無線LANでつなぐには	36
無線LANカードを用意する	36
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	
【Windows Meの場合】	36
【Windows 2000の場合】	39
無線LANカードを設定する	41
3-3.WWWブラウザを用意する	42
4. 本製品とパソコンをつなぐ	43
4-1.新規にLANを構築する	44
Ethernetを使ってつなぐ	44
HUBを使ってつなぐ	45
無線LANを使ってつなぐ	46
4-2.既存のLANに組み入れる	47
ネットワーク状況の確認	47
IPアドレスを設定する	47
既存のLANにつなぐ	47
4-3.割り当てられたIPアドレスを確認する	
【Windows Meの場合】	48
【Windows 2000の場合】	49
【Mac OSの場合】	50
5. 簡単設定ソフトで設定する	53
5-1.本製品とパソコンの電源を入れる	54
5-2.簡単設定ソフトを起動する	54
5-3.設定をはじめると	55
6. WWWブラウザで設定する	61
6-1.本製品とパソコンの電源を入れる	62
6-2.設定画面を呼び出す	62
「回線設定」画面	62

「接続状況」画面	63
各メニューボタンについて	64
回線種別を変更するときは	64
6-3.本製品の時計を設定する	65
6-4.無線LANを設定する	66
6-5.ISDN回線でインターネットに端末型接続する	68
6-6.フレッツISDNでプロバイダーと接続する	71
6-7.ISDN回線でネットワークにLAN間接続する	74
6-8.本体IPアドレスを変更するには	78
6-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	79
6-10.接続先を複数登録するには	80
7. インターネットにつなぐ	81
7-1.インターネット接続を開始する	82
手動で接続する	82
自動で接続する	83
7-2.インターネット接続を終了する	84
自動で切断する	84
手動で切断する	85
7-3.ISDN課金情報を見るには	86
意図しない課金が発生する原因について	86
8. 無線LANを構築する	87
8-1.アクセスポイント機能を使う	88
8-2.ローミング機能を使う	89
9. アナログ機能を設定する	91
9-1.発信を始めるまでの待ち時間を変更するには	92
9-2.INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには	93
9-3.発信者番号通知の設定を変更するには	94
9-4.外線着信時の呼び出し音を変更するには	95
9-5.内線通話をするには	96
9-6.内線転送をするには	97
もう一方の相手と内線通話してから転送する	98
もう一方の相手と内線通話しないで転送する	98
9-7.電話機の音量を調節するには	99
自分の受話器の音量を調節する	99
相手の受話器の音量を調節する	99
9-8.短縮ダイヤルを登録するには	100
短縮ダイヤルで電話する	100
9-9.アナログ機器の課金情報を見るには	101
10. 保守について	103
10-1.付属のCD-ROMについて	104

もくじ

Auto Run機能について	104
対応OSについて	104
内容について	104
10-2.ソフトウェアのインストール.....	105
10-3.ソフトウェアのアンインストール.....	107
10-4.設定画面へのアクセスを制限するには.....	108
10-5.設定内容の確認または保存.....	109
10-6.保存された設定の書き込み.....	110
10-7.設定を出荷時の状態に戻す.....	111
[A] ディップスイッチを使う	111
[B] 設定画面を使う	113
[C] Utilityを使う	114
10-8.本製品をバージョンアップする.....	115
ファームウェアについて	115
10-9.故障のときは.....	118
11. ご参考に	119
11-1.設定画面の構成について.....	120
11-2.設定項目の初期値一覧.....	121
11-3.機能一覧.....	123
11-4.定格.....	124
11-5.各種ポート仕様.....	126
11-6.用語解説.....	127

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

- ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- 次の『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。

■ SOHOROUTERについて

警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

本製品に付属のACアダプター以外は、使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

DCジャック以外の端子に電源を接続しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

設置するときは、必ずアース線を接続してください。また、アース線は、ガス管や水道管に接続しないでください。

火災、感電の原因になります。

本製品を使用中は、ぬれた手で本製品に触れないでください。

感電の原因になります。

接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACコードや接続ケーブルに、赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、設置してください。

感電、けがの原因になります。

本製品を使用中、装置内部が高温になるため、通気口をふさいだり、布でおおったり、包んだりしないでください。熱がこもって、火災、故障の原因になります。

接続ケーブルを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。

水などでぬれやすい場所(加湿器のそばなど)に設置しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

本製品の通気口や接続端子に線材のような金属物を入れたり、差し込んだりしないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

万一、煙が出ている、変なにおいがする、変な音がする、水などが入った場合は、使用を中止してください。

そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。

すぐに本製品に接続されたACアダプターのプラグとその他のケーブル類を取り外してください。

煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社営業所サービス係に連絡してください。

安全上のご注意

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

屋外に設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
ぐらついた台の上や、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして火災、けが、故障の原因となることがあります。
上に乗ったり、重い物を載せたり、挟んだりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所には設置しないでください。
故障の原因になることがあります。
直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所では使用しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
説明とは異なる接続をしないでください。また、本製品への接続をまちがえないように十分注意してください。
故障の原因になることがあります。
テレビやラジオの近くで使用しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

結露するような場所で使用しないでください。温度差の激しい環境を急に移動した場合、結露するおそれがありますのでご注意ください。
火災、故障の原因になることがあります。
結露した場合、乾燥させるか、長い間同じ環境に置いたあと、ご使用ください。
電子レンジなど、強い磁界や静電気の発生する場所、温度、湿度が、取扱説明書に定めた使用環境を超えところでは使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
長時間、使用しないときは、安全のため本製品に接続するACアダプターを取り外してください。
発熱、発火、故障の原因になることがあります。
近くに雷が発生したときは、ACコードや接続ケーブルに触れないでください。
火災、感電の原因になることがあります。
清掃するときは、シンナーやベンジンを絶対使用しないでください。
ケースが変質したり、塗料がはげる原因になることがあります。普段はやわらかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませてふいてください。

■ ACアダプターについて



警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

その他の機器で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

AC100V以外の電源電圧で使用しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードを抜き差しするときは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードは、タコ足配線しないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

ACコードを束ねて使わないでください。

発熱して、火災の原因になります。

ぬれた手でACプラグや機器に絶対触れないでください。

感電の原因になります。

ACプラグは、電源コンセントの奥まで確実に差し込んでください。

差し込みが不十分な場合、火災、感電の原因になります。

ACコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACコードの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。

傷ついて破損し、火災、感電、故障の原因になります。

ACプラグの金属部分、およびその周辺にホコリが付着している場合は、乾いた布でよくふき取ってください。

そのまま使うと、火災の原因になります。

ACコードが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

火災、感電、故障、データの消失または破損の原因になりますので、お買い上げの販売店、または弊社各営業所サービス係に連絡してください。

安全上のご注意

■電池ボックスについて(本製品の側面部)

⚠ 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

電池の⊕と⊖の極性に、ご注意ください。

極性を間違えると、電池の破損、破裂、液漏れの原因になります。

電池に直接ハンダ付けをしないでください。

電池の破損、破裂、液漏れの原因になります。

電池は、赤ちゃんや小さなお子さまの手の届かないところに置いてください。

万一、なめたり、飲み込んだりした場合は、ただちに医師に相談してください。

電池の⊕と⊖を線材で接続したり、分解、加熱、火の中に入れてたりしないでください。

電池から有毒な液体が出て目に入ったり、発熱、破裂の原因になります。電池ボックスの端子間をショートさせないでください。

火災、感電、故障の原因になります。

電池の液体が衣服に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。

万一、目に入ったり、皮膚に付着したときは、きれいな水で洗い流したあと、医師に相談してください。

⚠ 注意

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害だけの発生が想定される内容」を示しています。

ご使用の電池は、必ず単3のアルカリ乾電池(LR6)をご使用ください。

マンガン乾電池でのご使用は、動作電圧の不足で誤動作して、故障の原因になることがあります。

同じ種類の新しいアルカリ乾電池をご使用ください。

新しい乾電池と使用済みの乾電池を混用すると発熱の原因になることがあります。

落下などによって変形した電池を使用しないでください。

液漏れの原因になることがあります。使い切った電池は、すぐに装置から取り外してください。

そのまま放置すると、液漏れして故障の原因になることがあります。

電池の保管は、直射日光のあたる場所や湿気の多い場所を避けてください。

液漏れ、発熱の原因になることがあります。

この章では、
本製品を使う前に必要な準備などを説明します。

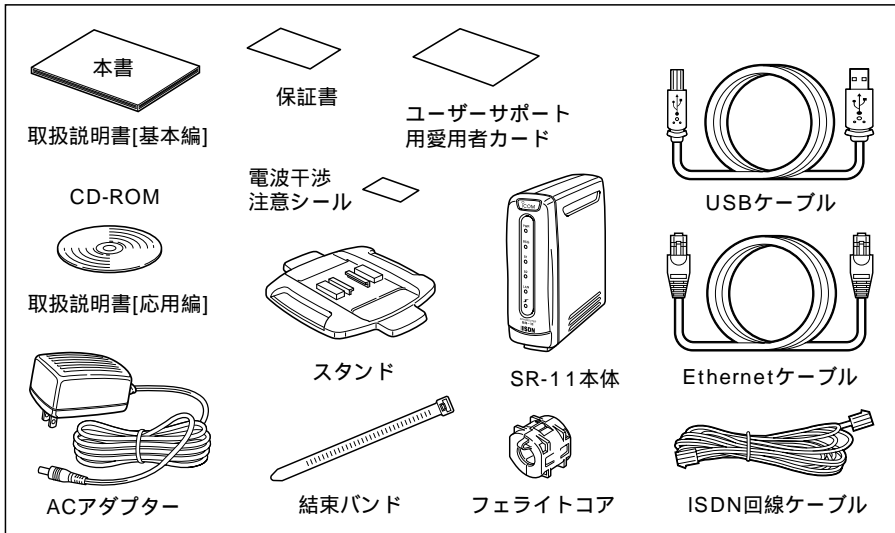
1-1. 梱包内容の確認	2
1-2. 前面パネル	3
1-3. 後面パネル	4
1-4. 側面パネル	5
1-5. スイッチの設定	6
1-6. フェライトコアのつけかた	7
1-7. スタンドのつけかた	7
1-8. バックアップ用電池の入れかた	8
電池を用意する	8
電池を入れる	8
停電中の動作について	9
1-9. 設置場所について	10
1-10. NTTとの回線契約について	11
ISDN回線	11
専用線	11
1-11. プロバイダーとの契約について	12
「端末型ダイヤルアップ接続」で契約	12
「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約	12
「フレッツISDN接続」で契約	12
「OCNエコノミーサービス」で契約	13
「専用線接続」で契約	13
1-12. [Ethernet]ポートについて	14
デスクトップ型パソコンの場合	14
ノートブック型パソコンの場合	14
1-13. 無線LANカードについて	15
デスクトップ型パソコンの場合	15
ノートブック型パソコンの場合	15
[USB]ポートがあるパソコンの場合	16
1-14. [USB]ポートについて	16

1 ご使用になる前に

1-1 梱包内容の確認

本製品のパッケージには、次のものが同梱されています。本製品をご使用になる前に、すべて揃っていることを確認してください。

不足しているものがありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店または弊社営業所サービス係までお問い合わせください。



ISDN回線ケーブル

本製品をISDN回線またはデジタル専用回線に接続するケーブルです。ケーブルの両端には、6Pinのモジュラープラグがついています。

Ethernetケーブル

本製品をパソコンまたはHUBに接続するケーブルです。両端に8Pinのモジュラープラグがついています。

全pinストレート結線を使用していますので、[ETHERNET]および[ISDN S/T]ポート接続用として、ご使用になれます。

USBケーブル

本製品とパソコン(PC/AT互換機)の[USB]ポートを接続するケーブルです。

スタンド

本製品を立てる台です。

CD-ROM

本製品の取扱説明書[応用編]がPDF形式で収められています。また、USBケーブルでパソコン(PC/AT互換機)と接続する場合に必要なUSBドライバーなどが収められています。(付属のCD-ROMについて 10-1章)

フェライトコア

付属のEthernetケーブルに取り付けます。

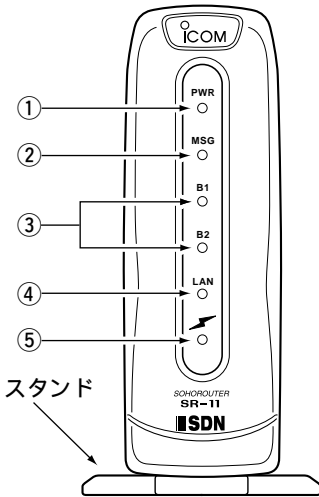
結束バンド

フェライトコアの固定用バンドです。

ACアダプター

本製品専用の電源です。

1-2 前面パネル



① [PWR]ランプ

電源の状態を表示します。

点灯：本製品の電源が入っているとき

点滅：バックアップ電池(停電モード)で動作しているとき

② [MSG]ランプ

点灯：回線の未接続や異常があるときで、点灯中は、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返します。

点滅：メール着信通知機能が設定されていて、プロバイダーのメールサーバに電子メールが到着したとき

③ [B1]/[B2]ランプ

ISDN回線の状態を表示します。

[アナログ通話を行う場合]

点灯：ダイヤルして発信が行われたとき

[データ通信を行う場合]

点灯：相手側との接続が完了して、通信可能な状態になったとき

点滅：通信が行われているとき

64kbps(Bチャンネル×1)で接続されると、[B1]ランプまたは[B2]ランプが点灯します。

128kbps(Bチャンネル×2)で接続されると、両方のランプが点灯します。

回線の契約内容によっては、[B1]/[B2]ランプが点灯または点滅している場合、通信料金が加算されることがあります。

④ [LAN]ランプ

有線LANの状態を表示します。

点灯：Ethernetケーブルの接続が正常なとき

点滅：通信が行われるとき

消灯：Ethernetケーブルの接続を認識していないとき

⑤ [無線LAN]ランプ

無線LANの状態を表示します。

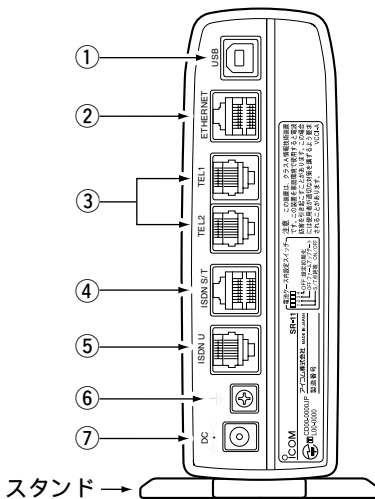
点灯：無線での接続が正常なとき

消灯：以下の3とおりがあります。

- 無線での接続に異常があるとき
- 端末が無線伝送エリア外に移動したとき
- 1～2分間、無線通信しない状態がつづいたとき

1 ご使用になる前に

1-3 後面パネル



① [USB]ポート

付属品のUSBケーブルを使って、パソコンの[USB]ポートと接続します。

TA機能を使ってインターネットするとき使います。

Macintoshには対応していません。

② [Ethernet]ポート(RJ-45型)

付属品のEthernetケーブルを使って、パソコンやHUBと接続します。

③ [TEL 1]/[TEL 2]ポート(RJ-11型)

電話機やG3ファクシミリまたはモデムなどのアナログ機器を接続します。

電話機のダイヤル設定は、PB(トーン)にしてください。

バックアップ用電池で動作しているときは、[TEL 2]ポートに接続するアナログ機器は機能しません。

④ [ISDN S/T]ポート(RJ-45型)

デジタル電話機やG4ファクシミリ、ターミナルアダプター(TA)、デジタルサー

ビスユニット(DSU)などのISDN機器を接続します。

本製品を含め最大8台まで接続できます。

⑤ [ISDN U]ポート(RJ-11型)

ISDN回線またはデジタル専用回線と接続します。

本製品に内蔵のDSUを使う場合は、付属品のISDN回線ケーブルを使います。内蔵のDSUを「OFF」で使うときは、市販のDSU内蔵TAなどと接続します。

⑥ アース端子

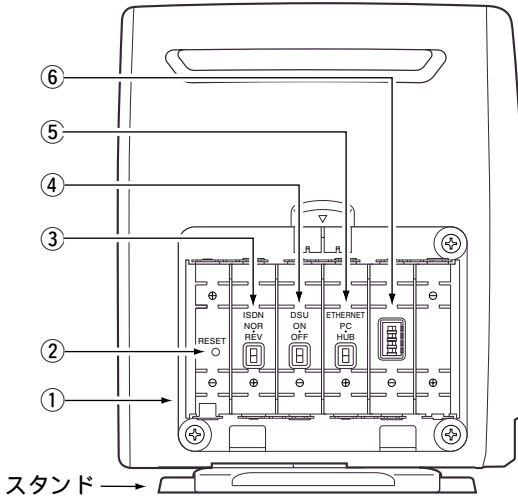
アース線を接続します。

アース線は、市販のものをご用意ください。

⑦ DCジャック

付属品のACアダプターを接続します。

1-4 側面パネル



① 電池ボックス

停電したとき、本製品の[TEL 1]ポートに接続した電話機が使えるように、バックアップ用の電池(単3型アルカリ乾電池)を入れておきます。

② RESET ボタン

本製品の電源を入れた直後(再起動)の状態にします。

③ [ISDN]スイッチ

[ISDN U]ポートの極性を反転させるスイッチです。

④ [DSU]スイッチ

内蔵のDSUを本製品から切りはなすスイッチです。

⑤ [ETHERNET]スイッチ

[ETHERNET]ポートの極性を反転させるスイッチで、本製品に接続する機器によって、「PC」または「HUB」に切り替えます。

⑥ ディップスイッチ

[1]～[4]のスイッチがあります。

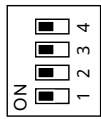
[1]: [受信信号終端]スイッチ

[2]: [送信信号終端]スイッチ

[3]: [Utility使用]スイッチ

[4]: [設定初期化]スイッチ

詳しくは、「スイッチの設定」(※1-5章)をご覧ください。



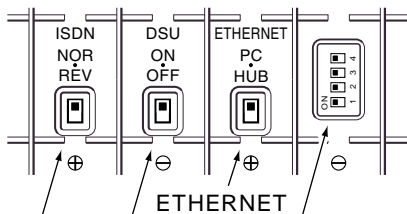
【ISDN回線の極性】

NTTの局線には、極性があります。通常は、ストレート結線のISDN回線ケーブルを接続すると通信できますが、たまに極性が反転している場合があります。付属品のISDN回線ケーブルでは正しく回線に接続できないことがあります。このようなときは、本製品の[ISDN]スイッチを切り替えて、極性を反転させることで通信ができるようになります。

1 ご使用になる前に

1-5 スイッチの設定

電池ボックス内にある各種スイッチの設定について説明します。



ISDN DSU 受信信号端末：1
 送信信号端末：2
 Utility使用　：3
 設定初期化　：4

各スイッチの位置は、出荷時の状態を示しています。

[ISDN]スイッチ

出荷時は、「NOR」に設定されています。回線を[ISDN U]ポートに接続したとき、[MSG]ランプの点灯と同時に、[B1]と[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、[ISDN]スイッチを「REV」側に切り替えます。

[DSU]スイッチ

出荷時は、「ON」に設定されています。本製品に内蔵されたDSUは、出荷時の設定で使えます。市販のDSUやDSU内蔵型TAを接続するときは、「OFF」にします。

[ETHERNET]スイッチ

出荷時は、「PC」に設定されています。出荷時の状態では、付属品のEthernetケーブル(ストレート結線)を使ってパソコンを本製品の[ETHERNET]ポートに接続するように設定されています。HUBのクロスポート(記号:x)を本製品の[ETHERNET]ポートに接続するときは、「HUB」に切り替えます。

[受信信号端末]/[送信信号端末]スイッチ
出荷時は、「ON」に設定されています。

出荷時の状態では、[ISDN S/T]ポート内蔵の終端抵抗を使う設定になっています。

本製品に内蔵するDSUをご使用になる場合で、本製品の[ISDN S/T]ポートにISDN機器を追加するときは、本製品の[受信信号端末]/[送信信号端末]スイッチを「OFF」に切り替えます。このとき、追加したISDN機器の[受信信号端末]スイッチおよび[送信信号端末]スイッチを「ON」にしてください。

[Utility使用]スイッチ

出荷時は、「ON」に設定されています。付属のCD-ROMに収められたUtilityを使って設定内容の初期化やファームウェアの更新を行うときは、「OFF」に設定してから、本製品の電源を入れなおすと、「Utility使用」モードで起動します。

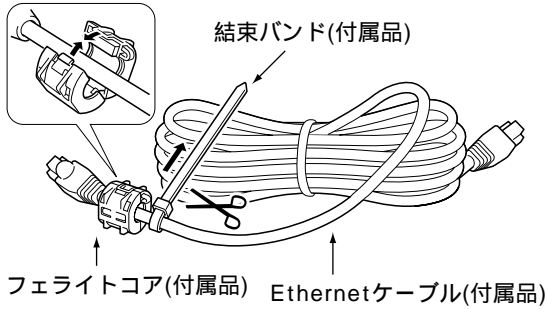
[設定初期化]スイッチ

出荷時は、「ON」に設定されています。本製品のIPアドレスを忘れたときなど、本製品の設定画面を表示できないときは、「OFF」にして、本製品の電源を入れなおしてから、WWWブラウザで出荷時の本製品IPアドレスを指定すると、「設定初期化」モードで起動します。詳しくは、「設定を出荷時の状態に戻す」(☞10-7)をご覧ください。

1-6 フェライトコアのつけかた

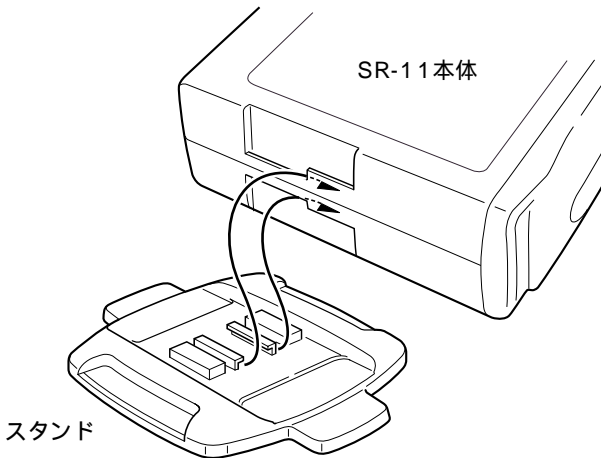
本製品に付属のフェライトコアを、付属のEthernetケーブルに取り付けてからご使用ください。

結束バンドで、本体側に接続する方のプラグの端にしっかりと固定してください。プラグの端に固定しないと電波障害を引き起こすことがあります。



1-7 スタンドのつけかた

本体底面に付属のスタンドを押し当てて、ガイドに沿ってスライドさせて取り付けます。



1 ご使用になる前に

1-8 バックアップ用電池の入れかた

ISDN回線では、停電時に回線が使えなくなりますが、バックアップ用電池を入れることで、本製品の[TEL1]ポートに接続したアナログ電話機で通話ができます。停電後、約1時間の連続運用が行えます。

【ご参考に】

停電以外のときは、乾電池を入れなくても本製品を使えます。

本製品を専用線を使う場合やISDN回線につながずに使う場合は、乾電池は不要です。

電池を用意する

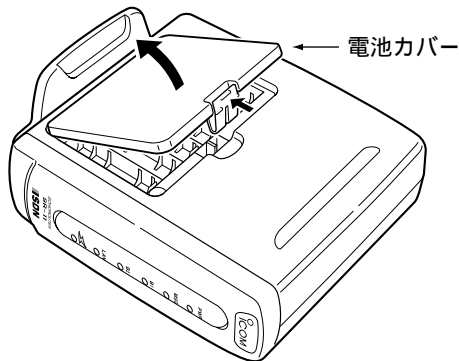
同じ種類の新しい単3型アルカリ乾電池を6本、ご用意ください。

【使用時のご注意】

- 単3アルカリ乾電池専用の電池ボックスです。
マンガン乾電池、充電用ニカド電池を使用しないでください。
- 同じ種類の新しいアルカリ乾電池をご使用ください。
新しい電池と古い電池を混用しないでください。発熱の原因になることがあります。
- アルカリ乾電池の種類により、連続使用可能時間が異なります。
- アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

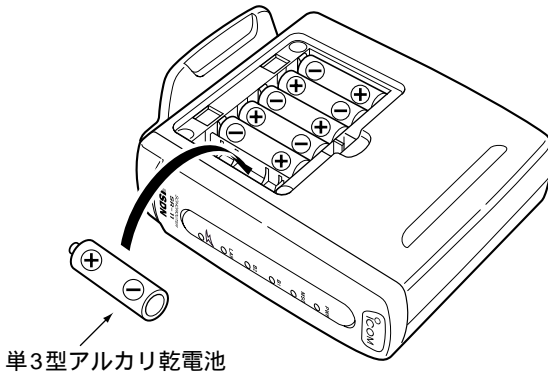
電池を入れる

- 1.ACアダプターを本製品につないでいるときは、取り外します。
- 2.本製品につながれたケーブルもすべて取り外します。
- 3.本製品の側面パネルを上にして、電池カバーを開けます。

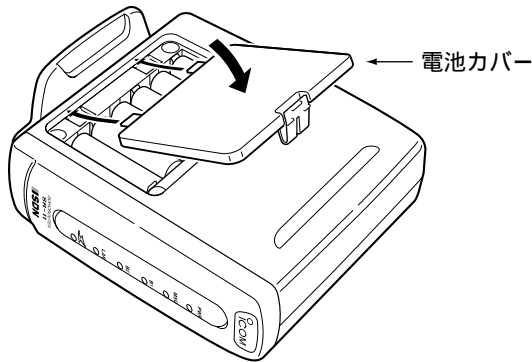


電池を入れる(つづき)

4.単3型アルカリ乾電池を図の方向に入れます。



5.電池カバーを閉じます。



停電中の動作について

停電などで本製品への電源供給が停止すると、自動的にバックアップ用電池を使って動作を始めます。このとき、[PWR]ランプは、低速で点滅を繰り返します。

それ以外のランプは、消灯します。

停電動作中は、[TEL1]ポートに接続するアナログ電話機以外の機器が使えません。

1 ご使用になる前に

1-9 設置場所について

無線LANとしてご使用になる場合、設置場所に注意しないと通信範囲や速度に影響します。

このときの設置条件は、次のとおりです。

室内で、なるべく見通しの良い(高い)場所

振動や傾きが無く、落下の危険がない安定した場所

その他、以下のことを考慮して、設置してください。

- 本製品の上に物を置いたり、本製品どうしやほかの製品と重ねて置かない。
- 電波は壁やガラスを通過しますが、金属は通過しません。コンクリートの壁でも、金属補強材が中に埋め込まれていて、電波信号を遮断するものがあります。
- 通信範囲はオープンスペースだと最も広くなりますが、倉庫の中のように大きな金属製の壁があると、電波を反射することがあります。
- 床にはふつう、鋼製の梁がはいっており、金属製防火材が埋め込まれていることもあります。そのため多くの場合、違う階どうしてもでは通信できません。

【無線通信距離について】

無線での通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、以下の見通し距離を参考に設置してください。

- 通信速度の設定が「自動切替」のとき

屋内：約 50m

屋外：約 150m

- 通信速度の設定が「1 1 Mbps固定」のとき

屋内：約30m

屋外：約70m

1-10 NTTとの回線契約について

本製品をご使用になるには、ISDN回線または専用線の契約が必要です。

ISDN回線

電話機だけで使う場合やインターネットへダイヤルアップして接続する、またはフレッツISDN(IP接続サービス)で接続するには、ISDN回線が必要です。これからISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。

NTT各店に備え付けの「INSネット64/INSネット64・ライトお申込票」の太枠で囲まれた項目に必要な事項をご記入ください。

太枠以外の項目については、お申し込みのとき、NTT担当者がお尋ねして記入します。次を参考にお答えください。

= 取付工事 =

- 通信機器の名称 SR-11
- メーカー名 他社
- 認定番号 本製品後面パネルのシリアルナンバーシールに記載の「認定番号」

(例：CD00-1340JP L00-0370)

- DSU DSU内蔵型TA
お客様工事、またはNTT工事

= コンサルティング項目 =

- インターフェース形態 およびレイヤ起動機種 「P-MP呼毎」、または「P-MP常時」
- 発信者番号通知サービス 「通常通知」
- ユーザー間情報通知サービス 「着信許可」
- 通信中着信通知サービス 「許可」
- グローバル着信 「有」

専用線

専用線を利用する場合は、専用線サービスを行っているプロバイダーにお申し込みください。

OCNエコノミーやデジタルアクセス64などの申し込みも、そのとき行われます。ただし、一般電話やファクシミリと発着信することはできません。

詳しくは、プロバイダーへお尋ねください。

次を参考にご契約ください。

- 通信機器の名称 SR-11
- メーカー名 他社
- 認定番号 本製品後面パネルのシリアルナンバーシールに記載の「認定番号」

(例：CD00-1340JP L00-0370)

1 ご使用になる前に

1-11 プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

「端末型ダイヤルアップ接続」で契約

1台のパソコンで必要なときだけ電話をかけてインターネットへ接続する場合は、プロバイダーに「端末型ダイヤルアップ接続」で契約してください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード
- アクセスポイント電話番号

本製品では、端末型ダイヤルアップの契約で、無線またはETHERNET上に接続された複数台のパソコンから、インターネットに接続できます。

「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約

ネットワーク上の複数台のパソコンからインターネットに接続するときは、「LAN型ダイヤルアップ接続」で契約します。お申し込み台数に応じてIPアドレスが割り当てられます。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ドメインネームサーバ(DNS)のIPアドレス
- ネットワークIPアドレス(本製品のIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード
- アクセスポイント電話番号
- ドメイン名

「フレッツISDN接続」で契約

必要なときだけ電話をかけてインターネットへ常時接続(64kbps)する場合は、NTTとフレッツISDN契約を行って、フレッツISDN対応プロバイダーに「フレッツISDN(IP接続サービス)接続」で契約してください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

NTTから通知される情報

- ISDN対応アクセスポイントの電話番号

プロバイダーから通知される情報

- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード

「OCNエコノミーサービス」で契約

128kbpsの回線速度で常時接続する場合は、NTTとOCNエコノミーサービスの契約を行って、OCNエコノミーサービス対応プロバイダーに「OCNエコノミーサービス」で契約してください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

NTTから通知される情報

- 契約IPアドレス(例：172.16.1.48)
- サブネットマスク(例：255.255.255.248)

OCNから通知される情報

- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ユーザー認証ID
- ユーザー認証パスワード

「専用線接続」で契約

プロバイダーとのあいだを専用線で接続してインターネットに常時接続するような場合は、対応できるプロバイダーに「専用線接続」で契約してください。

設定を行うためには、次の情報が必要です。契約時に送られてきた書類で確認してください。

- ドメイン名
- ネームサーバアドレス(DNSのIPアドレス)
- ネットワークIPアドレス(本製品のIPアドレス)
- サブネットマスク
- 回線速度(64kbps、128kbps)

【プロバイダー選びについて】

パソコン関連の雑誌などに掲載された情報を参考に、プロバイダーを選んでください。

次の基準を参考にプロバイダーの選定を行ってください。

- 会社や自宅と同じ市外局番の地域にアクセスポイントがある(フレッツISDNなど、NTTが提供するサービスによっては、NTT指定の電話番号を使ってご契約のプロバイダーに接続する場合があります。)
- 上位プロバイダーと高速な回線で接続されている

1 ご使用になる前に

1-12 [Ethernet]ポートについて

本製品を有線LANでご使用になる場合は、[Ethernet]ポートが必要です。

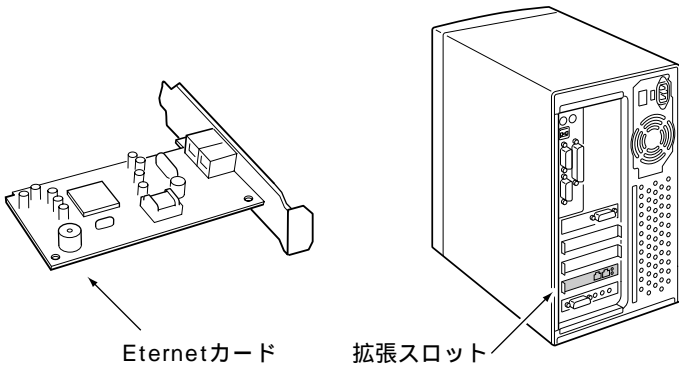
ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがない場合は、本製品の設置を始める前に、Ethernetカードを取り付けてください。

取り付けたあとは、Ethernetカードの取扱説明書にしたがって、正常に動作することを確認してください。

デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットにEthernetカードを取り付けます。

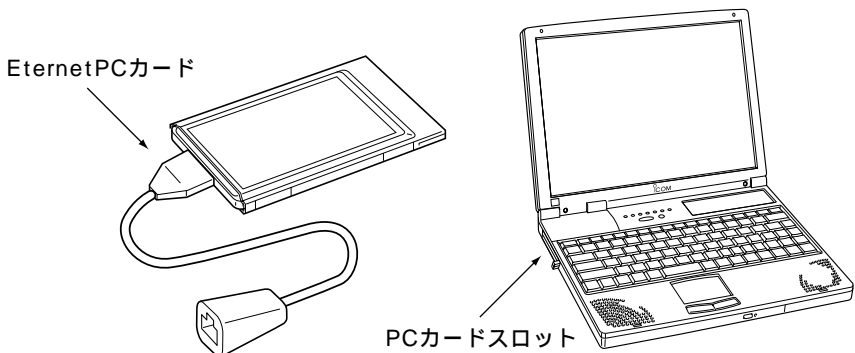
拡張スロットには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、Ethernetカードを取り付けてください。



ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットにEthernetカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応したPCカード型Ethernetカードを取り付けてください。



1-13 無線LANカードについて

本製品を無線LANでご使用になる場合は、無線LANカードが必要です。

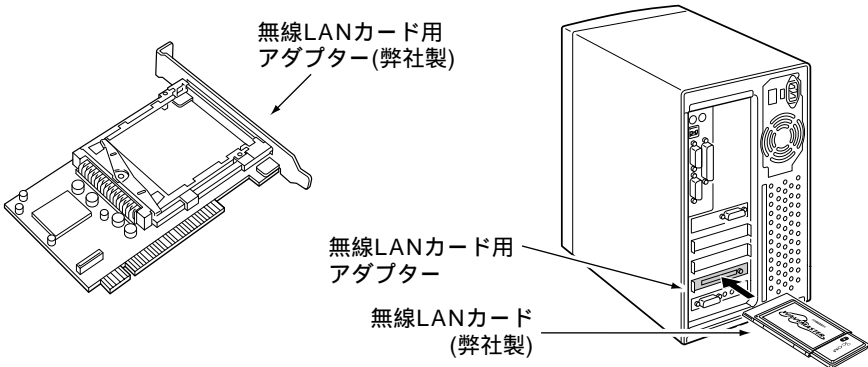
本製品は、最大11Mbpsの無線LAN機能を備えており、これに対応した無線LANカードやワイヤレスLANユニット(SU-11)をパソコン(PC/AT互換機)に取り付けることにより、ワイヤレスでダイヤルアップルータやLANをご使用になれます。

無線LANカードおよびワイヤレスLANユニットは、弊社製以外の製品でもご使用になれますが、暗号化によるセキュリティー機能などを使っての通信は行えません。

デスクトップ型パソコンの場合

デスクトップ型パソコンの場合は、拡張スロットに無線LANカード用アダプターを取り付けます。

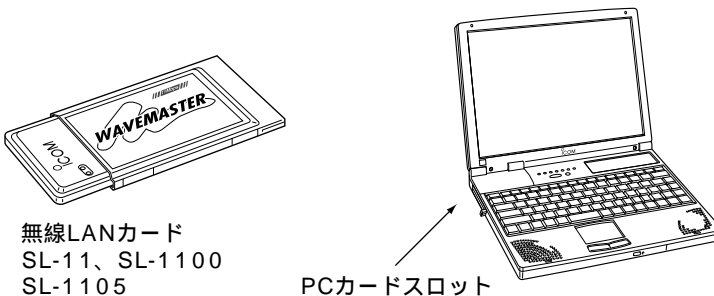
無線LANカード用アダプターには、PCIやISAなどの種類がありますので、ご使用のパソコンで空いているスロットをお調べになってから、無線LANカード用アダプターを取り付けてください。



ノートブック型パソコンの場合

ノートブック型パソコンの場合は、PCカードスロットに無線LANカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格に注意して、ご使用のパソコンに対応した無線LANカードを取り付けてください。



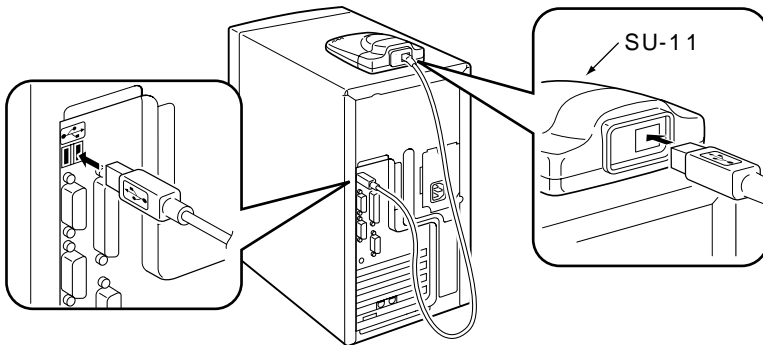
1 ご使用になる前に

1-13 無線LANカードについて(つづき)

[USB]ポートがあるパソコンの場合

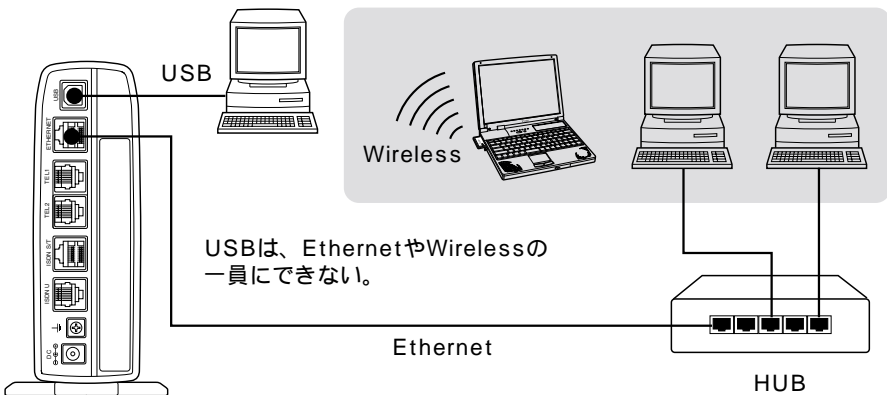
パソコンに[USB]ポートがある場合は、弊社製ワイヤレスLANユニット(SU-11)を取り付けて、無線端末としてご使用いただけます。

取り付けたあとは、SU-11の取扱説明書にしたがって、正常に動作することを確認してください。



1-14 [USB]ポートについて

パソコンに[USB]ポートがある場合は、本製品と直接つないでインターネットができません。この場合、TA機能しか使えませんので、Ethernetや無線で本製品に接続されたネットワークに含めることはできません。また、本製品の設定も行えません。



[USB]ポートを使うための準備については、本製品のCD-ROMに収められた「USBを使うかたへ」(PDF形式)で説明しています。

この章では、

回線とアナログ機器を本製品に接続する方法と、接続したアナログ機器の動作確認の手順について説明します。

2-1.ISDN回線をつなぐ.....	18
本製品のDSUを使う場合	18
ほかのISDN機器のDSUを使う場合	19
2-2.電話機やファクシミリをつなぐ	20
2-3.アース線と電源をつなぐ	21
2-4.電話機やファクシミリの動作を確認する	22
2-5.ほかのISDN機器をつなぐ.....	24
ほかのISDN機器の動作を確認する	25
2-6.専用線をつなぐ	27
本製品のDSUを使う場合	27
ほかのISDN機器のDSUを使う場合	28

2 本製品と回線をつなぐ

2-1 ISDN回線をつなぐ

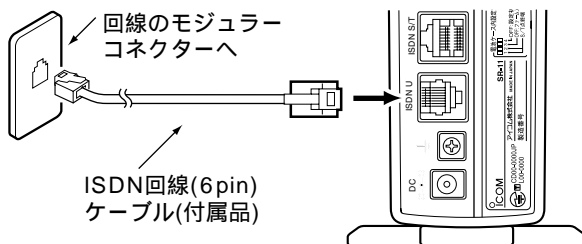
【△警告】

接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

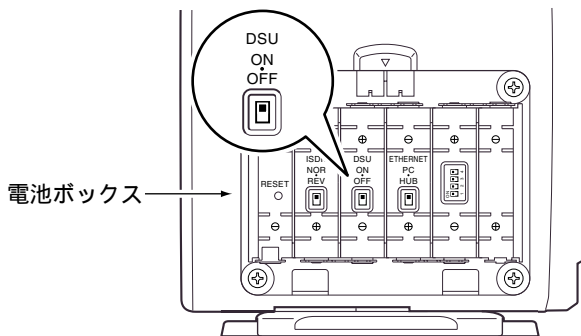
本製品のDSUを使う場合

つなぎかた

- 1.回線のモジュラーコネクタと本機の[ISDN U]ポートを、本製品に付属のISDN回線ケーブルで接続します。



- 2.[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。

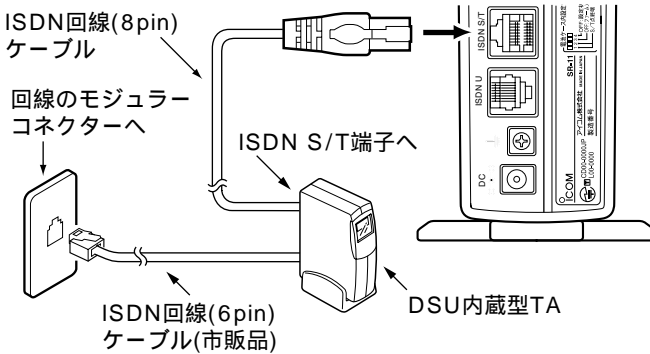


ほかのISDN機器のDSUを使う場合

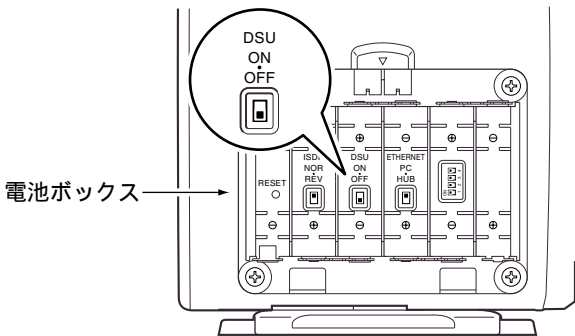
つなぎかた

- 1.DSU(ほかのISDN機器の[S/T点]ポート)と本製品の[ISDN S/T]ポートを、市販品のISDN回線(8pin)ケーブル、または本製品に付属のEthernetケーブルでつなぎます。
- 2.DSUの[ISDN U]ポートと回線のモジュラーコネクタを、ISDN回線(6pin)ケーブルでつなぎます。

DSU内蔵型TAのS/T点終端スイッチは、「OFF」側に切り替えます。



- 3.[DSU]スイッチを「OFF」側に切り替えます。



本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【ISDN回線ケーブルについて】

ISDN回線ケーブルには、モジュラープラグが6Pinと8Pinの形状のものがあります。本製品には、6Pinのものが付属しています。

[ISDN S/T]ポートに接続するISDN回線ケーブルは、8Pinの形状のものを使用してください。8PinのISDN回線ケーブルが用意できないときは、市販品をご使用ください。また、付属のEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN回線ケーブルとしてもご使用になれます。なお、DSU内蔵型TAなどの機器に付属する8PinのISDN回線ケーブルは、8Pinすべてが結線されていないことがありますので、Ethernetケーブルとして、本製品の[ETHERNET]ポートに接続しないでください。

2 本製品と回線をつなぐ

2-2 電話機やファクシミリをつなぐ

回線が「ISDN」の場合は、電話機やファクシミリのモジュラープラグを本製品の[TEL1]、[TEL2]ポートに差し込むと、それらのアナログ機器が使えます。

【△注意】

[TEL1]と[TEL2]ポートにつなぐことができる機器は、プッシュ式アナログ回線用の電話機、G3ファクシミリ、モデムなどです。

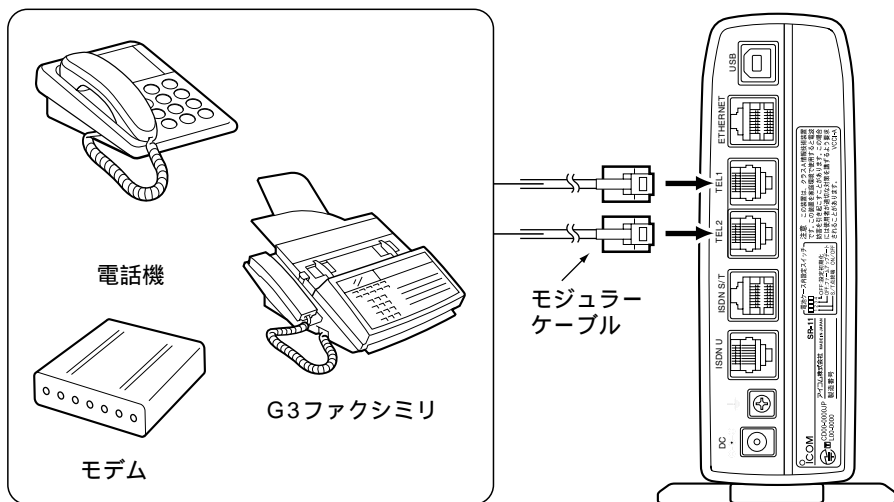
1つのポートにつき、アナログ機器1台だけをつないでください。

モジュラ2分配用コネクターなどを使って1つのポートに複数の機器をつなぐと、誤動作の原因になります。

パルス式の機器やデジタル電話機、G4ファクシミリは、このポートにつなぐことができません。

つなぎかた

1. 電話機またはファクシミリの[TEL]ポートと本製品の[TEL1]または[TEL2]ポートを、それらのアナログ機器に付属するモジュラーケーブルでつなぎます。



2. 電話機やモデムにダイヤル設定(「トーン」と「パルス」の切り替えスイッチ)がついている機種は、そのスイッチが「トーン(PB)」に設定されていることを確認します。ダイヤル設定については、アナログ機器に付属する取扱説明書でご確認ください。ファクシミリに電話機またはモデムがついていて、これらの機能も合わせて使いたいときは、このままご使用ください。

2-3 アース線と電源をつなぐ

本製品を使うときは、アース線と本製品に付属するACアダプターを接続します。

アース線は、市販のアース線をご用意ください。

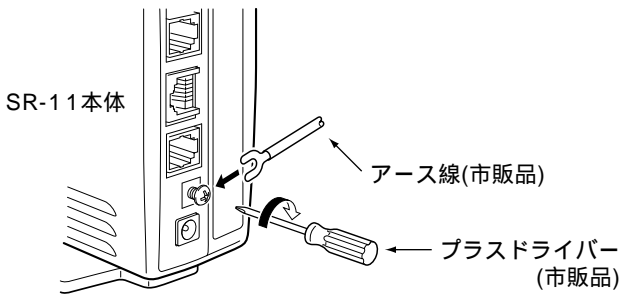
【△注意】

本製品のアース端子は、必ず接続してください。落雷したときの電氣的ショックをやわらげたり、感電やノイズの回り込みを防止できます。

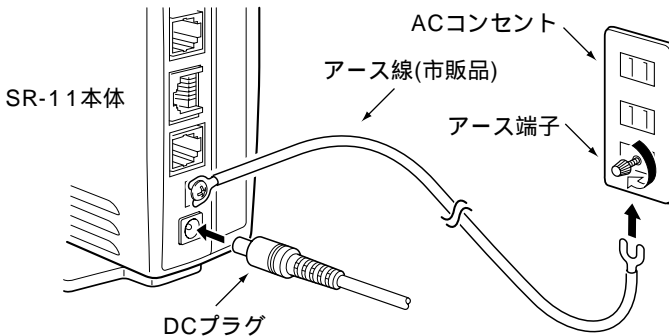
アース線は、必ずコンセントのアース端子につなぐか、市販のアース棒につないで地中に埋めてください。ガス管や水道管につながないでください。

つなぎかた

- 1.アース端子のネジを市販のプラスドライバーで緩めて、市販のアース線の先をそのネジで固定します。



- 2.ACアダプターのDCプラグを本製品のDCジャックに接続します。
固定したアース線のもう片方をコンセントのアース端子に接続します。



2 本製品と回線をつなぐ

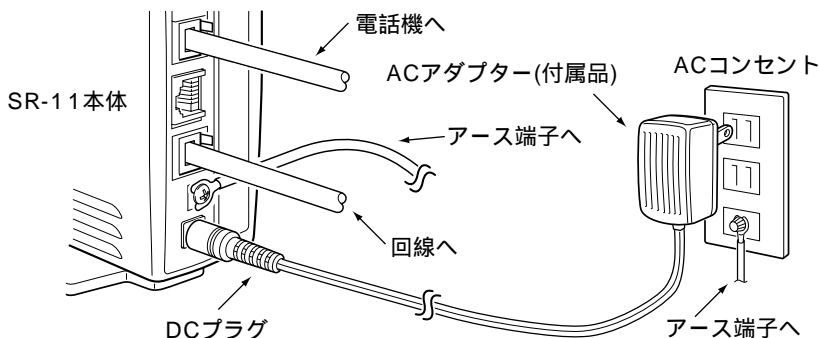
2-4 電話機やファクシミリの動作を確認する

ISDN回線と、電話機およびファクシミリをつなぎ終えたら、本製品に電源を接続して動作を確認します。

確認のしかた

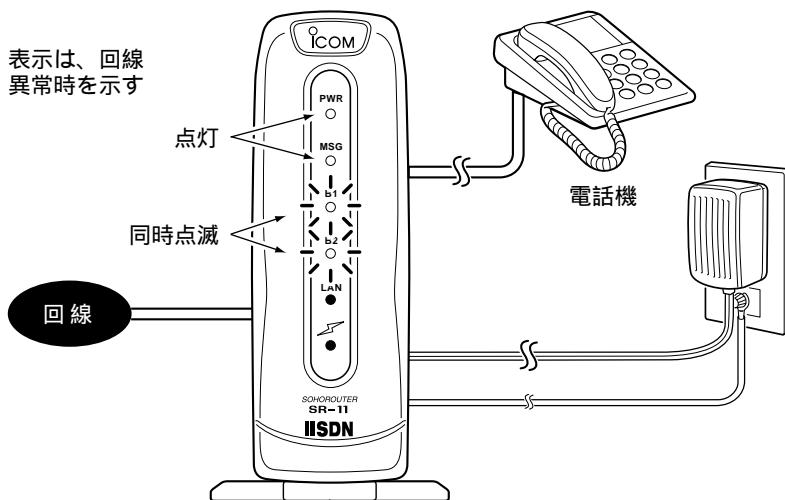
1. ACアダプター本体をACコンセントにつなぎます。

電源を入れて、[PWR]ランプだけが点灯するまでしばらく待ちます。



2. 本製品の前面パネルの[PWR]ランプだけが点灯すれば正常ですので、手順5.へ進みます。

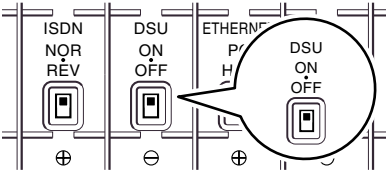
図のように、[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、手順3.を参考に設定や接続を確認してください。



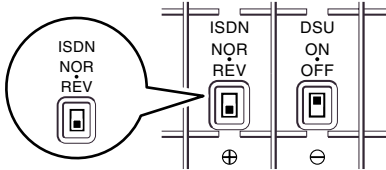
3.[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、本製品の電源をいったん外して、本製品のスイッチの設定を確認します。

本製品のDSUを使う場合

[DSU]スイッチが「ON」側(出荷時の設定)に設定されていることを確認します。

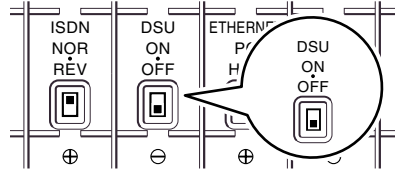


[DSU]スイッチが「ON」側でも点滅しているときは、[ISDN]スイッチを「REV」側に切り替えます。

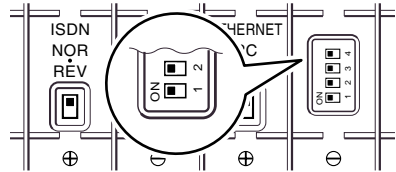


ほかのISDN機器のDSUを使う場合

[DSU]スイッチが「OFF」側に設定されていることを確認します。



「OFF」側に設定されていれば、[受信信号終端]スイッチと[送信信号終端]スイッチが「ON」側(出荷時の設定)に設定されていることを確認します。



4.ACアダプター本体をACコンセントにつないで、[MSG]ランプ、[B1]/[B2]ランプが消灯したことを確認します。

5.接続している電話機の受話器を上げて「ツー」という発信音が聞こえることを確認します。

6.時報(117)など、電話をかけてみます。

ボタンを押したとき、「ピッポッパ」と音がすることを確認します。

音がしないときは、電話機のダイヤル設定が「トーン(PB)」に設定されていることを確認してください。



7.5秒後に時報が聞こえて、前面パネルの[B1]または[B2]ランプが点灯すると、電話機は正常に動作していますので、電話機を切ります。

出荷時、ダイヤル待ち時間は、5秒に設定されています。

一時的にダイヤル待ち時間をなくしたいときは、電話番号の末尾で「#」を押します。

2 本製品と回線をつなぐ

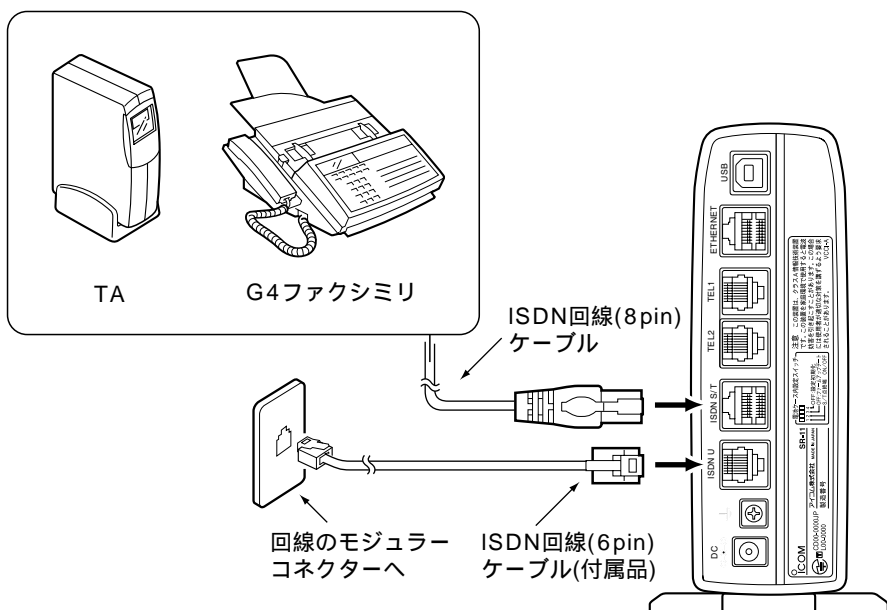
2-5 ほかのISDN機器をつなぐ

本製品の[ISDN S/T]ポートに、G4ファクシミリやTAなどのISDN機器が接続できます。このときは、本製品のDSUを使います。

[ISDN S/T]ポートには、本製品を含め最大8台まで接続できます。

つなぎかた

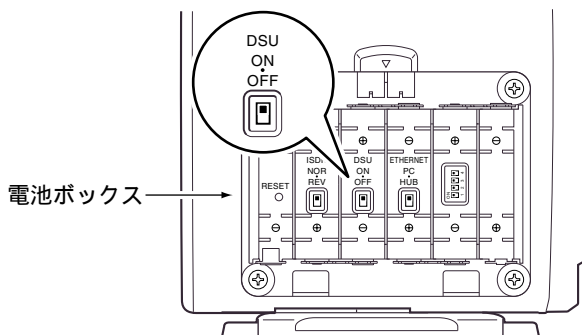
1. 次の図のように、接続します。



2. G4ファクシミリやTAのS/T点終端スイッチを「ON」側に切り替えます。

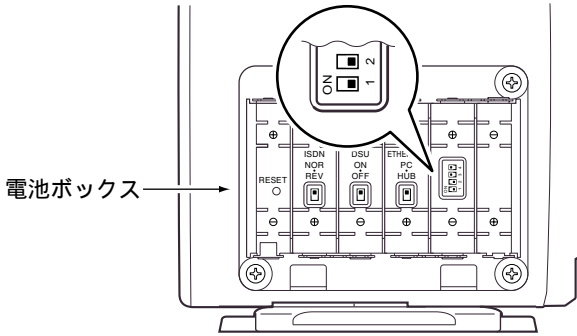
ファクシミリやTAの機種によってスイッチの位置や名称が異なりますので、ご使用のファクシミリの取扱説明書でご確認ください。

3. 本製品の[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。



つなぎかた (つづき)

- 4.本製品の[受信信号終端]スイッチと[送信信号終端]スイッチを「OFF」側に切り替えます。



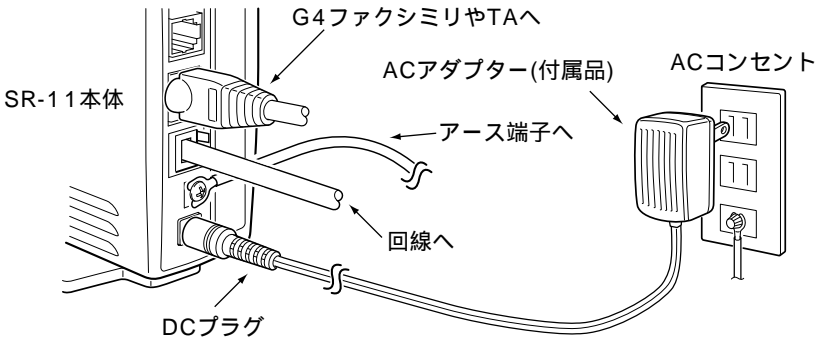
ほかのISDN機器の動作を確認する

ISDN回線と、G4ファクシミリまたはTAなどをつなぎ終えたら、電源を本製品につないで動作を確認します。

確認のしかた

- 1.ACアダプター本体をACコンセントにつなぎます。

電源を入れて、[PWR]ランプだけが点灯するまでしばらく待ちます。



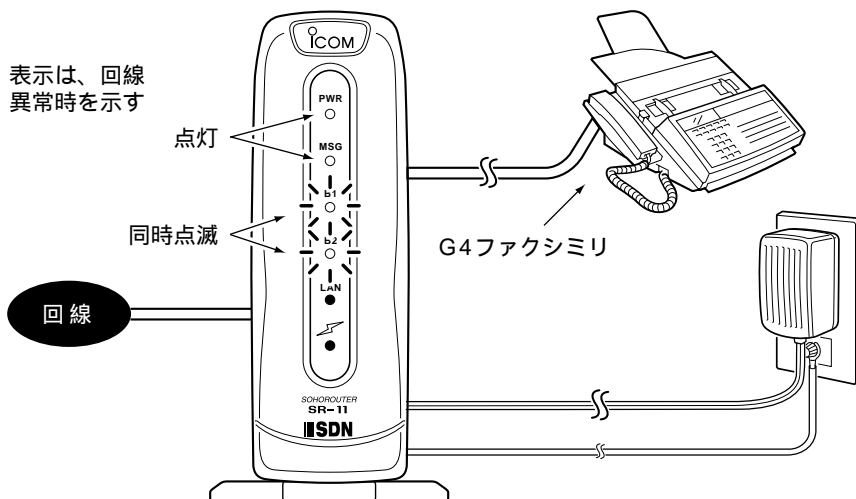
2 本製品と回線をつなぐ

2-5 ほかのISDN機器をつなぐ

ほかのISDN機器の動作を確認する(つづき)

- 2.本製品の前面パネルの[PWR]ランプだけが点灯すれば正常ですので、手順5.へ進みます。

図のように、[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、手順3.を参考に設定や接続を確認してください。



- 3.[MSG]ランプが点灯して、[B1]/[B2]ランプが同時に点滅を繰り返しているときは、本製品の電源をいったん外して、本製品以外のISDN機器側の[S/T点滅スイッチが「ON」に設定されていることを確認します。

このとき、本製品のスイッチを下記のように設定します。

[SR-11]側のスイッチ

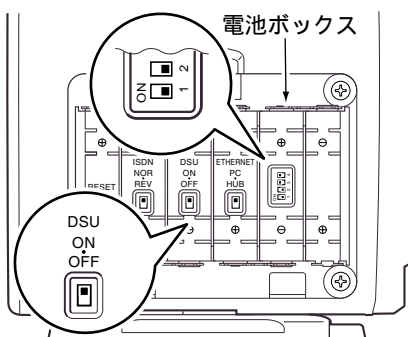
[DSU]スイッチ：「ON」

[受信信号終端]スイッチ：「OFF」

[送信信号終端]スイッチ：「OFF」

- 4.ACアダプターのコネクターをACコンセントにつないで、[MSG]ランプ、[B1]/[B2]ランプが消灯したことを確認します。

- 5.接続している本製品以外のISDN機器を動作させてみて、正常に動作することを確認してください。



2-6 専用線をつなぐ

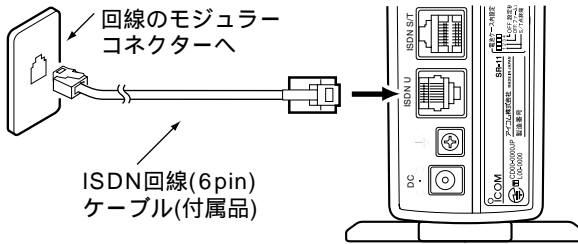
【△警告】

接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

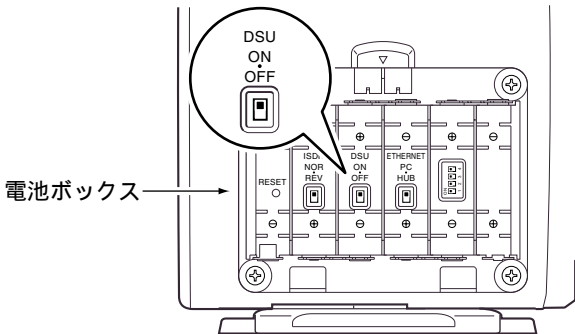
本製品のDSUを使う場合

つなぎかた

- 1.専用線のモジュラーコネクタと本機の[ISDN U]ポートを本製品に付属するISDN回線ケーブルで接続します。



- 2.[DSU]スイッチを「ON」側(出荷時の設定)に切り替えます。



本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【△注意】

本製品を専用線(OCNエコノミーを含む)でご使用の場合、機器を接続しても絶対に使うことができないポートは、次の3つです。

- [ISDN S/T]ポート
- [TEL1]ポート
- [TEL2]ポート

2 本製品と回線をつなぐ

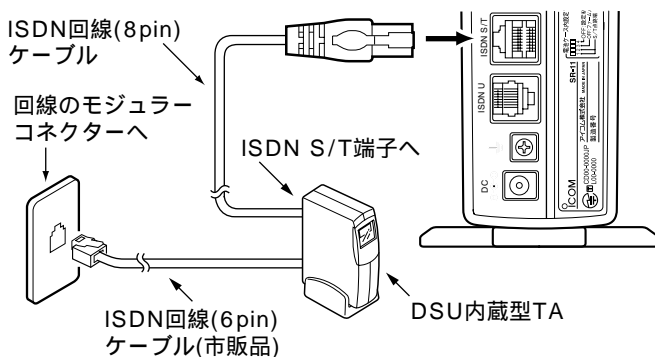
2-6 専用線をつなぐ(つづき)

ほかのISDN機器のDSUを使う場合

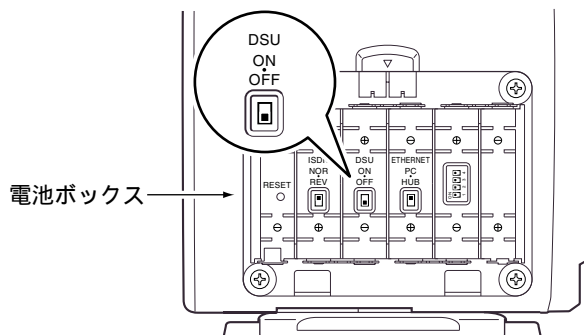
つなぎかた

- 1.DSU(ほかのISDN機器のS/T点ポート)と本製品の[ISDN S/T]ポートを、市販品のISDN回線(8pin)ケーブル、または本製品に付属のEthernetケーブルでつなぎます。
- 2.DSUの[ISDN U]ポートと回線のモジュラーコネクタをISDN回線(6pin)ケーブルでつなぎます。

DSU内蔵型TAのS/T点終端スイッチは、「OFF」側に切り替えます。



- 3.[DSU]スイッチを「OFF」側に切り替えます。



本製品の[受信信号終端]/[送信信号終端]スイッチは、「ON」(出荷時の設定)にします。

【ISDN回線ケーブルについて】

ISDN回線ケーブルには、モジュラープラグが6Pinと8Pinの形状のものがあります。

本製品には、6Pinのものが付属しています。

[ISDN S/T]ポートに接続するISDN回線ケーブルは、8Pinの形状のものを使用してください。

8PinのISDN回線ケーブルが用意できないときは、市販品をご使用ください。また、付属のEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN回線ケーブルとしてもご使用になれます。なお、DSU内蔵型TAなどの機器に付属する8PinのISDN回線ケーブルは、8Pinすべてが結線されていないことがありますので、Ethernetケーブルとして本製品の[ETHERNET]ポートに接続しないでください。

この章では、

本製品と通信を行うパソコンの設定について説明します。

本製品とパソコンのつながりかたに応じて、次の箇所をお読みください。

Ethernetでつなく 「3-1 パソコンをEthernetでつなくには」

無線でつなく 「3-2 パソコンを無線LANでつなくには」

USBでつなく 「USBを使うかたへ」(付属のCD-ROMに収録)

3-1.パソコンをEthernetでつなくには	30
Ethernetカードを用意する	30
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	
【Windows Meの場合】	30
【Windows 2000の場合】	33
【Mac OSの場合】	35
3-2.パソコンを無線LANでつなくには	36
無線LANカードを用意する	36
TCP/IPプロトコルを使えるようにする	
【Windows Meの場合】	36
【Windows 2000の場合】	39
無線LANカードを設定する	41
3-3.WWWブラウザを用意する	42

3 パソコンを設定する

3-1 パソコンをEthernetでつなぐには

Ethernetケーブルを[Ethernet]ポートに接続してパソコンと本製品をつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

ステップ1	Ethernetカードをパソコンに装着する	14、30
ステップ2	TCP/IPを設定する	30
ステップ3	WWWブラウザを用意する	42

Ethernetカードを用意する

ご使用のパソコンに[Ethernet]ポートがあることを確認してください。

[Ethernet]ポートがないパソコンの場合は、Ethernetカードを取り付ける必要があります。

パソコンやEthernetカードに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とパソコンの接続は、無線LANやUSBを使って行うこともできます。

TCP/IPプロトコルを使えるようにする

本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

ドライバーのインストールは、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書を参考に行ってください。

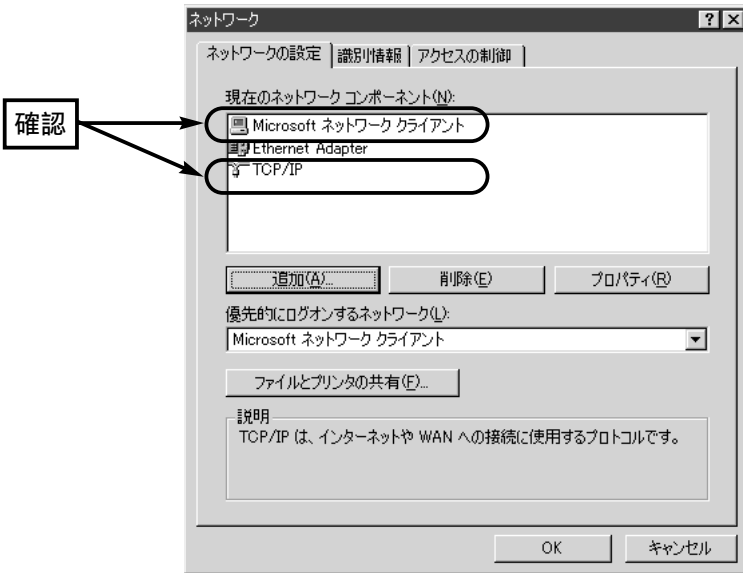
【Windows Meの場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

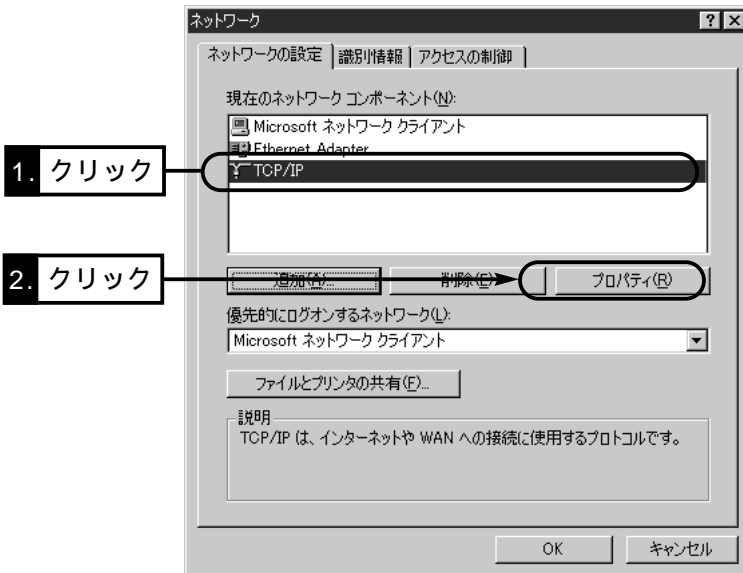
表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用のEthernetカードに付属する取扱説明書をご覧ください。

「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターと一緒に組み込まれている場合、右記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用のEthernetカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。

【Windows Meの場合】(手順2.つづき)



3.「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

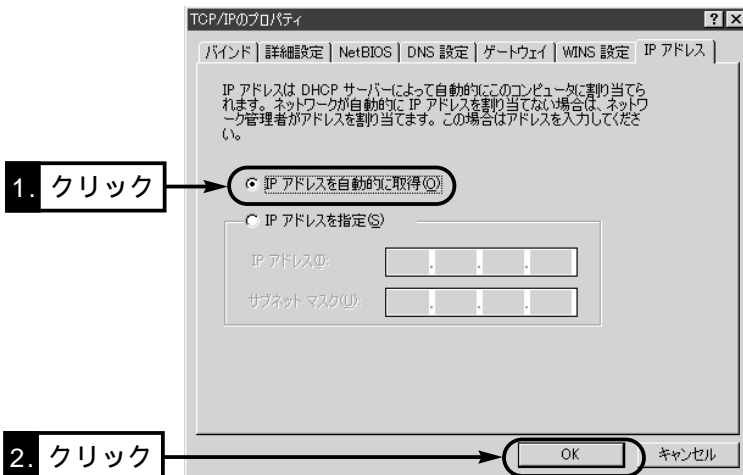


3 パソコンを設定する

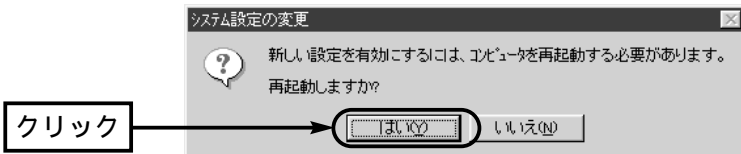
3-1 パソコンをEthernetでつなぐには

TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(つづき)

- 4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、OK をクリックします。



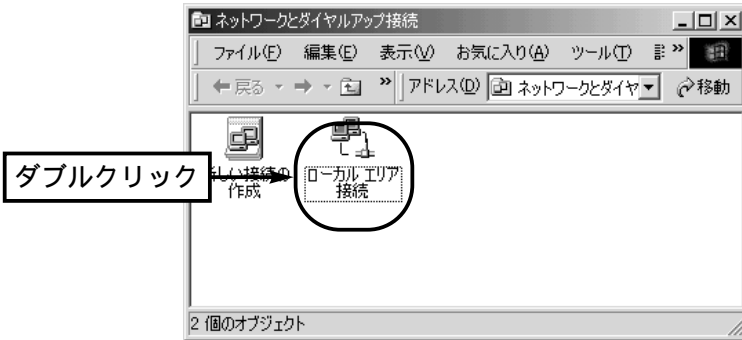
- 5.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。



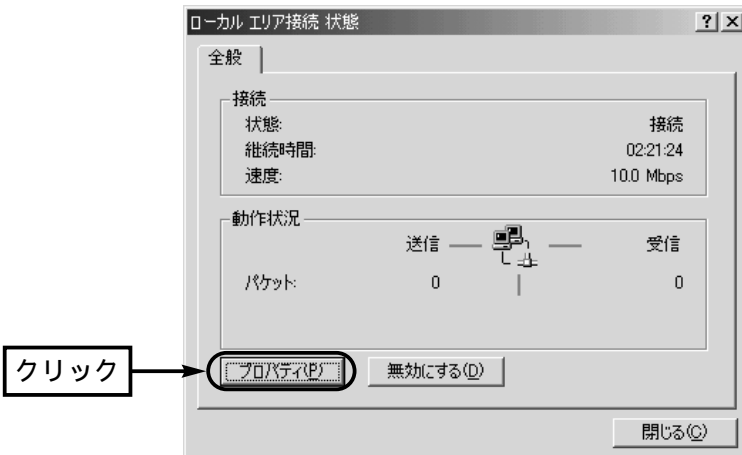
TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

【Windows 2000の場合】

1. 設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
2. Administrator権限でログオンします。
3. パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続するEthernetカードの名称が表示された[ローカルエリア接続] アイコンの順番にマウスを操作します。



4. プロパティ(P) をクリックします。



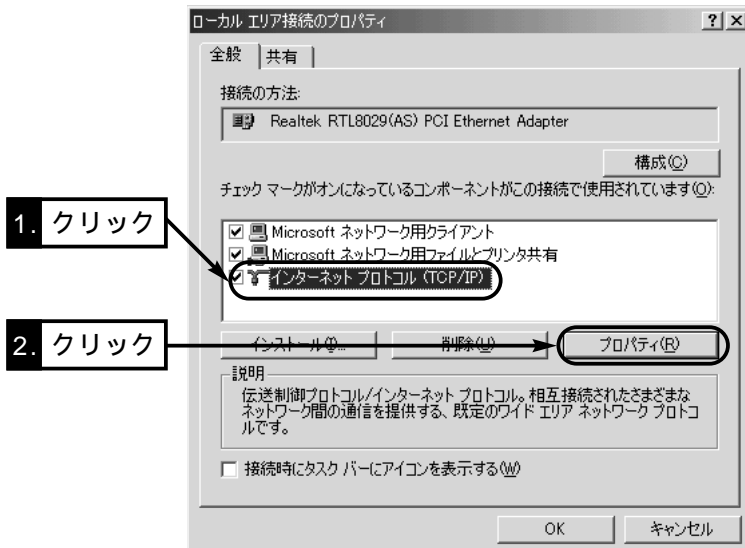
3 パソコンを設定する

3-1 パソコンをEthernetでつなぐには

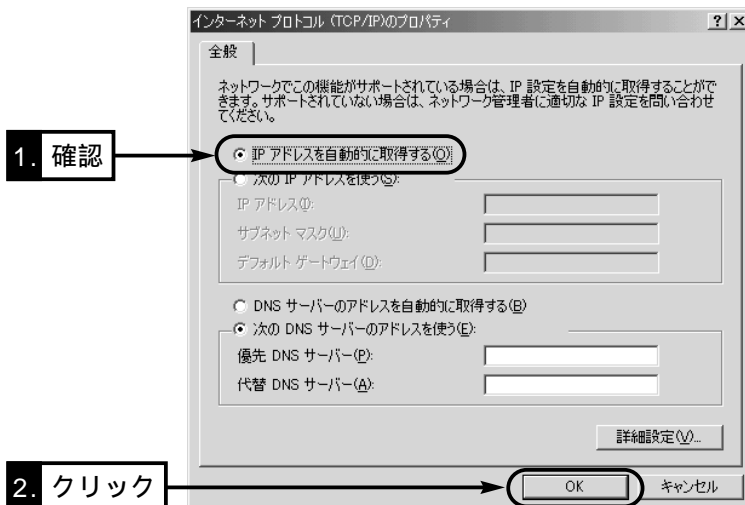
TCP/IPプロトコルを使えるようにする

【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル(TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

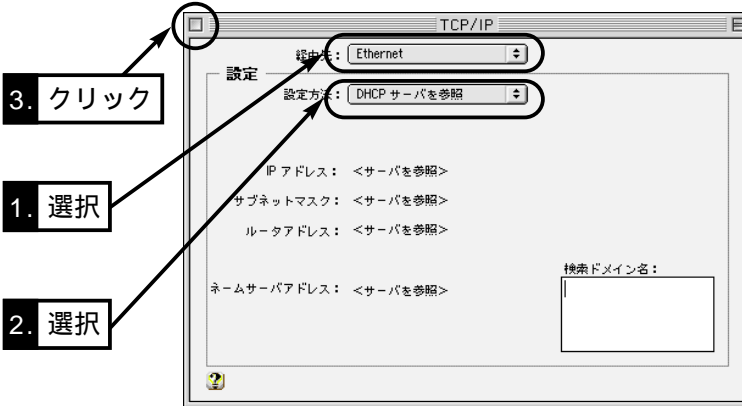


- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



【Mac OSの場合】

1. 設定に使うパソコンを起動します。
2. パソコンが起動したら、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。
3. [経由先]を「Ethernet」、[設定方法]を「DHCPサーバを参照」に設定します。
4. タイトルバー上のクローズボックスをクリックします。
 - 画面が閉じて、設定画面が保存されます。



3 パソコンを設定する

3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

パソコンを本製品に無線LANでつなぐ場合の設定のしかたを説明します。

対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

ステップ1	無線LANカードをパソコンに装着する	15、36
ステップ2	TCP/IPを設定する	36
ステップ3	無線LANカードを設定する	41
ステップ4	WWWブラウザを用意する	42

無線LANカードを用意する

ご使用のパソコンに対応する無線LANカードが装着できることを確認してください。

PCMCIAスロットがないパソコンの場合は、無線LANカード用アダプター(弊社製)を取り付ける必要があります。

無線LANカード用アダプターに付属する取扱説明書にしたがって、取り付けてください。また、本製品とパソコンの接続は、EthernetやUSBを使って行うこともできます。

弊社製Wireless LAN UNIT(SU-11)をパソコンの[USB]ポートにつないでご使用いただくと、本製品と無線LANによる通信が行えます。

TCP/IPプロトコルを使えるようにする

本製品と通信を行うパソコンすべてに「TCP/IP」というネットワークプロトコルモジュール(ドライバー)をインストールしておく必要があります。

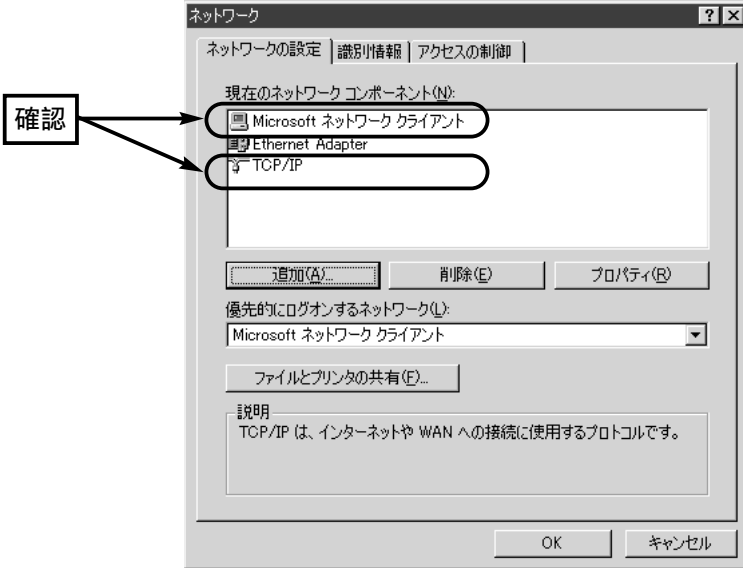
ドライバーのインストールは、ご使用の無線LANカードの取扱説明書を参考に行ってください。

【Windows Meの場合】

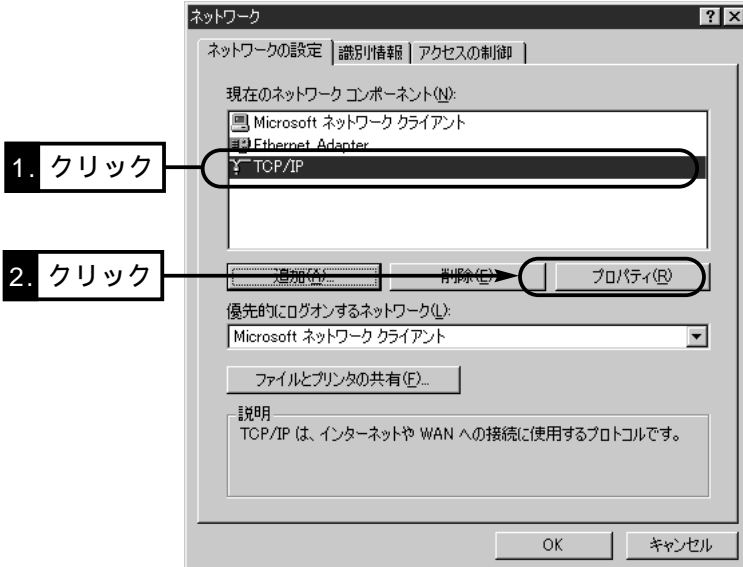
- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [ネットワーク]アイコンの順番に操作します。
- 2.「ネットワーク」画面の中に「TCP/IP」、「Microsoft ネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。

表示されていないときは、「TCP/IP」のインストールに失敗している可能性がありますので、もう一度、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

「ネットワーク」画面の中に、複数のネットワークアダプターと一緒に組み込まれている場合、右記の画面で本製品の「TCP/IP」プロトコルの表記は、「TCP/IP->ご使用の無線LANカードの名称」で表示されますので、これを確認してください。



3. 「TCP/IP」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



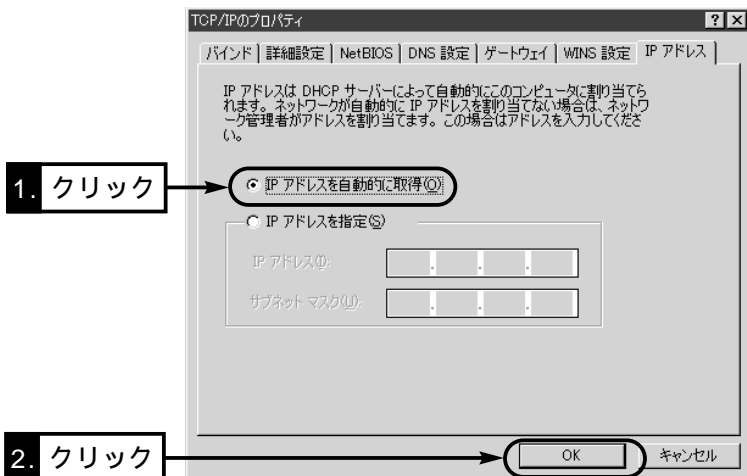
3

3 パソコンを設定する

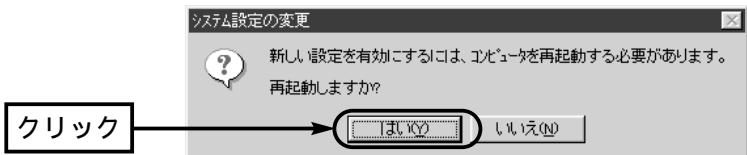
3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows Meの場合】(つづき)

- 4.[IPアドレスを自動的に取得(O)]のラジオボタンをクリックしてチェックマークを入れてから、OK をクリックします。



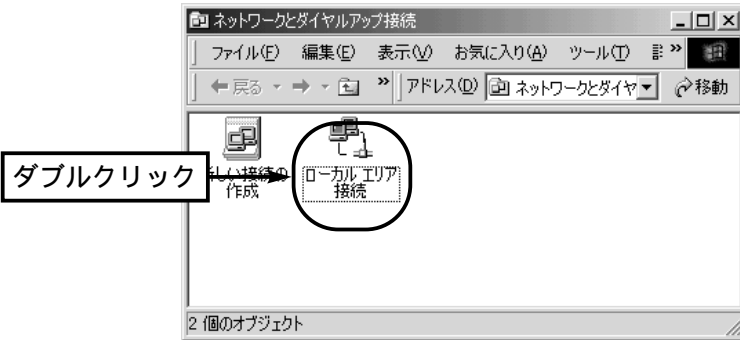
- 5.再起動を促す画面が表示されたら、はい(Y) をクリックします。
再起動後、設定された内容が有効になります。



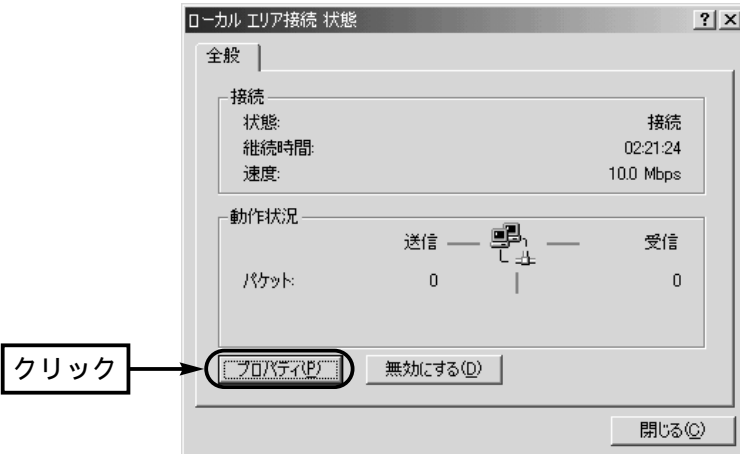
TCP/IPプロトコルを使えるようにする(つづき)

【Windows 2000の場合】

- 1.設定に使用するパソコンを起動します。
 - Windows 2000への「ログオン」画面を表示します。
- 2.Administrator権限でログオンします。
- 3.パソコンが起動したら、スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)] 本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンの順番にマウスを操作します。



- 4.本製品を接続する無線LANカードの[ローカルエリア接続]アイコンをダブルクリックします。

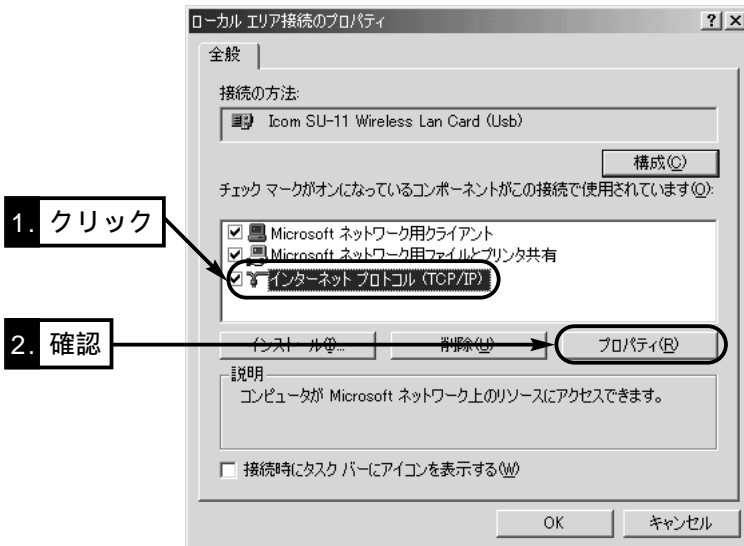


3 パソコンを設定する

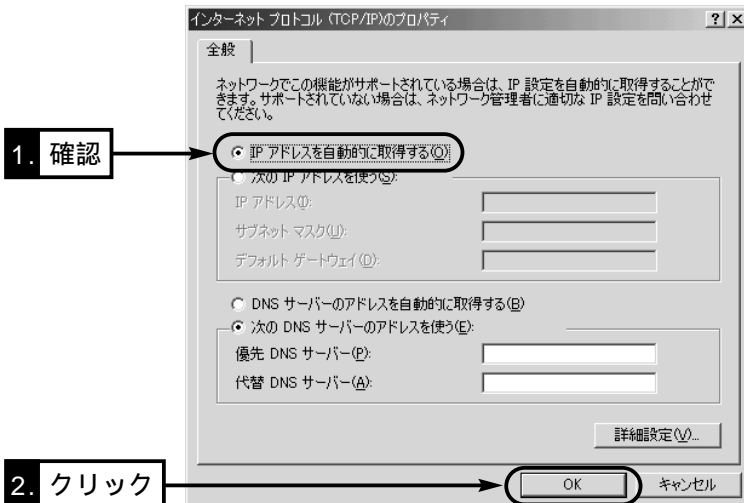
3-2 パソコンを無線LANでつなぐには

TCP/IPプロトコルを使えるようにする【Windows 2000の場合】(つづき)

- 5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」が表示されていれば、その中から「インターネットプロトコル (TCP/IP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。



- 6.[IPアドレスを自動的に取得する(O)]のラジオボタンが選択されていることを確認してから、OK をクリックすると、設定された内容が有効になります。



3-2 パソコンを無線LANでつなぐには(つづき)

無線LANカードを設定する

無線LANで接続するパソコン(PC/AT互換機)は、次に示す項目の設定値を本製品と同じにする必要があります。ここでは、本製品の出荷時の設定値に合わせてパソコン側の設定値を変更することを前提として説明します。

パソコン側の設定値を変更する操作は、ご使用の無線LANカードの取扱説明書をご覧ください。

[Network Mode]

無線アクセスポイントという中継装置(本製品に内蔵)と通信を行います。

パソコン側を「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードに変更しておきます。

本製品側では、この項目についての設定はありません。

[ESS ID]

同じ名前を設定したパソコンが無線ネットワーク上で同じワークグループとして識別されます。パソコン側の設定を「LG」(半角大文字)に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「LG」(半角大文字)です。

[通信チャンネル]

「Infrastructure(インフラストラクチャー)」モードで通信を行うときは、設定しても無効です。本製品側で設定する通信チャンネルにしたがって無線通信を行います。

[WEP機能]

無線LANで通信を行うとき、通信するデータの暗号化を行います。パソコン側のWEPセキュリティを「無効」に変更しておきます。

本製品の出荷時の設定値は、「WEPキーを使用しない」です。

【△注意】

- Macintoshへの無線接続には、対応していません。
- 本製品に対応する無線LANカードをご使用ください。対応しないカードとは通信できません。
- 本製品とパソコンに装着された無線LANカードの設定を両方とも同じにしてください。設定が異なると、無線LANによる通信が行えません。
- 本製品に設定した値を正確にメモして、必ず同じ値を無線で通信するすべての機器に設定してください。
- 本製品に無線LANで接続するパソコンから、本製品の「通信チャンネル」、「ESS ID」などを変更している途中は、一時的に無線で接続ができない状態になります。すべての機器の設定内容が同じになれば、接続できる状態になります。
- WEP機能を使用しない場合、部外者から不用意に接続される可能性があり、不正侵入や盗聴、妨害、データの消失、破壊などに遭遇する危険があります。また、無線LAN経由でISDN回線を使われて電話料金やプロバイダー接続料金を請求されるおそれがあります。このようなことがないように、必ずWEP機能をご使用になることをお勧めします。
- WEP機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。
- 無線通信中に動作が不安定になる場合は、本製品やパソコンの設置場所、向きを変えてみてください。
- 本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが10台以下とすることをお勧めします。

3 パソコンを設定する

3-3 WWWブラウザを用意する

本製品の設定をWWWブラウザで行うには、Microsoft Internet Explorer4.0以降、またはNetscape Navigator4.0以降が必要です。

Ethernetまたは無線で接続されたパソコンからインターネットを使う場合は、ブラウザの設定が、「Proxy(プロキシ)サーバ機能」を利用しないようになっていることを確認してください。

Proxyサーバを使いたいときは、次の手順を参考に本製品をProxyの対象外にしてください。

【Microsoft Internet Explorer5.0の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

1. [ツール(T)]メニューから「インターネットオプション(O)」を選択します。
2. [接続]タブ LANの設定(L) の順番にマウスを操作します。
3. 設定画面の「プロキシサーバを使用する(X)」のチェックボックスにチェックを入れて、詳細(C) をクリックします。
4. サーバの種類で、「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
5. 例外の「次で始まるアドレスにはプロキシを使用しない(N)」のテキストボックスには、本製品のIPアドレス(例：192.168.0.1)を入力します。

【Netscape Navigator4.7の場合】

本製品をProxyの対象外にする設定手順について説明します。

1. [編集(E)]メニューから「設定(E)」を選択します。
2. 設定画面の「カテゴリ」の中から、「詳細 - プロキシ」をクリックします。
3. 「手でプロキシを設定する」のラジオボタンにチェックを入れます。
4. 「HTTP(H)」のテキストボックスにプロバイダーのProxyサーバアドレスを入力します。
5. 「プロキシなし(N)」のテキストボックスに本製品のIPアドレス(例：192.168.0.1)を入力します。

この章では、

本製品を使って、LANを構築する方法について説明します。

構築するLANの形態に応じて、次の箇所をお読みください。

新規にLANを構築する 「4-1 新規にLANを構築する」

既存のLANに組み込む 「4-2 既存のLANに組み入れる」

4-1.新規にLANを構築する	44
Ethernetを使ってつなぐ	44
HUBを使ってつなぐ	45
無線LANを使ってつなぐ	46
4-2.既存のLANに組み入れる	47
ネットワーク状況の確認	47
IPアドレスを設定する	47
既存のLANにつなぐ	47
4-3.割り当てられたIPアドレスを確認する	
【Windows Meの場合】.....	48
【Windows 2000の場合】	49
【Mac OSの場合】	50

4 本製品とパソコンをつなぐ

4-1 新規にLANを構築する

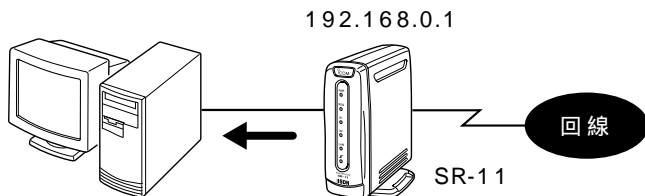
新規にLANを構築する場合は、本製品のDHCPサーバ機能を使ってIPアドレスを割り当てることをおすすめします。

Ethernetを使ってつなぐ

本製品とパソコンをEthernetケーブルでつなぎます。

【△注意】

Ethernetケーブルの接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。パソコンの電源を入れるのは、本製品の電源を入れてから行ってください。



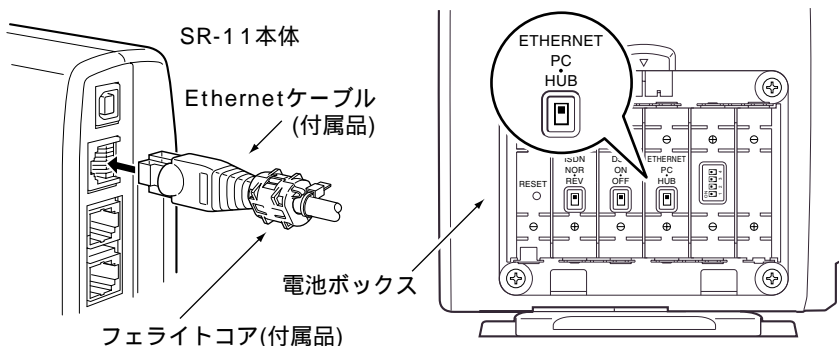
本製品を起動しておくと、パソコンが起動したとき、本製品からIPアドレスを割り当てられます。

本製品にパソコン1台だけをつなぐ方法を説明します。

本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。

つなぎかた

- 1.本製品とパソコンの[Ethernet]ポートを、本製品に付属するEthernetケーブルでつなぎます。
- 2.本製品の[ETHERNET]スイッチを「PC」側(出荷時の設定)に切り替えます。
- 3.本製品の電源を最初に入れてから、パソコンの電源を入れます。
 - Ethernetケーブルが正しく接続されていると、[LAN]ランプが点灯します。



HUBを使ってつなぐ

本製品を2台以上のパソコンで使う場合は、本製品とHUBをEthernetケーブルでつなぎます。

【△注意】

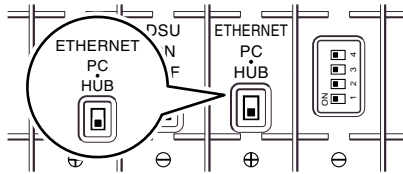
Ethernetケーブルの接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。パソコンの電源を入れるのは、本製品とHUBの電源を入れた状態で行ってください。

本製品にパソコン2台以上をつなぐ方法を説明します。

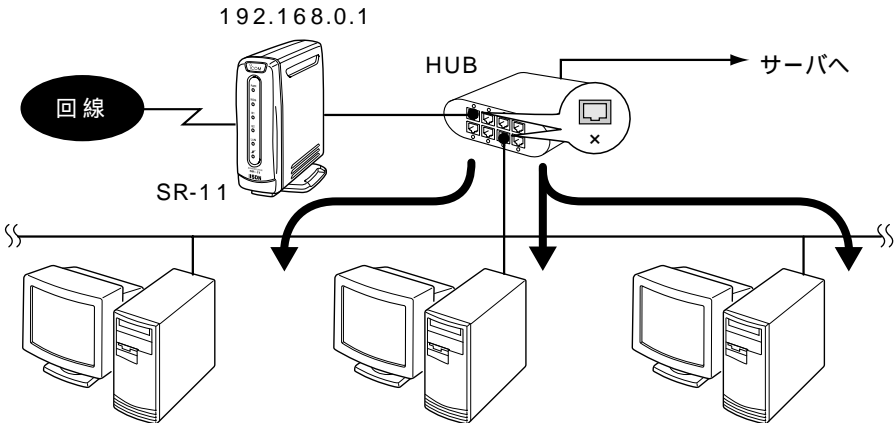
本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。

つなぎかた

1. HUBの[Ethernet](×印のある)ポートと本製品の[Ethernet]ポートを、本製品に付属するEthernetケーブルでつなぎます。
2. HUBの[Ethernet](×印のある)ポートとパソコンの[Ethernet]ポートを、市販のEthernetケーブル(ストレート結線)でつなぎます。
3. 本製品の[ETHERNET]スイッチを「HUB」側に切り替えます。



4. 本製品とHUBの電源を最初に入れてから、パソコンの電源を入れます。
 - Ethernetケーブルが正しく接続されていると、[LAN]ランプが点灯します。



本製品の電源を入れておくと、パソコンの電源を入れた順番に、本製品からIPアドレスを割り当てられます。

4 本製品とパソコンをつなぐ

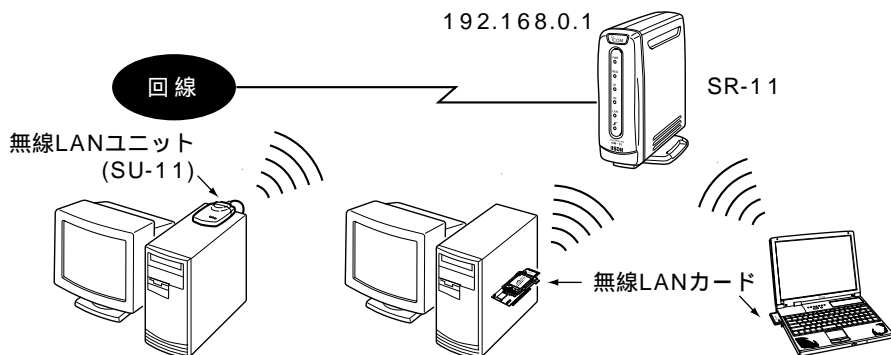
4-1 新規にLANを構築する(つづき)

無線LANを使ってつなぐ

本製品とパソコンを無線LANでつなぎます。

【△注意】

Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品の電源が入った状態で行ってください。




本製品の電源を入れておくと、パソコンの電源を入れた順番に、本製品からIPアドレスを割り当てられます。


同じワークグループで通信するすべてのパソコンと本製品には、次の手順で同じ値を設定する必要があります。

本製品の設定を行うときは、本製品をネットワーク上の複数のパソコンで利用する場合でも、そのうちの1台をネットワークから切り離して本製品につないでください。

つなぎかた

1. 本製品の電源を入れます。
2. 無線LANカードが装着されたパソコンの電源を入れます。なお、すでに電源が入っているときは、パソコンを再起動します。

● 正しく接続されると、前面パネルの[]ランプが点灯します。ただし、通信しない状態や無線伝送エリア外に移動するなど、そのような状態が1～2分間つづくと消灯します。

前面パネルの[]ランプが点灯しないときは、「パソコンを無線LANでつなぐには」(☞3-2章)の「無線LANカードを設定する」の内容を確認してください。また、本製品の設定内容については、「無線LANを設定する」(☞6-4章)をご覧ください。

【無線通信距離について】

無線での通信距離は、設置場所によって多少異なりますが、以下の見通し距離を参考に設置してください。

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| ● 通信速度の設定が「自動切替」のとき | ● 通信速度の設定が「11 Mbps固定」のとき |
| 屋内：約 50m | 屋内：約30m |
| 屋外：約 150m | 屋外：約70m |

4-2 既存のLANに組み入れる

既存のLANに本製品を組み込む場合は、あらかじめそのLANで取り決めたIPアドレスの割り当て方法にしたがって本製品のIPアドレスを割り当てる必要があります。

【IPアドレスを固定で割り当てている場合】

空いているIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)をご覧ください。

【DHCPサーバ機能を利用している場合】

本製品のDHCPサーバ機能を使わないよう、本製品の設定を変更して、自動割り当て範囲外のIPアドレスを本製品に割り当てる

本製品のIPアドレスについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)をご覧ください。

ネットワーク状況の確認

ネットワークを既存のLAN上に構築している場合は、次の点に注意してください。

【LAN上での各パソコンのIPアドレス】

TCP/IPでは、ネットワーク上の各ネットワーク機器(パソコンなど)のIPアドレスと本製品のIPアドレスが重複すると、本製品と各パソコンのあいだで通信が行えなくなります。また、ネットワーク全体にも影響がおよぶ可能性がありますので、注意してください。

既存のネットワーク上に「192.168.0.1」というIPアドレスを持つネットワーク機器があるときは、本製品を既存のLANに接続する前に、本製品のIPアドレスを変更する必要があります。

各ネットワーク機器のIPアドレスなどを静的に割り当てる場合は、IPアドレスが重複しないように注意してください。また、動的に割り当てを行っている場合でも、DHCPサーバ機能で割り当てるIPアドレス範囲と本製品のIPアドレスが重複しないように設定を変更する必要があります。また、ブロードキャストアドレスは、ネットワーク上のすべて機器に割り当てることができませんので、注意してください。

IPアドレスを設定する

接続したいほかのネットワークとIPアドレスが重複するときは、設定を変更します。設定のしかたについては、「本体IPアドレスを変更するには」(☞6-8章)をご覧ください。

既存のLANにつなぐ

「新規にLANを構築する」(☞4-1章)の「HUBを使ってつなぐ」を参考にしてください。

4 本製品とパソコンをつなぐ

4-3 割り当てられたIPアドレスを確認する

DHCPサーバ機能によってパソコンに自動で割り当てられたIPアドレスを確認する方法について説明します。

ご使用のOSごとに説明する手順で確認を行ってください。

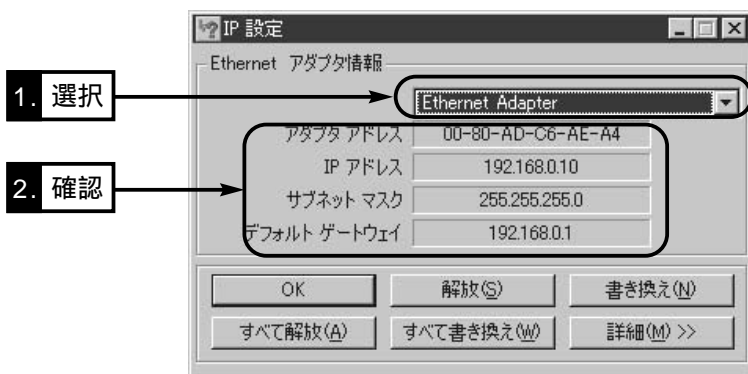
【Windows Meの場合】

インストールされたOSの[Windows]フォルダーに収められた「winipcfg.exe」というアプリケーションで確認します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [ファイル名を指定して実行(R)]の順番に操作します。
- 2.コマンドラインボックスに「winipcfg」と半角入力して、[ENTER]キーを押します。
- 3.テキストボックスの をクリックして、ご使用のEthernetまたは無線LANカード名を選択します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



画面の表示項目について

- アダプタアドレス : Ethernetまたは無線LANカードのMACアドレス
IPアドレス : パソコンのIPアドレス
サブネットマスク : パソコンのサブネットマスク
デフォルトゲートウェイ : 本製品のLAN側のIPアドレス

【自動割り当てに失敗したら？】

パソコンのIPアドレスのネットワーク部が、本製品のIPアドレスのネットワーク部(192.168.0.)と異なるときは、IPアドレスの自動割り当てに失敗している可能性がありますので、ご使用のEthernetまたは無線LANカードのTCP/IPプロトコルについての設定およびケーブルの接続を確認してから、パソコンを再起動してみてください。

再起動したら、もう一度、上記の手順でIPアドレスを確認してください。

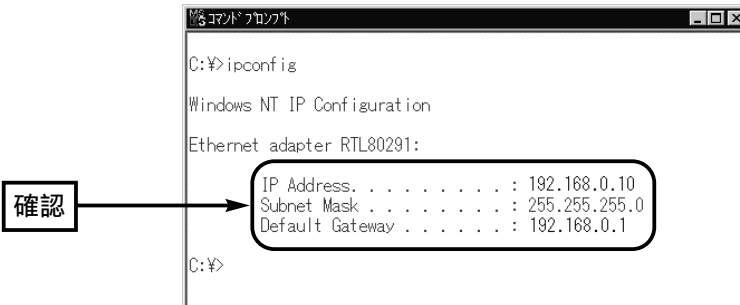
4-3 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Windows 2000の場合】

コマンドプロンプト画面から「ipconfig」を実行します。

確認のしかた

- 1.マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [コマンドプロンプト]の順番に操作します。
- 2.ipconfigとコマンドを入力して、[Enter]キーを押します。
コマンドラインのオプションについては、「ipconfig/?」を実行してご確認ください。
- 3.次に表示された画面に、パソコンに割り当てられたIPアドレスが表示されます。



4 本製品とパソコンをつなぐ

4-3 割り当てられたIPアドレスを確認する(つづき)

【Mac OSの場合】

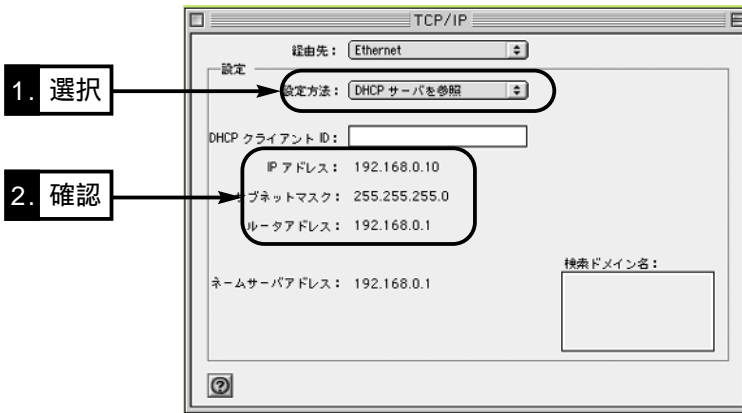
パソコンを起動後、実際に通信(WWWアクセスまたはメールアクセス)を行うまで、DHCPサーバからIPアドレスを取得しないようになっています。

次の手順で表示される画面の各項目に「サーバを参照」と表示されているときは、一度通信を行ったあとにもう一度確認してください。

確認のしかた

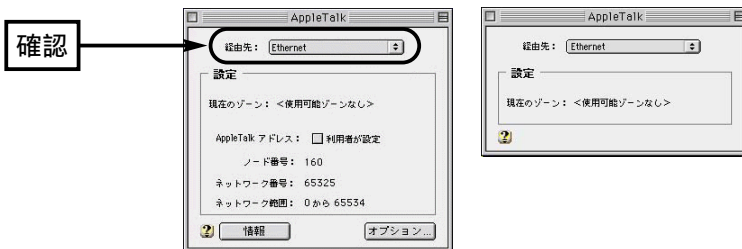
1. [アップルメニュー] [コントロールパネル] [TCP/IP]の順番にマウスを操作します。

- IPアドレスがDHCPサーバからパソコンに割り当てられると、[IPアドレス]の項目に表示されます。



2. MACアドレスの確認は、[アップルメニュー] [コントロールパネル] [AppleTalk]の順番にマウスを操作すると、次のどちらかの画面を表示しますので、[経由先]を「Ethernet」に選びます。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[編集]メニュー [利用者モード]で表示する画面から「詳しい情報も指定」を選ぶと、左の画面を表示します。



【Mac OSの場合】

確認のしかた (つづき)

3. 情報 をクリックします。

右の画面を表示する場合、メニューバーの[ファイル]メニューから、「情報を見る」を選ぶと、右の画面を表示します。



この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、本製品のISDNダイヤルアップとフレッツISDNの接続設定について、本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って行う方法を説明します。

「簡単接続設定ウィザード」を使って設定が行えるのは、ISDNダイヤルアップとフレッツISDNだけです。

「WWWブラウザ」を使って設定を行う場合は、「WWWブラウザで設定する」(☞6章)をご覧ください。

詳しく設定を行う場合でも、最初に「簡単接続設定ウィザード」を使って設定しておくとう便利です。

無線で本製品に接続するパソコンから「簡単接続設定ウィザード」を使って設定されたいかたは、最初に「無線LANを設定する」(☞6-4章)をご覧になり、パソコンの無線LAN設定内容の確認と本製品の設定画面が呼び出せることを確認してから、本章で設定を行うことをお勧めします。

専用線接続の設定については、取扱説明書[応用編]をご覧ください。

5-1.本製品とパソコンの電源を入れる	54
5-2.簡単設定ソフトを起動する	54
5-3.設定をはじめると	55

5 簡単設定ソフトで設定する

5-1 本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができれば、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

1. 本製品の電源を入れます。
2. 本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
3. 本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(☞4章)を確認してください。
4. 本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞4-3章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(☞3章)で確認してください。

5-2 簡単設定ソフトを起動する

簡単設定ソフトは、本製品のCD-ROMに収められています。

1. 本製品のCD-ROMをご使用のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
2. 簡単接続設定ウィザード クリックします。
 - 「簡単接続設定ウィザード」が起動します。



【インストールについて】

「簡単設定ソフト」をインストールしてご利用になりたいときは、ユーティリティ インストール をクリックすると、インストールが行えます。

詳しい手順については、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2章)をご覧ください。

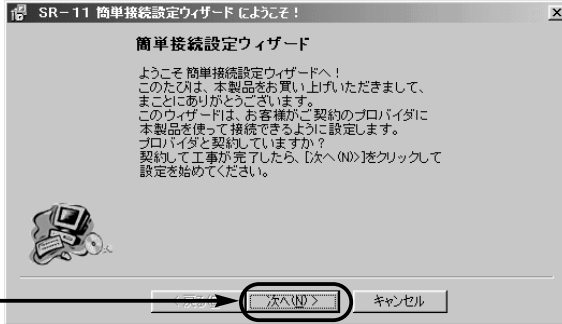
【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

5-3 設定をはじめる

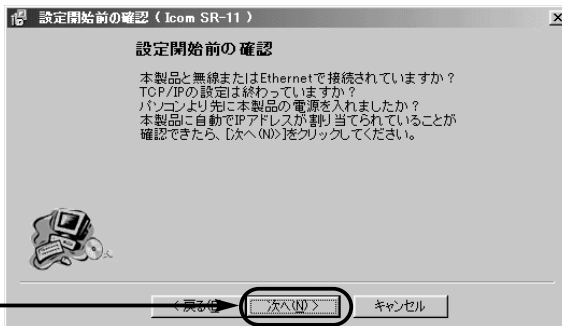
「簡単接続設定ウィザード」を起動したら、つぎの順にしたがって設定を行ってください。

1. 「簡単接続設定ウィザード」と画面に表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。



2. 「設定開始前の確認」と画面に表示されたら、契約しているプロバイダーから指示された情報を準備していることを確認して、次へ(N) をクリックします。

パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(※3章)してから、やり直してください。



クリック

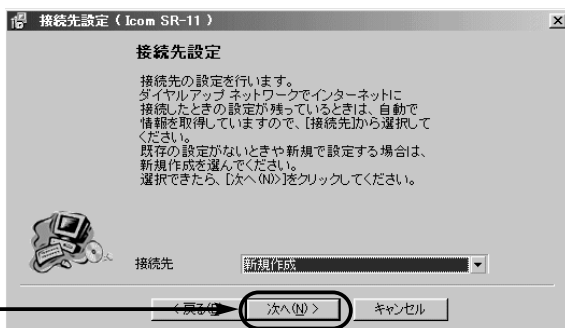
【△注意】
「簡単接続設定ウィザード」では、テキストボックスに入力する文字数制限は、「wwwブラウザ」を使って設定するときの文字数制限と同じです。「簡単接続設定ウィザード」で制限以上の文字を入力されても、制限を超えた分は、破棄されます。

5 簡単設定ソフトで設定する

5-3 設定をはじめるとつづき

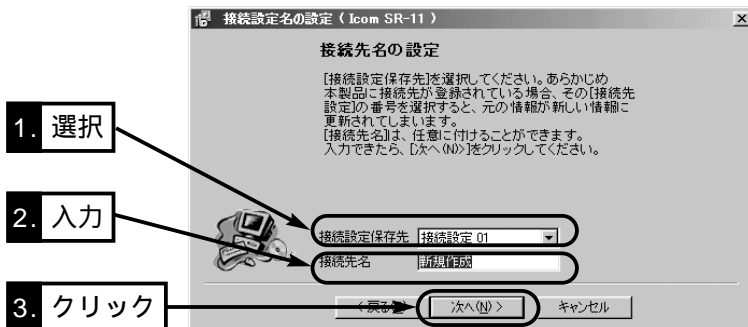
3.「接続先設定」と画面に表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。モデムやTAでインターネット接続していたパソコンに設定が残っているときは、「ダイヤルアップネットワーク」で設定した接続先の内容を本製品の設定として取り込みます。

取り込むときは、[接続先]ボックスの[]をクリックして、その接続先名を選択します。



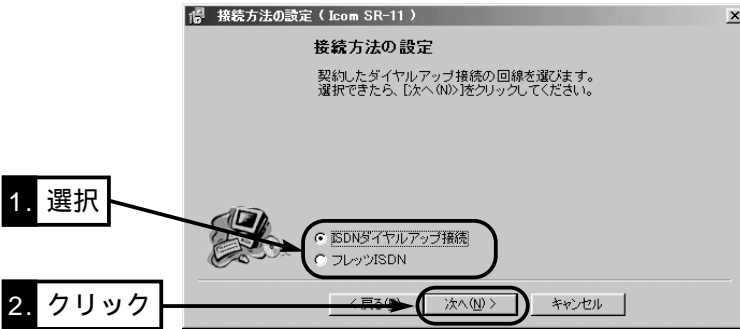
4.「接続先名の設定」と画面に表示されたら、[接続設定保存先]の番号を選択します。

[接続先名]のテキストボックスにそれに付ける名称を任意に設定したら、次へ(N) をクリックします。



5.「接続方法の設定」と画面に表示されたら、該当する契約回線のラジオボタンをクリックして、次へ(N) をクリックします。

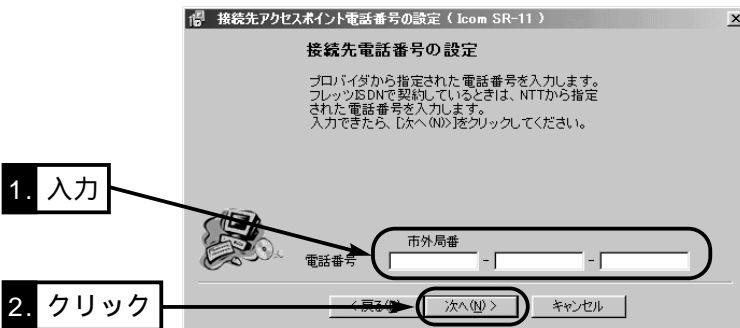
該当するネットワーク形態について詳しくは、6-5章(ISDNダイヤルアップ接続の場合)、6-6章(フレッツISDNの場合)を参考にしてください。



6.「接続先電話番号設定」と画面に表示されたら、内容を確認または入力して、次へ(N) をクリックします。

フレッツISDNでご契約の場合は、プロバイダーから指示されたものとは別の電話番号を指定されますので、それを入力します。

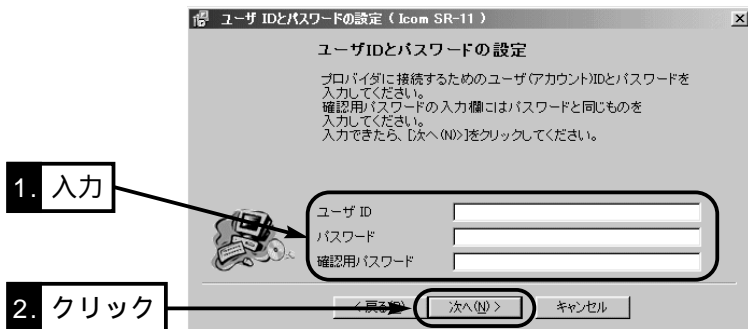
この画面は、手順5.で「ISDNダイヤルアップ接続」を選択したときです。



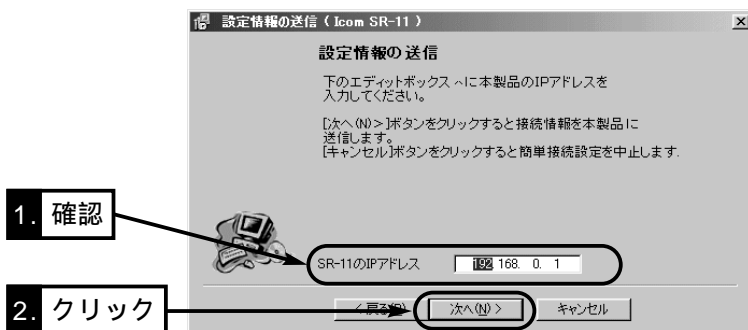
5 簡単設定ソフトで設定する

5-3 設定をはじめめる(つづき)

7.「ユーザーIDとパスワードの設定」と画面に表示されたら、契約しているプロバイダーから指示された[ユーザーID]と[パスワード]と[確認用パスワード]をテキストボックスに入力して、次へ(N) をクリックします。



8.「設定情報の送信」と画面に表示されたら、本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が表示されていることを確認して、次へ(N) をクリックします。



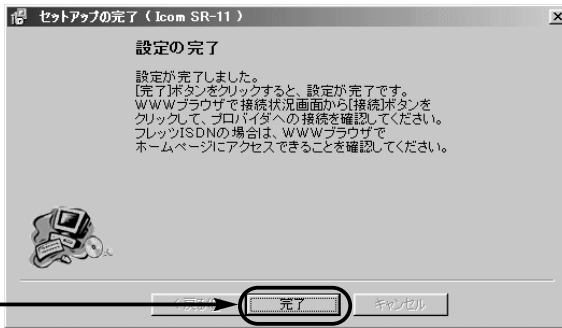
9.「確認」のダイアログが表示されますので、はい(Y) をクリックします。



手順9.で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから OK をクリックします。



10.「設定の完了」と画面に表示されたら、完了 をクリックします。

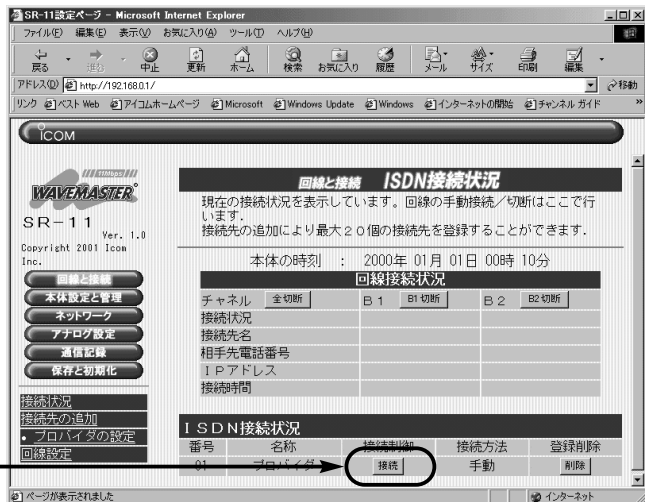


11.手順5.で「ISDNダイヤルアップ接続」を選択したときは、本製品の接続設定画面を表示しますので、その画面にある 接続 をクリック(手動で接続)して、回線に接続されることを確認します。

手順5.で「フレッツISDN」を選択したときは、自動的にWWWブラウザを起動して、弊社のホームページにアクセス(自動で接続)します。

本製品の[B1]または[B2]ランプは、接続中は点滅して、接続されると点灯に替わります。

【ISDNダイヤルアップ接続】で表示する画面



5 簡単設定ソフトで設定する

5-3 設定をはじめ(手順11.のつづき)

【フレッツISDN】で表示する画面



12. 回線の切断方法については、「インターネット接続を終了する」(☞7-2章)をご覧ください。
13. 設定画面を呼び出して(☞6-2章)、本製品の時計を設定(☞6-3章)します。
設定を行わないと、通信記録表示、自動接続可能な時間帯、自動切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、設定しておくことをお勧めします。

【設定後、回線に接続できないときは？】

ご契約のプロバイダーがIPCP(DNSアドレス送信)に対応していないと、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できませんので、インターネットにつながらないことがあります。

このような場合は、「WWWブラウザで設定する」(☞6章)をご覧ください。プロバイダーから指定されたDNSアドレスを本製品の設定画面に直接入力してください。

設定後は、「インターネットにつなぐ」(☞7章)をご覧ください。インターネットにつながることを確認してください。

IPCPについて詳しくは、ご契約のプロバイダーにお尋ねください。

この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、本製品の基本的なダイヤルアップ接続の設定について、「WWWブラウザ」を使って行う方法を説明します。

本製品のCD-ROMに収められた「簡単接続設定ウィザード」を使って設定を行う場合は、「簡単設定ソフトで設定する」(※5章)をご覧ください。

詳しく設定を行う場合でも、最初に「簡単接続設定ウィザード」を使って設定すると便利です。

専用線接続の設定については、取扱説明書[応用編]をご覧ください。

6-1.本製品とパソコンの電源を入れる	62
6-2.設定画面を呼び出す	62
「回線設定」画面	62
「接続状況」画面	63
各メニューボタンについて	64
回線種別を変更するときは	64
6-3.本製品の時計を設定する	65
6-4.無線LANを設定する	66
6-5.ISDN回線でインターネットに端末型接続する	68
6-6.フレッツISDNでプロバイダーと接続する	71
6-7.ISDN回線でネットワークにLAN間接続する	74
6-8.本体IPアドレスを変更するには	78
6-9.自動割り当て開始IPアドレスを変更するには	79
6-10.接続先を複数登録するには	80

6 WWWブラウザで設定する

6-1 本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができたら、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

- 1.本製品の電源を入れます。
- 2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
- 3.本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(☞4章)を確認してください。
- 4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(☞4-3章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(☞3章)で確認してください。

6-2 設定画面を呼び出す

次の手順で本製品の設定画面を呼び出したとき、最初に表示される画面は、本製品の設定状態によって異なります。

- 出荷時または全設定内容を初期化したとき 「回線設定」画面を表示します。
- 設定や接続先などの登録が行われているとき 「接続状況」画面を表示します。

操作のしかた

- 1.WWWブラウザを起動します。
本書では、Internet Explorer5.0を使って説明しています。
- 2.本製品のURL「http://192.168.0.1」を指定します。
 - 本製品の設定状態によって、「回線設定」画面または「接続状況」画面が表示されます。

「回線設定」画面

登録 / 取消 ボタン

メニュー ボタン

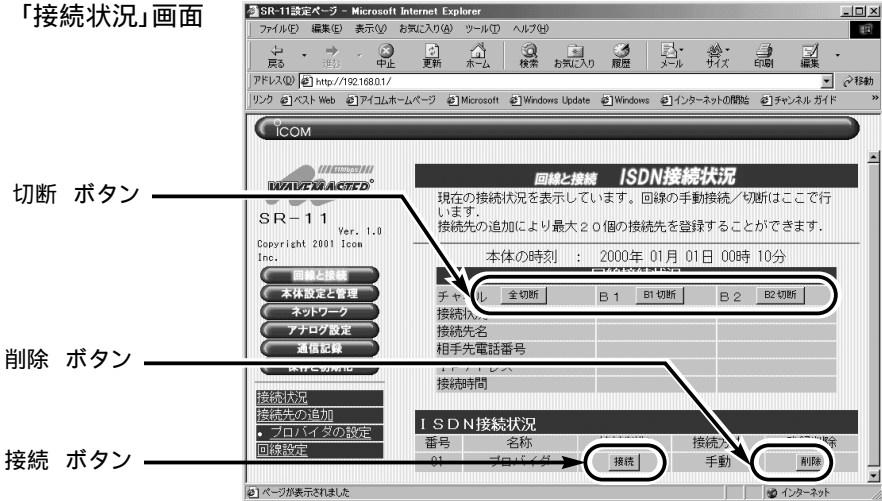
画面名称

登録 / 取消 ボタン... 設定内容の登録または取消のとき、クリックします。

メニュー ボタン..... 使用目的に該当するボタンをクリックすると、画面の右側にそのメニューの先頭画面を表示します。

画面名称 各メニューごとに用意された画面の名称を表示します。「画面名称」をクリックして、その画面に切り替えます。

「接続状況」画面



- 切断 ボタン..... ダイヤルアップで接続時、強制的に通信回線を切断します。
通話(アナログ)回線は、このボタンで切断されません。
- 削除 ボタン..... この行に登録された接続先を削除します。
- 接続 ボタン..... この行に登録された接続先への回線を手動で接続します。

【ご参考：設定画面内のテキスト入力ボックスについて】

ネットワークメニューにある「本体名称」の項目を除いては、各項目のテキストボックスに入力できる文字に入力制限はありませんが、入力できる最大文字数などは各項目で制限がありますので、これらの詳細については、取扱説明書[応用編]でご確認ください。

6 WWWブラウザで設定する

各メニュー ボタンについて

- 回線と接続 ボタン..... 使用回線の選択、接続先および着信の登録、回線の接続と切断、接続状況の表示などが行えます。
- 本体設定と管理 ボタン 本製品の管理者ID、着信メール、時計、SYSLOG設定などが行えます。
- ネットワーク ボタン... 本体の名称やIPアドレス、DHCPサーバ、無線LAN、簡易DNSサーバ、IPフィルタ、RIP、ルーティングなどの設定が行えます。
- アナログ設定 ボタン... 内線通話、フレックスホン、短縮ダイヤル、グローバル着信、セレクト着信など、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続するアナログ電話機やファクシミリについての設定が行えます。
- 通信記録 ボタン..... 接続先と回線を接続および切断したときの履歴と、料金、回数、時間を通信接続先および各アナログポートごとに表示します。
- 保存と初期化 ボタン... 本製品の設定内容の保存および初期化が行えます。

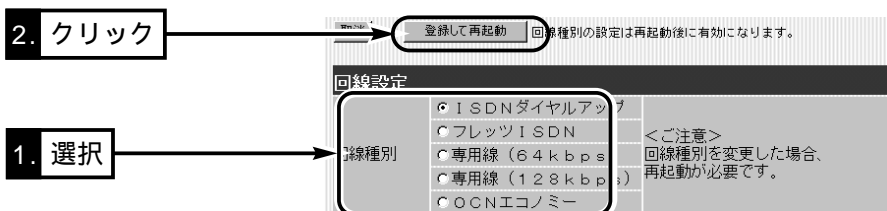
回線種別を変更するときは

出荷時の状態では、「ISDNダイヤルアップ」が登録されています。

登録する接続先の回線が出荷時の設定と違うときは、次の手順で最初に変更してください。変更したら必ず本製品を再起動してから、接続先の情報を登録してください。

変更する

- 1.WWWブラウザを起動して、「回線設定」画面を表示させます。
- 2.「回線種別」の中から、接続先に該当する回線のラジオボタンをクリックします。
3. 登録して再起動 をクリックします。
 - 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



6-3 本製品の時計を設定する

設定画面から、本製品の内部時計の時刻を設定します。

設定を行わないと、通信記録表示、自動接続可能な時間帯、自動切断でタイマーを使う時間帯などの制限を設定しても正しく動作させることができませんので、なるべく最初に設定を行っておくことをお勧めします。

設定のしかた

- 1.WWWブラウザを起動します。
 - 先頭画面を表示します。
- 2.メニューから 本体設定と管理 「時計設定」の順番にクリックします。
 - 「時計設定」画面を表示します。



- 3.内部時計設定の「設定する時刻」欄に、パソコンから自動取得した時刻が設定されているのを確認して、登録 をクリックします。



【△注意】

本製品の電源を切ると、時計の設定が出荷時の状態に戻ります。
全設定の初期化、停電や不慮の事故で電源が一時的にでも切れたときは、再設定が必要です。

6 WWWブラウザで設定する

6-4 無線LANを設定する

パソコン(PC/AT互換機)を無線LAN(無線アクセスポイント)で接続する場合の設定です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

さらに詳しく設定を行う場合は、「アクセスポイント機能を使う」(☞8-1章)、または取扱説明書[応用編]をご覧ください。

出荷時の設定値で無線LANを使うときは、パソコン側の設定値を本製品と同じに変更してください。

パソコンの設定については、「パソコンを無線LANでつなぐには」(☞3-2章)をご覧ください。



【基本無線項目】

ESS ID
ESS IDの確認入力
チャンネル

【出荷時の設定値】

大文字で「LG」(入力値は、すべて[*]で表示します。)
大文字で「LG」(入力値は、すべて[*]で表示します。)
14(パソコン側の設定は不要です。)

【基本無線項目について】

ESS ID

無線LAN識別用の名前を任意に設定します。

無線伝送可能エリア内に、無線ワークグループを複数構成していて、ネットワーク情報を他の無線ワークグループから見られたくないとき変更します。また、無線LANへの不正なアクセスを防止するときなどにも使用します。

チャンネル

パソコンと本製品が無線通信に使うチャンネルです。

パソコン側は、本製品で設定したチャンネルを自動的に検知して通信します。

ローミング機能(☞8-2章)や無線アクセスポイントと通信する無線ネットワークグループが複数あるときなど、互いの無線アクセスポイント(本製品)から電波が受信できる無線伝送可能エリア内において、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定することで、電波干渉を完全に避けることができます。

【△注意】

Macintoshへの無線接続には、対応していません。
無線接続は、先に本製品の電源が入った状態で行ってください。

設定する

- 1.WWWブラウザを起動します。
 - 先頭画面を表示します。
- 2.メニューから ネットワーク 「無線LAN設定」の順番にクリックします。
 - 「無線LAN設定」画面を表示します。



- 3.設定項目を変更したときは、登録して再起動 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。



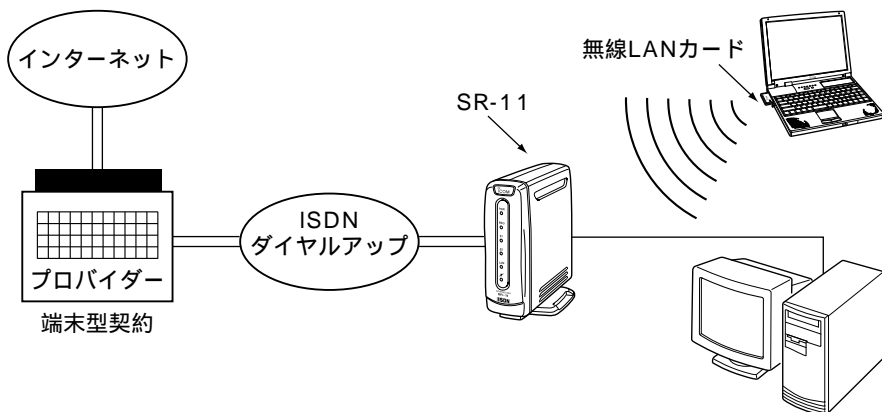
6 WWWブラウザで設定する

6-5 ISDN回線でインターネットに端末型接続する

図のようなネットワーク形態でインターネットに接続する場合の設定例です。

ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【プロバイダーから指示された情報】

接続先電話番号：12-3456-7890

ユーザー認証ID：user

ユーザー認証パスワード：userpass

DNSアドレス：192.169.100.10(プライマリ)

192.169.101.15(セカンダリ)

DNSアドレスの指定がないときは、ご契約のプロバイダーが、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合、この項目の設定は不要です。

本製品のIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。

【△注意】

本製品は、Ethernetポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続する機能を備えています。そのため、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

NTTとの契約内容によっては、実際から請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

設定する

1. 設定画面から 回線と接続 「回線設定」の順番にクリックします。



2. [ISDNダイヤルアップ]のラジオボタンをクリックして、登録して再起動 をクリックします。

- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



3. 回線と接続 「接続先の追加」の順番にクリックします。



6 WWWブラウザで設定する

6-5 ISDN回線でインターネットに端末型接続する
設定する (つづき)

4.プロバイダーから指示された情報を入力して、登録 をクリックします。

クリック → **登録** 取消

印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

接続設定		
接続先名	<input type="radio"/> プロバイダ	
電話番号 1	<input type="radio"/> 1234567890	* 以降はサブアドレス
電話番号 2	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
電話番号 3	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="radio"/> user	
パスワード	<input type="radio"/> *****	
認証プロトコル	<input type="text"/> 相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
コールバック要求	<input type="text"/> しない	
コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	<input type="radio"/> 192.169.100.10	
セカンダリDNSサーバ	<input type="radio"/> 192.169.101.15	

5. 回線と接続 をクリックして、登録を確認します。

- 設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

1. クリック → **回線と接続**

2. 確認 → **ISDN接続状況**

ICOM
WAVEMASTER
SR-11 Ver. 1.0
Copyright 2001 Icom

回線と接続 ISDN接続状況

現在の接続状況を表示しています。回線の手動接続/切断はここでを行います。
接続先の追加により最大20個の接続先を登録することができます。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 02分

回線接続状況

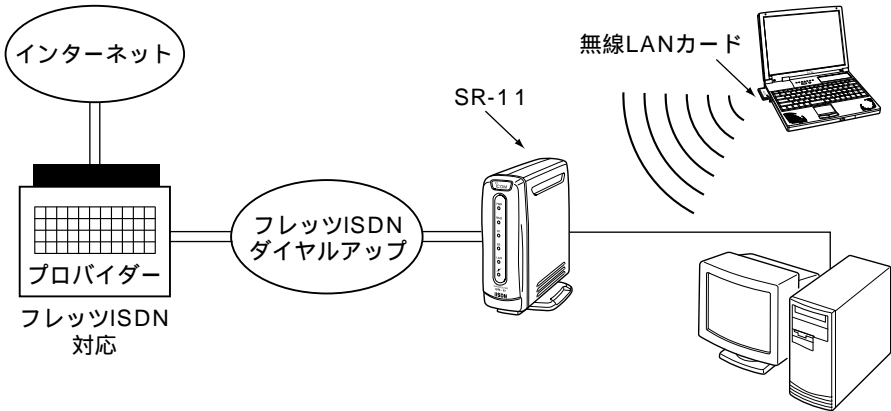
チャンネル	全切断	B 1	B1切断	B 2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	プロバイダ	接続	手動	削除

6-6 フレッツISDNでプロバイダーと接続する

フレッツISDNの契約をNTTおよび対応するプロバイダーで行っている場合、本製品でそのサービスを利用するための設定例です。ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【プロバイダーから指示された情報】

接続先電話番号：12-3456-7890

(フレッツISDNで接続するときは、NTTから指示された電話番号を使います。)

ユーザー認証ID：user

ユーザー認証パスワード：userpass

DNSアドレス：192.169.100.10(プライマリ)
192.169.101.15(セカンダリ)

本製品のIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。

【NTTから指示された情報】

接続先電話番号：99-9999-9999(フレッツISDNで接続するとき設定します。)

【△注意】

フレッツISDNの契約をしていない場合、または契約を済ませたが切り替え工事が終わっていない場合は、この設定をしなさい。

この設定をこの行くと、回線自動切断機能の設定が無効に変更されますので、Ethernetポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続されたあと、自動切断が行われません。そのため、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますのでご注意ください。

【ご参考】

フレッツISDNは、MP(Multilink PPP)に対応していません。また、通信速度は64kbps固定になります。

6 WWWブラウザで設定する

6-6 フレッツISDNでプロバイダーと接続する(つづき) 設定する

1. 設定画面から 回線と接続 「回線設定」の順番にクリックします。

ICOM

WAVEMASTER

SR-11 Ver. 1.0
Copyright 2001 Icom

1. クリック

2. クリック

回線と接続 回線設定

契約しているプロバイダとの回線接続方法を設定します。

取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

回線設定

ISDNダイヤルアップ
 フレッツ ISDN <ご注意>
回線種別 専用線 (64 kbps) 回線種別を変更した場合、
 専用線 (128 kbps) 再起動が必要です。
 OCNエコノミー

ISDN着信識別番号設定

電話番号 この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を
サブアドレス 使用する場合に記載します。
なお、契約回線番号を記載すると着信しくくなります。

2. [フレッツISDN]のラジオボタンをクリックして、登録して再起動 をクリックします。

- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。

ICOM

WAVEMASTER

SR-11 Ver. 1.0
Copyright 2001 Icom Inc.

2. クリック

1. クリック

回線と接続 回線設定

契約しているプロバイダとの回線接続方法を設定します。

取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

回線設定

ISDNダイヤルアップ
 フレッツ ISDN <ご注意>
回線種別 専用線 (64 kbps) 回線種別を変更した場合、
 専用線 (128 kbps) 再起動が必要です。
 OCNエコノミー

ISDN着信識別番号設定

電話番号 この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を
サブアドレス 使用する場合に記載します。
なお、契約回線番号を記載すると着信しくなります。

3. 回線と接続 「接続先の追加」の順番にクリックします。

ICOM

WAVEMASTER

SR-11 Ver. 0.80
Copyright 2001 Icom

1. クリック

2. クリック

回線と接続 フレッツISDN接続状況

現在の接続状況を表示しています。回線の手動接続/切断はここでを行います。接続先の追加により最大20個の接続先を登録することができます。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 02時 05分

回線接続状況

チャネル	全切断	B1	B1 切断	B2	B2 切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

フレッツ ISDN 接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
----	----	------	------	------

設定する (つづき)

4. 相手先の事業所へ接続するための情報を入力して、登録 をクリックします。

クリック → **登録** 取消

印：設定する項目
[電話番号]は、NTTから指定の番号を設定します。

接続設定	
接続先名	● フレッツ
電話番号	● 234567890 * 以降はサブアドレス
ユーザID	● user
パスワード	● *****
認証プロトコル	● 相手に合わせる ▾
デフォルトGWを構築	● <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
コールバック要求	● しない ▾
コールバック電話番号	● * 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	● 192.169.100.10
セカンダリDNSサーバ	● 192.169.101.15

5. 回線と接続 をクリックして、登録を確認します。

- 設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

1. クリック → **回線と接続**

2. 確認 → **登録の確認**

YCOM WAVE MASTER SR-11 Ver 0.60 Copyright 2001 Icon

回線と接続 フレッツISDN接続状況

現在の接続状況を表示しています。回線の自動接続/切断はここで
行います。
接続先の追加により最大20個の接続先を登録することができます。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 03時 27分

回線接続状況

チャンネル	全切断	B 1	B1 切断	B 2	B2 切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
Eメールアドレス					
接続時間					

フレッツISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	フレッツ	接続	自動 (6.4K固定)	削除

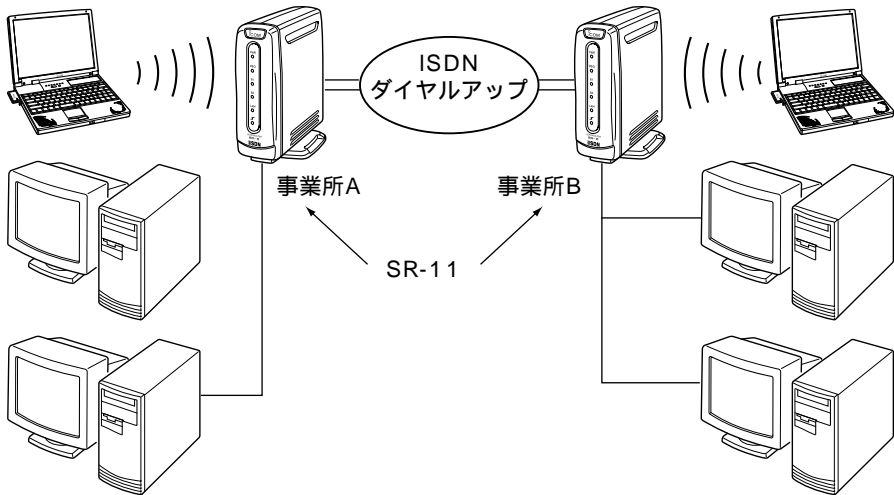
6 WWWブラウザで設定する

6-7 ISDN回線でネットワークにLAN間接続する

ISDN回線を介して2つの事業所のネットワークを接続する場合の設定例です。

ここでは、最低限必要と思われる項目について説明します。それ以外の設定項目については、出荷時の状態でご使用になることを前提として説明しています。

さらに詳しく設定を行う場合は、取扱説明書[応用編]をご覧ください。



【事業所Aの情報】

契約電話番号：12-3456-7890
ネットワークアドレス：192.168.0.0
サブネットマスク：255.255.255.0
ルータのIPアドレス：192.168.0.1
ユーザー認証ID：userA
ユーザー認証パスワード：userpassA
着信を許可する
DHCPサーバ機能を使う
事業所AのIPアドレスとサブネットマスクは、出荷時の状態とします。

【事業所Bの情報】

契約電話番号：2-3456-78901
ネットワークアドレス：192.168.1.0
サブネットマスク：255.255.255.0
ルータのIPアドレス：192.168.1.1
ユーザー認証ID：userB
ユーザー認証パスワード：userpassB
着信を許可する
DHCPサーバ機能を使う
事業所BのIPアドレスとサブネットマスクは、変更するとします。

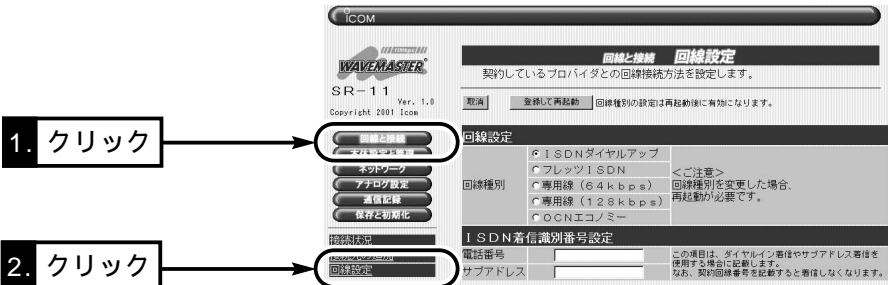
【△注意】

本製品は、Ethernetポート、無線アクセスポイントに接続したパソコンからの要求によって、自動的にダイヤルして回線を接続する機能を備えています。そのため、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

NTTとの契約内容によっては、実際から請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

設定する

1. 設定画面から 回線と接続 「回線設定」の順番にクリックします。



2. [ISDNダイヤルアップ]のラジオボタンをクリックして、登録して再起動 をクリックします。

- 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



3. 回線と接続 「接続先の追加」の順番にクリックします。



6 WWWブラウザで設定する

6-7 ISDN回線でネットワークにLAN間接続する

設定する (つづき)

4.相手先の事業所へ接続するための情報を入力して、登録 をクリックします。


クリック →  取消

事業所A側

接続設定

接続先名	<input type="radio"/> 事業所B	
電話番号 1	<input type="radio"/> 2345678901	* 以降はサブアドレス
電話番号 2	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
電話番号 3	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="radio"/> userB	
パスワード	<input type="radio"/> *****	
認証プロトコル	<input type="text" value="相手に合わせる"/>	
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
コールバック要求	<input type="text" value="しない"/>	
コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	

印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

クリック →  取消

事業所B側

接続設定

接続先名	<input type="radio"/> 事業所A	
電話番号 1	<input type="radio"/> 1234567890	* 以降はサブアドレス
電話番号 2	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
電話番号 3	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="radio"/> userA	
パスワード	<input type="radio"/> *****	
認証プロトコル	<input type="text" value="相手に合わせる"/>	
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
コールバック要求	<input type="text" value="しない"/>	
コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	

印：設定する項目
[接続先名]は、任意に設定します。

5.「着信」をクリックして、[着信]設定画面から互いの事業所間で着信できるように情報を入力して、登録 をクリックします。

2. クリック →  取消

事業所A側

着信設定

着信	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
電話番号チェック	<input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
通信チャンネル	<input type="text" value="2Bまで許可"/>	
P.I.A.F.Sによる着信	<input type="text" value="しない"/>	
コールバック	<input type="text" value="不許可"/>	
コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
ユーザID	<input type="radio"/> userA	
パスワード	<input type="radio"/> *****	
認証方法	<input type="text" value="PAPまたはCHAP"/>	
着信を許可する時間帯	<input type="text" value="00 : 00 ~ 00 : 00"/>	

1. クリック → 

印：設定する項目

6-7 ISDN回線でネットワークにLAN間接続する 設定する (つづき)

2. クリック

印：設定する項目

1. クリック

登録

事業所B側

着信設定

着信 しない する

電話番号チェック しない する

通信チャネル 2Bまで許可

PIAFSによる着信 [なし]

コールバック [不許可]

コールバック電話番号 [] *以降はサブアドレス

ユーザID userB

パスワード []

認証方法 PAPまたはCHAP

着信を許可する時間帯 00 : 00 ~ 00 : 00

6. 回線と接続 をクリックして、登録を確認します。
- 設定した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

1. クリック

2. 確認

事業所A側

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	事業所B	接続	手動	削除

1. クリック

2. 確認

事業所B側

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	事業所A	接続	手動	削除

7. 事業所B側の本製品について、IPアドレスを「192.168.1.1」、自動割り当て開始IPアドレスを「192.168.1.10」に変更します。
- 出荷時の設定では、事業所Aと事業所B間でIPアドレスが重複して通信できません。「本体IPアドレスを変更するには」(※6-8章)と「自動割り当て開始IPアドレスを変更するには」(※6-9章)を参考に、設定を変更してください。

6 WWWブラウザで設定する

6-8 本体IPアドレスを変更するには

既存のLANに接続したり、本製品を使って事業所間をLANでつなぐ場合、本製品を出荷時の状態で使うと、既存のネットワーク機器に割り当てられているIPアドレスと重複する可能性があります。ここでは、本製品のIPアドレスを変更する手順について説明します。

IPアドレスの「ネットワーク部」を変更するときは、「自動割り当て開始IPアドレスを変更する」(※6-9章)を参考に、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

変更のしかた

1. 設定画面から **ネットワーク** をクリックします。
 - 「本体ネットワーク設定」画面を表示します。
2. 次の画面で、本製品のIPアドレスを変更します。
接続するほかのネットワークと「ネットワーク部」が重複しないように設定してください。
3. **登録して再起動** をクリックすると、「IPアドレスが変更されました。コンピュータの設定を変更してください。」と表示されます。
 - 設定した内容が有効になります。



印：変更する箇所

4. 本製品のDHCPサーバ機能を使っている場合は、「winipcfg.exe」(※4-3章)を使ってIPアドレスを取り直すか、パソコンを再起動してください。また、手でパソコンにIPアドレスを割り当てている場合は、パソコンのネットワーク部のIPアドレスを本製品と同じに変更してください。

【IPアドレスの割り当てかた】

IPアドレスは、「ネットワーク部」と「ホスト部」の2つの要素から成り立っています。出荷時の本製品のIPアドレス「192.168.0.1」(クラスC)を例とすると、最初の「192.168.0.」までが「ネットワーク部」で、残りの「1」を「ホスト部」といいます。「ネットワーク部」が同じIPアドレスを持つネットワーク機器(パソコンなど)は、同じネットワーク上にあると認識されます。

さらに「ホスト部」によって同じネットワーク上にある各ネットワーク機器を識別しています。

以上のことから、IPアドレスを割り当てるときは、次のことに注意してください。

- 同じネットワークに含めたいネットワーク機器に対しては、「ネットワーク部」をすべて同じにする
- 同じネットワーク上の機器に対して、「ホスト部」を重複させない
- ネットワークアドレス(ホスト部の先頭および「0」)を割り当てない
- ブロードキャストアドレス(ホスト部の末尾および「255」)を割り当てない

6-9 自動割り当て開始IPアドレスを変更するには

本製品のDHCPサーバ機能を使うときなど、本製品のIPアドレスの「ネットワーク部」を変更しているときは、自動割り当て開始IPアドレスの「ネットワーク部」も併せて変更する必要があります。

ここでは、自動割り当て開始IPアドレスを変更する手順について説明します。

変更のしかた

1. 設定画面から **ネットワーク** をクリックします。

- 「本体ネットワーク設定」画面を表示します。

2. 次の画面で、自動割り当て開始IPアドレスを変更します。

自動割り当て開始IPアドレスは、本製品のIPアドレスのネットワーク部と同じになるように設定してください。



印：変更する箇所

3. **登録して再起動** をクリックすると、「IPアドレスが変更されました。コンピューターの設定を変更してください。」と表示されます。

- 設定した内容が有効になります。



【DHCPサーバ機能について】

本製品のDHCPサーバ機能を有効(出荷時の設定)すると、パソコンが本製品に接続したときに、本製品からIPアドレスを自動的に取得することができます。

本製品を既存のLANにつなぐ場合、本製品が自動で割り当てるIPアドレスの範囲が、既存のネットワーク機器(パソコンなど)の固定で割り当てたIPアドレスと重複しないように設定してください。

【自動割り当て個数について】

本製品が自動で割り当てできるIPアドレスの個数は、5～128個(無線LANを含む)までです。

出荷時の割り当て開始IPアドレスとサブネットマスクの設定値の場合、理論上割り当て可能なIPアドレスの個数は、最大254個までですが、128個を超える分については、手動でクライアントに割り当ててください。

6 WWWブラウザで設定する

6-10 接続先を複数登録するには

回線ごとに、複数の接続先を登録しておくことができます。

登録件数は、全部で23件(ISDN：20件 専用線：各1件、OCNエコノミー：1件)です。

異なる回線への接続先を登録するのときは、「回線設定」画面で回線種別を変更してから、次の手順で登録先を追加してください。


登録のしかた

- 1.設定画面から 回線と接続 「接続先の追加」の順番にクリックします。

1. クリック



2. クリック




チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
I Pアドレス					
接続時間					

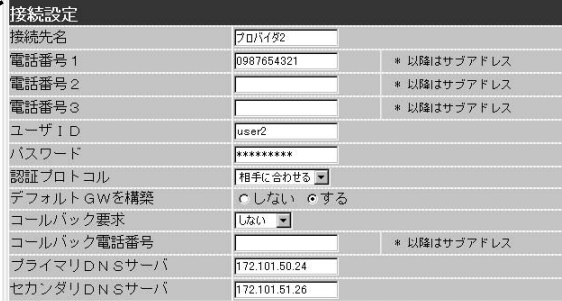
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	プロバイダ	接続	手動	削除

- 2.[接続設定]画面で内容を設定したあと、登録 をクリックします。

2. クリック



1. 設定



接続先名	プロバイダ2	
電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
電話番号2		* 以降はサブアドレス
電話番号3		* 以降はサブアドレス
ユーザID	user2	
パスワード	*****	
認証プロトコル	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	172.101.50.24	
セカンダリDNSサーバ	172.101.51.26	

3. 回線と接続 をクリックして、登録を確認します。

- 追加した接続先への接続状況を表示する画面が表示されます。

1. クリック



2. 確認



チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
I Pアドレス					
接続時間					

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	プロバイダ	接続	手動	削除
02	プロバイダ2	接続	手動	削除

この章では、

本製品に登録した接続先へダイヤルアップしてインターネットにつなぐ方法と、その接続先について通信料金情報を確認する方法について説明します。

7-1.インターネット接続を開始する	82
手動で接続する	82
自動で接続する	83
7-2.インターネット接続を終了する	84
自動で切断する	84
手動で切断する	85
7-3.ISDN回線の課金情報を見るには.....	86
意図しない課金が発生する原因について	86

7 インターネットにつなぐ

7-1 インターネット接続を開始する

本製品(ダイヤルアップルータ)は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。

出荷時の状態(フレッツISDN接続時を除く)から[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。また、[自動接続]の設定は、実際に使う接続先に対して有効になります。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまうおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

NTTとの契約内容によっては、実際に請求される回線使用料金は異なる場合があります。

また、本製品は、フレッツISDN(通信料定額制)への接続設定を行った場合、自動的に[自動接続]と[自動切断]の設定を変更します。意図しない自動接続により回線が長時間接続された状態になって、ご契約のプロバイダーによっては多額の接続料金を請求されることがありますので、「通信記録」画面で、合計接続時間表示を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される時間情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

接続料金については、ご契約のプロバイダーにご確認ください。

手動で接続する

[自動接続]の設定が「しない」(出荷時の設定)のときは、次の手順で接続を行います。

接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動接続]の設定が自動で「する」に変更されますので、「自動で接続する」を参考に、必要に応じて[自動接続]の設定を「しない」に変更すると、次の手順で手動接続が行えます。

接続のしかた

1. 本製品の設定画面から、ダイヤルアップ回線に登録された接続先の「接続状況」画面を開きます。
2. 登録した接続先の欄に表示された 接続 をクリックします。
 - 前面パネルの[B1]または[B2]ランプが点灯して、[接続状況]欄(下記画面の上部)にそのときの状態が表示されます。

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	プロバイダ	接続	手動	削除

クリック

3. WWWブラウザを起動して、お好きなURLをアドレスバーに入力します。

● 通信中は、手順2.で点灯しているランプが点滅に替わります。

4. アドレスバーに入力したURLのホームページが表示されたことを確認します。

● 手順3.で点滅しているランプが点灯に替わります。

自動で接続する

次の手順で[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われますので、接続の操作は必要ありません。

接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動接続]の設定が自動で「する」に変更されますので、[自動接続]の設定を変更する必要はありません。

[自動接続]設定を「する」に変更するには
変更のしかた

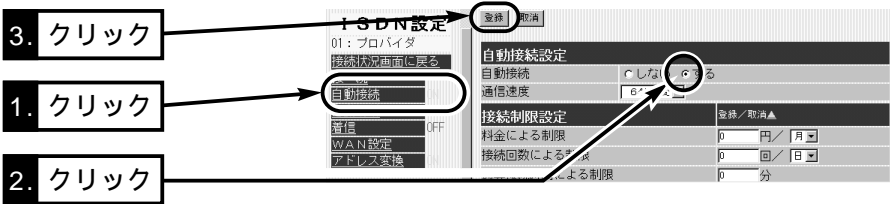
1.左フレームから、回線と接続 [接続先名]表示の順番にクリックします。



2.左フレームから、[自動接続]をクリックします。

右フレームから、[自動接続]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。

●左フレームの[自動接続]が「ON」表示に替わります。



3. 回線と接続 をクリックして、内容が変更されているのを確認します。

●設定が変更されていれば、「自動(64K可変)」を表示します。



【ご参考に】

複数の接続先を登録している場合、自動接続が有効になるのは実際に使うISDN回線への接続先だけです。
自動接続先を変更した時点で、以前の接続先への設定は手動接続になります。

7 インターネットにつなぐ

7-2 インターネット接続を終了する

本製品(ダイヤルアップルータ)は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態(フレッツISDN接続時を除く)では、タイマーの設定値(工場出荷時：150秒)にしたがって自動切断が行われます。また、[自動切断]の設定は、登録された接続先ごとに変更できます。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により、不要なダイヤル発信が行われ回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となって、多額の通信料金となってしまふおそれがありますので、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される累積情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

NTTとの契約内容によっては、実際に請求される回線使用料金とは異なる場合があります。

また、本製品は、フレッツISDN(通信料定額制)への接続設定を行った場合、自動的に[自動接続]と[自動切断]の設定を変更します。意図しない自動接続により回線が長時間接続された状態になって、ご契約のプロバイダーによっては多額の接続料金を請求されることがありますので、「通信記録」画面で、合計接続時間表示を定期的に確認することをおすすめします。なお、表示される時間情報は、あくまでも目安としてご覧ください。

接続料金については、ご契約のプロバイダーにご確認ください。

自動で切断する

[自動切断]の設定が「する」(出荷時の設定)のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が150秒(タイマ1：出荷時の状態)以上続くと、自動的に切断しますので、切断の操作は必要ありません。

接続先がフレッツISDNの場合は、接続先を登録した時点で[自動切断]の設定が自動で「しない」に変更されますので、必要に応じて次の手順を参考に[自動切断]の設定を「する」に変更してください。

[自動切断]設定を「する」に変更するには
変更のしかた

1. 左フレームから、回線と接続 [接続先名]表示の順番にクリックします。

1. クリック



2. クリック



回線接続状況					
チャネル	全切断	B 1	B1切断	B 2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

フレッツISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	プロバイダ	接続	自動(64k固定)	削除

2.左フレームから、[自動切断]をクリックします。

右フレームから、[自動切断]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。また、切断するまでの時間を変更するときは、[タイマ1]欄の設定を「0～65535」秒のあいだで変更してください。

●左フレームの[自動切断]が「ON」表示に替わります。

3. クリック

1. クリック

2. クリック

3. 表示確認



手動で切断する

[自動切断]の設定が「しない」のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの受信操作を行わない状態が続いても、切断操作が行われるまで自動的に回線を切断しません。

手動切断でご使用になるときは、「通信記録」画面で、課金情報を定期的に確認することをおすすめします。

接続先がISDNダイヤルアップの場合は、出荷時の[自動切断]が「する」に設定変更されていますので、「[自動切断]設定を「する」に変更するには」を参考に、必要に応じて[自動切断]の設定を「しない」に変更してください。

回線を切断するときは、次の手順で行います。

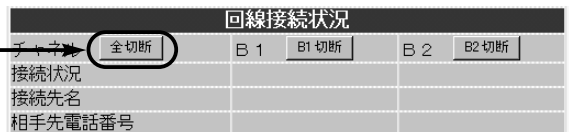
切断のしかた

1.本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線に登録された接続先の「接続状況」画面を開きます。

2.「接続状況」画面に表示された 全切断 をクリックします。

●切断されると、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが消灯します。

クリック



7 インターネットにつなぐ

7-3 ISDN回線の課金情報を見るには

ISDNダイヤルアップ接続のとき、回線への接続状況を確認する手順について説明します。

情報の見かた

1. 本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線の「接続状況」画面を開きます。
2. 左フレームから、通信記録 「ISDN累積情報」の順番にクリックします。
 - 「ISDN累積情報」画面を表示します。



課金情報を消去するときは？

「ISDN累積情報初期化」から、接続先名と消去したい項目を選んで、リセット をクリックしてください。

意図しない課金が発生する原因について

設定やシステムを変更したときは、知らないうちに自動発信を繰り返して、多額の通話料金になることがあります。

次のような場合は十分注意してください。

本機のプロバイダー接続設定を変更したとき

ルータとTA間の接続でパソコンのダイヤルアップネットワークの設定を変更したとき
MP接続に対応しないプロバイダーに対して、MP接続を設定したとき

無線LANの設定を変更したとき

ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
インストールしているソフトウェアに自動アップデートの機能が設定されているとき

メールソフトに自動送受信の機能が設定されているとき

メールソフトに新着メールを定期的にチェックするように設定しているとき

ホームページ上にバナー広告が表示されているとき

【料金合計の表示について】

料金合計は、NTTから通知される通信料金(通話料金を除く)を累積して表示しています。

NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されませんので、NTTとの契約内容によっては、実際に請求される通信料金とは異なる場合があります。

表示される通信料金合計は、あくまでも目安としてご覧ください。

アナログポート([TEL1]、[TEL2]ポート)に接続する電話機の通話料金は、「アナログ通信累積」画面(※9-9章)に表示されます。

この章では、

PC/AT互換機で無線LANを構築する際に知っておいていただきたい機能について説明します。また、そのLANを構築する際の手順についても説明しています。

無線LANの接続形態に応じて、次の箇所をお読みください。

本製品を1台で使う 「8-1 アクセスポイント機能を使う」

本製品を複数台で使う 「8-2 ローミング機能を使う」

8-1.アクセスポイント機能を使う	88
8-2.ローミング機能を使う	89

8 無線LANを構築する

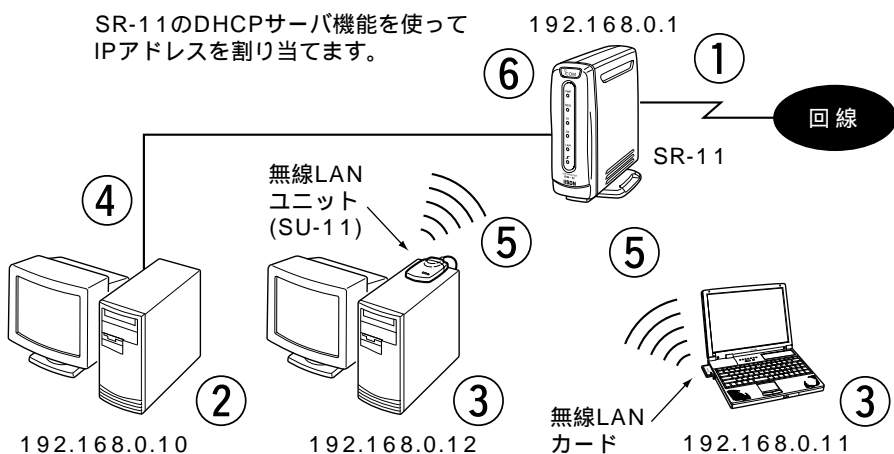
8-1 アクセスポイント機能を使う

本製品に内蔵の無線アクセスポイントを使うことによって、本製品を経由して無線LAN どちらのデータをやりとりしたり、本製品の[Ethernet]ポートと既存の有線LANをEthernetケーブルでつなぐことによって、無線LANと有線LANのデータを自由にやりとりしたり、無線端末を使って、回線に接続された本製品を中継してインターネットに接続できます。

本製品の無線LANに多くのパソコンが同時にアクセスすると、通信速度が著しく低下することがあります。

同時に使える無線端末の数は、最大64台までですが、10台以下とすることをお勧めします。

[WEP]機能を使って本製品と無線通信するには、弊社製の無線LANカードが必要です。



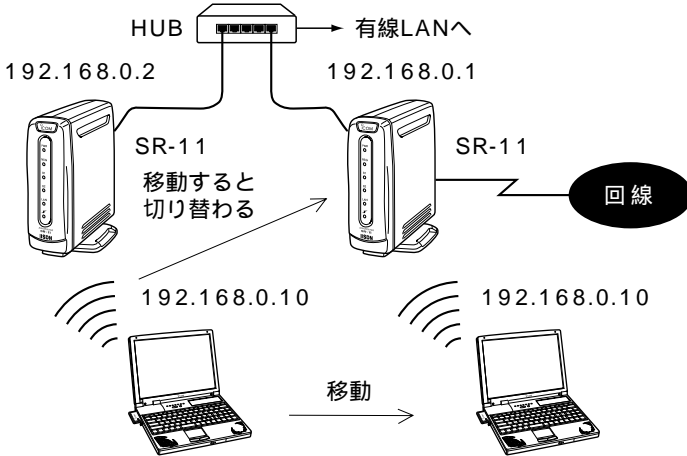
図に示す番号は、LANを構築するときの手順です。

本書の該当する部分をご覧になりながら、順番に設定をしてください。

- Step ① 2章 : 本製品と回線をつなぐ
- Step ② 3-1章 : パソコンをEthernetでつなぐには
- Step ③ 3-2章 : パソコンを無線LANでつなぐには
- Step ④ 4-1章 : 新規にLANを構築する(Ethernetを使ってつなぐ)
- Step ⑤ 4-1章 : 新規にLANを構築する(無線LANを使ってつなぐ)
- Step ⑥ 5章 : 簡単設定ソフトで設定する
6-4章 : 無線LANを設定する

8-2 ローミング機能を使う

本製品を2台以上用意して、それぞれを有線LANに接続することにより、無線端末を移動させても、自動的に電波の状況のよいアクセスポイント(本製品)に切り替えることによって、無線伝送エリアが広がり、工場や倉庫のように広い場所で移動しながら無線LANが利用できるようになります。



設定時の注意

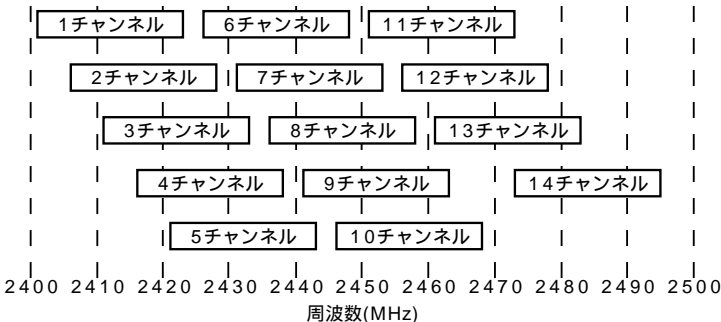
IPアドレスの重複を回避するため、回線と接続された本製品以外のルータは、DHCPサーバ機能を無効にしてください。

ローミングエリア内で通信を行うすべての無線端末は、[ESS ID]、[WEP]の設定をすべて同じにしてください。設定が異なると通信できません。

電波干渉を避けるため、「チャンネル」を変更するときは、相手側の無線アクセスポイントのチャンネルから4つ以上飛ばして設定してください。

それ以下のときは、図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。

例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。



この章では、

ISDN回線で[TEL]ポートに接続するアナログ機器を使うときに、設定すると便利な機能について説明します。ほかにも機能を設定して使いたいときは、取扱説明書[応用編]も併せてご覧ください。

本製品に電話機をつないで使うときの基本的な方法については、「2 本製品と回線をつなぐ」をご覧ください。

9-1.発信を始めるまでの待ち時間を変更するには	92
9-2.INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには	93
9-3.発信者番号通知の設定を変更するには	94
9-4.外線着信時の呼び出し音を変更するには	95
9-5.内線通話をするには	96
9-6.内線転送をするには	97
もう一方の相手と内線通話してから転送する	98
もう一方の相手と内線通話しないで転送する	98
9-7.電話機の音量を調節するには	99
自分の受話器の音量を調節する	99
相手の受話器の音量を調節する	99
9-8.短縮ダイヤルを登録するには	100
短縮ダイヤルで電話する	100
9-9.アナログ機器の課金情報を見るには	101

9 アナログ機能を設定する

9-1 発信を始めるまでの待ち時間を変更するには

ISDN回線は、通常ダイヤルしてから発信するまでに時間がかかります。出荷時の状態では、ダイヤルした電話番号に発信するまでの待ち時間は、5秒に設定されています。必要に応じて、この時間を0～99秒のあいだで変更することができます。また、ポートごとに違う時間を設定できます。

【ダイヤル後、直ちに発信するには】

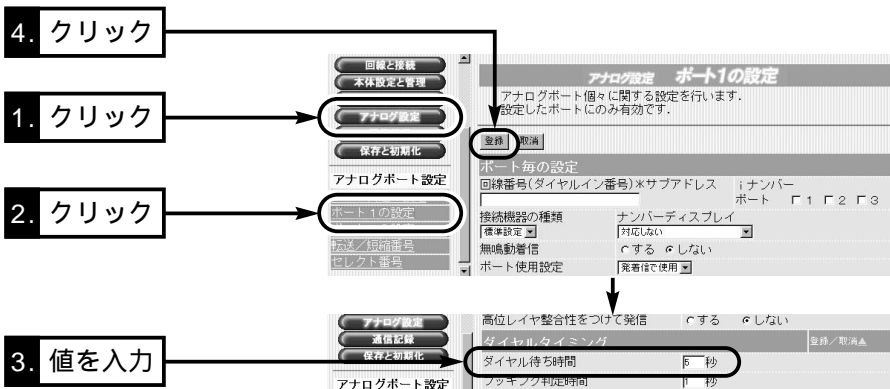
本製品は、設定された待ち時間に関係なくダイヤルしたらすぐに発信を開始する機能があります。

ダイヤルしてすぐに発信したいときは、電話番号の末尾(サブアドレスがあるときはその末尾)に続けて「#」を押してください。

変更のしかた

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

1. 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
2. 「ダイヤルタイミング」-[ダイヤル待ち時間]項目に0～99秒のあいだで入力します。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



【△注意】

LCR(最低料金自動選択)機能搭載の電話機をお使いの場合は、ダイヤル待ち時間を出荷時の設定値より短くすると、回線を自動選択できなくなり電話をかけられないことがあります。

9-2 INSナンバーディスプレイ対応電話機を使うには

「INSナンバーディスプレイ」は、NTTが有料で提供する基本サービスです。ただし、相手がISDN回線、携帯電話およびPHSから電話をかけてくる場合は、契約しなくても利用できます。また、「キャッチホンナンバーディスプレイ」は、「ナンバーディスプレイ」のオプション機能です。出荷時の状態では、「対応しない」に設定されています。ポートごとに違う条件を設定できます。

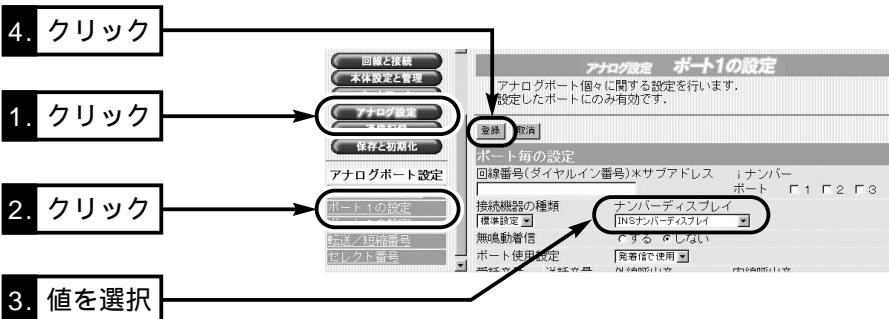
本製品にINSナンバーディスプレイ対応の電話機(またはアダプタ)を接続すると、電話機(アダプタ)のディスプレイに、相手の電話番号(代表電話番号)などが表示されます。また、キャッチホンナンバーディスプレイ対応の電話機を接続すると、通話中に別の相手から着信があった場合、電話をかけてきた相手の電話番号(代表電話番号)などが電話機のディスプレイに表示されます。詳しくは、取扱説明書[応用編]も併せてご覧ください。

電話機のディスプレイに表示される内容について詳しくは、ご使用の電話機に付属する取扱説明書でご確認ください。

変更のしかた

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

1. 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
2. 「ポート毎の設定」-[ナンバーディスプレイ]項目から該当する値を選択します。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



9 アナログ機能を設定する

9-3 発信者番号通知の設定を変更するには

「発信者番号通知」は、NTTが提供(無料)する基本サービスです。

発信するときに、発信者番号(契約者回線番号、ダイヤルイン番号)を通知するかどうかをNTTの契約とは関係なく、本製品の設定だけで選ぶことができます。また、ポートごとに違う条件を設定できます。

出荷時の状態では、発信者番号を通知する設定がされています。

NTT回線 契約	発信者番号通知「する」の設定		発信者番号通知「しない」の設定	
	電話番号	184 + 電話番号	186 + 電話番号	電話番号
通常通知	通知する	通知しない	通知する	通知しない
通常非通知	通知する	通知しない	通知する	通知しない

変更のしかた

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

- 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
- 「送信機能」-「発信者番号通知」項目で、「する」または「しない」のラジオボタンをクリックします。
- 登録 をクリックすると、設定が有効になります。

The image shows a screenshot of the 'Analog Port Settings' menu. On the left, a vertical list of menu items is shown. Four callout boxes with arrows point to specific items: '4. クリック' points to '登録' (Register), '1. クリック' points to 'アナログ設定' (Analog Settings), '2. クリック' points to 'ポート1の設定' (Port 1 Settings), and '3. 値を選択' points to the '発信者番号通知' (Caller ID) option in the '送信機能' (Transmission Function) section. The '発信者番号通知' option has radio buttons for 'する' (Do) and 'しない' (Do not).

9-4 外線着信時の呼び出し音を変更するには

呼び出し音を変更することで、かかってきた電話の呼び出し音で、誰宛の電話かがわかります。ポート1、ポート2の電話機に外線着信したとき、呼び出し音のタイミングを、ポートごとに違うタイミングで設定できます。出荷時の状態では、「呼出音1」(電話機の通常音)が設定されています。

【次のような標準音を変更した場合の例：】

呼出音1：「トゥルルルル...、トゥルルルル...」(電話機の通常音)

呼出音2：「トゥル、トゥル」

呼出音3：「トゥルル、トゥルル」

変更のしかた

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

1. 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
2. 「ポート毎の設定」-「外線呼出音」項目から該当する値を選択します。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



【△注意】
 ご使用になる電話機によっては、設定を変更しても呼び出し音が変わらないことがあります。FAXやモデムをつないでいる場合、呼び出し音を変更すると着信できなくなることがあります。そのような場合は、「呼出音1」(出荷時の設定)に設定してください。

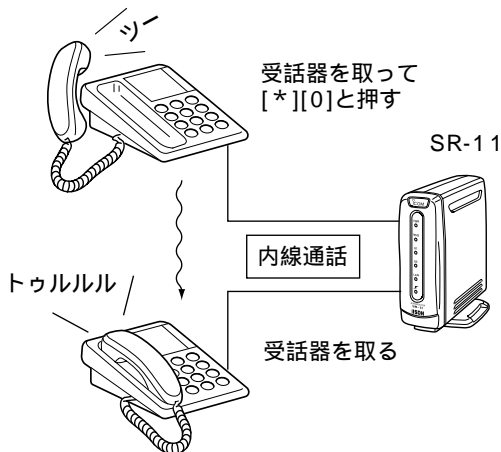
9 アナログ機能を設定する

9-5 内線通話をするには

ISDN回線で、[TEL1]ポートと[TEL2]ポートに接続する電話機どうして内線通話が行えます。

操作のしかた

- 1.[TEL1]ポートまたは[TEL2]ポートに接続された電話機を受話器を取ります。
 - 受話器を取った電話機から発信音(プー)が聞こえます。
- 2.電話機のボタンを[*][0]の順番に押します。
 - 受話器から呼び出し音(トゥルルル...)が聞こえます。
- 3.内線先の相手が出たら、話をします。
 - 内線の相手が使用しているときは、受話器から話し中音(プープー...)が聞こえます。



【内線通話できないときは】

- 専用線やOCNエコノミーで使用していませんか？
- ポート1またはポート2の[ポート使用設定]を「使用しない」に設定していませんか？
- 「ポート共通の設定」画面－「内線通話」の[内線通話の使用設定]を「内線を使用しない」に設定していませんか？
- 疑似コールウェイティング、コールウェイティング中ではありませんか？

【内線通話中に使えないアナログ機能】

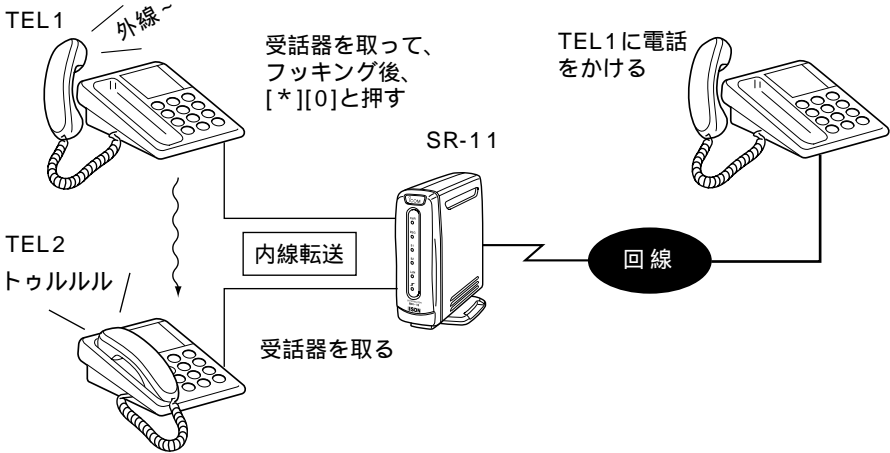
- 疑似着信転送
- コールウェイティング

9-6 内線転送をするには

通話中の外線電話を、本製品のもう一方のポートにつないだ電話機に内線転送できます。転送のしかたには、次の2通りがあります。

もう一方の相手と内線通話してから転送する

もう一方の相手と内線通話しないで転送する



操作のしかたは、次ページをご覧ください。

【フッキングとは】

受話器取ったままで、電話機のフックを短く押すと、通話を保留できます。これを「フッキング」といいます。

フックを長く(出荷時：1秒以上)押すと通話が切れてしまいます。フックを押してから電話が切れるまでの時間を、「ポート1の設定」および「ポート2の設定」画面-「ダイヤルタイミング」の[フッキング判定時間]で変えられます。

電話機にフックボタン、キャッチボタンがある場合は、このボタンを使っても通話を保留できます。



【内線転送できないときは】

- ポート1またはポート2の[ポート使用設定]を「使用しない」に設定していませんか？
- 「ポート共通の設定」画面-「内線通話」の[内線通話の使用設定]を「内線を使用しない」または「内線のみを使用する」に設定していませんか？
- 疑似三者通話、三者通話中ではありませんか？

【内線転送中に使えないアナログ機能】

- コールウェイティング
- 疑似コールウェイティング
- 疑似三者通話
- 三者通話
- 疑似着信転送
- 着信転送

9 アナログ機能を設定する

9-6 内線転送するには(つづき)

もう一方の相手と内線通話してから転送する

操作のしかた

前ページの図を例に説明します。

- 1.[TEL1]にかかってきた電話を取ります。
 - 外線電話の相手からの声が聞こえます。
- 2.[TEL1]の電話機のフックを1回だけ短く押(フッキング)します。
 - 受話器から「プ・プ…」と第2発信音が聞こえて、外線電話の相手が保留されます。
- 3.[TEL1]の電話機のボタンを[*][0]の順番に押します。
 - 受話器から呼び出し音(トゥルルル…)が聞こえて、[TEL2]の電話機の呼び出し音が鳴ります。
- 4.[TEL2]の電話機の相手が電話に出たら、外線電話を転送することを話して、[TEL1]の受話器を置きます。
 - 外線電話の相手からの声が、[TEL2]の受話器から聞こえます。

【ご参考に】

[TEL2]の電話機の相手が電話に出る前に、[TEL1]の電話機のフックをもう一度フッキングすると、内線転送が中止され、再度[TEL1]の電話機で外線電話の相手と話せます。また、[TEL2]の電話機の相手が通話中で転送できないときも同じように操作してください。

もう一方の相手と内線通話しないで転送する

操作のしかた

前ページの図を例に説明します。

- 1.[TEL1]にかかってきた電話を取ります。
 - 外線電話の相手からの声が聞こえます。
- 2.[TEL1]の電話機のフックを1回だけ短く押(フッキング)します。
 - 受話器から「プ・プ…」と第2発信音が聞こえて、外線電話の相手が保留されます。
- 3.[TEL1]の電話機のボタンを[*][0]の順番に押します。
 - 受話器から呼び出し音(トゥルルル…)が聞こえて、[TEL2]の電話機の呼び出し音が鳴ります。
- 4.[TEL1]の受話器を置きます。
- 5.[TEL2]の受話器を取ります。
 - 外線電話の相手からの声が聞こえます。

9-7 電話機の音量を調節するには

自分側の受話器の音量と、相手の受話器に聞こえる音量を調節できます。

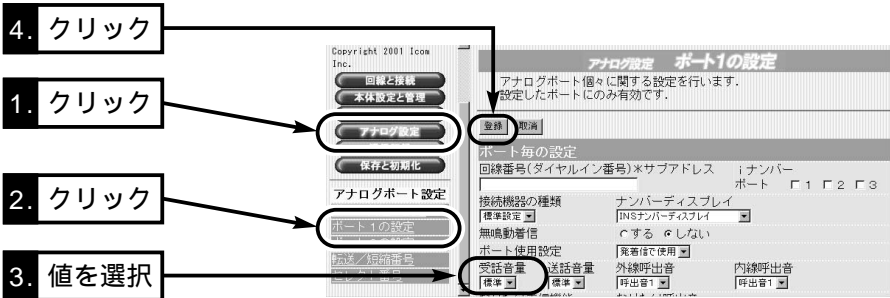
ポートごとに違う音量を設定できます。出荷時の状態では、「標準」(電話機の通常音)が設定されています。

自分の受話器の音量を調節する

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

調節のしかた

1. 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
2. 「ポート毎の設定」-[受話音量]項目から該当する値を選択します。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



相手の受話器の音量を調節する

電話機を[TEL1]ポートにつないだ場合を例に変更の手順を説明します。

調節のしかた

1. 設定画面から アナログ設定 「ポート1の設定」の順番にクリックします。
 - 「ポート1の設定」画面を表示します。
2. 「ポート毎の設定」-[送話音量]項目から該当する値を選択します。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



9 アナログ機能を設定する

9-8 短縮ダイヤルを登録するには

本製品の短縮ダイヤル機能を使うと、よくかける相手先の契約(代表)電話番号を単独で、またはサブアドレスと組み合わせて登録しておくことで、本製品の[TEL]ポートに接続された電話機から、簡単な操作で電話をかけられます。

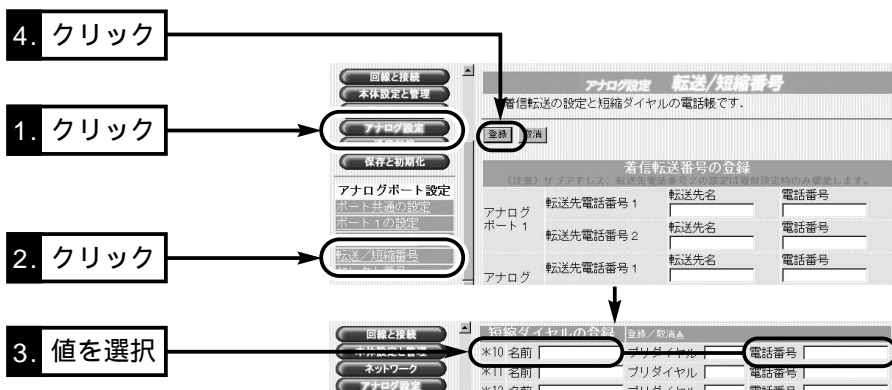
登録件数は、最大で20(*10~*29)件までです。

電話機側に短縮ダイヤル機能がある場合でも、使い分けができます。

登録のしかた

名前と電話番号を「*10」の欄に登録する例を説明します。

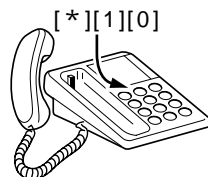
1. 設定画面から アナログ設定 「転送/短縮番号」の順番にクリックします。
 - 「転送/短縮ダイヤルの設定」画面を表示します。
2. 「短縮ダイヤルの登録」-[*10]項目の[名前]欄と[電話番号]欄に相手側の情報を入れます。
3. 登録 をクリックすると、設定が有効になります。



短縮ダイヤルで電話する

登録した電話番号の短縮番号(例：10)を使って電話をかけるときの操作を説明します。

1. 電話機の受話器を上げて、発信音(ブー)を確認します。
2. 電話機のボタンを[*][1][0]の順番に押します。
 - 相手先に発信を開始します。



【ご参考に】

短縮ダイヤルによる発信は、「発信を始めるまでの待ち時間を変更するには」(☞9-1章)の設定に関係なく直ちに行われます。

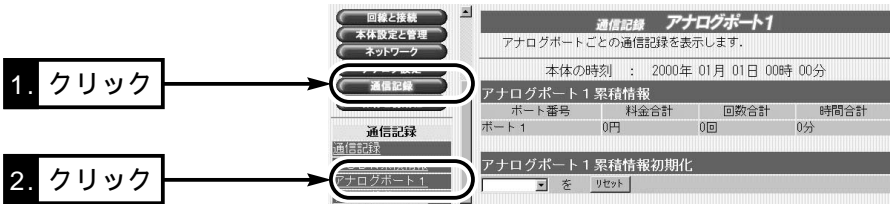
9-9 アナログ機器の課金情報を見るには

本製品に接続されたアナログ機器について、通話時間や料金の累積情報を表示させる手順について説明します。

情報の見かた

アナログ通信機器を[TEL1]ポートに接続しているとして、説明します。

- 1.本製品の設定画面から、ISDNダイヤルアップ回線の「接続状況」画面を開きます。
- 2.左フレームから、通信記録 「アナログポート1」の順番にクリックします。
 - 「アナログポート1」画面を表示します。



課金情報を消去するときは？

「アナログポート1累積情報初期化」から、消去したい項目を選んで、 **リセット** をクリックしてください。

【料金合計の表示について】

料金合計は、NTTから通知される通話料金(通信料金を除く)を累積して表示しています。
 NTTの割引サービスやNTT以外の回線業者の料金は反映されませんので、NTTとの契約内容によっては、実際に請求される通信料金とは異なる場合があります。
 表示される通信料金合計は、あくまでも目安としてご覧ください。
 インターネットを利用したときなどの通信料金は、「ISDN累積情報」画面(☞7-3章)に表示されます。

この章では、

本製品の設定画面への接続制限、設定内容保存、設定内容初期化、ファームウェアの更新を行う手順について説明しています。必要なときにお読みください。

10-1.付属のCD-ROMについて	104
Auto Run機能について	104
対応OSについて	104
内容について.....	104
10-2.ソフトウェアのインストール	105
10-3.ソフトウェアのアンインストール	107
10-4.設定画面へのアクセスを制限するには	108
10-5.設定内容の確認または保存	109
10-6.保存された設定の書き込み	110
10-7.設定を出荷時の状態に戻す	111
A ディップスイッチを使う	111
B 設定画面を使う	113
C Utilityを使う	114
10-8.本製品をバージョンアップする	115
ファームウェアについて.....	115
10-9.故障のときは	118

10 保守について

10-1 付属のCD-ROMについて

本製品のCD-ROMは、PC/AT互換機でご使用になれます。

本製品のCD-ROMの内容とその概要やインストールについて説明しています。

Auto Run機能について

本製品のCD-ROMは、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入すると、自動的にソフトウェアを準備するためのメニュー画面を表示するようになっています。

対応OSについて

本製品のCD-ROMに収められたソフトウェアは、以下のOSでご使用ください。

Windows98、Windows98SE、Windows2000、WindowsMe

PDF形式の取扱説明書[応用編]は、Macintoshでもご利用になれます。

内容について

- 取扱説明書[応用編](PDF形式)
本製品の設定項目や各回線の応用設定例についての説明書です。
- USBを使うかたへ(PDF形式)
本製品のUSBドライバーのインストールのしかたや[USB]ポートからパソコンで行える操作やATコマンドによる設定方法について説明しています。
- Acrobat Reader(Windows用)
CD-ROMに収められたPDF形式のファイルを開覧するためのソフトウェアです。(インストーラーに表示される画面にしたがってインストールしてください。)
- 簡単設定ソフト(Windows用)
WWWブラウザを使わないで、「ISDNダイヤルアップ接続」と「フレッツISDN」の設定がウィザード形式で行えるソフトウェアです。
- QuickConnect(クイックコネクト - Windows用)
回線の接続および切断、接続先の追加および編集をWindowsのタスクバーに表示されたアイコンから行えます。
簡単設定ソフトやWWWブラウザで設定した内容の編集が行えます。
- IP Name(Windows用)
本製品の簡易DNSサーバ機能を使う際、ホスト名からIPアドレスを検索したり、その逆引きができるソフトです。
- SR-11 Utility(Windows用)
本製品のバージョンアップや全設定内容の初期化を行うソフトです。
- Telnetコマンドガイド(PDF形式)
Telnetを使って本製品の設定を行うためのコマンドリファレンスです。

10-2 ソフトウェアのインストール

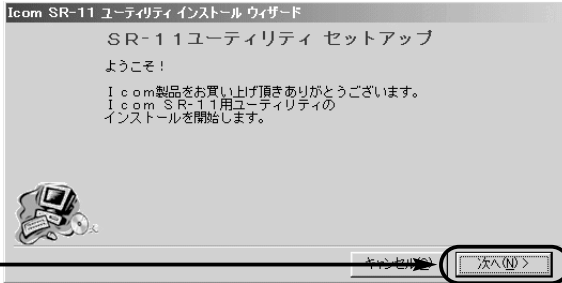
本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのインストールのしかたについて説明します。

手順にしたがって操作すると、次の4つのソフトウェアが一度にインストールされます。

- 簡単設定ソフト
- QuickConnect
- IP Name
- SR-11 Utility

【インストールの手順】

1. 起動しているアプリケーションをすべて終了します。
2. 本製品のCD-ROMを、ご使用のPC/AT互換機のCD-ROMドライブに挿入します。
 - CD-ROMドライブのAuto Run機能が動作して、メニュー画面を表示します。
3. ユーティリティ インストール をクリックします。
4. 次へ(N) をクリックします。



5. このユーティリティのインストール先のフォルダーを指定して、次へ(N) をクリックします。

表示されているインストール先を変更したいときだけ、参照 をクリックして変更先のフォルダーを指定します。



【Auto Run機能が動作しないときは？】

OSのエクスプローラーを使って、[CD-ROMドライブ]アイコンの中に収められた「AutoRun.exe」をダブルクリックすると、上記のメニュー画面を表示します。

10 保守について

10-2 ソフトウェアのインストール

【インストールの手順】(つづき)

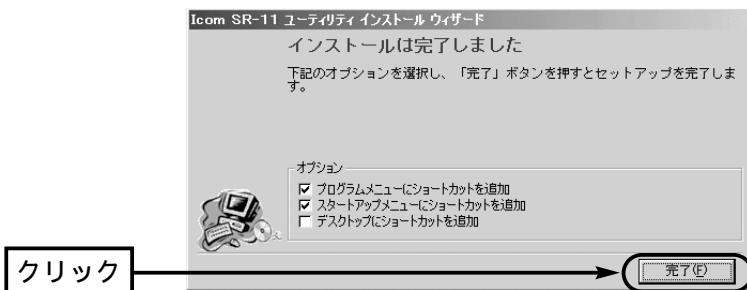
6. OK をクリックします。



7. インストール(I) をクリックします。



8. 完了(E) をクリックして、インストールが完了です。



10-3 ソフトウェアのアンインストール

本製品のCD-ROMに収められているソフトウェアのアンインストールのしかたについて、Windows98を例に説明します。

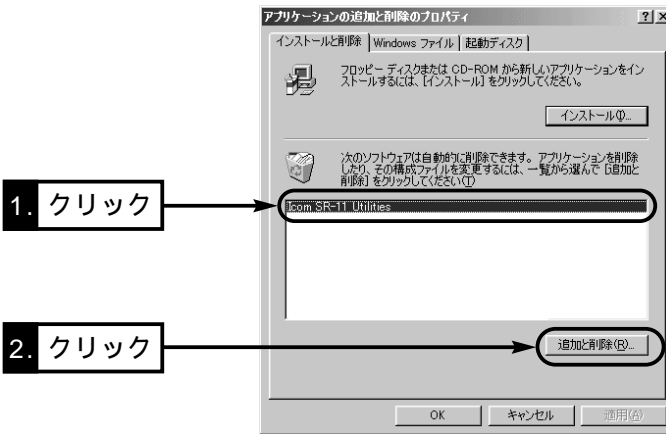
そのほかのOSをご使用の場合は、この手順を参考に、そのOSでアンインストールするときの手順に従ってください。

手順にしたがって操作すると、次の4つのソフトウェアが一度にアンインストールされます。

- 簡単設定ソフト
- QuickConnect
- IP Name
- SR-11 Utility

【アンインストールの手順】

1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)] [アプリケーションの追加と削除]の順番に操作します。
2. 「Icom SR-11 Utilities」 追加と削除(R)... の順番にクリックします。



3. アンインストール(U) をクリックして、そのあと表示する画面に従います。

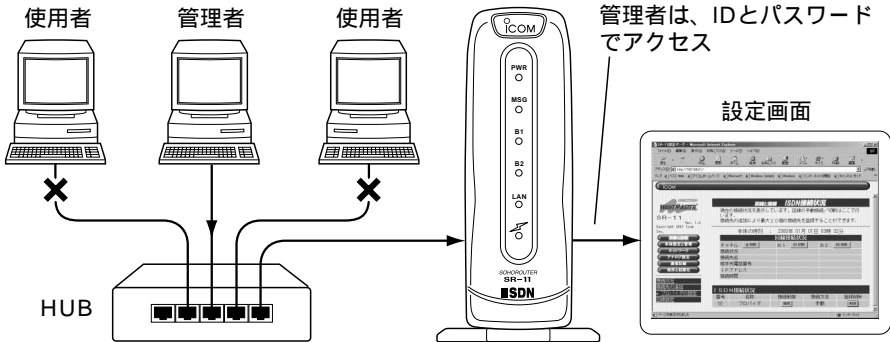


10 保守について

10-4 設定画面へのアクセスを制限するには

管理者用の[管理者ID]と[管理者パスワード]を設定することで、管理者以外がWWWブラウザで本製品の設定画面を呼び出せないようにします。

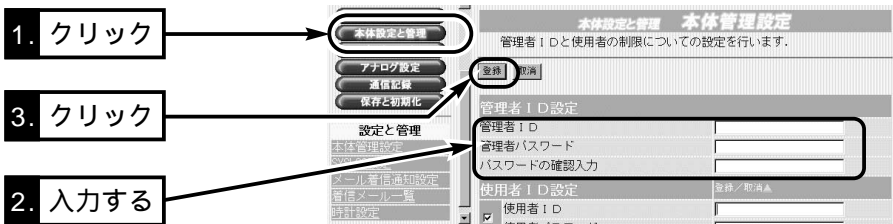
[管理者ID]と[管理者パスワード]が設定されていると、アクセスのとき[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]の入力を求める画面が表示されるようになります。



設定のしかた

管理者は、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力してください。

1. 設定画面から **本体設定と管理** をクリックします。
 - 「本体管理設定」画面を表示します。
2. 管理者IDを「管理者ID設定」-[管理者ID]項目に入力します。
3. 管理者パスワードを「管理者ID設定」-[管理者パスワード]項目に入力して、もう一度、管理者パスワードを[パスワードの確認]項目に入力します。
4. **登録** をクリックすると、「ネットワークパスワードの入力」画面を表示しますので、ここで設定した[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力します。



10-5 設定内容の確認または保存

「設定保存」画面では、本製品の各設定画面ごとに設定されている内容を、まとめて確認したり、ハイパーテキスト(HTML)形式のファイルに保存できます。

設定を保存しておく、何か不用意な事故によって設定内容が失われたときに利用できます。

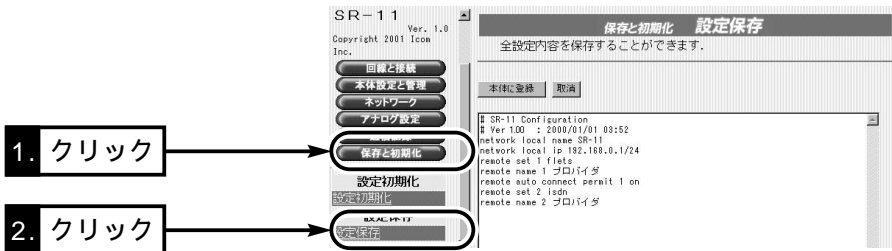
確認と保存のしかた

1.設定画面から 保存と初期化 「設定保存」の順番にクリックします。

- 「設定保存」画面を表示します。(表示まで、時間がかかることがあります。)

2.設定されている内容の一覧が表示されます。

テキストボックス内の内容は、直接削ったり書き替えたりしないでください。



3.「設定保存」画面が表示された状態で、WWWブラウザの「ファイル(F)」メニューから、[名前を付けて保存(A)]をクリックします。



4.[保存する場所(I)]を指定して、任意の名前を[ファイル名(N)]ボックスに入力します。

「Netscape Navigator」の場合、拡張子を[.htm]が[.html]に変更してください。

5.[ファイルの種類(I)]は、「Web ページ、完全(*.htm,*.html)」を選択します。

(Internet Explorer)

保存ファイルの漢字コードを選択できる場合は、JISを選択して保存してください。

6. 保存(S) をクリックします。

- 指定した場所に設定内容が設定ファイルとして保存されます。

「設定保存」画面でのパスワード表示

「設定保存」画面内に表示される、相手先パスワード、着信パスワード、管理者パスワード、キージェネレータ(暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化して表示しますので、保存した設定ファイルよりパスワードが外部に漏れることはありません。

10 保守について

10-6 保存された設定の書き込み

設定内容が保存された設定ファイルの本製品の設定画面に書き込む手順を説明します。

書き込みのしかた

1. 本製品に接続したパソコンから、保存された「htm」の拡張子がついた設定ファイルの上にカーソルを移動して、ダブルクリックします。

- 「設定保存」画面を表示します。

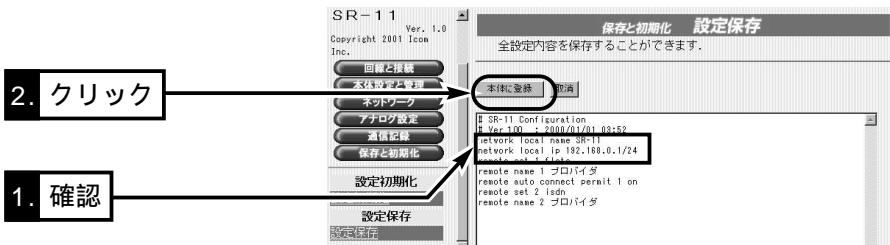
2. テキストボックス内で、本製品のIPアドレスを確認します。

表示されているIPアドレスが、設定されている本製品のIPアドレスと異なるときは、設定ファイル内の本製品のIPアドレスを、現在設定されている本製品のIPアドレスに変更してください。なお、それ以外の項目は変更しないでください。

3. 本体に登録 をクリックします。



SR-11 設定
ページ.htm



4. 本体に登録 をクリックすると、設定ファイルの内容が本製品に書き込まれたあと、「再起動しています。しばらくおまちください。」と表示されます。

【△注意】

本製品で作成した設定ファイルを同じ機種どうしや本製品以外の機種に書き込まないでください。

10-7 設定を出荷時の状態に戻す

ネットワーク構成を変更するときなど、本製品の設定をはじめからやりなおしたり、既存の設定データをすべて消去したいなど、そのときの状況に応じて次の3とおりの方法で設定内容を出荷時の状態に戻す(初期化する)ことができます。

- ▶ A ディップスイッチを使う
- ▶ B 設定画面を使う(☞P113)
- ▶ C Utilityを使う(☞P114)

Utilityで出荷時の状態に戻すには、付属のCD-ROMからUtilityをインストールする必要があります。

インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

▶ A ディップスイッチを使う

この方法で初期化を実行すると、すべての設定項目が出荷時の状態になります。

本製品に設定されたIPアドレスが不明なときなど、本製品の設定画面が呼び出せないときに、次の手順で初期化が行えます。

初期化のしかた

- 1.本製品につないだDCコネクタを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の電池ボックス内にある4番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクタを本製品につないで、電源を入れます。

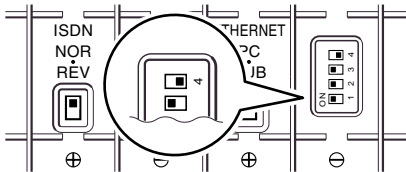
- 「設定初期化モード」に移行して動作を開始します。

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(☞1-4章)を押してください。

- 5.パソコンを本製品に接続して、OSを起動します。

本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからは初期化できません。

- 6.「WWWブラウザ」を起動して、本製品の出荷時のIPアドレス(192.168.0.1)を指定します。(無線での接続は、ESS IDの設定を「LG(出荷時の設定)」にしてください。)



【初期化用ディップスイッチ(4番)の機能】

「OFF」に切り替えると、「設定初期化モード」に移行して、実際に初期化操作(上記手順7.以降の操作)が行われるまで、一時的に本製品のIPアドレスやESS IDを出荷時の設定に置き換えます。初期化操作をしないで、スイッチを戻すと、元の状態に戻ります。

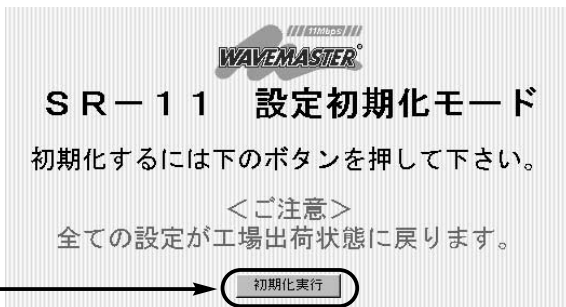
10 保守について

10-7 設定を出荷時の状態に戻す

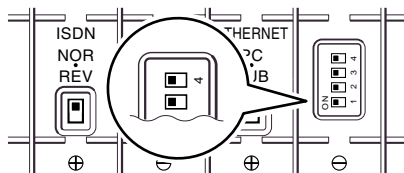
A ディップスイッチを使う

初期化のしかた (つづき)

7.[設定初期化モード]画面が表示されたら、初期化実行 をクリックします。

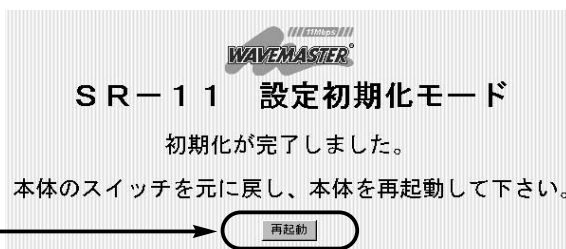


8.本製品の電源が入った状態で、本製品の電池ボックス内にある4番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻します。



9. 再起動 をクリックします。

- [回線設定]画面を表示します。



10.[回線設定]画面で、「回線種別」設定から設定を始めます。

10-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

B 設定画面を使う

本製品の設定画面を使って初期化を実行すると、アナログ部または無線部、全設定というように範囲を選んで初期化できます。

本製品に設定されたIPアドレスがわかっていて、そのIPアドレスで設定画面にアクセスできるときは、次の手順で初期化が行えます。

初期化のしかた

1. WWWブラウザから本製品のIPアドレスを指定して、設定画面を呼び出します。
2. 保存と初期化 をクリックします。
 - [設定初期化]画面を表示します。
3. 初期化したい条件に該当するラジオボタンをクリックします。
4. 初期化実行 をクリックします。
 - 選択した条件に該当する内容を出荷時の状態に戻して、[回線設定]または[接続状況]画面(図6-2)に戻ります。



初期化範囲について

- | | |
|-----------------|--|
| 全設定初期化 | 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の設定に戻します。 |
| アナログ設定初期化 | アナログ設定メニューで設定できる項目だけを出荷時の状態に戻します。 |
| 無線部初期化 | ネットワークメニュー内の「無線LAN設定」内の項目を出荷時の状態に戻します。 |

10 保守について

10-7 設定を出荷時の状態に戻す(つづき)

☑ Utilityを使う

Utilityは、本製品のCD-ROMに収められています。

ここでは、Utilityを使って初期化する手順について説明しています。

インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

Utilityを使う前に

Utilityを使って本製品の設定を出荷時の状態に戻すには、「Utility使用モード」に切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って初期化できません。

切り替えかた

- 1.本製品につないだDCコネクターを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。

- 「Utility使用モード」に移行して動作を開始します。

「Utility使用モード」で動作中は、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが交互に点滅を繰り返します。(交互に点滅を繰り返すまでしばらくおまちください。)

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(☞1-4章)を押してください。

初期化のしかた

- 1.本製品が「Utility使用モード」で動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に接続して、OSを起動します。

本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからは初期化できません。

- 2.「SR-11 Utility」を起動します。

マウスを スタート [プログラム(P)] [SR-11 Utilities] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。

- Utilityの操作画面を表示します。

(次ページの画面参照)

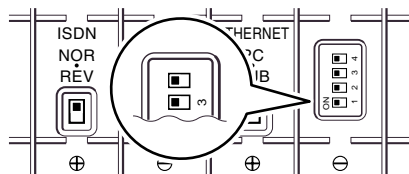
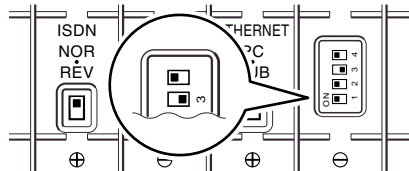
- 3.[ユーザーデータの初期化]のラジオボタンをクリックします。

[SR-11のIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。

実行 をクリックします。

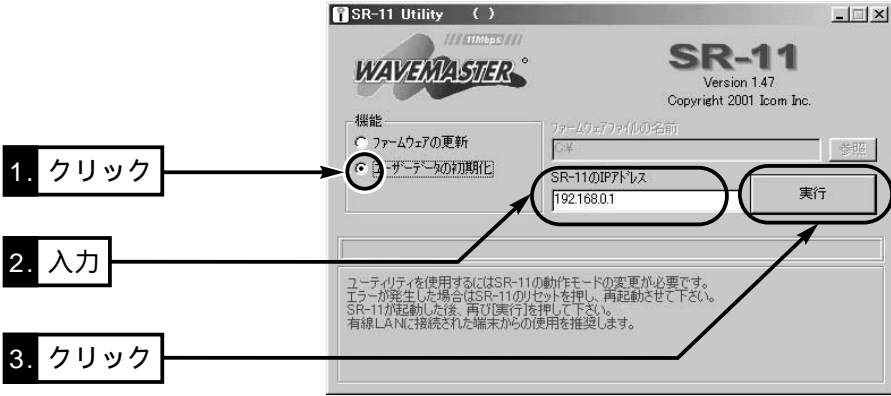
(次ページの画面参照)

- 4.「ユーザーデータの初期化が完了しました」というメッセージが「SR-11 Utility」の画面に表示されたら、本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、本製品の電源を入れなおすと完了です。



㊦ Utilityを使う

初期化のしかた (手順3.の操作)



【△注意】
 Utility実行中は、Utilityを終了したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
 途中で作業を中断すると、データの消失や誤動作の原因になりますのでご注意ください。
 画面に「.....が完了しました」と表示されるまでお待ちください。

10-8 本製品をバージョンアップする

付属のCD-ROMに収められているUtilityを使用します。
 ここでは、Utilityを使ってバージョンアップ(ファームウェアを更新)する手順について説明しています。インストールのしかたについては、「ソフトウェアのインストール」(☞10-2)をご覧ください。

ファームウェアについて

ファームウェアは、本製品を動作させるために、出荷時から本製品のフラッシュメモリーに書き込まれているプログラムです。
 このプログラムは、機能の拡張や改良のため、バージョンアップを行うことがあります。バージョンアップの作業を行う前に、本製品の設定画面にアクセスして、次のフレーム内に表示するバージョン情報を確認してください。
 バージョンアップをすると、機能の追加など、本製品を最良の状態に保つことができます。



10 保守について

10-8 本製品をバージョンアップする

ファームウェアについて(つづき)

Utilityを使う前に

SR-11 Utilityを使って本製品のファームウェアを更新するには、「Utility使用モード」に切り替えてください。切り替えないときは、Utilityを使って更新できません。

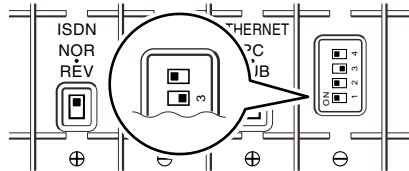
切り替えかた

- 1.本製品につないだDCコネクターを外して、電源を切ります。
- 2.本製品に接続されたすべてのネットワーク機器を外します。
- 3.本製品の電池ボックス内にある3番のディスプレイスイッチを「OFF」に切り替えます。
- 4.DCコネクターを本製品につないで、電源を入れます。

- 「Utility使用モード」に移行して動作を開始します。

「Utility使用モード」で動作中は、前面パネルの[B1]と[B2]ランプが交互に点滅を繰り返します。

移行しないときは、本製品の電源を入れなおすか RESET ボタン(☞1-4章)を押してください。



更新操作についてのご注意

ファームウェア転送時のエラー防止のため、Utilityがインストールされたパソコン(有線または無線で本製品に接続できること)を本製品と1対1で接続してください。

本製品とパソコンをEthernetで接続できる環境がある場合は、できるだけEthernetで接続することをおすすめします。

- パソコンを無線で接続する場合

Ethernetケーブルを本製品に接続しているときは、取り外してください。

本製品との無線通信距離は、1m以内にしてください。

記載する操作の結果については、自己責任の範囲となりますので、次のことを守って作業を始めてください。

本製品のCD-ROM(Acrobat Readerを除く)は、本機専用ですので、本機以外の製品で使用しないでください。

本製品の設定ファイルや弊社ホームページより提供されるファームウェアアップデート用データファイルを、本製品以外の機器に組み込んだり、変更や分解したことによる障害、および本製品の故障、誤動作、不具合、破損、データの消失あるいは停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

10-8 本製品をバージョンアップする(つづき)

バージョンアップのしかた

1.本製品が「Utility使用モード」で動作していることを確認したら、1台のパソコンを本製品に接続して、OSを起動します。

本製品の[USB]ポートに接続するパソコンからはバージョンアップできません。

2.「SR-11 Utility」を起動します。

マウスを スタート [プログラム(P)] [SR-11 Utilities] [ファーム更新ユーティリティ]の順番に操作します。

●Utilityの操作画面を表示します。

(画面参照)

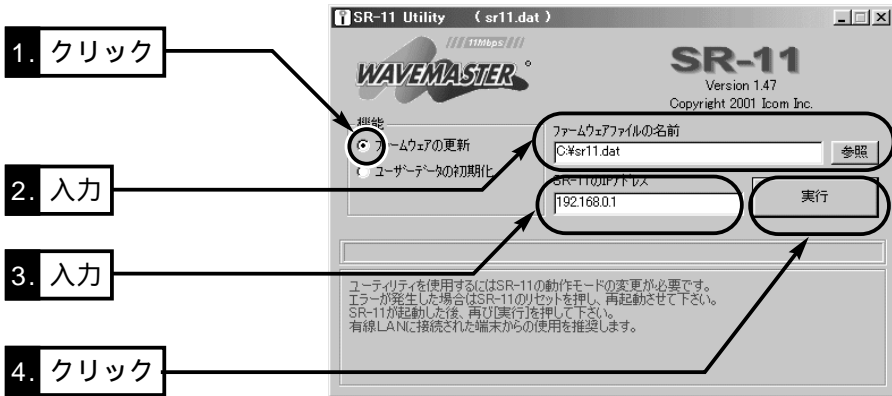
3.[ファームウェアの更新]のラジオボタンをクリックします。

ダウンロードした本製品の新しい設定ファイル(拡張子: dat)へのリンク先を[ファームウェアファイルの名前]のテキストボックスに直接入力するか、参照 をクリックして選択します。

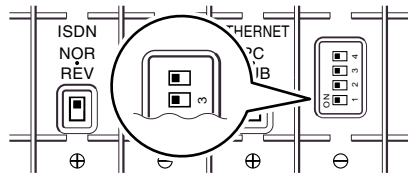
[SR-11のIPアドレス]のテキストボックスに本製品のIPアドレスを指定します。

実行 をクリックします。

(画面参照)



4.「ファームウェアの更新が完了しました」というメッセージが「SR-11 Utility」の画面に表示されたら、本製品の電池ボックス内にある3番のディップスイッチを「ON」(出荷時の設定)に戻して、電源を入れなおすと完了です。



【更新にかかる時間について】

ファームウェアのデータファイルを本製品に転送して再起動にかかるまでの時間の目安です。

- 転送 = 30～60秒
- 再起動 = 30秒

10 保守について

10-9 故障のときは

- 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたします
ので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- 修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品とパソコンの設定などを調べていただき、
それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させ
ていただきます。

- アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にお問い合わせください。

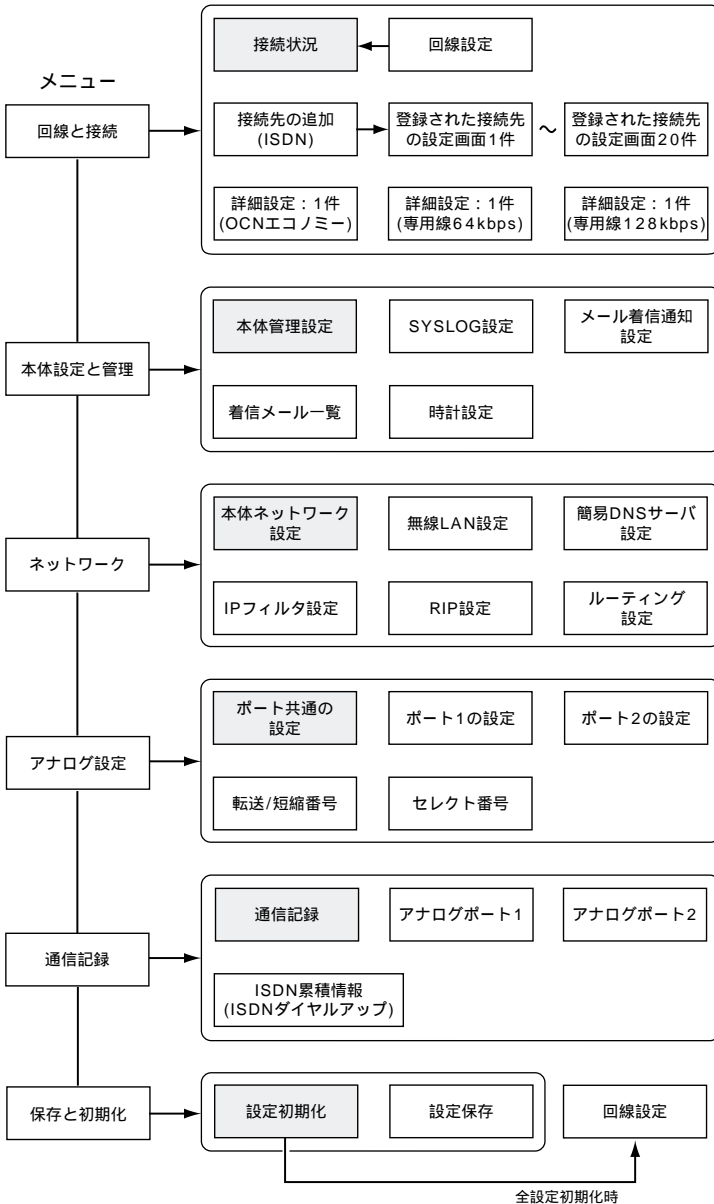
この章では、
本製品についての補足事項を説明します。

11-1.設定画面の構成について	120
11-2.設定項目の初期値一覧	121
11-3.機能一覧	123
11-4.定格	124
11-5.各種ポート仕様	126
11-6.用語解説	127

11 ご参考に

11-1 設定画面の構成について

WWWブラウザに表示される本製品の設定画面の構成について説明しています。各画面の詳しい説明については、取扱説明書[応用編](PDF)をご覧ください。



11-2 設定項目の初期値一覧

本製品のWWWブラウザによる設定画面について、設定項目の初期値を示します。

[回線と接続]メニュー

回線設定-回線設定

- 回線種別：ISDNダイヤルアップ

ISDN接続-接続設定

- 認証プロトコル：相手に合わせる
- デフォルトGWを構築：する
- コールバック要求：しない

フレッツISDN接続-接続設定

- 認証プロトコル：相手に合わせる
- デフォルトGWを構築：する

専用線(64kbps)の接続-接続設定

- デフォルトGWを構築：する

専用線(128kbps)の接続-接続設定

- デフォルトGWを構築：する

ISDN接続-スループットBOD

- BODを使用：しない
- 移行トラフィック量(BODを使用時)
(1B 2B)：75%
(2B 1B)：25%

自動接続-自動接続設定

- 自動接続：しない(ISDNダイヤルアップ)
する(フレッツISDN)
- 通信速度：64k可変

自動接続-接続制限設定設定

- 料金による制限：0円/月
- 接続回数による制限：0回/日
- 通算接続時間による制限：0分
- 接続可能な時間帯：00:00~00:00
- 終了時刻で強制切断：しない

自動切断-自動切断設定

- 自動切断：する(ISDNダイヤルアップ)
しない(フレッツISDN)

● タイマー1：150秒

● タイマー2：0秒

● タイマー2を使用する時間帯：00:00~00:00

着信-着信設定

- 着信：しない
- 電話番号チェック：する
- 通信チャンネル：2Bまで許可
- PIAFSによる着信：しない
- コールバック：不許可
- 認証方法：PAPまたはCHAP
- 着信を許可する時間帯：00:00~00:00

WAN設定-WANインターフェース設定

- Numberedで使用：しない
- アドレス変換-アドレス変換設定
- アドレス変換：する

[本体設定と管理]メニュー

本体管理設定-使用者ID設定(使用者ID使用時)

- 接続設定編集を許可：しない
- 通信記録表示・クリアを許可：しない

SYSLOG設定-SYSLOG設定

- DEBUGを使用：する
- INFOを使用：する
- NOTICEを使用：しない
- ファシリティ：1

メール着信通知設定-サーバ設定

(専用線、OCNエコノミーを除く)

- メール着信通知機能を使用：しない
- 確認時刻(時：分)/間隔(分)：00:00
- 接続先：01:PPP01(接続先未登録時)

メール着信通知設定-メール転送設定

(専用線、OCNエコノミーを除く)

- メール転送機能を使用：しない

時計設定-自動時計設定

- 自動時計設定を使用：する
- NTPサーバ1 IPアドレス：133.100.9.2

11 ご参考に

11-2 設定項目の初期値一覧(つづき)

[ネットワーク]メニュー

本体ネットワーク設定-本体名称/IPアドレス設定

- 本体名称：SR-11
- IPアドレス：192.168.0.1
- サブネットマスク：255.255.255.0

本体ネットワーク設定-リモートアクセス用IP設定

- リモートアクセスサーバを使用：しない

本体ネットワーク設定-DHCPサーバ設定

- DHCPサーバ機能を使用：する
- 割り当て開始IPアドレス：192.168.0.10
- 割り当て個数：30個
- サブネットマスク：255.255.255.0
- リース期間：3日

無線LAN設定-無線LAN設定

- ESS ID：* *(半角大文字LG)
- ESS IDの確認入力：* *(半角大文字LG)

無線LAN設定-無線詳細設定

- チャンネル：14
- Rts/Ctsスレッシュホールド：無し
- WEPキーを使用：しない
- WEPキー：1(選択)

00-00-00-00-00(文字列)

無線LAN設定-MACアドレスセキュリティ設定

- MACアドレスセキュリティを使用：しない

簡易DNSサーバ設定-DNSサーバ設定

- DNSサーバの代理応答：する

IPフィルタ設定-IPフィルタ設定

ISDNダイヤルアップ

- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止)

フレッツISDN

- 55番(本体への不正パケット防止)
- 56～59番(プライベートIPアドレスへの不正パケット防止)
- 60～62番(プライベートIPアドレスへの不正パケットがWAN側に流れるのを防止)

- 63、64番(Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止)

専用線、OCNエコノミー

- 63番(WAN側からの不正なアクセスを防止)
- 64番(WAN側から本製品への不正なアクセスを防止)

RIP設定-RIP設定

- LAN側にRIPを使用：する
- WAN側にRIPを使用：しない

[アナログ設定]メニュー

ポート共通の設定-内線通話

- 内線通話の使用設定：内線転送を使用する

ポート共通の設定-フレックスホンの設定

- フレックスホン機能：疑似
- コールウェイティング：しない
- 通信中転送：しない
- 三者通話：しない
- 着信転送：しない

ポート共通の設定-有線着信

- 有線着信：すべてのポートに着信
- 時間差優先着信：0.2秒

ポート共通の設定-リソースBOD

- 発信割り込みを使用：しない
- 受信割り込みを使用：しない

ポート1の設定-ポート毎の設定

ポート2の設定-ポート毎の設定

- 接続機器の種類：標準設定
- ナンバーディスプレイ：対応しない
- 無鳴動着信：しない
- ポート使用設定：発信で使用
- 受話音量：標準
- 送話音量：標準

- 外線呼出音：呼出音1

- 内線呼出音：呼出音1

- なりわけ着信機能：着信拒否する

- なりわけ呼出音：呼出音1

ポート1の設定-着信機能

ポート2の設定-着信機能

- グローバル着信：する

- セレクト着信：しない

- 通話中に着信があると音でお知らせ：する

ポート1の設定-送信機能

ポート2の設定-送信機能

- 発信者番号通知：する

- 高位レイヤ整合性をつけて発信：しない

ポート1の設定-ダイヤルタイミング

ポート2の設定-ダイヤルタイミング

- ダイヤル待ち時間：5秒

- フッキング判定時間：1秒

ポート1の設定-着信転送

ポート2の設定-着信転送

- 転送トーン：あり

- 転送元トーン：あり

- 起動タイミング：4回(呼出回数) 即、起動

11-3 機能一覧

無線LAN機能

- アクセスポイント機能
- ローミング機能
- MACアドレスセキュリティ

- WEP(Wired Equivalent Privacy)
- ESS ID(Extended Service Set Identifier)

アナログ機能(専用線、OCNエコノミーを除く)

- iナンバー
- ダイヤルイン
- INSボイスワープ
- INSボイスワープセレクト
- なりわけサービス
- 短縮ダイヤル
- 内線転送
- 音量調節(ポートごと)
- 発信者番号識別
- グローバル着信
- ナンバーディスプレイ
- 疑似フレックスホン
- フレックスホン
- 迷惑電話お断りサービス
- 内線通話
- 無鳴動着信
- 呼び出しベル音切り替え
- 時間差優先着信
- 発信番号設定

ルータ機能

- 自動接続/自動切断機能
- マルチダイヤル機能
- 各種接続制限機能
- INSネット64/フレッツISDN/OCNエコノミー/専用線対応
- 相手先識別着信
- ルーティングプロトコル
TCP/IP(RIP スタティック)
- WANプロトコル
PPP、MP、BACP
- セレクトルーティング機能
(OCNエコノミー/専用線を除く)
- スタティックルーティング機能
- IPフィルター機能
- RIP機能
- コールバック機能(無課金、CBCP)
- セキュリティー(PAP、CHAP)
- 静的IPマスカレード
- NAT/IPマスカレード
- DNS代理応答機能
- DHCPサーバ機能
- DHCPスタティック機能
- 簡易DNSサーバ機能
- リモートアクセスサーバ機能
- SYSLOG
- RADIUS
- メール着信通知機能
(OCNエコノミー/専用線を除く)
- 内部時計自動設定

ISDN・TA機能

- PIAFS対応
32kbps
64kbps(Ver2.0=NTT DoCoMo方式のみ対応)
- HDLC手順による通信
- MP(Multilink PPP)対応

- リソースBOD機能
- スループットBOD/BACP機能
- 同期非同期PPP変換
- Hayse互換ATコマンド
- USBシリアル接続


その他

- WWWメンテナンス
- ファームウェアの更新
- TELNETメンテナンス


11 ご参考に

11-4 定格

一般仕様

- 入力電圧 : DC12V標準(DC11 ~ 13V)
ACアダプター(付属品)は、AC100V \pm 10%
単3型アルカリ乾電池6本(停電時 : [TEL1]ポートが動作)
- 消費電流 : 1.5A(最大)
- 接地方式 : マイナス接地
- 使用環境 : 温度0 ~ +40、湿度5 ~ 95%(結露状態を除く)
- 外形寸法 : 52.0(W) × 155.0(H) × 144.4(D)mm
(突起物、スタンドを除く)
- 重量 : 約0.5kg(付属品を除く)
- 適合規格 : クラスA情報技術装置(VCCI) JATE
- 電取認可番号 :  91-55960[ACアダプター(付属品)]

有線部

- WANインターフェイス : ISDN U点ポート(RJ-11型) × 1
極性反転スイッチ有り
ISDN S/T点ポート(RJ-45型) × 1
終端抵抗スイッチ有り
- LANインターフェイス : [Ethernet]部 : [Ethernet]ポート(RJ-45型) × 1
極性反転スイッチ有り
IEEE802.3/10BASE-T準拠
IEEE802.3u/100BASE-TX準拠
[USB]部 : [USB]ポート(アップストリーム型) × 1
- アナログインターフェイス : 2線式(RJ-11型) × 2(-48V給電、ダイヤル方式 : PB)
- ユーザインターフェイス : 状態表示ランプ(PWR、MSG、B1、B2、LAN、)
スイッチ(ISDN、DSU、ETHERNET、受信信号終端、
送信信号終端、Utility使用、設定初期化)、RESETボタン
- 適用回線 : INSネット64、高速デジタル専用線
- 適用サービス : ISDN回線交換(2B) フレームリレー回線は含まない
デジタル専用線(高速符号インターフェイス)
- 通信速度 : [WAN]部 : 64/128kbps(同期)
[Ethernet]部 : 10/100Mbps(自動切り替え)
100Mbps時、半二重
[USB]部 : 12Mbps(最大)

無線部

- 国際規格 : IEEE802.11/IEEE802.11準拠
- 国内規格 : ARIB STD-33/ARIB STD-T66
- 通信方式 : 単信方式
- 電波方式 : 直接スペクトラム拡散
- 変調方式 : DPSK、DQPSK、(パーガー/CCK符号)
- 使用周波数範囲 : 2400 ~ 2497MHz
- チャンネル数 : 1ch ~ 14ch
- 通信速度 : 11Mbps(最大)
- 伝送距離 : 屋内約50m、屋外約150m(見通し)
11Mbps通信時
屋内約30m、屋外約70m(見通し)
- セキュリティ : WEP(Wired Equivalent Privacy)
ESS ID(Extended Service Set Identifier)
- 内蔵アンテナ : ダイバーシティ対応スロットアンテナ
- 送信出力 : 10mW/MHz以下
- 受信感度 : -70dBm以下(フレームエラーレート = 8%)[11Mbps]
-80dBm以下(フレームエラーレート = 8%)[2Mbps]
- 復調方式 : デジタル復調(マッチドフィルタ方式)
- 対応機種 : PC/AT互換機(DOS/V)
- 対応OS : Windows 98、Windows 98 Second Edition、
Windows Millennium Edition、Windows 2000

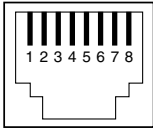
定格・仕様・外觀等は改良のため予告なく変更する場合があります。
伝送距離は、通信速度や環境によって異なります。

11 ご参考に

11-5 各種ポート仕様

[Ethernet]ポート

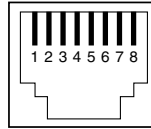
RJ-45型(8 pin) × 1



- 1.送信(+)
- 2.送信(-)
- 3.受信(+)
- 4.未使用
- 5.未使用
- 6.受信(-)
- 7.未使用
- 8.未使用

[ISDN S/T]ポート

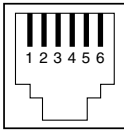
RJ-45型(8 pin) × 1



- 1.未使用
- 2.未使用
- 3.送信(TA)
- 4.受信(RA)
- 5.受信(RB)
- 6.送信(TB)
- 7.未使用
- 8.未使用

[ISDN U]ポート

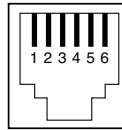
RJ-11型(6 pin) × 1



- 1.未使用
- 2.未使用
- 3.L1(REV) L2(NOR)
- 4.L1(NOR) L2(REV)
- 5.未使用
- 6.未使用

[TEL 1]/[TEL 2]ポート

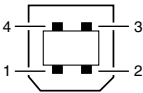
RJ-11型(6 pin) × 1



- 1.未使用
- 2.未使用
- 3.L2
- 4.L1
- 5.未使用
- 6.未使用

[USB]ポート

B-TYPE



- 1.VCC
- 2.- Data
- 3.+ Data
- 4.Ground

【[ISDN S/T]ポートに使うケーブルについて】

[ISDN S/T]ポートと[ETHERNET]ポートは、同一形状で未使用pinが異なりますが、本製品に付属するEthernetケーブルは、全pinストレート結線を使用していますので、ISDN S/Tケーブルとしても使用できます。

11-6 用語解説

ATコマンド

米国Hayes社が開発したモデムの制御コマンドです。コマンドがすべて「AT」で始まるのが特徴です。

Acrobat

アドビ・システムズ社が開発した、パソコン上で文書を電子的に取り扱えるソフトウェアです。

Acrobatが取り扱う文書データをPDFファイルと呼び、その文書を閲覧するだけのソフトウェアをAcrobat Readerと呼びます。

本製品のCD-ROMには、Acrobat Readerと、本製品の取扱説明書[応用編]などの文書データが収められています。

Bチャンネル

INSネット64の情報チャンネルです。

64Kbpsの通信速度を持ち、WANを介したネットワークの通信は、このチャンネルを通じて行われます。INSネット64では、1回線の契約で2本のBチャンネルを提供します。

2本のBチャンネルを独立した接続回線として扱えるので、同時に異なる2つのネットワークと接続ができます。

CHAP

(Challenge Handshake Authentication Protocol)

PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。

サーバから送られた乱数をもとに、クライアントはユーザー名とパスワードを暗号化してからサーバに送信します。

暗号化しないでユーザー名とパスワードを送信するPAPより、セキュリティで優れています。

DHCPサーバ

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)は、TCP/IPというネットワーク上で、クライアントがサーバから必要な情報を自動的に取得するプロトコルです。

DHCPサーバは、ネットワーク情報として、“IPアドレス”、“デフォルトゲートウェイ”、“ドメイン名”などを管理しています。

DHCPサーバ機能を持つ本製品は、DHCPクライアント(パソコン)が起動すると、IPアドレスやデフォルトゲートウェイ、DNSアドレスなどを割り振ります。

DNS(Domain Name System)

TCP/IPネットワークにおける名前解決サービスのことです。

DNSにしたがって、ドメインネームサーバにコンピューター名やドメイン名を登録して、ドメインネームサービスを提供しています。

ドメインネームサービスを利用すると、IPアドレスなどの数字ではなく、分かりやすいドメイン名やホスト名で、目的のサイトを指定できます。

DSU(Digital Service Unit)

ISDN網に接続するための終端装置です。

局からの配線をこのDSUに接続し、デジタル電話機やデジタルFAX、TA、ルータなどの通信用端末機器と接続して使用します。

ESS-ID(Extended Service Set-Identifier)

無線LANで、複数のネットワークグループを通信可能なエリア内に形成するときの識別用の名前です。本製品と通信する無線ネットワークグループは、無線端末を本製品と同じ識別名に設定します。

ETHERNET

ゼロックス社、DEC社、インテル社によって開発されたLANの通信方式です。使用するケーブルによって、10BASE-T、100BASE-T、10BASE-5、10BASE-2などのタイプがあります。

FTP(File Transfer Protocol)

ネットワーク上のクライアントとホストコンピューターとの間で、ファイルの転送を行なうためのプロトコルです。

HSD(High Super Digital)

高速デジタル専用線を参照

HTML(Hyper Text Markup Language)

WWWサーバでのドキュメントを記述するための言語で、通常文書の中にタグを埋め込んでいく方式で作成されます。

WWWページを記述する言語として利用されています。

11 ご参考に

11-6 用語解説(つづき)

HTTP(Hyper Text Transfer Protocol)
HTMLの転送に使うプロトコルです。WWWブラウザでURLを入力すると、HTTPを使ってWWWサーバからパソコンのWWWブラウザへHTML文書が転送されます。転送された文書は、WWWブラウザによって解釈して画面に表示されます。

HUB
ハブを参照

Internet Explorer
WindowsやMac OSに標準で付属しているブラウザソフトのことです。

INSネット64
NTTのISDN回線サービスです。データ用のBチャンネル(通信速度64Kbps)を2つと制御用のDチャンネル(通信速度16Kbps)を持っています。

IP
インターネットで使われるプロトコルです。IPを中心にして、その上位にはアプリケーション寄りのプロトコルがあり、下位には通信回線寄りのプロトコルが積層されることでインターネットを形成しています。

IP Masquerade
LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに、[複数: 1]で変換する機能です。

IP(Internet Protocol)アドレス
TCP/IPプロトコルを使用して、構築されたネットワークにおいて、接続しているすべての機器を区別するために付ける32ビットのアドレスです。
通常は、8ビットずつ4つに区切って、10進数の数字列で表されます。(例: 192.168.0.1)
また、プライベートIPアドレスは、ネットワークの管理者が独自に設定するIPアドレスです。アドレス管理機関やプロバイダーに、申請を行う必要はありませんが、以下の規則従って割り振らなければなりません。
外部のネットワークと接続する場合にはアドレス変換を行い、グローバルIPアドレスに変換する必要があります。
次のIPアドレスをプライベートIPアドレスとして、自由に使用できます。

クラスA: 10.0.0.0 ~ 10.255.255.225
クラスB: 172.16.0.0 ~ 172.31.255.225
クラスC: 192.168.0.0 ~
192.168.255.225

IPCP(Internet Protocol Control Protocol)
PPPはLCP(Link Control Protocol)とNCP(Network Control Protocol)の二つの部分から構成されています。NCPはLCPに続くデータ通信の次段階(IPなど)の準備を行います。IPのためのNCPがIPCPです。PPPのNCPフェーズにおいて、IP(Internet Protocol)のリンクを確立するためのプロトコルです。

ISDN(Integrated Services Digital Network)
電話やデータなど異なるサービスを、同じデジタル回線で行う総合回線網です。
NTTではINSネット64としてサービスしていません。

ISP(Internet Service Provider)
プロバイダーを参照

LAN(Local Area Network)
同一フロアーや敷地内の比較的小さな規模のネットワークのことです。

i-ナンバー
契約電話番号のほかに、追加で電話番号を1つ持てるINSネット64の付加サービスです。通信機器にはどちらかの電話番号を登録するので、それぞれの通信機器を独立した電話回線で使うのと同じように使えます。

MACアドレス
(Media Access Control Address)
個々の有線または無線通信LANカードに設定されている物理アドレスです。
このアドレスは、LANカードの製造メーカーが世界中で重複しない独自の番号で管理しています。Ethernetや無線LANカードでは、このアドレスを元にしてフレームの送受信をしています。

MP(MultiLink PPP)
PPPを拡張したもとの、2チャンネルあるISDN回線通信において、対向するルータの通信にMPが使われていることを認識すると、相手のチャンネルが空いていれば、2本のチャンネルを束ねて通信を行う帯域幅調整プロトコルのひとつです。

NAT(Network Address Translator)

LAN側で使用しているプライベートIPアドレスをWAN側で使用しているグローバルIPアドレスに1対1で変換する機能です。

NTP(Network Time Protocol)

ネットワーク上でパソコンの時計を合わせるためのプロトコルです。多くのプロバイダーは、NTPサーバを動作させています。そのプロバイダーにアクセスするようにすると、パソコンの時計を正確な時刻に保つことができます。

Numbered接続

WAN(回線)側にLAN側とは異なるIPアドレスを設定する接続法です。

OCN(Open Computer Network)

NTTによるデータ通信回線のサービスです。インターネットへの接続が可能で、常時接続環境を専用線感覚で実現する「OCN常時接続サービス」と、電話またはISDN回線を使用時のみ接続する「OCNダイヤルアクセスサービス」があります。

OCNエコノミーサービス

OCNの常時接続サービスの中でもっとも安価なサービスで、128kbpsの専用線を用いています。

PAP(Password Authentication Protocol)

PPP通信における認証フェーズで使用されるプロトコルです。ユーザー名とパスワードを暗号化せずに送信します。

PHS(Personal Handy-phone System)

移動帯通信機器の一種で、簡易型携帯電話のことです。

屋内ではコードレス電話、屋外では携帯電話として使用できます。

64kbpsまでのデータ通信にも利用できます。

PIAFS

(PHS linernet Access Forum Standard)

PHSを利用した32/64kbpsのデータ通信サービスの標準規格です。

ご契約のプロバイダーがPIAFSに対応していない場合でも、本製品がプロバイダーのPIAFSアクセスポイントの代わりにします。

PPP(Point to Point Protocol)

WANにおいて端末が1対1で通信を行うためのプロトコルです。

PPPソフト

PPPを使用して、ネットワークに接続するとき使用するソフトウェアです。

Windows95/98やWindows NT用のダイヤルアップネットワーク、MacintoshのFreePPP、MacPPP、OpenTransport/PPPなどがあります。

RADIUS

(Remote Authentication Dial In User Service)

リモートアクセスで接続するユーザーを認証するための手続きを決めたプロトコルです。

RADIUSに対応していると、UNIXやWindowsNTなどのRADIUSサーバによって、ユーザーの認証を行うことができます。また、ユーザーのアカウント情報も管理できます。

RAS

リモートアクセスサーバを参照

RIP(Routing Information Protocol)

ルータ間で、経路情報を交換するTCP/IPネットワークで使用されるプロトコルです。

この情報をもとに、ルータはパケットを正しい相手に送ります。

SMTP(Simple Mail Transfer Protocol)

電子メールを送信するためのプロトコルです。

SYSLOG

システムメッセージをネットワーク上に出力する機能です。

この機能に対応していると、UNIXなどのSYSLOGサーバによって、ログ情報を管理できます。

S/Tポート

4線式のISDN回線ポートです。本製品に内蔵のDSUを使う場合、このポートにほかのISDN機器を接続して使えます。本製品のDSUを使わない場合は、このポートに外付けのDSUを接続します。

11 ご参考に

11-6 用語解説(つづき)

TA(Terminal Adapter)

ターミナルアダプターを参照

TCP/IP

Windows98、Windows2000など、主要なOSでサポートする現在最も普及したインターネットの基本プロトコルです。

SMTP、FTPなどは、このプロトコルを利用しています。

Open Transportを搭載したMacintoshには、TCP/IPコントロールパネルが標準で搭載されています。

TELNET

ほかのパソコンを遠隔操作するためのプロトコルです。本製品もTELNETにより遠隔操作が行えます。

URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上のホームページなどにアクセスするために指定します。

弊社URLは、<http://www.icom.co.jp/>です。

Uポート

2線式のISDN回線ポートです。本製品内蔵のDSUを利用する場合は、ISDN回線のモジュラージャックとUポートを接続します。

Unnumbered接続

ルータ装置において、WANポートにIPアドレスを付加しないで、WANポートの対向装置と通信を行う機能です。

通常のルータでは、2つのインタフェースを持つ場合には、それぞれのインタフェースにネットワークが存在し、そのネットワークに属するIPアドレスを付加してネットワーク内の転送先端末を識別します。

しかし、WANで使用されるISDNまたはHSDのような1対1で接続されるインタフェースの場合には転送先はひとつしか存在しないため、必ずしもIPアドレスで転送先端末を識別する必要がありません。

WAN(Wide Area Network)

LANどうしを一般電話回線、ISDN、専用回線などで結ぶことのできる比較的大規模なネットワークです。

WEP(Wired Equivalent Privacy)

無線LANの通信を暗号化して送受信する機能です。

無線LAN通信の盗聴を防止できます。

本製品は、64ビット暗号化に対応しています。

WWWブラウザ

WWWホームページを閲覧したり、WWWサーバを検索に使うアプリケーションです。

アプリケーションには、「Internet Explorer」や「Netscape Navigator」があります。

10BASE-T

Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、10Mbit/sの速度をもつものです。本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

100BASE-T

Ethernetの規格の1つで、ツイストペアケーブルを用いた、100Mbit/sの速度をもつものです。本製品の[Ethernet]ポートは、この規格に対応しています。

アクセスポイント

プロバイダ経由でインターネットを利用するとき、その拠点の総称です。ダイヤルアップの場合は、該当するアクセスポイントに電話をかけることでインターネットに接続できます。

イーサネット

ETHERNETを参照

インターネット

世界中のパソコンをIPを使って接続したネットワークの総称です。

回線速度

LAN側とWAN側のISDN機器間の通信速度のことです。

ご契約の回線によって、サポートしている回線速度が異なります。

クライアント

ネットワークにおいて、サーバに対し情報の提供などのサービスを要求し、その返答を受ける端末またはアプリケーションの総称です。

グローバルIPアドレス
インターネット上のどの機器とも重複するものがない世界で唯一のアドレスです。

グローバル着信
INSネット64の契約(代表)電話番号で着信することです。

高速デジタル専用線
専用の回線を施設し、毎月一定の料金で電話やデータ伝送などに利用できる高速デジタル転送サービスのことで、本製品では64Kbpsと128Kbpsの伝送速度に対応しています。

サブアドレス
ISDNでは、1本の回線に複数のISDN端末を接続できます。そのため、電話番号のほかに相手を設定するためのサブアドレスを指定することができます。サブアドレスは、PHSからも利用できます。

サブネットマスク
1つのIPアドレスをネットワークアドレスとホストアドレスに区別するために使用します。あるホストのIPアドレスが「192.168.0.1」、サブネットマスクが「255.255.255.0」とすると、IPアドレスとサブネットマスクを2進数にして掛け合わせると、ネットワークアドレス「192.168.0.0」となり、のこり「1」がホストアドレスになります。

終端抵抗
ISDNのS/Tポートに複数の機器を接続したときに、いちばん端の機器に接続します。これを適切に挿入しないと、ISDNが誤動作を起こすことがあります。

ターミナルアダプター(TA)
パソコンやモデム、アナログ電話、FAXなど、本来ISDN対応機能を持たない通信機器をISDNに接続できるようにするハードウェアです。

ダイヤルアップ
プロバイダーのアクセスポイントに電話をかけて、インターネットに接続することです。

ダイヤルイン
1回線に複数の通信機器が接続されている場合に、その中の特定の通信機器に、直接着信させることを可能にするINSネット64のサービスです。

一般の電話回線からの着信時にも利用できます。ダイヤルインサービスを契約すると、本来の契約電話番号とは別に、複数の追加番号が利用できます。

ダイヤル(パルス)回線
アナログ電話機で、回したダイヤルが戻るごとに発信される電気信号(パルス)の回数で、電話番号を電話局の交換機に通知する電話機、またはその電話回線のことで、

ターミネータ
終端抵抗を参照

端末型ダイヤルアップ
1台のパソコンをインターネットに接続することを指します。本製品では、LANに接続されているすべてのパソコンからインターネット接続できます。

同期通信
データ通信を行うときに、送信側と受信側でタイミングを一致させながらデータを転送する転送効率の良い方法です。

ドメイン名
IPアドレスの状態では人間には理解しにくいので、IPアドレスの所属グループをドメインとしてドメイン名が割り当てられます。例)icom@bbb.co.jpという電子メールアドレスの場合、bbb.co.jpがドメイン名です。

トラフィック
ネットワーク上のパケットの流れやネットワークの回線にかかる負荷(データ量)のことです。トラフィックが大きくなると、データ転送の遅れやデータ欠落が起こる可能性があります。

ナンバーディスプレイ
着信したときに、どこから着信したかを通知してくれる機能です。INSネット64では、アナログの電話回線からの着信を通知させるには、NTTとINSナンバーディスプレイの契約が必要です。アナログの電話回線以外(ISDN、携帯電話、PHSなど)からの着信では契約は不要です。

11 ご参考に

11-6 用語解説(つづき)

認証

インターネットなどを利用して、ネットワークにアクセスしてくるユーザーが、パスワードとユーザーIDを入力して、アクセスの権利があるかどうかを確認することです。

ネットワーク

データなどを転送するために、サーバ、ワークステーション、パソコンなどの機器が、ケーブルや電話回線を介して、通信網と接続された状態をいいます。

パケット

データが送受信される際の単位です。送受信に必要な情報を持つヘッダ部と、送りたいデータそのものであるデータ部から構成されています。

パスワード

ネットワークセキュリティ上、ユーザーがネットワークにアクセスするために入力する鍵となる文字列で、パスワードを設定すると、ユーザーがあらかじめ設定された文字列を正しく入力したとき、アクセスが可能になります。

ハブ(HUB)

本製品などを使用して、ネットワークを構築するときに必要になる装置です。

10BASE-Tまたは100BASE-TXケーブルを使って本製品と接続します。

100Mbpsで通信をするときは、カテゴリ5のツイストペアケーブルを使用すると同時に、HUBも100BASE-TXに対応している必要があります。

非同期通信(調歩同期)

データ通信を行うときに、データの開始部分にスタートビット、終了部分にストップビットを付けて、不定期に送り出す方式のことです。

スタートビットとストップビットを付加するため、転送効率は、同期通信に比べて悪くなります。

フラッシュメモリ

本製品が持つ書き込みが可能な記憶装置です。ここに貯えられた情報は電源を切っても消えないで保存されます。

フッキング

受話器を置くところにあるスイッチを短く押す操作です。最近の電話機では、フックスイッチとは別にフッキングするためのボタンが用意されている機種があります。

フッキングはフレックスホンの操作を行うときなどに使います。

プッシュ(トーン)回線

アナログの電話回線で、2種類の音の組み合わせを電気信号にして、電話番号を電話局の交換機に通知するタイプ、またはその電話回線のこと。押しボタン(PB)電話がこの方式を採用していません。

ブラウザ

WWWサーバからHTML文書入手して、表示する機能を持ったアプリケーションです。

本製品では、代表的なInternet Explorerを使って説明しています。

フレックスホン

NTTが提供するサービスで、INSキャッチホン、三者通話、通話中転送、着信転送の4つの総称です。

フレッツ・ISDN

NTTが提供する、定額制インターネット接続サービスです。対応のISPへのダイヤルアップ電話番号を指定することで、通信料金を月額固定としている。帯域は、最大64Kbps

プロトコル

通信で、データの送受信を行うときにしたがうべき手順を定義したものの。

ブロードキャスト

同一ネットワーク内のすべてのハードウェアハブを一齐に送信(同報通信)することです。

プロバイダー

インターネットサービスプロバイダー(ISP)の略で、インターネットへの接続サービスを提供する業者のことです。

ポート番号

TCPやUDPでアプリケーションを識別するための番号です。例えば、WWWは、TCPの80番、メールは、TCPの25番というように決められています。

リモートアクセスサーバ

出先の端末から、公衆電話回線を使用してダイヤルアップ接続することにより、出先の端末にIPアドレスを割り当て、既存のネットワークの端末とIPで通信させる機能をもった機器のことです。

リモートアクセスすると、LANに直接つながっているパソコンと同様に、データ共有、プリンター共有などLANの資源を使用することができます。

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

ICOM[®]

取扱説明書 [応用編]



SOHOROUTER
SR-11

取扱説明書 [基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。



Icom Inc.

はじめに

本書は、付属の取扱説明書[基本編]をお読みいただいていることを前提としています。はじめて本製品をお使いになるときには、取扱説明書[基本編]を先にお読みになってから、本書をお読み下さい。

本書では、実際にネットワークの接続を行うために、いくつかの具体的な設定例と、WWW設定画面の各設定項目についての詳細を説明しています。

設定例において、指定のない項目は、出荷時の状態で通信が可能ですが、詳しく設定したいときは、本書を参考に設定してください。

本書の説明に使用するWWW設定画面の色合いは、お使いのディスプレイによって異なることがあります。

なお、本書で使用している設定画面の色合いは、RGB方式にて作成しているため、カラープリンターで印刷出力される場合、プリンターによっては「CMYKモードに置き換えて印刷しますか?」などの確認ダイアログが表示されたり、印刷できない場合があります。

表記について

取扱説明書[応用編]は、次の規則にしたがって表記しています。

「 」表記・・・本製品の設定画面にある各項目名、設定値などを(「 」)で囲んで表記します。

[]表記・・・本製品の設定画面の名称、本製品の前後パネルに配置された表示器、端子名などを([])で囲んで表記します。

< >表記・・・本製品の設定ページにあるコマンドボタンの名称を(< >)で囲んで表記します。

登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、icomロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

Adobe、Acrobatは、アドビシステムズ社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

回線種別の設定

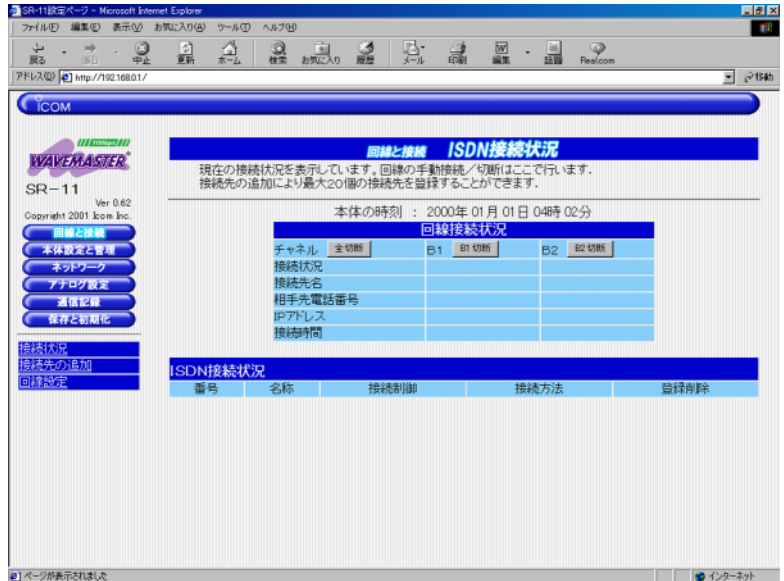
以下の要領に従って、回線種別を設定します。

1. 設定ページを表示する

本製品のEthernetポートにパソコンを接続し(取扱説明書[基本編] 第4章参照)、WWWブラウザを起動します。

アドレスバーに、「http://192.168.0.1/」を入力して、本製品に直接アクセスします。

以下の画面を表示します。



2. [回線設定]画面の表示

<回線設定>をクリックし、ご契約、ご使用になる回線種別を選択したのち、<登録して再起動>をクリックします。



再起動後、選択した回線種別の[接続状況]画面(設定ページ)を表示します。

選択した回線種別

- ISDNダイヤルアップ 第1部参照
- フレッツISDN 第2部参照
- OCNエコノミー 第3部参照
- 専用線(64 / 128kbps) 第4部参照

取扱説明書[応用編]の構成

取扱説明書[応用編]では、お客様がご契約になられる回線について、回線種別、設定例ごとに分類して説明しています。

本書の構成は、次のとおりです。

-
- 第1部 ISDNダイヤルアップ
 - 第2部 フレッツISDN
 - 第3部 OCNエコノミー
 - 第4部 専用線(64 / 128kbps)
 - 第5部 ネットワークの設定例集
 - 第6部 無線LANの設定例集
 - 第7部 アナログポートの設定例集
 - 第8部 付属ソフトウェアについて



SOHOROUTER
SR-11

第1部 ISDNダイヤルアップ

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理	19
第 3章	ネットワーク	31
第 4章	アナログ設定	53
第 5章	通信記録	65
第 6章	保存と記録	69
第 7章	ISDNダイヤルアップの設定例集	71
付 録	設定画面の構成	113

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

この章では、
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

1. [接続状況]画面	2
2. [接続先の追加]/[~の設定]画面	3
2-1. [接続]画面	3
2-2. [自動接続]画面	7
2-3. [自動切断]画面	11
2-4. [着信]画面	12
2-5. [WAN設定]画面	15
2-6. [アドレス変換]画面	16
3. [回線設定]画面	17

1 回線と接続

1. [接続状況]画面



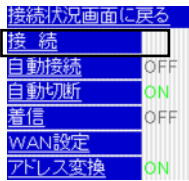
通信中の回線接続状況と、使用する回線種別について表示します。
登録できる接続先は、20件までです。(フレッツISDNでの接続先の登録件数を含む)



- ①<全切断> B1とB2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を同時に切断します。
- ②<B1切断> B1チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ③<B2切断> B2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ④接続状況 各チャンネルでの通信が、本製品から「発信」されているのか、外部からのアクセスにより「着信」しているのかを表示します。
- ⑤接続先名 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ⑥相手先電話番号 通信している接続先(プロバイダーなど)の電話番号を表示します。
- ⑦IPアドレス 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ⑧接続時間 通信が開始されてから、本画面にアクセスした時点までの接続時間を表示します。
最新の接続時間を表示するには、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックしてください。
- ⑨番号 登録された接続先の整理番号を表示します。
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに接続先を追加すると、その欠番に登録されます。
- ⑩名称 登録された接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
- ⑪接続制御 登録した接続先に、手で接続するときのボタンです。
- ⑫接続方法 登録された接続先への接続設定が、「自動」なのか、「手動」なのかを表示します。
- ⑬登録削除 登録してある接続先を、削除するときのボタンです。

2. [接続先の追加]/[~ の設定]画面

2-1. [接続]画面



登録		取消	
接続設定			
① 接続先名	③	プロバイダ	
電話番号1	④	1234567890	*以降はサブアドレス
電話番号2	④		*以降はサブアドレス
電話番号3	④		*以降はサブアドレス
ユーザID	⑤	123	
パスワード	⑥	***	
認証プロトコル	⑦	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	⑧	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
コールバック要求	⑨	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
コールバック電話番号	⑩		*以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ	⑪		
セカンダリDNSサーバ	⑫		
スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用	⑬	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変にしておく必要があります。
移行トラフィック量	⑭	1B→2B 75 %	55～95の範囲で記載
		2B→1B 25 %	5～45の範囲で記載

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom)
- ④電話番号1～3 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。
次のように入力すると、すべて同じ電話番号として処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
相手先よりサブアドレスの付加を指定された場合、電話番号の末尾に、*(アスタリスク)記号に続けて指定された半角英数字を入力します。
(入力例：1111223333*333)
なお、一つの接続先に対して、同じユーザーIDで複数の電話番号を使う場合、3件までの電話番号が登録可能です。
2件以上登録することで、マルチダイヤル機能を動作させることが可能になります。
マルチダイヤル機能は、「電話番号1」が話中などで接続できない場合、「電話番号2」に自動発信します。さらに接続できない場合は、「電話番号3」に自動発信します。
以降、接続できない場合は、もう一度だけ「電話番号1」から自動発信を繰り返します。(最大で各2回発信します。)
無課金コールバック要求(⇒P5)による発信時は、登録されているすべての電話番号で接続できない場合、マルチダイヤル機能は動作しません。
- ⑤ユーザID 接続先から指定されたユーザー名(ログイン名)を入力します。
(入力例：user)

1 回線と接続

2-1. [接続]画面(つづき)

登録		取消	
① ② 接続設定			
③ 接続先名	プロバイダ		
電話番号1	1234567890		* 以降はサブアドレス
電話番号2			* 以降はサブアドレス
電話番号3			* 以降はサブアドレス
⑤ ユーザID	123		
⑥ パスワード	***		
⑦ 認証プロトコル	相手に合わせる		
⑧ デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
⑨ コールバック要求	しない		
⑩ コールバック電話番号			* 以降はサブアドレス
⑪ プライマリDNSサーバ			
⑫ セカンダリDNSサーバ			
スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用 ⑬	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載
トラフィック量 ⑭	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載

- ⑥パスワード 接続先から指定されたパスワードを入力します。
入力された文字は、すべて「*」または「 」で表示されます。
(表示例：****)
- ⑦認証プロトコル ユーザーIDとパスワードを本製品から発信する時の認証プロトコルを選択します。
- 認証なし : 相手からの認証要求をすべて拒否する
 - 相手に合わせる : 認証方式を相手先に合わせる(出荷時の設定)
 - PAP : PAP方式で認証を受ける
 - CHAP : CHAP方式で認証を受ける
- ⑧デフォルトGWを構築 LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
- しない : パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
 - する : パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。(出荷時の設定)

2-1. [接続]画面(つづき)

登録		取消	
① ② 接続設定			
接続先名 ③	プロバイダ		
電話番号1	1234567890		*以降はサブアドレス
電話番号2			*以降はサブアドレス
電話番号3			*以降はサブアドレス
ユーザID ⑤	123		
パスワード ⑥	***		
認証プロトコル ⑦	相手に合わせる		
デフォルトGWを構築 ⑧	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する		
コールバック要求 ⑨	<input type="checkbox"/> しない		
コールバック電話番号 ⑩			*以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ ⑪			
セカンダリDNSサーバ ⑫			
スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用 ⑬	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載
トラフィック量	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載

- ⑨コールバック要求 相手先に発信したときに、相手先かけなおしてもらうように(コールバック)要求するかどうかを設定します。
- しない：コールバックを要求しません。
 - CBCP：CBCP(Callback Control Protocol)に対応している相手先の端末に、コールバックを要求します。こちらから接続するときの通信料金は、要求した側に課金されます。
 - 無課金：相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合に機能し、要求した側に通信料金は課金されません。ただし、相手先に発信者番号が通知されていない場合は、無課金コールバックを行うことはできません。
- コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。
Windows 95/98/NT 4.0などのCBCP対応の端末
相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合
- ⑩コールバック電話番号 CBCPによるコールバックを利用する場合に、相手先かけなおしてもらう電話番号を入力します。
また、電話番号に続けて「*(アスタリスク)」+サブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力することもできます。
- ⑪プライマリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)
- ⑫セカンダリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64)
相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑪、⑫の設定は不要です。

1 回線と接続

2-1. [接続]画面(つづき)

登録		取消	
① ② 接続設定			
接続先名 ③	プロバイダ		
電話番号1	1234567890	* 以降はサブアドレス	
電話番号2		* 以降はサブアドレス	
電話番号3		* 以降はサブアドレス	
ユーザID ⑤	123		
パスワード ⑥	***		
認証プロトコル ⑦	相手に合わせる ▾		
デフォルトGWを構築 ⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
コールバック要求 ⑨	しない ▾		
コールバック電話番号 ⑩		* 以降はサブアドレス	
プライマリDNSサーバ ⑪			
セカンダリDNSサーバ ⑫			
スルーブットBOD			登録/取消▲
BODを使用 ⑬	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変にしておく必要があります。
移行トラフィック量 ⑭	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載
	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載

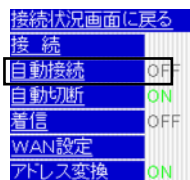
⑬BODを使用

スルーブットBOD機能は、回線を通るパケット量を監視しながら、必要に応じて自動的にチャネルの増減を行う機能です。ただし、この機能を使うことができるのは、MP接続に対応している相手先と128kbps(回線速度)の契約をしていて、[自動接続]画面の「④通信速度」(⇒P7)を「64k可変」もしくは「128k可変」に設定している場合だけです。また、相手先がBACPプロトコルに対応している場合は、自動的にこのプロトコルを使用して通信を行います。

⑭移行トラフィック量

スルーブットBODを使うとき有効となり、ここで設定する回線を通るパケット量の増減に応じて、その設定値になれば使用するBチャネルの本数(1B 2B、2B 1B)を自動的に切り替えます。

2-2. [自動接続]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動接続 ネットワーク上のパソコンから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線を接続するかしないかを選択します。
「する」を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的にISDN回線に接続されて課金されます。
ネットワークの設定内容や運用のしかたによっては、回線が長時間接続されたままになったり、意図しない自動接続が行われてしまう可能性がありますので、必ず[接続状況]画面や、本製品の[B1]ランプおよび[B2]ランプを確認してください。
- ④通信速度 Bチャンネルを使って、接続先とどのように通信するかを選択します。
 - 64k固定 : 接続先と64kbpsに固定して通信
 - 128k固定 : 接続先と128kbpsに固定して通信
 - 64k可変 : [接続]画面の「⑬BODを使用」(⇨P6)を「する」と設定しているときの選択肢です。
64kbpsで接続し、スループットが「⑭移行トラフィック量」(⇨P6)の設定値を上回ると、2B通信に移行します。
相手先が2B通信に対応しないときは、1B通信となります。
 - 128k可変 : [接続]画面の「⑬BODを使用」(⇨P6)を「する」と設定しているときの選択肢です。
128kbpsで接続し、スループットが「⑭移行トラフィック量」(⇨P6)の設定値を下回ると、1B通信に移行します。
相手先が2B通信に対応しないときは、1B通信となります。

1 回線と接続

2-2. [自動接続]画面(つづき)

⑤料金による制限

一定期間当たりの自動接続料金を制限できます。積算された通信料金が制限を超えると、自動接続できなくなります。0(制限なし)円～999999円まで入力できます。積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。積算の期間を過ぎた時点で、設定した積算料金に対する制限は自動的に再始動します。

料金による制限を設定するときは、次の点にご注意ください。

必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された料金もゼロに戻ります。

料金による制限は、あくまでも目安ですので、実際の料金請求額と異なることがあります。

ネットワークの設定や運用状態によっては、正しく動作しない場合があります。

料金による制限は、INSネットから通知される料金情報によって通信料金を積算します。通信によっては、通信情報が通知されないことや、実際の料金と異なる料金情報が通知されることがあります。たとえば、INSネット64のテレホーダイを利用する場合は、通常の通信時と同じように接続時間あたりの料金情報が通知されるので、実際の通信料金が制限を超える前に、自動接続できなくなることがあります。

通信料金は、回線切断後に確定します。よって、回線接続中の[接続状況]画面に表示する累積料金合計の欄には、回線を切断するまで反映されません。

注意！

停電対策用電池を電池ボックスに入れていない状態で電源を切る(ACアダプターを抜く)と、積算値がリセットされます。

2-2. [自動接続]画面(つづき)

登録 / 取消	
① ② 自動接続設定	
自動接続 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信速度 ④	64k可変
接続制限設定 登録 / 取消▲	
料金による制限 ⑤	0 円 / 月
接続回数による制限 ⑥	0 回 / 日
通算接続時間による制限 ⑦	0 分
接続可能な時間帯 ⑧	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
自動接続制限状況 <input type="button" value="リセット"/> ⑩ 登録 / 取消▲	
料金制限(料金/リセット時刻) ⑪	0円 / 2000/01/01 00:00
回数制限(回数/リセット時刻) ⑫	0回 / 2000/01/01 00:00
時間制限(通算接続時間) ⑬	0分

- ⑥接続回数による制限 一定期間当たりの自動接続の回数を制限できます。積算された接続回数が制限を超えると、自動接続できなくなります。0(制限なし)回～65535回まで入力できます。積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。積算期間を過ぎた時点で、設定した積算回数に対する制限は自動的に再始動します。
接続回数による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続回数もゼロに戻ります。
- ⑦通算接続時間による制限 期間を制限せず、自動接続の時間を制限できます。回線接続後、制限時間を経過すると、通信中でも回線を切断します。0(制限なし)分～65535分まで入力できます。
通算接続時間による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続時間もゼロに戻ります。
- ⑧接続可能な時間帯 自動接続を可能とする時間帯を設定します。開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。
- ⑨終了時刻で強制切断 接続可能な時間帯を超えると、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを選択します。
- ⑩<リセット> 以下の[自動接続制限状況]に表示する内容を、初期値「0」に戻します。
- ⑪料金制限(料金/リセット時刻) 表示する時刻までの自動接続による通信料金と、次回リセットされる日時について表示します。
これらの表示は、あくまでも目安です。
契約回線のサービスによっては、実際と表示がことなることがありますので、あくまでも目安としてご利用ください。

1 回線と接続

2-2. [自動接続]画面(つづき)

登録		取消	
① ② 自動接続設定			
自動接続 ③		☑しない ☐する	
通信速度 ④		64k可変 ▼	
接続制限設定		登録/取消▲	
料金による制限 ⑤		0 円 / 月 ▼	
接続回数による制限 ⑥		0 回 / 日 ▼	
通算接続時間による制限 ⑦		0 分	
接続可能な時間帯 ⑧		00 : 00 ~ 00 : 00	
終了時刻で強制切断 ⑨		☑しない ☐する	
自動接続制限状況 リセット ⑩		登録/取消▲	
料金制限 (料金/リセット時刻) ⑪		0円/2000/01/01 00:00	
回数制限 (回数/リセット時刻) ⑫		0回/2000/01/01 00:00	
時間制限 (通算接続時間) ⑬		0分	

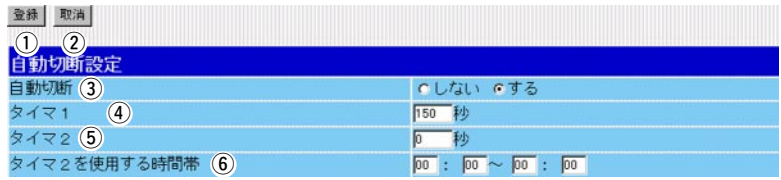
⑫回数制限(回数/リセット時刻)

表示する時刻までの自動接続回数と、次回リセットされる日時について表示します。

⑬時間制限(通算接続時間)

表示する時刻までの自動接続による通信時間について表示します。

2-3. [自動切断]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動切断 接続中の回線を自動で切断するか、<全切断>、<B1切断>または<B2切断>ボタン([接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。
自動切断を「する」に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。
自動切断は、ISDN回線に流れるデータの無い状態が150秒(出荷時の設定)以上経過すると、自動的に切断します。
次のような場合は、正常に切断したかどうか、必ず[接続状況]画面の状況表示や、本製品の[B1]および[B2]ランプを確認してください。
 - ネットワーク上のパソコンが定期的に通信を行うような場合
[例]メールサーバへのアクセスや、ソフトウェアの自動アップデートを定期的にインターネット側サーバに問い合わせるように設定している場合など
 - 接続した相手から、データが定期的に送信されてくるような場合
 - 本製品が着信されている場合（本製品をリモートアクセスサーバにしているときなど）
回線を接続した側で回線を切断することをおすすめします。
- ④タイマ1 設定した時間、通信がない場合、自動的に回線を切断します。
0秒(切断制限なし)～65535秒まで入力できます。
(出荷時の設定：150秒)
- ⑤タイマ2 下記「⑥タイマ2を使用する時間帯」で設定した時間帯で動作し、設定した時間、通信がない場合、回線を自動的に切断します。
0秒(出荷時の設定)にすると、自動切断を行いません。
- ⑥タイマ2を使用する時間帯 上記「⑤タイマ2」が動作する時間帯を設定します。
設定時間帯以外は、「④タイマ1」の設定値で動作します。

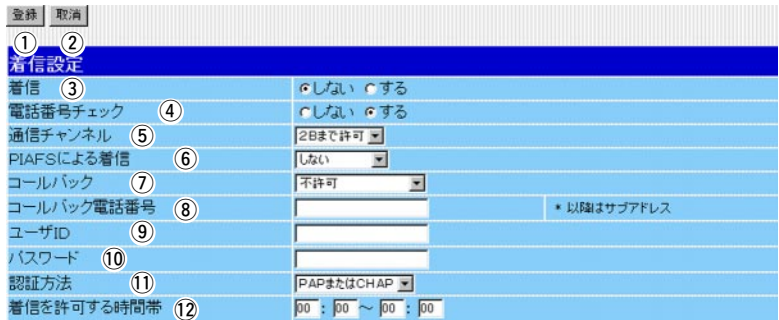
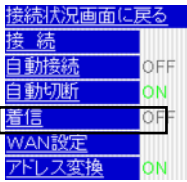
【設定例】

「⑤タイマ2」は、0秒(初期値)で、時間帯にテレホーダイ有効時間を設定すると、その時間帯だけ、自動切断機能が無効になります。

タイマ2の時間帯を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。

1 回線と接続

2-4. [着信設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信 相手先からの着信を許可するかしないかを選択します。
- ④電話番号チェック 電話番号による認証をするかしないかを選択します。
「する」に設定すると、[接続]画面の「④電話番号1～3」に設定された電話番号と、ISDN回線網から通知される電話番号とで認証を行います。
相手先が電話番号を非通知で発信している場合は、「④電話番号1～3」が設定されていても認証が行えないため、着信しません。
- ⑤通信チャンネル 相手先に着信を許可するBチャンネルの数を選択します。
上記「④電話番号チェック」で「しない」を選択すると、この項目の設定に関係なく、1Bチャンネルでの通信に限定されます。
- ⑥PIAFSによる着信 PIAFS通信対応機器からの信号を受信するとき、その着信条件を選択します。
 - しない : 着信を許可しない
 - 32kのみする : 32kbpsで通信するときだけ着信を許可する
 - 64kのみする : 64kbpsで通信するときだけ着信を許可する
 - する : 32/64kbpsで通信するときだけ着信を許可するPIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

2-4. [着信設定]画面(つづき)

登録		取消	
着信設定			
着信		<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
電話番号チェック		<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する
通信チャンネル		2Bまで許可	
PIAFSによる着信		しない	
コールバック		不許可	
コールバック電話番号			*以降はサブアドレス
ユーザID			
パスワード			
認証方法		PAPまたはCHAP	
着信を許可する時間帯		00 : 00 ~ 00 : 00	

- ⑦コールバック 相手先からコールバック要求を受信したとき、その条件を選択します。
 - 不許可 コールバック接続を許可しない
 - 許可 コールバック接続を許可する
 - コールバックのみ着信 コールバック接続だけ着信を許可する

コールバック着信するときは、次の点にご注意ください。
通信料金は、本製品側に課金されます。
相手先に課金されるのは、CBCPでのコールバックを要求するために接続する時の通信料金だけです。

コールバック要求できるのは、相手先が次のいずれかの場合だけです。
 Windows95/98/NT4.0などのCBCP対応の端末
 相手先が同じ機能を搭載した弊社製のルータを使っている場合
 なお、「④電話番号チェック」を「しない」に設定していると、コールバック機能は動作しません。
- ⑧コールバック電話番号 コールバック電話番号を指定しないでCBCPでのコールバックを要求してくる場合、こちらからかけなおす電話番号を入力します。
 相手先がコールバック電話番号を指定してくる場合は、空欄にしておきます。
 どちらかがコールバック電話番号を指定しないときは、通信は不成立になりますのでご注意ください。
 無課金コールバックの場合は、通知されてきた発信者番号へ折り返し接続しますので、設定不要です。
- ⑨ユーザID 着信時の認証において、ユーザIDを使うとき設定します。
- ⑩パスワード 着信時の認証において、パスワードを使うとき設定します。
- ⑪認証方法 着信時の認証方法を設定します。
 - 認証なし 受信ユーザIDや、受信パスワードによる認証をしない
 - PAPまたはCHAP PAPまたはCHAP方式で認証を行う
 - PAP PAP方式で認証を行う
 - CHAP CHAP方式で認証を行う
 - RADIUS LAN内のRADIUSサーバで認証を行う

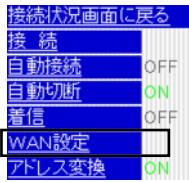
1 回線と接続

2-4. [着信設定]画面(つづき)

登録	取消
①	②
着信設定	
着信 ③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
電話番号チェック ④	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信チャンネル ⑤	2Bまで許可 ▾
PIAFSによる着信 ⑥	しない ▾
コールバック ⑦	不許可 ▾
コールバック電話番号 ⑧	<input type="text"/> * 以降はサブアドレス
ユーザID ⑨	<input type="text"/>
パスワード ⑩	<input type="password"/>
認証方法 ⑪	PAPまたはCHAP ▾
着信を許可する時間帯 ⑫	00 : 00 ~ 00 : 00

- ⑫着信を許可する時間帯 この画面の「③着信」で「する」を設定している場合、着信を受け付ける時間帯を設定します。
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

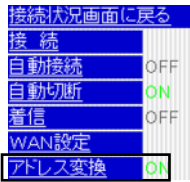
2-5. [WAN設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 IPアドレス/サブネットマスク
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
プロバイダーなど、接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用する 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。
使用するときには、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側 IPアドレス
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。
接続先がプロバイダーなど、IPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

1 回線と接続

2-6. [アドレス変換]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1.0)
 - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
 - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
 - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。最大32個のNATテーブルを設定できます。
- グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例: 172.16.0.49)
 - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.10)
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

3. [回線設定]画面



取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

① ②

回線設定

回線種別 ③	<input checked="" type="radio"/> ISDNダイヤルアップ	<ご注意> 回線種別を変更した場合、 再起動が必要です。
	<input type="radio"/> フレッツISDN	
	<input type="radio"/> 専用線(64kbps)	
	<input type="radio"/> 専用線(128kbps)	
	<input type="radio"/> OCNエコノミー	

ISDN着信識別番号設定

電話番号 ④

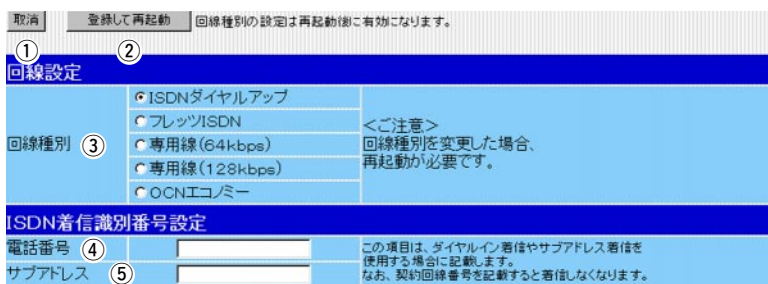
サブアドレス ⑤

この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を使用する場合に記載します。
なお、契約回線番号を記載すると着信しなくなります。

- ①<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
 - フレッツISDN
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
 - 専用線(64kbps)
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - 専用線(128kbps)
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - OCNエコノミー
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。

1 回線と接続

3. [回線設定]画面(つづき)



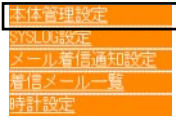
- ④電話番号 NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。
ダイヤルイン番号は、市外局番から入力してください。
契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。
電話番号は、半角31文字まで入力できます。
電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。
- ⑤サブアドレス サブアドレスで着信識別するときに入力します。
NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。
サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

この章では、
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体管理設定]画面	20
2. [SYSLOG設定]画面	22
3. [メール着信通知設定]画面	23
4. [着信メール一覧]画面	28
5. [時計設定]画面	29

2 本体設定と管理

1. [本体管理設定]画面



登録	取消
① ② 管理者ID設定	
③ 管理者ID	<input type="text"/>
④ 管理者/パスワード	<input type="password"/>
⑤ パスワードの確認入力	<input type="password"/>
⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ 登録/取消▲	
⑥ 使用者ID設定	<input type="text"/>
使用者ID ⑦	<input type="text"/>
使用者/パスワード ⑧	<input type="password"/>
パスワードの確認入力 ⑨	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可 ⑩	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者1	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者2	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者3	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者4	
使用者ID	<input type="text"/>
使用者/パスワード	<input type="password"/>
パスワードの確認入力	<input type="password"/>
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：Router)
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：****)
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。
(表示例：****)

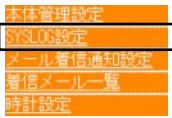
1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a settings page with a top bar containing '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons. The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The '管理者ID設定' section includes fields for '管理者ID' (Administrator ID), '管理者/パスワード' (Administrator Password), and 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input). The '使用者ID設定' section is repeated for four users (使用者1 to 使用者4). Each user entry includes a checkbox, '使用者ID' (User ID), '使用者/パスワード' (User Password), 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input), and three permission options: '手動接続・切断を許可' (Allow manual connection/disconnection), '接続設定編集を許可' (Allow connection settings editing), and '通信記録表示・クリアを許可' (Allow communication record display/clearing). The permission options are set to 'する' (Allow) or 'しない' (Disallow) with radio buttons.

- ⑥使用者1～4 [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。(入力例：icom)
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。(表示例：****)
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。(表示例：****)
- ⑩接続設定編集を許可 使用者に接続先の追加や、設定の編集を許可するかしないかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかしないかの選択です。

2 本体設定と管理

2. [SYSLOG設定]画面

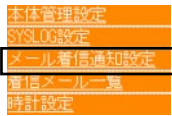


ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



- | | |
|------------------|--|
| ①<登録> | この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。 |
| ②<取消> | この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |
| ③DEBUGを使用 | ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 |
| ④INFOを使用 | INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 |
| ⑤NOTICEを使用 | NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。 |
| ⑥ホストアドレス | SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。 |
| ⑦ファシリティ | SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常「1」を使用します。 |

3. [メール着信通知設定]画面



登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨ しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑬ ⑭ ⑮

01	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
02	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
03	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
04	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する
05	<input type="checkbox"/>	[A]	の	[B]	が	[C]	と一致	する	メールを	表示	する

該当しないメールを 表示 する

①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

サーバ設定

本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための情報を設定する画面です。

指定の接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続を行います。

対応するプロトコルは、POP3だけです。

③メール着信通知機能を使用 ... メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。
 この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[MSG]ランプを点滅すると同時に、その内容を[着信メール一覧]画面(☞P28)に表示します。

④メールサーバ(POP) メールサーバのサーバ名を入力します。
 ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
 ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

2 本体設定と管理

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨ しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input checked="" type="checkbox"/>	⑭ To の 先頭 が [] と一致する [] メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が [] と一致する [] メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が [] と一致する [] メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が [] と一致する [] メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを 表示 [E] する

該当しないメールを 表示 する

- ⑤メールアカウント メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。入力例：メールアドレスが、「SR11@icom.co.jp」のときは、「SR11」と入力します。
ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑥メールパスワード メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力任意の英数字、半角31文字以内でします。
- ⑦確認時刻(時:分)/間隔(分) ... メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位で入力します。
時刻で指定したときは、[時計設定]画面(⇒P29)に設定された時刻を基準に動作します。
- ⑧接続先 メールサーバへアクセスするとき使用する接続先を選択します。印をクリックすると、登録されている接続先を表示しますので、その中から選びます。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

メール転送設定

[サーバ設定]で設定したメールサーバに着信したメールを、別のメールサーバに転送するための情報を設定する画面です。

接続先が指定する内容を、該当する欄に設定します。

設定内容については、接続先のネットワーク管理者(インターネットサービスプロバイダー)にお尋ねください。

- ⑨メール転送機能を使用 メール転送機能を使用するかしないかを選択します。
メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。
- ⑩転送先メールサーバ(SMTP) 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑪転送先メールアドレス 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑫発信元メールアドレス メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- 転送機能制限事項 表示可能文字数
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
制限を超えた文字列については、表示されません。

2 本体設定と管理

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨ しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

登録/取消

番号 使用

フィルタ動作 ⑮

番号	⑬	⑭	フィルタ動作	⑮								
01	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する	
02	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する	
03	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する	
04	<input type="checkbox"/>	To	の	先頭	が		と一致	する	メールを	表示	する	
05	<input type="checkbox"/>	[A]	の	[B]	が	[C]	と一致	[D]	メールを	[E]	する	
該当しないメールを											表示	する

メールフィルタ

メール着信通知機能を使って[着信メール一覧]画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

- ⑬番号 最大6(5+1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
01~05番の条件に該当しない場合は、最下欄の「該当しないメールを」で指定する内容にしたがいます。
- ⑭使用 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

⑮フィルタ動作

比較する対象になる条件を、この欄の 印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
 下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

- [A]：比較対象条件
 - To : 宛先の文字列が対象
 - CC : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
 - From : 差出人の文字列が対象
 - Subject : 件名の文字列が対象
- [B]：比較対象条件
 - 一部 : 文字列の一部が対象
 - 先頭 : 文字列の先頭が対象
 - 末尾 : 文字列の末尾が対象
- [C]：比較対象条件
 - 入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
- [D]：比較対象条件
 - する : 比較対象条件と一致するメールが対象
 - しない : 比較対象条件と一致しないメールが対象
- [E]：比較対象条件 / 該当しないメールを
 - 表示 : 対象となるメールを表示する
 - 無視 : 対象となるメールを表示しない
 - 転送 + 表示 : 対象となるメールを転送して表示する

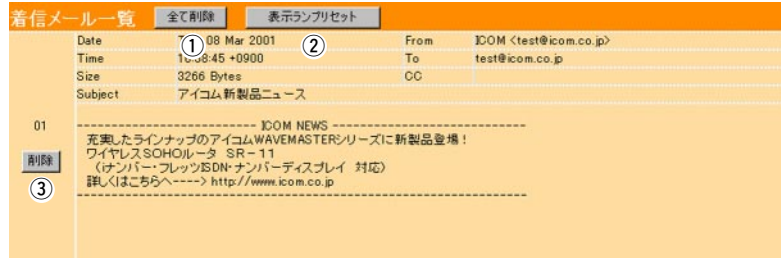
新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプを点滅して、着信したことを通知します。

2 本体設定と管理

4. [着信メール一覧]画面



メール着信の一覧を表示する画面です。
下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。



①<全て削除>

この画面に表示するメールをすべて削除します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

②<表示ランプリセット>

クリックすると、[MSG]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

③<削除>

このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

制限事項

最大表示件数：16件
表示が17件以上になると古い順に消去されます。
メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

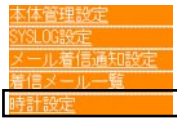
着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

制限を超えた文字列については、表示されません。

メールフィルターが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルタ]画面で設定する条件と比較対象外として処理します。

メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。

5. [時計設定]画面



登録		取消	
内部時計設定			
① 本体の時刻	②	2000年	01月 01日 01時 40分
③ 設定する時刻	④	2001年	02月 09日 13時 27分
自動時計設定			
⑤ 自動時計設定を使用	⑥	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	
NTPサーバ1 IPアドレス	⑦	133.100.9.2	
NTPサーバ2 IPアドレス	⑧		
アクセス時間間隔	⑨	1 日	
前回アクセス日時	⑩	---/---/---	
次回アクセス日時		2000/01/02 00:00	

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定できます。
ダイヤルアップ接続で、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

2 本体設定と管理

この章では、
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体ネットワーク設定]画面	32
2. [無線LAN設定]画面	36
3. [簡易DNSサーバ設定]画面	40
4. [IPフィルタ設定]画面	41
5. [RIP設定]画面	45
6. [ルーティング設定]画面	46

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面

- ① 本体ネットワーク設定
- ② 簡易LAN設定
- ③ 簡易DNSサーバ設定
- ④ IPフィルタ設定
- ⑤ RIP設定
- ⑥ ルーティング設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称	SR-11
⑤ IPアドレス	192.168.0.1
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定

リモートアクセスサーバを使用 ⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1 ⑧		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス ⑩	192.168.0.10	
割り当て個数 ⑪	90 個	
サブネットマスク ⑫	255.255.255.0	
リース期間 ⑬	9 日	
ドメイン名 ⑭		
プライマリDNSサーバ ⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ ⑯		
プライマリWINSサーバ ⑰		
セカンダリWINSサーバ ⑱		

静的DHCPサーバ設定

登録の追加	MACアドレス	IPアドレス

現在の登録	MACアドレス	IPアドレス
-------	---------	--------

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P40)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P15)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P15)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。	
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定					
④ 本体名称	SR-11				
⑤ IPアドレス	192.168.0.1				
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0				
リモートアクセス用IP設定					登録/取消
リモートアクセスサーバを使用	⑦ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
IPアドレス1					DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
⑧ IPアドレス2					
DHCPサーバ設定					登録/取消
DHCPサーバ機能を使用	⑨ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
割り当て開始IPアドレス	⑩ 192.168.0.10				
割り当て回数	⑪ 90 回				
サブネットマスク	⑫ 255.255.255.0				
リース期間	⑬ 9 日				
ドメイン名	⑭				
プライマリDNSサーバ	⑮				DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑯				
プライマリWINSサーバ	⑰				
セカンダリWINSサーバ	⑱				
静的DHCPサーバ設定					登録/取消
登録の追加					
MACアドレス		IPアドレス			
				追加	
現在の登録					
MACアドレス		IPアドレス			

⑦ リモートアクセスサーバ
を使用

本製品に有線または無線で直接接続されていない遠隔地のパソコンを、ローカルネットワーク上のパソコンとして認識させ、リモートアクセスすることができます。
この項目で「する」を選択し、さらに2つのリモートアクセス用IPアドレス(下記「⑧IPアドレス1/IPアドレス2」)を設定することで、リモートアクセスが可能となります。

⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ...

リモートアクセスさせたいパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。
設定するときは、次のことに注意してください。

- IPアドレスは、2つ(IPアドレス1/IPアドレス2)設定する
- 本製品のIPアドレスと同じネットワーク部をもつIPアドレスを、リモートアクセスさせたいパソコンに設定する
- 例：「192.168.0.1」であれば、ドット(.)で区切られた上位3グループの「192.168.0.」が同じIPアドレスを設定します。
- 本製品や、ローカルネットワーク上のパソコンに割り当てられるIPアドレスと重複しないように設定する
- リモートアクセスするパソコンがDNSを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスをリモートアクセスするパソコンに設定してください。

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動	
このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。					
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定					
④	本体名称	SR-11			
⑤	IPアドレス	192.168.0.1			
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0			
リモートアクセス用IP設定					
リモートアクセスサーバを使用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する					
⑧	IPアドレス1				
⑧	IPアドレス2				
DHCPサーバ設定					
DHCPサーバ機能を使用 <input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する					
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10			
⑪	割り当て個数	90 個			
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0			
⑬	リース期間	9 日			
⑭	ドメイン名				
プライマリDNSサーバ					
セカンダリDNSサーバ					
プライマリWINSサーバ					
セカンダリWINSサーバ					
静的DHCPサーバ設定					
登録の追加					
MACアドレス		IPアドレス			
				追加	
現在の登録					
MACアドレス		IPアドレス			

- ⑨DHCPサーバ機能を使用 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩割り当て開始IPアドレス 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪割り当て個数 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫サブネットマスク 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬リース期間 DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおよす期限を日数で指定します。
- ⑭ドメイン名 Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and fields:

- ① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定**
 - ④ 本体名称: SR-11
 - ⑤ IPアドレス: 192.168.0.1
 - ⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- リモートアクセス用IP設定**
 - ⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
 - ⑧ IPアドレス1: []
 - IPアドレス2: []
- DHCPサーバ設定**
 - ⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する
 - ⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
 - ⑪ 割り当て回数: 90 個
 - ⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0
 - ⑬ リース期間: 9 日
 - ⑭ ドメイン名: []
 - ⑮ プライマリDNSサーバ: []
 - ⑯ セカンダリDNSサーバ: []
 - ⑰ プライマリWINSサーバ: []
 - ⑱ セカンダリWINSサーバ: []
- 静的DHCPサーバ設定**
 - 登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
[]	[]
 - 現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
[]	[]

- ⑮プライマリDNSサーバ [接続]画面(⇒P5)で設定した同項目の内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ [接続]画面(⇒P5)で設定した同項目の内容をこの項目に反映します。上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑲静的DHCPサーバ設定 DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの接続設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



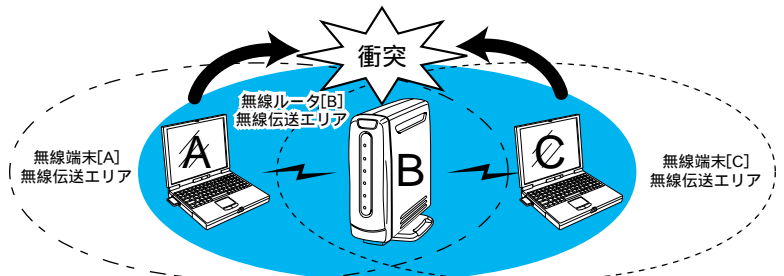
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「*」で表示されます。(表示例：**)
- ⑤ESS IDの確認入力 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別に注意してください。(表示例：**)
- ⑥チャンネル 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
無線LAN設定															
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
ESS IDの確認入力 ⑤	**														
無線詳細設定															
チャンネル ⑥	14														
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し														
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する														
キージェネレータ ⑨															
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
選択	文字列														
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00														
MACアドレスセキュリティ設定															
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9														
登録の追加															
MACアドレス ⑬		追加													
現在の登録															
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況													

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

⑨キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「*」で表示します。(表示例：* *) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

⑩WEPキー

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

⑪MACアドレスセキュリティを使用

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
無線LAN設定																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
無線詳細設定																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
MACアドレスセキュリティ設定																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
登録の追加																	
MACアドレス	⑬			追加													
現在の登録																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

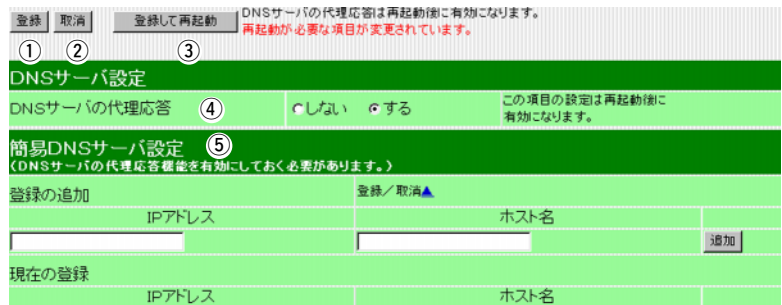
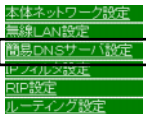
入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333
無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

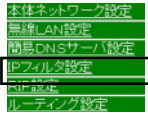
3 ネットワーク

3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面



IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ② 編集 ③

フィルタ方向 ④ OUT

フィルタ方法 ⑤ 遮断

プロトコル ⑥ ALL その他選択時

ポート番号 ⑦ 宛先 ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス	始点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255
終点IPアドレス	終点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス	始点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255
終点IPアドレス	終点サブネットマスク
<input type="text"/>	255.255.255.255

	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	⑩	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-

①<追加>

上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。
追加した内容は、この画面の下に表示されます。

②番号

最大64件のフィルターを登録できます。
フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに、登録されたフィルターと比較します。
この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

③<編集>

設定済みのフィルターを編集するボタンです。
編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。

④フィルタ方向

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。

- OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑤フィルタ方法

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑥プロトコル

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑦ポート番号

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	宛先IPアドレス		
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

⑨宛先IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除>

設定したフィルターを削除するボタンです。

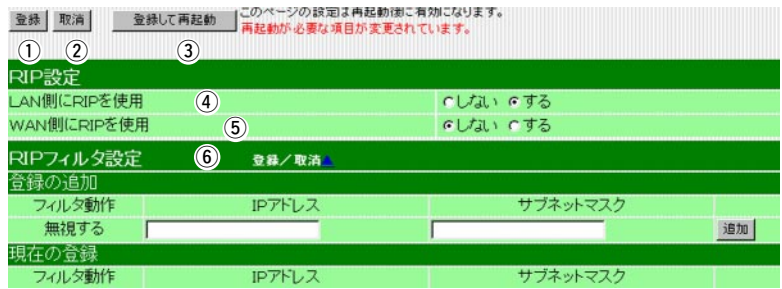
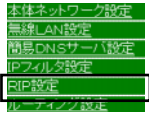
ご参考に

ISDNダイヤルアップ回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		宛先IPアドレス			
				方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。
63、64番 : Windows 95/98/NT/2000が行う定期的な通信によって発生する「意図しない自動接続」を防止

5. [RIP設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。

RIP設定

RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。

LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。

RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

- ④LAN側にRIPを使用 LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
最大20件の登録が可能です。
入力後は、<追加>をクリックしてください。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静態DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- rip設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	loc	sta	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号 設定 編集

接続方法 手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 01:プロバイダ

発信元IPアドレス -

プロトコル制御 使用しない ポート番号 -

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断 しない する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P47)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
 - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
 - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
 - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 拒絶するを選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ1				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	使用しない する				

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(☞P46)にも表示されます。

- ⑦経路
 - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、 印をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。

- ⑧宛先

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。

- ⑨ネットマスク

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。

- ⑩ゲートウェイ

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。

- ⑪メトリック値

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0 ~ 16まで入力できます。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング ⑫ ⑬				
番号 ⑭	設定	編集		
接続方法 ⑮	手動発信	* 拒絶する*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます		
経路 ⑯	01:プロバイダ			
発信元IPアドレス ⑰	-			
プロトコル制御 ⑱	使用しない	ポート番号	-	
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲				
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00			
終了時刻で強制切断 ㉑	しない、する			

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

セレクトルーティング

スタティックルーティングに加えて、以下の機能を併せて設定することで、より詳細な条件でルーティングが行えます。

- 発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手(相手先のパソコンを限定する)と通信できるソースルーティング機能
- プロトコルとポート番号を指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能
- IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

⑫<設定>

入力した値を、本製品に設定するボタンです。
クリックすると、一番下の欄に、設定した内容を表示します。

⑬<編集>

設定されている内容を変更・編集するために、画面の各欄に表示させるボタンです。

変更・編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「⑭番号」欄に入力してから、このボタンをクリックします。

⑭番号

データを送受信する優先度を、1～16の番号で指定する欄です。
半角数字で入力し、最大16件、登録できます。

小さい番号に設定された内容が優先して比較され、設定内容と一致すると、それ以降の内容については比較しません。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.0 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ1				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する				

⑳	㉑	⑲	⑱	⑰	⑯	⑮
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名
01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

⑳	㉑	⑲	⑱	⑰	⑯	⑮
発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断	
	使用しない			00:00 - 00:00	し/しない	

⑮接続方法

送受信するデータが、登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。

「手動発信」を選択すると、その接続先について手動接続します。

「自動発信」を選択すると、その接続先について自動接続します。

「拒絶する」を選択すると、その接続先へは接続しません。

ISDNダイヤルアップ環境で、「自動発信」を設定される場合は、意図しない接続でも、通話料が課金されることがありますので、注意してください。

⑯経路

登録された接続先を選択します。

複数の接続先が登録されている場合、 印をクリックして選択します。

セレクトルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティング経路よりもソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をソースルーティングの経路に選択すると、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、メール着信通知機能と同じ接続先(⇒P23)を選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。

[接続状況]画面において、通常の「自動接続」は赤色の文字、「手動接続」は黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、セレクトルーティングの経路に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 * 拒絶する*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	*しない、*する				

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

- ⑰発信元アドレス セレクトルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。
 一台だけ指定するときは、左のボックスに入力します。
- ⑱プロトコル制御 優先ルーティングとして使用する場合、使用プロトコル、およびそのポート番号を指定します。
 ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやWEBブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。
 たとえば、メール受信専用を設定するときは、使用プロトコルを「TCP」、ポート番号を「110」に設定します。
- ⑲宛先IPアドレスまたはドメイン名 接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。
 ワイルドカードとして、「?」「*」が入力できます。また、「?」は任意の一文字、「*」は任意の文字列として認識されます。
 この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。
 URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に「⑮接続方法」を「拒絶する」に設定してください。
 たとえば、[* .icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録						
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値		

セレクトルーティング ⑫ ⑬						
番号 ⑭	経路	接続方法 ⑮	発信元IPアドレス ⑰	プロトコル制御 ⑱	宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲	使用する時間帯 ⑳
		手動発信		使用しない		00 : 00 ~ 00 : 00
						終了時刻で強制切断 ㉑
⑳	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔
削除	01	01:プロバイダ1	手動発信	使用しない		00:00 - 00:00

⑳セレクトルーティングを使用する時間帯

設定された経路情報の利用開始時刻と終了時刻を入力します。開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

開始および終了時刻は、<本体設定と管理>メニューの[時計設定]画面で設定(⇒P29)された時刻で動作します。必ず、<回線と接続>メニューの[接続状況]画面に表示される時刻を確認してください。

㉑終了時間で強制切断

上記「㉑セレクトルーティングを使用する時間帯」で設定された時間を経過したときに、通信中でも強制的に切断するかどうかを選択します。

㉒設定内容表示

セレクトルーティングとして設定されている内容を表示します。

㉓<削除>

このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

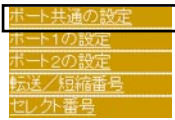
3 ネットワーク

この章では、
設定ページの、<アナログ設定>メニューで表示される画面について説明します。

1. [ポート共通の設定]画面	54
2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面	56
3. [転送 / 短縮番号]画面	63
4. [セレクト番号]画面	64

4 アナログ設定

1. [ポート共通の設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③内線通話の使用設定 [TEL1]と[TEL2]に接続されたアナログ機器間での内線通話形態を選択します。
- 内線を使用しない
アナログ機器間で、通話しません。
 - 内線のみ使用する
アナログ機器間で、通話します。
どちらのアナログ機器からでも「*」「0」とダイヤルすることで、もう一方を呼び出しできます。
 - 内線転送を使用する(出荷時の設定)
外線電話を、内線通話を介して取り次ぎます。
- ④フレックスホン機能 フレックスホン(コールウェイティング、通信中転送、三者通話、着信転送機能)の利用形態を設定します。
- 疑似(出荷時の設定)
フレックスホン機能を利用しない、またはNTTとフレックスホンの契約をしないで、ほぼ同等の機能を利用したい場合に選択します。
 - NTTとの契約による
NTTが提供するフレックスホンを利用します。
(NTTとの契約が必要です)
- ⑤コールウェイティング 通話中に新たな電話がかかってきたときに、通話中の電話を切らずに、かかってきた電話に応答する機能です。
契約/設定内容によって、三者通話、通信中転送に移行することができます。
- ⑥通信中転送 通話を、第三者(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。

1. [ポート共通の設定]画面(つづき)

登録		取消	
①	②	内線通話	
内線通話の使用設定		内線転送を使用する	
フレックスホンの設定			
登録 / 取消			
③ (注意)NTTフレックスホンの使用になる場合はNTTとの契約が必要です。			
フレックスホン機能		④ <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による	
コールウェーティング	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェーティングをした場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。
通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	⑦	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	⑧	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
優先着信			
登録 / 取消			
優先着信	⑨	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	⑩	02 秒	
リソースBOD			
発信割り込みを使用	⑪	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
受信割り込みを使用	⑫	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

- ⑦三者通話 三人で通話する機能を使用するかしないかを選択します。契約 / 設定内容によって、他の二者間の通話にすることもできます。
- ⑧着信転送 転送先の電話番号は、[転送 / 短縮番号]画面、「③着信転送番号の登録」(P63)で設定します。
- ⑨優先着信 着信時に、どちらのポートに接続されたアナログ機器の着信音を優先して鳴らすかを指定します。
- すべてのポートに着信(出荷時の設定)
両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が同時に鳴ります。
 - ポート1を優先
[TEL1]に接続されたアナログ機器の着信音が優先して鳴ります。
 - ポート2を優先
[TEL2]に接続されたアナログ機器の着信音が優先して鳴ります。
- ⑩時間差優先着信 上記、「⑨優先着信」で優先指定したポートに接続されたアナログ機器だけの着信音を鳴らす時間を設定します。設定した時間を経過しても応答しない(受話器を取らない)場合、両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が鳴ります。なお、0秒に設定した場合は、優先指定したポートに接続されたアナログ機器の着信音しか鳴りません。ただし、優先指定されたポートが通話中の場合、もう一方のポートへ着信させます。
- ⑪発信割り込みを使用 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器からの発信を許可するかしないかを選択します。受話器を取ることで、1Bの通信に自動的に切り替わります。
- ⑫受信割り込みを使用 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器への着信を許可するかしないかを選択します。着信中は、1Bでの通信となります。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面



登録		取消	
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③		ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
セレクト着信 ⑯	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
送信機能 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	する <input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/>		
ダイヤルタイミング 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送 登録/取消▲			
転送トーカー ㉒	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>		
転送元トーカー ㉓	あり <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/>		
起動タイミング ㉔	呼出回数	4 回	即、起動

- ①<登録>
- ②<取消>
- ③回線番号(ダイヤルイン番号)
*サブアドレス

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

NTTのダイヤルインサービス(有料)を契約している / 契約する場合ダイヤルイン番号を入力します。ポートごと(TEL1、TEL2)にダイヤルイン番号を入力(ひとつは回線契約番号でもよい)することで、着信形態を個別に指定できます。また、本製品の機能を活用するためにも、入力する必要があります。

なお、ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号にかかってきた電話を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信する機能)が含まれます。(契約時に、「グローバル着信する」で契約することをおすすめします。)

NTTのダイヤルインサービス(有料)が未契約 / 契約しない場合何も入力しません。ただし、サブアドレスを利用して、着信形態を個別に指定する場合は、回線契約番号に続けて「*(アスタリスク)+サブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力します。(NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、この欄に入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたときに限り、着信します。)

サブアドレスを設定すると、アナログ回線契約者からの電話を着信できなくなりますので、ご注意ください。

アナログ回線契約者からの電話においても着信形態を指定したい場合は、ダイヤルインサービス、i-ナンバーサービス(いずれも有料)などをご契約ください。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消	
① ② 設定	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	i・ナンバーポート ④ <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▾	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▾
無の自動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ポート使用設定 ⑧	<input type="checkbox"/> 宛着信で使用 ▾
受話音量 ⑨ 標準 ▾	送話音量 ⑩ 標準 ▾
なりわけ着信機能 着信拒否する ▾ ⑬	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▾
	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▾
	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▾
着信機能	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
送信機能	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ダイヤルタイミング	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒
フッキング判定時間 ㉑	1 秒
着信転送	
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>

④ i・ナンバーポート

[TEL1]、[TEL2]に割り当てる i・ナンバーを選択します。

i・ナンバーサービス(有料)の契約にて取得した2つ、または3つの電話番号を、[TEL1]、[TEL2]に設定することにより、アナログ機器を鳴り分けることができます。

⑤ 接続機器の種類

接続されているアナログ機器の種類を選択します。

- 標準設定：接続する機器を指定しません。(出荷時の設定)
- 電話：アナログ電話機専用です。
- FAX：G3FAX専用です。
- モデム：アナログモデム専用です。

接続機器の種類を「電話」または「FAX」と指定すると、アナログ回線とISDN回線契約者から高位レイヤ整合性をつけずに発信された通信(電話、FAX)は着信できなくなりますので、ご注意ください。

⑥ ナンバーディスプレイ

- 対応しない(出荷時の設定)

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続していない場合に選択します。

- INSナンバーディスプレイ

ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続している場合に選択します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線からの発信は、番号が表示されません。

- キャッチホンナンバーディスプレイ

キャッチホンナンバーディスプレイに対応した電話機や表示器などを接続し、キャッチホン・ディスプレイサービスを契約(有料)している場合に選択します。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消	
① ② 設定	
回線番号(ダイヤルイン/番号)*サブアドレス ③	④ ナンバー ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▾	⑥ ナンバーディスプレイ 対応しない ▾
⑦ 無鳴動着信 標準 ▾	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
⑧ ポート使用設定 標準 ▾	着信音で使用 ▾
⑨ 受話音量 標準 ▾	⑩ 送話音量 標準 ▾
⑪ 外線呼出音 呼出音1 ▾	⑫ 内線呼出音 呼出音1 ▾
⑬ なりわけ着信機能 着信拒否する ▾	⑭ なりわけ呼出音 呼出音1 ▾
着信機能 登録/取消▲	
⑮ グローバル着信 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
⑯ セレク外着信 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
⑰ 通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
送信機能 登録/取消▲	
⑱ 発信者番号通知 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
⑲ 高位レイヤ整合性を上げて発信 <input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
ダイヤルタイミング 登録/取消▲	
⑳ ダイヤル待ち時間 5 秒	
㉑ フッキング判定時間 1 秒	
着信転送 登録/取消▲	
㉒ 転送トーカー <input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
㉓ 転送元トーカー <input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	
㉔ 起動タイミング 呼出回数 4 回	即、起動 ▾

- ⑦無鳴動着信 無鳴動着信機能を持ったFAXを接続している場合、着信音を鳴らさずに対応させることができます。
- しない：着信音が鳴ってから応答します。(出荷時の設定)
 - する：着信音が鳴らずに応答します。
- ⑧ポート使用設定 接続されたアナログ機器の使用用途の制限を選択します。
- 着信音で使用：通常どおりに使用できます。(出荷時の設定)
 - 着信専用：電話をかける/FAXを送ることはできません。
 - 発信専用：電話をとる/FAXを受信することはできません。
 - 使用しない：動作しません。
- ⑨受話音量 受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。アナログ機器に受話音量調整機能がある場合は、この設定と併せて適量に調整してください。
- ⑩送話音量 相手の受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。
- 「最大」にすると、比較的小さな声でも相手にハッキリ聞こえますが、「最小」では大きな声で話さないと相手にハッキリ聞こえません。
- ⑪外線呼出音 外線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。
- 「⑫内線呼出音」(☞P59)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
- 呼出音1(出荷時の設定)
 - 呼出音2
 - 呼出音3

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③			
ナンバー ④			
ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3			
接続機器の種類 ⑤	ナンバーディスプレイ ⑥		
標準設定	対応しない		
無の鳥動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨	送話音量 ⑩	外線呼出音 ⑪	内線呼出音 ⑫
標準	標準	呼出音1	呼出音1
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音	なりわけ呼出音	呼出音1
着信拒否する ⑬	呼出音1	呼出音1	⑭
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーンキ ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーンキ ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即時起動	

- ⑫内線呼出音 内線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。
「⑪外線呼出音」(☞P58)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
●呼出音1(出荷時の設定)
●呼出音2
●呼出音3
- ⑬なりわけ着信機能 あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信形態を設定します。
●通常・話中共に着信：通話中に着信すると、着信していることを音でお知らせします。
●話中は着信しない：通話中は着信しません。
●着信拒否する：登録した電話番号からの電話のみ着信します。
(出荷時の設定) (未登録電話番号からの電話は着信しません)
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。
- ⑭なりわけ呼出音 あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信音パターンを設定します。
●呼出音1(出荷時の設定)
●呼出音2
●呼出音3
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発信音で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即、起動	

⑮グローバル着信

グローバル着信を利用する内容でダイヤルインサービス(有料)を契約している場合、回線契約番号にかかってきた電話を、ダイヤルイン追加番号を割り当てたポートにも着信させる設定です。

- する : 回線契約番号でかかってきた電話を着信します。
(出荷時の設定)
- しない : 回線契約番号でかかってきた電話を着信しません。

注意! ダイヤルインサービスが未契約で、[回線設定]画面の「④電話番号」(☞P18)、本画面の「③回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス」(☞P56)が空欄の場合、または回線契約番号を設定したポートでも、本項目は「する」に設定してください。「しない」を設定すると、まったく着信できなくなります。

⑯セレクト着信

本製品に任意の電話番号を登録することにより、それらから発信された電話の着信形態を指定するかしないかを選択します。

- する : 発信者により、着信形態を指定します。
- しない : 着信形態を指定しません。

電話番号は、[セレクト番号]画面(☞P64)で登録します。

「する」に設定した場合、「⑧ポート使用設定」(☞P58)で「発信専用」に設定されていても、有効です。

⑰通話中に着信があると音でお知らせ

通話中に新たな着信があった場合、音で通知するかしないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「⑤コールウェイティング」(☞P54)を「する」としている場合、本設定を「する」に設定します。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

⑱発信者番号通知 電話をかけたときに、「③回線番号(ダイヤルイン番号)*サブダイヤル」(⇨P56)で設定された番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。

⑲高位レイヤ整合性をつけて
発信 [TEL1]、[TEL2]に接続されている機器の種類(電話、FAXなど)を相手先に通知することで、ISDN回線契約している発信先の接続機器ごとに鳴り分け(自動応答)をするかしないかを選択します。
「⑤接続機器の種類」(⇨P57)で、「電話」または「FAX」を選択し、この項目で「する」を選択すると、相手先のTAなどで、接続機器の種類が「電話」か「FAX」に指定されている場合に限り、発信装置に合わせて該当する機器が自動的に応答します。

⑳ダイヤル待ち時間 [TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器から電話をかけたとき、末尾番号がダイヤルされてから発信するまでの時間を設定します。

㉑フッキング判定時間 フックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断されるまでの時間を設定します。
設定された時間内にフックボタンをはなす(受話器を取る)と、保留状態となり、通話の転送ができます。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▾	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▾		
無鳴動着信 ⑦ ポート使用設定 ⑧	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない 宛着信で使用 ▾		
受話音量 ⑨ 標準 ▾	送話音量 ⑩ 標準 ▾	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▾	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▾
なりわけ着信機能 着信拒否する ▾ ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▾		
着信機能 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送 登録/取消▲			
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 即、起動 ▾		

㉒転送トーク

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、電話をかけてきた相手に対して、「ただいま電話を転送していますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P54)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

㉓転送元トーク

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、転送電話をつなく前に、転送先電話機の手話器を取った相手に対して、「電話が転送されますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P54)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

㉔起動タイミング

着信転送を設定している状態で電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ転送を開始するタイミングを設定します。

- 即、起動 : 着信すると同時に、転送が開始されます。
(出荷時の設定)
- 呼出後起動 : 着信音が、「呼出回数」で設定された回数鳴ったあと、転送が開始されます。

3. [転送 / 短縮番号設定]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送 / 短縮番号**
- レレ外番号

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信転送番号の登録 [ポート共通の設定]画面の「⑧着信転送」(☞P55)を「する」に設定している場合の転送先を設定します。
 - 転送先名：転送先の名称や名前を入力します。
 - 電話番号：転送先の電話番号を市外局番から入力します。
NTTとの契約で、着信転送オプションがなくても、動作します。
「転送先電話番号2」は、[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(☞P54)を「疑似」に設定していて、「転送先電話番号1」が話中などの理由でつながらないとき、かけ直す電話番号です。
- ④短縮ダイヤルの登録 [TEL1]または[TEL2]に接続されたアナログ機器に共通の短縮ダイヤルを、最大20個、登録できます。
アナログ機器の[*]ボタンに続けて2桁の番号をダイヤルするだけで、登録された相手先に電話をかけることができます。
このとき、[ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面の「⑩ダイヤル待ち時間」(☞P61)で設定した時間に関係なく、直ちに発信します。
 - 名前 : 相手先の名称や名前を入力します。
 - フリダイヤル：電話番号ごとに、発信者番号の通知 / 非通知および利用する電話会社を指定する場合に、電話番号の前にダイヤルする番号(例：186 / 184、0070、0041など)を入力します。
 - 電話番号 : 相手先の電話番号を、市外局番から入力します。

4 アナログ設定

4. [セレクト番号]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送/短縮番号
- セレクト番号**

登録した電話番号(ISDN回線契約者)からの発信について、着信形態を指定します。最大20件登録できます。

[ポート1の設定] / [ポート2の設定]画面の「⑩セレクト着信」(≒P60)が「する」と設定されている場合に限り、有効です。

なお、アナログ回線からの発信についても着信形態を指定したい場合は、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

登録		取消		セレクト着信	
①	②				
登録01	相手先名 ③	電話番号 ④	着信ポート&着信動作 ⑤	着信呼出音 ⑥	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録02	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録03	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録04	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	

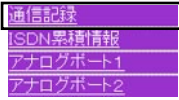
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③相手先名 相手先の名前や名称を入力します。
- ④電話番号 相手先の回線契約番号、ダイヤルイン番号またはi-ナンバーを、市外局番から入力します。
(入力例：012345679)
- ⑤着信ポート&着信動作
 - 両ポートに着信しない
着信を拒否します。
 - ポート1のみに着信する
[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
 - ポート2のみに着信する
[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
 - ポート1を優先して着信
[ポート共通の設定]画面、「⑩時間差優先着信」(≒P55)で設定された時間、[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL2]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
 - ポート2を優先して着信
[ポート共通の設定]画面、「⑩時間差優先着信」(≒P55)で設定された時間、[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL1]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
 - 両ポートに着信する(出荷時の設定)
[TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器に着信させます。
- ⑥着信呼出音 登録した電話番号から着信があったときの着信音パターンを選択します。内線 / 外線呼出音と区別することで、セレクト着信であることが、容易に判断できます。
 - 呼出音1(出荷時の設定)
 - 呼出音2
 - 呼出音3

この章では、
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [通信記録]画面	66
2. [ISDN累積情報]画面	67
3. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面	68

5 通信記録

1. [通信記録]画面



- ①<クリア>
- ②日付・時間
- ③通信記録

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

A screenshot of the communication record table. At the top left is a 'クリア' (Clear) button. Below it is a table with two columns: '日付・時間' (Date/Time) and '通信記録' (Communication Record). The first row shows '01/01 00:02:56' and '網より切断理由コード#38網障害'. The second row shows '01/01 00:02:56' and 'PPP02 手動接続要求番号(1234567890)'. Circled numbers 1, 2, and 3 point to the 'クリア' button, the '日付・時間' column, and the '通信記録' column respectively.

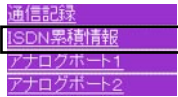
①	② 日付・時間	③ 通信記録
	01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

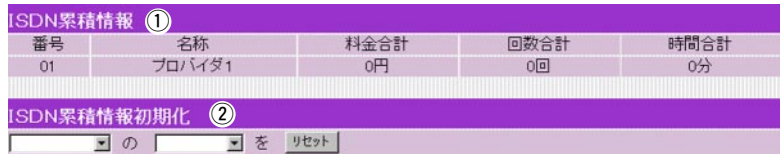
日時を表示します。

接続状況を表示します。

2. [ISDN累積情報]画面



ISDNダイヤルアップ接続する接続先への累積情報を表示します。



①ISDN累積情報.....

- 番号 : [接続先の追加]/[~の設定]画面(☞P3～6)にて登録された接続先の番号です。
- 名称 : [接続先の追加]/[~の設定]画面(☞P3～6)にて登録された接続先の名称です。
- 料金合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動接続で使用したデータ通信料金の累計を表示します。
表示される課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続回数の累計を表示します。なお、接続に失敗した(ユーザーIDの認証段階以前)通信は、加算されません。
- 時間合計 : 該当する欄の接続先に対して、自動および手動で接続した接続時間の累計を表示します。

②ISDN累積情報初期化.....

上記、「①ISDN累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する通信回線[A]と、項目[B]を、この欄の[]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。

[A]、[B]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]を<リセット>する

- [A] : 初期化対象通信回線
 - 全電話帳 : 登録されている全通信先
 - 01～20 : 登録されている通信先のいずれか1件
- [B] : 初期化対象項目
 - 全合計項目 : 料金・回数・時間の全合計
 - 料金合計 : 累積通信料金の合計のみ
 - 回数合計 : 累積通信回数の合計のみ
 - 時間合計 : 累積通信時間の合計のみ

5 通信記録

3. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面

通信記録	アナログポート1累積情報 ①
ISDN累積情報	ポート番号 料金合計 回数合計 時間合計
アナログポート1	1 0円 0回 0分
アナログポート2	

アナログポート1累積情報初期化 ②	
▼ を リセット	
クリア ③	
日付・時間 ④	通信記録 ⑤

①アナログポート1/2累積情報

- 料金合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話料金の合計を表示します。
表示された課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計：該当するポートに接続されたアナログ機器から電話をかけた回数の合計を表示します。なお、つながらなかった場合(相手先が話し中など)は、加算されません。
- 時間合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話時間の合計を表示します。

②アナログポート1/2累積情報 初期化

「①アナログポート1/2累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する項目を、この欄の[]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。
プルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

- 初期化対象項目
全合計項目：料金・回数・時間の全合計
料金合計：累積通話料金の合計のみ
回数合計：累積発信回数の合計のみ
時間合計：累積通話時間の合計のみ

③<クリア>

「④日付・時間」と「⑤通信記録」に表示される内容を、消去します。

④日付・時間

電話をかけた / 電話がかかってきた日時を表示します。

⑤通信記録

本製品側からかけた電話は、ダイヤルした電話番号などを表示します。外部からかかってきた電話は、電話をかけてきた相手の電話番号、相手がダイヤルした電話番号などを表示します。

サブアドレスが設定 / ダイヤルされている場合は、サブアドレスも併せて表示します。

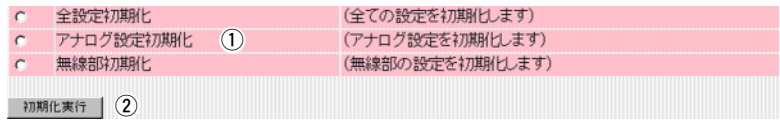
ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線契約者からかかってきた電話については、電話番号を表示しません。

この章では、
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [設定初期化]画面	70
2. [設定保存]画面	70

6 保存と記録

1. [設定初期化]画面



①初期化条件

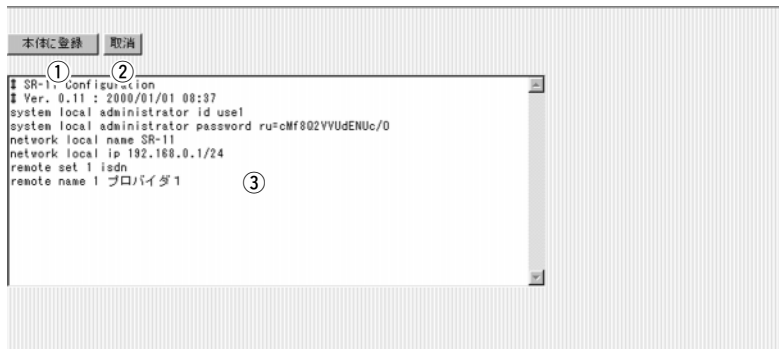
該当する初期化条件に合わせてラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化
[TEL1]、[TEL2]の設定を、出荷時の設定に戻します。
- 無線部初期化
無線LANに関係のある設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行>

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件にしたがって、初期化を開始します。

2. [設定保存]画面



①<本体に登録>

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消>

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面

全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、

ISDNダイヤルアップによる具体的な接続例に沿って、設定例を説明します。

なお、回線種別は、すでに設定されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略しています。(回線種別の設定は、16ページを参照してください。)

1. プロバイダーへ端末型接続する	72
[A] 手動接続する場合	72
[B] 自動接続する場合	77
2. 二地点間のLAN型接続	80
ルータAの設定	80
ルータBの設定	84
3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続	88
ルータAの設定	88
ルータBの設定	90
4. コールバックによるLAN型接続	95
ルータAの設定	95
ルータBの設定	96
5. スループットBODによるLAN型接続	97
ルータAの設定	97
ルータBの設定	99
6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開	101
7. 公衆回線からLANに接続	104
8. PHSからLANに接続	108

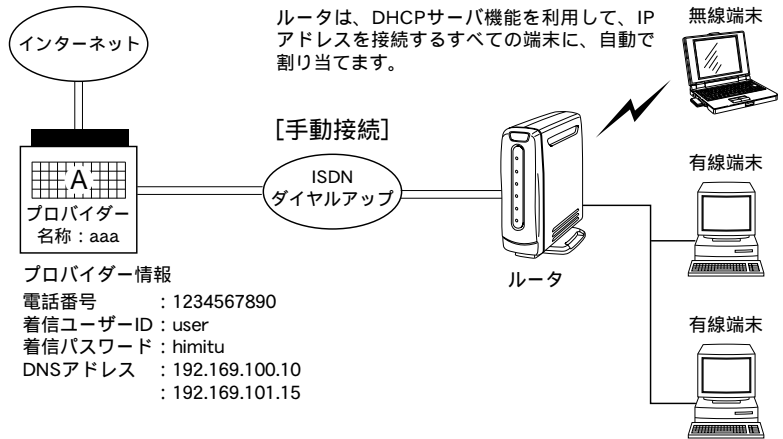
7 ISDNダイヤルアップの設定例集

1. プロバイダーへ端末型接続する

A 手動接続する場合

【条件】

- プロバイダーA：手動接続



工場出荷時、本製品が端末に自動で割り当てることができるIPアドレス数は、30個に設定されています。

IPアドレスを31台以上の端末に自動で割り当てて使用する場合は、[本体ネットワーク設定]画面の「⑩割り当て個数」(P34)で、割り当て個数を増やしてください。

なお、設定可能な範囲は、5～128個までです。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、プロバイダー情報を以下のように入力します。

7. クリック

1. aaa(任意でよい)

2. 1234567890

3. user

4. himitu
(表示: * * * * *)

5. 192.169.100.10

6. 192.169.101.15

登録 取消

接続設定

接続先名: aaa

電話番号1: 1234567890 * 以降はサブアドレス

電話番号2: * 以降はサブアドレス

電話番号3: * 以降はサブアドレス

ユーザID: user

パスワード: *****

認証プロトコル: 相手に合わせる

デフォルトGWを構築: しない する

コールバック要求: しない する

コールバック電話番号: * 以降はサブアドレス

プライマリDNSサーバ: 192.169.100.10

セカンダリDNSサーバ: 192.169.101.15

スループットBOD

BODを使用	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %
トラフィック量	2B→1B	25 %
		55~95の範囲で記載
		5~45の範囲で記載

マルチダイヤル機能(⇨P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力が必要です。

「5.プライマリDNSサーバアドレス」、「6.セカンダリDNSサーバアドレス」は、プロバイダーから指定されている場合に入力します。

3. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを入力します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消

管理者ID設定

管理者ID: router

管理者パスワード: *****

パスワードの確認入力: *****

使用者ID設定

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者1

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者2

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者3

使用者ID

使用者パスワード

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)


4. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を入力します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)



5. 無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線LANに関して以下のように入力します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの無線端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。



6. 回線の手動接続

再起動後、[接続状況]画面が表示されますので、以下の要領で操作します。

2. 接続完了後、「発信」を表示(確認)

1. クリック



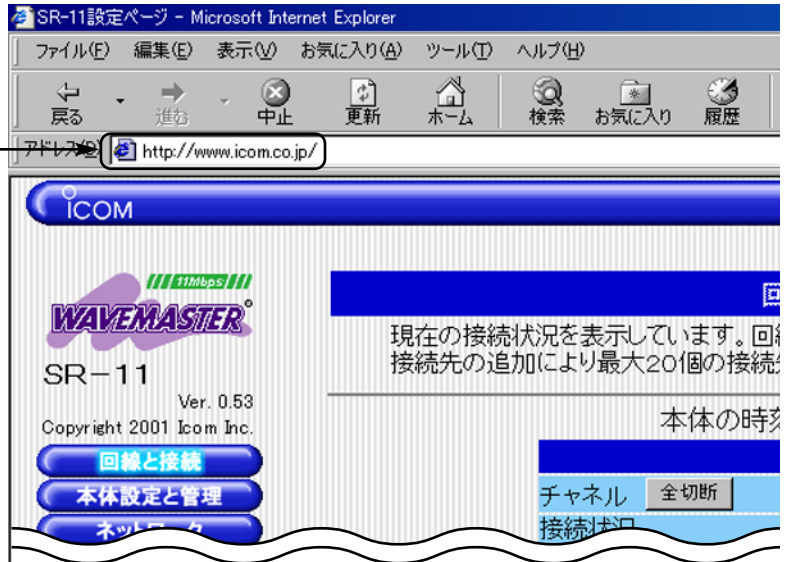
接続できないときは、正しく情報が入力されていることを確認してください。

1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

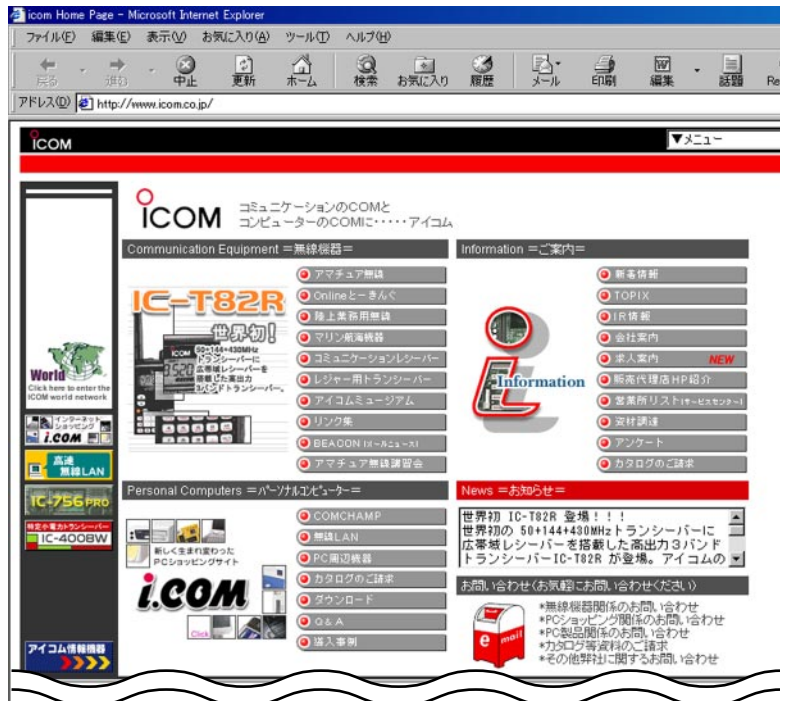
7. インターネットWebページの閲覧

操作例として、弊社ホームページを閲覧する場合、以下のように操作します。

1. <http://www.icom.co.jp/>
を指定



指定したURLのホームページ
を表示



7 ISDNダイヤルアップの設定例集

1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

8.回線の切断

切断には、下記のように、「自動切断」と「手動切断」があります。

[8-1 自動切断]

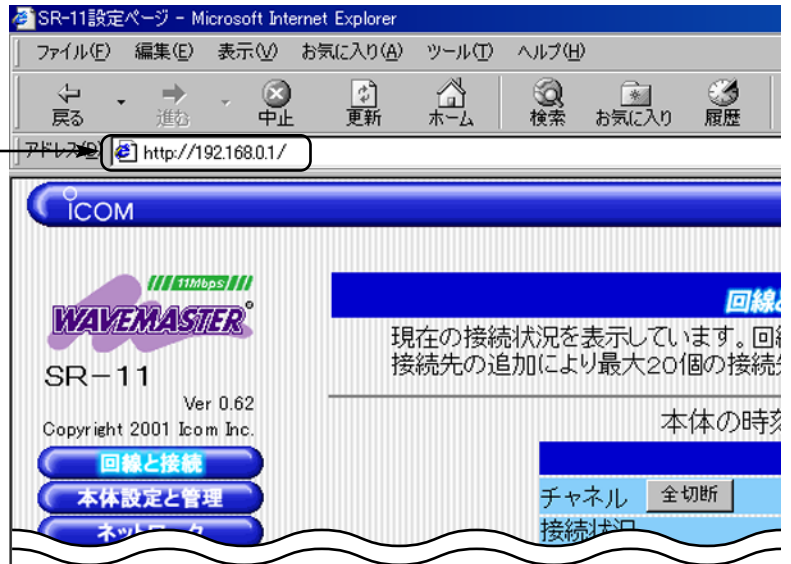
すべての無線および有線端末から、インターネットやメールサーバへのアクセスが150秒(出荷時の設定)以上ない場合は、回線を自動的に切断します。

150秒以上、自動切断されない場合は、ほかにインターネットにアクセスを行っているアプリケーションがないかを調べてください。

自動切断については、取扱説明書[基本編](⇒7-2章)をご覧ください。

[8-2 手動切断]

1. <http://192.168.0.1/>を指定



表示される<接続状況>画面で、以下の操作をします。

1. <全切断>をクリック
2. 回線切断後、何も表示しない(確認)



1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

㊦ 自動接続する場合

次の手順にしたがって自動接続の設定を行うと、WWWブラウザやメールソフト等でWebページやメールサーバにアクセスする操作をするだけで、自動的にダイヤルアップ接続が行えます。

自動接続には、下表のような操作が可能です。

ここで説明する手順は、「64k可変」(出荷時の設定)による設定手順について記載します。

BODについては、6ページの説明をご覧ください。

設定	接続時の通信速度	BOD	手動操作可能なボタン			
64k固定	64kbps	×	接続	全切断	B1切断	B2切断
128k固定	128kbps	×	接続	全切断	B1切断	B2切断
64k可変	64kbps		接続	全切断	B1切断	B2切断
128k可変	128kbps		接続	全切断	B1切断	B2切断

【ご注意】

自動接続をするように設定すると、ネットワークの設定内容や運用によっては、回線が長期接続されたり、意図しない自動接続が行われてしまうことがあります。

設定変更後は、本製品の[B1]ランプまたは[B2]ランプを確認するようにしてください。

【条件】

- プロバイダー-A：自動接続

「1.プロバイダーへ端末型接続する(㊦手動接続する場合)」の手順1.～6.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

2.自動接続設定

<aaaの設定>をクリックして、「自動接続」、「通信速度」を以下の要領で設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. []をクリックして、「64k可変」を選択

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

3.自動接続の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックします。

1. 「自動(64k可変)」表示
を確認



4.インターネットWebページの閲覧

操作例として、弊社ホームページを閲覧する場合、以下のように操作します。

1. <http://www.icom.co.jp/>
を指定



自動接続して、指定した画面
を表示

接続できないときは、正しく
情報が入力されていること
を確認してください。



1. プロバイダーへ端末型接続する(つづき)

5. 手動切断

直ちに通信回線を切断したい場合、設定ページ、[接続状況]画面にアクセスして、以下の操作を行います。

2. <B1切断>をクリック
1. 「発信」表示を確認
3. 回線切断後、何も表示しない(確認)

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 → B1 切断 B2 B2切断

接続状況 →

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

6. 手動「1B接続」の確認

1. 何も表示されていない(確認)
3. 「発信」表示を確認
2. <接続>をクリック

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 → B1 B1切断 B2 B2切断

接続状況 →

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

7. 手動「2B接続」の確認

1. 何も表示されていない(確認)
3. 「発信」表示を確認
2. <接続>をクリック

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 01時 00分

回線接続状況

チャンネル 全切断 → B1 B1切断 B2 B2切断

接続状況 →

接続先名

相手先電話番号

IPアドレス

接続時間

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

接続できないときは、接続先のプロバイダがMP接続に対応していることを確認してください。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

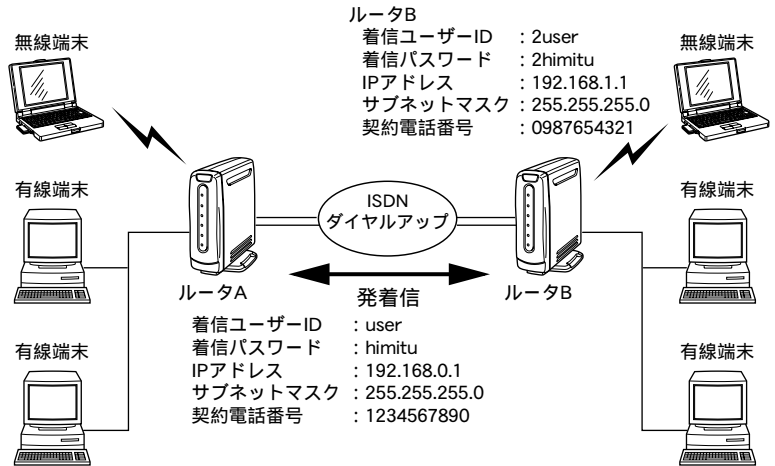
2. 二地点間のLAN型接続

【認証条件】

- 着信番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP

【その他の条件】

- Unnumbered接続
- 双方から発着信可能



ルータAの設定

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、接続先情報を以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
---------	---

1. bbb(任意でよい)	接続先名	<input type="text" value="bbb"/>	
2. 0987654321	電話番号1	<input type="text" value="0987654321"/>	* 以降はサブアドレス
	電話番号2	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
	電話番号3	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
3. 2user	ユーザID	<input type="text" value="2user"/>	
	パスワード	<input type="password" value="*****"/>	
4. 2himitu (表示: * * * * *)	認証プロトコル	<input type="text" value="相手に合わせる"/>	
	デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
	コールバック要求	<input type="text" value="しない"/>	
	コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
	プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>	
	セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>	

スループットBOD			<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
BODを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	BODを使用する場合は、通信速度を可変しておく必要があります。	
移行トラフィック量	1B→2B	<input type="text" value="75 %"/>	55～95の範囲で記載
	2B→1B	<input type="text" value="25 %"/>	5～45の範囲で記載

マルチダイヤル機能(⇐P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力必要。

プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバの欄は、接続先から指定された場合に入力します。

3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータBからの着信について、以下のように設定します。

6. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
---------	---

1. 「する」を選択	着信	<input checked="" type="radio"/> する	
2. 「する」を選択	電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> する	
3. user	通信チャンネル	2Bまで許可	
	PAPによる着信	許可	
	コールバック	不許可	
4. himitu (表示: * * * * *)	コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス
	ユーザID	<input type="text" value="user"/>	
	パスワード	<input type="password" value="*****"/>	
5. 「PAPまたはCHAP」を選択	認証方法	<input type="text" value="PAPまたはCHAP"/>	
	着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	

4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
---------	---

1. 「しない」を確認	アドレス変換	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	マスカレードIPアドレス	<input type="text"/>	本体WAN側Pを使用する場合は記載不要です。

静的マスカレードテーブル設定				<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
登録の追加				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	<input type="button" value="追加"/>
<input type="text"/>	TCP	<input type="text"/>	<input type="text"/>	
現在の登録				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	
<input type="text"/>				

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

5. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者/パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****
使用者ID設定	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	<input checked="" type="radio"/> する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
使用者ID	

6. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意)

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

ルータAでは、IPアドレス、サブネットマスクを、出荷時の状態とします

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

7.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを工場出荷時の状態(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

<無線LAN>をクリックして、無線LANについて、以下のように設定します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。)

無線LAN設定

ESS ID: **

ESS IDの確認入力: **

無線詳細設定 [登録/取消▲]

チャンネル: 14

Rts/Ctsスレッシュホールド: 無し

WEPキーを使用: しない する

キージェネレータ: []

WEPキー:

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定 [登録/取消▲]

MACアドレスセキュリティを使用: しない する

本体無線部のMACアドレス: 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス: [] [追加]

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、[接続状況]画面を表示します。

本体の時刻 : 2000年01月01日 00時13分

回線接続状況

チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	bbb	接続	手動	削除

ルータBの設定を、次ページを参考に行います。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

設定には、80ページの図と併せてご覧ください。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

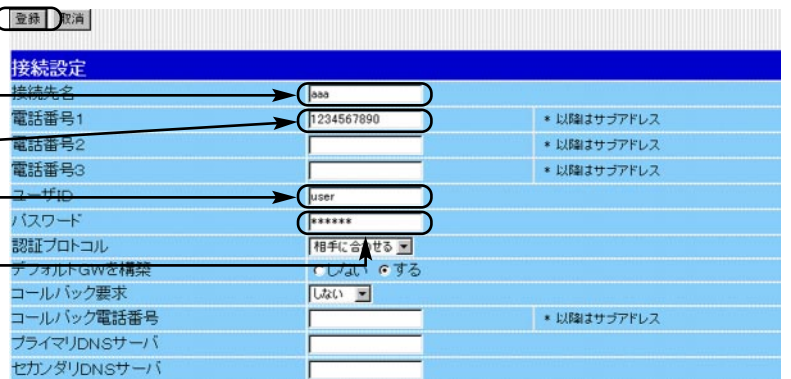
1. http://192.168.0.1/
を指定



2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、接続先情報を以下のように設定します。

- 5. クリック
- 1. aaa(任意でよい)
- 2. 1234567890
- 3. user
- 4. himitu
(表示: * * * * *)



マルチダイヤル機能(⇨P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」に入力が必要。
プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバの欄は、接続先から指定された場合に入力します。

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータAからの着信について、以下のように設定します。

6. クリック

1. 「する」をクリック

2. 「する」をクリック

3. 2user

4. 2himitu
(表示: * * * * *)

5. 「PAPまたはCHAP」を選択

4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック

1. 「しない」を確認

5. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

6. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称、IPアドレスを設定します。

5. クリック	登録	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
1. SR-11B(任意)	本体名称/IPアドレス設定	本体名称	SR-11B
2. 192.168.1.1	IPアドレス	IPアドレス	192.168.1.1
3. 255.255.255.0	サブネットマスク	サブネットマスク	255.255.255.0
	リモートアクセス用IP設定		登録/取消▲
	リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
	IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
	IPアドレス2		
	DHCPサーバ設定		登録/取消▲
	DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
4. 192.168.1.10	割り当て開始IPアドレス	割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10
	割り当て個数	割り当て個数	80 個
	サブネットマスク	サブネットマスク	255.255.255.0
	リース期間	リース期間	8 日
	ドメイン名	ドメイン名	
	プライマリDNSサーバ	プライマリDNSサーバ	DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
	セカンダリDNSサーバ	セカンダリDNSサーバ	
	プライマリWINSサーバ	プライマリWINSサーバ	
	セカンダリWINSサーバ	セカンダリWINSサーバ	
	静的DHCPサーバ設定		登録/取消▲
	登録の追加		
	MACアドレス	IPアドレス	追加
	現在の登録		
	MACアドレス	IPアドレス	

本体名称はルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

2. 二地点間のLAN型接続(つづき)

7. 無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角: LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

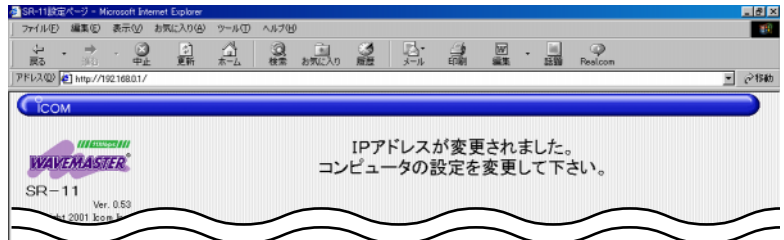
変更後、無線端末を再起動します。

<無線LAN>をクリックして、無線LANについて設定します。

2. クリック
1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。



約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。



8. 設定ページの表示確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定して、設定ページにアクセスできることを確認します。

1. http://192.168.1.1/を指定



7 ISDNダイヤルアップの設定例集

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続

【条件】

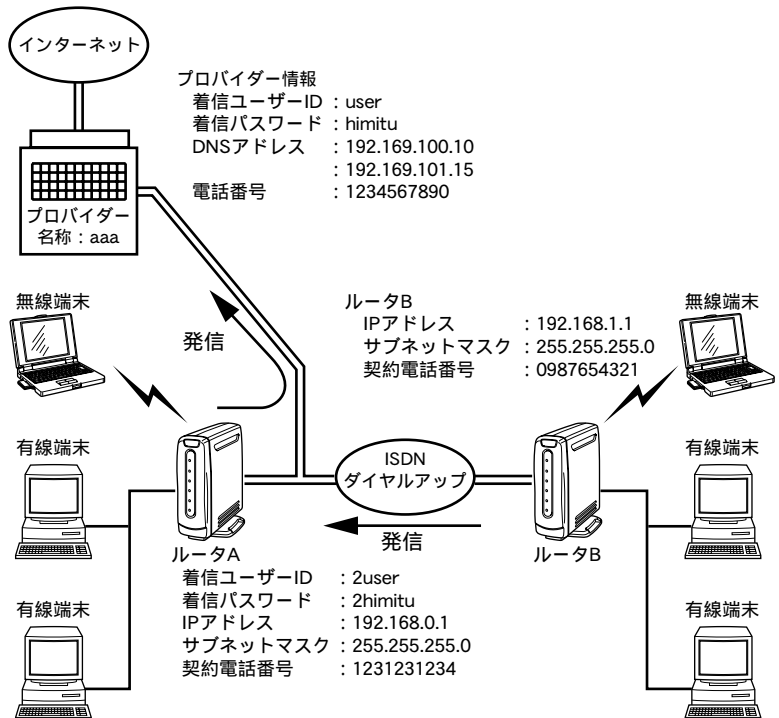
- ルータA
プロバイダーへ端末型接続
ルータBからの着信に応じる
- ルータB
プロバイダーとの契約なし
ルータAへ発信する

【認証条件】

- 着信番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP

【その他の条件】

- Unnumbered接続



ルータAの設定

「1. プロバイダーへ端末型接続する(☑ 手動接続する場合)」の手順1. ~ 5.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定



3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

2. 接続設定

<接続先の追加>をクリックして、ルータBからの通信を着信するために、以下のように設定します。

6. クリック

1. routerb(任意でよい)	接続先名	routerb	
2. 0987654321	電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
3. 2user	電話番号2		* 以降はサブアドレス
	電話番号3		* 以降はサブアドレス
4. 2himitu (表示: * * * * *)	ユーザID	2user	
	パスワード	*****	
5. 「しない」を選択	認証プロトコル	相手に合わせる	
	デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
	コールバック要求	しない	
	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
	プライマリDNSサーバ		
	セカンダリDNSサーバ		

グループットBOD

ここで入力する電話番号は、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

3. 着信設定

<着信>をクリックして、ルータBからの着信を許可するための認証内容について、以下のように設定します。

6. クリック

1. 「する」を選択	着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
2. 「する」を選択	電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
3. 2user	通信チャンネル	2Bまで許可	
	PIAFSによる着信	しない	
4. 2himitu (表示: * * * * *)	コールバック	不許可	
	コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
5. 「PAPまたはCHAP」 を選択	ユーザID	2user	
	パスワード	*****	
	認証方法	IPAPまたはCHAP	
	着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	

4. アドレス変換の確認

<アドレス変換>をクリックして、アドレス変換設定を確認します。

2. クリック

1. 「しない」を確認 しない する

アドレス変換			
マスカレード	IPアドレス	本体WAN側IPを使用する場合(は記載不要です)。	
静的マスカレードテーブル設定 <input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
登録の追加			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
	TCP		
現在の登録			
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート
静的NATテーブル設定 <input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>			
登録の追加			
グローバルIP	-	-	ローカルIP
	-		
現在の登録			
グローバルIP	-	-	ローカルIP

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

5.追加接続先の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、ルータBからの着信用に接続先が追加されたことを確認します。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 00時 01分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	手動	削除
02	routerb	接続	手動	削除

1. 「02」が追加されていることを確認

設定ページを閉じて、以下を参考にルータBの設定を行います。

ルータBの設定

設定には、88ページの図と併せてご覧ください。

【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

SR-11設定ページ - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://192.168.0.1/

ICOM

WAVEMASTER[®]

SR-11 Ver 0.62
Copyright 2001 Icom Inc.

回線と接続
本体設定と管理
ネットワーク

現在の接続状況を表示しています。回線接続先の追加により最大20個の接続先が追加されます。

本体の時刻

チャンネル 全切断
接続状況

1. http://192.168.0.1/を指定

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

2. 接続先設定

<接続先の追加>をクリックして、ルータAに接続するための設定を、以下のように行います。

6. クリック

1. ruterA(任意でよい)

2. 1231231234

3. 2user

4. 2himitu
(表示: * * * * *)

5. 「する」を選択

接続設定	
接続先名	routerA
電話番号1	1231231234
電話番号2	
電話番号3	
ユーザID	2user
パスワード	*****
認証プロトコル	相手に合わせる
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
コールバック要求	<input type="radio"/> しない
コールバック電話番号	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	

マルチダイヤル機能(⇐P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」にも入力が必要。

プライマリDNSサーバ、セカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

3. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者/パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****

使用者ID設定	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

4. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称、IPアドレスを設定します。

5. クリック

1. SR-11B(任意)

2. 192.168.1.1

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11B
IPアドレス	192.168.1.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	

DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	

静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

本体名称は、ルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

5.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効となります。)

無線LAN設定

ESS ID この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力

無線詳細設定 登録/取消▲

チャンネル 14 ▼

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し ▼

WEPキーを使用 しない する

キージェネレータ

WEPキー

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定 登録/取消▲

MACアドレスセキュリティを使用 しない する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス 追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

約10秒経過して、右の画面を表示しますので、無線端末または有線端末を再起動して、IPアドレスを再取得します。



7 ISDNダイヤルアップの設定例集

3. LAN型(1B)+端末型(1B)接続(つづき)

6.設定ページの表示確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定し、本製品の設定ページにアクセスできることを確認します。

1. http://192.168.1.1/
を指定



7.[接続状況]画面の確認

接続状況画面の名称欄に「routerA」が表示されることを確認します。

1. 「routerA」が表示され
ることを確認

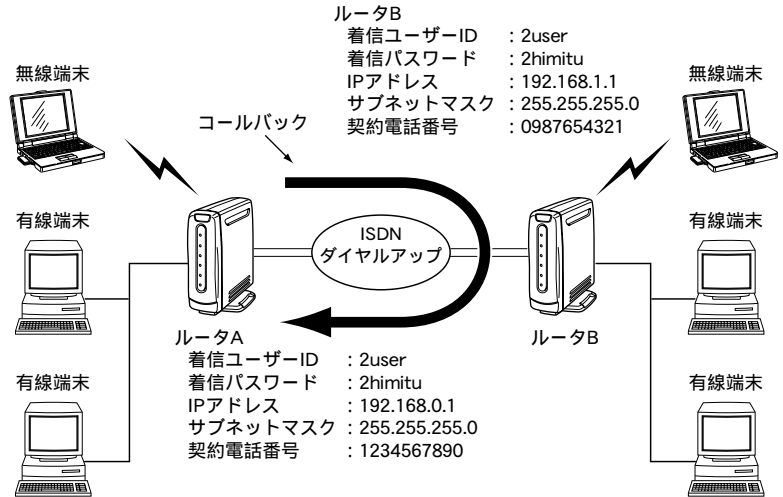


確認後、設定ページを閉じます。

4. コールバックによるLAN型接続

【条件】

- ルータAがCBCPで要求



ルータAの設定

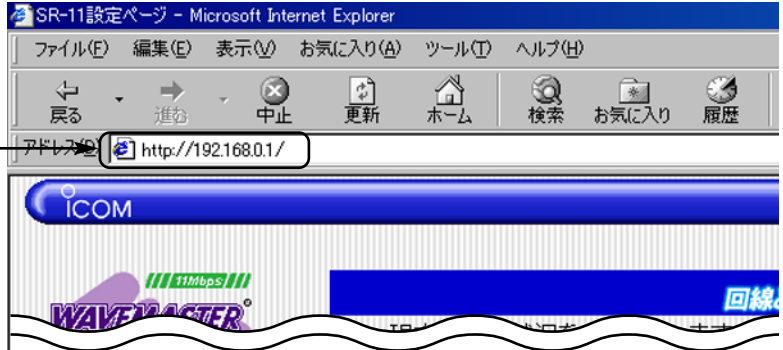
「2. 二地点間のLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~8.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

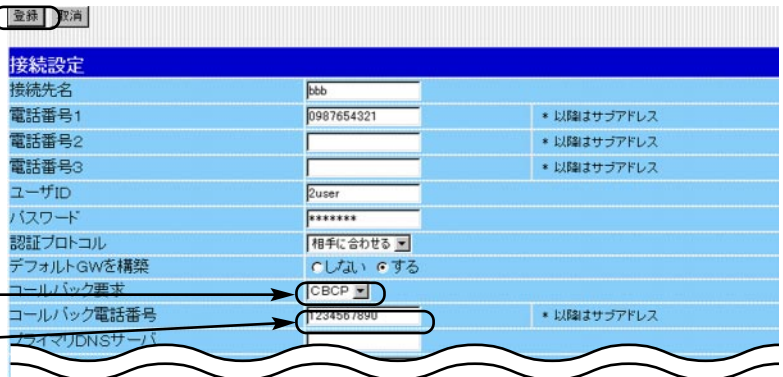
1. http://192.168.0.1/を指定



- 2.コールバック発信設定

<bbbの設定>をクリックして、コールバックについて設定します。

3. クリック



1. 「CBCP」を選択
2. 1234567890

登録後、設定ページを閉じます。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

4. コールバックによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

「2. 二地点間のLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

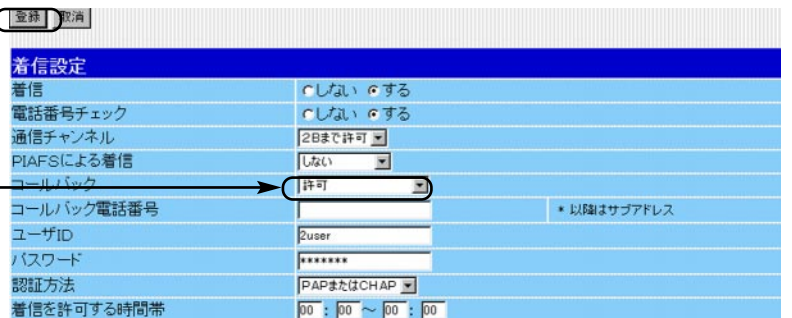
1. http://192.168.1.1/
を指定



2.コールバック着信設定

<着信>メニューをクリックして、「コールバック」で「許可」を選択し、<登録>をクリックします。

2. クリック



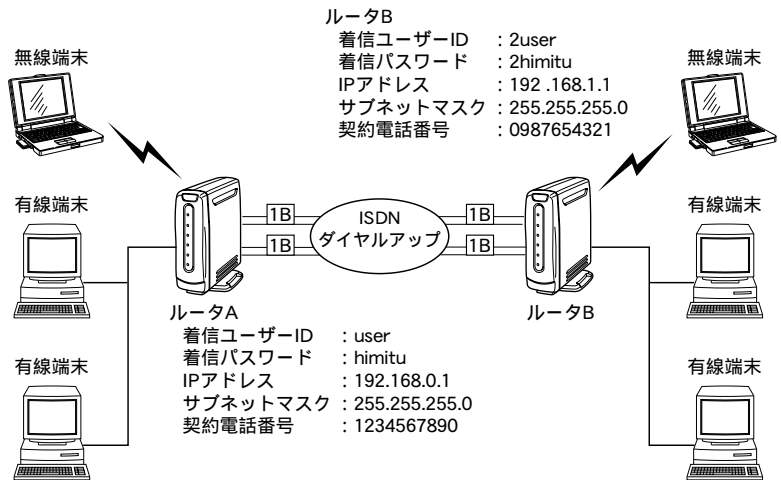
1. 「許可」を選択

登録後、設定ページを閉じます。

5. スループットBODによるLAN型接続

【条件】

- 接続先が、MP接続に対応していること
- トラフィック量(出荷時の設定)
 - 75%以上 : 2B=1B+1B
 - 25%以上 : 1B=2B-1B



ルータAの設定

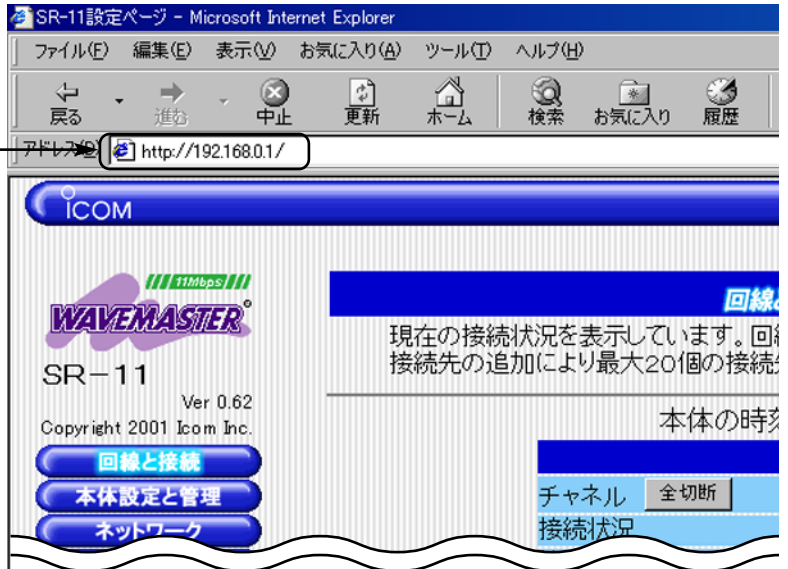
「2. 二地点間のLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定



7 ISDNダイヤルアップの設定例集

5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

2. BODの設定

<bbbの設定>をクリックして、「BODを使用」を「する」に設定します。

2. クリック

登録/取消

接続設定		
接続先名	bbb	
電話番号1	0987654321	* 以降はサブアドレス
電話番号2		* 以降はサブアドレス
電話番号3		* 以降はサブアドレス
ユーザID	2user	
パスワード	*****	
認証プロトコル	相手に合わせる	
デフォルトGWを構築	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	
コールバック要求	しない	
コールバック電話番号		* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ		
セカンダリDNSサーバ		

登録/取消▲

スループットBOD		
BODを使用	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する	BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B 75 %	65～95の範囲で記載
	2B→1B 25 %	5～45の範囲で記載

3. 自動接続設定

<自動接続>をクリックして、「自動接続」を「する」、「通信速度」を「64k可変」に設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. をクリックして、「64k可変」を選択

登録/取消

自動接続設定	
自動接続	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する
通信速度	64k可変

登録/取消▲

接続制限設定	
料金による制限	0 円 / 月
接続回数による制限	0 回 / 日
通算接続時間による制限	0 分
接続可能な時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する

自動接続制限状況 リセット

自動接続制限状況	
料金制限 (料金 / リセット時刻)	0円 / 2000/01/01 00:00
回数制限 (回数 / リセット時刻)	0回 / 2000/01/01 00:00
時間制限 (通算接続時間)	0分

4. 自動接続設定の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、「接続方法」欄に「自動(64k可変)」と表示されていることを確認します。

1. 「自動(64k可変)」と表示

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 00時 20分

回線接続状況			
チャンネル	全切断	B1 B1切断	B2 B2切断
接続状況			
接続先名			
相手先電話番号			
IPアドレス			
接続時間			

ISDN接続状況

番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	bbb	接続	自動(64k可変)	削除

設定ページを閉じて、ルータBの設定を行います。

5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

「2. 二地点間のLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.1.1/
を指定



2. BODの設定

<aaaの設定>をクリックして、「BODを使用」を「する」に設定します。

2. クリック



1. 「する」を選択

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

5. スループットBODによるLAN型接続(つづき)

3.自動接続設定

<自動接続>をクリックして、「自動接続」を「する」、「通信速度」を「64k可変」に設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. をクリックして、「64k可変」を選択

自動接続設定	
自動接続	<input checked="" type="checkbox"/> する
通信速度	64k可変
接続制限設定	
料金による制限	0 円 / 月
接続回数による制限	0 回 / 日
通算接続時間による制限	0 分
接続可能な時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00
終了時刻で強制切断	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
自動接続制限状況	
料金制限 (料金 / リセット時刻)	0円 / 2000/01/01 00:00
回数制限 (回数 / リセット時刻)	0回 / 2000/01/01 00:00
時間制限 (通算接続時間)	0分

4.自動接続設定の確認

<接続状況画面に戻る>をクリックして、「接続方法」欄に「自動(64k可変)」と表示されていることを確認します。

1. 「自動(64k可変)」と表示

本体の時刻 : 2000年01月01日 00時22分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1切断	B2	B2切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

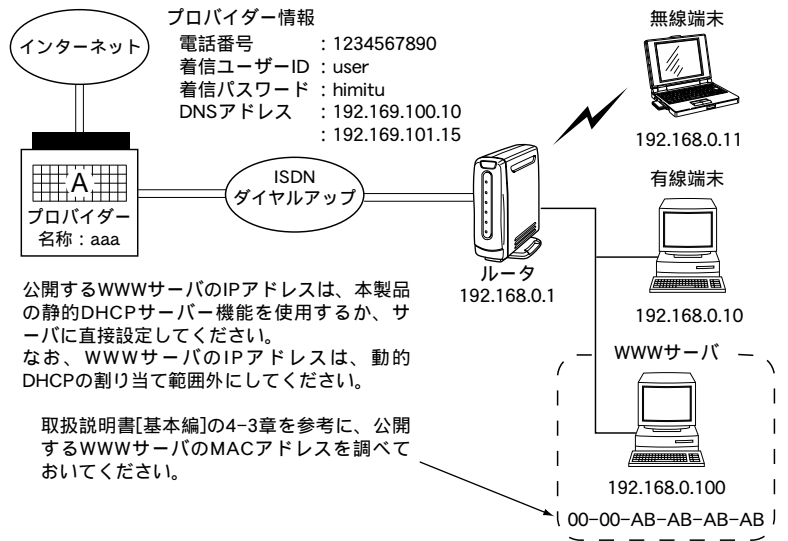
ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	自動(64k可変)	削除

確認後、設定ページを閉じます。

6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開

【条件】

- 手動接続
- プロバイダーと64kbpsで契約
- 自動切断をしない
- WWWサーバのIPアドレス
192.168.0.100
ルータから常に上記のIPアドレスを自動取得します。
サーバは、IPアドレスを自動取得する設定にします。
- プロバイダーから取得したグローバルIPを利用してWWWサーバを公開する



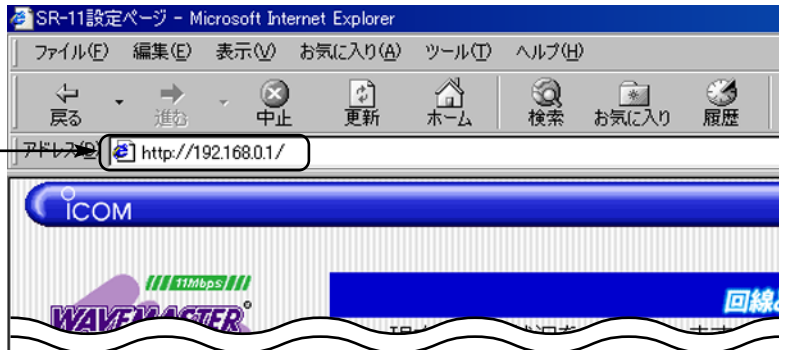
「1. プロバイダーへ端末型接続する([A] 手動接続する場合)」の手順1. ~ 5.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定

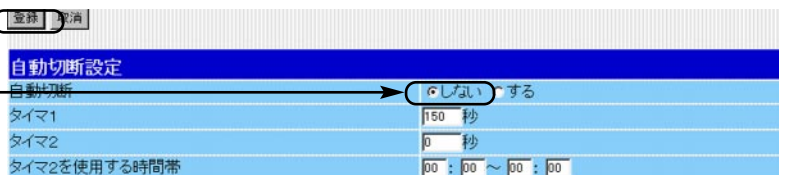


2. 自動切断設定

<aaaの設定>、<自動切断>の順にクリックして、「自動切断」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択



7 ISDNダイヤルアップの設定例集

6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開(つづき)

3. アドレス変換と静的マスカレードテーブルの設定

<アドレス変換>をクリックして、以下のように設定します。

8. クリック	登録
1. 「する」を選択	アドレス変換設定
5. 80	アドレス変換 <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
4. 80	静的マスカレードテーブル設定
3. 「TCP」を選択	登録の追加
2. 192.168.0.100	ローカルIP
6. クリック	プロトコル
7. 2.~5.で設定した内容を表示(確認)	静的NATテーブル設定

5. 静的DHCPサーバの設定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク設定>をクリックして、公開するWWWサーバのMACアドレスとIPアドレスを設定します。

5. クリック	登録して再起動
3. クリック	静的DHCPサーバ設定
2. 192.168.0.100	割り当て開始IPアドレス
1. 00-00-AB-AB-AB-AB	割り当て個数
4. 1.、2.で設定した内容を表示(確認)	現在の登録

本製品の再起動を開始します。

約10秒経過して、[接続状況]画面を表示します。

6. 静的IPマスカレード機能によるWWWサーバの公開(つづき)

6.回線の手動接続と切断

「1. プロバイダーへ端末型接続する(☑ 手動接続する場合)」の手順6. ~ 8.に従ってプロバイダーに接続し、公開するWWWサーバのグローバルIPアドレスを取得します。

本体の時刻 : 2000年 01月 01日 07時 58分

回線接続状況					
チャンネル	全切断	B1	B1 切断	B2	B2 切断
接続状況					
接続先名					
相手先電話番号					
IPアドレス					
接続時間					

ISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
01	aaa	接続	手動	削除

7.取得したIPアドレスの確認

<通信記録>メニューをクリックして、手順6.で取得したIPアドレスを確認します。

クリア

日付・時間		通信記録
03/09 09:42:42	01[aaa]MP bundleup	
03/09 09:42:42	01[aaa]CHAP認証成功	
03/09 09:42:42	01[aaa]LCP established	
03/09 09:42:38	aaaに接続	
03/09 09:42:39	01[aaa]IPCP	[Local IP [100.100.100.100] Remote IP [200.200.200.200]] Primary DNS [111.111.111.111] : Secondary DNS [222.222.222.222]
03/09 09:42:39	01[aaa]BACP UP	
03/09 09:42:39	01[aaa]CHAP認証成功	
03/09 09:42:37	01[aaa]LCP established	
03/09 09:42:33	aaaに接続	
03/09 09:42:33	aaa 手動接続要求 番号(1234567890)	

プロバイダーから取得した
IPアドレス(確認)

確認後、設定ページを閉じます。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

7. 公衆回線からLANに接続

【ルータの条件】

リモートアクセス用IPアドレス

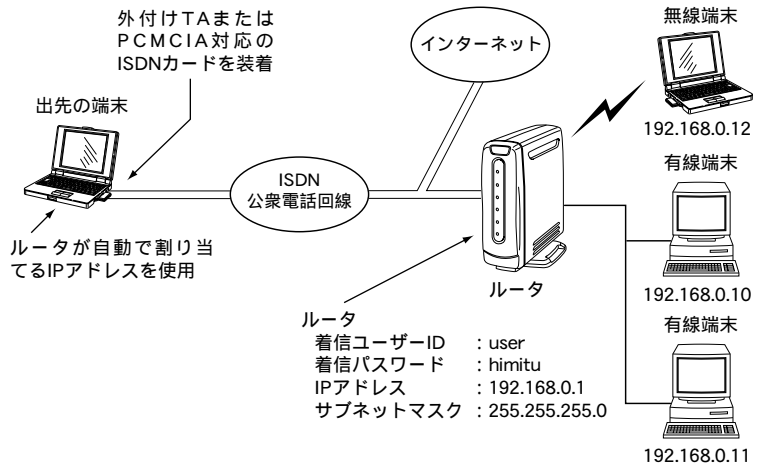
- 192.168.0.100
- 192.168.0.101

【出先端末の条件】

- ISDN公衆電話を使用
- PPPソフトのインストール
- TAまたはISDNカードの装着

【認証条件】

- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP



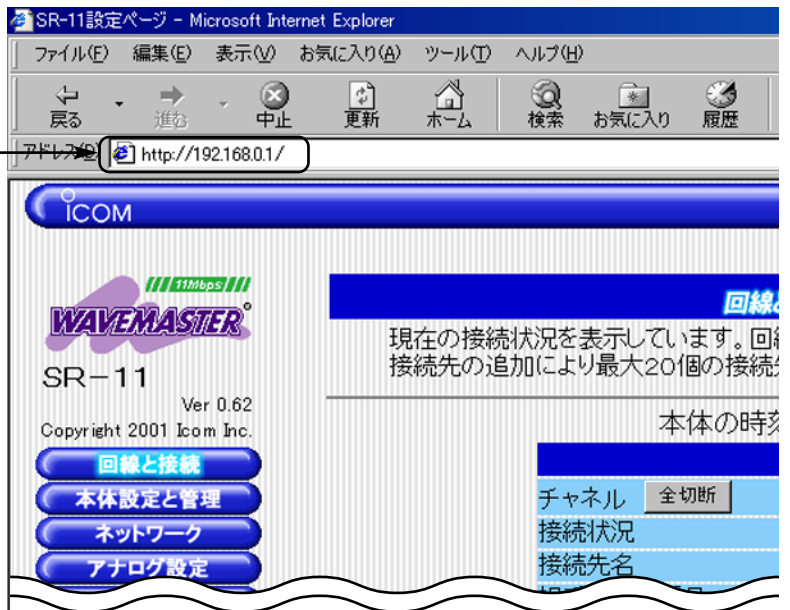
「1. プロバイダーへ端末型接続する(Ⓐ 手動接続する場合)」の手順1. ~ 7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定



7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

2. 新規接続先画面の表示

<接続先の追加>をクリックして、リモートアクセス用として、接続先を追加します。

2. クリック

1. remote(任意でよい)

接続設定			登録/取消▲
接続先名	remote		
電話番号1			* 以降はサブアドレス
電話番号2			* 以降はサブアドレス
電話番号3			* 以降はサブアドレス
ユーザID			
パスワード			
認証プロトコル	相手に合わせる ▼		
デフォルトGWを構築	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
コールバック要求	しない ▼		
コールバック電話番号			* 以降はサブアドレス
プライマリDNSサーバ			
セカンダリDNSサーバ			
スループットBOD			登録/取消▲
BODを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変しておく必要があります。
移行	1B→2B	75 %	55～95の範囲で記載
トラフィック量	2B→1B	25 %	5～45の範囲で記載

3. 着信の設定

<着信>をクリックして、出先からの着信に関する設定を行います。

6. クリック

1. 「する」を選択

2. 「しない」を選択

3. user

4. himitu
(表示: * * * * *)

5. 「PAPまたはCHAP」を選択

着信設定			登録/取消▲
着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
電話番号チェック	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
通信チャンネル	2Bまで許可 ▼		
PIAFGによる着信	しない ▼		
コールバック	不許可 ▼		
コールバック電話番号			* 以降はサブアドレス
ユーザID	user		
パスワード	himitu		
認証方法	PAPまたはCHAP ▼		
着信を許可する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00		

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

4. アドレス変換設定

<アドレス変換>をクリックして、「アドレス変換」で「しない」を設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

静的マスカレードテーブル設定				登録/取消▲
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	
	TCP			追加

静的NATテーブル設定				登録/取消▲
グローバルIP	-	ローカルIP		
	-			追加

5. リモートアクセス用IPアドレスの設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、リモートアクセス用のIPアドレスを設定します。

4. クリック

1. 「する」を選択

2. 192.168.0.100

3. 192.168.0.101

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定		登録/取消▲
リモートアクセスサーバを使用	しない/する	
IPアドレス1	192.168.0.100	DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2	192.168.0.101	

DHCPサーバ設定		登録/取消▲
DHCPサーバ機能を使用	しない/する	
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
割り当て個数	80 個	
サブネットマスク	255.255.255.0	
リース期間	8 日	
ドメイン名		
プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ		
プライマリWINSサーバ		
セカンダリWINSサーバ		

静的DHCPサーバ設定			登録/取消▲
MACアドレス		IPアドレス	
			追加

再起動後、設定ページを閉じます。

7. 公衆回線からLANに接続(つづき)

【出先端末の設定について】 出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、OSのヘルプで“ダイヤルアップネットワーク”についての項目をご覧ください。

Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで“PPP”または“リモートアクセス”についての項目をご覧ください。

【出先端末からインターネットに接続するには】

接続先が使用するルータの[接続状況]画面の<接続>ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のWWWブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

8. PHSからLANに接続

【出先端末の条件】

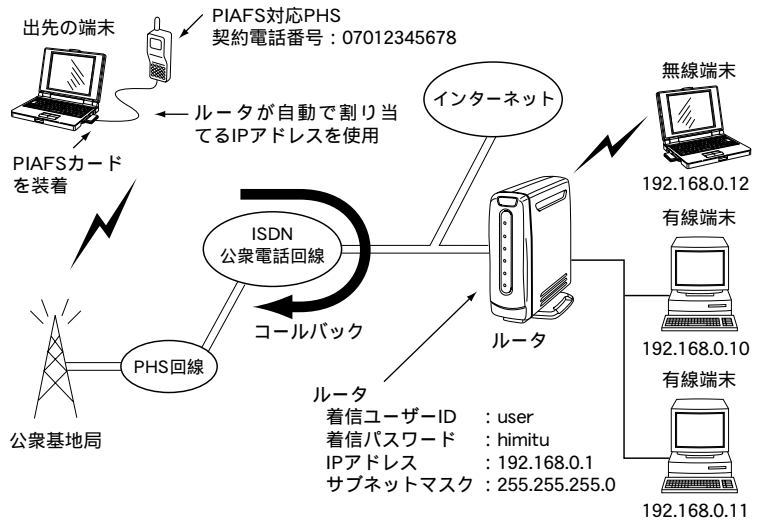
- PHSを使用
- PPPソフトのインストール
- PIAFSカードの装着

【ルータの条件】

- コールバック電話号を指定
07012345678
- リモートアクセス用
IPアドレス
192.168.00100
192.168.00101
- 出先の端末(PHS)からのコールバック着信を許可する

【認証条件】

- 電話番号
- ユーザーID
- パスワード
- PAP/CHAP



PIAFS(64kbps)は、Ver.2.0(NTT DoCoMo方式)にだけ対応しています。

「1. プロバイダーへ端末型接続する(A 手動接続する場合)」の手順1. ~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/ を指定



8. PHSからLANに接続(つづき)

2. 新規接続先画面の表示

<接続先の追加>をクリックして、リモートアクセス用として、接続先を追加します。

3. クリック

1. remote(任意でよい)

2. 07012345678

接続設定			登録/取消▲
接続先名	<input type="text" value="remote"/>		
電話番号1	<input type="text" value="07012345678"/>	* 以降はサブアドレス	
電話番号2	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス	
電話番号3	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス	
ユーザID	<input type="text"/>		
パスワード	<input type="text"/>		
認証プロトコル	相手に合わせる▼		
デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
コールバック要求	しない▼		
コールバック電話番号	<input type="text"/>	* 以降はサブアドレス	
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>		
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>		
スループットBOD			
BODを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		BODを使用するには、通信速度を可変にしておく必要があります。
移行トラフィック量	1B→2B	<input type="text" value="75"/> %	55～95の範囲で記載
	2B→1B	<input type="text" value="25"/> %	5～45の範囲で記載

ここで入力する「電話番号1」は、電話番号チェックの対象とする電話番号です。

3. 着信の設定

<着信>をクリックして、出先からの着信に関する設定を行います。

9. クリック

1. 「する」を選択

2. 「する」を選択

3. 「する」を選択

4. 「許可」を選択

5. 07012345678

6. user

7. himitu
(表示: * * * * *)

8. 「PAPまたはCHAP」を選択

着信設定			登録/取消▲
着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
電話番号チェック	<input checked="" type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
通信チャンネル	2Bまで許可▼		
PIAFSによる着信	しない▼		
コールバック	許可▼		
コールバック電話番号	<input type="text" value="07012345678"/>	* 以降はサブアドレス	
ユーザID	<input type="text" value="user"/>		
パスワード	<input type="text" value="*****"/>		
認証方法	PAPまたはCHAP▼		
着信を許可する時間帯	<input type="text" value="00 : 00"/>	<input type="text" value="00 : 00"/>	

7 ISDNダイヤルアップの設定例集

8. PHSからLANに接続(つづき)

4. アドレス変換設定

<アドレス変換>をクリックして、「アドレス変換」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

静的マスカレードテーブル設定				
ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	
	TCP			追加

静的NATテーブル設定				
グローバルIP			ローカルIP	
	-			追加

5. リモートアクセス用IPアドレスの設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、リモートアクセス用のIPアドレスを設定します。

4. クリック

1. 「する」を選択

2. 192.168.0.100

3. 192.168.0.101

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="checkbox"/> する
IPアドレス1	192.168.0.100
IPアドレス2	192.168.0.101

DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="checkbox"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	80 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	

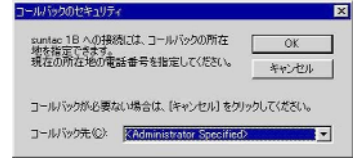
静的DHCPサーバ設定	
MACアドレス	IPアドレス
	追加

再起動後、設定ページを閉じます。

8. PHSからLANに接続(つづき)

【電話をかけたときの動作】

- 1.Windows95/98/NTの「ダイヤルアップネットワーク」を使って電話をかけます。
- 2.認証を受けるため、ユーザーIDとパスワードを入力します。
- 3.認証が成立して、コールバックが可能であると、右の画面を表示します。



4. “ Administrator Specified ”の文字は、設定例でコールバック電話番号を[着信]画面に指定されていると表示します。
コールバック電話番号が指定されていない場合は、その部分にコールバック電話番号を入力します。
- 5.表示のダイアログボックスの<OK>をクリックすると、コールバックが行われます。
<キャンセル>をクリックすると、コールバックを行わないで接続します。
「コールバックのみ着信」を着信条件に選んでいる場合は、キャンセルした時点で、回線は切断されます。

【出先端末の設定について】

出先の端末からルータに電話をかけるには、ご使用のOSに対応するPPPソフトが必要です。

ここで説明するコールバックは、Macintoshで動作しません。

Windows95/98/NTでは、一般的に「ダイヤルアップネットワーク」を使用します。インストールについては、OSのヘルプで“ダイヤルアップネットワーク”についての項目をご覧ください。

Macintoshでは、一般的に「Open Transport/PPP」を使用します。詳しくは、OSのヘルプで“PPP”または“リモートアクセス”についての項目をご覧ください。

【出先端末からインターネットに接続するには】

接続先が使用するルータの[接続状況]画面の<接続>ボタンで行う(手動発信)か、自動接続を設定している場合は、自分のWWWブラウザから直接、URLを指定してアクセスしてください。

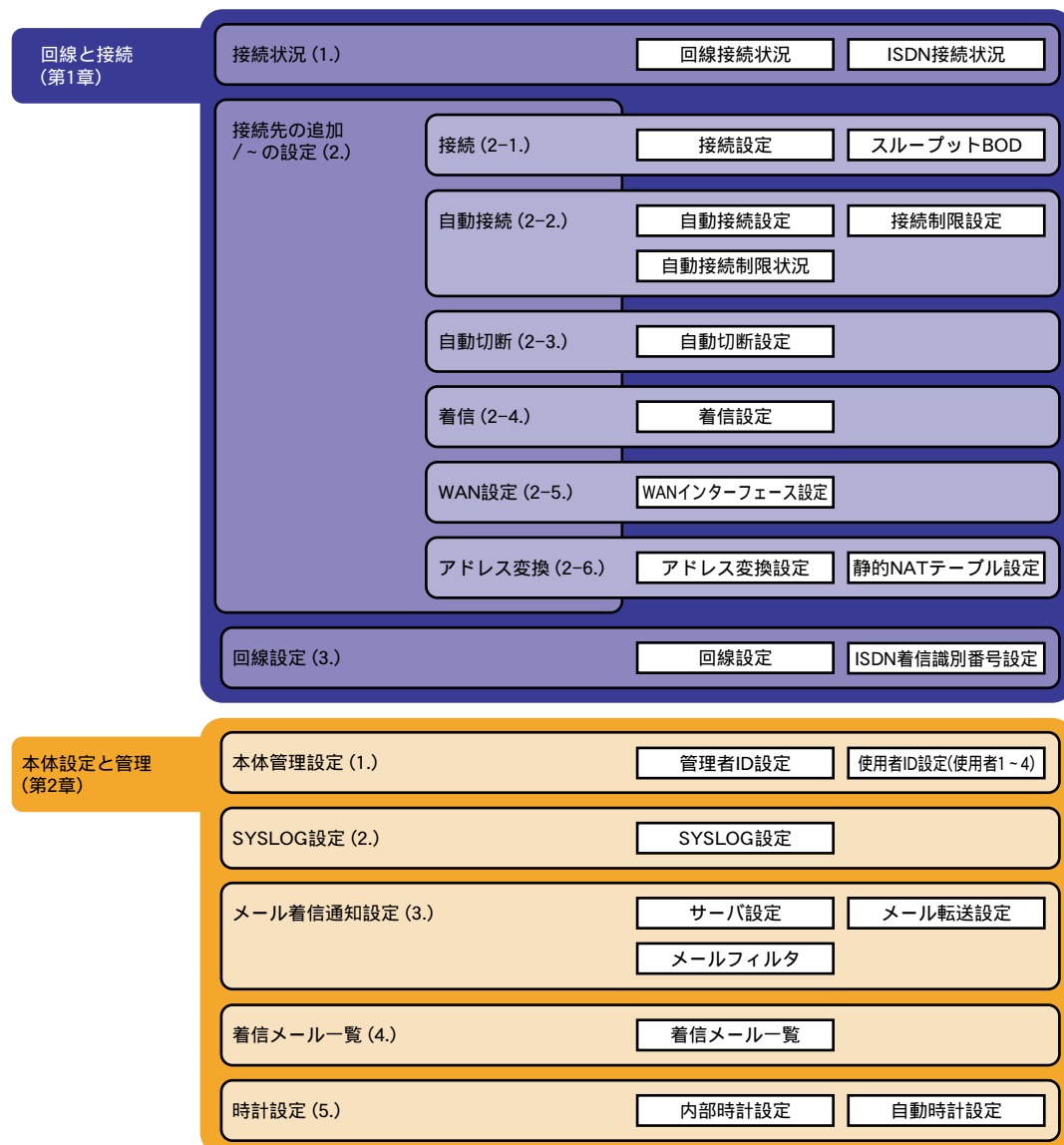
7 ISDNダイヤルアップの設定例集

設定画面の構成

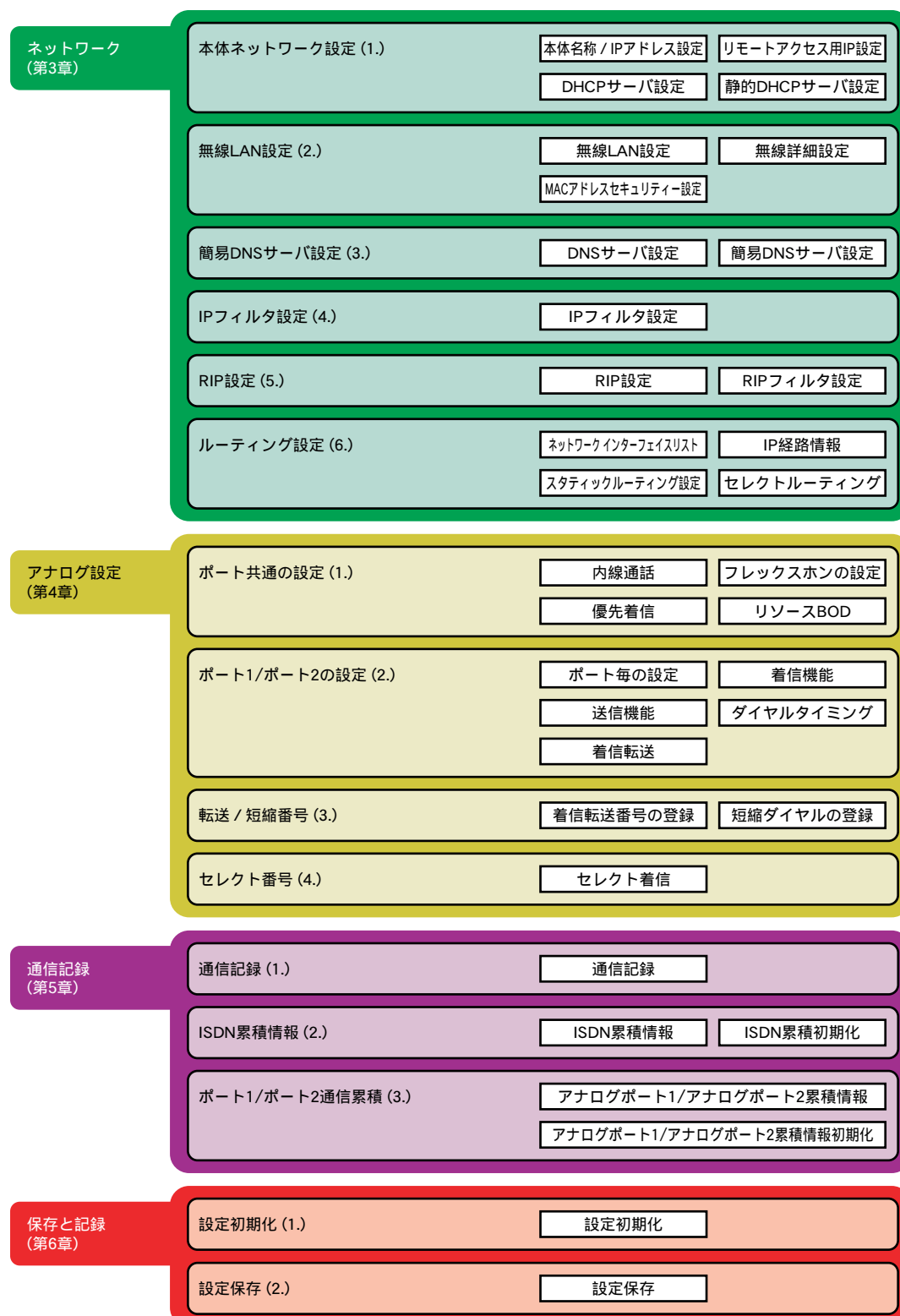
付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成



設定画面の構成(つづき)





SOHOROUTER
SR-11

第2部 フレッツISDN

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理	11
第 3章	ネットワーク	23
第 4章	アナログ設定	45
第 5章	通信記録	57
第 6章	保存と記録	61
付 録	設定画面の構成	63

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

この章では、
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

1. [接続状況]画面	2
2. [接続先の追加]/[~の設定]画面	3
2-1. [接続]画面	3
2-2. [自動接続]画面	5
2-3. [自動切断]画面	6
2-4. [WAN設定]画面	7
2-5. [アドレス変換]画面	8
3. [回線設定]画面	9

1 回線と接続

1. [接続状況]画面



通信中の回線接続状況と、使用する回線種別について表示します。
登録できる接続先は、20件までです。(ISDNダイヤルアップでの接続先の登録件数を含む)

本体の時刻：2000年01月01日00時00分

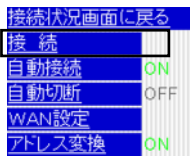
回線接続状況					
チャンネル	全切断 ①	B1	B1切断 ②	B2	B2切断 ③
接続状況 ④					
接続先名 ⑤					
相手先電話番号 ⑥					
IPアドレス ⑦					
接続時間 ⑧					

フレッツISDN接続状況				
番号	名称	接続制御	接続方法	登録削除
⑨	新⑩成	接続 ⑪	⑫	削除 ⑬

- ①<全切断> B1とB2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を同時に切断します。
- ②<B1切断> B1チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ③<B2切断> B2チャンネルの通信(アナログ通信を除く)を切断します。
- ④接続状況 通信しているときは、「発信」と表示します。
- ⑤接続先名 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ⑥相手先電話番号 通信している接続先(プロバイダーなど)の電話番号を表示します。
- ⑦IPアドレス 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ⑧接続時間 通信が開始されてから、本画面にアクセスした時点までの接続時間を表示します。
最新の接続時間を表示するには、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックしてください。
- ⑨番号 登録された接続先の整理番号を表示します。
登録が早い順番に番号が付きますが、登録削除による欠番があるときに接続先を追加すると、その欠番に登録されます。
- ⑩名称 登録された接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
- ⑪接続制御 登録した接続先に、手動で接続するときのボタンです。
- ⑫接続方法 登録された接続先の接続設定が、「自動」なのか「手動」なのかを表示します。
- ⑬登録削除 登録してある接続先を、削除するときのボタンです。

2. [接続先の追加]/[~ の設定]画面

2-1. [接続]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom)
- ④電話番号 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。
次のように入力すると、すべて同じ電話番号として処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
相手先よりサブアドレスの付加を指定された場合、電話番号の末尾に、*(アスタリスク)記号に続けて指定された半角英数字を入力します。
(入力例：1111223333*333)
- ⑤ユーザID 接続先から指定されたユーザー名(ログイン名)を入力します。
(入力例：user)
- ⑥パスワード 接続先から指定されたパスワードを入力します。
入力された文字は、すべて「*」または「 」で表示されます。
(表示例：****)
- ⑦認証プロトコル ユーザーIDとパスワードを本製品から発信する時の認証プロトコルを選択します。
 - 認証なし : 相手からの認証要求をすべて拒否する
 - 相手に合わせる : 認証方式を相手先に合わせる(出荷時の設定)
 - PAP : PAP方式で認証を受ける
 - CHAP : CHAP方式で認証を受ける
- ⑧デフォルトGWを構築 LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
 - しない : パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
 - する : パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。

1 回線と接続

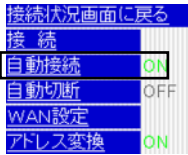
2-1. [接続]画面(つづき)

登録	取消
①	②
接続設定	
接続先名 ③	新規作成
電話番号 ④	1 <small>* 以降はサブアドレス</small>
ユーザID ⑤	
パスワード ⑥	**
認証プロトコル ⑦	相手に合わせる ▾
デフォルトGWを構築 ⑧	しずい する
プライマリDNSサーバ ⑨	
セカンダリDNSサーバ ⑩	

⑨プライマリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)

⑩セカンダリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64)
相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑨、⑩の設定は不要です。

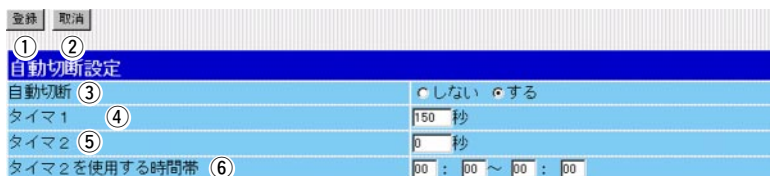
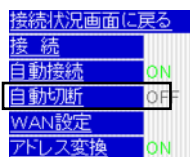
2-2. [自動接続]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動接続 ネットワーク上のパソコンから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線を接続するかしないかを選択します。「する」を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的にISDN回線に接続されて課金されます。ネットワークの設定内容や運用のしかたによっては、回線が長時間接続されたままになったり、意図しない自動接続が行われてしまう可能性がありますので、必ず[接続状況]画面や、本製品の[B1]ランプおよび[B2]ランプを確認してください。なお、フレッツISDNの場合、自動接続を「する」に設定できる接続先は、1件だけです。2件以上の接続先を登録していて、それぞれに自動接続を「する」と設定しようとした場合、一番最後に設定した接続先の自動接続設定が有効となり、それまでに自動接続設定した接続先は手動接続となります。

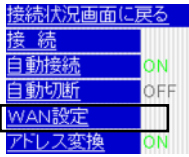
1 回線と接続

2-3. [自動切断]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動切断 接続中の回線を自動で切断するか、<全切断>、<B1切断>または<B2切断>ボタン([接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。
自動切断を「する」に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。
自動切断は、ISDN回線に流れるデータの無い状態が150秒(出荷時の設定)以上経過すると、自動的に切断します。
ネットワーク上のパソコンが定期的に通信を行うような場合は、正常に切断したかどうか、必ず[接続状況]画面の状況表示や、本製品の[B1]および[B2]ランプを確認してください。
[例]メールサーバへのアクセスや、ソフトウェアの自動アップデートを定期的にインターネット側サーバに問い合わせるように設定している場合など
- ④タイマ1 設定した時間、通信がない場合、回線を自動的に切断します。
0秒(切断制限なし)~65535秒まで入力できます。
(出荷時の設定：150秒)
- ⑤タイマ2 下記「⑥タイマ2を使用する時間帯」で設定した時間帯で動作し、設定した時間、通信がない場合、自動的に回線を切断します。
0秒(出荷時の設定)にすると、自動切断を行いません。
- ⑥タイマ2を使用する時間帯 上記「⑤タイマ2」が動作する時間帯を設定します。
設定時間帯以外は、「④タイマ1」の設定値で動作します。
タイマ2の時間帯を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。

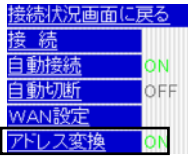
2-4. [WAN設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 IPアドレス/サブネットマスク
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
プロバイダーなど、接続先がIPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。
使用するときは、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側 IPアドレス
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。
接続先がプロバイダーなど、IPCPに対応している場合は、設定の必要がありません。

1 回線と接続

2-5. [アドレス変換]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1.0)
 - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
 - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
 - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。最大32個のNATテーブルを設定できます。
- グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例: 172.16.0.49)
 - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.10)
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

3. [回線設定]画面



取消 登録して再起動 回線種別の設定は再起動後に有効になります。

① ②

回線設定

回線種別 ③

- ISDNダイヤルアップ
- フレッツISDN
- 専用線(64kbps)
- 専用線(128kbps)
- OCNエコノミー

<ご注意>
回線種別を変更した場合、再起動が必要です。

ISDN着信識別番号設定

電話番号 ④

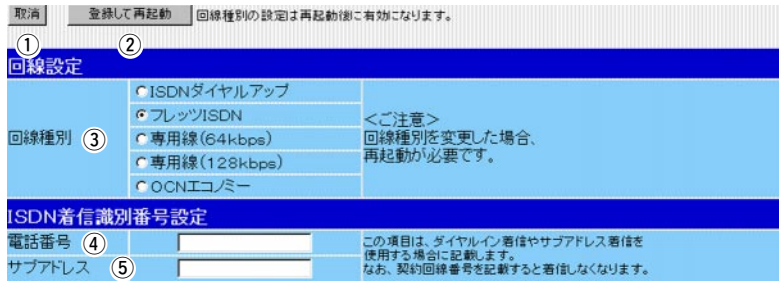
サブアドレス ⑤

この項目は、ダイヤルイン着信やサブアドレス着信を使用する場合に記載します。
なお、契約回線番号を記載すると着信しなくなります。

- ①<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ②<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
 - フレッツISDN
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
 - 専用線(64kbps)
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - 専用線(128kbps)
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - OCNエコノミー
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。

1 回線と接続

3. [回線設定]画面(つづき)



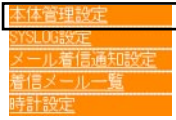
- ④電話番号 NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。
ダイヤルイン番号は、市外局番から入力してください。
契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。
電話番号は、半角31文字まで入力できます。
電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。
- ⑤サブアドレス サブアドレスで着信識別するときに入力します。
NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。
サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

この章では、
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体管理設定]画面	12
2. [SYSLOG設定]画面	14
3. [メール着信通知設定]画面	15
4. [着信メール一覧]画面	20
5. [時計設定]画面	21

2 本体設定と管理

1. [本体管理設定]画面



登録		取消	
① ②			
管理者ID設定			
管理者ID	③	<input type="text"/>	
管理者/パスワード	④	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑤	<input type="password"/>	
⑥ ⑦			
使用者ID設定			
使用者ID	⑦	<input type="text"/>	登録/取消▲
使用者/パスワード	⑧	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑨	<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	⑩		<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	⑪		<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者1			
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者2			
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者3			
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者4			
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。(入力例: Router)
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。(表示例: ****)
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。(表示例: ****)

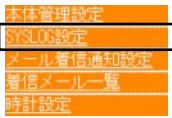
1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a web interface for system management. At the top, there are buttons for '登録' (Register) and '取消' (Cancel). The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The '管理者ID設定' section includes fields for '管理者ID' (Administrator ID), '管理者/パスワード' (Administrator Password), and 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input). The '使用者ID設定' section is repeated for four users (使用者1 to 使用者4). Each user entry includes a checkbox, a '使用者ID' field, a '使用者/パスワード' field, a 'パスワードの確認入力' field, and three permission checkboxes: '手動接続・切断を許可' (Allow manual connection/disconnection), '接続設定編集を許可' (Allow connection settings editing), and '通信記録表示・クリアを許可' (Allow communication record display/clearing). The interface uses orange and white colors with numbered callouts (1-11) pointing to various fields.

- ⑥使用者1～4 [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID 本設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom)
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。
(表示例：****)
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。
(表示例：****)
- ⑩接続設定編集を許可 使用者に接続先の追加や、設定の編集を許可するかしないかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかしないかの選択です。

2 本体設定と管理

2. [SYSLOG設定]画面



ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。

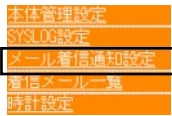
登録 取消

① ②
SYSLOG設定

DEBUGを使用	③	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
INFOを使用	④	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
NOTICEを使用	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
ホストアドレス	⑥	<input type="text"/>
ファシリティ	⑦	<input type="text"/>

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常「1」を使用します。

3. [メール着信通知設定]画面



The screenshot shows the following settings:

- サーバ設定 (Server Settings):**
 - ① 登録 (Register)
 - ② 取消 (Cancel)
 - ③ メール着信通知機能を使用 (Use email notification function) [Off]
 - ④ メールサーバ(POP) (POP mail server)
 - ⑤ メールアカウント (Email account)
 - ⑥ メールパスワード (Email password)
 - ⑦ 確認時刻(時:分)/間隔(分) (Check time/interval) [00:00]
 - ⑧ 接続先 (Connection destination) [01:プロバイダ]
- メール転送設定 (Email Forwarding Settings):**
 - ⑨ メール転送機能を使用 (Use email forwarding function) [Off]
 - ⑩ 転送先メールサーバ(SMTP) (SMTP forwarding server)
 - ⑪ 転送先メールアドレス (Forwarding email address)
 - ⑫ 発信元メールアドレス (Sender email address)
- メールフィルタ (Email Filter):**
 - ⑬ 番号 (Number)
 - ⑭ 使用 (Use) [checkbox]
 - ⑮ フィルタ動作 (Filter action)
 - 02 [To]の[先頭]が [] と一致する [] メールを [表示] する
 - 03 [To]の[先頭]が [] と一致する [] メールを [表示] する
 - 04 [To]の[先頭]が [] と一致する [] メールを [表示] する
 - 05 [A]の[B]が [C] と一致 [D] メールを [表示] する

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

サーバ設定

本製品が、接続先(プロバイダーなど)のメールサーバに自動接続して、着信メールの有無を確認するための情報を設定する画面です。

指定の接続先の設定が「手動接続」であっても、着信メールの自動接続を行います。

対応するプロトコルは、POP3だけです。

- ③メール着信通知機能を使用 ... メール着信通知機能を使用するかしないかを選択します。この機能を使用すると、着信メールがあるときは、本製品の[MSG]ランプを点滅すると同時に、その内容を[着信メール一覧]画面(☞P20)に表示します。
- ④メールサーバ(POP) メールサーバのサーバ名を入力します。ドメイン名は、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。

2 本体設定と管理

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

メール転送機能を使用 ⑨ しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

登録/取消

番号 使用 フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

- ⑤メールアカウント メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。入力例：メールアドレスが、「SR11@icom.co.jp」のときは、「SR11」と入力します。
ご契約のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑥メールパスワード メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを入力任意の英数字、半角31文字以内でします。
- ⑦確認時刻(時:分)/間隔(分) ... メールサーバに自動接続する時刻、または間隔を設定します。時刻を指定するときは24時間制、間隔を指定するときは分単位で入力します。
時刻で指定したときは、[時計設定]画面(⇒P21)に設定された時刻を基準に動作します。
- ⑧接続先 メールサーバへアクセスするとき使用する接続先を選択します。印をクリックすると、登録されている接続先を表示しますので、その中から選びます。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

メール転送設定

[サーバ設定]で設定したメールサーバに着信したメールを、別のメールサーバに転送するための情報を設定する画面です。

接続先が指定する内容を、該当する欄に設定します。

設定内容については、接続先のネットワーク管理者(インターネットサービスプロバイダー)にお尋ねください。

- ⑨メール転送機能を使用 メール転送機能を使用するかしないかを選択します。
メール着信通知機能の設定も併せて行わないと、機能しません。
- ⑩転送先メールサーバ(SMTP) 転送先メールサーバ(SMTPサーバ)の名前を、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
接続先のプロバイダーによって指定される内容が異なりますので、入力する前に内容をご確認ください。
- ⑪転送先メールアドレス 転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- ⑫発信元メールアドレス メール発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。
- 転送機能制限事項 表示可能文字数
転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
制限を超えた文字列については、表示されません。

2 本体設定と管理

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

登録 取消

① ②

サーバ設定

メール着信通知機能を使用 ③ しない する

メールサーバ(POP) ④

メールアカウント ⑤

メールパスワード ⑥

確認時刻(時:分)/間隔(分) ⑦ 00:00

接続先 ⑧ 01:プロバイダ

メール転送設定

登録/取消 ▲

メール転送機能を使用 ⑨ しない する

転送先メールサーバ(SMTP) ⑩

転送先メールアドレス ⑪

発信元メールアドレス ⑫

メールフィルタ

登録/取消 ▲

番号 使用

フィルタ動作 ⑮

番号	使用	フィルタ動作
⑬	<input checked="" type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
02	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
03	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
04	<input type="checkbox"/>	To の 先頭 が 一致 する メールを 表示 する
05	<input type="checkbox"/>	[A] の [B] が [C] と一致 [D] メールを [E] する

該当しないメールを 表示 する

メールフィルタ

メール着信通知機能を使って[着信メール一覧]画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

- ⑬番号 最大6(5 + 1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
01 ~ 05番の条件に該当しない場合は、最下欄の「該当しないメールを」で指定する内容にしたがいます。
- ⑭使用 指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

3. [メール着信通知設定]画面(つづき)

⑮フィルタ動作

比較する対象になる条件を、この欄の 印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
 下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と一致[D]メールを[E]をする

- [A]：比較対象条件
 - To : 宛先の文字列が対象
 - CC : カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
 - From : 差出人の文字列が対象
 - Subject : 件名の文字列が対象
- [B]：比較対象条件
 - 一部 : 文字列の一部が対象
 - 先頭 : 文字列の先頭が対象
 - 末尾 : 文字列の末尾が対象
- [C]：比較対象条件
 - 入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。
- [D]：比較対象条件
 - する : 比較対象条件と一致するメールが対象
 - しない : 比較対象条件と一致しないメールが対象
- [E]：比較対象条件 / 該当しないメールを
 - 表示 : 対象となるメールを表示する
 - 無視 : 対象となるメールを表示しない
 - 転送 + 表示 : 対象となるメールを転送して表示する

新しい着信メールがあると、本製品の[MSG]ランプを点滅して、着信したことを通知します。

2 本体設定と管理

4. [着信メール一覧]画面



メール着信の一覧を表示する画面です。
下記の画面は、1件のメールを着信した状態です。



①<全て削除>

この画面に表示するメールをすべて削除します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

②<表示ランプリセット>

クリックすると、[MSG]ランプの着信通知表示が通常状態に戻ります。

③<削除>

このボタンのフレーム内のメールだけを消去します。
削除してもメールサーバのメールは削除されません。

制限事項

最大表示件数：16件
表示が17件以上になると古い順に消去されます。
メールサーバに20件のメールがあると、新着順に16件表示して、残りの4件については、受信を行いません。

表示可能文字数

To/Cc/From/Subjectの各欄については、半角255(全角127)文字まで表示します。

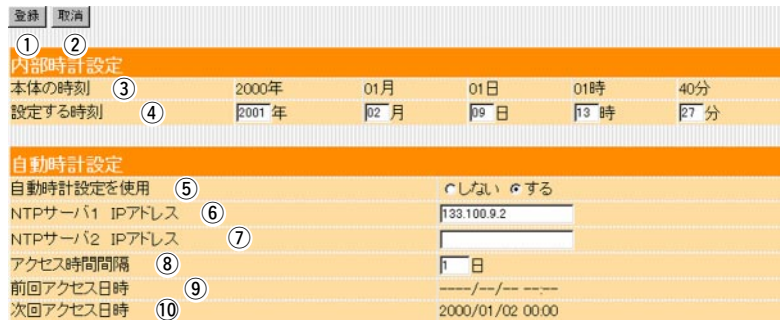
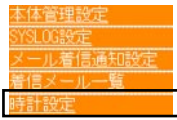
着信メールの本文表示欄については、半角1023(全角511)文字まで表示します。

制限を超えた文字列については、表示されません。

メールフィルターが有効な場合は、その部分の文字列が、[メールフィルタ]画面で設定する条件と比較対象外として処理します。

メール転送機能が有効な場合、「表示可能文字数」の範囲内の内容しか転送できません。

5. [時計設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定できます。
ダイヤルアップ接続で、前回アクセスした日から設定した日数が経過している場合は、接続時にアクセスします。
常時接続では、設定した日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

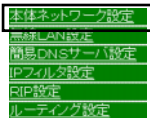
2 本体設定と管理

この章では、
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体ネットワーク設定]画面	24
2. [無線LAN設定]画面	28
3. [簡易DNSサーバ設定]画面	32
4. [IPフィルタ設定]画面	33
5. [RIP設定]画面	38
6. [ルーティング設定]画面	39

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面



登録	取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定			
④ 本体名称	SR-11		
⑤ IPアドレス	192.168.0.1		
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0		
リモートアクセス用IP設定 登録/取消			
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2			
DHCPサーバ設定 登録/取消			
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する		
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10		
割り当て個数	90 個		
サブネットマスク	255.255.255.0		
リース期間	9 日		
ドメイン名			
プライマリDNSサーバ			DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ			
プライマリWINSサーバ			
セカンダリWINSサーバ			
静的DHCPサーバ設定 登録/取消			
登録の追加			
MACアドレス		IPアドレス	
		<input type="button" value="追加"/>	
現在の登録			
MACアドレス		IPアドレス	

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P32)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P7)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P7)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。	
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定					
④ 本体名称	SR-11				
⑤ IPアドレス	192.168.0.1				
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0				
リモートアクセス用IP設定					登録/取消
⑦ リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
⑧ IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。		
IPアドレス2					
DHCPサーバ設定					登録/取消
⑨ DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する				
⑩ 割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10				
⑪ 割り当て回数	90 回				
⑫ サブネットマスク	255.255.255.0				
⑬ リリース期間	9 日				
⑭ ドメイン名					
⑮ プライマリDNSサーバ			DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。		
⑯ セカンダリDNSサーバ					
⑰ プライマリWINSサーバ					
⑱ セカンダリWINSサーバ					
静的DHCPサーバ設定					登録/取消
登録の追加					
MACアドレス			IPアドレス		
			追加		
現在の登録					
MACアドレス			IPアドレス		

⑦ リモートアクセスサーバ
を使用

本製品に有線または無線で直接接続されていない遠隔地のパソコンを、ローカルネットワーク上のパソコンとして認識させ、リモートアクセスすることができます。
この項目で「する」を選択し、さらに2つのリモートアクセス用IPアドレス(下記「⑧IPアドレス1/IPアドレス2」)を設定することで、リモートアクセスが可能となります。

⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ...

リモートアクセスさせたいパソコンに割り当てるIPアドレスを入力します。

設定するときは、次のことに注意してください。

IPアドレスは、2つ(IPアドレス1/IPアドレス2)設定する

本製品のIPアドレスと同じネットワーク部をもつIPアドレスを、リモートアクセスさせたいパソコンに設定する

例：「192.168.0.1」であれば、ドット(.)で区切られた上位3グループの「192.168.0.」が同じIPアドレスを設定します。

本製品や、ローカルネットワーク上のパソコンに割り当てられるIPアドレスと重複しないように設定する

リモートアクセスするパソコンがDNSを使用する場合は、DNSサーバのIPアドレスをリモートアクセスするパソコンに設定してください。

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and fields:

- ① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定**
 - ④ 本体名称: SR-11
 - ⑤ IPアドレス: 192.168.0.1
 - ⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- リモートアクセス用IP設定**
 - ⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
 - ⑧ IPアドレス1: []
 - IPアドレス2: []
- DHCPサーバ設定**
 - ⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する
 - ⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
 - ⑪ 割り当て個数: 90 個
 - ⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0
 - ⑬ リース期間: 9 日
 - ⑭ ドメイン名: []
 - ⑮ プライマリDNSサーバ: []
 - ⑯ セカンダリDNSサーバ: []
 - ⑰ プライマリWINSサーバ: []
 - ⑱ セカンダリWINSサーバ: []
- 静的DHCPサーバ設定**
 - 登録の追加
 - MACアドレス: []
 - IPアドレス: []
 - 追加
 - 現在の登録
 - MACアドレス: []
 - IPアドレス: []

- ⑨DHCPサーバ機能を使用 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩割り当て開始IPアドレス 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪割り当て個数 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫サブネットマスク 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬リース期間 DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおよす期限を日数で指定します。
- ⑭ドメイン名 Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動	
このページの設定は再起動に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。					
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定					
④	本体名称	SR-11			
⑤	IPアドレス	192.168.0.1			
⑥	サブネットマスク	255.255.255.0			
リモートアクセス用IP設定					
リモートアクセスサーバを使用 ⑦ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
⑧	IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。	
	IPアドレス2				
DHCPサーバ設定					
DHCPサーバ機能を使用 ⑨ <input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する					
⑩	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10			
⑪	割り当て回数	90	個		
⑫	サブネットマスク	255.255.255.0			
⑬	リース期間	9	日		
⑭	ドメイン名				
⑮	プライマリDNSサーバ			DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。	
⑯	セカンダリDNSサーバ				
⑰	プライマリWINSサーバ				
⑱	セカンダリWINSサーバ				
静的DHCPサーバ設定 ⑲					
登録の追加					
	MACアドレス			IPアドレス	
					<input type="button" value="追加"/>
現在の登録					
	MACアドレス			IPアドレス	

- ⑮プライマリDNSサーバ [接続]画面(⇒P4)で設定した内容を、この項目に反映します。
「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに、設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ [接続]画面(⇒P4)から設定した内容をこの項目に反映します。
上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。
- ⑲静的DHCPサーバ設定 DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの初期設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



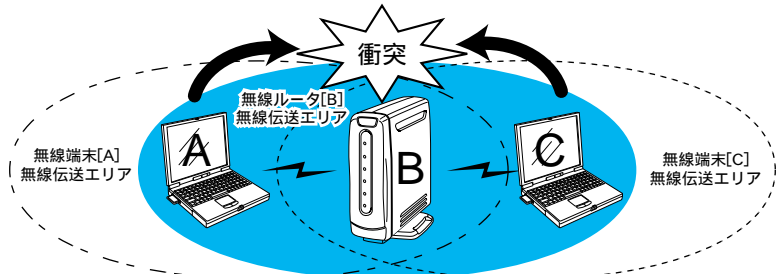
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「*」で表示されます。(表示例：**)
- ⑤ESS IDの確認入力 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別にご注意ください。(表示例：**)
- ⑥チャンネル 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動 アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
無線LAN設定													
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。											
ESS IDの確認入力 ⑤	**												
無線詳細設定													
チャンネル ⑥	14	登録/取消▲											
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し												
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する												
キージェネレータ ⑨													
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00		
選択	文字列												
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00												
MACアドレスセキュリティ設定													
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。											
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9												
登録の追加													
MACアドレス ⑬		追加											
現在の登録													
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況											

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

⑨キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「*」で表示します。(表示例：* *) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

⑩WEPキー

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

⑪MACアドレスセキュリティを使用

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。											
無線LAN設定																	
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
ESS IDの確認入力	⑤	**															
無線詳細設定																	
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲													
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し															
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する															
キージェネレータ	⑨																
WEPキー	⑩	<table border="1"> <thead> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </tbody> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00					
選択	文字列																
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00																
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00																
MACアドレスセキュリティ設定																	
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		この項目の設定は再起動後に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9															
登録の追加																	
MACアドレス	⑬			追加													
現在の登録																	
登録済みの端末		受信中の端末		通信状況													

⑬MACアドレス

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

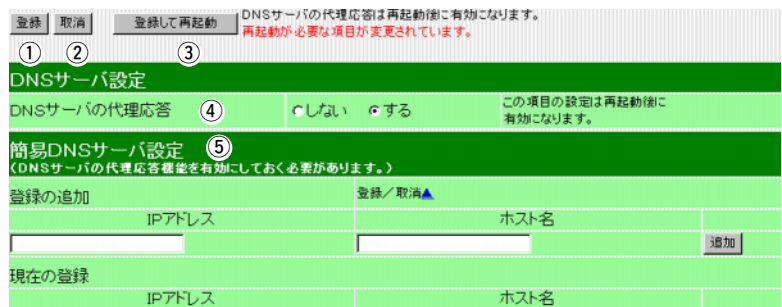
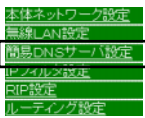
入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333

無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

3 ネットワーク

3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- ポート設定
- ルーティング設定

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ② 編集 ③

フィルタ方向 ④

フィルタ方法 ⑤

プロトコル ⑥ その他選択時

ポート番号 ⑦ ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

					ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレ	
⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレ
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	255.255.255.255	-

- ①<追加>
- ②番号
- ③<編集>
- ④フィルタ方向

上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。追加した内容は、この画面の下に表示されます。

最大64件のフィルターを登録できます。フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

設定済みのフィルターを編集するボタンです。編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。以下の中から選択してください。

- OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

The screenshot shows the 'IPフィルタ設定' (IP Filter Setting) screen. It includes fields for:

- ① 追加 (Add)
- ② 番号 (Number)
- ③ 編集 (Edit)
- ④ フィルタ方向 (Filter Direction)
- ⑤ フィルタ方法 (Filter Method)
- ⑥ プロトコル (Protocol)
- ⑦ ポート番号 (Port Number)
- ⑧ 発信元IPアドレス (Source IP Address)
- ⑨ 宛先IPアドレス (Destination IP Address)

 Below these fields is a table listing existing filter rules:

⑩ 番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		宛先IPアドレス
				ポート方向	始点	終点	IPアドレス	
削除 55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除 56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除 57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除 58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除 59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除 60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除 61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除 62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除 63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	-
削除 64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	-

⑤フィルタ方法

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑥プロトコル

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ② 編集 ③

フィルタ方向 ④

フィルタ方法 ⑤

プロトコル ⑥ その他選択時

ポート番号 ⑦ ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレ
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	-

⑦ポート番号

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。
 印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。
 入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。
 なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
 発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
 何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
 この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
 IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

IPフィルタ設定 追加 ①

番号 ② 編集 ③

フィルタ方向 ④

フィルタ方法 ⑤

プロトコル ⑥ その他選択時

ポート番号 ⑦ ~

発信元IPアドレス ⑧

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

宛先IPアドレス ⑨

始点IPアドレス 始点サブネットマスク

終点IPアドレス 終点サブネットマスク

⑩	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号		発信元IPアドレス		IPアドレス
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	255.255.255.255	-

⑨宛先IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0 ~ 255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。

始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。

IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

● IPアドレスに192.168.1.0

● サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除>

設定したフィルターを削除するボタンです。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

ご参考に

フレッツISDN回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

削除	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス				宛先IPアドレス			
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク
削除	55	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	56	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	192.168.0.1	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	57	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	10.0.0.0	255.0.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	58	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	172.16.0.0	255.240.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	59	IN	遮断	ALL	宛先/発信元	*	192.168.0.0	255.255.0.0	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	
削除	60	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	10.0.0.0	255.0.0.0	-	255.255.255.255	
削除	61	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.16.0.0	255.240.0.0	-	255.255.255.255	
削除	62	OUT	遮断	ALL	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	192.168.0.0	255.255.0.0	-	255.255.255.255	
削除	63	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255

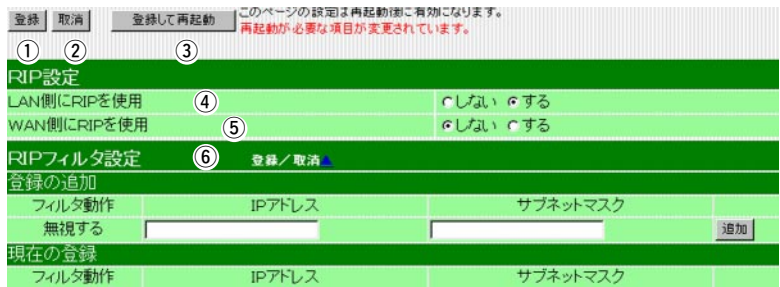
なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

- 55番 : 本製品への不正なパケットの着信を防止
- 56～59番 : プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止
- 60～62番 : プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどから、不正なパケットをWAN側への流出を防止
- 63、64番 : Windows95/98/NT/2000が行う定期的な通信によって発生する「意図しない自動接続」を防止

3 ネットワーク

5. [RIP設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静電DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- RIP設定**
- ルーティング設定



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。

RIP設定
RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。
LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。
RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。
- ④LAN側にRIPを使用 LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
最大20件の登録が可能です。
入力後は、<追加>をクリックしてください。

6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 固定DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- PIP設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング ⑫ ⑬

番号 ⑭

接続方法 ⑮ * 拒絶する*を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 ⑯ 01:プロバイダ1

発信元IPアドレス ⑰ -

プロトコル制御 ⑱ 使用しない -

宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲

セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳ 00 : 00 ~ 00 : 00

終了時刻で強制切断 ㉑ しない する

⑳ 番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
削除 01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P 40)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
 - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
 - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
 - misc ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック 経路のコストを表示します。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	loc	sta	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング					
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号
01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない	

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(☞P39)にも表示されます。

- ⑦経路
 - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、 印をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。
- ⑧宛先

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
- ⑨ネットマスク

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。
- ⑩ゲートウェイ

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
- ⑪メトリック値

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬						
番号 ⑭	設定	編集				
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます					
経路 ⑯	01:プロバイダ1					
発信元IPアドレス ⑰	-					
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -					
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲						
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00					
終了時刻で強制切断 ㉑	し/しない する					
⑳ 番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名
削除 01	01:プロバイダ1	手動発信		使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	し/ない

セレクトルーティング

スタティックルーティングに加えて、以下の機能を併せて設定することで、より詳細な条件でルーティングがおこなえます。

- 発信元IPアドレス情報をもとに、特定の相手(相手先のパソコンを限定する)と通信できるソースルーティング機能
- プロトコルとポート番号を指定することで、特定のアプリケーションデータを優先して送受信することができる優先ルーティング機能
- IPアドレスやURL情報をもとに、特定の発信元からのデータを遮断できるURLフィルター機能

⑫<設定>

入力した値を、本製品に設定するボタンです。
クリックすると、一番下の欄に、設定した内容を表示します。

⑬<編集>

設定されている内容を変更・編集するために、画面の各欄に表示させるボタンです。
変更・編集するときは、一番下の欄から該当する登録内容の番号を、「⑭番号」欄に入力してから、このボタンをクリックします。

⑭番号

データを送受信する優先度を、1～16の番号で指定する欄です。
半角数字で入力し、最大16件、登録できます。
小さい番号に設定された内容が優先して比較され、設定内容と一致すると、それ以降の内容については比較しません。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定				
登録の追加				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録				
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 <input type="checkbox"/> 「拒絶する」を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない <input type="checkbox"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断 ㉑	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する				

⑳	㉑	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	しない

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	しない

⑮接続方法

送受信するデータが、登録された内容に一致したとき、その相手先への接続方法を選択します。

「手動発信」を選択すると、その接続先について手動接続します。

「自動発信」を選択すると、その接続先について自動接続します。

「拒絶する」を選択すると、その接続先には接続しません。

⑯経路

登録された接続先を選択します。

複数の接続先が登録されている場合、 印をクリックして選択します。

セレクトルーティング機能を設定しているときは、通常のルーティング経路よりもソースルーティングで設定された経路を優先します。したがって、あらかじめ通常のルーティングで自動接続が設定されている接続先をソースルーティングの経路に選択すると、通常のルーティングで設定された自動接続は、解除されます。なお、接続先をメール着信通知機能(☞P15)と同じに選んだ場合、その接続先に対するメール着信通知機能は自動的に停止します。

[接続状況]画面において、通常の「自動接続」は赤色の文字、「手動接続」は黒色の文字で[接続方法]欄に表示されますが、セレクトルーティングの経路に設定されているときは、青色の文字で表示されます。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング ⑫ ⑬

番号 ⑭ [設定] [編集]

接続方法 ⑮ [手動発信] * 拒絶するを選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路 ⑯ [01:プロバイダ]

発信元IPアドレス ⑰

プロトコル制御 ⑱ [使用しない] ポート番号

宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲

セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳ [00 : 00 ~ 00 : 00]

終了時刻で強制切斷 ㉑ [し] [する]

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない		

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切斷
	使用しない			00.00 - 00.00	し

⑰発信元アドレス

セレクトルーティングを使用するとき、選択した「経路」を使用する発信元端末のIPアドレスを指定する欄です。
 一台だけ指定するときには、左のボックスに入力します。

⑱プロトコル制御

優先ルーティングとして使用する場合は、使用プロトコル、およびそのポート番号を指定します。
 ポート番号とは、ホスト上のインターネットアプリケーション(FTPやWEBブラウザ)を識別するのに使用する番号で、どのアプリケーションがどのポート番号を使用するかが決められています。
 たとえば、メール受信専用を設定するときには、使用プロトコルを「TCP」、ポート番号を「110」に設定します。

⑲宛先IPアドレスまたはドメイン名

接続先端末のIPアドレス、または特定のドメイン名を指定する欄です。
 ワイルドカードとして、「?」「*」が入力できます。また、「?」は任意の一文字、「*」は任意の文字列として認識されます。

この機能を利用するときは、本製品のDNS代理応答機能を併用してください。

URLフィルターとして使用するときは、この項目と同時に「⑮接続方法」を「拒絶する」に設定してください。

たとえば、[* .icom.co.jp]を指定した場合は、[www.icom.co.jp]や[pop.icom.co.jp]へのデータが拒絶されます。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング ⑫ ⑬					
番号 ⑭	設定	編集			
接続方法 ⑮	手動発信 "拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路 ⑯	01:プロバイダ				
発信元IPアドレス ⑰	-				
プロトコル制御 ⑱	使用しない ポート番号 -				
宛先IPアドレスまたはドメイン名 ⑲					
セレクトルーティングを使用する時間帯 ⑳	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断 ㉑	し、する				

⑳	番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
削除	01	01:プロバイダ	手動発信		使用しない			00:00 - 00:00	し、

発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
	使用しない			00:00 - 00:00	し、

⑳セレクトルーティングを使用する時間帯

設定された経路情報の利用開始時刻と終了時刻を入力します。開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

開始および終了時刻は、<本体設定と管理>メニューの[時計設定]画面で設定(⇒P21)された時刻で動作します。必ず、<回線と接続>メニューの[接続状況]画面に表示される時刻を確認してください。

㉑終了時間で強制切断

上記「㉑セレクトルーティングを使用する時間帯」で設定された時間を経過したときに、通信中でも強制的に切断するかどうかを選択します。

㉒設定内容表示

セレクトルーティングとして設定されている内容を表示します。

㉓<削除>

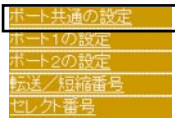
このボタンの行に表示する設定内容を消去します。

この章では、
設定ページの、<アナログ設定>メニューで表示される画面について説明します。

1. [ポート共通の設定]画面	46
2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面	48
3. [転送 / 短縮番号]画面	55
4. [セレクト番号]画面	56

4 アナログ設定

1. [ポート共通の設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③内線通話の使用設定 [TEL1]と[TEL2]に接続されたアナログ機器間での内線通話形態を選択します。
- 内線を使用しない
アナログ機器間で、通話しません。
 - 内線のみ使用する
アナログ機器間で、通話します。
どちらのアナログ機器からでも「*」「0」とダイヤルすることで、もう一方を呼び出しできます。
 - 内線転送を使用する(出荷時の設定)
内線通話を介して、外線電話を取り次ぎます。
- ④フレックスホン機能 フレックスホン(コールウェイティング、通信中転送、三者通話、着信転送機能)の利用形態を設定します。
- 疑似
フレックスホン機能を利用しない、またはNTTとフレックスホンの契約をしないで、ほぼ同等の機能を利用したい場合に選択します。
 - NTTとの契約による
NTTが提供するフレックスホンを利用します。
(NTTとの契約が必要です)
- ⑤コールウェイティング 通話中に新たな電話がかかってきたときに、通話中の電話を切らずに、かかってきた電話に応答する機能です。
契約/設定内容によって、三者通話、通信中転送に移行することができます。
- ⑥通信中転送 通話を、第三者(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。

1. [ポート共通の設定]画面(つづき)

登録		取消	
①	②	内線通話	
内線通話の使用設定		内線転送を使用する	
フレックスホンの設定			
登録 / 取消			
(注意) NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。			
フレックスホン機能		④ <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による	
コールウェイトニング	⑤	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイトニングをする場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。
通信中転送	⑥	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	⑦	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	⑧	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
優先着信			
登録 / 取消			
優先着信	⑨	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	⑩	02 秒	
リソースBOD			
発信割り込みを使用	⑪	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
受信割り込みを使用	⑫	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

- ⑦三者通話 三人で通話する機能を使用するかしないかを選択します。契約 / 設定内容によって、他の二者間の通話にすることもできます。
- ⑧着信転送 着信した電話を、他の電話(外線)に転送する機能を使用するかしないかを選択します。転送先の電話番号は、[転送 / 短縮番号]画面、「③着信転送番号の登録」(P55)で設定します。
- ⑨優先着信 着信時に、どちらのポートに接続されたアナログ機器の着信音を優先して鳴らすかを指定します。
- すべてのポートに着信(出荷時の設定)
両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が同時に鳴ります。
 - ポート1を優先
[TEL1]に接続されたアナログ機器を着信音が優先して鳴ります。
 - ポート2を優先
[TEL2]に接続されたアナログ機器を着信音が優先して鳴ります。
- ⑩時間差優先着信 上記、「⑨優先着信」で優先指定したポートに接続されたアナログ機器だけの着信音を鳴らす時間を設定します。設定した時間を経過しても応答しない(受話器を取らない)場合、両方のポートに接続されたアナログ機器の着信音が鳴ります。なお、0秒に設定した場合は、優先指定したポートに接続されたアナログ機器の着信音しか鳴りません。ただし、優先指定されたポートが通話中の場合、もう一方のポートへ着信させます。
- ⑪発信割り込みを使用 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器からの発信を許可するかしないかを選択します。受話器を取ることで、1Bの通信に自動的に切り替わります。
- ⑫受信割り込みを使用 2Bでの通信中に、[TEL1]/[TEL2]ポートに接続されたアナログ機器への着信を許可するかしないかを選択します。着信中は、1Bでの通信となります。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面

ポート共通の設定
ポート1の設定
ポート2の設定
転送/転送番号
セレクト番号

登録		取消	
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③		ナンバースタイル ④	
接続機器の種類 ⑤		ナンバースタイル ⑥	
標準設定		対応しない	
無鳴動着信 ⑦		する しない	
ポート使用設定 ⑧		宛着信で使用	
受話音量 ⑨	送話音量 ⑩	外線呼出音 ⑪	内線呼出音 ⑫
標準	標準	呼出音1	呼出音1
なりわけ着信機能 ⑬		なりわけ呼出音 ⑭	
着信拒否する		呼出音1	
着信機能 登録/取消			
グローバル着信 ⑮		する しない	
セレクト着信 ⑯		する しない	
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰		する しない	
送信機能 登録/取消			
発信者番号通知 ⑱		する しない	
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲		する しない	
ダイヤルタイミング 登録/取消			
ダイヤル待ち時間 ⑳		5 秒	
フッキング判定時間 ㉑		1 秒	
着信転送 登録/取消			
転送トーク ㉒		あり なし	
転送元トーク ㉓		あり なし	
起動タイミング ㉔		呼出回数 4 回	
		即、起動	

- ①<登録>
- ②<取消>
- ③回線番号(ダイヤルイン番号)
*サブアドレス

この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。

この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

NTTのダイヤルインサービス(有料)を契約している / 契約する場合ダイヤルイン番号を入力します。ポートごと(TEL1、TEL2)にダイヤルイン番号を入力(ひとつは回線契約番号でもよい)することで、着信形態を個別に指定できます。また、本製品の機能を活用するためにも、入力する必要があります。

なお、ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号にかかってきた通信を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信する機能)が含まれます。(契約時に、「グローバル着信する」で契約することをおすすめします。)

NTTのダイヤルインサービス(有料)が未契約 / 契約しない場合何も入力しません。ただし、サブアドレスを利用して、着信形態を個別に指定する場合は、回線契約番号に続けて「*(アスタリスク)」+サブアドレス(任意の半角英数字32文字以内)を入力します。(NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、この欄に入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたときに限り、着信します。)

サブアドレスを設定すると、アナログ回線契約者からの電話を着信できなくなりますので、ご注意ください。

アナログ回線契約者からの通信においても着信形態を指定したい場合は、ダイヤルインサービス、i・ナンバーサービス(いずれも有料)などをご契約ください。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	i・ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▾	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▾		
無の自動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	<input type="checkbox"/> 宛着信で使用 ▾		
受話音量 ⑨ 標準 ▾	送話音量 ⑩ 標準 ▾	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▾	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▾
なりわけ着信機能 着信拒否する ▾ ⑬	なりわけ呼出音 呼出音1 ▾ ⑭		
着信機能 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送 登録/取消▲			
転送トーカー ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーカー ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

- ④ i・ナンバーポート [TEL1]、[TEL2]に割り当てる i・ナンバーを選択します。
i・ナンバーサービス(有料)の契約にて取得した2つ、または3つの電話番号を、[TEL1]、[TEL2]に設定することにより、アナログ機器を鳴り分けることができます。
- ⑤接続機器の種類 接続されているアナログ機器の種類を選択します。
- 標準設定：接続する機器を指定しません。(出荷時の設定)
 - 電話：アナログ電話機専用です。
 - FAX：G3FAX専用です。
 - モデム：アナログモデム専用です。
- 接続機器の種類を「電話」または「FAX」と指定すると、アナログ回線とISDN回線契約者から高位レイヤ整合性をつけずに発信された通信(電話、FAX)は着信できなくなりますので、ご注意ください。
- ⑥ナンバーディスプレイ
- 対応しない(出荷時の設定)
ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続していない場合に選択します。
 - INSナンバーディスプレイ
ナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続している場合に選択します。
ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線からの通信は、番号が表示されません。
 - キャッチホンナンバーディスプレイ
キャッチホンナンバーディスプレイに対応した電話機、表示器などを接続し、キャッチホン・ディスプレイサービスを契約(有料)している場合に選択します。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消	
① ② 設定	
③ 回線番号(ダイヤルイン/番号)*サブアドレス	④ ナンバー ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	⑥ ナンバーディスプレイ 対応しない ▼
⑦ 無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
⑧ ポート使用設定	着信音で使用 ▼
⑨ 受話音量 標準 ▼	⑩ 送話音量 標準 ▼
⑪ 外線呼出音 呼出音1 ▼	⑫ 内線呼出音 呼出音1 ▼
⑬ なりわけ着信機能 着信拒否する ▼	⑭ なりわけ呼出音 呼出音1 ▼
着信機能 登録/取消▲	
⑮ グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
⑯ セレク外着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
⑰ 通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
送信機能 登録/取消▲	
⑱ 発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
⑲ 高位レイヤ整合性を上げて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ダイヤルタイミング 登録/取消▲	
⑳ ダイヤル待ち時間	5 秒
㉑ フッキング判定時間	1 秒
着信転送 登録/取消▲	
㉒ 転送トーカー	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
㉓ 転送元トーカー	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
㉔ 起動タイミング	呼出回数 4 回 即、起動 ▼

- ⑦無鳴動着信 無鳴動着信機能を持ったFAXを接続している場合、着信音を鳴らさずに対応させることができます。
- しない：着信音が鳴ってから応答します。(出荷時の設定)
 - する：着信音が鳴らずに応答します。
- ⑧ポート使用設定 接続されたアナログ機器の使用用途の制限を選択します。
- 着信音で使用：通常どおりに使用できます。(出荷時の設定)
 - 着信専用：電話をかける/FAXを送ることはできません。
 - 発信専用：電話をとる/FAXを受信することはできません。
 - 使用しない：動作しません。
- ⑨受話音量 受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。アナログ機器に受話音量調整機能がある場合は、この設定と併せて適量に調整してください。
- ⑩送話音量 相手の受話器から聞こえる音量を、「最大」「標準」「最小」から設定します。
- 「最大」にすると、比較的小さな声でも相手にハッキリ聞こえますが、「最小」では大きな声で話さないと相手にハッキリ聞こえません。
- ⑪外線呼出音 外線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。「⑫内線呼出音」(☞P51)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
- 呼出音1(出荷時の設定)
 - 呼出音2
 - 呼出音3

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能 登録/取消▲			
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能 登録/取消▲			
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング 登録/取消▲			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送 登録/取消▲			
転送トーン ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーン ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 <input type="button" value="即 起動"/>		

- ⑫内線呼出音 内線電話がかかってきたときの着信音パターンを選択します。
「⑪外線呼出音」(☞P50)と区別することで、外線もしくは内線着信かを着信音で判断できます。
●呼出音1(出荷時の設定)
●呼出音2
●呼出音3
- ⑬なりわけ着信機能 あらかじめNTTに登録した電話番号から通信があった場合の着信形態を設定します。
●通常・話中共に着信：通話中に着信すると、着信していることを音でお知らせします。
●話中は着信しない：通話中は着信しません。
●着信拒否する：登録した電話番号からの通信のみ着信します。
(出荷時の設定) (未登録電話番号からの通信は着信しません)
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。
- ⑭なりわけ呼出音 あらかじめNTTに登録した電話番号で電話がかかってきたときの着信音パターンを設定します。
●呼出音1(出荷時の設定)
●呼出音2
●呼出音3
この機能を利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録		取消	
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③		ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3	
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無鳴動着信 ⑦	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	発信音で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能			
グローバル着信 ⑮	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
送信機能			
発信者番号通知 ⑱	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="checkbox"/> する <input type="checkbox"/> しない		
ダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送			
転送トーク ㉒	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
転送元トーク ㉓	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数	4 回	即、起動

⑮グローバル着信

グローバル着信を利用する内容でダイヤルインサービス(有料)を契約している場合、回線契約番号にかかってきた電話を、ダイヤルイン追加番号を割り当てたポートにも着信させる設定です。

- する : 回線契約番号でかかってきた電話を着信します。
(出荷時の設定)
- しない : 回線契約番号でかかってきた電話を着信しません。

注意! ダイヤルインサービスが未契約で、[回線設定]画面の「④電話番号」(☞P10)、本画面の「③回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス」(☞P48)が空欄の場合、または回線契約番号を設定したポートでも、本項目は「する」に設定してください。「しない」を設定すると、まったく着信できなくなります。

⑯セレクト着信

本製品に任意の電話番号を登録することにより、それらから発信された電話の着信形態を指定するかしないかを選択します。

- する : 発信者により、着信形態を指定します。
- しない : 着信形態を指定しません。

電話番号は、[セレクト番号]画面(☞P56)で登録します。

「する」に設定した場合、「⑧ポート使用設定」(☞P50)で「発信専用」に設定されていても、有効です。

⑰通話中に着信があると音でお知らせ

通話中に新たな着信があった場合、音で通知するかしないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「⑤コールウェイティング」(☞P46)を「する」としている場合、本設定を「する」に設定します。

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消			
① ② 設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類 ⑤ 標準設定	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない		
無の自動着信 ⑦	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定 ⑧	宛着信で使用		
受話音量 ⑨ 標準	送話音量 ⑩ 標準	外線呼出音 ⑪ 呼出音1	内線呼出音 ⑫ 呼出音1
なりわけ着信機能 着信拒否する ⑬	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1		
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒		
フッキング判定時間 ㉑	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーン ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーン ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回	即時起動	

- ⑱発信者番号通知 電話をかけたときに、「③回線番号(ダイヤルイン番号)*サブダイヤル」(☞P48)で設定された番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。
- ⑲高位レイヤ整合性をつけて
発信 [TEL1]、[TEL2]に接続されている機器の種類(電話、FAXなど)を相手先に通知することで、ISDN回線契約している発信先の接続機器ごとに鳴り分け(自動応答)をするかしないかを選択します。
「⑤接続機器の種類」(☞P49)で、「電話」または「FAX」を選択し、この項目で「する」を選択すると、相手先のTAなどで、接続機器の種類が「電話」か「FAX」に指定されている場合に限り、発信装置に合わせて該当する機器が自動的に応答します。
- ⑳ダイヤル待ち時間 [TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器から電話をかけたとき、末尾番号がダイヤルされてから発信するまでの時間を設定します。
- ㉑フッキング判定時間 フックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断されるまでの時間を設定します。
設定された時間内にフックボタンをはなす(受話器を取る)と、保留状態となり、通話の転送ができます。

4 アナログ設定

2. [ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面(つづき)

登録 取消	
① ② 設定	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス ③	ナンバー ④ ポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類 ⑤ 標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ ⑥ 対応しない ▼
無鳴動着信 ⑦ ポート使用設定 ⑧	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない 宛着信で使用 ▼
受話音量 ⑨ 標準 ▼	送話音量 ⑩ 標準 ▼
なりわけ着信機能 ⑬ 着信拒否する ▼	外線呼出音 ⑪ 呼出音1 ▼
	内線呼出音 ⑫ 呼出音1 ▼
	なりわけ呼出音 ⑭ 呼出音1 ▼
着信機能 登録/取消▲	
グローバル着信 ⑮	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
セレクト着信 ⑯	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ ⑰	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
送信機能 登録/取消▲	
発信者番号通知 ⑱	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性を上げて発信 ⑲	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ダイヤルタイミング 登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間 ⑳	5 秒
フッキング判定時間 ㉑	1 秒
着信転送 登録/取消▲	
転送トーク ㉒	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
転送元トーク ㉓	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
起動タイミング ㉔	呼出回数 4 回 即、起動 ▼

㉒転送トーク

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、電話をかけてきた相手に対して、「ただいま電話を転送していますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P46)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

㉓転送元トーク

NTTとの契約により着信転送(フレックスホン機能)する場合、転送電話をつなく前に、転送先電話機を受話器をとった相手に対して、「電話が転送されますので、そのままの状態でお待ちください」という音声ガイダンス(メッセージ)を流すか、流さないかを選択します。

[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(⇨P46)が「疑似」に設定されているときは、機能しません。

㉔起動タイミング

着信転送有効時に電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ転送を開始するタイミングを設定します。

- 即、起動 : 着信すると同時に、転送が開始されます。
(出荷時の設定)
- 呼出後起動 : 着信音が、「呼出回数」で設定された回数鳴ったあと、転送が開始されます。

3. [転送 / 短縮番号設定]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送 / 短縮番号**
- レレ外番号

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③着信転送番号の登録 [ポート共通の設定]画面の「⑧着信転送」(☞P47)を「する」に設定している場合の転送先を設定します。
 - 転送先名：転送先の名称や名前を入力します。
 - 電話番号：転送先の電話番号を市外局番から入力します。
NTTとの契約で、着信転送オプションがなくても、動作します。
「転送先電話番号2」は、[ポート共通の設定]画面の「④フレックスホン機能」(☞P46)を「疑似」に設定していて、「転送先電話番号1」が話中などの理由でつながらないとき、かけ直す電話番号です。
- ④短縮ダイヤルの登録 [TEL1]または[TEL2]に接続されたアナログ機器に共通の短縮ダイヤルを、最大20個、登録できます。
アナログ機器の[*]ボタンに続けて2桁の番号をダイヤルするだけで、登録された相手先に電話をかけることができます。
このとき、[ポート1の設定]/[ポート2の設定]画面の「⑩ダイヤル待ち時間」(☞P53)で設定した時間に関係なく、直ちに発信します。
 - 名前 : 相手先の名称や名前を入力します。
 - プリダイヤル：電話番号ごとに、発信者番号の通知 / 非通知および利用する電話会社を指定する場合に、電話番号の前にダイヤルする番号(例：186 / 184、0070、0041など)を入力します。
 - 電話番号 : 相手先の電話番号を、市外局番から入力します。

4 アナログ設定

4. [セレクト番号]画面

- ポート共通の設定
- ポート1の設定
- ポート2の設定
- 転送/短縮番号
- セレクト番号**

登録した電話番号(ISDN回線契約者)から発信された通信の着信形態を指定します。最大20件登録できます。

[ポート1の設定] / [ポート2の設定]画面の「⑩セレクト着信」(≒P52)が「する」と設定されている場合に限り、有効です。

なお、アナログ回線からの発信についても着信形態を指定したい場合は、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約が必要です。

登録	取消	セレクト着信			
①	②				
登録01	相手先名 ③	電話番号 ④	着信ポート&着信動作 ⑤	着信呼出音 ⑥	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録02	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録03	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	
登録04	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音	
			両ポートに着信する	呼出音1	

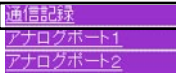
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③相手先名 相手先の名前や名称を入力します。
- ④電話番号 相手先の回線契約番号、ダイヤルイン番号またはi-ナンバーを、市外局番から入力します。(入力例：012345679)
- ⑤着信ポート&着信動作
 - 両ポートに着信しない
着信を拒否します。
 - ポート1のみに着信する
[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
 - ポート2のみに着信する
[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させます。
 - ポート1を優先して着信
[ポート共通の設定]画面、「⑪時間差優先着信」(≒P47)で設定された時間、[TEL1]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL2]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
 - ポート2を優先して着信
[ポート共通の設定]画面、「⑪時間差優先着信」(≒P47)で設定された時間、[TEL2]に接続されたアナログ機器だけに着信させ、そのあと[TEL1]に接続されたアナログ機器にも着信させます。
 - 両ポートに着信する(出荷時の設定)
[TEL1]、[TEL2]に接続されたアナログ機器に着信させます。
- ⑥着信呼出音 登録した電話番号から着信があったときの着信音パターンを選択します。内線/外線呼出音と区別することで、セレクト着信であることが、容易に判断できます。
 - 呼出音1(出荷時の設定)
 - 呼出音2
 - 呼出音3

この章では、
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [通信記録]画面	58
2. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面	59

5 通信記録

1. [通信記録]画面



- ①<クリア>
- ②日付・時間
- ③通信記録

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

A screenshot of the '通信記録' (Communication Record) screen. At the top left is a 'クリア' (Clear) button. Below it is a table with two columns: '日付・時間' (Date/Time) and '通信記録' (Communication Record). The first row shows '01/01 00:02:56' and '網より切断理由コード#38網障害'. The second row shows '01/01 00:02:56' and 'PPP02 手動接続要求番号(1234567890)'. Circled numbers 1, 2, and 3 are placed over the 'クリア' button, the first row, and the second row respectively.

①	日付・時間	通信記録
	01/01 00:02:56 ②	網より切断理由コード#38網障害 ③
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

接続状況を表示します。

2. [アナログポート1]/[アナログポート2]画面



①アナログポート1/2累積情報

- 料金合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話料金の合計を表示します。
表示された課金情報累計は、あくまでも目安にしてください。実際にNTTから請求される回線使用料金とは異なる場合がありますので、ご注意ください。
- 回数合計：該当するポートに接続されたアナログ機器から電話をかけた回数の合計を表示します。なお、つながらなかった場合(相手先が話し中など)は、加算されません。
- 時間合計：該当するポートに接続されたアナログ機器からかけた電話の通話時間の合計を表示します。

②アナログポート1/2累積情報
初期化

「①アナログポート1/2累積情報」表示を初期化したい場合、初期化する項目を、この欄の[]をクリックして表示するプルダウンメニューから選択し、<リセット>をクリックします。

プルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

- 初期化対象項目
 - 全合計項目：料金・回数・時間の全合計
 - 料金合計：累積通話料金の合計のみ
 - 回数合計：累積発信回数の合計のみ
 - 時間合計：累積通話時間の合計のみ

③<クリア>

「④日付・時間」と「⑤通信記録」に表示される内容を、消去します。

④日付・時間

電話をかけた / 電話がかかってきた日時を表示します。

⑤通信記録

本製品側からかけた電話は、ダイヤルした電話番号などを表示します。外部からかかってきた電話は、電話をかけてきた相手の電話番号、相手がダイヤルした電話番号などを表示します。

サブアドレスが設定 / ダイヤルされている場合は、サブアドレスも併せて表示します。

ナンバー・ディスプレイサービスを契約(有料)していない場合、アナログ回線契約者からかかってきた電話については、電話番号を表示しません。

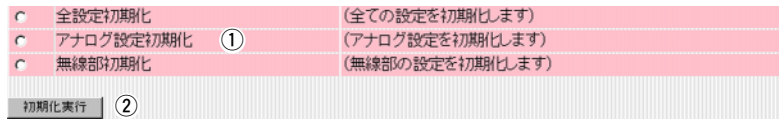
5 通信記録

この章では、
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [設定初期化]画面	62
2. [設定保存]画面	62

6 保存と記録

1. [設定初期化]画面



①初期化条件

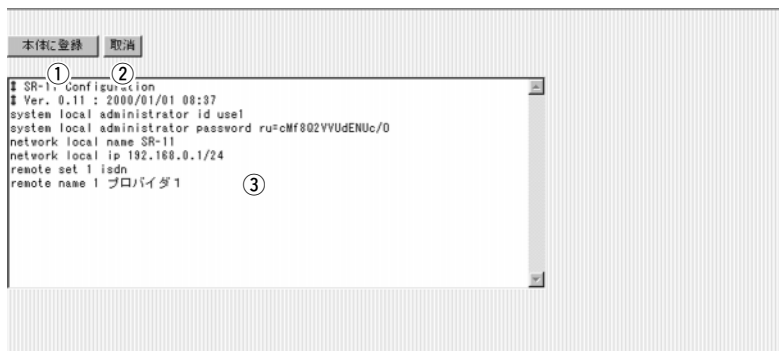
該当する初期化条件に合わせてラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化
[TEL1]、[TEL2]の設定を、出荷時の設定に戻します。
- 無線部初期化
無線LANに関係のある設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行>

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

2. [設定保存]画面



①<本体に登録>

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消>

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面

全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

設定画面の構成

付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

回線と接続 (第1章)	接続状況 (1.)	回線接続状況	フレッツISDN接続状況	
	接続先の追加 /~ の設定 (2.)	接続 (2-1.)	接続設定	
		自動接続 (2-2.)	自動接続設定	
		自動切断 (2-3.)	自動切断設定	
		WAN設定 (2-5.)	WANインターフェース設定	
		アドレス変換 (2-6.)	アドレス変換設定	静的NATテーブル設定
回線設定 (3.)	回線設定	ISDN着信識別番号設定		
本体設定と管理 (第2章)	本体管理設定 (1.)	管理者ID設定	使用者ID設定(使用者1~4)	
	SYSLOG設定 (2.)	SYSLOG設定		
	メール着信通知設定 (3.)	サーバ設定	メール転送設定	
		メールフィルタ		
	着信メール一覧 (4.)	着信メール一覧		
時計設定 (5.)	内部時計設定	自動時計設定		

ネットワーク
(第3章)

本体ネットワーク設定 (1.)	本体名称 / IPアドレス設定	リモートアクセス用IP設定
	DHCPサーバ設定	静的DHCPサーバ設定

無線LAN設定 (2.)	無線LAN設定	無線詳細設定
	MACアドレスセキュリティ設定	

簡易DNSサーバ設定 (3.)	DNSサーバ設定	簡易DNSサーバ設定
-----------------	----------	------------

IPフィルタ設定 (4.)	IPフィルタ設定
---------------	----------

RIP設定 (5.)	RIP設定	RIPフィルタ設定
------------	-------	-----------

ルーティング設定 (6.)	ネットワークインターフェイスリスト	IP経路情報
	スタティックルーティング設定	セレクトルーティング

アナログ設定
(第4章)

ポート共通の設定 (1.)	内線通話	フレックスホンの設定
	優先着信	リソースBOD

ポート1/ポート2の設定 (2.)	ポート毎の設定	着信機能
	送信機能	ダイヤルタイミング
	着信転送	

転送 / 短縮番号 (3.)	着信転送番号の登録	短縮ダイヤルの登録
----------------	-----------	-----------

セレクト番号 (4.)	セレクト着信
-------------	--------

通信記録
(第5章)

通信記録 (1.)	通信記録
-----------	------

ポート1/ポート2通信累積 (2.)	アナログポート1/アナログポート2累積情報
	アナログポート1/アナログポート2累積情報初期化

保存と記録
(第6章)

設定初期化 (1.)	設定初期化
------------	-------

設定保存 (2.)	設定保存
-----------	------



SOHOROUTER
SR-11

第3部 OCNエコノミー

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理.....	7
第 3章	ネットワーク	13
第 4章	通信記録	31
第 5章	保存と記録	33
第 6章	OCNエコノミーの設定例集	35
付 録	設定画面の構成	41

<アナログ設定>メニューは、OCNエコノミー回線では設定できません。

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

この章では、
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

1. [接続状況]画面	2
2. [詳細設定]画面	3
2-1. [接続]画面	3
2-2. [WAN設定]画面	4
2-3. [アドレス変換]画面	5
3. [回線設定]画面	6

1 回線と接続

1. [接続状況]画面



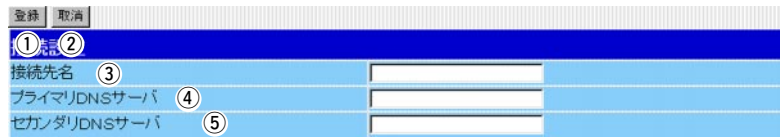
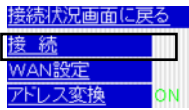
通信中の回線接続状況について表示します。
登録できる接続先は、1件だけです。

OCN選択状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
①	②	③	④

- ①名称 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ②発信元IPアドレス 通信しているパソコンのIPアドレスです。
- ③相手先IPアドレス 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ④状況 通信中は「発信」を表示します。

2. [詳細設定]画面

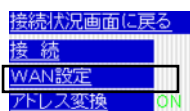
2-1. [接続]画面



- | | |
|--------------------|---|
| ①<登録> | この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。 |
| ②<取消> | この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。 |
| ③接続先名 | 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom) |
| ④プライマリDNSサーバ | DNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34) |
| ⑤セカンダリDNSサーバ | DNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64) |

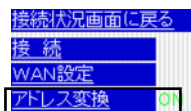
1 回線と接続

2-2. [WAN設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側 IPアドレス/サブネットマスク
OCN契約時に指定されたIPアドレスとサブネットマスクを入力します。

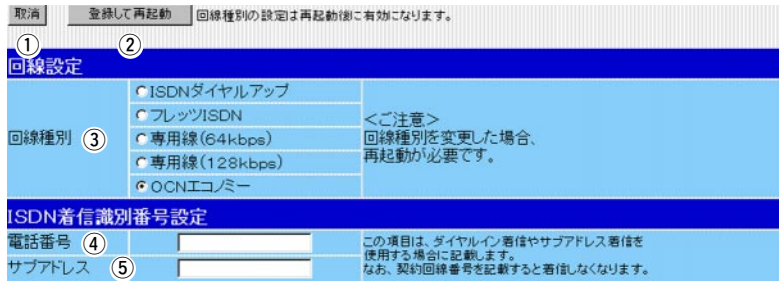
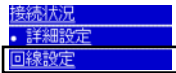
2-3. [アドレス変換]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
 なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(P4)で入力したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
 最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
 - ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1)
 - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
 - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
 - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 OCNエコノミーの契約で指定されたグローバルIPアドレス(6個)と、ローカルIPアドレスを1対1で変換させるためのテーブル設定です。
 最大32個のNATテーブルを設定できます。
 - グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例: 172.16.0.49)
 - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.10)
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

1 回線と接続

3. [回線設定]画面



- ①<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
 - フレッツISDN
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
 - 専用線(64kbps)
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - 専用線(128kbps)
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - OCNエコノミー
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。
- ④電話番号 OCNエコノミー回線では、入力不要です。
- ⑤サブアドレス OCNエコノミー回線では、入力不要です。

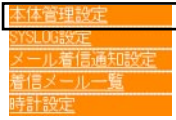
この章では、
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体管理設定]画面	8
2. [SYSLOG設定]画面	10
3. [時計設定]画面	11

[メール着信通知設定]および[着信メール一覧]画面は、OCNエコノミー回線では利用できません。

2 本体設定と管理

1. [本体管理設定]画面



登録		取消	
① ②			
管理者ID設定			
管理者ID	③	<input type="text"/>	
管理者/パスワード	④	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑤	<input type="password"/>	
⑥ ⑦			
使用者ID設定			
使用者ID	⑦	<input type="text"/>	登録/取消▲
使用者/パスワード	⑧	<input type="password"/>	
パスワードの確認入力	⑨	<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可	⑩		<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可	⑪		<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
使用者ID		<input type="text"/>	
使用者/パスワード		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力		<input type="password"/>	
手動接続・切断を許可			<input type="checkbox"/> する
接続設定編集を許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する
通信記録表示・クリアを許可			<input type="checkbox"/> しない <input type="checkbox"/> する

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：Router)
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：****)
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。
(表示例：****)

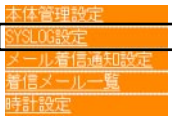
1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a settings page with a top bar containing '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons. The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The '管理者ID設定' section includes fields for '管理者ID' (Administrator ID), '管理者/パスワード' (Administrator Password), and 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input). The '使用者ID設定' section is repeated for four users (使用者1 to 使用者4). Each user entry includes a checkbox, '使用者ID' (User ID), '使用者/パスワード' (User Password), 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input), and three permission options: '手動接続・切断を許可' (Allow manual connection/disconnection), '接続設定編集を許可' (Allow connection settings editing), and '通信記録表示・クリアを許可' (Allow communication record display/clearing). The permission options are set to 'する' (Allow) or 'しない' (Disallow) with radio buttons.

- ⑥使用者1～4 [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom)
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。
(表示例：****)
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。
(表示例：****)
- ⑩接続設定編集を許可 使用者に接続先の編集を許可するかどうかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかどうかの選択です。

2 本体設定と管理

2. [SYSLOG設定]画面

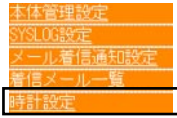


ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常「1」を使用します。

3. [時計設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定でき、その日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

2 本体設定と管理

この章では、
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体ネットワーク設定]画面	14
2. [無線LAN設定]画面	18
3. [簡易DNSサーバ設定]画面	22
4. [IPフィルタ設定]画面	23
5. [RIP設定]画面	27
6. [ルーティング設定]画面	28

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面

- ① 本体ネットワーク設定
- ② 無線LAN設定
- ③ 簡易DNSサーバ設定
- ④ IPフィルタ設定
- ⑤ RIP設定
- ⑥ ルーティング設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称	SR-11
⑤ IPアドレス	192.168.0.1
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定

登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1 ⑧		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

DHCPサーバ設定

登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス ⑩	192.168.0.10	
割り当て回数 ⑪	90 個	
サブネットマスク ⑫	255.255.255.0	
リース期間 ⑬	9 日	
ドメイン名 ⑭		
プライマリDNSサーバ ⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ ⑯		
プライマリWINSサーバ ⑰		
セカンダリWINSサーバ ⑱		

静的DHCPサーバ設定

登録/取消

登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>	

現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P30)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

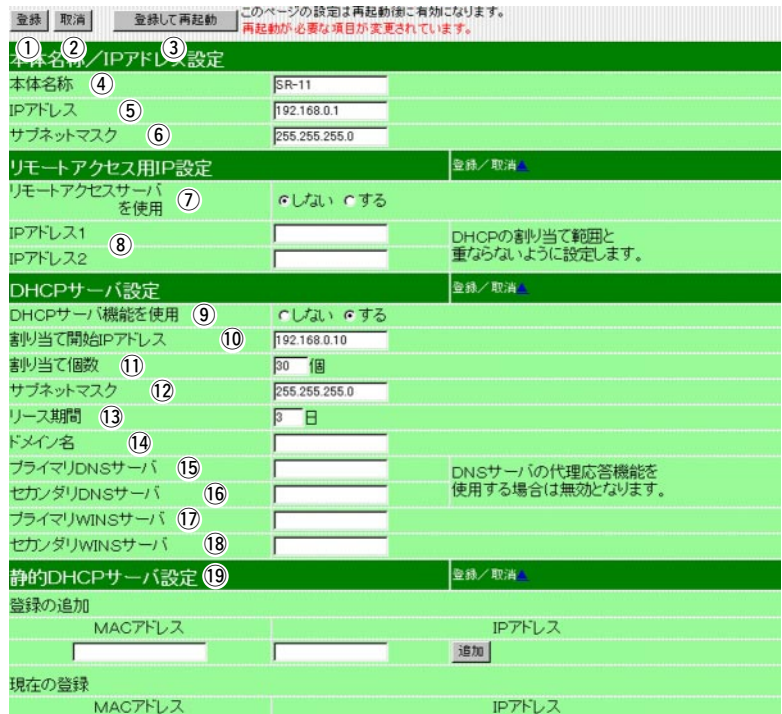
The screenshot shows a network configuration interface with the following sections and fields:

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ 本体名/IPアドレス設定**
 - ④ 本体名称: SR-11
 - ⑤ IPアドレス: 192.168.0.1
 - ⑥ サブネットマスク: 255.255.255.0
- リモートアクセス用IP設定**
 - ⑦ リモートアクセスサーバを使用: しない する
 - ⑧ IPアドレス1: []
 - IPアドレス2: []
- DHCPサーバ設定**
 - ⑨ DHCPサーバ機能を使用: しない する
 - ⑩ 割り当て開始IPアドレス: 192.168.0.10
 - ⑪ 割り当て個数: 90 個
 - ⑫ サブネットマスク: 255.255.255.0
 - ⑬ リース期間: 9 日
 - ⑭ ドメイン名: []
 - ⑮ プライマリDNSサーバ: []
 - ⑯ セカンダリDNSサーバ: []
 - ⑰ プライマリWINSサーバ: []
 - ⑱ セカンダリWINSサーバ: []
- 静的DHCPサーバ設定**
 - 登録の追加
 - MACアドレス: []
 - IPアドレス: []
 - [追加]
 - 現在の登録
 - MACアドレス: []
 - IPアドレス: []

- ⑦ リモートアクセスサーバを使用 OCNエコノミー回線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ... OCNエコノミー回線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑨ DHCPサーバ機能を使用 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩ 割り当て開始IPアドレス 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪ 割り当て個数 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫ サブネットマスク 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬ リース期間 DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)



- ⑭ドメイン名 Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。
- ⑮プライマリDNSサーバ [接続]画面(☞P3)で設定した同項目の内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ [接続]画面(☞P3)で設定した内容をこの項目に反映します。
上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動	
このページの設定は再起動後に有効になります。 再起動が必要な項目が変更されています。					
① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定					
④ 本体名称	SR-11				
⑤ IPアドレス	192.168.0.1				
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0				
リモートアクセス用IP設定					登録/取消
リモートアクセスサーバを使用	⑦	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する		
IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。			
IPアドレス2	⑧				
DHCPサーバ設定					登録/取消
DHCPサーバ機能を使用	⑨	<input type="radio"/> しない	<input checked="" type="radio"/> する		
割り当て開始IPアドレス	⑩	192.168.0.10			
割り当て回数	⑪	90	個		
サブネットマスク	⑫	255.255.255.0			
リース期間	⑬	9	日		
ドメイン名	⑭				
プライマリDNSサーバ	⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。		
セカンダリDNSサーバ	⑯				
プライマリWINSサーバ	⑰				
セカンダリWINSサーバ	⑱				
静的DHCPサーバ設定					登録/取消
登録の追加					
MACアドレス		IPアドレス			
				追加	
現在の登録					
MACアドレス		IPアドレス			

⑱静的DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの接続設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



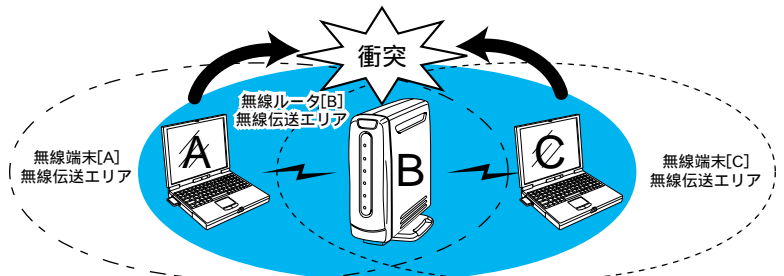
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別にご注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「*」で表示されます。(表示例：**)
- ⑤ESS IDの確認入力 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別にご注意してください。(表示例：**)
- ⑥チャンネル 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
無線LAN設定															
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
ESS IDの確認入力 ⑤	**														
無線詳細設定															
チャンネル ⑥	14														
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し														
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する														
キージェネレータ ⑨															
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
選択	文字列														
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00														
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00														
MACアドレスセキュリティ設定															
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。													
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9														
登録の追加															
MACアドレス ⑬		追加													
現在の登録															
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況													

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

⑨キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「*」で表示します。(表示例：* *) 入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

⑩WEPキー

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

⑪MACアドレスセキュリティを使用

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。	
無線LAN設定							
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。			
ESS IDの確認入力	⑤	**					
無線詳細設定							
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲			
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し					
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する				
キージェネレータ	⑨						
WEPキー	⑩	選択	文字列				
		<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
MACアドレスセキュリティ設定							
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。			
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9					
登録の追加							
MACアドレス	⑬			追加			
現在の登録							
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況					

⑬MACアドレス

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

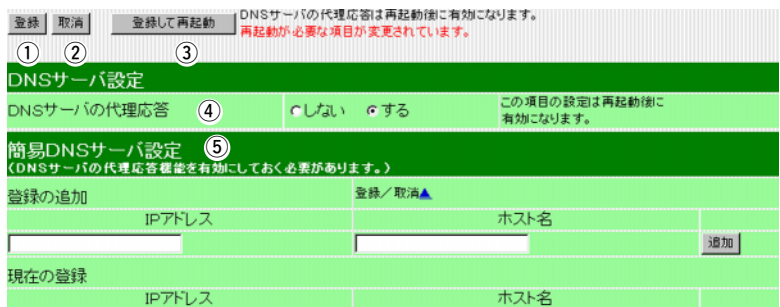
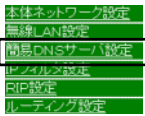
入力は、半角文字で12桁を入力します。

入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333
無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

3 ネットワーク

3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静かなDHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- ポート設定
- ルーティング設定

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

- ①<追加> 上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。追加した内容は、この画面の下に表示されます。
- ②番号 最大64件のフィルターを登録できます。フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
- ③<編集> 設定済みのフィルターを編集するボタンです。編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。
- ④フィルタ方向 パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。以下の中から選択してください。
 - OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
 - IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
 - BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑤フィルタ方法

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑥プロトコル

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。

プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑦ポート番号

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	開始	終了	IPアドレス	サブネットマスク	宛先IPアドレス
削除	(10) OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

⑨宛先IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
 - サブネットマスクに255.255.255.252
- フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除>

設定したフィルターを削除するボタンです。

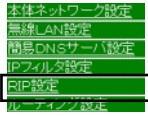
ご参考に

OCNエコノミー回線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス		宛先IPアドレス				
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	
削除	63	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.20.102.130	255.255.255.255	-	255.255.255.255

- なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。
- 63番：プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止
 - 64番：本製品への不正なパケットの着信を防止

5. [RIP設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするために、本製品を再起動します。

RIP設定

RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。

LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。

RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

- ④LAN側にRIPを使用 LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤RIPフィルタ設定 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
最大20件の登録が可能です。
入力後は、<追加>をクリックしてください。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静態DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- FTP設定
- ルーティング設定

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクト ルーティング

番号

接続方法 * 拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路

発信元IPアドレス

プロトコル制御 ポート番号

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯

終了時刻で強制切断 しない する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P29)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
 - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
 - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
 - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

セレクトルーティング					
番号	<input type="text"/> <input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="編集"/>				
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> を選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路	01:プロバイダ1				
発信元IPアドレス	-				
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value="ポート番号"/> - <input type="button" value=""/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名					
セレクトルーティングを使用する時間帯	00:00 ~ 00:00				
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> しない <input checked="" type="checkbox"/> する				

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(⇒P28)にも表示されます。

- ⑦経路
 - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、 をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。

- ⑧宛先

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。

- ⑨ネットマスク

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。

- ⑩ゲートウェイ

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。

- ⑪メトリック値

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング					
番号	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="編集"/>		
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> * 拒絶するを選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路	01:プロバイダ <input type="button" value="拒絶する"/>				
発信元IPアドレス	- <input type="text"/>				
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value="拒絶する"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>				
セレクトルーティングを使用する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

セレクトルーティング

OCNエコノミー回線では、動作しません。

この章では、
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

-
1. [通信記録]画面 32
[アナログポート1]および[アナログポート2]画面は、OCNエコノミー回線では使用できないアナログ機器の通信累積です。

4 通信記録

1. [通信記録]画面

通信記録
アナログポート1
アナログポート2

- ①<クリア>
- ②日付・時間
- ③通信記録

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

クリア	
①	通信記録
日付・時間	
01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

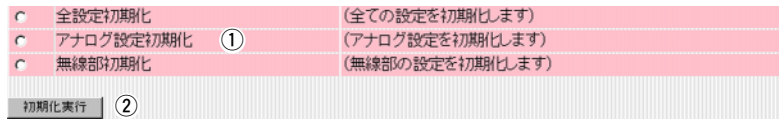
接続状況を表示します。

この章では、
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [設定初期化]画面	34
2. [設定保存]画面	34

5 保存と記録

1. [設定初期化]画面



①初期化条件

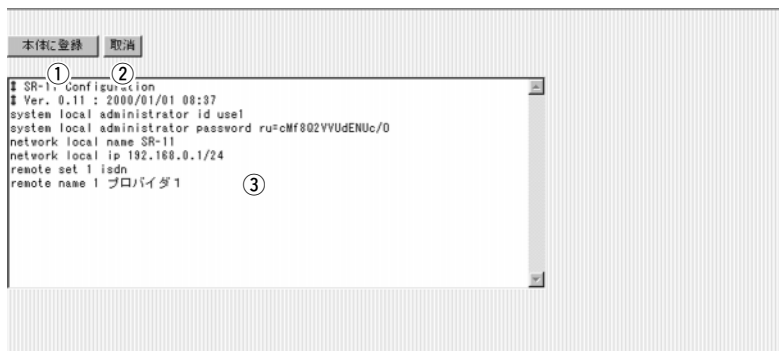
該当する初期化条件のラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化
OCNエコノミー設定では、動作しません。
- 無線部初期化
無線LANに関する設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行>

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

2. [設定保存]画面



①<本体に登録>

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消>

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面

全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されるます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、
OCNエコノミーでの具体的な接続例に沿って、どのように設定するかについて説明します。
なお、回線種別は、すでに設定されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略して
います。(回線種別の設定は、6ページを参照してください。)

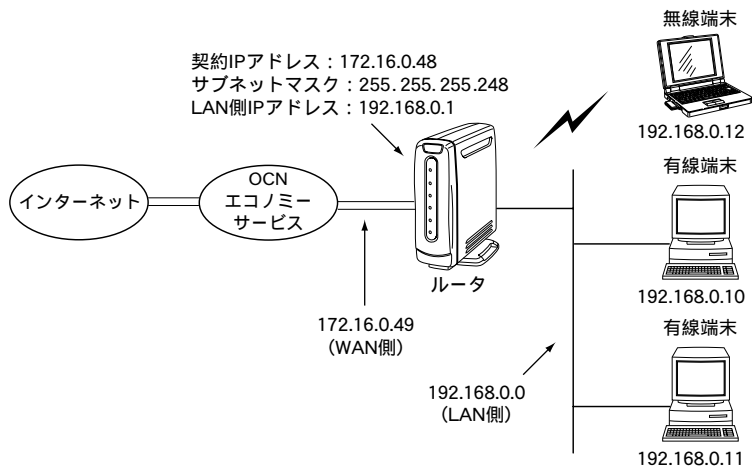
1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続	36
---------------------------------	----

6 OCNエコノミーの設定例集

1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続

【条件】

- OCNが指定するIPアドレスの数が、8個の場合
- 3台の端末には、自動生成されたNATテーブルを適用
- 残りの端末には、自動生成されたマスカレード用IPアドレスを共通に使用



ここでは、NTTから以下の8個のIPアドレスを指定された場合を例に説明します。

- 172.16.0.48 ~ 172.16.0.55(指定された8個)
- 172.16.0.50 ~ 172.16.0.54(端末用IPアドレス)
- 172.16.0.48(ネットワークIPアドレス)
- 172.16.0.49(契約ルータIPアドレス)
- 172.16.0.55(ブロードキャストアドレス)

マスカレード用IPアドレスと静的NATテーブルに割り当てるIPアドレスが自動設定(☞P5)されます。

自動設定は、指定された8個のIPアドレスを使うことを想定して設定されますので、16個を指定されている場合は、自動設定された値(☞P5)を、必要に応じて再設定してください。

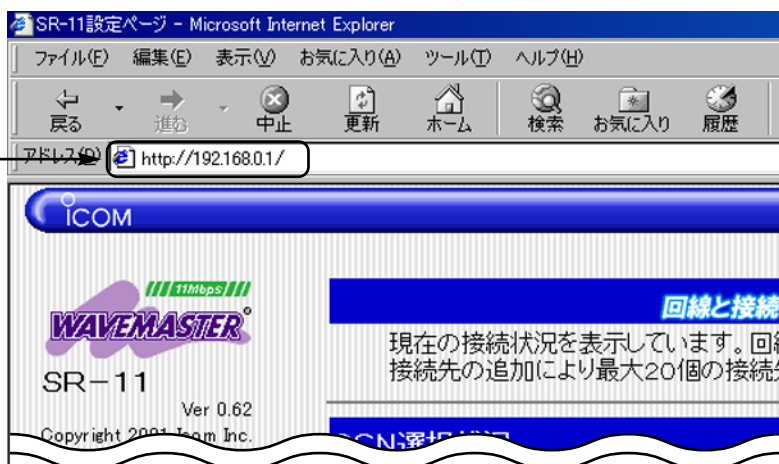
【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

2. 接続先設定

<詳細設定>をクリックして、接続情報を以下のように設定します。

4. クリック	登録 取消
1. ocn(任意でよい)	接続先名: ocn
2. 172.16.0.49	プライマリDNSサーバ: 172.16.0.49
3. 255.255.255.248	セカンダリDNSサーバ: 255.255.255.248

3. 管理者IDの設定

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック	登録 取消
1. router(任意でよい)	管理者ID: router
2. 任意の英数字を入力 入力値は表示されません。	管理者パスワード: ***** パスワードの確認入力: *****

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****

使用者ID設定	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	登録 / 取消
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	しない する
通信記録表示・クリアを許可	しない する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	しない する
通信記録表示・クリアを許可	しない する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
<input type="checkbox"/> 使用者パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	しない する
通信記録表示・クリアを許可	しない する

6 OCNエコノミーの設定例集

1. 無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

4. 本体名称の設定

必要であれば、<ネットワーク>メニューをクリックして、本体名称を設定します。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

DHCPサーバ設定 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	
割り当て個数	30 個	
サブネットマスク	255.255.255.0	
リース期間	3 日	
ドメイン名		
プライマリDNSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ		
プライマリWINSサーバ		
セカンダリWINSサーバ		

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
		追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

設定内容登録後、設定した契約IPアドレスに応じて、自動的設定されたマスカレードIPアドレスを[アドレス変換]画面(⇨P5)で確認できません。

1.無線端末と有線端末をインターネットに常時接続(つづき)

6.無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線端末の設定を以下のように行います。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

- 2. クリック
- 1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定		
ESS ID	**	この項目の設定は再起動後に有効になります。
ESS IDの確認入力	**	
無線詳細設定		登録 / 取消▲
チャンネル	14	
Rts/Ctsスレッシュホールド	無し	
WEPキーを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
キージェネレータ		
WEPキー	選択 文字列 <input checked="" type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00	
MACアドレスセキュリティー設定		登録 / 取消▲
MACアドレスセキュリティーを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。
本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9	
登録の追加		
MACアドレス		追加
現在の登録		
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

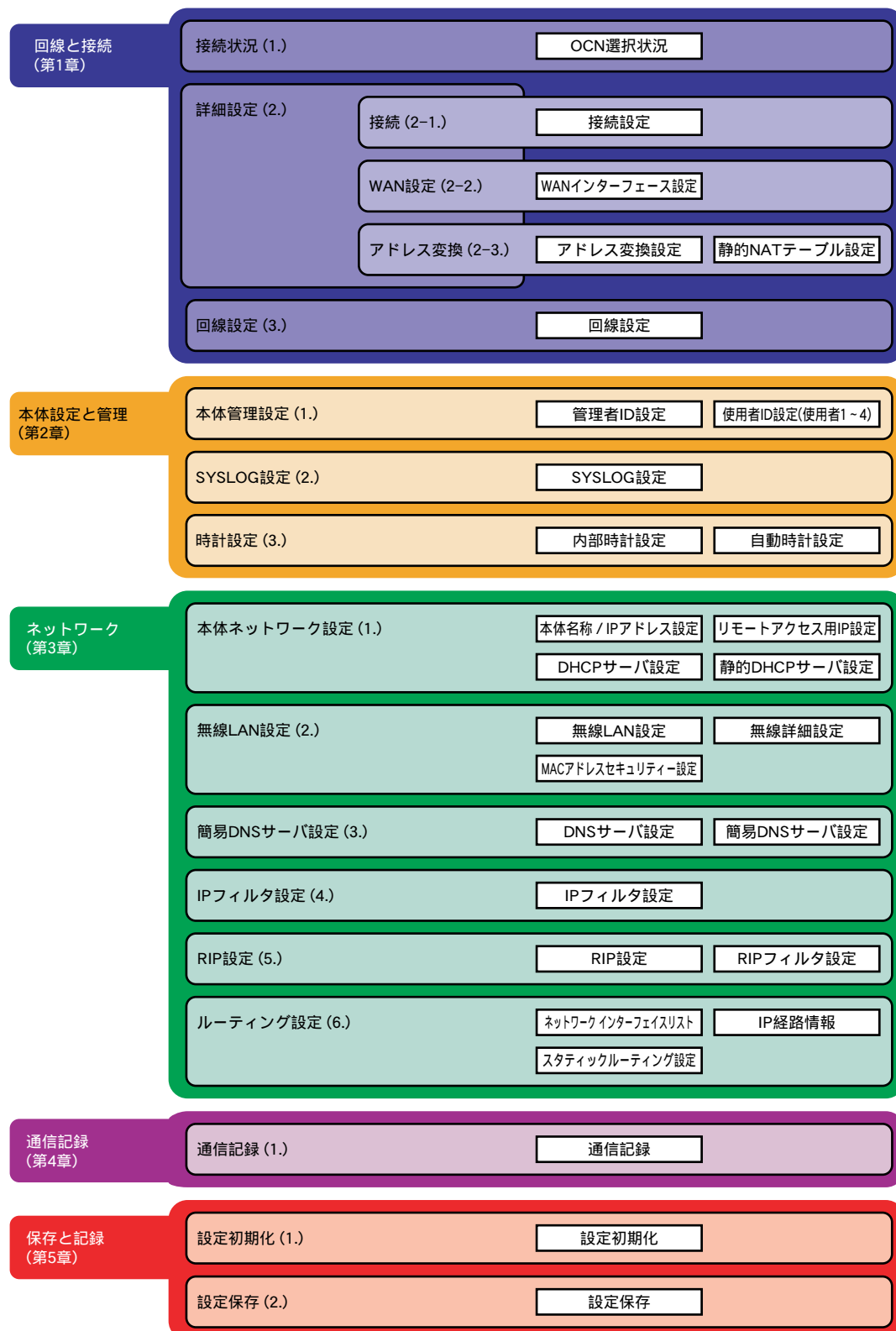
6 OCNエコノミーの設定例集

設定画面の構成

付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成





SOHOROUTER
SR-11

第4部 専用線(64/128kbps)

第 1章	回線と接続.....	1
第 2章	本体設定と管理.....	7
第 3章	ネットワーク	13
第 4章	通信記録	31
第 5章	保存と記録	33
第 6章	専用線の設定例集	35
付 録	設定画面の構成	51

<アナログ設定>メニューは、専用線では設定できません。

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

この章では、
設定ページの、<回線と接続>メニューで表示される画面について説明します。

1. [接続状況]画面	2
2. [詳細設定]画面	3
2-1. [接続]画面	3
2-2. [WAN設定]画面	4
2-3. [アドレス変換]画面	5
3. [回線設定]画面	6

1 回線と接続

1. [接続状況]画面

通信中の回線接続状況について表示します。
登録できる接続先は、1件だけです。

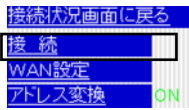
接続状況
• 詳細設定
回線設定

専用線(128kbps)接続状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
①	②	③	④

- ①名称 通信している接続先(プロバイダーなど)の名称を表示します。
なお、表示されるのは本製品に接続先として登録されている名称です。
- ②発信元IPアドレス 通信しているパソコンのIPアドレスです。
- ③相手先IPアドレス 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ④状況 通信中は「発信」を表示します。

2. [詳細設定]画面

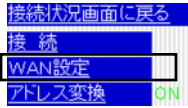
2-1. [接続]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③接続先名 接続する相手先名を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
(入力例：icom)
- ④デフォルトGWを構築 LAN環境で発生したパケットのうち、宛先不明のパケットを送り出す出口を意味し、この接続をその出口とするかしないかを選択します。
- しない：パケットデータを送る先が支社など、閉じられた環境のとき選択します。
 - する：パケットデータを送る先がインターネットなどグローバルな環境のとき選択します。(出荷時の設定)
- ⑤プライマリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)
- ⑥セカンダリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64)
- 相手先が、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑤、⑥の設定は不要です。

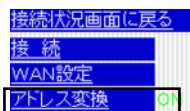
1 回線と接続

2-2. [WAN設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体のWAN側..... IPアドレス/サブネットマスク
自分のWAN側のIPアドレスとサブネットマスクを設定します。
接続先がIPCPに対応している場合(プロバイダーなど)は、設定の必要がありません。
- ④Numberedで使用 通信対象となる相手先ルータがUnnumberedに対応しない場合など、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定するとき使用します。
使用するときは、「③本体WAN側」のIPアドレスとサブネットマスク、「⑤相手のWAN側」のIPアドレスを入力してください。
- ⑤相手のWAN側..... IPアドレス
Numbered接続をする場合には、ここに自己WAN側IPアドレスを入力する必要があります。
接続先がIPCPに対応している場合(プロバイダーなど)は、設定の必要がありません。

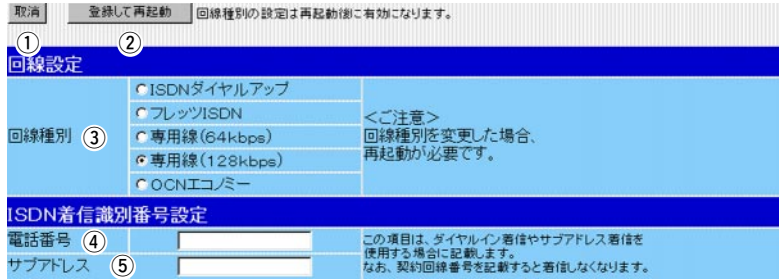
2-3. [アドレス変換]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかどうかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス IPCPによってプロバイダーから取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用しますので、入力は不要です。
- ⑤静的マスカレード マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
 - ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.1.0)
 - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
 - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
 - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。
- ⑥静的NATテーブル設定 プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。
最大32個のNATテーブルを設定できます。
 - グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例: 172.16.0.49)
 - ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例: 192.168.0.10)
 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

1 回線と接続

3. [回線設定]画面



- ①<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 以下の5つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
 - フレッツISDN
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
 - 専用線(64kbps)
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - 専用線(128kbps)
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - OCNエコノミー
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択して設定を行ってください。
- ④電話番号 専用線では、入力不要です。
- ⑤サブアドレス 専用線では、入力不要です。

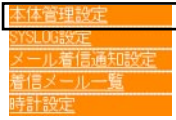
この章では、
設定ページの、<本体設定と管理>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体管理設定]画面	8
2. [SYSLOG設定]画面	10
3. [時計設定]画面	11

[メール着信通知設定]および[着信メール一覧]画面は、専用線では利用できません。

2 本体設定と管理

1. [本体管理設定]画面



登録		取消	
① ② 管理者ID設定			
管理者ID ③		<input type="text"/>	
管理者/パスワード ④		<input type="password"/>	
パスワードの確認入力 ⑤		<input type="password"/>	
⑥ 使用者ID設定		登録/取消▲	
使用者1	使用者ID ⑦	<input type="text"/>	
	使用者/パスワード ⑧	<input type="password"/>	
	パスワードの確認入力 ⑨	<input type="password"/>	
	手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可 ⑩	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
通信記録表示・クリアを許可 ⑪	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
使用者2	使用者ID	<input type="text"/>	
	使用者/パスワード	<input type="password"/>	
	パスワードの確認入力	<input type="password"/>	
	手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
使用者3	使用者ID	<input type="text"/>	
	使用者/パスワード	<input type="password"/>	
	パスワードの確認入力	<input type="password"/>	
	手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
使用者4	使用者ID	<input type="text"/>	
	使用者/パスワード	<input type="password"/>	
	パスワードの確認入力	<input type="password"/>	
	手動接続・切断を許可	する	
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③管理者ID 本製品の設定ページへのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (入力例：Router)
管理者IDを設定すると、次のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに管理者IDを入力します。
- ④管理者パスワード 「③管理者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「*(アスタリスク)」で表示されます。 (表示例：****)
管理者パスワードを設定すると、次のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに管理者パスワードを入力します。
- ⑤パスワードの確認入力 「④管理者パスワード」の入力間違いを防ぐために、パスワードを再入力します。 (表示例：****)

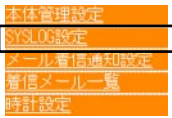
1. [本体管理設定]画面(つづき)

The screenshot shows a settings page with a top bar containing '登録' (Register) and '取消' (Cancel) buttons. The main content is divided into sections for '管理者ID設定' (Administrator ID Settings) and '使用者ID設定' (User ID Settings). The '管理者ID設定' section includes fields for '管理者ID' (Administrator ID), '管理者/パスワード' (Administrator Password), and 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input). The '使用者ID設定' section is repeated for four users (使用者1 to 使用者4). Each user entry includes a checkbox, '使用者ID' (User ID), '使用者/パスワード' (User Password), 'パスワードの確認入力' (Password Confirmation Input), and three permission checkboxes: '手動接続・切断を許可' (Allow manual connection/disconnection), '接続設定編集を許可' (Allow connection settings editing), and '通信記録表示・クリアを許可' (Allow communication record display/clearing). A '登録/取消' button is located at the top right of the user settings section.

- ⑥使用者1～4 [管理者ID設定]で設定した管理者とは別に、設定ページへのアクセスを許可する使用者を設定する場合、チェックボックスをクリックします。最大4人の使用者を登録できます。
- ⑦使用者ID 本製品の設定ページへのアクセスを許可された使用者の名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。(入力例：icom)
使用者IDを設定すると、管理者IDが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者IDを入力します。
- ⑧使用者パスワード 「⑥使用者ID」に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角30(全角15)文字以内で入力します。(表示例：****)
使用者パスワードを設定すると、管理者パスワードが設定されているときと同じようにパスワードの入力を求められますので、そこに使用者パスワードを入力します。
- ⑨パスワードの確認入力 「⑦使用者パスワード」の入力間違いを防ぐため、パスワードを再入力します。(表示例：****)
- ⑩接続設定編集を許可 使用者に接続先の編集を許可するかどうかの選択です。
- ⑪通信記録表示・クリアを許可 ... 使用者に[通信記録]画面へのアクセスと、画面中の<クリア>の操作を許可するかどうかの選択です。

2 本体設定と管理

2. [SYSLOG設定]画面

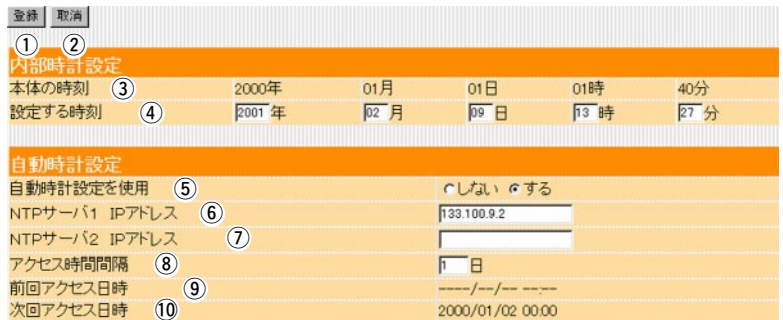
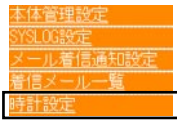


ログ情報などをSYSLOGホストを利用して管理する場合、SYSLOG機能を利用したファイルとして一括管理ができます。以下の項目から、SYSLOGとして出力する情報を選択します。



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③DEBUGを使用 ISDNやPPPなど各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ④INFOを使用 INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑤NOTICEを使用 NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。
- ⑥ホストアドレス SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストは、SYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。
- ⑦ファシリティ SYSLOGのファシリティを入力します。
0～23の値を設定してください。
通常「1」を使用します。

3. [時計設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③本体の時刻 本製品に設定されている時刻を表示します。
- ④設定する時刻 本製品の設定ページにアクセスしたとき、パソコンの時計設定を取得して表示します。
表示する時間は、[時計設定]画面アクセス時の時間です。
正確に設定したいとき、全設定を初期化したとき、停電対策用電池を交換したあとなどは、画面更新(左フレームの[時計設定]項目をクリック)してから、<登録>をクリックしてください。
- ⑤自動時計設定を使用 インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせを行い、内部時計を自動設定します。
- ⑥NTPサーバ1 IPアドレス 最初にアクセスさせたいタイムサーバのIPアドレスを入力します。
- ⑦NTPサーバ2 IPアドレス 「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度「⑥NTPサーバ1 IPアドレス」で設定したタイムサーバにアクセスします。
- ⑧アクセス時間間隔 タイムサーバにアクセスさせる間隔を、日数で設定します。
最大99日まで設定でき、その日数にしたがってアクセスします。
- ⑨前回アクセス日時 タイムサーバにアクセスした日時を表示します。
- ⑩次回アクセス日時 タイムサーバにアクセスする予定日時を、「⑨前回アクセス日時」と「⑧アクセス時間間隔」で設定された日数より算出して表示します。

2 本体設定と管理

この章では、
設定ページの、<ネットワーク>メニューで表示される画面について説明します。

1. [本体ネットワーク設定]画面	14
2. [無線LAN設定]画面	18
3. [簡易DNSサーバ設定]画面	22
4. [IPフィルタ設定]画面	23
5. [RIP設定]画面	27
6. [ルーティング設定]画面	28

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面

- ① 本体ネットワーク設定
- ② 無線LAN設定
- ③ 簡易DNSサーバ設定
- ④ IPフィルタ設定
- ⑤ RIP設定
- ⑥ ルーティング設定

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称	SR-11
⑤ IPアドレス	192.168.0.1
⑥ サブネットマスク	255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定

登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
IPアドレス1 ⑧		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。
IPアドレス2		

DHCPサーバ設定

登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
割り当て開始IPアドレス ⑩	192.168.0.10	
割り当て回数 ⑪	90 個	
サブネットマスク ⑫	255.255.255.0	
リース期間 ⑬	9 日	
ドメイン名 ⑭		
プライマリDNSサーバ ⑮		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ ⑯		
プライマリWINSサーバ ⑰		
セカンダリWINSサーバ ⑱		

静的DHCPサーバ設定

登録/取消

登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="button" value="追加"/>	

現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④本体名称 ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。設定した名前は、ネットワーク上の有線/無線接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。
入力形式：[http://web.本体名称/]
この場合、[簡易DNSサーバ設定]画面の「④DNSサーバの代理応答」(☞P30)を「する」(初期設定)に設定しておく必要があります。また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A~Z、0~9、-)、31文字以内で設定します。
全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できません。
- ⑤IPアドレス [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。
- ⑥サブネットマスク [WAN設定]画面の「③本体のWAN側」(☞P4)で設定した内容をこの項目に反映します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名/IPアドレス設定

④ 本体名称 SR-11

⑤ IPアドレス 192.168.0.1

⑥ サブネットマスク 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

⑦ リモートアクセスサーバを使用 しない する

⑧ IPアドレス1

IPアドレス2 DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消

⑨ DHCPサーバ機能を使用 しない する

⑩ 割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

⑪ 割り当て個数 90 個

⑫ サブネットマスク 255.255.255.0

⑬ リース期間 9 日

⑭ ドメイン名

⑮ プライマリDNSサーバ

⑯ セカンダリDNSサーバ DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

⑰ プライマリWINSサーバ

⑱ セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

- ⑦ リモートアクセスサーバを使用 専用線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑧ IPアドレス1/IPアドレス2 ... 専用線では利用できないため、設定しても無効です。
- ⑨ DHCPサーバ機能を使用 本製品を動的DHCPサーバとして使用するかどうかを設定します。本製品に有線および無線で直接接続しているパソコンのTCP/IP設定を、“IPアドレスを自動的に取得する”と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。
- ⑩ 割り当て開始IPアドレス 本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
- ⑪ 割り当て個数 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」から連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数を、5～128のあいだで設定します。
- ⑫ サブネットマスク 上記「⑩割り当て開始IPアドレス」に対するサブネットマスクです。
- ⑬ リース期間 DHCPサーバが自動で、ローカルIPアドレスを定期的に、クライアントに割り当てなおす期限を日数で指定します。

3 ネットワーク

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③ 本体名称/IPアドレス設定

④ 本体名称 SR-11

⑤ IPアドレス 192.168.0.1

⑥ サブネットマスク 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

⑦ リモートアクセスサーバを使用 しない する

⑧ IPアドレス1

IPアドレス2 DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消

⑨ DHCPサーバ機能を使用 しない する

⑩ 割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

⑪ 割り当て個数 90 個

⑫ サブネットマスク 255.255.255.0

⑬ リリース期間 9 日

⑭ ドメイン名

⑮ プライマリDNSサーバ

⑯ セカンダリDNSサーバ DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。

⑰ プライマリWINSサーバ

⑱ セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

- ⑭ドメイン名 Ethernetでドメイン名を使用しているときなど必要があれば、DHCPサーバがクライアントに通知するネットワークアドレスのドメイン名を入力します。
- ⑮プライマリDNSサーバ [接続]画面(☞P3)で設定した内容を、この項目に反映します。「⑨DHCPサーバ機能を使用」を「する」に設定し、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先するどちらか一方を入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
- ⑯セカンダリDNSサーバ [接続]画面(☞P3)から設定した内容をこの項目に反映します。上記「⑮プライマリDNSサーバ」と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。
- ⑰プライマリWINSサーバ Microsoftネットワークを使ってWINSサーバを利用する場合は、WINSサーバアドレスを入力します。WINSサーバのアドレスが2つある場合は、どちらか一方を入力します。
- ⑱セカンダリWINSサーバ 上記「⑰プライマリWINSサーバ」と同様、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

1. [本体ネットワーク設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

① ② ③
本体名称/IPアドレス設定

本体名称 ④ SR-11
 IPアドレス ⑤ 192.168.0.1
 サブネットマスク ⑥ 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 ⑦ しない する

IPアドレス1 ⑧
 IPアドレス2 ⑧ DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 ⑨ しない する

割り当て開始IPアドレス ⑩ 192.168.0.10
 割り当て回数 ⑪ 90 回
 サブネットマスク ⑫ 255.255.255.0
 リース期間 ⑬ 9 日
 ドメイン名 ⑭

プライマリDNSサーバ ⑮
 セカンダリDNSサーバ ⑯ DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
 プライマリWINSサーバ ⑰
 セカンダリWINSサーバ ⑱

静的DHCPサーバ設定 ⑲ 登録/取消

登録の追加

MACアドレス	IPアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

追加

現在の登録

MACアドレス	IPアドレス
---------	--------

⑲静的DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能を使用して自動割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

この欄には、最大16個の組み合わせまで登録でき、登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能で割り当てることができる範囲外のアドレスを指定してください。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定**
- 無線LANの接続設定
- IDフィルタ設定
- IP設定
- ルーティング設定



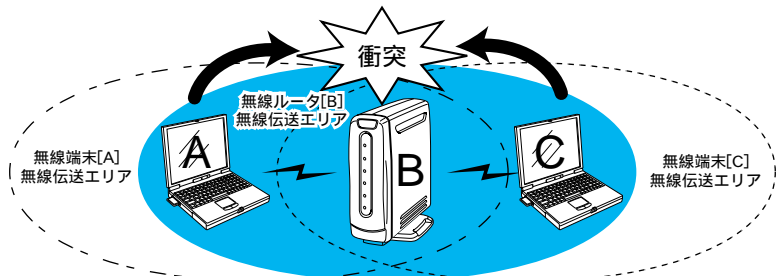
- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④ESS ID ワイヤレス接続による本製品、およびローカルネットワークへの不正なアクセスなどを防止するための識別用IDを入力します。同じESS IDが設定された本製品と無線端末のあいだでのみ、ワイヤレス接続できます。大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。 (出荷時の設定：LG) また、入力した文字は、すべて「*」で表示されます。(表示例：* *)
- ⑤ESS IDの確認入力 「④ESS ID」の入力間違いを防ぐために、ESS IDを再入力します。大文字/小文字の区別に注意してください。(表示例：* *)
- ⑥チャンネル 本製品と無線端末がワイヤレス接続に使用する無線伝送用チャンネルを設定します。
無線伝送エリア内に、別の無線LANなどの機器が存在する場合は、相互の電波干渉を避けるために、5チャンネル以上間隔をあけて設定してください。
伝送距離は、約50m(見通し距離：室内)です。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録 取消 登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動時に有効になります。											
無線LAN設定													
ESS ID ④	**	この項目の設定は再起動時に有効になります。											
ESS IDの確認入力 ⑤	**												
無線詳細設定													
チャンネル ⑥	14												
Rts/Ctsスレッシュホールド ⑦	無し												
WEPキーを使用 ⑧	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する												
キージェネレータ ⑨													
WEPキー ⑩	<table border="1"> <tr> <th>選択</th> <th>文字列</th> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 1</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 2</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 3</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> <tr> <td><input type="radio"/> 4</td> <td>00-00-00-00-00</td> </tr> </table>	選択	文字列	<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00		
選択	文字列												
<input type="radio"/> 1	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00												
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00												
MACアドレスセキュリティ設定													
MACアドレスセキュリティを使用 ⑪	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	この項目の設定は再起動時に有効になります。											
本体無線部のMACアドレス ⑫	00-90-C7-0B-01-A9												
登録の追加													
MACアドレス ⑬		追加											
現在の登録													
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況											

⑦Rts/Ctsスレッシュホールド

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。(出荷時の設定：無し) Rts/Cts(Request to send/Clear to send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。隠れ端末とは、下図のように、それぞれが無線ルータ[B]と通信できても、互いが直接通信できない無線端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。通信の衝突を防止するには、送信要求(Rts)信号を受信した無線ルータ[B]が、無線伝送エリア内にある無線端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線端末は無線ルータ[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。これにより、Rts信号を送信していない無線端末[A]または[C]は、無線ルータ[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。



⑧WEPキーを使用

無線ネットワーク間で通信するデータを保護するために、WEP方式(Wired Equivalent Privacy)によるデータの暗号化をするかしないかを選択します。WEPキーを使用「する」と設定した場合、「⑨キージェネレータ」、および「⑩WEPキー」の設定に基づいて暗号化されます。

3 ネットワーク

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

⑨キージェネレータ

暗号化および復号化に使う鍵を生成するための文字列を設定します。入力する文字は、すべて「*」で表示します。(表示例：* *)
入力された文字列より生成された鍵は、下記の「⑩WEPキー」のテキストボックスに表示されます。

通信対象となる相手間で、同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字/記号)を設定します。通信の対象となる相手間で、設定された文字列が異なると、暗号化されたデータを復号できません。

⑩WEPキー

「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに入力した文字列より生成されたキーが、「1」、「2」、「3」、「4」の各「文字列」に、40ビット(16進数：10文字)ずつ表示されます。

「1」、「2」、「3」、「4」から選択したキーだけを暗号化に使用します。復号化できるのは、「1」、「2」、「3」、「4」から選択した表示内容を相手が暗号化に使用する場合だけです。

「1」、「2」、「3」、「4」の各テキストボックスに直接入力することもできます。(この場合、「⑨キージェネレータ」のテキストボックスに、文字列は表示されません。)

⑪MACアドレスセキュリティ
を使用

あらかじめ、登録しておいたMACアドレスと同じ無線端末だけが、本製品にワイヤレス接続できるようにするかしないかを選択します。この項目の設定を変更したあとは、<登録して再起動>をクリックして本製品を再起動してください。

⑫本体無線部のMACアドレス ...

本製品の無線部に登録されたMACアドレスを表示します。

2. [無線LAN設定]画面(つづき)

登録		取消		登録して再起動		アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。	
無線LAN設定							
ESS ID	④	**		この項目の設定は再起動後に有効になります。			
ESS IDの確認入力	⑤	**					
無線詳細設定							
チャンネル	⑥	14		登録/取消▲			
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑦	無し					
WEPキーを使用	⑧	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する				
キージェネレータ	⑨						
WEPキー	⑩	選択	文字列				
		<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00				
		<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00				
MACアドレスセキュリティ設定							
MACアドレスセキュリティを使用	⑪	<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する	登録/取消▲			
本体無線部のMACアドレス	⑫	00-90-C7-0B-01-A9		この項目の設定は再起動後に有効になります。			
登録の追加							
MACアドレス	⑬			追加			
現在の登録							
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況					

⑬MACアドレス

MACアドレスセキュリティが有効なとき、この欄に設定したMACアドレスが登録された無線通信LANカードを装着する弊社製ネットワーク機器と通信できます。

入力は、半角文字で12桁を入力します。

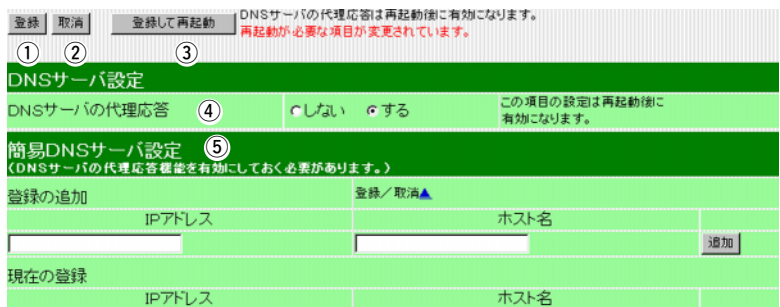
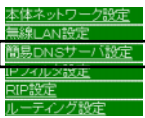
入力後は、<追加>をクリックして、画面の一番下に表示される[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

MACアドレスを次のように入力すると、すべて同じアドレスとして処理します。 11-11-11-22-33-33、111111223333

無線通信LANカードのMACアドレスを知りたいときは、弊社無線通信カードに付属する取扱説明書をご覧ください。

3 ネットワーク

3. [簡易DNSサーバ設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ④DNSサーバの代理応答 本製品を代理DNSサーバとして代理応答するかしないかの設定です。代理DNS機能とは、プロバイダー側のDNSサーバアドレスを検出したり、パソコンからのDNS要求をDNSサーバへ転送したりする機能です。
代理DNS機能を利用すると、Ethernet上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定すると異なるプロバイダーに接続するときでもDNSサーバのアドレスを変更する必要がありませんので便利です。
- ⑤簡易DNSサーバ設定 代理DNSサーバ機能を使うとき、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用する場合、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組合せを登録する欄です。
簡易DNSサーバ機能を使用すると、UDP/53によるドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応じます。
ホスト名として“ホスト名.ドメイン名”を登録しておく、ホスト名のみ一致する場合でも応答が返されます。
入力後は、<追加>をクリックしてください。
ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

4. [IPフィルタ設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 簡易DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定**
- ポート設定
- ルーティング設定

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255

- ①<追加>
- ②番号
- ③<編集>
- ④フィルタ方向

上記の画面で入力した条件で、IPフィルターを設定します。追加した内容は、この画面の下に表示されます。

最大64件のフィルターを登録できます。フィルターを登録すると、本製品が受信または送信するパケットごとに登録されたフィルターと比較します。この項目では、フィルターを比較する順位を指定します。フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。

設定済みのフィルターを編集するボタンです。編集するフィルター番号を入力してから、ボタンをクリックします。

パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。以下の中から選択してください。

- OUT 本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換の前に行います。
- IN WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。
フィルタリング処理は、アドレス変換のあとに行います。
- BOTH 本製品がWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理を行います。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス
削除 (10)	OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	-
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑤フィルタ方法

フィルタリングの方法として、以下の3通りがあります。

- 遮断 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。
- 透過 回線の接続に関係なく、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。
- 透過(接続中) 回線がすでに接続されている状態で、フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットを通過させますが、回線が接続されていない場合には、そのパケットを破棄します。このように、パケットの送信をきっかけに自動発呼することを防止するときに設定してください。

⑥プロトコル

フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

- ALL すべてのプロトコルの条件に一致します。
- TCP TCPプロトコルの条件だけに一致します。
- TCP_FIN TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。
- TCP_EST TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。
- UDP UDPプロトコルの条件だけに一致します。
- ICMP ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
- その他 IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル表示の右の欄に、プロトコル番号を10進数で0～255までの半角数字を入力してください。

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	
削除	(10) OUT	透過 (接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-	
削除	64	OUT	透過 (接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑦ポート番号

フィルタリングの対象となるTCP/UDPポート番号を入力する項目です。印をクリックし、対象となるポートが「宛先」、「発信元」、もしくは「宛先/発信元」なのかを指定して、番号を始点から終点まで連続で入力します。また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけまたは、始点/終点に同一の番号を入力してください。入力できるポート番号は、10進数で1～65535までの半角数字です。なお、「宛先/発信元」を選択した場合は、宛先、発信元のどちらかが一方が一致すると、フィルタリングの対象とします。

⑧発信元IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

- 始点IPアドレス/終点IPアドレス
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
- 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク
この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

3 ネットワーク

4. [IPフィルタ設定]画面(つづき)

	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレ
削除	(10)	OUT	透過(接続中)	TCP	宛先	137	139	*	255.255.255.255	-
削除	64	OUT	透過(接続中)	UDP	宛先/発信元	137	139	*	255.255.255.255	-

⑨宛先IPアドレス

IPアドレスは、ドット(.)ごとに区切られた4つの10進数(0～255までの半角数字)で構成してください。

● 始点IPアドレス/終点IPアドレス

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。

● 始点サブネットマスク/終点サブネットマスク

この項目で指定したIPアドレスのネットマスクを設定します。
IPアドレスとサブネットマスクは、始点から終点まで連続で入力します。また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

【発信元/宛先IPアドレスの設定例】

- IPアドレスに192.168.1.0
- サブネットマスクに255.255.255.252

フィルターの対象となるIPアドレスは、192.168.1.0から192.168.1.3までとなります。

⑩<削除>

設定したフィルターを削除するボタンです。

ご参考に

専用線設定では、出荷時の設定として、下の画面サンプルのようにフィルターが登録されています。

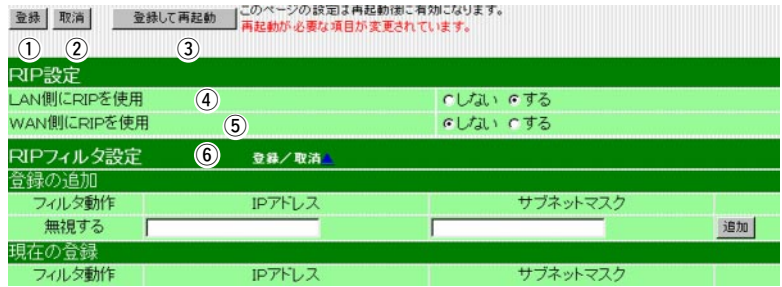
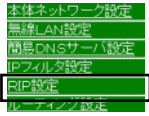
	番号	方向	方法	プロトコル	ポート番号			発信元IPアドレス			宛先IPアドレス			
					ポート方向	始点	終点	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	IPアドレス	サブネットマスク	
削除	63	IN	遮断	TCP_EST	宛先	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255
削除	64	IN	遮断	TCP_EST	宛先/発信元	*	*	255.255.255.255	-	255.255.255.255	172.20.102.130	255.255.255.255	-	255.255.255.255

なお、設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

63番：プライベートIPアドレスを割り当てたパソコンや、インターネット上に公開しないサーバなどへの不正なパケットの着信を防止

64番：本製品への不正なパケットの着信を防止

5. [RIP設定]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。変更された内容で運用するには、再起動が必要です。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。

RIP設定

RIPを使用することで隣接ルータと経路情報を交換して、経路を動的に作成します。

LAN間ダイヤルアップ接続やHSD(高速専用線)間で使用します。

RIPを使うと、RIPパケットがそのルータのブロードキャストアドレスを使って、約30秒毎にブロードキャストされます。

- ④LAN側にRIPを使用 LAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑤WAN側にRIPを使用 WAN側にRIPパケットをブロードキャストするかどうかを選択します。
- ⑥RIPフィルタ設定 同一サブネットで使う複数のルータにおいて、特定のルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。
最大20件の登録が可能です。

入力後は、<追加>をクリックしてください。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面

- 本体ネットワーク設定
- 無線LAN設定
- 静態DNSサーバ設定
- IPフィルタ設定
- FTP設定
- ルーティング設定**

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0 ①	255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号

接続方法 * 拒絶する"を選択した場合は全ての経路に対して適用されます

経路

発信元IPアドレス

プロトコル制御 ポート番号

宛先IPアドレスまたはドメイン名

セレクトルーティングを使用する時間帯

終了時刻で強制切断 しない する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

IP経路情報

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータまたは端末に配送すべきかの情報を表示します。

この画面には、[スタティックルーティング設定]画面(P29)で追加した経路も表示されます。

- ①宛先 ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。
- ②ネットマスク ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するネットマスクを表示します。
- ③ゲートウェイ ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。
- ④ネット ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。
その詳細は、この画面の最上部に「ネットワーク インターフェイス リスト」として表示されます。
- ⑤作成 どのように経路情報が作られたかを表示します。
 - static スタティック(定義された)ルートにより作成されています。
 - rip ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成されています。
 - misc ブロードキャストに関するフレーム処理で作成されています。
- ⑥メトリック 経路のコストを表示します。

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報						
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック	
192.168.0.1 ①	255.255.255.255 ②	192.168.0.1 ③	loc ④	sta ⑤	⑥	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static		0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc		0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング						
番号	<input type="text"/> <input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="編集"/>					
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> を選択した場合は全ての経路に対して適用されます					
経路	01:プロバイダ1 <input type="button" value="▼"/>					
発信元IPアドレス	<input type="text"/> - <input type="text"/>					
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value="▼"/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>					
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>					
セレクトルーティングを使用する時間帯	00:00 ~ 00:00					
終了時刻で強制切断	<input type="checkbox"/> いいえ <input checked="" type="checkbox"/> する					
番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド

スタティックルーティング設定

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。登録できるのは、最大20件までです。

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。また、その内容は、[IP経路情報]画面(⇒P28)にも表示されます。

- ⑦経路
 - local : 登録する経路情報がLAN側の場合です。
 - 登録先選択 : 登録する接続先がWAN側の場合、 をクリックすると、登録された接続先があれば表示します。

- ⑧宛先

経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。

経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。

- ⑨ネットマスク

対象となる宛先のIPアドレスに対するネットマスクを入力します。

- ⑩ゲートウェイ

ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。

- ⑪メトリック値

宛先までのコストを表す数値を入力します。

数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。

0～16まで入力できます。

3 ネットワーク

6. [ルーティング設定]画面(つづき)

ネットワーク インターフェイス リスト		
インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報					
宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.①	255.255.255.②	192.168.0.1 ③	loc④	sta⑤	⑥ 0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定					
登録の追加					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	
local ⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	追加

現在の登録					
経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値	

セレクトルーティング					
番号	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>	<input type="button" value="編集"/>		
接続方法	手動発信 <input type="button" value="拒絶する"/> * 拒絶するを選択した場合は全ての経路に対して適用されます				
経路	01:プロバイダ <input type="button" value=""/>				
発信元IPアドレス	- <input type="text"/>				
プロトコル制御	使用しない <input type="button" value=""/> ポート番号 <input type="text"/> - <input type="text"/>				
宛先IPアドレスまたはドメイン名	<input type="text"/>				
セレクトルーティングを使用する時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00				
終了時刻で強制切断	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する				

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはド
----	----	------	-----------	---------	-------	--------------

セレクトルーティング

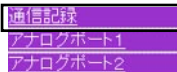
専用線では、動作しません。

この章では、
設定ページの、<通信記録>メニューで表示される画面について説明します。

-
1. [通信記録]画面 32
[アナログポート1]および[アナログポート2]画面は、OCNエコノミー回線では使用できないアナログ機器の通信累積です。

4 通信記録

1. [通信記録]画面



①<クリア>

②日付・時間

③通信記録

回線を接続および切断したときの状態を、履歴として表示します。

A screenshot of the communication record interface. At the top left is a 'クリア' (Clear) button. Below it is a table with two columns: '日付・時間' (Date/Time) and '通信記録' (Communication Record). The first row shows '01/01 00:02:56' and '網より切断理由コード#38網障害'. The second row shows '01/01 00:02:56' and 'PPP02 手動接続要求番号(1234567890)'. Circled numbers 1, 2, and 3 are placed above the 'クリア' button, the first row, and the second row respectively.

①	②	③
	日付・時間	通信記録
	01/01 00:02:56	網より切断理由コード#38網障害
	01/01 00:02:56	PPP02 手動接続要求番号(1234567890)

「②日付・時間」と「③通信記録」に表示される内容を、消去します。

日時を表示します。

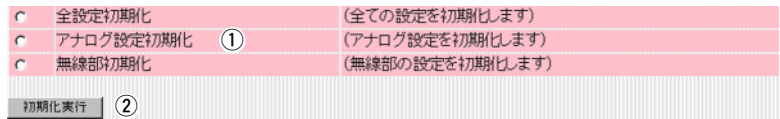
接続状況を表示します。

この章では、
設定ページの、<保存と記録>メニューで表示される画面について説明します。

1. [設定初期化]画面	34
2. [設定保存]画面	34

5 保存と記録

1. [設定初期化]画面



①初期化条件

該当する初期化条件のラジオボタンをクリックします。

- 全設定初期化
設定した全内容を、出荷時の設定に戻します。
- アナログ設定初期化
専用線設定では、動作しません。
- 無線部初期化
無線LANに関する設定を、出荷時の設定に戻します。

②<初期化実行>

上記、「①初期化条件」で選択された初期化条件に従って、初期化を開始します。

2. [設定保存]画面



①<本体に登録>

「③表示画面」に表示する内容を、設定ページに書き込みます。

②<取消>

「③表示画面」に表示する内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③表示画面

全設定(変更含む)内容を表示します。
この画面をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。
なお、各画面で設定されたパスワードや、キージェネレーター(無線LAN通信用暗号化鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存されたファイルよりそれらが外部へ漏れることはありません。

この章では、

専用線の具体的な接続例に沿って、どのように設定するかについて説明します。

なお、回線種別はすでに設定(専用線：128kbps)されていることを前提として説明していますので、設定方法を省略しています。(回線種別の設定は、6ページをご覧ください。)

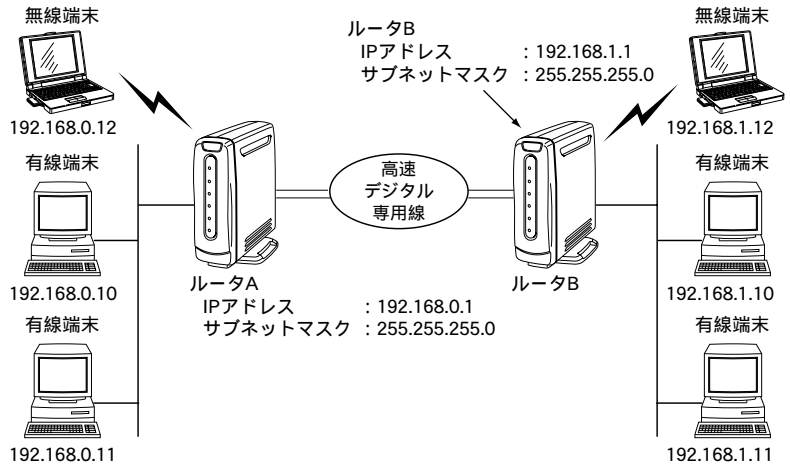
1. 二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続	36
ルータAの設定	36
ルータBの設定	39
2. 二地点間で、NumberedによるLAN型接続	43
ルータAの設定	43
ルータBの設定	43
3. RIPによるLAN型接続	44
ルータAの設定	44
ルータBの設定	46
ルータCの設定	48

6 専用線の設定例集

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続

【条件】

2地点間だけの接続で、インターネットへの接続をしない場合。



ルータAの設定

【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定

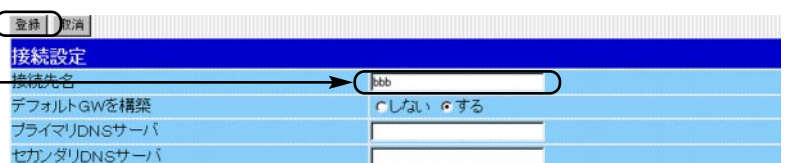


- 2.接続先設定

<詳細設定>をクリックして、ルータBへ接続するための設定を以下のように行います。

2. クリック

1. bbb(任意でよい)



プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

3.WAN設定の確認

<WAN設定>をクリックして、「Numberedで使用」が「しない」になっていることを確認します。

2. クリック

1. 「しない」(確認)

本体のWAN側	IPアドレス	<input type="text"/>	
	サブネットマスク	<input type="text"/>	
Numberedで使用		<input type="radio"/> しない	<input type="radio"/> する
相手のWAN側	IPアドレス	<input type="text"/>	Numberedで使用する場合に記載

Unnumberedの場合、「本体のWAN側」の「IPアドレス」、「サブネットマスク」および「相手のWAN側」の「IPアドレス」は、設定不要です。

4.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者のID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

管理者ID	<input type="text" value="router"/>
管理者/パスワード	<input type="password" value="****"/>
パスワードの確認入力	<input type="password" value="****"/>

5.本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックして、「本体名称」を設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意)

本体名称	<input type="text" value="SR-11"/>
IPアドレス	<input type="text" value="192.168.0.1"/>
サブネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>

ルータAでは、IPアドレスとサブネットマスクを初期設定の状態とします。

6 専用線の設定例集

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

7.無線LANセキュリティの設定

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを本製品と同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定

ESS ID ** この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力 **

無線詳細設定 登録/取消▲

チャンネル 14 ▼

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し ▼

WEPキーを使用 しない する

キージェネレータ

WEPキー

選択 文字列

- 1 00-00-00-00-00
- 2 00-00-00-00-00
- 3 00-00-00-00-00
- 4 00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定 登録/取消▲

MACアドレスセキュリティを使用 しない する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス 追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

有線端末から再起動を行った場合、約10秒経過して、[専用線(128kbps)接続状況]画面を表示します。

専用線(128kbps)接続状況			
名称	発信元IPアドレス	相手先IPアドレス	状況
			切断

ルータBの接続先設定完了後、「接続」を上記画面の「状況」欄に表示することを確認してください。

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

ルータBの設定

設定には、36ページの図と併せてご覧ください。

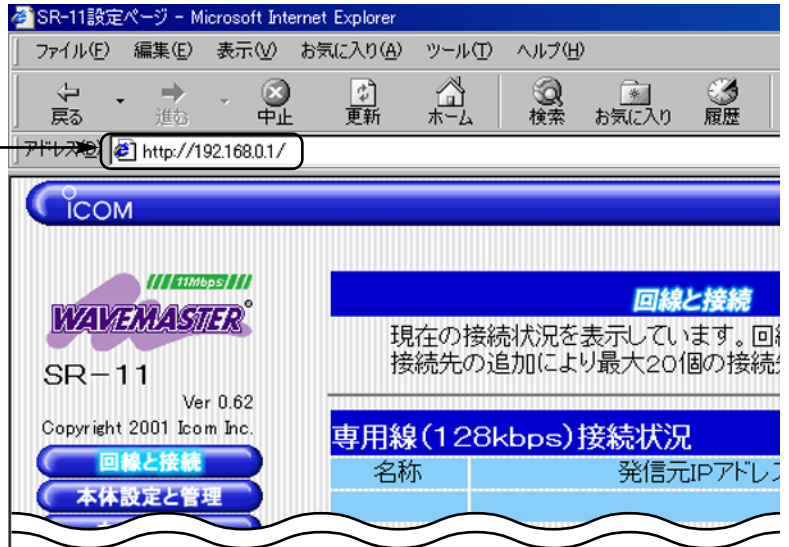
【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.068.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定

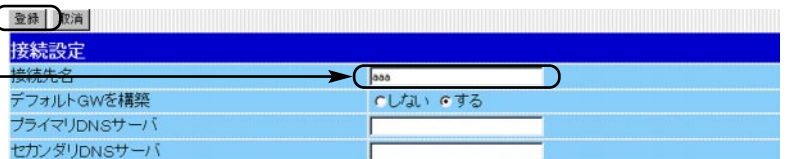


2.接続先設定

<詳細設定>をクリックして、ルータBへ接続するための設定を以下のように行います。

2. クリック

1. aaa(任意でよい)



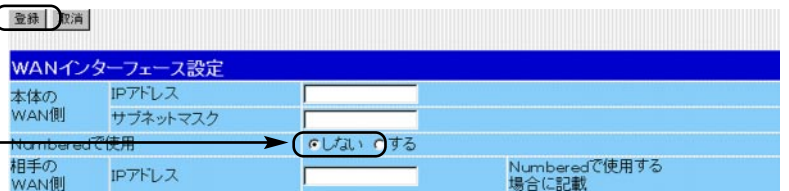
プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバは、接続先から指定された場合に入力します。

3.WAN設定の確認

<WAN設定>をクリックして、「Numberedで使用」が「しない」になっていることを確認します。

2. クリック

1. 「しない」(確認)



Unnumberedの場合、「本体のWAN側」の「IPアドレス」、「サブネットマスク」および「相手のWAN側」の「IPアドレス」は、設定しても無効です。

6 専用線の設定例集

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

4.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者のID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

5.本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックして、「本体名称」、IPアドレス、およびサブネットマスクを以下のように設定します。

本体名称は、ルータAと重複しないようにします。

ルータAとネットワーク部が異なるIPアドレスを入力します。

IPアドレスのネットワーク部を変更後は、手順6.で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末および有線端末を再起動して、本製品とネットワーク部が同じIPアドレスを取得してください。

5. クリック

1. SR-11B(任意)

2. 192.168.1.1

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

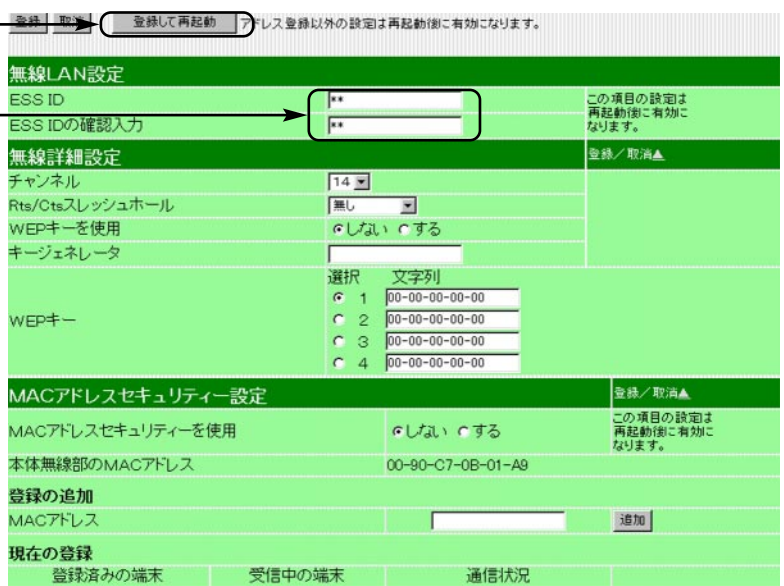
6.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックして、ESS IDを設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

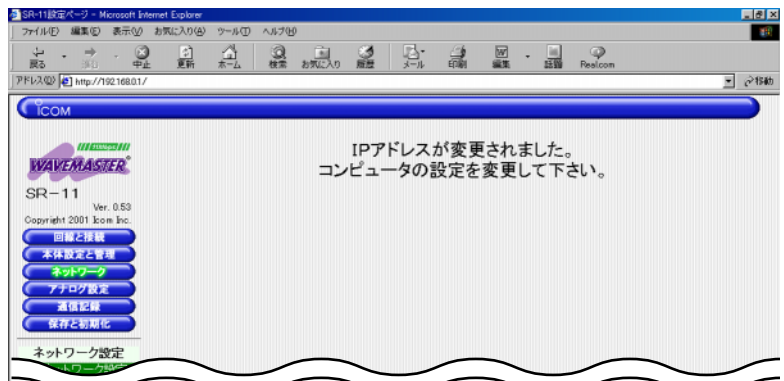
変更後、無線端末を再起動します。

- 2. クリック
- 1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。



本製品の再起動を開始します。

約10秒経過して、右の画面を表示しますので、再起動して、IPアドレスを再取得します。

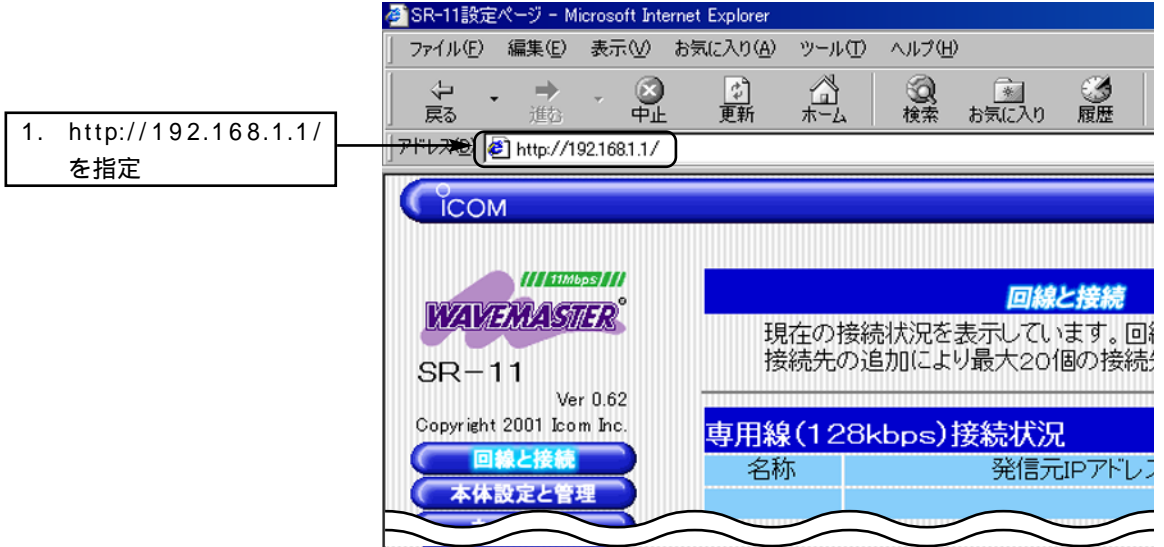


6 専用線の設定例集

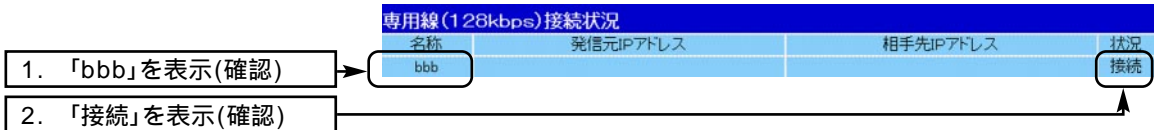
1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(つづき)

7.設定ページにアクセスできることを確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。

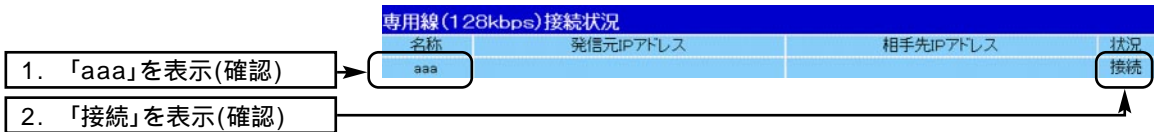


8.ルータAの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認



上記画面の「状況」欄に、「接続」を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

9.ルータBの[専用線(128kbps)選択状況]画面の確認

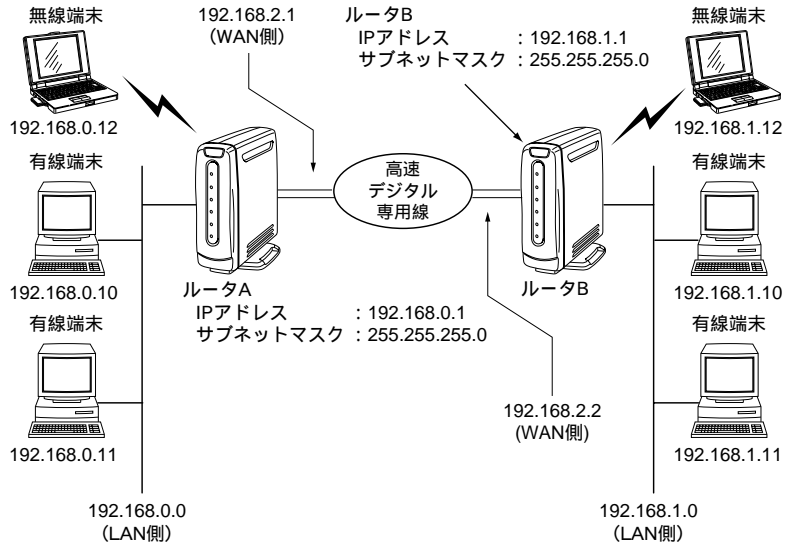


上記画面の「状況」欄に、「接続」を表示しないときは、ルータAまたはルータBの設定内容を確認してください。

2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続

【条件】

通信対象となるルータが Unnumberedに対応しない場合、LAN側とWAN側に異なるIPアドレスを設定します。



ルータAの設定

「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~2.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

【手順2.のつづき】

3.接続先設定

<WAN設定>をクリックして、WANインターフェイスを以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 192.168.2.1	WANインターフェイス設定
2. 255.255.255.0	本体の IPアドレス: 192.168.2.1 WAN側 サブネットマスク: 255.255.255.0
3. 「する」を選択	Numberedで使用 <input type="button" value="する"/> <input type="button" value="しない"/>
4. 192.168.2.2	相手の IPアドレス: 192.168.2.2 Numberedで使用する場合に記載

上記画面を設定後、「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順4.以降と同じように設定します。

ルータBの設定

「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~2.と同じように設定後、以下の画面を設定します。

【手順2.のつづき】

3.接続先設定

<WAN設定>をクリックして、WANインターフェイスを以下のように設定します。

5. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 192.168.2.2	WANインターフェイス設定
2. 255.255.255.0	本体の IPアドレス: 192.168.2.2 WAN側 サブネットマスク: 255.255.255.0
3. 「する」を選択	Numberedで使用 <input type="button" value="する"/> <input type="button" value="しない"/>
4. 192.168.2.1	相手の IPアドレス: 192.168.2.1 Numberedで使用する場合に記載

上記画面を設定後、「1.二地点間で、UnnumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順4.以降と同じように設定します。

6 専用線の設定例集

3.RIPによるLAN型接続

【ルータ共通条件】

- Numberedで接続

【ルータAの条件】

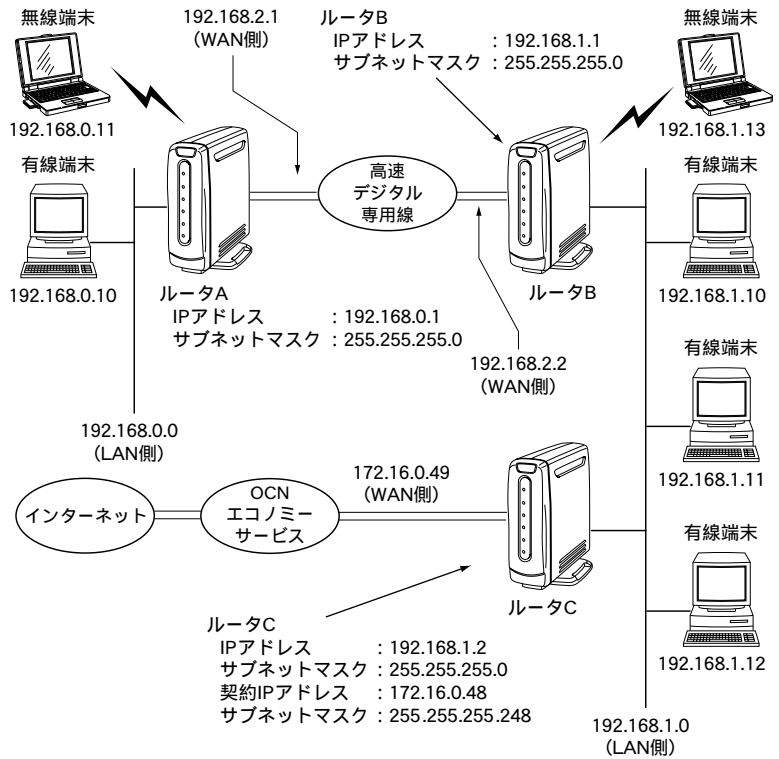
- デフォルトGW構築：「する」
- DHCPサーバ機能を使用：「する」
- DNSサーバの代理応答：「しない」
- RIP(LAN側)：「する」
- RIP(WAN側)：「する」

【ルータBの条件】

- デフォルトGW構築：「しない」
- DHCPサーバ機能を使用：「しない」
- RIP(LAN側)：「する」
- RIP(WAN側)：「する」

【ルータCの条件】

- DHCPサーバ機能を使用：「する」
- RIP(LAN側)：「する」



ルータAの設定

「2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続(ルータAの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

- 1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定



3.RIPによるLAN型接続(つづき)

2.デフォルトGWを構築

<詳細設定>をクリックして、「デフォルトGWを構築」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

登録 取消	
接続設定	
接続先名	
デフォルトGWを構築	<input checked="" type="radio"/> する
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	

4.DNSサーバアドレスを指定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、DNSサーバアドレスを指定します。

2. クリック

1. 192.168.1.2
ルータCのIPアドレスを指定します。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。	
本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定 登録/取消▲	
リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定 登録/取消▲	
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	90 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	9 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	192.168.1.2 <small>DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。</small>
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定 登録/取消▲	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

5.簡易DNSサーバ設定

<簡易DNSサーバ設定>をクリックして、「DNSサーバの代理応答」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

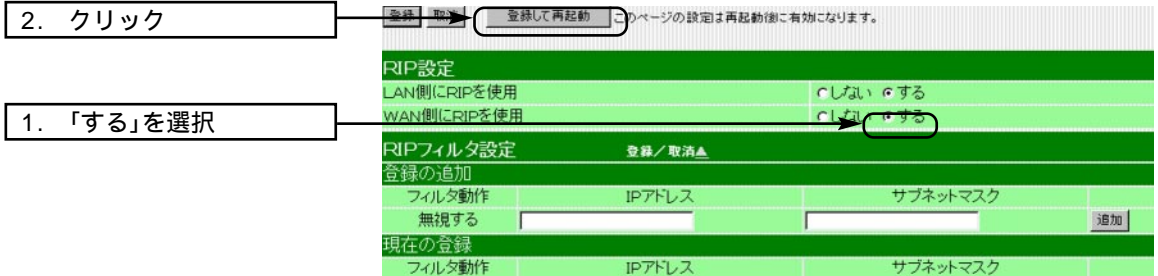
登録 取消 登録して再起動 DNSサーバの代理応答は再起動後に有効になります。	
DNSサーバ設定	
DNSサーバの代理応答	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する <small>この項目の設定は再起動後に有効になります。</small>
簡易DNSサーバ設定 (DNSサーバの代理応答機能を有効にしておく必要があります。)	
登録の追加 登録/取消	
IPアドレス	ホスト名
	<input type="button" value="追加"/>
現在の登録	
IPアドレス	ホスト名

6 専用線の設定例集

3.RIPによるLAN型接続(つづき)

6.RIP設定

<RIP設定>をクリックして、「WAN側にRIPを使用」を「する」に設定します。



本製品の再起動を開始します。

再起動後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

すべてのルータの設定完了後、ルータAと通信する無線端末および有線端末を再起動して、IPアドレスを取得する必要があります。

ルータBの設定を、以下を参考に行います。

ルータBの設定

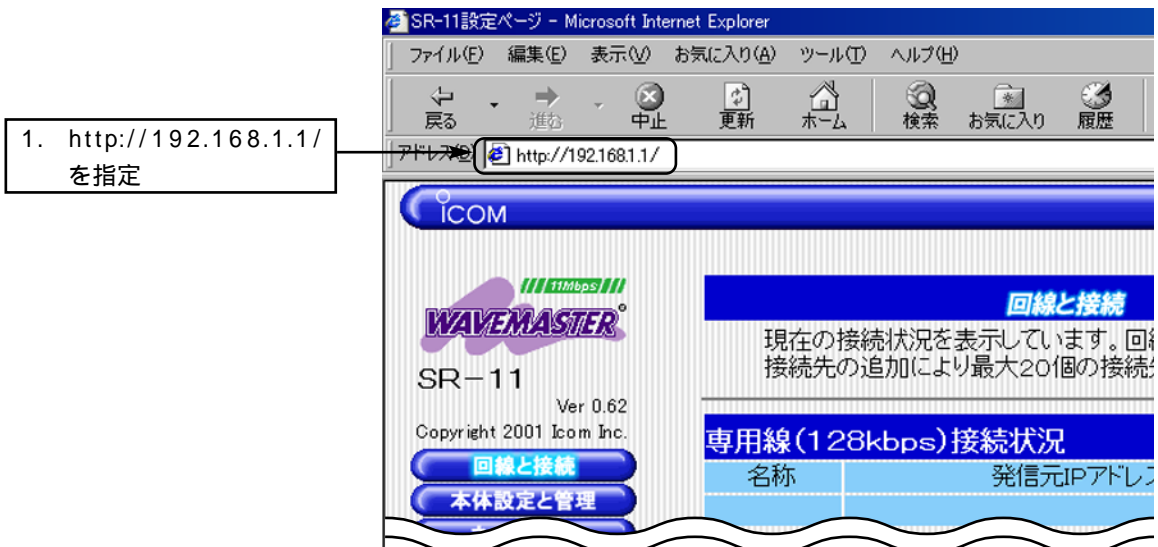
設定には、44ページの図と併せてご覧ください。

「2.二地点間で、NumberedによるLAN型接続(ルータBの設定)」の手順1.~7.にしたがって設定されている状態から、設定の追加を行います。

【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.1.1」をアドレスバーに指定します。



3.RIPによるLAN型接続(つづき)

2.DHCPサーバ機能の設定

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、「DHCPサーバ機能を使用」を「しない」に設定します。

2. クリック

1. 「しない」を選択

登録		取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
本体名称/IPアドレス設定				
本体名称	SR-11			
IPアドレス	192.168.1.1			
サブネットマスク	255.255.255.0			
リモートアクセス用IP設定				登録/取消▲
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する			
IPアドレス1			DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。	
IPアドレス2				
DHCPサーバ設定				登録/取消▲
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する			
割り当て開始IPアドレス	192.168.1.10			
割り当て回数	90 個			
サブネットマスク	255.255.255.0			
リース期間	9 日			
ドメイン名				
プライマリDNSサーバ			DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。	
セカンダリDNSサーバ				
プライマリWINSサーバ				
セカンダリWINSサーバ				
静的DHCPサーバ設定				登録/取消▲
登録の追加				
MACアドレス		IPアドレス		
			追加	
現在の登録				
MACアドレス		IPアドレス		

3.RIP設定

<RIP設定>をクリックして、「WAN側にRIPを使用」を「する」に設定します。

2. クリック

1. 「する」を選択

登録		取消	登録して再起動	このページの設定は再起動後に有効になります。
RIP設定				
LAN側にRIPを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する			
WAN側にRIPを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する			
RIPフィルタ設定				登録/取消▲
登録の追加				
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク		
無視する			追加	
現在の登録				
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク		

本製品の再起動を開始します。

手順2.で、DHCPサーバ機能を使用しない設定に変更したため、現在、接続されているパソコンから、ルータBの設定内容を確認するには、そのパソコンのIPアドレスを手動で設定してから、または、ルータCを設定後、ルータBとルータCを図(☞P44)のように接続して、WWWブラウザより、設定ページにアクセスしてください。

パソコンのIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書[基本編]第3章の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、IPアドレス、サブネットマスクを設定(手入力:アドレスが重複しないこと)したのち、再起動する必要があります。

6 専用線の設定例集

3.RIPによるLAN型接続(つづき)

ルータCの設定

設定には、44ページの図と併せてご覧ください。

【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

1. http://192.168.0.1/
を指定

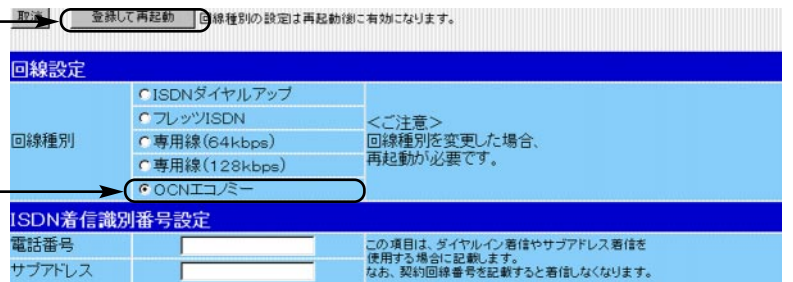


2.OCNエコノミーの選択

<回線設定>をクリックして、「OCNエコノミー」を選択します。

2. クリック

1. 「OCNエコノミー」を
選択



再起動後、OCNエコノミーの[接続状況]画面を表示します。

3.接続先設定

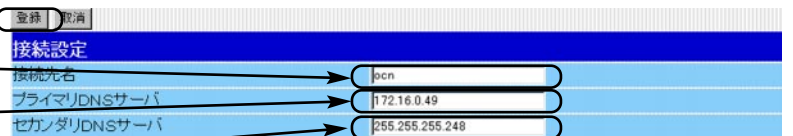
<詳細設定>をクリックして、接続情報を以下のように設定します。

4. クリック

1. ocn(任意でよい)

2. 172.16.0.49

3. 255.255.255.248



3.RIPによるLAN型接続(つづき)

4.管理者IDの設定

<設定と管理>メニューをクリックして、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router(任意でよい)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

5.本体IPアドレスの変更

<ネットワーク>メニューの<本体ネットワーク>をクリックして、ネットワーク部がルータBと同じIPアドレスとなるように設定します。

5. クリック

1. SR-11C(任意)

2. 192.168.1.2

3. 255.255.255.0

4. 192.168.1.10

設定内容登録後、設定した契約IPアドレスに応じて、自動的設定されたマスカレードIPアドレスを[アドレス変換]画面(☞P5)で確認できます。

6 専用線の設定例集

3.RIPによるLAN型接続(つづき)

6.無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックして、無線端末の設定を以下のように行います。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック	登録 取消 登録して再起動	アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。
1. 任意の英数字を入力 入力値は表示されません。	ESS ID ESS IDの確認入力	この項目の設定は再起動後に有効になります。
	無線詳細設定	登録/取消▲
	チャンネル	14 ▼
	Rts/Ctsスレッシュホールド	無し ▼
	WEPキーを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	キージェネレータ	
	WEPキー	選択 文字列 <input checked="" type="radio"/> 1 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 2 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 3 00-00-00-00-00 <input type="radio"/> 4 00-00-00-00-00
	MACアドレスセキュリティー設定	登録/取消▲
	MACアドレスセキュリティーを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
	本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9
	登録の追加	
	MACアドレス	<input type="text"/> 追加
	現在の登録	
	登録済みの端末	受信中の端末
		通信状況

本製品の再起動を開始します。

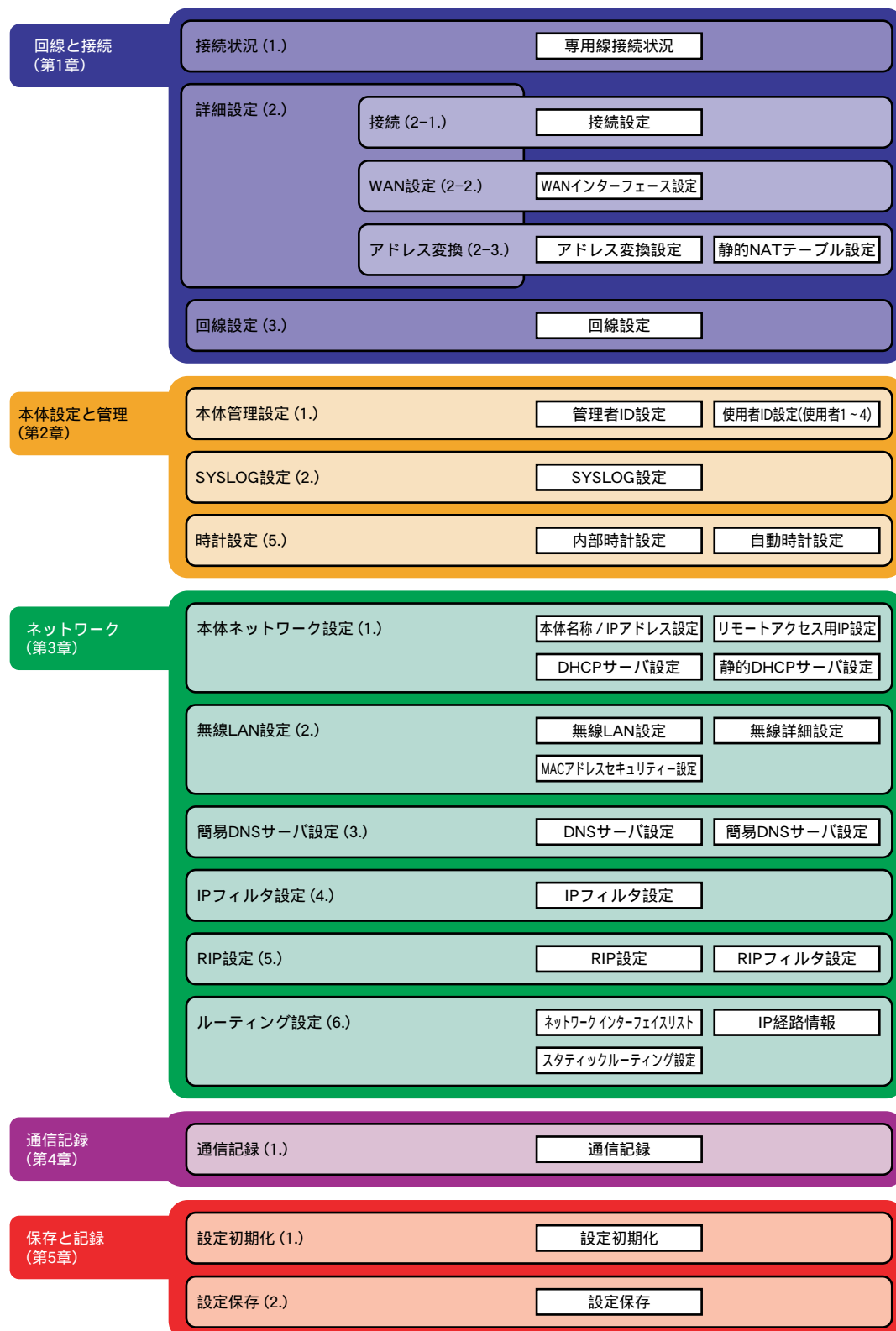
登録後、表示する画面で設定内容を確認して、設定画面を閉じます。

設定画面の構成

付 録

本製品のWWWブラウザによる設定画面の構成についてまとめています。

設定画面の構成





取扱説明書[応用編]



SOHORUOTER
SR-11

第5部 ネットワークの設定例集

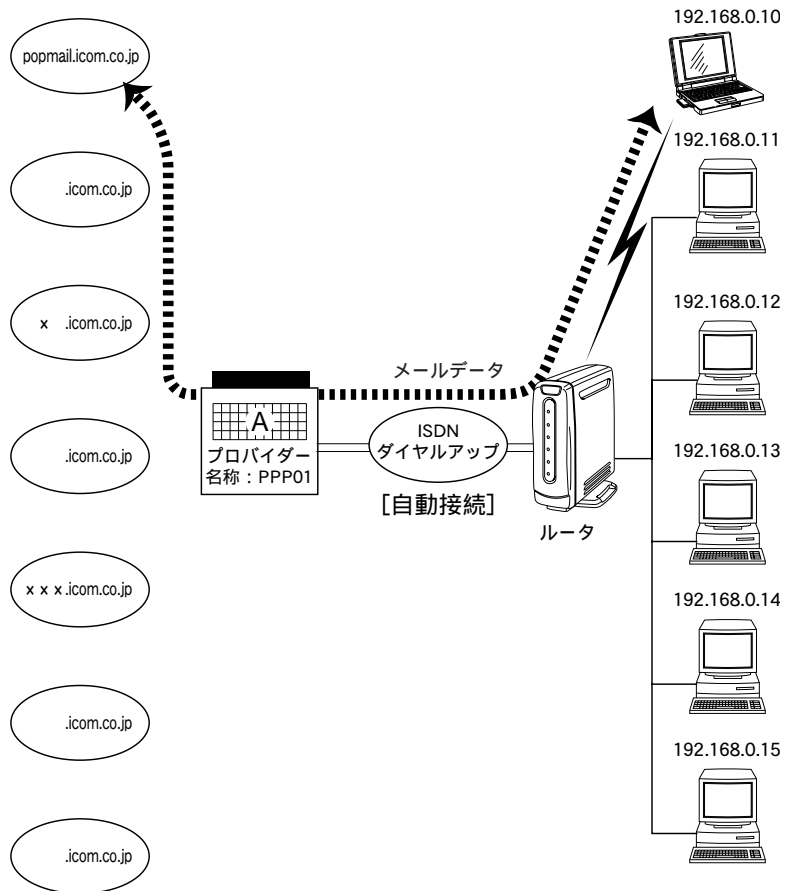
1. セレクトルーティングを設定する 1
2. URLフィルターとして設定する 3

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

1. セレクトルーティングを設定する

【条件】

IPアドレス：192.168.0.10のパソコンが、メールサーバ：popmail.icom.co.jpからメールを受信する場合、PPP01に設定された接続先を自動接続にて経由し、通信を行う。



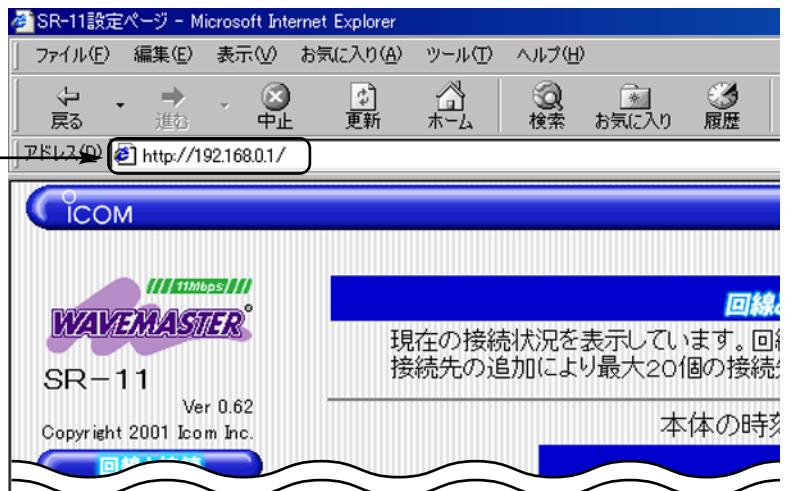
【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



ネットワークの設定例集

1. セレクトルーティングを設定する(つづき)

2.セレクトルーティングの設定 <ネットワーク>メニューの<ルーティング設定>をクリックし、セレクトルーティングを設定します。

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値

セレクトルーティング

番号: 01 [設定] [編集]

接続方法: 自動発信 拒絶する"を選択した場合は全ての経路に於て適用されます

経路: 01:PPP01

発信元IPアドレス: 192.168.0.10

プロトコル制御: TCP | ポート番号: 110

宛先IPアドレスまたはドメイン名: popmail.icom.co.jp

セレクトルーティングを使用する時間帯: 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断: しない する

- 7. クリック
- 1. 「01」を入力
- 2. 「自動発信」を選択
- 3. 「PPP01」を選択
- 4. 「192.168.0.10」を入力
- 5. 「TCP」を選択し、ポート番号に「110」を入力
- 6. 「popmail.icom.co.jp」を入力

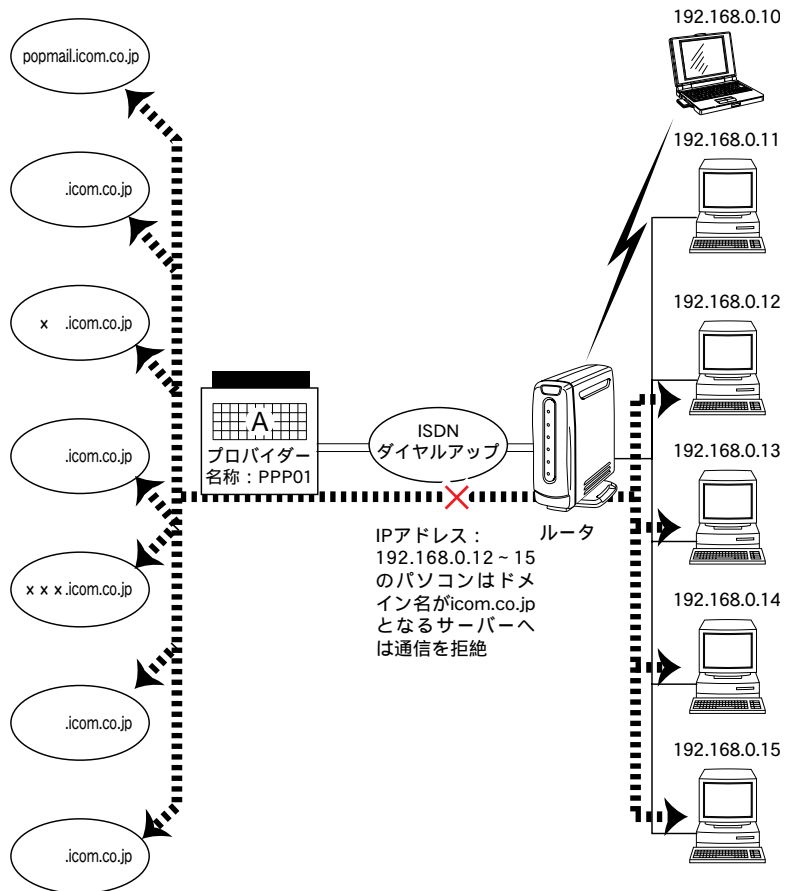
フィルター設定表示

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断
01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない

2. URLフィルターとして設定する

【条件】

IPアドレス：192.168.0.12～15のパソコンが、ドメイン名：icom.co.jpとなるサーバへの接続を、拒絶する。



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/を指定



ネットワークの設定例集

2. URLフィルターとして設定する(つづき)

2.セレクトルーティングの設定 <ネットワーク>メニューの<ルーティング設定>をクリックし、URLフィルターとして動作するように設定します。

ネットワーク インターフェイス リスト

インターフェイス	IPアドレス	ネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0

IP経路情報

宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	ネット	作成	メトリック
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0

スタティックルーティング設定

登録の追加

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
local				

現在の登録

経路	宛先	ネットマスク	ゲートウェイ	メトリック値
----	----	--------	--------	--------

セレクトルーティング

番号: 02 [設定] [編集]

接続方法: 拒絶する (拒絶する"を選択した場合)は全ての経路に於て適用されます)

経路: 01:PPP01

発信元IPアドレス: 192.168.0.12 | 192.168.0.15

プロトコル制御: 使用しない | ポート番号: -

宛先IPアドレスまたはドメイン名: *.icom.co.jp

セレクトルーティングを使用する時間帯: 00:00 ~ 00:00

終了時刻で強制切断: しない / する

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	
削除	01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp

- 4. 「192.168.0.15」を入力
- 7. クリック
- 1. 「02」を入力
- 2. 「拒絶する」を選択
- 3. 「192.168.0.12」を入力
- 5. 「使用しない」を選択
- 6. 「*.icom.co.jp」を入力

フィルター設定表示

番号	経路	接続方法	発信元IPアドレス	プロトコル制御	ポート番号	宛先IPアドレスまたはドメイン名	使用する時間帯	強制切断	
削除	01	01:PPP01	自動発信	192.168.0.10	TCP	110	popmail.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない
削除	02	01:PPP01	拒絶する	192.168.0.12 - 192.168.0.15	使用しない		*.icom.co.jp	00:00 - 00:00	しない

ご参考に

WEBアクセス専用(TCP/80)や、メール受信専用(TCP/110)に設定した状態でも、その前に名前の解決(UDP/53)が発生するときには、既存のルーティングテーブルを使用します。

たとえば、TCP/110で、PPP01をメール受信専用で作成している状態でも、メールサーバへの名前の解決には、既存の自動接続設定にしたがいます。

PPP02が既存の自動接続に設定されているときは、まずPPP02に自動接続して、名前を解決します。そのあと、PPP01に自動接続されて、メールの受信が行われます。

このような動作を避けるためには、メール用アプリケーションでの受信サーバアドレスの設定を、ドメイン名ではなくIPアドレスで行うか、簡易DNSサーバ機能を利用して、受信サーバ名とIPアドレスを事前に設定しておくことで回避できます。

ご使用になる受信サーバのIPアドレスが不明なときは、本製品に付属のソフトウェア(IP Name : 第8部 付属ソフトウェアについて)を利用することで調べられます。



取扱説明書[応用編]



SOHORUOTER
SR-11

第6部 無線LANの設定例集

1. アクセスポイント機能を設定する	1
A 無線端末から設定する場合	1
B 有線端末から設定する場合	4
2. ローミング機能を設定する	7
ルータAの設定	7
ルータBの設定	10

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

1. アクセスポイント機能を設定する

A 無線端末から設定する場合

【ルータの条件】

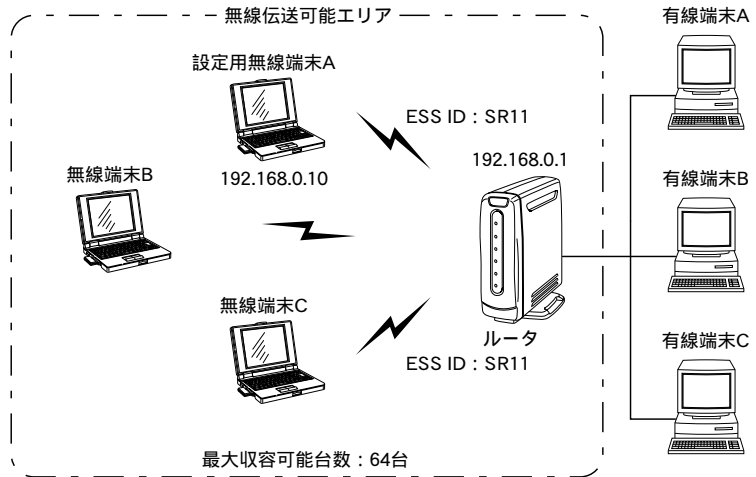
- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【無線端末A～Cの条件】

- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得



有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



無線LANの設定例集

1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

2. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<管理と設定>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

管理者ID設定	
管理者ID	router
管理者/パスワード	*****
パスワードの確認入力	*****
使用者ID設定	
登録 / 取消	
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する
接続設定編集を許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信記録表示・クリアを許可	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
<input type="checkbox"/> 使用者ID	
使用者/パスワード	
パスワードの確認入力	
手動接続・切断を許可	する

3. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

本体名称/IPアドレス設定	
本体名称	SR-11
IPアドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0
リモートアクセス用IP設定	
リモートアクセスサーバを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
IPアドレス1	
IPアドレス2	
DHCPサーバ設定	
DHCPサーバ機能を使用	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10
割り当て個数	30 個
サブネットマスク	255.255.255.0
リース期間	3 日
ドメイン名	
プライマリDNSサーバ	
セカンダリDNSサーバ	
プライマリWINSサーバ	
セカンダリWINSサーバ	
静的DHCPサーバ設定	
登録の追加	
MACアドレス	IPアドレス
	追加
現在の登録	
MACアドレス	IPアドレス

1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、無線端末のESS IDを同じ値に変更してください。

変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 「SR11」を入力
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 ※アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定

ESS ID この項目の設定は再起動後に有効になります。

ESS IDの確認入力

無線詳細設定 登録 / 取消▲

チャンネル

Rts/Ctsスレッシュホールド

WEPキーを使用 しない する

キージェネレータ

WEPキー

選択	文字列
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティ設定 登録 / 取消▲

MACアドレスセキュリティを使用 しない する この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス 追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

本製品の再起動を開始します。

再起動後、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

5.動作モードの確認

無線端末のESS IDを変更後に行ってください。

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

手順1.と同じ画面を表示します。

無線LANの設定例集

1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

☑ 有線端末から設定する場合

【ルータの条件】

- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【無線端末A～Cの条件】

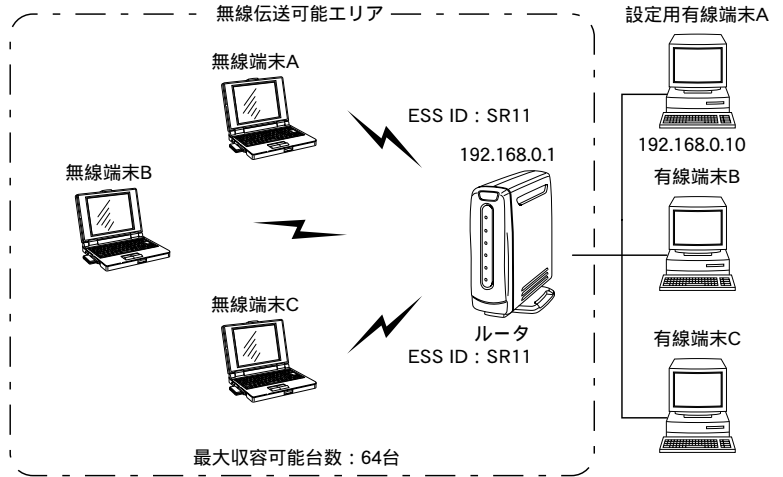
- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータよりIPアドレスを取得

【手順】

1. 設定ページを開く



有線端末と無線端末の合計台数が30台を超える場合は、DHCPの自動割り当て個数の変更が必要です。

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

2. 管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<管理と設定>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

管理者ID設定

管理者ID

管理者/パスワード

パスワードの確認入力

登録/取消

使用者ID設定

使用者ID

使用者/パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可 する

接続設定編集を許可 しない する

通信記録表示・クリアを許可 しない する

登録/取消

使用者ID

使用者/パスワード

パスワードの確認入力

3. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動時に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

本体名称/IPアドレス設定

本体名称

IPアドレス

サブネットマスク

リモートアクセス用IP設定 登録/取消

リモートアクセスサーバを使用 しない する

IPアドレス1

IPアドレス2

DHCPサーバ設定 登録/取消

DHCPサーバ機能を使用 しない する

割り当て開始IPアドレス

割り当て個数 個

サブネットマスク

リース期間 日

ドメイン名

プライマリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバ

プライマリWINSサーバ

セカンダリWINSサーバ

静的DHCPサーバ設定 登録/取消

登録の追加

MACアドレス

IPアドレス

追加

現在の登録

MACアドレス

IPアドレス

無線LANの設定例集

1. アクセスポイント機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

本製品のESS IDの設定を変更するときは、この手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。

2. クリック

1. 「SR11」を入力
入力値は表示されません。

登録して再起動 (アドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。)

無線LAN設定												
ESS ID	****	この項目の設定は再起動後に有効になります。										
ESS IDの確認入力	****											
無線詳細設定		登録/取消▲										
チャンネル	14											
Rts/Ctsスレッシュホールド	無し											
WEPキーを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する											
キージェネレータ												
WEPキー	<table border="1"><thead><tr><th>選択</th><th>文字列</th></tr></thead><tbody><tr><td><input checked="" type="radio"/> 1</td><td>00-00-00-00-00</td></tr><tr><td><input type="radio"/> 2</td><td>00-00-00-00-00</td></tr><tr><td><input type="radio"/> 3</td><td>00-00-00-00-00</td></tr><tr><td><input type="radio"/> 4</td><td>00-00-00-00-00</td></tr></tbody></table>	選択	文字列	<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00	<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00	
選択	文字列											
<input checked="" type="radio"/> 1	00-00-00-00-00											
<input type="radio"/> 2	00-00-00-00-00											
<input type="radio"/> 3	00-00-00-00-00											
<input type="radio"/> 4	00-00-00-00-00											
MACアドレスセキュリティ設定		登録/取消▲										
MACアドレスセキュリティを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	この項目の設定は再起動後に有効になります。										
本体無線部のMACアドレス	00-90-C7-0B-01-A9											
登録の追加												
MACアドレス		追加										
現在の登録												
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況										

本製品の再起動を開始します。
再起動後、無線端末のESS IDを本製品と同じ内容に変更してください。

5.動作モードの確認

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

手順1.と同じ画面を表示します。

2. ローミング機能を設定する

ここでは、有線端末を個々のルータに接続して、設定することを前提に説明します。

全設定完了後、図のように接続してください。

次の動作モードで、ルータが動作するよう設定する手順です。

ルータA：ダイヤルアップルータ

ルータB：アクセスポイント専用

【ルータAの条件】

- 回線(ISDNダイヤルアップインターネット)接続する
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用して、IPアドレスを自動的に無線端末と有線端末に割り当てる

【ルータBの条件】

- 回線への接続はしない
- ESS ID : SR11
- DHCPサーバ機能を使用しない

【無線端末A～Cの条件】

- ESS ID : SR11
- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

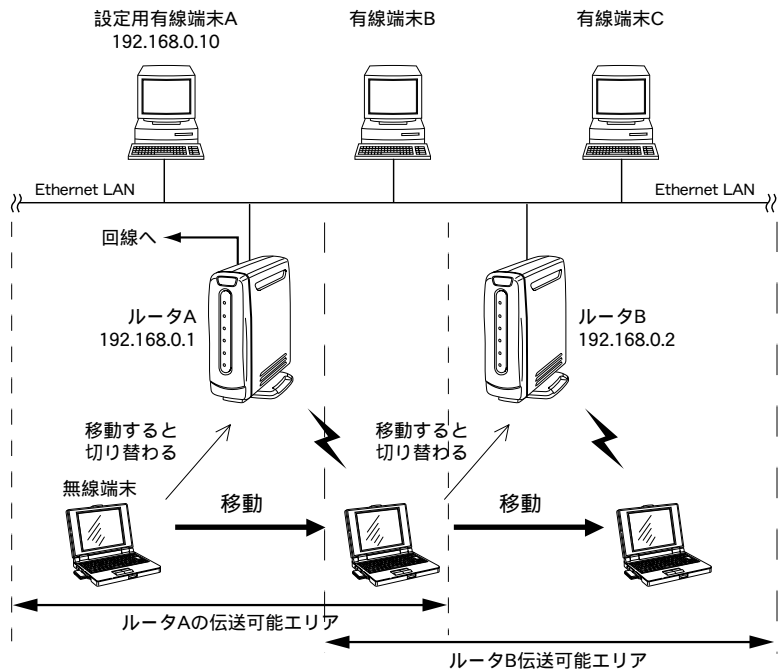
【有線端末A～Cの条件】

- DHCPクライアント機能を使用して、ルータAよりIPアドレスを取得

ルータAの設定

【手順】

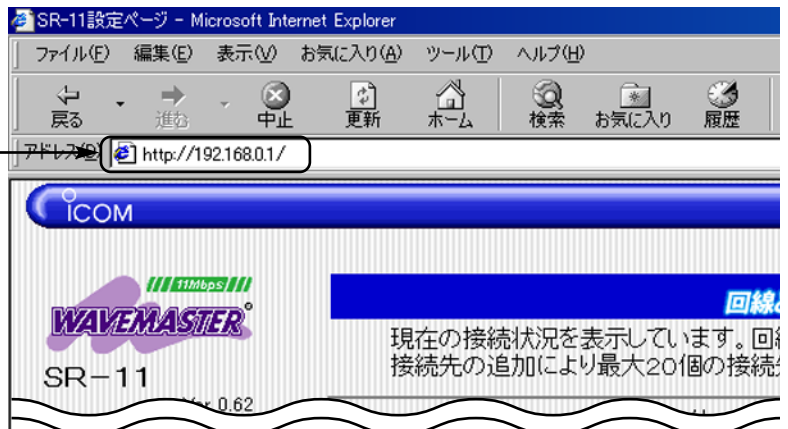
1. 設定ページを開く



WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の状態(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



2. ローミング機能を設定する(つづき)

2.接続先設定

<接続先の追加>をクリックし、プロバイダー情報を以下のように入力します。

7. クリック

1. aaa(任意でよい)

2. 1234567890

3. user

4. himitu
(表示: * * * * *)

5. 192.169.100.10

6. 192.169.101.15

登録 取消

接続設定

接続先名: aaa

電話番号1: 1234567890 * 以降はサブアドレス

電話番号2: * 以降はサブアドレス

電話番号3: * 以降はサブアドレス

ユーザID: user

パスワード: *****

認証プロトコル: 相手に合わせる

デフォルトQoSを構築: しない する

コールバック要求: しない する

コールバック電話番号: * 以降はサブアドレス

プライマリDNSサーバ: 192.169.100.10

セカンダリDNSサーバ: 192.169.101.15

スループットBOD

BODを使用: しない する

移行	1B→2B	75 %	BODを使用するには、通信速度を可測しておく必要があります。
トラフィック量	2B→1B	25 %	65～95の範囲で記載
			5～45の範囲で記載

マルチダイヤル機能(☞取扱説明書[応用編] 第1部 P3)を使用する場合は、「電話番号2」、「電話番号3」も入力が必要です。「5.プライマリDNSサーバアドレス」、「6.セカンダリDNSサーバアドレス」は、プロバイダーから指定されている場合に入力します。

3.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<設定と管理>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを入力します。

3. クリック

1. router(任意)

2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消

管理者ID設定

管理者ID: router

管理者パスワード: *****

パスワードの確認入力: *****

使用者ID設定

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者ID

使用者パスワード

パスワードの確認入力

手動接続・切断を許可: する

接続設定編集を許可: しない する

通信記録表示・クリアを許可: しない する

使用者ID

使用者パスワード

2. ローミング機能を設定する(つづき)

4. 本体名称の設定

必要であれば設定します。

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を入力します。

2. クリック

1. SR-11(任意でよい)

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。再起動が必要な項目が変更されています。

本体名称/IPアドレス設定

本体名称 SR-11

IPアドレス 192.168.0.1

サブネットマスク 255.255.255.0

リモートアクセス用IP設定 登録/取消▲

リモートアクセスサーバを使用 しない する

IPアドレス1

IPアドレス2

DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。

DHCPサーバ設定 登録/取消▲

DHCPサーバ機能を使用 しない する

割り当て開始IPアドレス 192.168.0.10

5. 無線LAN設定

<無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して以下のように入力します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角 : LG)で使うと、ほかの無線端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをおすすめします。

無線端末から、本製品のESS IDの設定を変更するときは、本手順で<登録して再起動>操作を行ってから、本製品と通信する無線端末のESS IDを、本製品と同じ値に変更してください。変更後、無線端末を再起動します。

2. クリック

1. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。

登録 取消 登録して再起動 IPアドレス登録以外の設定は再起動後に有効になります。

無線LAN設定

ESS ID **

ESS IDの確認入力 **

この項目の設定は再起動後に有効になります。

無線詳細設定 登録/取消▲

チャンネル 14

Rts/Ctsスレッシュホールド 無し

WEPキーを使用 しない する

キージェネレータ

WEPキー

選択 文字列

1 00-00-00-00-00

2 00-00-00-00-00

3 00-00-00-00-00

4 00-00-00-00-00

MACアドレスセキュリティー設定 登録/取消▲

MACアドレスセキュリティーを使用 しない する

この項目の設定は再起動後に有効になります。

本体無線部のMACアドレス 00-90-C7-0B-01-A9

登録の追加

MACアドレス

追加

現在の登録

登録済みの端末	受信中の端末	通信状況

再起動後、設定ページを閉じて、ルータBの設定を行います。

2. ローミング機能を設定する(つづき)

ルータBの設定

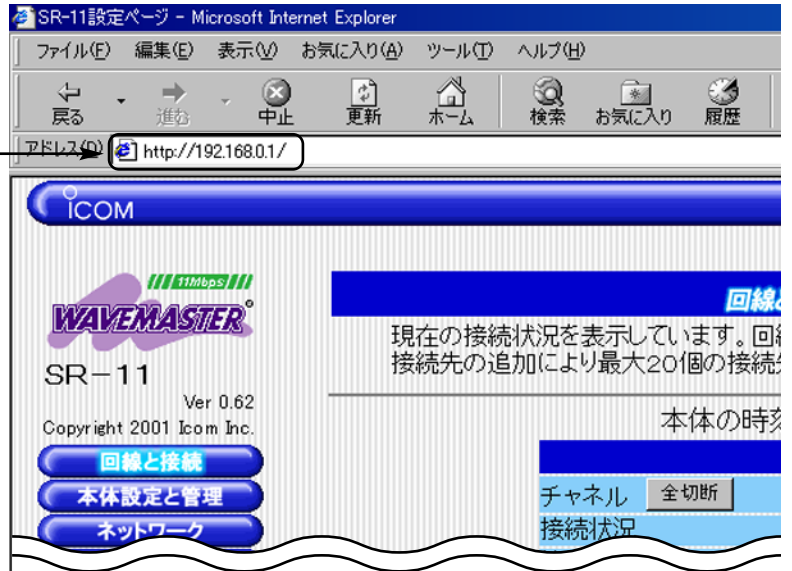
【手順】

1.設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



2.管理者IDの設定

必要であれば設定します。

<管理と設定>メニューをクリックし、管理者ID、管理者パスワードを設定します。

3. クリック

1. router
2. 任意の英数字を入力
入力値は表示されません。



2. ローミング機能を設定する(つづき)

3. 本体名称の設定

<ネットワーク>メニューをクリックし、本体名称を以下のように設定します。

4. クリック	登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。																																																								
1. SR-11B ルータAと重複しないようにします。	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">本体名称/IPアドレス設定</th> </tr> <tr> <td style="width: 30%;">本体名称</td> <td>SR-11B</td> </tr> <tr> <td>IPアドレス</td> <td>192.168.0.2</td> </tr> <tr> <td>サブネットマスク</td> <td>255.255.255.0</td> </tr> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">リモートアクセス用IP設定</th> </tr> <tr> <td>リモートアクセスサーバを使用</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/>しない <input type="radio"/>する</td> </tr> <tr> <td>IPアドレス1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IPアドレス2</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right; font-size: small;">DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。</td> </tr> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">DHCPサーバ設定</th> </tr> <tr> <td>DHCPサーバ機能を使用</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="radio"/>しない <input type="radio"/>する</td> </tr> <tr> <td>割り当て開始IPアドレス</td> <td>192.168.0.10</td> </tr> <tr> <td>割り当て個数</td> <td>30 個</td> </tr> <tr> <td>サブネットマスク</td> <td>255.255.255.0</td> </tr> <tr> <td>リース期間</td> <td>3 日</td> </tr> <tr> <td>ドメイン名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プライマリDNSサーバ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>セカンダリDNSサーバ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>プライマリWINSサーバ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>セカンダリWINSサーバ</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right; font-size: small;">DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。</td> </tr> <tr> <th colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">静的DHCPサーバ設定</th> </tr> <tr> <td colspan="2" style="text-align: right; font-size: small;">登録/取消▲</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">登録の追加</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;">MACアドレス</td> <td>IPアドレス</td> </tr> <tr> <td><input type="text"/></td> <td style="text-align: center;"><input type="button" value="追加"/></td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #008000; color: white;">現在の登録</td> </tr> <tr> <td>MACアドレス</td> <td>IPアドレス</td> </tr> </table>	本体名称/IPアドレス設定		本体名称	SR-11B	IPアドレス	192.168.0.2	サブネットマスク	255.255.255.0	リモートアクセス用IP設定		リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	IPアドレス1		IPアドレス2		DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。		DHCPサーバ設定		DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10	割り当て個数	30 個	サブネットマスク	255.255.255.0	リース期間	3 日	ドメイン名		プライマリDNSサーバ		セカンダリDNSサーバ		プライマリWINSサーバ		セカンダリWINSサーバ		DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。		静的DHCPサーバ設定		登録/取消▲		登録の追加		MACアドレス	IPアドレス	<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>	現在の登録		MACアドレス	IPアドレス
本体名称/IPアドレス設定																																																									
本体名称	SR-11B																																																								
IPアドレス	192.168.0.2																																																								
サブネットマスク	255.255.255.0																																																								
リモートアクセス用IP設定																																																									
リモートアクセスサーバを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する																																																								
IPアドレス1																																																									
IPアドレス2																																																									
DHCPの割り当て範囲と重ならないように設定します。																																																									
DHCPサーバ設定																																																									
DHCPサーバ機能を使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する																																																								
割り当て開始IPアドレス	192.168.0.10																																																								
割り当て個数	30 個																																																								
サブネットマスク	255.255.255.0																																																								
リース期間	3 日																																																								
ドメイン名																																																									
プライマリDNSサーバ																																																									
セカンダリDNSサーバ																																																									
プライマリWINSサーバ																																																									
セカンダリWINSサーバ																																																									
DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効となります。																																																									
静的DHCPサーバ設定																																																									
登録/取消▲																																																									
登録の追加																																																									
MACアドレス	IPアドレス																																																								
<input type="text"/>	<input type="button" value="追加"/>																																																								
現在の登録																																																									
MACアドレス	IPアドレス																																																								
2. 192.168.0.2 IPアドレスには、ルータAとネットワーク部が同じで、ルータAが自動で割り当てるアドレス範囲と重ならないように、ホスト部の番号が異なるIPアドレスを手動で割り当てます。																																																									
3. 「しない」を選択																																																									

2. ローミング機能を設定する(つづき)

4.無線LANセキュリティの設定 <無線LAN設定>をクリックし、無線LANに関して、以下のように設定します。

この画面で設定するESS IDを出荷時の設定(半角:LG)で使うと、ほかの端末から不正にアクセスされるおそれがありますので、変更することをお勧めします。

2. クリック

1. 「SR11」を入力
入力値は表示されません。

約10秒経過して、右の画面を表示します。

本製品の再起動を開始します。

手順3.で、DHCPサーバ機能を使用しない設定に変更したため、現在、接続されているパソコンから、ルータBの設定内容を確認するには、そのパソコンのIPアドレスを手動で設定してから、または、ルータAとルータBを図(P6)のように接続してから、WWWブラウザより、設定ページにアクセスしてください。

パソコンのIPアドレスを手動で設定するには、取扱説明書[基本編] 第3章の手順にしたがい、設定を「IPアドレスを指定」に変更して、IPアドレス、サブネットマスクを設定(手入力:アドレスが重複しないこと)したのち、再起動する必要があります。



SOHORUOTER
SR-11

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

第7部 アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する	1
コールウェイティング	1
【電話機の操作】	3
通信中転送	4
【電話機の操作】	6
三者通話	7
【電話機の操作】	9
[A] 切り替えモード	9
[B] ミキシングモード	10
着信転送	11
2. 優先着信	14
3. アナログ機器を鳴り分ける	16
ダイヤルインサービスの利用	16
i-ナンバーサービスの利用	19
なりわけ着信サービスの利用	21
サブドレスの利用	23
セレクト着信の利用	25

1. フレックスホン機能を利用する

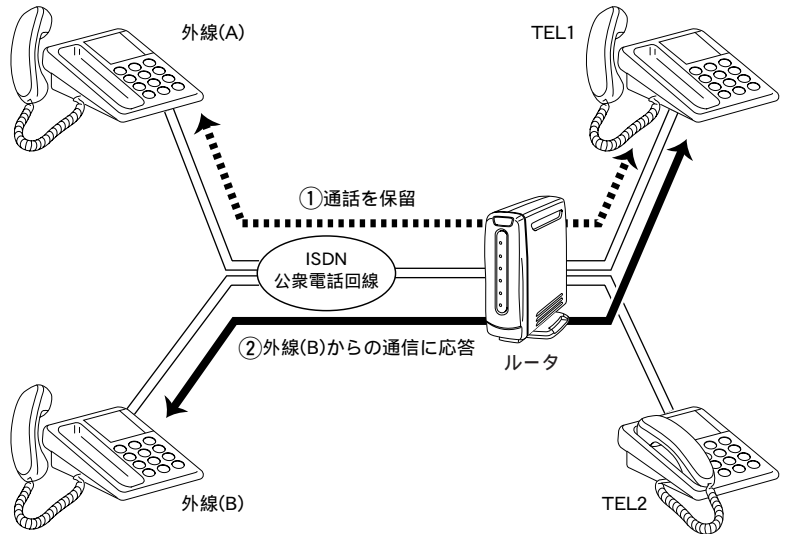
フレックスホン機能とは、コールウェイティング、通信中転送、三者通話、および着信転送をとりまとめた総称です。

これらを利用するには、NTTとの契約が必要ですが、本製品を使うと、契約なしで、ほぼ同等の機能を利用することができます。

コールウェイティング

【条件】

TEL1と外線(A)で通話中に、新たにかかってきた電話(外線(B))を音で知らせ、外線(A)との通話を切断することなく外線(B)に应答する。



注意！：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、コールウェイティングは利用できません。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する～ コールウェイティング(つづき)

2. コールウェイティングを設定 <アナログ設定>メニューをクリックして、「コールウェイティング」を「する」に設定します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

フレックスホンの設定		登録/取消▲
フレックスホン機能 <input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による		
コールウェイティング	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	疑似にてコールウェイティングをするには場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせするに設定されます。
通信中転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

3. フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

1. 「する」を選択

2. 1秒(任意でよい)

着信機能		登録/取消▲
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	
通話中に着信があると音でお知らせ	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	

ダイヤルタイミング		登録/取消▲
ダイヤル待ち時間	1 秒	
フッキング判定時間	1 秒	

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でもコールウェイティングを利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。

1. フレックスホン機能を利用する～ コールウェイティング(つづき)

【電話機の操作】

1.通話中に外線(B)がかかってくると、TEL1の受話器から「プブ・・・」と話中着信音が外線(A)の声に混じって聞こえます。

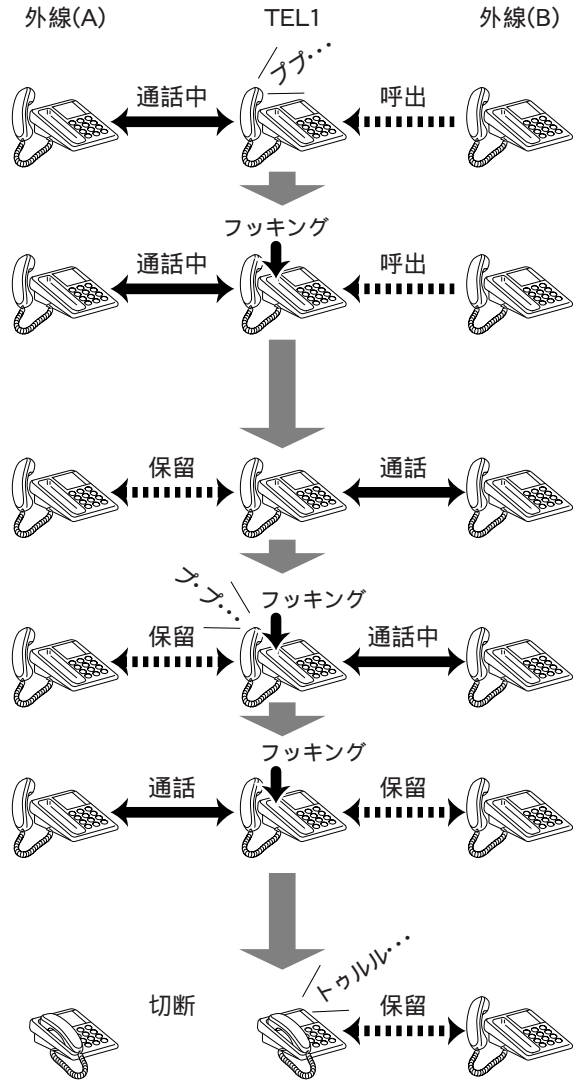
2.TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押します(フッキング)。このとき、[ポート1の設定]画面で設定した「フッキング判定時間」より長く押すと、TEL1と外線(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

3.通話中に電話をかけてきた外線(B)と通話します。

4.もう一度、TEL1をフッキングします。TEL1の受話器から「プ・ブ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(B)との通話を保留します。

5.さらにTEL1をフッキングし、外線(A)との通話を再開します。
以後、フッキングするたびに、保留(第二発信音が聞こえる)状態をはさんで、外線(A)/(B)を交互に切り替えます。

6.通話が終了したら、TEL1の受話器を戻し、外線(A)または外線(B)との通話を切断します。
保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が、「トゥルルル・・・」と鳴ります。TEL1の受話器を取ることで、保留中の外線と通話できます。
保留中の相手がいるときに、通話中の相手が通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー・・・」と話し中音が聞こえます。このときもTEL1をフッキングすることで保留中の外線と通話できます。



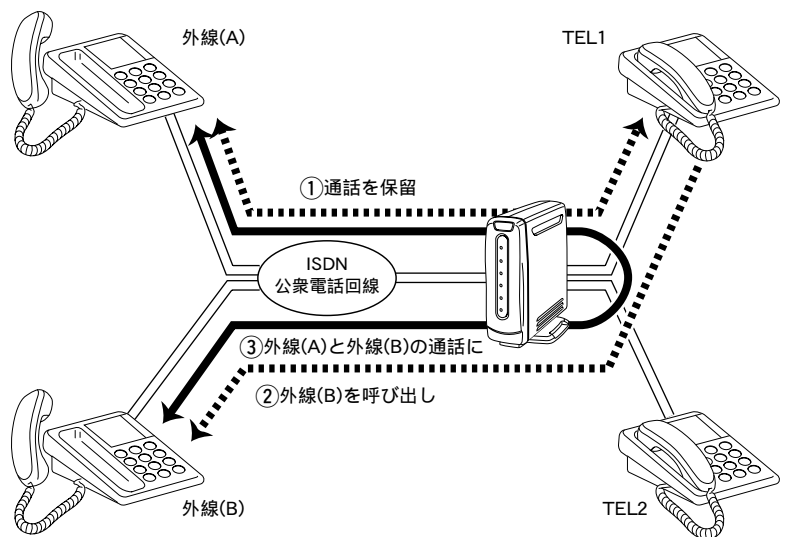
アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

通信中転送

【条件】

外線(A)からの着信をTEL1で応答し、外線(A)との通話を切断することなく外線(B)に転送する。



注意！：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、通信中転送は利用できません。
本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。
また、外線(A)との通話がTEL1からの発信による場合、外線(B)を呼び出して転送することはできません。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



1. フレックスホン機能を利用する～ 通信中転送(つづき)

2.通信中転送を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「通信中転送」を「する」に設定します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

内線通話	
内線通話の使用設定	内線転送を使用する
フレックスホンの設定	
フレックスホン機能	
コールウェイトニング	しない する
通信中転送	しない する
三者通話	しない する
着信転送	しない する
優先着信	
優先着信	すべてのポートに着信
時間差優先着信	02 秒
リソースBOD	
発信割り込みを使用	しない する
受信割り込みを使用	しない する

3.フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

2. 「する」を選択

1. 1秒(任意でよい)

ポート毎の設定	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ
無鳴動着信	対応しない
ポート使用設定	宛着信で使用
受話音量	送話音量
なりわけ着信機能	外線呼出音
着信拒否する	内線呼出音
着信機能	
グローバル着信	する しない
セレクト着信	する しない
通話中に着信があると音でお知らせ	する しない
送信機能	
発信者番号通知	する しない
高位レイヤ整合性をつけて発信	する しない
ダイヤルタイミング	
ダイヤル待ち時間	1 秒
フッキング判定時間	1 秒
着信転送	
転送トーカー	あり なし
転送元トーカー	あり なし
起動タイミング	呼出回数

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。

アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する～ 通信中転送(つづき)

【電話機の操作】

1. 外線(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押します(フッキング)。このとき、[ポート1の設定]画面で設定した「フッキング判定時間」より長く押すと、TEL1と外線(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

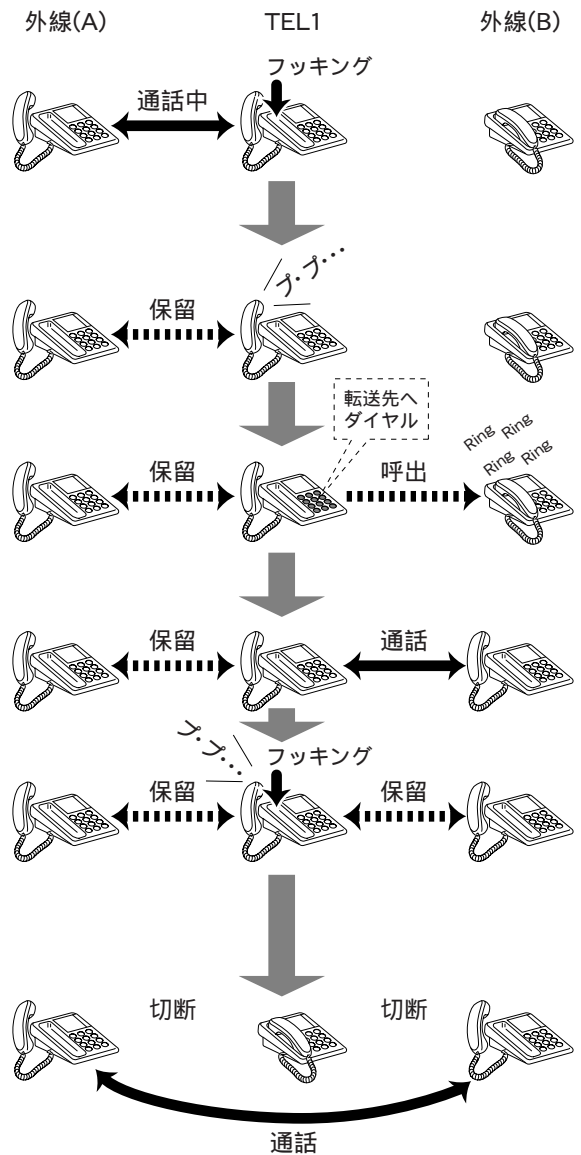
2. TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(A)との通話を保留します。

3. 転送先である外線(B)の電話番号をダイヤルします。

4. 外線(B)と通話します。

5. 外線(B)との通話中に、TEL1をフッキングします。TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえます。

6. TEL1の受話器を戻します。外線(A)と外線(B)の通話を開始します。



1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

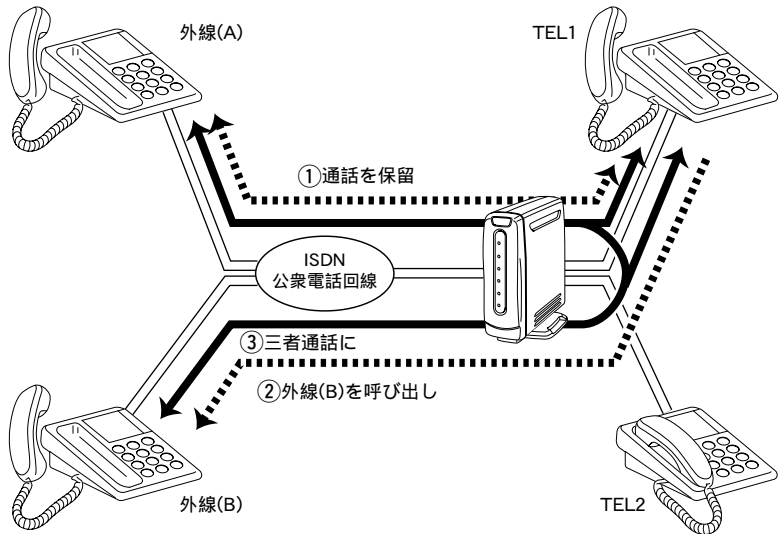
三者通話

三者通話には、二人の通話相手と交互に話す「切り替えモード」と、同時に三人で話せる「ミキシングモード」があります。

本製品は、フレックスホン機能を「疑似」に設定して利用する三者通話においても、両モードに対応しています。

【条件】

外線(A)からの着信をTEL1で応答し、外線(A)との通話を切断することなく新たに外線(B)を呼び出して三者で通話する。



注意！：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中の場合、三者通話は利用できません。

本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が、「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。

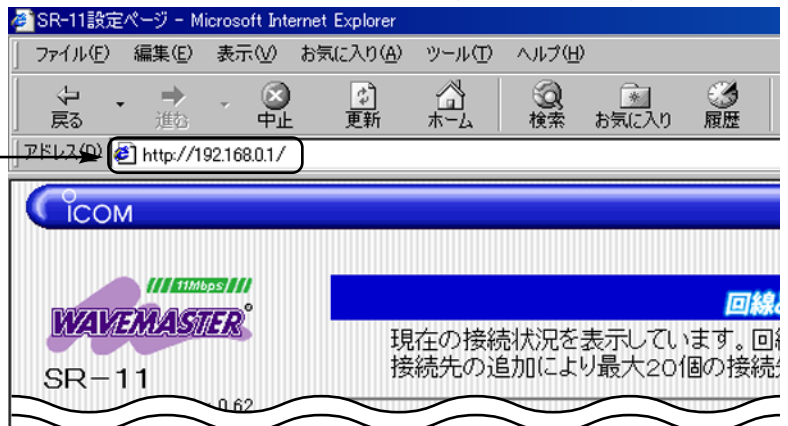
また、外線(A)との通話がTEL1からの発信による場合、外線(B)を呼び出して三者通話することはできません。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。



1. http://192.168.0.1/
を指定

アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

2.三者通話を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「三者通話」で「する」を選択します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

登録 / 取消	
内線通話	
内線通話の使用設定 [内線転送を使用する]	
フレックスホンの設定 登録 / 取消	
【注意】NTTフレックスホンをご利用になる場合はNTTとの契約が必要です。	
フレックスホン機能	<input checked="" type="radio"/> 疑似 <input type="radio"/> NTTとの契約による
コールウェイトニング	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
通信中転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
三者通話	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
着信転送	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
優先着信 登録 / 取消	
優先着信	すべてのポートに着信
時間差優先着信	02 秒
リソースBOD	
発信割り込みを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
受信割り込みを使用	<input type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

3.フッキング判定時間の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「通話中に着信があると音でお知らせ」と「フッキング判定時間」(時間は任意)を設定します。

3. クリック

2. 「する」を選択

1. 1秒(任意でよい)

登録 / 取消	
ポート毎の設定	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	
iナンバー	
ポート [1] [2] [3]	
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ
標準設定	対応しない
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ポート使用設定	宛着信で使用
受話音量	送話音量
標準	標準
外線呼出音	内線呼出音
呼出音1	呼出音1
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音
着信拒否する	呼出音1
着信機能 登録 / 取消	
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
送信機能 登録 / 取消	
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
ダイヤルタイミング 登録 / 取消	
ダイヤル待ち時間	1 秒
フッキング判定時間	1 秒
着信転送 登録 / 取消	
転送トーク	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
転送元トーク	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
起動タイミング	呼出回数 4 回
	既、起動

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、同様に設定します。

1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

【電話機の操作】

㊦ 切り替えモード

1. 外線(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押します(フッキング)。このとき、[ポート1の設定]画面で設定した「フッキング判定時間」より長く押すと、TEL1と外線(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

2. TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(A)との通話を保留します。

3. 別の相手である外線(B)の電話番号をダイヤルします。

4. 外線(B)と通話します。

つながらない場合、TEL1をもう一度フッキングして切り替えモードを中止し、外線(A)との通話に戻ります。また、そのまま受話器を置くと、TEL1の呼出音が鳴ります。

5. 外線(B)との通話中に、TEL1をフッキングします。TEL1の受話器から「プ・プ・・・」と第二発信音が聞こえ、外線(B)との通話が保留状態になります。

6. さらにTEL1をフッキングします。

外線(A)との通話が再開されます。

以後、フッキングするたびに、保留(第二発信音が聞こえる)状態をはさんで、外線(A)/(B)を交互に切り替えます。

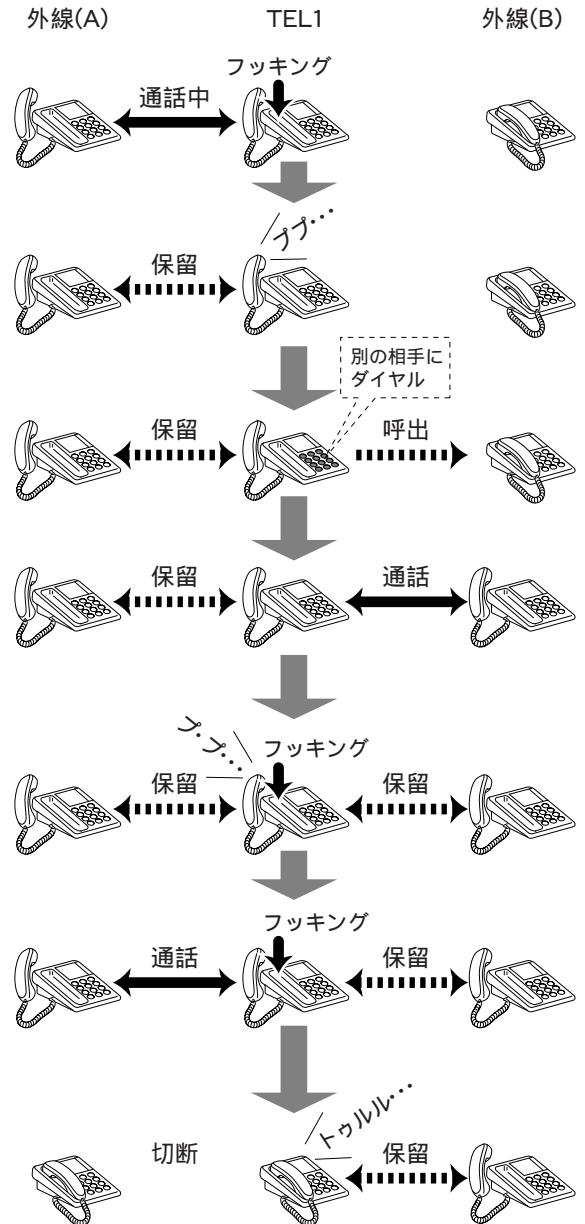
7. 通話が終了したら、TEL1の受話器を戻します。

外線(A)または外線(B)との通話が終了します。

保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が「トゥルル・・・」と鳴ります。

受話器を取ることで、保留中の外線と通話が再開されます。

保留中の外線がある場合に、通話中の外線が通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー・・・」と話し中音が聞こえます。TEL1をフッキングすると、保留中の外線との通話が再開されます。



アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する～ 三者通話(つづき)

㊦ ミキシングモード

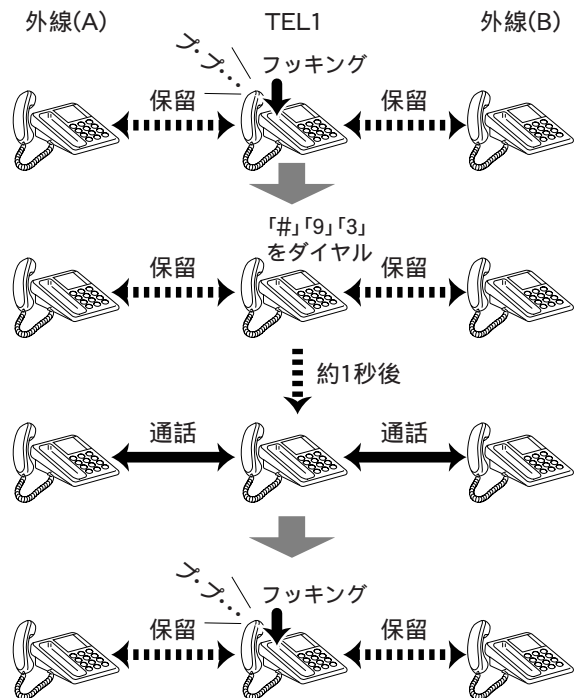
1. 「**A** 切り替えモード」の手順1～5と同じ操作をします。
通話中の外線(A)と外線(B)が保留状態になります。

2. TEL1から「#」「9」「3」をダイヤルします。
約1秒後、ミキシングモードに切り替わり、保留状態にある外線(A)、(B)の両方と通話(三者通話)できます。

3. 通話が終わったら、「**A** 切り替えモード」の手順7と同じ操作をします。

外線(A)または外線(B)との通話が終了します。
このとき、もう一方の外線が受話器を戻さない場合、TEL1の呼出音が「トゥルル・・・」と鳴ります。

受話器を取ることで、その外線との通話が再開されます。

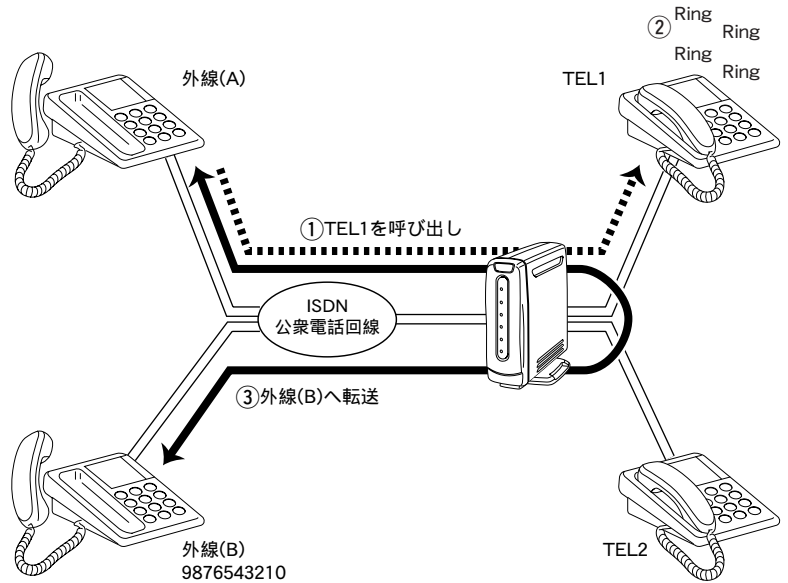


1. フレックスホン機能を利用する(つづき)

着信転送

【条件】

外線(A)からの通信をTEL1で着信し、呼出音が4回鳴っても応答がない場合、外線(B)(回線契約者番号：9876543210)に転送する。



注意！：フレックスホン機能を「疑似」に設定する場合で、一方のアナログ機器が通話中、または本製品に接続されたパソコンが通信中のときは、着信転送は利用できません。
本設定例の場合、フレックスホン機能の設定が、「疑似」、「NTTとの契約による」に関係なく、外線(B)への通話料金は、本製品側に課金されます。

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



アナログポートの設定例集

1. フレックスホン機能を利用する～ 着信転送(つづき)

2. 着信転送を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「着信転送」を「する」に設定します。

3. クリック

1. いずれかを選択

2. 「する」を選択

3. 着信転送の設定

<ポート1の設定>をクリックして、「起動タイミング」の「呼出回数」を4回、「呼出後起動」に設定します。

3. クリック

2. 「呼出後起動」を選択

1. 「4」を入力

1. フレックスホン機能を利用する～ 着信転送(つづき)

4. 転送先電話番号の設定

<転送 / 短縮番号設定>ボタンをクリックして、アナログポート1の「転送先電話番号1」に転送先情報を入力します。

3. クリック

1. 転送先の名称・名前を入力(任意)

2. 「9876543210」を入力

着信転送番号の登録
(注意)サブアドレス、転送先電話番号2の設定は専用設定時のみ可能です。

	転送先電話番号	転送先名	電話番号
アナログポート1	転送先電話番号1	A	9876543210
	転送先電話番号2		
アナログポート2	転送先電話番号1		
	転送先電話番号2		

短縮ダイヤルの登録

	名前	プリダイヤル	電話番号
*10	名前	プリダイヤル	電話番号
*11	名前	プリダイヤル	電話番号
*12	名前	プリダイヤル	電話番号
*13	名前	プリダイヤル	電話番号
*14	名前	プリダイヤル	電話番号
*15	名前	プリダイヤル	電話番号
*16	名前	プリダイヤル	電話番号
*17	名前	プリダイヤル	電話番号
*18	名前	プリダイヤル	電話番号
*19	名前	プリダイヤル	電話番号
*20	名前	プリダイヤル	電話番号
*21	名前	プリダイヤル	電話番号
*22	名前	プリダイヤル	電話番号
*23	名前	プリダイヤル	電話番号
*24	名前	プリダイヤル	電話番号
*25	名前	プリダイヤル	電話番号
*26	名前	プリダイヤル	電話番号
*27	名前	プリダイヤル	電話番号
*28	名前	プリダイヤル	電話番号
*29	名前	プリダイヤル	電話番号

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

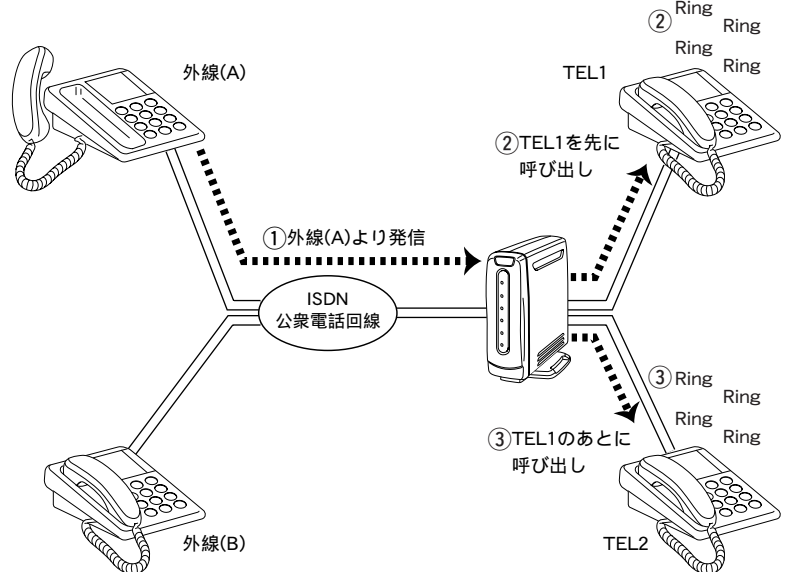
TEL2でも通信中転送を利用する場合は、<ポート2の設定>をクリックして、手順3と同様に設定したのち、アナログポート2の「転送先電話番号1」に転送先情報を入力します。

2. 優先着信

外線通信着信時に、[TEL1]、[TEL2]ポートに接続したアナログ機器のどちらか一方に優先して着信させ、一定時間、応答しないともう一方にも着信させることができる機能です。

【条件】

外線通信をTEL1で優先着信させ、10秒間応答しない場合、TEL2にも着信させます。



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



2. 優先着信(つづき)

2.優先着信を設定

<アナログ設定>メニューをクリックして、「優先着信」を「ポート1を優先」に、「時間差優先着信」を「10秒」に設定します。

3. クリック

1. 「ポート1を優先」を選択

2. 「10秒」を設定

登録 取消

内線通話
内線通話の使用設定 内線転送を使用する

フレックスホンの設定 登録/取消

【注意】NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。

フレックスホン機能 疑似 NTTとの契約による

コールウェイトニング	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイトニングをするにいた場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせがするに設定されます。
通信中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

優先着信 登録/取消

優先着信 時間差優先着信が0秒の時は優先ポートのみ着信します。

時間差優先着信

リソースBOD

発信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
受信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

<登録>をクリックして、設定ページを閉じます。

3. アナログ機器を鳴り分ける

一般のアナログ回線では、一つの契約回線に複数の端末機器(電話、FAXなど)が接続されている場合、全端末機器が同時に外部からの通信を着信します。これに対して、INSネット64は、NTTが提供する以下のサービスを契約するか、サブアドレスの設定や、セレクト着信機能の利用などにより、発信者が各端末機器を個別に鳴り分け・着信させることが可能になります。

NTTが提供するサービス(有料)

- ダイヤルインサービス
- i-ナンバーサービス
- なりわけ着信

ダイヤルインサービスの利用

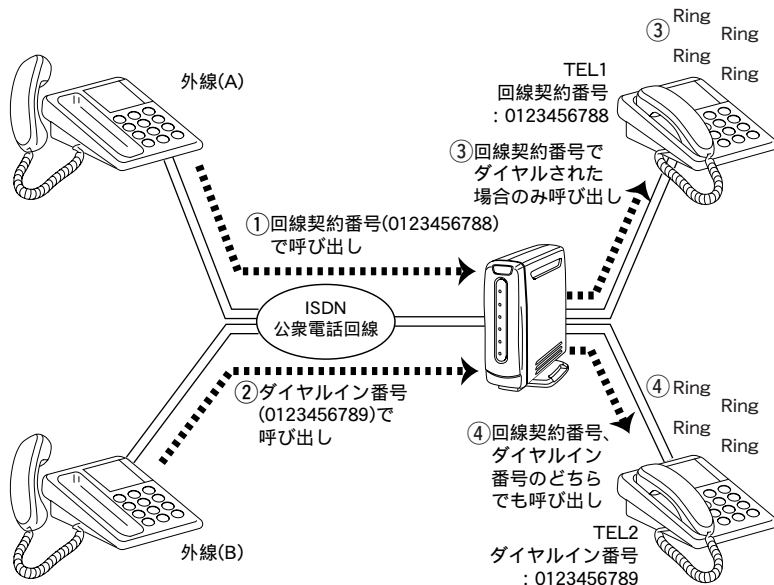
ダイヤルインサービスは、NTTとの契約により回線契約番号(代表電話番号)とは別に、各端末機器に個別の電話番号(ダイヤルイン番号)を割り当て、端末ごとに鳴り分け・着信させるサービスです。

ダイヤルインサービスには、グローバル着信機能(回線契約番号にかかってきた通信を、ダイヤルイン番号を割り当てた端末で着信する機能)が含まれます。(契約時に選択:「グローバル着信する」で契約することをおすすめします)

ご契約されている回線の接続方式(P-MP、P-P接続)によって異なりますが、ダイヤルインサービスでは、回線契約番号を含めて、最大1,000個までの電話番号を取得することができます。

【条件】

- 契約内容
グローバル着信: 「する」
- 本体設定
回線契約番号(代表番号: 0123456788): TEL1
ダイヤルイン番号(0123456789): TEL2
グローバル着信: 「する」



3. アナログ機器を鳴り分ける～ダイヤルインサービスの利用(つづき)

【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/を指定

2. ダイヤルイン番号の登録

<回線設定>をクリックして、「電話番号」にダイヤルイン番号「0123456789」を入力します。

2. クリック

1. 「0123456789」を入力

<登録して再起動>をクリックすると、約10秒後に[接続状況]画面を表示します。

アナログポートの設定例集

3. アナログ機器を鳴り分ける～ ダイヤルインサービスの利用(つづき)

3.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス」に回線契約番号「0123456788」を入力し、「グローバル着信」を「する」に設定します。

3. クリック

1. 「0123456788」を入力

2. 「する」(確認)

The screenshot shows the configuration page for an analog port. The '登録' (Register) button is highlighted with a callout box labeled '3. クリック'. The 'ダイヤルイン番号' (Dial-in number) field is highlighted with a callout box labeled '1. 「0123456788」を入力'. The 'グローバル着信' (Global call) option is highlighted with a callout box labeled '2. 「する」(確認)'. The page title is 'ポート毎の設定' (Settings for each port).

4.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス」にダイヤルイン番号「0123456789」を入力し、「グローバル着信」を「する」に設定します。

3. クリック

1. 「0123456789」を入力

2. 「する」を選択

The screenshot shows the configuration page for an analog port. The '登録' (Register) button is highlighted with a callout box labeled '3. クリック'. The 'ダイヤルイン番号' (Dial-in number) field is highlighted with a callout box labeled '1. 「0123456789」を入力'. The 'グローバル着信' (Global call) option is highlighted with a callout box labeled '2. 「する」を選択'. The page title is 'ポート毎の設定' (Settings for each port).

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

i-ナンバーサービスの利用

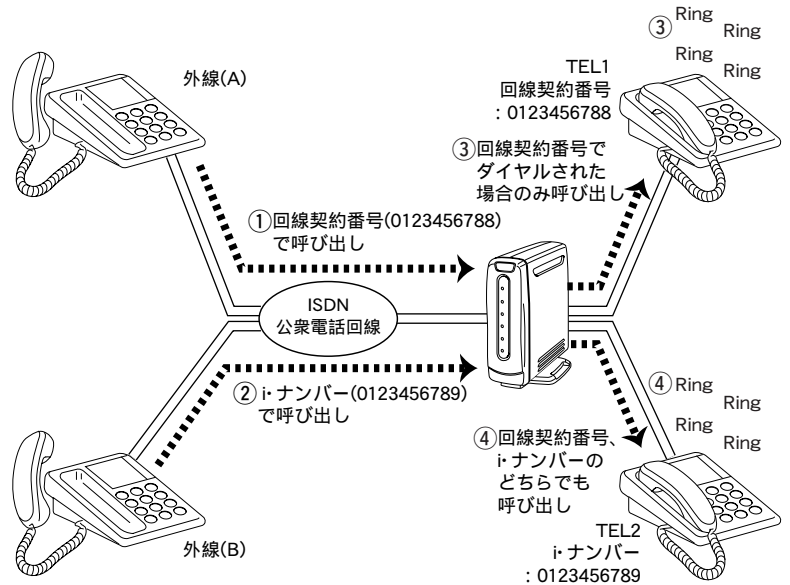
i-ナンバーサービスは、NTTとの契約により回線契約番号(代表電話番号)とは別に、各端末機器に個別の電話番号(i-ナンバー)を割り当て、端末ごとに鳴り分け・着信させるサービスです。

i-ナンバーサービスは、ダイヤルインサービスと違って、回線契約番号にかかってきた通信を、i-ナンバーを割り当てた端末で着信させるには、本製品での設定が必要です。

i-ナンバーサービスでは、回線契約番号を含めて、最大3個まで電話番号を取得することができます。

【条件】

- 契約内容
 - i-ナンバー : 2番号
- 本体設定
 - 回線契約番号(代表番号 : 0123456788) : TEL1
 - i-ナンバー(0123456789) : TEL2



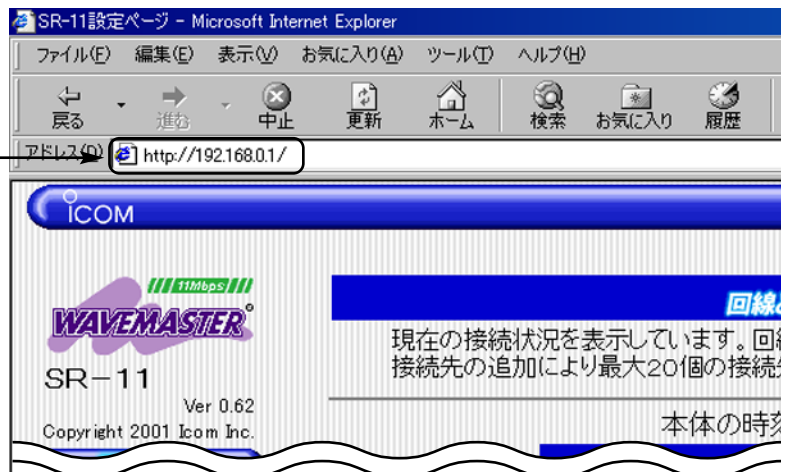
【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



アナログポートの設定例集

3. アナログ機器を鳴り分ける～ iナンバーサービスの利用(つづき)

2.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「iナンバーポート」の「1」をクリックし、チェックマークを付けます。

2. クリック

1. 「1」をクリック
(✓が表示される)

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス

iナンバー
1 2 3

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ
標準設定 対応しない

無鳴動着信 する しない

ポート使用設定 宛着信で使用

受話音量 送話音量 外線呼出音 内線呼出音
標準 標準 呼出音1 呼出音1

なりわけ着信機能 なりわけ呼出音
着信拒否する 呼出音1

着信機能

グローバル着信 する しない

セレクト着信 する しない

通話中に着信があると音でお知らせ する しない

送信機能

発信者番号通知 する しない

高位レイヤ整合性をつけて発信 する しない

ダイヤルタイミング

ダイヤル待ち時間 5 秒

フッキング判定時間 1 秒

3.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、さらに「iナンバーポート」の「1」と「2」をクリックし、チェックマークを付けます。

2. クリック

1. 「1」と「2」をクリック
(✓が表示される)

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス

iナンバー
1 2 3

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ
標準設定 対応しない

無鳴動着信 する しない

ポート使用設定 宛着信で使用

受話音量 送話音量 外線呼出音 内線呼出音
標準 標準 呼出音1 呼出音1

なりわけ着信機能 なりわけ呼出音
着信拒否する 呼出音1

着信機能

グローバル着信 する しない

セレクト着信 する しない

通話中に着信があると音でお知らせ する しない

送信機能

発信者番号通知 する しない

高位レイヤ整合性をつけて発信 する しない

ダイヤルタイミング

ダイヤル待ち時間 5 秒

フッキング判定時間 1 秒

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

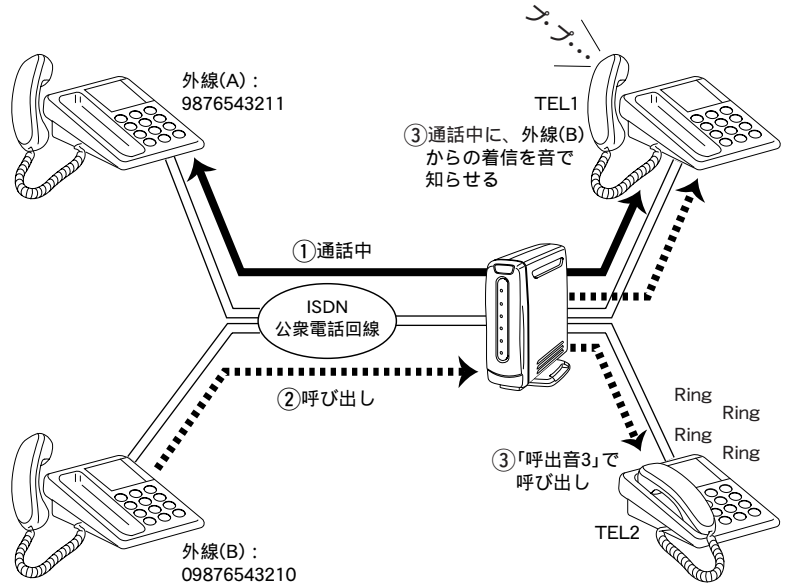
3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

なりわけ着信サービスの利用

なりわけ着信サービスは、NTTに登録した電話番号からの通信に対して、端末機器への着信形態を指定できるようにするサービスです。このサービスを利用するには、NTTとの契約(有料)が必要です。

【条件】

- 登録電話番号：
9876543210(外線(B))
- TEL1設定
外線(B)からの通信：
話し中でも、音で知らせる
なりわけ呼出音：「呼出音3」
- TEL2設定
外線(B)からの通信：
話し中は着信しない
なりわけ呼出音：「呼出音3」



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/
を指定



アナログポートの設定例集

3. アナログ機器を鳴り分ける～ なりわけ着信サービスの利用(つづき)

2.TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「なりわけ着信機能」を「通常・話中共に着信」に、「なりわけ呼出音」を「呼出音3」に設定します。

3. クリック

1. []をクリックして、「通常・話中共に着信」を選択

2. []をクリックして、「呼出音3」を選択

ポート毎の設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	ナンバーポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ		
標準設定	対応しない		
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定	発着信で使用		
受話音量	送話音量	外線呼出音	内線呼出音
標準	標準	呼出音1	呼出音2
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音		
通常・話中共に着信	呼出音3		
着信機能			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
外線外着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を付けて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間	5 秒		
フッキング判定時間	1 秒		

3.TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「なりわけ着信機能」を「話中は着信しない」に、「なりわけ呼出音」を「呼出音3」に設定します。

3. クリック

1. []をクリックして、「話中は着信しない」を選択

2. []をクリックして、「呼出音3」を選択

ポート毎の設定			
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス	ナンバーポート <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3		
接続機器の種類	ナンバーディスプレイ		
標準設定	対応しない		
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ポート使用設定	発着信で使用		
受話音量	送話音量	外線呼出音	内線呼出音
標準	標準	呼出音1	呼出音2
なりわけ着信機能	なりわけ呼出音		
話中は着信しない	呼出音3		
着信機能			
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
外線外着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能			
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性を付けて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間	5 秒		
フッキング判定時間	1 秒		

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

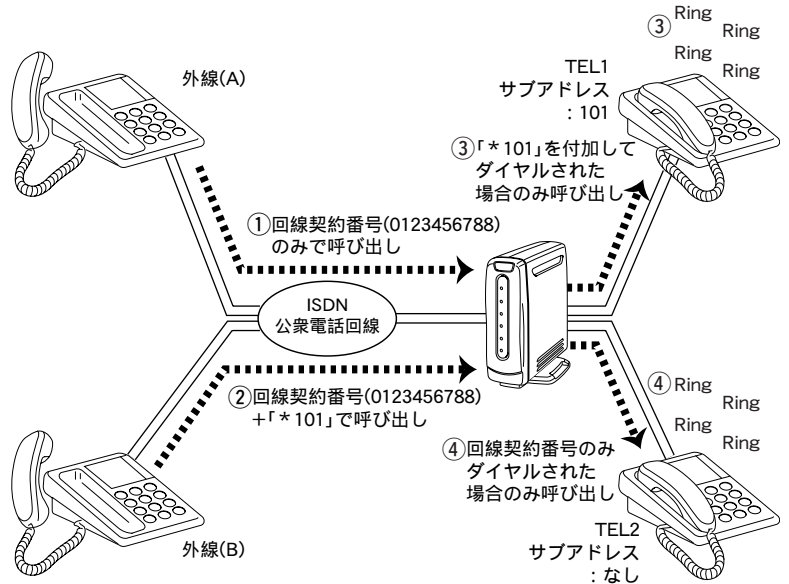
3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

サブアドレスの利用

NTTとの契約は不要で、各端末機器に個別のサブアドレスを割り当て、通信の発信者が契約電話番号とともにサブアドレスをダイヤルすることで、端末ごとに鳴り分け・着信させることが可能になります。ただし、サブアドレスによる鳴り分け・着信は、ISDN回線契約者からサブアドレスを付加してダイヤルされた発信に限り、鳴り分け・着信できますが、サブアドレスをダイヤルしない、またはアナログ回線契約者からの発信では、まったく着信できません。

【条件】

- 本体設定
 - 回線契約番号(代表番号) : 0123456788
- サブアドレス
 - TEL1 : 101
 - TEL2 : なし



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/ を指定



アナログポートの設定例集

3. 鳴り分け機能を利用する ~ サブダイヤルを利用する(つづき)

2. TEL1ポートの設定

<アナログ>メニューの<ポート1の設定>をクリックして、「電話番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス」に回線契約番号「0123456788」に続けて「*(アスタリスク)」とサブアドレス「101」を入力します。

2. クリック	<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="取消"/>
1. 「0123456788 * 101」と入力	<input type="text" value="0123456788*101"/>

ポート毎の設定		登録/取消▲	
回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス		ナンバーポート	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3
接続機器の種類	標準設定 ▼	ナンバーディスプレイ	対応しない ▼
無鳴動着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない	ポート使用設定	宛着信で使用 ▼
受話音量	標準 ▼	送話音量	標準 ▼
なりわけ着信機能	着信拒否する ▼	外線呼出音	呼出音1 ▼
		内線呼出音	呼出音1 ▼
		なりわけ呼出音	呼出音1 ▼
			呼出音1 ▼
着信機能		登録/取消▲	
グローバル着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
セレクト着信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
送信機能		登録/取消▲	
発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input type="radio"/> しない		
ダイヤルタイミング		登録/取消▲	
ダイヤル待ち時間	5 秒		
フッキング判定時間	1 秒		
着信転送		登録/取消▲	
転送トーン	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
転送元トーン	<input type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし		
起動タイミング	呼出回数 4 回		呼出後起動 ▼

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。

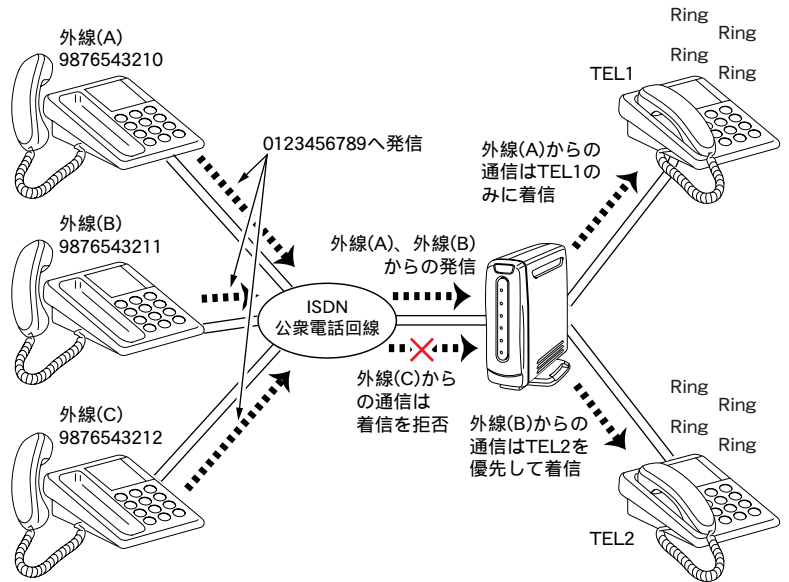
3. 鳴り分け機能を利用する(つづき)

セレクト着信の利用

セレクト着信機能とは、ISDN回線網より通知された発信者(電話)番号と、登録した電話番号が一致した場合に、TEL1、TEL2ポートに接続されたアナログ機器の着信形態を指定する機能です。着信形態には、ポート指定、優先、着信拒否、および指定無しの中から選択でき、最大20件の電話番号に対して指定できます。なお、アナログ回線網からの発信者(電話)番号通知には、別途、INSナンバー・ディスプレイの契約(有料)が必要です。

【条件】

- TEL1、TEL2の電話番号：
0123456789(回線契約者番号のみ：ダイヤルイン、ナンバー契約無し、サブアドレス未使用)
- ① 発信者番号、9876543210からの通信は、TEL1のみに着信させ、着信音2を使用
- ② 発信者番号、9876543211からの通信は、TEL2を10秒間優先して着信させ、着信音3を使用
- ③ 発信者番号、9876543212からの通信は着信を拒否



【手順】

1. 設定ページを開く

WWWブラウザを起動して、「http://192.168.0.1」をアドレスバーに指定します。

本製品のIPアドレスは、出荷時の設定(192.168.0.1)とします。

1. http://192.168.0.1/を指定



アナログポートの設定例集

3. 鳴り分け機能を利用する ~ セレクト着信の利用(つづき)

2. 優先時間の設定

<アナログ>メニューをクリックして、「時間差優先着信」を10秒に設定します。

2. クリック

登録 取消

内線通話
内線通話の使用設定 [内線転送を使用する]

フレックスホンの設定 登録/取消▲
【注意】NTTフレックスホンをご使用になる場合はNTTとの契約が必要です。

フレックスホン機能 疑似 NTTとの契約による

コールウェイティング	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	疑似にてコールウェイティングをするに場合はポート番の設定で通話中に着信があると音でお知らせするに設定されます。
通信中転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
三者通話	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
着信転送	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	

優先着信 登録/取消▲

優先着信	すべてのポートに着信	時間差優先着信が0秒の場合は優先ポートのみ着信します。
時間差優先着信	10 秒	

リソースBOD

発信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する
受信割り込みを使用	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する

1. 「10秒」を入力(任意)

3. TEL1ポートの設定

<ポート1の設定>をクリックして、「セレクト着信」を「する」に設定します。

2. クリック

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス [] 番号ポート [1] [2] [3]

接続機器の種類 ナンバーディスプレイ
標準設定 [] 対応しない []

無鳴動着信 する しない

ポート使用設定 [宛着信で使用]

受話音量 [標準] 送話音量 [標準] 外線呼出音 [呼出音1] 内線呼出音 [呼出音1]

なりわけ着信機能 [着信拒否する] なりわけ呼出音 [呼出音1]

着信機能 登録/取消▲

グローバル着信	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
セレクト着信	<input checked="" type="radio"/> する <input type="radio"/> しない
通話中に着信があると音でお知らせ	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない

送信機能 登録/取消▲

発信者番号通知	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない
高位レイヤ整合性をつけて発信	<input type="radio"/> する <input checked="" type="radio"/> しない

ダイヤルタイミング 登録/取消▲

ダイヤル待ち時間	5 秒
フッキング判定時間	1 秒

着信転送 登録/取消▲

転送トーン	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
転送元トーン	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
起動タイミング	呼出回数 4 回 [] 即、起動 []

1. 「する」を選択

3. 鳴り分け機能を利用する ~ セレクト着信の利用(つづき)

4. TEL2ポートの設定

<ポート2の設定>をクリックして、「セレクト着信」を「する」に設定します。

2. クリック

登録 取消

ポート毎の設定

回線番号(ダイヤルイン番号)*サブアドレス [ナンバーポート] 1 2 3

接続機器の種類: ナンバーディスプレイ
 標準設定: [対応しない]
 無鳴動着信: [する] [しない]
 ポート使用設定: [宛着信で使用]
 受話音量: [標準] 送話音量: [標準] 外線呼出音: [呼出音1] 内線呼出音: [呼出音1]
 なりわけ着信機能: なりわけ呼出音 [呼出音1]
 着信拒否する: [する] [しない]

着信機能 登録/取消▲

グローバル着信: [する] [しない]
 セレクト着信: [する] [しない] ← **1. 「する」を選択**
 通話中に着信があると音でお知らせ: [する] [しない]

送信機能 登録/取消▲

発信者番号通知: [する] [しない]
 発信レイヤ整合性を保つて発信: [する] [しない]

5. 電話番号・着信形態の登録

<セレクト番号>をクリックして、登録番号(登録01~20)ごとに「相手先名」「電話番号」「着信ポート&着信動作」「着信音」を設定します。

① 外線(A)の登録

1. 「外線(A)」(任意)

2. 「9876543210」を入力

3. 「ポート1のみに着信する」を選択

4. 「呼出音2」を選択

登録 取消

セレクト着信

登録番号	相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作	着信呼出音
登録01	外線(A)	9876543210	ポート1のみに着信する	呼出音2
登録02			両ポートに着信する	呼出音1
登録03			着信ポート&着信動作	呼出音1
登録04			両ポートに着信する	呼出音1
登録05			着信ポート&着信動作	呼出音1
登録06			両ポートに着信する	呼出音1
登録07			着信ポート&着信動作	呼出音1
登録08			両ポートに着信する	呼出音1
登録09			着信ポート&着信動作	呼出音1
登録10			両ポートに着信する	呼出音1

アナログポートの設定例集

3. 鳴り分け機能を利用する～ セレクト着信の利用(つづき)

②外線(B)の登録

	登録	取消	セレクト着信			
	登録01		相手先名 外線(A)	電話番号 9876543210	着信ポート&着信動作 [ポート1のみに着信する]	着信呼出音 [呼出音2]
1. 「外線(B)」(任意)	登録02		相手先名 外線(B)	電話番号 9876543211	着信ポート&着信動作 [ポート2を優先して着信]	着信呼出音 [呼出音3]
2. 「9876543211」を 入力	登録03		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
3. 「ポート2を優先して着 信」を選択	登録04		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
4. 「呼出音3」を選択	登録05		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録06		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録07		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録08		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]

③外線(C)の登録

	登録	取消	セレクト着信			
	登録01		相手先名 外線(A)	電話番号 9876543210	着信ポート&着信動作 [ポート1のみに着信する]	着信呼出音 [呼出音2]
	登録02		相手先名 外線(B)	電話番号 9876543211	着信ポート&着信動作 [ポート2を優先して着信]	着信呼出音 [呼出音3]
1. 「外線(C)」(任意)	登録03		相手先名 外線(C)	電話番号 9876543212	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信しない]	着信呼出音 [呼出音1]
2. 「9876543212」を 入力	登録04		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
3. 「両ポートに着信しな い」を選択	登録05		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録06		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録07		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]
	登録08		相手先名	電話番号	着信ポート&着信動作 [両ポートに着信する]	着信呼出音 [呼出音1]

<登録>ボタンをクリックしたあと、設定ページを閉じます。



SOHOROUTER
SR-11

第8部 付属ソフトウェアについて

1. Quick Connect.....	1
操作パネル	1
[Option]ウィンドウ	3
[接続設定]ウィンドウ	4
2. IP Name	7

取扱説明書[基本編]に記載のない内容について説明
しています。本書の設定例集と併せてご覧ください。

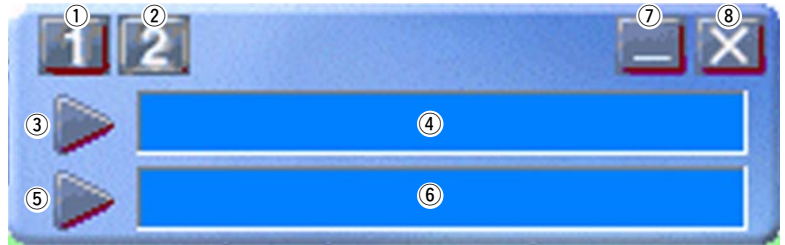
1. Quick Connect(クイックコネクト)

Quick Connectとは、設定ページへアクセスせずに、手動でISDN回線の接続/切断を操作するためのソフトウェアです。

Quick Connectは、デスクトップ上に常駐させることが可能で、本製品に登録された接続先(プロバイダーなど)へ簡単に接続できます。

なお、Quick Connectは、「ISDNダイヤルアップ」、「フレッツ・ISDN」の設定環境でのみ利用できます。

操作パネル



- ①<1> 回線接続ボタン1です。
[Option]ウィンドウの「④接続ボタン1接続先No」(☞P3)で設定された接続先へ、回線を接続します。
- ②<2> 回線接続ボタン2です。
[Option]ウィンドウの「⑤接続ボタン2接続先No」(☞P3)で設定された接続先へ、回線を接続します。
- ③<▶> B1チャンネルの回線を切断します。
- ④接続状況表示 B1チャンネルの回線接続状況を表示します。
- ⑤<▶> B2チャンネルの回線を切断します。
- ⑥接続状況表示 B2チャンネルの回線接続状況を表示します。
- ⑦<__> 操作パネル表示を最小化します。
- ⑧<x> Quick Connectを終了します。

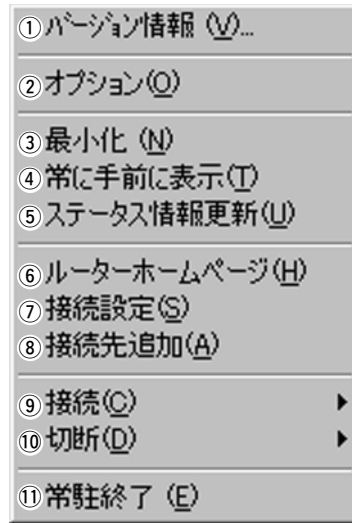
なお、Quick Connectから本製品にアクセスできない場合、操作パネルが右の表示になります。このような場合は、パソコンのIPアドレス設定を確認してください。




付属ソフトウェアについて

1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

Quick Connectの操作パネル上で、右クリックすると、次のメニューが表示されます。



- ①バージョン情報 (V) Quick Connectのバージョン情報を表示する、右のウィンドウを開きます。
- ②オプション (O) [Option]ウィンドウを開きます。
詳細は、 [Option]ウィンドウ(⇒P3)をご覧ください
- ③最小化 (N) 操作パネルを最小化します。
- ④常に手前に表示 (I) Quick Connect以外のアプリケーションを起動させていても、操作パネルが常に見えるように表示させます。
- ⑤ステータス情報更新 (U) 本製品と通信して、設定ページの設定内容、通信チャネルの接続状況などの情報を更新します。
- ⑥ルーターホームページ (H) WWWブラウザを自動的に起動して、本製品の設定ページを開きます。
- ⑦接続設定 (S) [接続設定]ウィンドウを開きます。
Quick Connectから、設定ページに登録されている接続先設定を編集することができます。
詳細は、 [接続設定]ウィンドウ(⇒P4)をご覧ください。
- ⑧接続先追加 (A) 「⑥接続設定 (C)」と同様に、 [接続設定]ウィンドウを開きます。
Quick Connectから、接続先を追加することができます。
詳細は、 [接続設定]ウィンドウ(⇒P4)をご覧ください。
- ⑨接続 (C) 接続ボタン<1>、または<2>に登録された接続先へ回線を接続します。
- ⑩切断 (D) 「B1」、「B2」チャネル、または「B1/B2」チャネルを切断します。
- ⑪常駐終了 (E) Quick Connectを終了します。

1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

[Option]ウィンドウ

Quick Connectから本製品へアクセスするための設定と、操作パネルの<1>、<2>での接続先を選択します。

SR-11のIPアドレス	①	192.168.0.1	
ユーザID	②		
パスワード	③		
接続ボタン1 接続先No	④	01	1B接続
接続ボタン2 接続先No	⑤	02	1B接続
ステータス更新間隔(秒)	⑥	15	

- ①SR-11のIPアドレス 本製品に設定されたIPアドレスを表示 / 入力します。
- ②ユーザID 設定されている管理者、または使用者IDを表示 / 入力します。
- ③パスワード 設定されている管理者、または使用者パスワードを表示 / 入力します。
パスワードは「*(アスタリスク)」で表示します。
- ④接続ボタン1接続先No <1>に割り当てられた接続先の登録番号を表示 / 入力します。
- ⑤接続ボタン2接続先No <2>に割り当てられた接続先の登録番号を表示 / 入力します。
- ⑥ステータス更新間隔(秒) Quick Connectが本製品の設定、接続状況などの情報を更新する時間を表示 / 入力します。
なお、設定する時間は5～60秒のあいだで入力してください。(1～4秒を入力しても、設定を拒否します。)
0秒に設定すると、右クリックで表示されるメニューでの手動更新となります。
- ⑦通信チャンネル 接続先との通信に使われているチャンネルを表示します。

付属ソフトウェアについて

1. Quick Connect(クイックコネクト)(つづき)

[接続設定]ウィンドウ

本製品に登録されている接続先を編集、および接続先を追加するときに表示されるウィンドウです。

なお、このウィンドウに表示される項目は、以下の設定ページ画面で設定されていますので、それぞれの詳細説明については、該当する画面の説明をご覧ください。

- ① [接続]画面
- ② [自動接続]画面
- ③ [自動切断]画面



- ① 接続先名 接続する相手先名を入力します。
- ② 電話番号1～3 接続先から指定された電話番号を、市外局番から入力します。
- ③ ユーザID 接続先から指定されたユーザID(ログイン名)を入力します。
- ④ パスワード 接続先から指定されたパスワードを入力します。
- ⑤ 認証プロトコル ユーザIDとパスワードを発信するときの認証方法を選択します。
- ⑥ デフォルトGWを構築 この接続先への接続を、LAN環境で発生した宛先不明のパケットを送り出す出口とするかしないかを選択します。
- ⑦ コールバック要求 相手先に発信したときに、相手先にかけておしてもらいように(コールバック)要求するかどうかを選択します。
- ⑧ コールバック電話番号 CBCPによるコールバックを要求した場合に、相手先にかけておしてもらい電話番号を入力します。
- ⑨ プライマリDNSサーバ 接続先から指定されたプライマリDNSサーバアドレス、またはDNSサーバアドレスが2つ以上指定されている場合は、どちらか一方を入力します。
DNSサーバを使用しない場合は、「0.0.0.0」としておきます。

1. Quick Connect(クイックコネクト)～ [接続設定]ウィンドウ(つづき)



- ⑩セカンダリDNSサーバ 接続先から指定されたプライマリDNSサーバアドレス、またはDNSサーバアドレスが2つ以上指定されている場合は、どちらか一方を入力します。
DNSサーバを使用しない場合は、「0.0.0.0」としておきます。
- ⑪BODを使用 MP接続に対応している接続先と、128kbps(回線速度)の契約をしていて、「⑭通信速度」を「64k可変」、もしくは「128k可変」に設定している場合に限り、回線を流れるパケット量を監視しながら、必要に応じて自動的にチャンネルを増減するかどうかを選択します。
- ⑫移行トラフィック量 上記「⑪BODを使用」に“✓”(チェックマーク)がある場合に有効となり、回線を流れるパケット量が、ここで設定する値になれば使用するBチャンネル数(1B 2B、2B 1B)を自動的に切り替えます。
- ⑬自動接続する パソコンが、メールサーバやインターネットなどへアクセスする操作をした場合、自動で回線を接続するかどうかを選択します。
- ⑭通信速度 Bチャンネルを使って、接続先とどのように通信するかを選択します。
- ⑮自動切断する 接続中の回線を自動で切断するか、操作パネル上の<▶>をクリックするまで切断しないかを選択します。
- ⑯タイマー1..... 上記「⑮自動切断する」に“✓”(チェックマーク)がある場合に、ここで設定する時間、通信がないと自動的に回線を切断します。
- ⑰タイマー2..... 上記「⑯タイマー1」とは別に、下記「⑱タイマー2を使用する時間」で設定された時間帯で自動的に回線を切断するタイマーです。
- ⑱タイマー2を使用する時間..... 上記「⑰タイマー2」を有効にする時間帯を設定します。
- ⑲<削除> 表示している接続先の登録を削除します。
- ⑳<OK> 設定、または編集した内容を本製品に登録してウィンドウを閉じます。

付属ソフトウェアについて

1. Quick Connect(クイックコネクト)～ [接続設定]ウィンドウ(つづき)

- ②<キャンセル> 設定、または編集した内容を取り消して、ウィンドウを閉じます。
なお、一度<適用>をクリックすると、設定/編集した内容を取り消すことはできません。
- ②<適用> 設定、または編集した内容を確定して、本製品に登録します。
- ③<再取得> 本製品と通信して、本製品に登録されている接続設定内容表示を更新します。

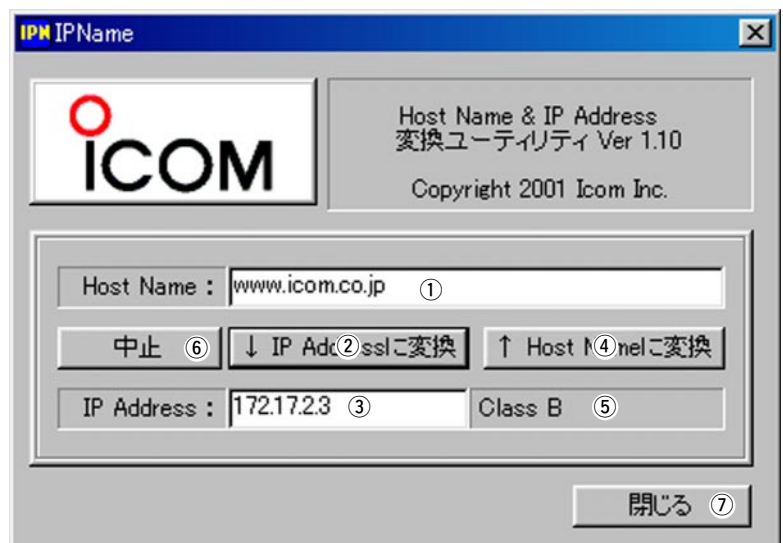
2. IP Name

本製品の簡易DNSサーバ機能を利用する際、あらかじめパソコンのホスト名に対応するIPアドレスを登録しておく必要があります。IP Nameを使うと、このホスト名に対応するIPアドレスを検索することができます。また、IPアドレスからホスト名を検索(逆引き)することも可能です。

注意！

グローバル環境のホスト名解決には、インターネットへ接続して外部DNSへ問い合わせを行う必要があります。

よって、ダイヤルアップ接続の場合、自動接続を設定していると、検索のためにインターネットに自動接続して課金されますので、注意してください。



- | | |
|------------------------|--|
| ①Host Name | 目的の名前を、「ホスト名.(ドット)ドメイン名」の書式で入力/表示します。
(入力/表示例：www.icom.co.jp) |
| ②<IP Addressに変換> | 入力したホスト名のIPアドレス検索を開始します。 |
| ③IP Address | 目的のIPアドレスを入力/表示します。(入力/表示例：172.16.2.2) |
| ④<Host Nameに変換> | 入力したIPアドレスのホスト名検索を開始します。 |
| ⑤Class表示 | 検索された/検索したIPアドレスが所属するクラスを表示します。
一般的に、A～Cクラスに分けられています。 |
| ⑥<中止> | 検索中に表示されるボタンです。
途中で、検索を中止したい場合にクリックします。 |
| ⑦<閉じる> | IP Nameを終了します。 |

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

ICOM[®]

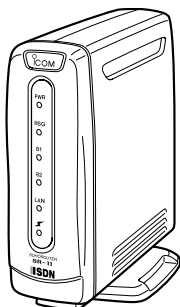
USBを使うかたへ

/// 11Mbps ///

WAVEMASTER[®]

SOHOROUTER
SR-11

本製品の[USB]ポートを使うときお読みください。
本書は、本製品の[USB]ポートを使う前に知っておいていただきたい内容と、必要な準備について説明しています。



本製品とパソコンをつなぐ

1

インターネットにつなぐ

2

ATコマンドで設定する

3

icom Inc.

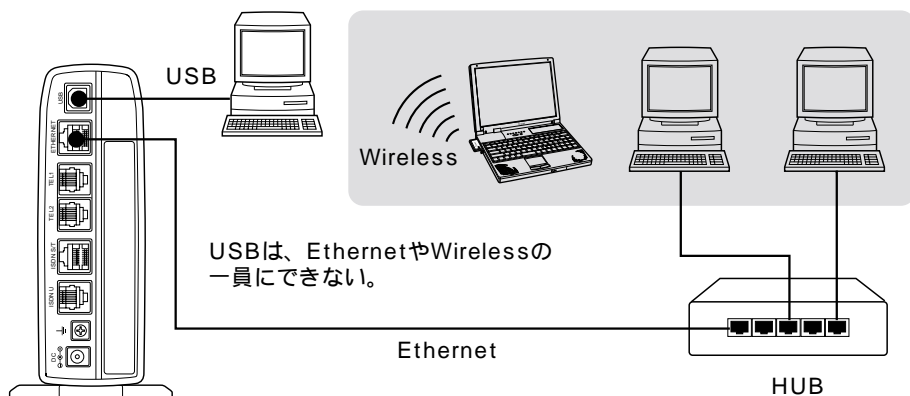
はじめに

本書では、本製品の[USB]ポートをお使いいただく前に知っておいていただきたい内容と準備(セットアップ)のしかたについて説明しています。

なお、取扱説明書[基本編]の「2章 本製品と回線をつなぐ」までの準備ができていることを前提としています。

USBでできること

パソコンに[USB]ポートがある場合は、本製品と直接つないでインターネットができます。この場合、TA機能しか使えませんので、Ethernetや無線で本製品に接続されたネットワークに含めることはできません。また、本製品の設定も行えません。



登録商標について

アイコム株式会社、アイコム、Icom, Inc.、iCOMは、アイコム株式会社の登録商標です。

WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。

Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Macintosh、Mac-OSは、米国アップルコンピューター社の登録商標です。

Netscape Navigatorは、Netscape Communications Corporationの商標です。

はじめに	i
もくじ	ii
1. 本製品とパソコンをつなぐ	1
1-1. ドライブ名の確認	2
1-2. パソコンをUSBでつなぐには	3
[USB]ポートの確認	3
USBケーブルでつなぐ	4
1-3. USBドライバーを準備する	5
【Windows Meの場合】	5
【Windows 2000の場合】	10
1-4. プロバイダーの設定	13
【Windows Meの場合】	13
【Windows 2000の場合】	19
1-5. 正しくインストールされているかを確認する	27
【Windows Meの場合】	28
【Windows 2000の場合】	30
1-6. モデムを削除するには	32
【Windows Meの場合】	32
【Windows 2000の場合】	33
2. インターネットにつなぐ	35
2-1. Windows Meを使う	36
2-1. Windows 2000を使う	39
3. ATコマンドで設定する	41
3-1. 概要について	42
3-2. 書式について	42
3-3. 入力のしかた	43
3-4. 応答コードについて	45
3-5. 設定内容の保存について	45
3-6. 設定内容の初期化について	46
3-7. Sレジスタについて	46
3-8. TA機能の動作モードについて	47
3-9. ATコマンド一覧	48
本書でのコマンド表記について	48
回線制御コマンド	48
信号線制御コマンド	50
表示設定コマンド	51
通信設定コマンド	52
レジスタの設定(参照)	53
ステータスの表示コマンド	54
ポートの設定コマンド	55

もくじ

エミュレーションコマンド	55
コマンドモード遷移	55
その他	56
3-10.設定レジスタ一覧	57
Sレジスタ	57
\$Iレジスタ	59
\$Mレジスタ	62
3-11.応答コード一覧	67

この章では、

[USB]ポートを使って本製品とパソコンを接続する方法と、インターネット接続に必要なパソコンの設定について説明します。

本製品とほかの方法で接続するときは、次の箇所をお読みください。

Ethernetでつなぐ 「3-1 パソコンをEthernetでつなぐには」(取扱説明書[基本編])

無線でつなぐ 「3-2 パソコンを無線LANでつなぐには」(取扱説明書[基本編])

1-1. ドライブ名の確認	2
1-2. パソコンをUSBでつなぐには	3
[USB]ポートの確認	3
USBケーブルでつなぐ	4
1-3. USBドライバーを準備する	5
【Windows Meの場合】	5
【Windows 2000の場合】	10
1-4. プロバイダーの設定	13
【Windows Meの場合】	13
【Windows 2000の場合】	19
1-5. 正しくインストールされているかを確認する	28
【Windows Meの場合】	28
【Windows 2000の場合】	30
1-6. モデムを削除するには	32
【Windows Meの場合】	32
【Windows 2000の場合】	33

1 本製品とパソコンをつなぐ

1-1 ドライブ名の確認

本製品のUSBドライバーをパソコンにインストールするとき指定するドライブ名が、ご使用の環境によって本書の説明で使うドライブ名と異なることがありますので、確認しておくことをおすすめします。

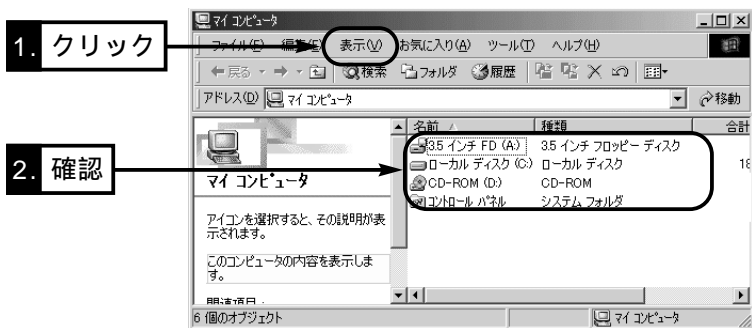
本書の説明で使うドライブ名とご使用のパソコンのドライブ名とが異なる場合は、下記のWindows Meの手順で確認したドライブ名に置き換えてお読みください。

確認のしかた

1. デスクトップ上の[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックします。
2. 下記画面で、[表示(V)]メニュー [詳細]の順に操作します。

ここで確認するCD-ROMのドライブ名は、以降の説明で必要になりますので、メモなどに書きとめておいてください。

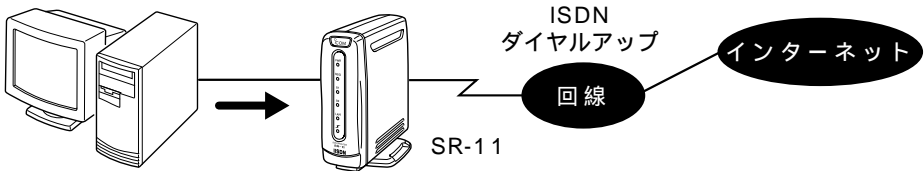
本書では、フロッピーディスクドライブ名を「A」、CD-ROMドライブ名を「D」とした例を説明しています。



1-2 パソコンをUSBでつなぐには

USBケーブルを[USB]ポートに接続してパソコンをつなぐ場合の設定のしかたを説明します。なお、USBポートに接続されたパソコンは、本製品のTA機能を使ってインターネットが行えます。

対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。



本製品にUSBで接続されたパソコンから、インターネットができます。

ステップ1	パソコンのUSBポートを確認する	3
ステップ2	USBケーブルで本製品とパソコンを接続する	4
ステップ3	本製品のUSBドライバーを準備する	5
ステップ4	プロバイダー(ダイヤルアップネットワーク)の設定	12
ステップ5	インターネットにつなぐ	33

[USB]ポートの確認

ご使用のパソコンに[USB]ポートがあることを確認してください。

また、その[USB]ポートが使用できる状態に設定されている必要があります。

確認は、Windows Meの場合、「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」で行えます。

パソコンのBIOSにUSB機能を選択する項目がある場合は、それを有効にする必要があります。詳しくは、ご使用のパソコンの取扱説明書でご確認ください。

また、本製品とパソコンの接続は、Ethernetや無線LANを使って行うこともできます。

弊社製Wireless LAN UNIT(SU-11)をパソコンの[USB]ポートにつないでご使用いただくと、本製品と無線LANによる通信が行えます。

1 本製品とパソコンをつなぐ

1-2 パソコンをUSBでつなぐには(つづき)

USBケーブルでつなぐ

パソコンを本製品の[USB]ポートにつなぐ方法を説明します。

【△注意】

MacintoshへのUSB接続には、対応していません。

USBケーブルは、最長で5m以内になるようにしてください。

5m以上になると、動作しないことがあります。

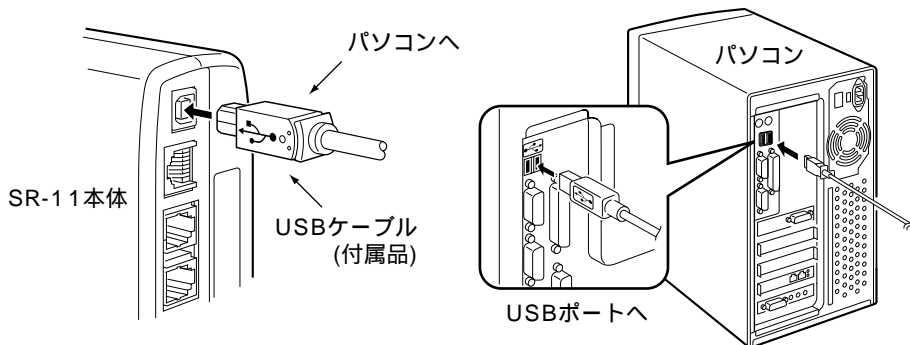
USBポートに接続されたパソコンは、本製品のTA機能を使ってしか通信できません。

Ethernetまたは無線で本製品に接続されたネットワークに含めることはできません。

また、本製品の設定などもできません。

つなぎかた

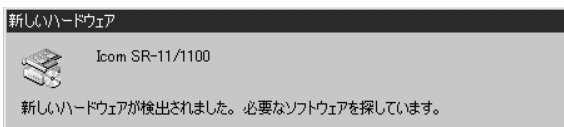
- 1.本製品とパソコンの電源を入れます。
- 2.本製品とパソコンの[USB]ポートを、本製品に付属するUSBケーブルでつなぎます。



- 3.USBケーブルのもう片方の端を本製品の[USB]ポートに差し込みます。

パソコンが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。

Windows2000をご使用の場合、Administrator権限でログオンしてください。



- 4.本製品に付属するCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットして、次ページの「USBドライバーを準備する」(☞1-3)で、該当するOSの手順にしたがいます。本製品では、例としてWindowsMeとWindows2000について記載しています。Windows98、Windows98SEについては、WindowsMeを参考にしてください。

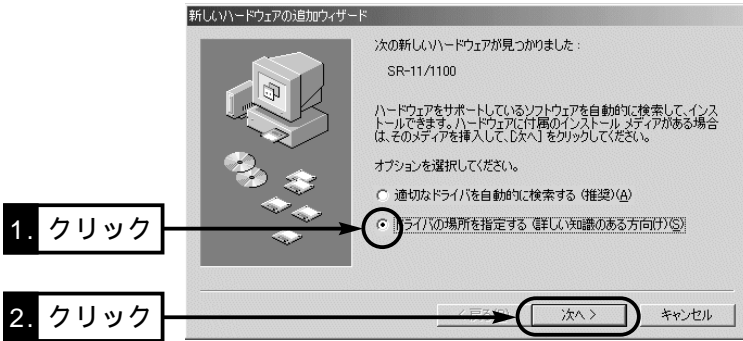
1-3 USBドライバーを準備する

USBドライバーは、本製品に付属するCD-ROMの中に収められています。

USBケーブルをつなぐと、自動的に、パソコンの画面上に「新しいハードウェアの追加ウィザード」(P4)が表示されますので、その画面の指示にしたがって進みます。

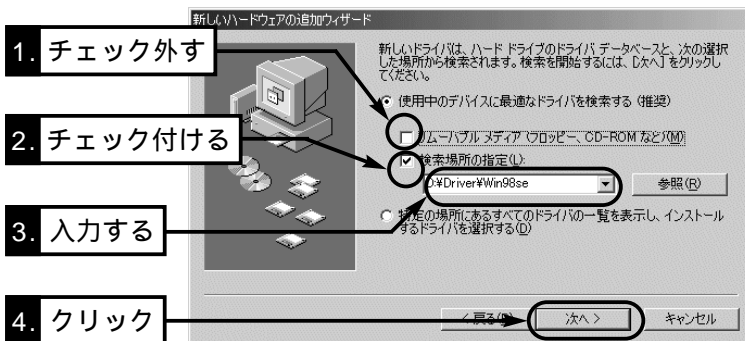
【Windows Meの場合】

1. 次の画面が表示されたら、[ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)(S)]のラジオボタンにチェックを入れて、次へ をクリックします。



2. [リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)(M)]のチェックボックスにチェックが付いていないことを確認します。

[検索場所の指定(L):]のチェックボックスにチェックを付けて、CD-ROMのドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Driver¥Win98se)してから、次へ をクリックします。



Windows98の場合、CD-ROMのドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定するときは、「D:¥Driver¥Win98」となります。

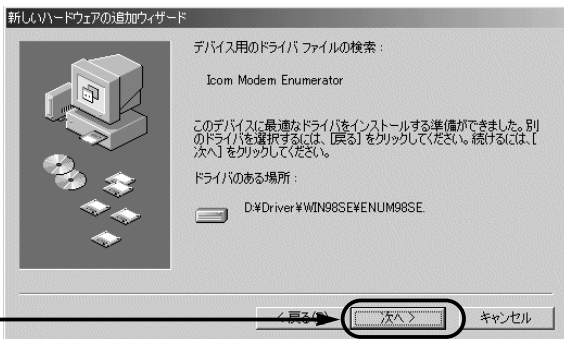
Windows98SE、WindowsMeの場合、CD-ROMのドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定するときは、「D:¥Driver¥Win98se」となります。

1 本製品とパソコンをつなぐ

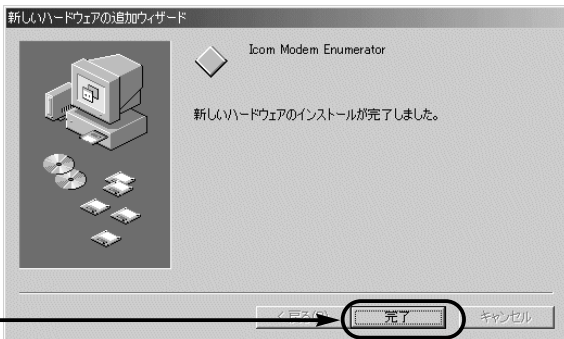
1-3 USBドライバーを準備する

【Windows Meの場合】(つづき)

3.ドライバーの場所が見つかったら、次の画面を表示しますので、次へ をクリックします。

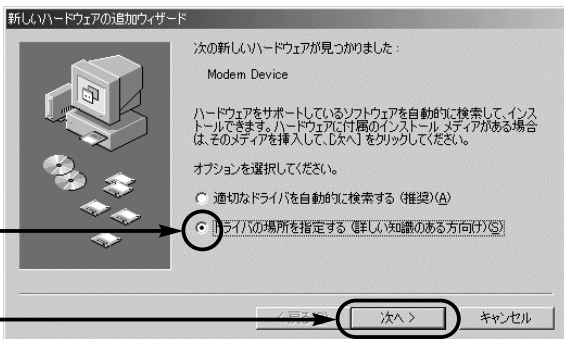


4.次の画面で 完了 をクリックすると、USBドライバーのインストールが完了します。



5.本製品の仮想モデムをインストールするためのウィザードが表示されます。

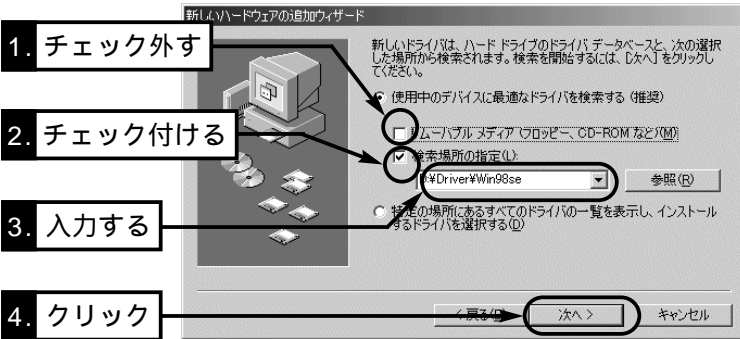
[ドライバーの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)(S)]のラジオボタンにチェックを入れて、次へ をクリックします。



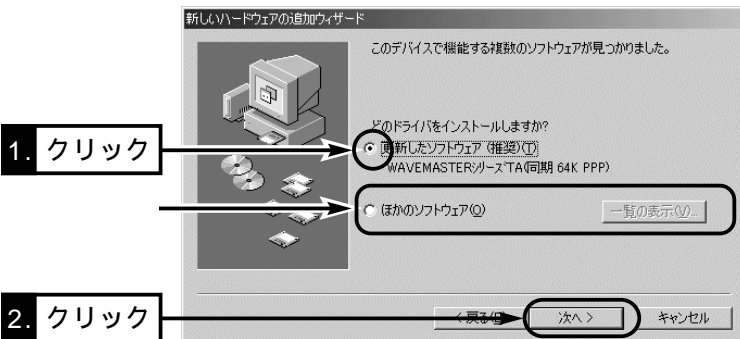
【Windows Meの場合】(つづき)

6. [リムーバブル メディア(フロッピー、CD-ROMなど)(M)]のチェックボックスにチェックが付いていないことを確認します。

[検索場所の指定(L):]のチェックボックスにチェックを付けて、CD-ROMのドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Driver¥Win98se)してから、次へ をクリックします。



7.6 kbpsの回線速度で通信を行う場合は、[更新したソフトウェア(推奨)(I)]のラジオボタンにチェックを入れてから、次へ をクリックします。



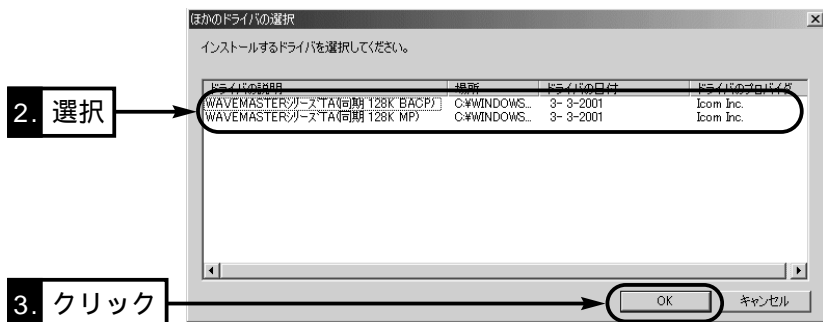
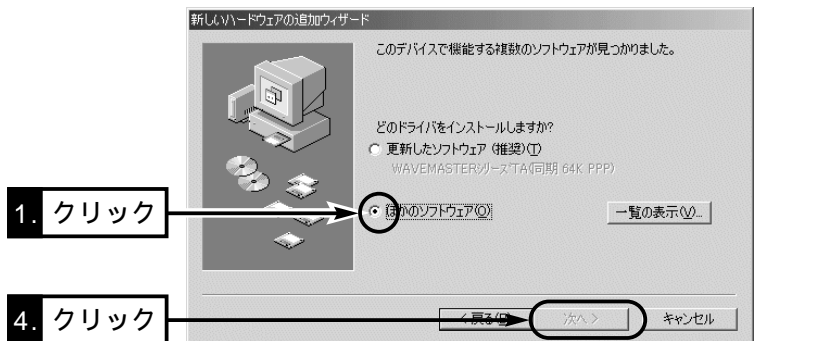
128 kbpsの回線速度でMP(固定)またはBACP(可変)で通信を行う場合は、次ページをご覧ください。

1 本製品とパソコンをつなぐ

1-3 USBドライバーを準備する

【Windows Meの場合】(手順7.のつづき)

128kbpsの回線速度でMP(固定)またはBACP(可変)で通信を行う場合は、[ほかのソフトウェア(Q)]のラジオボタンにチェックを入れると、[ほかのドライバーの選択]画面を表示しますので、その中から選択します。



8. 次へ をクリックします。



9. 完了 をクリックすると、仮想モデムのインストールが完了します。



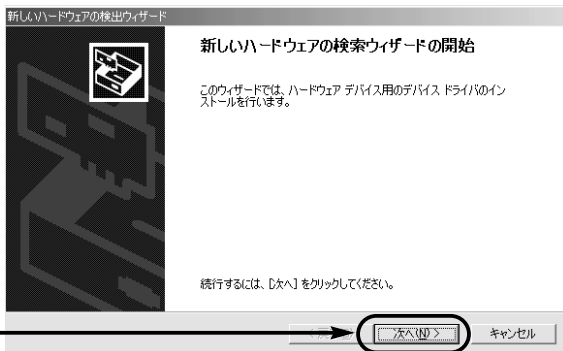
USBドライバーが正しくインストールされていることを確認するときは、1-5章をご覧ください。また、ほかの通信速度に対応するドライバーに切り替えるときなども、1-5章で説明する[デバイスマネージャ]画面を表示させて、本製品のモデムデバイス名(WAVE MASTERシリーズTA)の「プロパティ(R)」画面で[ドライバ]タブをクリックします。さらに ドライバの更新(U) をクリックして、手順7.と同じ操作を行ってください。

1 本製品とパソコンをつなぐ

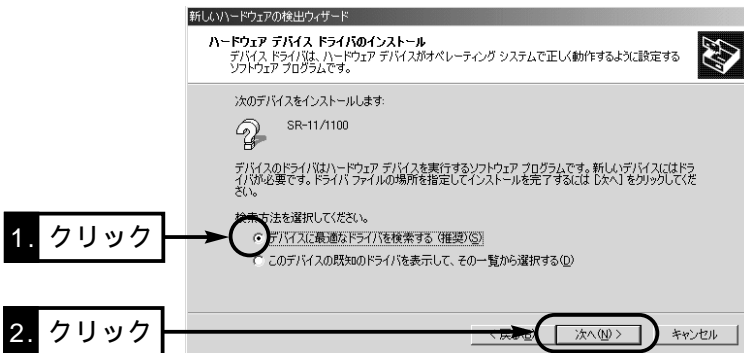
1-3 USBドライバーを準備する

【Windows 2000の場合】

1. 次の画面が表示されたら、本製品に付属するCD-ROMをCD-ROMドライブ[D :](以後CD-ROMドライブをDとする)に挿入してから、次へ をクリックします。

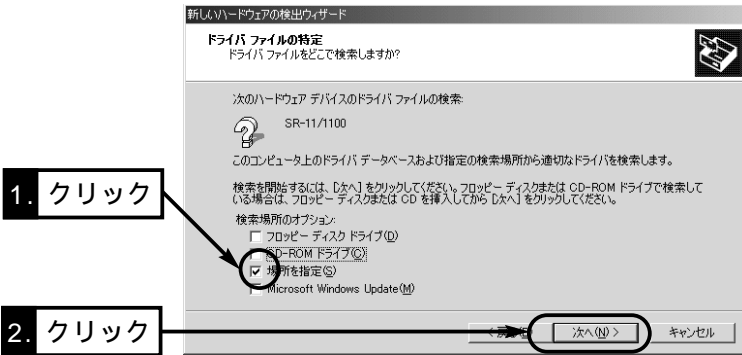


2. [デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)(S)]のラジオボタンにチェックを入れて、次へ(N) をクリックします。

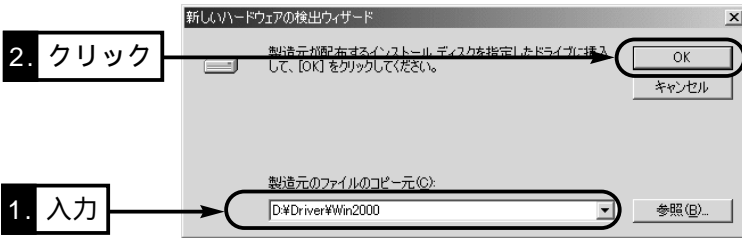


【Windows 2000の場合】(つづき)

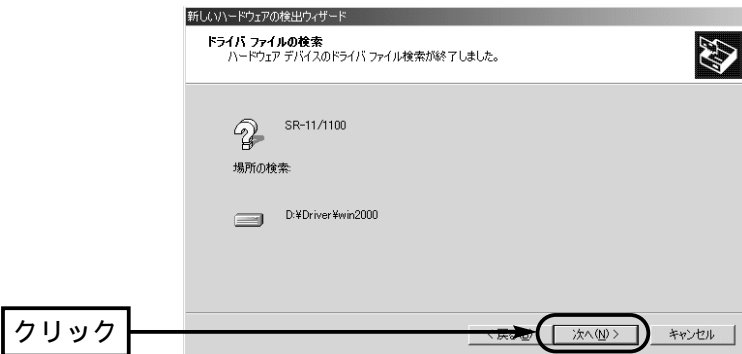
3.[場所を指定(S)]のチェックボックスだけにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。



4.CD-ROMドライブに挿入した本製品CD-ROMに収められたドライバーについて、ドライブ名[D:]とそのフォルダーを指定(D:¥Driver¥Win2000)します。



5.ドライバーの場所が見つかったと、次の画面を表示しますので、次へ(N) をクリックします。

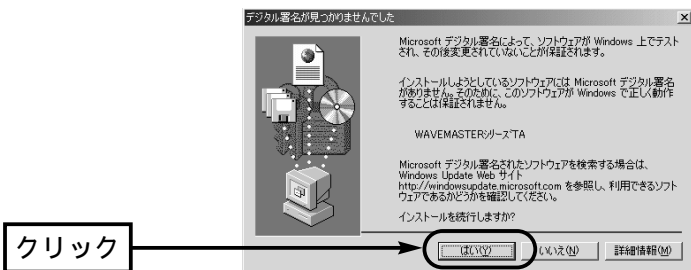


1 本製品とパソコンをつなぐ

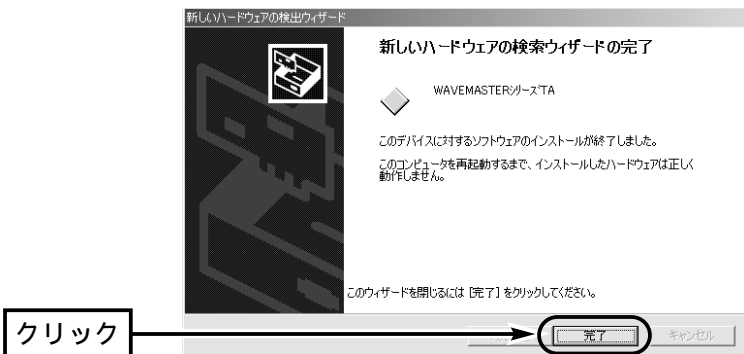
1-3 USBドライバーを準備する

【Windows 2000の場合】(つづき)

6. はい(Y) をクリックします。

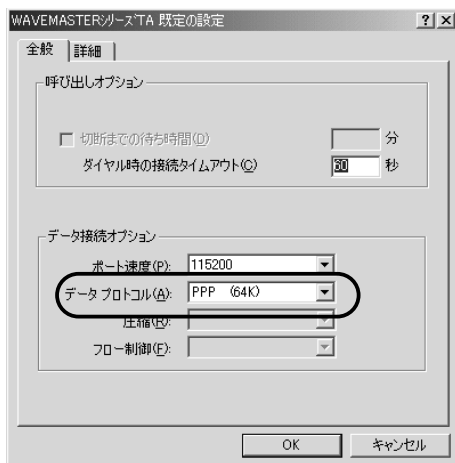


7. 本製品に付属のCD-ROMをCD-ROMドライブから取り出して、完了 をクリックすると、インストールは完了です。



USBドライバーが正しくインストールされていることを確認するときは、1-5章をご覧ください。また、ほかの通信速度に対応するドライバーに切り替えるときなども、1-5章で説明する[デバイスマネージャ]画面を表示させて行います。

その画面から、本製品のモデムデバイス名(WAVEMASTERシリーズTA)の「プロパティ(R)」画面で[詳細]タブをクリックします。さらに 既定の設定を変更(D) をクリックして表示する画面にある[データプロトコル(A)]の中から選択できます。



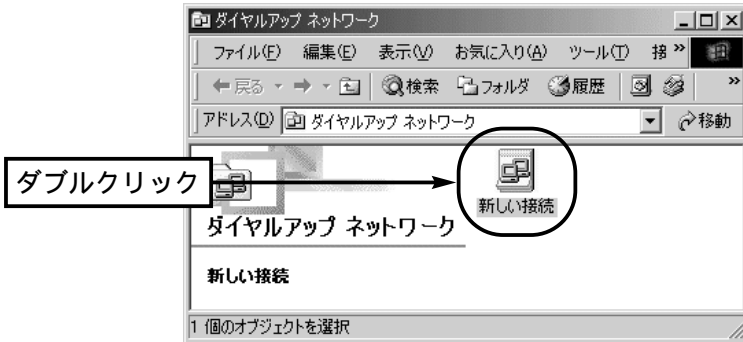
1-4 プロバイダーの設定

USBドライバーのインストールが終わったら、次の手順でパソコンのダイヤルアップネットワークからプロバイダーに接続するための設定を行います。

この操作を一度行えば、その後、通信するごとに設定する必要はありません。

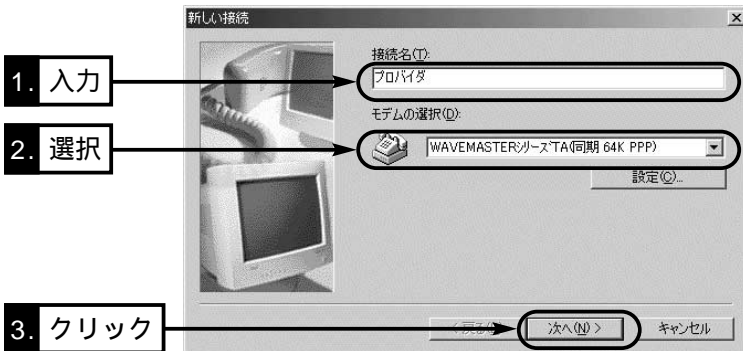
【Windows Meの場合】

1. マウスを スタート [設定(S)] [ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作して、[新しい接続]アイコンをダブルクリックします。



2. [接続名(I):]のテキストボックスの中に接続先名を任意に入力します。

[モデムの選択(D):]のテキストボックスの中から、「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64K PPP)」を選んで、次へ(N) をクリックします。

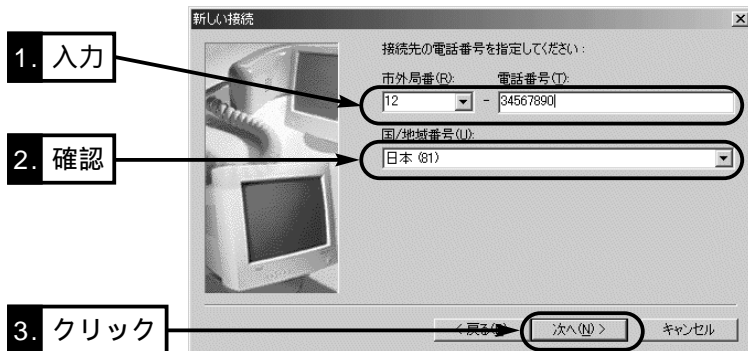


1 本製品とパソコンをつなぐ

1-4 プロバイダーの設定

【Windows Meの場合】(つづき)

3.接続先の市外局番と電話番号を入力して、国番号が「日本(81)」に選択されていることが確認できれば、次へ(N) をクリックします。

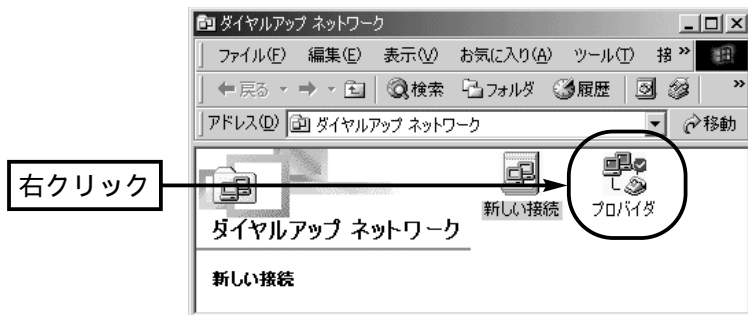


4. 完了(E) をクリックします。

- 手順1.の画面に戻ります。

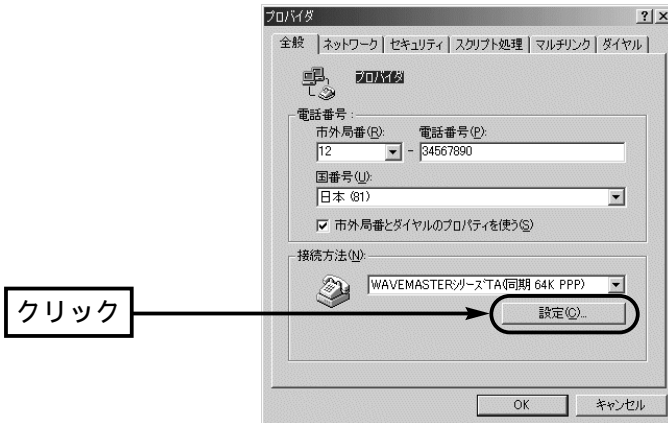


5.新しく作成されたアイコン上でマウスを右クリックして、プロパティを選択します。

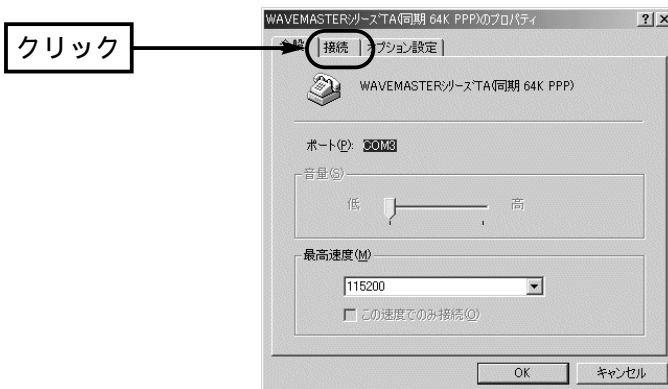


【Windows Meの場合】(つづき)

6.[全般]タブの内容を確認して、設定(C) ボタンをクリックします。



7.[ポート(P):]の中から、[接続]タブをクリックします。

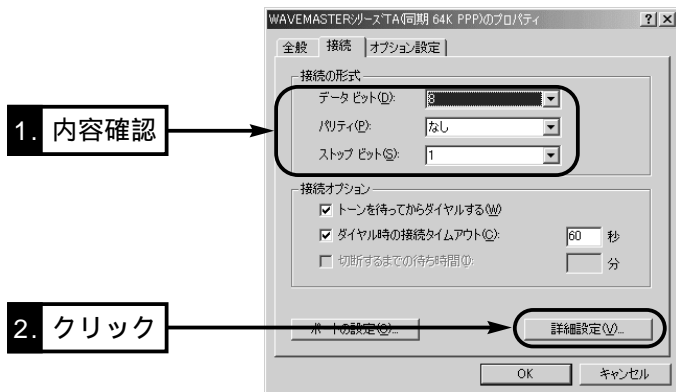


1 本製品とパソコンをつなぐ

1-4 プロバイダーの設定

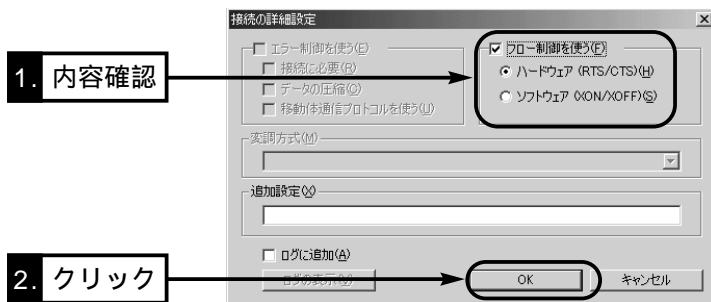
【Windows Meの場合】(つづき)

8.次の画面の内容を確認して、 詳細(V)... ボタンをクリックします。



9.[ハードウェア(RTS/CTS)]のラジオボタンにチェックマークが入っていることを確認して、 OK をクリックします。

- 手順8.の画面を表示します。



10.手順8.の画面で OK をクリックします。

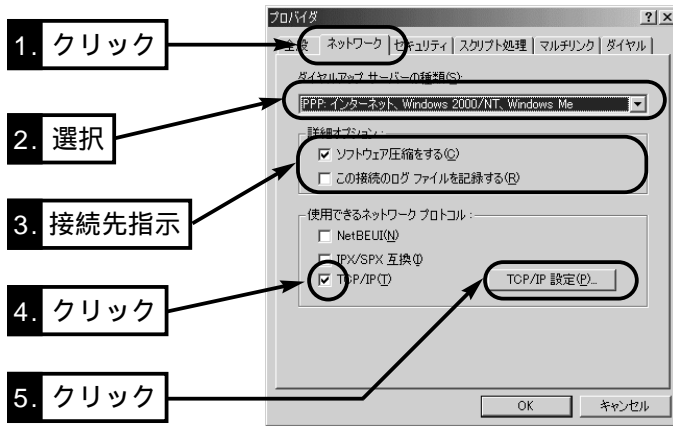
- 手順6.の画面を表示します。

【Windows Meの場合】(つづき)

11.[ネットワーク]タブをクリックして、「PPP:インターネット、WindowsNT SERVER、Windows98」を選択します。

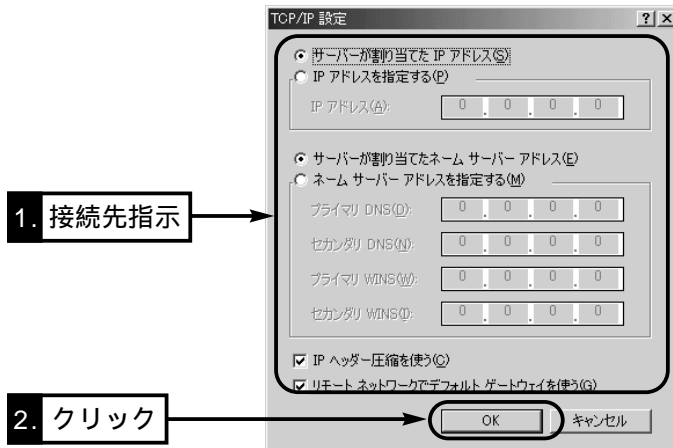
[詳細オプション:]の項目は、プロバイダーの指示にしたがって設定します。

[使用できるネットワークプロトコル:]の項目は、「TCP/IP」のチェックボックスにチェックマークを入れます。選択後、TCP/IP設定(P)... ボタンをクリックします。



12.プロバイダーの指示にしたがって設定したら、OK をクリックします。

●手順11.の画面を表示します。

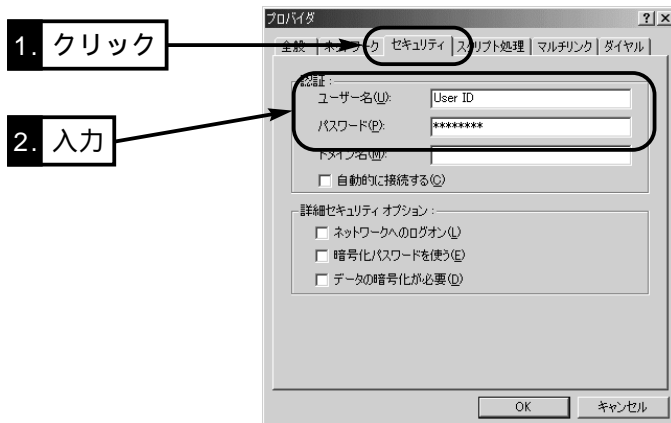


1 本製品とパソコンをつなぐ

1-4 プロバイダーの設定

【Windows Meの場合】(つづき)

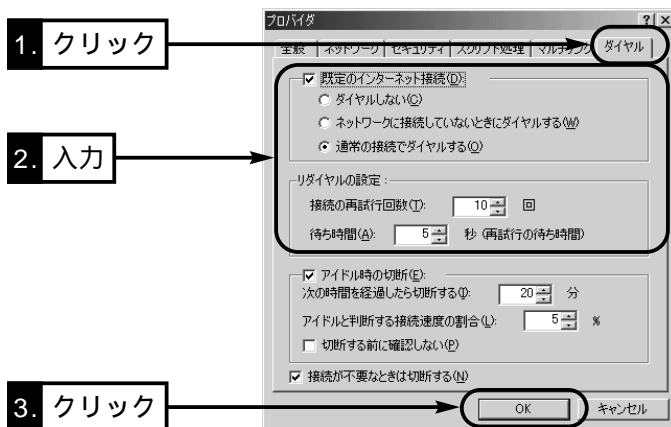
13.手順11.の画面から[セキュリティ]タブをクリックして、プロバイダーから指定されたユーザ認証IDとユーザ認証パスワード(ログイン名、アカウント)を、それぞれ[ユーザー名(U):]と[パスワード(P):]に入力します。



14.[ダイヤル]タブをクリックして、次のように設定をしたら、OK をクリックすると、設定は完了です。

●手順5.の「ダイヤルアップネットワーク」画面を表示します。

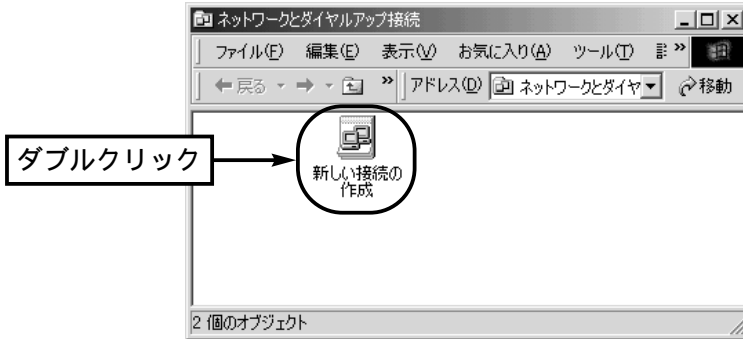
[アイドル時の切断(E):]と[接続が不要なときは切断する(N):]の項目については、必要に応じて設定します。



1-4 プロバイダーの設定(つづき)

【Windows 2000の場合】

1.マウスを スタート [設定(S)] [ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続の作成]アイコンをダブルクリックします。



2. 次へ(N) をクリックします。

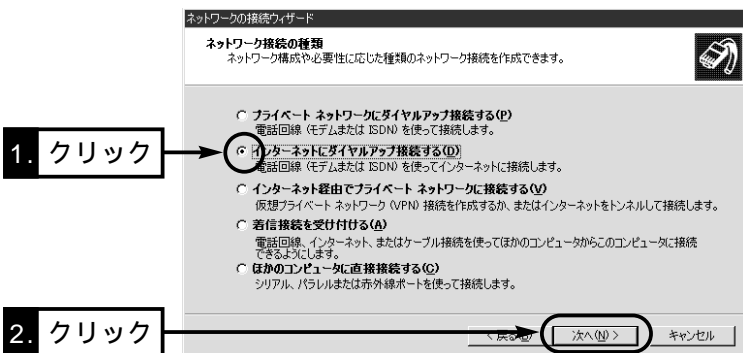


1 本製品とパソコンをつなぐ

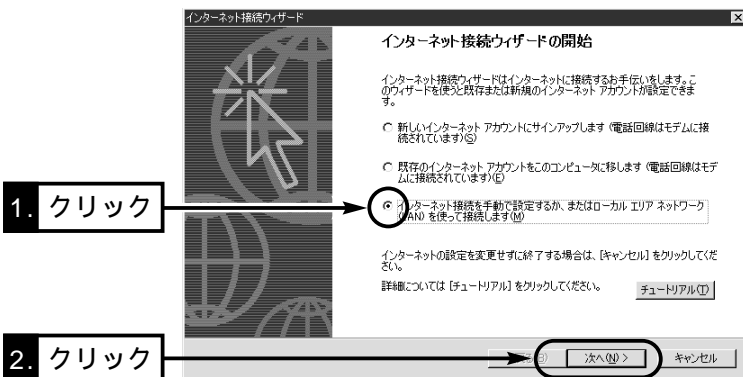
1-4 プロバイダーの設定

【Windows 2000の場合】(つづき)

- 3.[インターネットにダイヤルアップ接続する(D)]のチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。

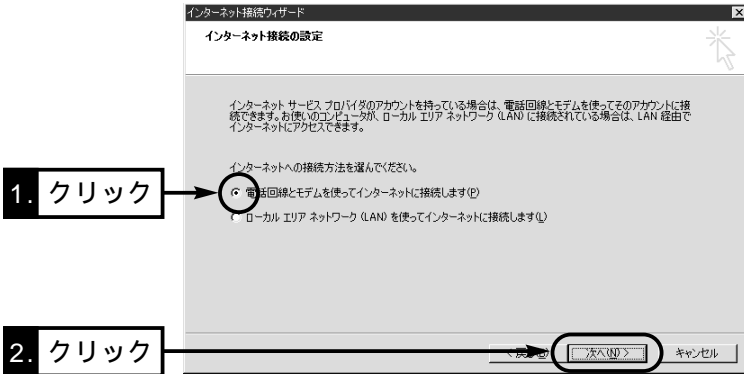


- 4.[インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します(M)]のチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。

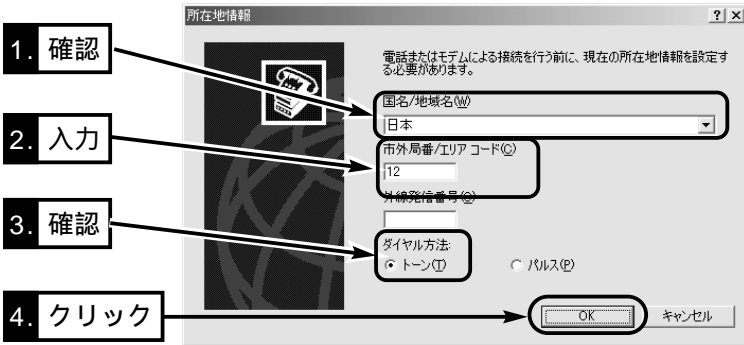


【Windows 2000の場合】(つづき)

5. [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します(P)]のチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。



6. 「所在地情報」の画面が表示されたら、[国名/地域名(W)]が「日本」であることを確認して、[市外局番/エリアコード(C)]のテキストボックスに接続先の市外局番を入力します。
[ダイヤル方法]の[トーン(T)]のラジオボタンにチェックマークが入っていることを確認すれば、OK をクリックします。

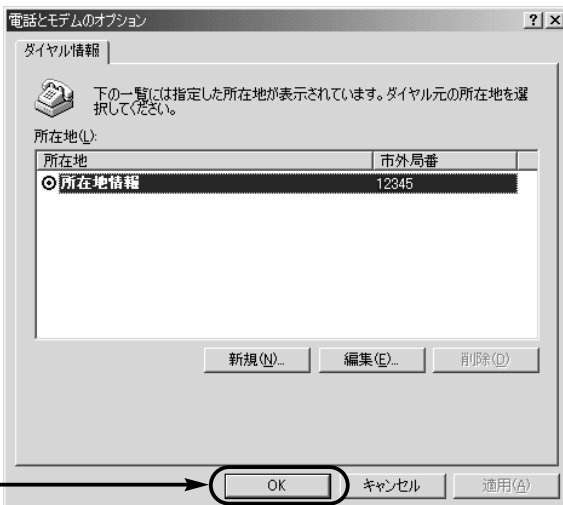


1 本製品とパソコンをつなぐ

1-4 プロバイダーの設定

【Windows 2000の場合】(つづき)

7. OK をクリックします。

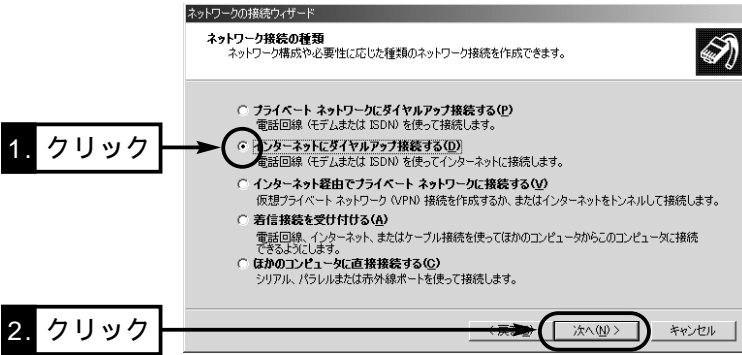


8. 次へ(N) をクリックします。

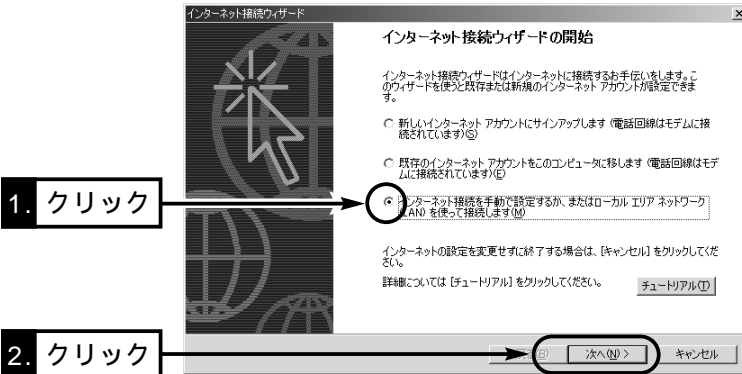


【Windows 2000の場合】(つづき)

9.[インターネットにダイヤルアップ接続する(D)]のチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。



10.[インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク(LAN)を使って接続します(M)]のチェックボックスにチェックマークを入れてから、次へ(N) をクリックします。

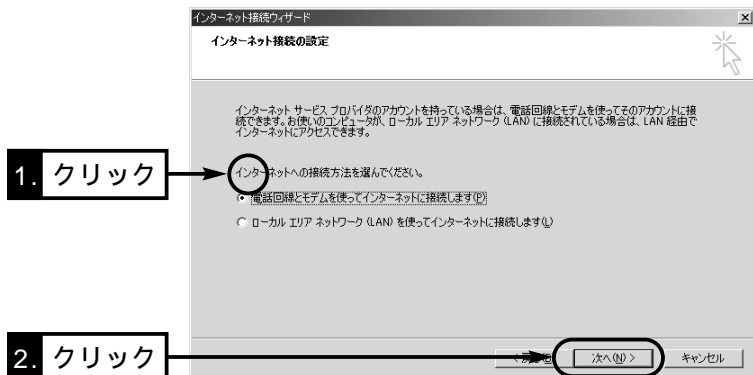


1 本製品とパソコンをつなぐ

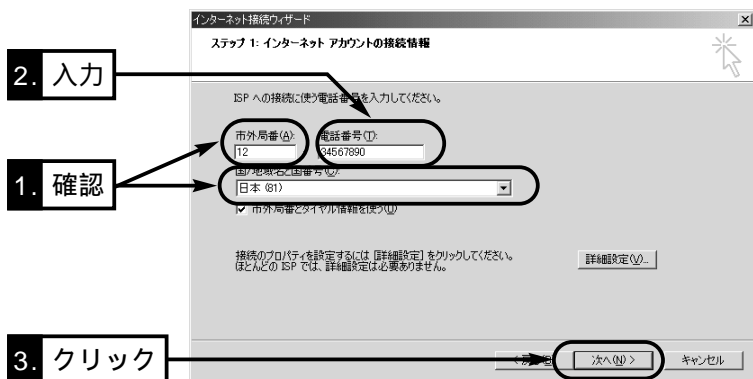
1-4 プロバイダーの設定

【Windows 2000の場合】(つづき)

11. [電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します(P)]のラジオボタンをクリックして、次へ(N) をクリックします。

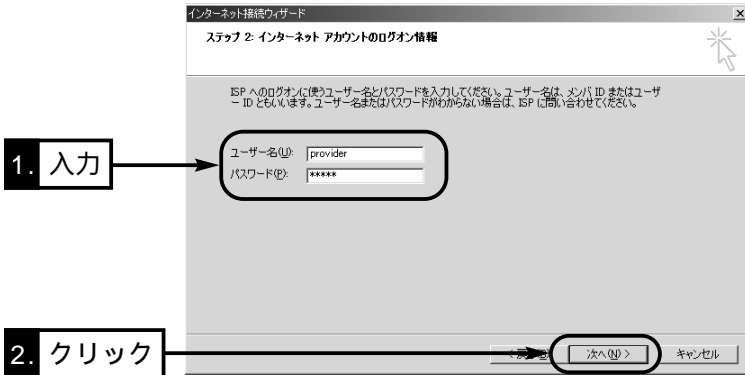


12. [国/地域名と国番号(C)]が「日本(81)」であることと、[市外局番(A):]を確認したら、接続先の電話番号を[電話番号(E)]のテキストボックスに入力して、次へ(N) をクリックします。

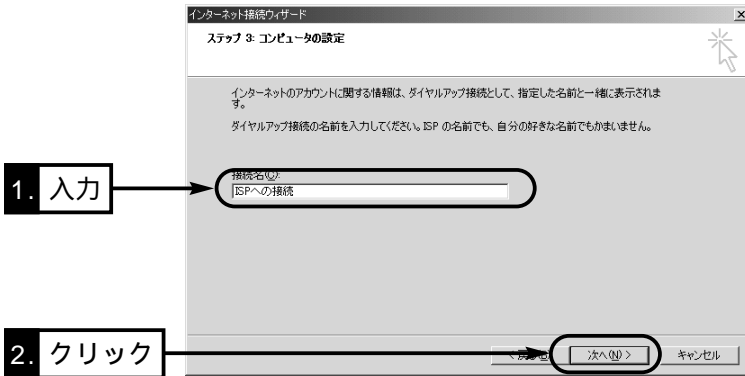


【Windows 2000の場合】(つづき)

13. 接続先のユーザー認証IDを[ユーザー名(U):]に、接続先のパスワードを[パスワード(P):]に入力して、次へ(N) をクリックします。



14. 接続先名として、わかりやすいような任意の名前を[接続名(C):]に入力して、次へ(N) をクリックします。



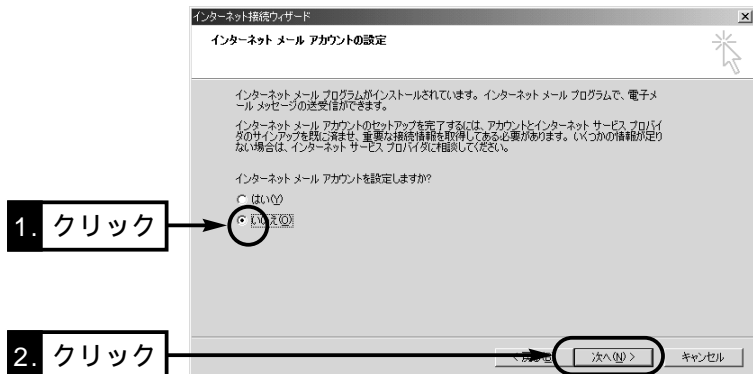
1 本製品とパソコンをつなぐ

1-4 プロバイダーの設定

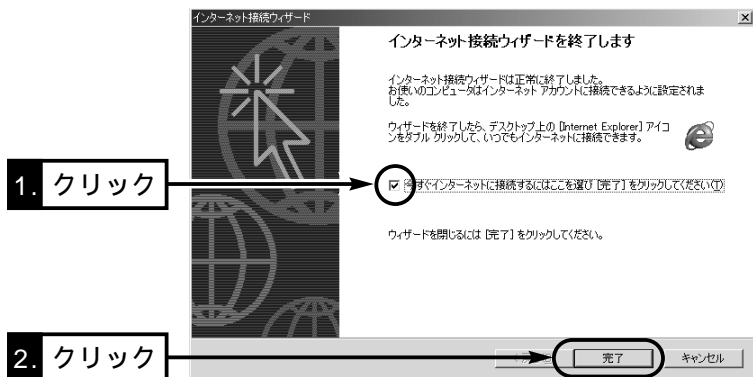
【Windows 2000の場合】(つづき)

15. [いいえ(Q)]のラジオボタンをクリックして、インターネットに接続する設定だけを行ってから、次へ(N) をクリックします。

電子メールの設定は、別途お使いのメールソフトから行います。



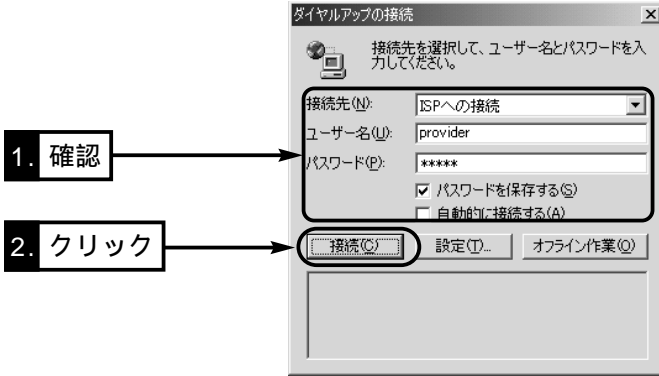
16. 画面上的チェックボックスにチェックを入れて、完了 をクリックします。




【Windows 2000の場合】(つづき)

17.画面上の各テキストボックスに表示された内容を確認して、接続(C) をクリックします。

- ご使用のWWWブラウザが自動的に開いて、ホームページが表示されます。



18.接続に成功すると、本製品の[B1]または[B2]ランプが点灯して、タスクバーの中に「」が表示されていることを確認します。

回線を切断する

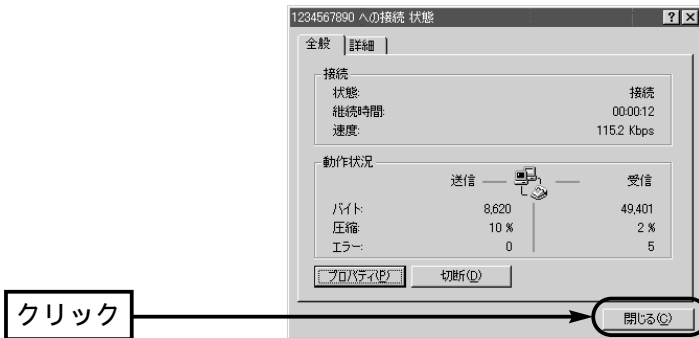
1.タスクバーに表示されたアイコンをダブルクリックします。

- 接続状況を表示する画面を表示します。



2.接続状況を表示する画面で、切断(C) をクリックします。

- 本製品の[B1]または[B2]ランプが消灯して、タスクバーに表示されていたアイコンが消えます。



1 本製品とパソコンをつなぐ

1-5 正しくインストールされているかを確認する

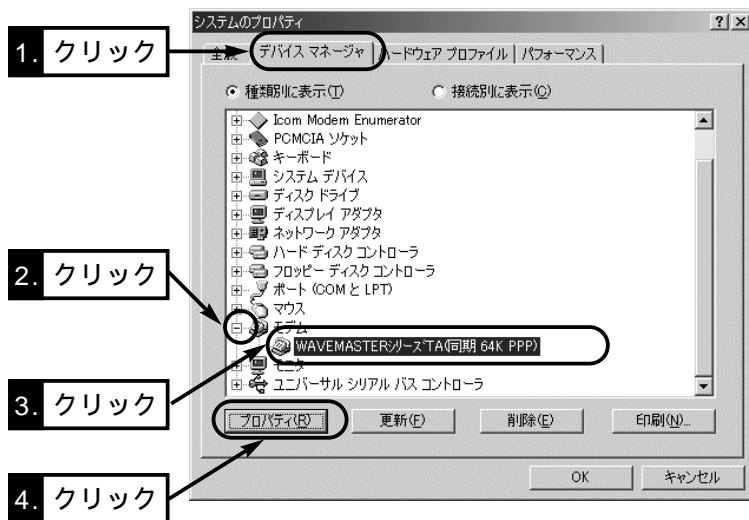
「USBドライバーを準備する」(☞ 1-3章)でインストール後、USBドライバーが正しくインストールされていることを確認するときは、次の手順で行います。

【Windows Meの場合】

- 1.本製品とパソコンが接続されている状態で、マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 3.[デバイスマネージャ]タブ 「モデム」の[+]をクリックします。

「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」 プロパティ(R) の順番にクリックします。

- ドライバーが正しくインストールされていると、「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」を、画面のように表示します。



「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」のアイコンに「!」や「x」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」が表示されているときは、その項目上でマウスを右クリックして、そのデバイスを削除して、もう一度はじめからインストールし直してください。

【Windows Meの場合】(つづき)

4. [デバイスの状態] 欄に、「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることを確認します。

表示されていれば、本製品は正常に動作していますので、OK をクリックすると、手順3.の画面に戻ります。



5. 手順3.の画面で、OK をクリックします。

1 本製品とパソコンをつなぐ

1-5 正しくインストールされているかを確認する(つづき)

【Windows 2000の場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロール パネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックします。
 - 「システムのプロパティ」画面を表示します。
- 3.[ハードウェア]タブをクリックします。



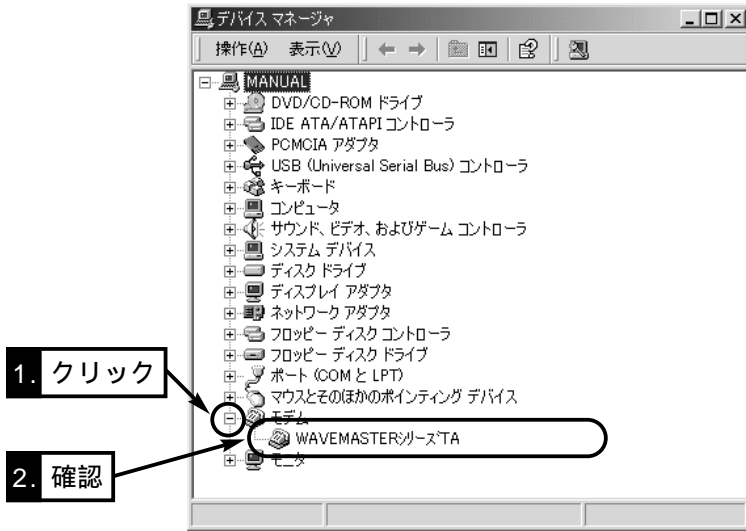
4. デバイスマネージャ(D)... ボタンをクリックします。



【Windows 2000の場合】(つづき)

5. 「ネットワークアダプタ」の[+]をクリックします。

- ドライバーが正しくインストールされていると、「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」を、画面のように表示します。



「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」のアイコンに「!」や「x」マークがついていたり、「? その他のデバイス」という項目に「WAVEMASTERシリーズTA(同期 64k PPP)」が表示されているときは、その項目上でマウスを右クリックして、そのデバイスを削除して、もう一度はじめからインストールし直してください。

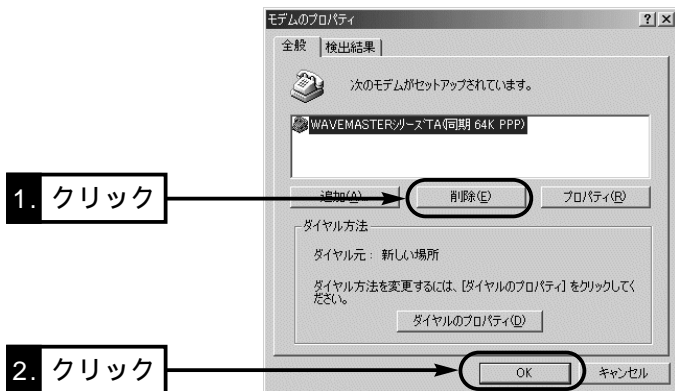
1 本製品とパソコンをつなぐ

1-6 モデムを削除するには

本製品のモデムドライバーを削除する手順について説明します。

【Windows Meの場合】

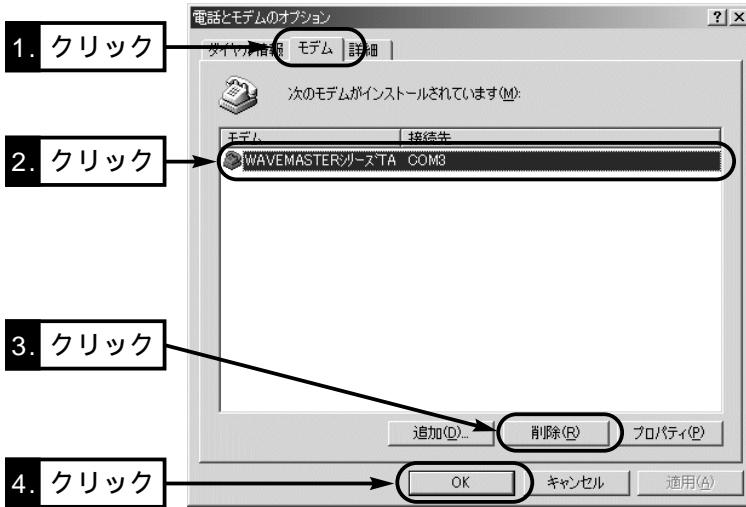
1. マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
2. 「コントロール パネル」画面の[モデム]アイコンをダブルクリックします。
 - 「モデムのプロパティ」画面を表示します。
3. 削除(E) をクリックして、 OK をクリックすると削除が完了です。



1-6 モデムを削除するには(つづき)

【Windows 2000の場合】

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [コントロールパネル(C)]の順番に操作します。
- 2.「コントロール パネル」画面の[電話とモデムのオプション]アイコンをダブルクリックします。
 - 「電話とモデムのオプション」画面を表示します。
- 3.マウスを[モデム]タブ 削除(R) OK の順番に操作すると削除が完了です。



この章では、

ダイヤルアップネットワークで設定した接続先へダイヤルアップして、インターネットにつなぐ方法について説明します。

2-1.Windows Meを使う	36
2-2.Windows 2000を使う	39

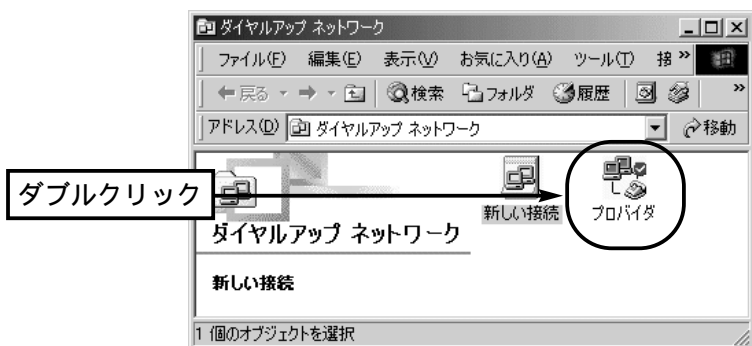
2 インターネットにつなぐ

2-1 Windows Meを使う

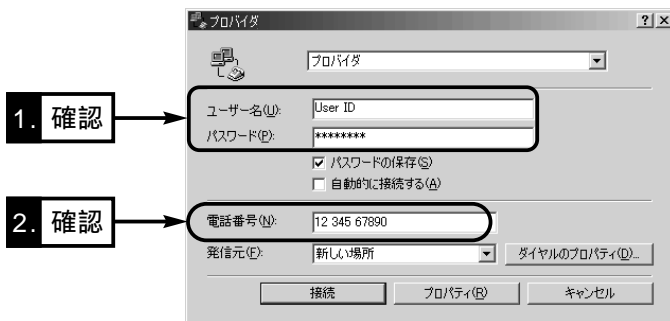
プロバイダーの設定(☞1-4章)を終えた「ダイヤルアップネットワーク」を使ってインターネットに接続する手順をWindows Meについて説明します。

接続のしかた

- 1.マウスを スタート [設定(S)] [ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作して、[作成された接続]アイコンをダブルクリックします。



- 2.プロバイダーから指定されたユーザ認証IDとユーザ認証パスワード(ログイン名、アカウント)、電話番号がそれぞれのテキストボックスに表示されていないときは、ここで入力します。



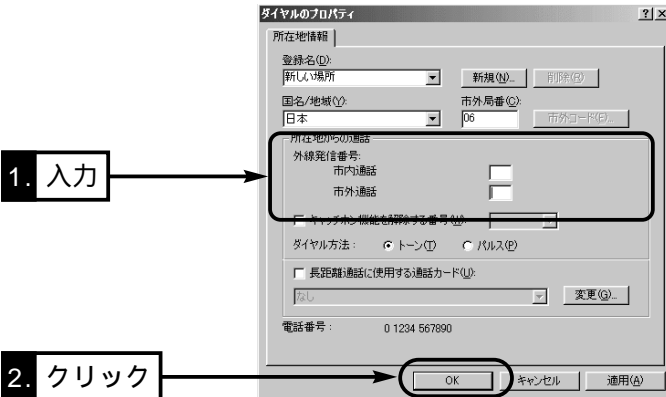
【PIAFS 64kで通信するときの注意】

- PIAFS 64kで発信するときは、相手先に発信者番号を通知する必要があります。相手先の電話番号の前に「186」をつけて発信してください。
- PIAFS 64kで発信するときは、サブアドレスが設定されていても相手先に通信されません。

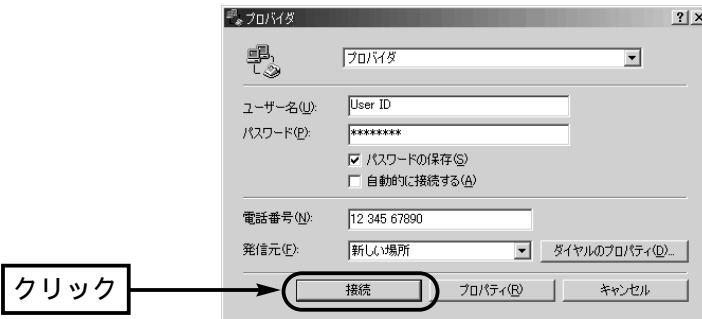
接続のしかた (つづき)

3. 事務所などで内線を使っている場合、外線発信に「0」が必要なときは、手順2.の画面にあるダイヤルのプロパティ(D) ボタンをクリックして表示された画面で、[市内通話]と[市外通話]に「0」を入力します。

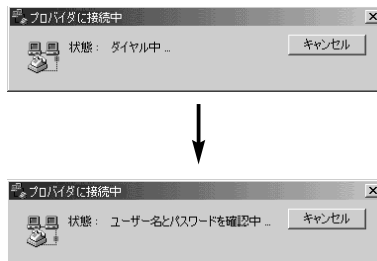
入力後、OK ボタンをクリックします。



4. 接続 をクリックすると、接続を開始します。



5. 接続中は次の画面が表示され、本製品の[B1]または[B2]ランプが点滅することを確認します。

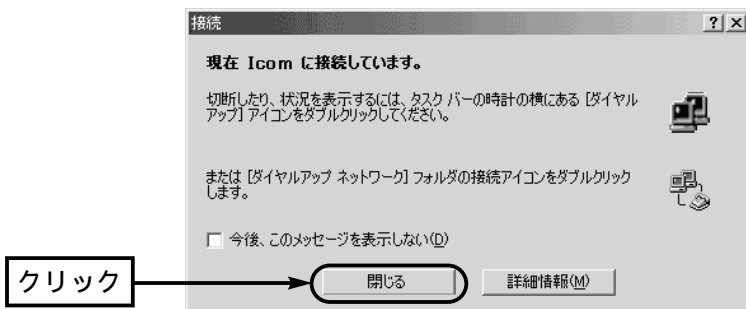



2 インターネットにつなぐ

2-1 Windows Meを使う

接続のしかた (つづき)

6. 閉じる をクリックします。



7. 接続に成功すると、本製品の[B1]または[B2]ランプが点灯して、タスクバーの中に「」が表示されていることを確認します。

【Windows Meで切断する場合】

1. タスクバーに表示されたアイコンをダブルクリックします。

- 接続状況を表示する画面を表示します。



2. 切断(C) をクリックします。

- 本製品の[B1]または[B2]ランプが消灯して、タスクバーに表示されていたアイコンが消えます。

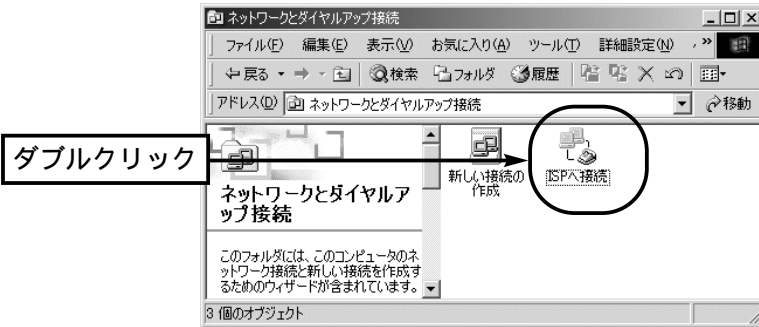


2-2 Windows 2000を使う

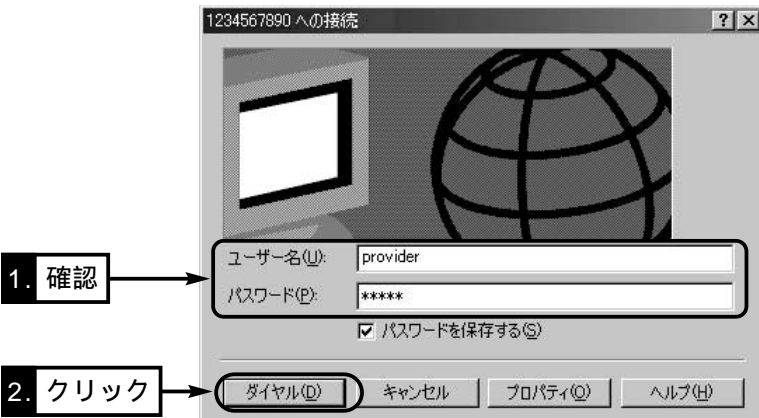
プロバイダーの設定(☞1-4章)を終えた「ダイヤルアップネットワーク」を使ってインターネットに接続する手順をWindows 2000について説明します。

接続のしかた

1. マウスを スタート [設定(S)] [ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作して、[作成された接続]アイコンをダブルクリックします。




2. プロバイダーから指定されたユーザ認証IDとユーザ認証パスワード(ログイン名、アカウント)がそれぞれのテキストボックスに表示されていないときは、ここで入力してからダイヤル(D) をクリックすると、接続を開始します。

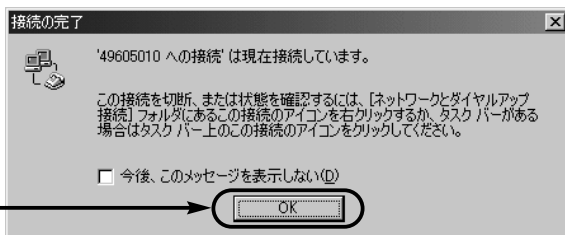
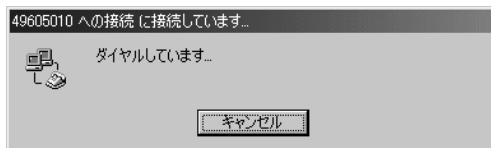


2 インターネットにつなぐ

2-2 Windows 2000を使う

接続のしかた (つづき)

- 3.接続に成功すると、本製品の[B1]または[B2]ランプが点灯して、タスクバーの中に「」が表示されていることを確認して、OK をクリックします。



回線を切断する

- 1.タスクバーに表示されたアイコンをダブルクリックします。
 - 接続状況を表示する画面を表示します。

ダブルクリック



- 2.接続状況を表示する画面で、切断(D) をクリックします。

- 本製品の[B1]または[B2]ランプが消灯して、タスクバーに表示されていたアイコンが消えます。



この章では、
本製品のTA機能について、本製品の[USB](シリアル)ポートに接続するパソコンからATコマンドを使って設定する方法について説明しています。

3-1.概要について	42
3-2.書式について	42
3-3.入力のしかた	43
3-4.応答コードについて	45
3-5.設定内容の保存について	45
3-6.設定内容の初期化について	46
3-7.Sレジスタについて	46
3-8.TA機能の動作モードについて	47
3-9.TAコマンド一覧	48
本書でのコマンド表記について	48
回線制御コマンド	48
信号線制御コマンド	50
表示設定コマンド	51
通信設定コマンド	52
レジスタの設定(参照)	53
ステータスの表示コマンド	54
ポートの設定コマンド	55
エミュレーションコマンド	55
コマンドモード遷移	55
その他	56
3-10.設定レジスタ一覧	57
Sレジスタ	57
\$Iレジスタ	59
\$Mレジスタ	62
3-11.応答コード一覧	67

3 ATコマンドで設定する

3-1 概要について

[USB](シリアル)ポートにつないだパソコンからATコマンドを入力して、本製品のAT機能に通信指示を出したり、設定をすることができます。ここでは、コマンドのできるすべての指示や設定を説明します。

本製品のATコマンドの仕様は、モデム上での動作を前提としている既存のターミナルソフトウェア、ダイヤラーをそのまま使えるように考慮して作成されています。

本製品には、設定内容を保存するための「プロファイル」という領域(☞3-5章)があります。

プロファイルには、0番と1番の2種類がありますので、2通りの設定が保存できます。

プロファイルごとに最大10件まで、サブアドレスを含む電話番号を内部メモリーに記憶することができます。

3-2 書式について

ATコマンドは、本製品のTA機能を設定したり、ダイヤル発信させたりできるコマンドです。基本的には、通信ソフトウェア上で「AT」という文字から入力をはじめて、次のような書式で設定します。

設定後は、[Enter]キーを押すと、コマンドが実行されます。

【書式】	AT{コマンド名}{パラメータ}
【例1】	AT &E 1 └─ パラメータ └─ コマンド名
【例2】	AT &E1 ¥Q1 X2 └─ 3つめのコマンド名とパラメータ └─ 2つめのコマンド名とパラメータ └─ 1つのコマンド名とパラメータ

コマンド名とパラメータは2つ以上続けて設定できます。なお、コマンドによっては、2つ以上続けて設定できないことがあります。

行中に複数のATコマンドを記述することができます。また、1行に160桁まで入力可能です。

コマンド名やパラメータを2つ以上続けて設定するときは、2つめに入力するコマンド名から「AT」を省略して入力できます。また、コマンドとコマンドのあいだにはスペース記号を入力することができます。

3-3 入力のしかた

ATコマンドで設定するときには、ターミナル画面を表示できる通信ソフトウェアを用意して、ATコマンドを入力できる準備をします。

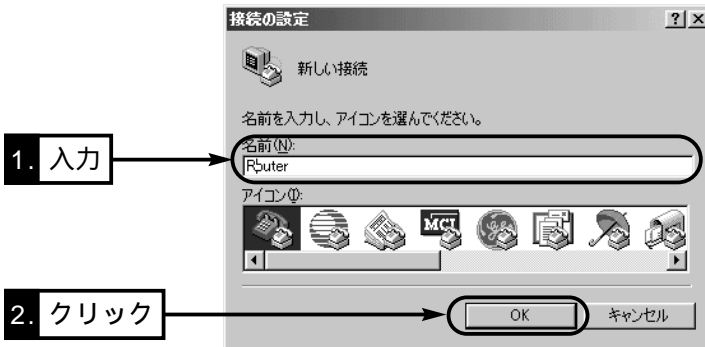
ここでは、Windows Meのハイパーターミナルを例に、具体的な入力のしかたを説明します。

入力のしかた

1. マウスを スタート [プログラム(P)] [アクセサリ] [通信] [ハイパーターミナル] の順番に操作します。

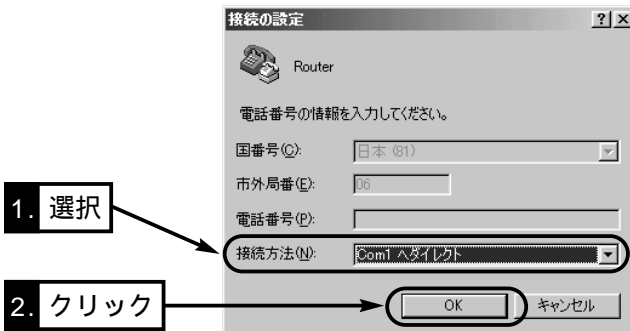
[通信]メニューに[ハイパーターミナル]が表示されない場合は、ハイパーターミナルがインストールされていないので、最初にコントロールパネルにある「アプリケーションの追加と削除」から、[Windowsファイル]タブの「通信」コンポーネントで、ハイパーターミナルを追加してください。

2. 任意に[名前(N):]のテキストボックスに接続先名などを入力して、任意に[アイコン(I):]を選択したら、OK をクリックします。



3. 「接続の設定」画面の内容を設定したら、OK をクリックします。

[接続方法(N):]の内容は、本製品の[USB]ポートに接続されているパソコン本体のポートを意味します。接続したポート番号がわからないときは、パソコンの取扱説明書、またはお買い上げの販売店におたずねください。

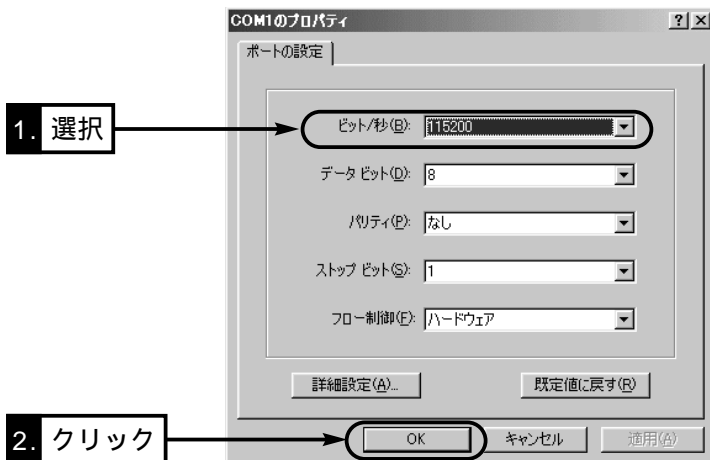


3 ATコマンドで設定する

3-3 入力のかた

入力のかた (つづき)

- 4.[ビット/秒(B):]の値を、9600～115200bpsのあいだに選んだら、OK をクリックします。



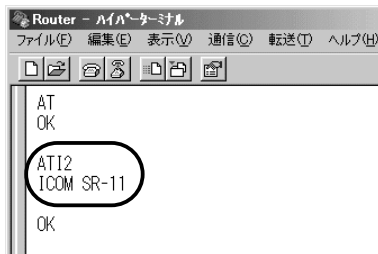
- 5.ハイパーターミナルのウィンドウが表示されたら、「AT」と入力して、「Enter」キーを押します。

- ATコマンドの入力準備が完了していれば、「OK」と画面に表示します。

- 6.「AT12」と入力して、「Enter」キーを押します。

- 画面に商品名が表示されます。

本製品以外の商品名が表示される場合は、手順3.の[接続方法(N):]で選択した内容を確認してください。



3-4 応答コードについて

ATコマンドを入力すると、パソコンから本製品に命令が送られます。

本製品がATコマンドを受信すると、そのATコマンドを実行して、処理結果をパソコンに送り返します。これを「応答コード」といいます。

この応答コードでATコマンドが正しく実行されると、「OK」を表示し、正しく実行されないと、「ERROR」を表示します。

「OK」と「ERROR」以外にも様々な応答コードが表示されます。

そのほかの応答コードについては、「応答コード一覧」(3-11章)をご覧ください。



3-5 設定内容の保存について

ATコマンドで設定した内容は、そのままでは電源を切ると消滅してしまいます。

設定内容を残しておきたい場合は、本製品のフラッシュメモリーにその内容を書き込むことで保存できます。保存された設定内容は、本製品の電源を入れると自動的にフラッシュメモリーから読み込まれます。

本製品には、設定内容を保存するための「プロファイル」という領域があります。

プロファイルには、0番と1番の2種類がありますので、2通りの設定が保存できます。

【プロファイルに書き込むには】

プロファイル0番に書き込むとき AT&W0[Enter]

プロファイル1番に書き込むとき AT&W1[Enter]

パラメータを省略した場合は、0として扱われます。

【プロファイルに読み込むには】

プロファイル0番の内容を読み込むとき ATZ0[Enter]

プロファイル1番の内容を読み込むとき ATZ1[Enter]

パラメータを省略した場合は、0として扱われます。

【読み込むプロファイルの番号を指定するには】

プロファイル0番の内容を指定するとき ATY0[Enter]

プロファイル1番の内容を指定するとき ATY1[Enter]

パラメータを省略した場合は、0として扱われます。

3 ATコマンドで設定する

3-6 設定内容の初期化について

次のように入力すると、出荷時に値が設定されているATコマンドとSレジスタは、設定を出荷時の値に戻せます。

AT&F[Enter]

データ通信をする場合、多くの通信ソフトウェアでは、「&F」コマンドが実行されるため、本製品の設定が出荷時の値に戻ります。そのため、ハイパーターミナルで行った設定は通信時には無効となり、設定を保存していない場合は通信が終了すると設定内容が消滅してしまいます。

ハイパーターミナルのウィンドウでは、電源を入れたとき有効にしたい設定をして、「&W」コマンドでプロファイルに保存しておくことをお勧めします。

データ通信をしているあいだだけ有効にしたい設定は、通信ソフトのモデム初期化文字列を入力する項目で行うこともできます。

3-7 Sレジスタについて

Sレジスタは、本製品のTA機能の動作や状態の設定を記憶しておく領域です。

Sレジスタには、一般的な通信の設定が出荷時の初期値として記憶されています。

設定を変更するときは、「S」コマンドを使います。

たとえば、Sレジスタ0番を「3」に設定するときの書式は、次のようになります。

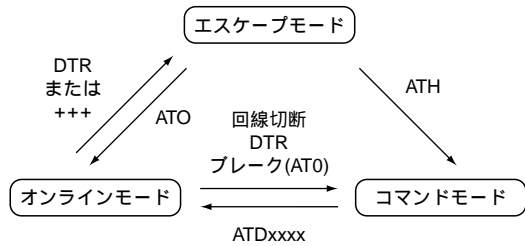
ATS0=3[Enter]

そのほかのSレジスタについては、「設定レジスタ一覧」(3-10章)をご覧ください。



3-8 TA機能の動作モードについて

本製品のTA機能には、3つの動作状態があり、次の図は、各モードに移行するようすを示しています。



● コマンドモード

本製品がパソコンからコマンドを受け取ったり、パソコンに応答コードを送ったりできる状態です。

● オンラインモード

本製品が相手先と接続している状態です。

パソコンから送られてきたデータは、本製品を通して相手先に送られます。

このモードでは、コマンドを入力することはできません。

● エスケープモード

相手先と接続した状態(オンラインモード)で、一時的にコマンド入力できる状態(コマンドモード)へ移ったとき。

3 ATコマンドで設定する

3-9 ATコマンド一覧

本書でのコマンド表記について

「*」で始まるパラメータ：出荷時のパラメータ

「{ }」で囲まれているコマンド名：省略可能

「 」で仕切られた2つの文字：どちらかの文字を選択して設定

数値は、特に指定がない場合は、10進数

\$で始まる場合は、16進数

%で始まる場合は、2進数

ビットの並びは、最上位のビットから始める

各コマンド/レジスタの先頭にある記号は、その設定値をフラッシュメモリーに保存が可能かどうかを、以下の3種類の記号で示します。

「記載なし」：保存不可能

「*」：AT&Wによって、プロファイルごとに保存可能

「+」：設定すると、自動的に保存される

ビットマップレジスタとして使っているレジスタ内、reserved(保留)のビット値は、「0」を指定すること

回線制御コマンド

【コマンド名】ATA

【機能】手動で着信する

【パラメータ】ありません。

【コマンド名】ATDxxxx

【機能】ダイヤル発信する

【パラメータ】xxxx

1. {T P}{M}nnnn{*ssss}{+uuuu}

{T P}：トーン パルスの設定

モデムとの互換性のために存在する。

どちらを指定してもダイヤル発信を開始しますが、ISDN回線では指定しても意味を持ちません。

{M}：通信プロトコル、M：PPP/MP/BACP

省略されたときは、AT&NまたはAT\$11で指定したデフォルト値を使用する。

nnnn：電話番号、()括弧、-ハイフン記号を電話番号に含めてもよい。
最大32文字まで。

ssss：着サブアドレス、：コロンを除く\$20～\$7Eのキャラクター
最大19文字まで。

【パラメータ】xxxx

1.{T P}{M}nnnn{*ssss}{+uuuu}(つづき)

uuuu : ユーザーユーザーデータ(テキストのみ)。

Dchパケットのときは、最大長は16バイト(ファーストセレクト時は、128バイト)。CRパケットのコールユーザーデータとして送信される。そのほかのプロトコルでは、最大長は128バイト。呼設定のユーザー情報として送信される。

最大長より長いデータが指定された場合、最大長までのデータのみ送信する。

例 : ATD012(345)6789

ATD123-4567*subaddress

2.L 最後に発信した宛先へ発信する。

3.S=n メモリーされている番号で発信を行う

n : メモリー番号、0~9

【コマンド名】ATHn

【機能】回線を切断する

【パラメータ】n

n:フックの状態

0 : 回線切断

1 : 動作しない

3 ATコマンドで設定する

3-9 ATコマンド一覧(つづき)

信号線制御コマンド

【コマンド名】*AT&Cn

【機能】CD信号制御

【パラメータ】n

- 0 : 常時ON
- *1 : 回線接続中ON

【コマンド名】*AT&Dn

【機能】DTR信号に対する動作

【パラメータ】n

- 0 : 無視
- 1 : 立ち下がりでエスケープモード(☞3-8)へ移行
- *2 : 立ち下がりで回線切断
- 3 : 立ち下がりでリセット

【コマンド名】*AT&Rn

【機能】フロー制御にCS信号線を使わないとき(XON/OFF、フロー制御なし)のCSの動作を規定する

【パラメータ】n

- 0 : RSにしたがう
- *1 : 常にON

【コマンド名】*AT&Sn

【機能】DSR信号制御

【パラメータ】n

- *0 : 常時ON
- 1 : 回線接続中ON(CD信号に合わせる)
- 2 : RS-232Cのように動作(DTR信号に合わせる)

表示設定コマンド

【コマンド名】*ATE n

【機能】コマンドモード時のエコーバックの有無

【パラメータ】 n

0 : エコーバックなし

*1 : エコーバックあり

【コマンド名】*ATQ n

【機能】応答コードの表示の有無

【パラメータ】 n

*0 : 応答コード表示

1 : 応答コード非表示

【コマンド名】*ATV n

【機能】応答コードの表示形式の設定

【パラメータ】 n

0 : 数字表示

*1 : 文字列表示

【コマンド名】*AT \neq V n

【機能】CONNECT表示時のプロトコル表示、ATX=0以外のときに有効

【パラメータ】 n

*0 : 表示しない

1 : 表示する

参考 : AT\$IOビット2の値を変更することでも設定可能

【コマンド名】*ATW n

【機能】回線接続時の速度表示の設定

【パラメータ】 n

*0 : 端末速度の表示

1 : 回線速度、プロトコル、DTE速度の表示

2 : 回線速度の表示

3 ATコマンドで設定する

3-9 ATコマンド一覧

表示設定コマンド(つづき)

【コマンド名】*ATXn

【機能】出力する応答コードの種類

【パラメータ】n

- 0 : CONNECT時に速度表示をしない
- 1 : CONNECT時に速度表示をする
- 2 : CONNECT時に速度表示をする(NO DIALTONE応答対応)
- 3 : CONNECT時に速度表示をする(BUSY応答対応)
- *4 : CONNECT時に速度表示をする(NO DIALTONE/BUSY応答対応)

通信設定コマンド

【コマンド名】*AT&Kn

【機能】DTE DCE間フロー制御

ホスト TA間のフロー制御を設定する。このコマンドのほかに、AT¥Qnでも設定可能

【パラメータ】n

- 0 : フロー制御なし
- 2 : CTSフロー制御
- *3 : RTS/CTSフロー制御

【コマンド名】*AT&Nn

【機能】デフォルト通信プロトコルの設定

ATDを使って初呼を行うとき、(H/V/M/O/D文字による)プロトコル指定を行わないときには、次のパラメータによってプロトコルが決定される。

着信時には、基本的に通信相手の指定したプロトコルに併せるが、接続時の情報からプロトコルを確定できないときは、次のパラメータを使ってプロトコルを決定する。

【パラメータ】n

- *0 : PPP/MP/BACP
- 値の設定は、AT\$11でも行うことができる。

【コマンド名】*AT&Qn

【機能】DTE DCE間フロー制御

ホスト TA間のフロー制御を設定する。このコマンドのほかに、AT¥Knでも設定可能

【パラメータ】n

- 0 : フロー制御なし
- *2 : RTS/CTSフロー制御
- 3 : CTSフロー制御

通信設定コマンド(つづき)

【コマンド名】*AT&Rn

【機能】デフォルトDTE速度の設定

TA起動時のDTE速度を設定する。TA起動後、一度もホストよりATコマンドの入力がされずに着信した場合、本レジスタで設定した通信速度で、応答コードを送出する。

【パラメータ】n

0 : 9600bps
 1 : 14400bps
 2 : 19200bps
 3 : 28800bps
 4 : 38400bps
 5 : 57600bps
 6 : 76800bps
 *7 : 115200bps
 8 : 230400bps

レジスタの設定(参照)

本製品のATコマンドでは、設定する種類ごとに設定レジスタが存在します。

本製品には、次の設定レジスタがあります。

各レジスタの機能やパラメータについては、「設定レジスタ一覧」(☞3-10)をご覧ください。

【コマンド名】ATS レジスタ

AT\$I ISDN設定レジスタ

AT\$M PPP設定レジスタ

各レジスタに対して、値の設定、参照ができます。次にその書式について説明します。

【書式】AT レジスタ名 nnxxx

【パラメータ】nnxxx

nn : レジスタ番号(指定がないとき : 0)

xxx : 動作

=mm 値mmをレジスタに設定する。値は、10進、16進、2進のうち1つを指定できます。

(例 :)AT\$I=130、ATS2=\$20、AT#Z=%01010101

? 値を参照する。データは、3桁(10進数)で表示される。

(例 :)ATS1?

000

3 ATコマンドで設定する

3-9 ATコマンド一覧(つづき)

ステータスの表示コマンド

【コマンド名】AT¥S

【機能】TAの状態、ログを表示します。

【パラメータ】n

- 0 : 現在のステータスを表示
- 1 : データポートの発信ログの表示
- 3 : データポートの着信ログの表示

【コマンド名】AT&V

【機能】各種レジスタ値の表示

【パラメータ】n

- 0 : プロファイル関連項目
- 1 : 一般レジスタ
- 2 : Sレジスタ
- 4 : データポート関連設定
- 5 : ATD時に指定可能な短縮電話番号(AT&Z)
- 6 : 回線契約自局アドレス

【コマンド名】ATI

【機能】モデムIDの表示

【パラメータ】n

- 0 : 製品ID
- 1 : OKを表示
- 2 : OKを表示
- 3 : ファームウェアバージョン
- 4 : 製品名
- 5 : 国別コード
- 6 : 製造者名

ポートの設定コマンド

データポートに持つ設定を行うレジスタ

【コマンド名】*AT#Z=xxxx

【機能】ポートの自局電話番号設定

【コマンド名】*AT\$Z=xxxx

【機能】ポートの相手電話番号設定

【書式】{{#}xxxx}{*{#}yyyy}

xxxx：電話番号

yyyy：サブアドレス

着信時に網からの発番号および着番号とAT#Zおよび*AT\$Zの設定値を比較して、一致するときは着信を受け付け、一致しないときは着信を無視する。

電話番号/サブアドレスの前に#(シャープ)を付けると、指定した番号と一致したときだけ着信を受け付ける。

電話番号/サブアドレスの前に#(シャープ)を付けない場合、指定した番号と一致したとき、または番号が通知されなかったとき着信を受け付ける。

【比較の方法】

設定	網から番号情報あり	網から番号情報なし
設定なし		
#	x	
xxxx/yyyy	=	
#xxxx/yyyy	=	x

：着信 x：無視 =：番号が一致しているとき着信

エミュレーションコマンド

次に示すコマンドは、モデムで必要なコマンドであり、TAでは使用しない。

本製品の仕様では、互換性のため、これらのコマンドの実行が要求されたときには、何も動作せずOKの応答コードを返す。

ATT、ATP、AT&Mn、AT&Qn、AT¥Nn、AT%Cn、ATLn、ATMn、AT&Pn、AT&Gn、ATBn、AT%En、ATNnm、AT&Yn

コマンドモード遷移

【コマンド名】+++

【機能】オンラインモードからエスケープモードへの移行

コマンド入力には、S12 レジスタで設定されているエスケープのガード時間が適用される

【コマンド名】ATO

【機能】エスケープモードからオンラインモードに戻る

3 ATコマンドで設定する

3-9 ATコマンド一覧(つづき)

その他

【コマンド名】A/

【機能】直前に実行したコマンドの再実行

【コマンド名】*AT&Zn=xxx{*yyy}{ : zzz}

【機能】メモリーダイヤルの登録

【パラメータ】n

n : メモリーダイヤル番号0 ~ 9

xxx : 発信電話番号

yyy : 着サブアドレス

zzz : コメント

3-10 設定レジスタ一覧

Sレジスタ

Sレジスタは0～99まで存在し、各々を参照、設定することが可能である。

ただし、それらのほとんどがモデムのための設定であり、設定により動作が変わるものは、以下に示すレジスタのみである。

また、以下のレジスタの中には、プロファイルデータとして保存可能なものと、保存が不可能なものが存在する。保存が可能なものには、レジスタの前に*(アスタリスク)を表記する。

- *S0 自動着信の有効 / 無効(範囲 : 0 ~ 255)
 - *0 : 自動着信をしない
 - 1 ~ 255 : 自動着信までのRING回数、指定数のRING表示を出力後に応答する

- S1 RING回数カウント(読みだし専用)
 - *0 : 着信時に初期化され、RINGのたびにインクリメントされる。
S0に0以外の値を設定した時には、S1 S0の時に自動着信を行う。

- *S2 エスケープキャラクタコード(範囲 : 0 ~ 255)
 - *43

- S3 CRコード(範囲 : 0 ~ 127)
 - *13

- S4 LFコード(範囲 : 0 ~ 127)
 - *10

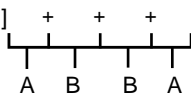
- S5 BSコード(範囲 : 0 ~ 32)
 - *8

3 ATコマンドで設定する

3-10 設定レジスタ一覧

Sレジスタ(つづき)

- *S12 エスケープのガード時間[値×20ms](範囲：0～255)
*50：オンラインモードからエスケープモードへと移るためのエスケープコードを認識するためのガードタイムを規定する。
通常は連続する3つの+(プラス)の記号が用いられる(文字コードはS2レジスタにより変更可能)。
本レジスタは、データの入力時に、エスケープコードと同じコードの入力があった場合、エスケープとしての入力か、データとしての入力かを規定することに使用される。
エスケープコードを+(プラス)とすると、
[任意キャラクタ入力] + + + [任意キャラクタ入力]



上記に記したA、Bの時間に、本レジスタで設定する時間値が関係する。Aは、キャラクタ入力に本レジスタ値<以上>の時間を必要とする。また、Bでは、キャラクタ入力を、本レジスタ値<以内>で行わなければならない。

- *S25 DTRオフ有効時間(範囲：0～255)
*5：DTR信号がオフ状態であると認識するのに必要な時間(10ms単位)。本レジスタで設定された時間以上、DTR信号がオフ状態にならなければ、DTRがオフとは認識されない。値は10ms単位だが、精度は20ms単位となる。設定値が半端な時には端数が四捨五入される。
- *S80 ビットマップレジスタ
bit0：CI信号の制御
*0：呼出音の出力に相当するあいだオン、3秒周期で1秒間オンとなる
1：RING表示から応答/切断されるまでオン
bit1～7：reserved

3-10 設定レジスタ一覧(つづき)

\$Iレジスタ(データポート、設定レジスタ)

*\$I0 リザルトコードの表示拡張(ビットマップレジスタ)

bit0、1 : RING表示時(着信時)

*0 : 拡張表示なし

1 : 発アドレス、発サブアドレスの表示

2 : 着アドレス、着サブアドレスの表示

3 : 発アドレス、発サブアドレス、

着アドレス、着サブアドレスの表示

例) RING FROM : 1234567*ABC TO:2345678*BCD

注 : 回線から各種アドレスデータが来なかった場合は、そのデータを表示しない

注意 : 着アドレスの表示は、ダイヤルイン契約をされていてかつグローバル着信で無い場合のみに行われる(網からデータが来ないため)

bit2 : CONNECT表示時(接続時)

*0 : 接続表示なし

1 : 通信プロトコルの表示

PPP : PPP/MP/BACP

参考 : 本値はAT¥Vでも設定可能

bit3、4 : NO CARRIER表示時(切断時)

*0 : 拡張表示なし

1 : 切断理由の表示

Q.931 プロトコルの「切断理由」のコードを表示

2 : 料金を表示

3 : 切断理由、料金を表示

例) NO CARRIER CAUSE : \$90 CHARGE : 100

bit5 : PPP接続時の通信速度表示

*0 : 64000

1 : 128000

bit6 : RING表示時(着信時)

*0 : 通信プロトコル表示なし

1 : 通信プロトコルの表示

PPP : PPP/MP/BACP

bit7 : Reserved

3 ATコマンドで設定する

3-10 設定レジスタ一覧

\$Iレジスタ(データポート、設定レジスタ)つづき

- *\$11 デフォルト通信プロトコルの設定。AT&Nn でも設定可能
*0 : PPP/MP/BACP

- \$12 直前の切断理由値(読みだし専用)

- *\$13 回線制御に関するビットマップレジスタ
 - bit0 : 着信時の低位レイヤー整合性データが未対応の時に接続するか
*0 : 接続しない
1 : 接続する

 - bit1 : 発信時に低位レイヤー整合性データを出力するか
0 : 出力しない
*1 : 出力する

 - bit2 : 発信時に高位レイヤー整合性データを出力するか
*0 : 出力しない
1 : 出力する

 - bit3 ~ 5 : Reserved

- *\$14 着信制御に関するビットマップレジスタ
 - bit2 : HDC/BACP/MP/PPPデータモードでの着信を受け付けるかどうか
0 : 受け付けない
*1 : 受け付ける

 - bit4 ~ 7 : Reservedポート1 ~ 10のデフォルト値は\$00(すべて受け付けない)

3-10 設定レジスタ一覧

\$Iレジスタ(データポート、設定レジスタ)つづき

bit7 : RING/NO CARRIER時ユーザユーザデータ表示

*0 : ユーザーユーザーデータ表示なし

1 : ユーザーユーザーデータ表示

ユーザーユーザーデータは、RING/NO CARRIERおよび各種表示(プロトコル、切断理由など)に続き、+uuuu(uuuuが受信したユーザーユーザーデータ)と表示する。

*\$I1 デフォルト通信プロトコルの設定。AT&Nn でも設定可能

*0 : PPP/MP/BACP

\$I2 直前の切断理由値(読みだし専用)

*\$I3 回線制御に関するビットマップレジスタ

bit0 : 着信時の低位レイヤー整合性データが未対応の時に接続するか

*0 : 接続しない

1 : 接続する

bit1 : 発信時に低位レイヤー整合性データを出力するか

0 : 出力しない

*1 : 出力する

bit2 : 発信時に高位レイヤー整合性データを出力するか

*0 : 出力しない

1 : 出力する

bit3 ~ 5 : Reserved

*\$I4 着信制御に関するビットマップレジスタ

bit2 : HDC/BACP/MP/PPPデータモードでの着信を受け付けるかどうか

0 : 受け付けない

*1 : 受け付ける

bit4 ~ 7 : Reserved

ポート1 ~ 10のデフォルト値は\$00(すべて受け付けない)

3 ATコマンドで設定する

3-10 設定レジスタ一覧

\$Iレジスタ(データポート、設定レジスタ)つづき

*\$I5 TEI設定
0 ~ 63のとき固定TEI
その他のとき自動割当TEI
*255
ポート0のみ設定可能

\$Mレジスタ(PPPレジスタ)

*\$M0 PPP動作モード設定に関するビットマップレジスタ

bit0 : 初期リンク数

*0 : 1チャンネル

1 : 2チャンネル

bit1、2 : 発呼時のプロトコルを指定する

*00 : PPP

01 : MP

10 : BACP

ここで指定したプロトコルはbit3 ~ 5で接続できるプロトコルとして設定すること。

bit3 ~ 5 : 接続を許可するプロトコルを指定する

bit3 : BACPでの接続許可

*0 : 禁止

1 : 許可

BACPでの接続が失敗した場合、MPでの接続が許可されていればMPで、MPでの接続が禁止されていてもPPPでの接続が許可されていればPPPで接続する。

bit4 : MPでの接続許可

*0 : 禁止

1 : 許可

MPでの接続が失敗した場合、PPPでの接続が許可されていればPPPで接続する。

bit5 : PPPでの接続許可

0 : 禁止

*1 : 許可

\$Mレジスタ(PPPレジスタ)

- *\$M0 PPP動作モード設定に関するビットマップレジスタ(つづき)
bit6 : 認証モードを指定する。
2ch目接続時に使用する認証データ(ユーザ名/パスワード)の指定方法を設定する。
*0 : 自動PAPモード
1ch目接続時のデータを監視し認証データを取得する。
認証プロトコルがPAPの時のみ使用することができる。
1 : 手動モード
認証データを%M4 - %M7で指定する。
PAPおよびCHAP(暗号アルゴリズムMD5)での接続が可能。

bit7 : Reserved

- *\$M1 ネゴシエーションのリトライ回数(範囲 : 0 ~ 255)
*20
LCP Configuration/Termination Request、Authentication Request
BACP Configuration/Termination Requestのリトライ回数を指定する。
- *\$M2 ネゴシエーションのリトライ時間(秒)(範囲 : 0 ~ 255)
*3
LCP Configuration/Termination Request、Authentication Request
BACP Configuration/Termination Requestのリトライ時間を指定する。

3 ATコマンドで設定する

3-10 設定レジスタ一覧

\$Mレジスタ(PPPレジスタ)つづき

- *\$M3 MP/BACPに関するビットマップレジスタ
- bit 0 : MP接続時に2ch目の着呼を許可するかどうかを指定する。
*0 : 禁止
1 : 許可
- bit 1 : MP接続時に2ch目の発呼を許可するかどうかを指定する。
*0 : 禁止
1 : 許可
- bit 2 : BACP接続時に相手からのコールバック要求を許可するかどうかを指定する。
*0 : 禁止
1 : 許可
- bit 3 : BACP接続時に相手からのコール要求を許可するかどうかを指定する。
*0 : 禁止
1 : 許可
- bit 4 : BACP接続時の2ch接続時にコールバック要求をするかどうかを指定する。
*0 : コールバック要求しない
1 : コールバック要求する
コールバック要求が失敗した場合は、bit5でコール要求をするように設定されているときは、コール要求する。
- bit 5 : BACP接続時の2ch接続時にコール要求をするかどうかを指定する。
*0 : コール要求しない
1 : コール要求する
コール要求が失敗した場合、bit4でコールバック要求をするように設定されていても、コールバック要求はしない。
- bit 6、7 : Reserved
- *\$M4 リンクリトライ回数(範囲 : 0 ~ 255)
*2
MP/BACPで2ch目接続のリトライ回数を指定する。

\$Mレジスタ(PPPレジスタ)つづき

- *\$M4 リンクリトライ回数(範囲：0～255)
*2
MP/BACPで2ch目接続のリトライ回数を指定する。
- *\$M5 リンクリトライ時間(秒)(範囲：0～255)
*3
MP/BACPで2ch目接続のリトライ時間を指定する。
- *\$M7 BODに関するビットマップレジスタ
bit0：Reserved
bit1：スループットBODで受信データ量の監視をするかどうかを指定する。
*0：監視しない
1：監視する
bit2：スループットBODで送信データ量の監視をするかどうかを指定する。
*0：監視しない
1：監視する
bit3～7：Reserved
- *\$M8 スループットBODの接続負荷(%) (範囲：0～100)
*75
\$M7レジスタで指定した監視方向のデータ量が、どちらか一方でも設定値を超えたとき2チャンネル目の接続を行う。
値は64Kbps(1チャンネル)のパーセントで指定する。
- *\$M9 スループットBODの切断負荷(%) (範囲：0～100)
*25
\$M7レジスタで指定した監視方向のデータ量が、どちらとも設定値をより少なくなったとき2チャンネル目の切断を行う。
値は128Kbps(2チャンネル)のパーセントで指定する。
- *\$M10 スループットBODの監視時間(秒)(範囲：0～255)
*10
スループットBODでのデータ量の監視間隔を指定する。
2チャンネル目の接続/切断後、\$M11(監視開始時間)で指定した間経過後に監視を開始、その後、\$M10(監視時間)で指定した時間間隔で監視する。

3 ATコマンドで設定する

3-10 設定レジスタ一覧

\$Mレジスタ(PPPレジスタ)つづき

*\$M10 スループットBODの監視時間(秒)(範囲：0～255)

*10

スループットBODでのデータ量の監視間隔を指定する。

2チャンネル目の接続/切断後、\$M11(監視開始時間)で指定した間経過後に監視を開始、その後、\$M10(監視時間)で指定した時間間隔で監視する。

*\$M11 スループットBODの監視開始時間(秒)(範囲：0～255)

*10

スループットBODでのデータ量の監視を開始するまでの時間を指定する。

*\$M0=xxxx 自局電話番号設定

*\$M1=xxxx 自局サブアドレス設定

*\$M2=xxxx 相手電話番号設定

*\$M3=xxxx 相手サブアドレス設定

自局、相手の電話番号/サブアドレスを指定する。

MP/BACP接続時に使用される。

*\$M4=xxxx 自局ユーザ名

*\$M5=xxxx 自局パスワード

*\$M6=xxxx 相手ユーザ名

*\$M7=xxxx 相手パスワード

認証データを設定する。\$M0レジスタの認証モードが手動モード時に使用される。

3-11 応答コード一覧

数値表記	文字列表記	数値表記	文字列表記
0	OK	19	CONNECT 64000
1	CONNECT	20	CONNECT 128000
2	RING	21	CONNECT 28800
3	NO CARRIER	22	CONNECT 76800
4	ERROR	24	DELAYED
6	NO DIALTONE	50	CARRIER 9600
7	BUSY	52	CARRIER 14400
8	NO ANSWER	54	CARRIER 19200
12	CONNECT 9600	56	CARRIER 28800
13	CONNECT 14400	59	CARRIER 38400
14	CONNECT 19200	60	CARRIER 57600
15	CONNECT 38400	61	CARRIER 64000
16	CONNECT 57600	62	CARRIER 128000
17	CONNECT 115200	90	PROTOCOL : PPP
18	CONNECT 230400		

高品質がテーマです。

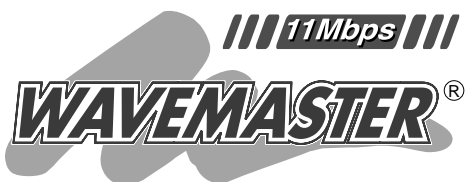
アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。



Telnetコマンドガイド



SOHOROUTER

SR-11

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本書は、Telnet機能を使用して本製品の各設定をおこなう方法について説明しています。

1	Telnet機能の使いかた	1
1-1	バージョンについて	1
1-2	Telnetの仕様	1
1-3	コマンドリファレンスの見かた	1
	コマンド分類	1
	コマンドリファレンスの書式	1
1-4	Telnetによる接続	2
1-5	オンラインヘルプ	2
1-6	ショートカットキー	3
1-7	ユーザーモード	3
2	コマンドリファレンス	5
2-1	Telnet 機能制御	5
	Telnet を終了する	5
	管理者モードへ移行する	5
	警告音の設定	5
	画面表示のクリア	5
	1画面表示機能	5
	タイムアウト	5
	バージョン表示	5
2-2	メンテナンス	6
	設定の保存	6
	再起動	6
	設定初期化	6
	累積通信料金の表示	6
	累積通信料金の初期化	6
	累積接続回数の表示	6
	累積接続回数の初期化	6
	累積通信時間の表示	7
	累積通信時間の初期化	7
	累積情報の表示	7
	累積情報の初期化	7
	ネットワーク・ルーティング設定の一括表示	7
	各種設定の一括表示	7
	アナログ設定の一括表示	7
2-3	回線設定	8
	回線種別設定	8
	ISDN着信番号識別	8

もくじ

2-4	回線接続設定	9
	回線接続設定の一括表示	9
	接続先の追加	9
	接続先の削除	9
	回線の接続	9
	回線の切断	9
	接続先名称の設定	9
	接続先電話番号の設定	10
	認証プロトコルの設定	10
	発信側ユーザーIDの設定	10
	発信側パスワードの設定	10
	デフォルトゲートウェイの構築	10
	コールバックの要求方法を設定	11
	コールバック電話番号を設定	11
	DNSサーバのアドレスを設定	11
	スループットBODの設定	11
	移行トラフィック量を設定 (1B 2B)	11
	移行トラフィック量を設定 (2B 1B)	11
2-5	自動接続(ISDN/フレッツISDN接続のみ)	12
	自動接続設定	12
	通信速度設定	12
	自動接続制限リセット	12
	自動接続制限を設定 (料金による)	12
	自動接続制限を設定 (接続回数による)	13
	自動接続制限を設定 (通算接続時間による)	13
	自動接続制限を設定 (時間帯による)	13
	終了時刻での強制切断設定	13
	自動接続制限の状態を表示	13
2-6	自動切断(ISDN/フレッツISDN接続のみ)	14
	自動切断設定	14
	自動切断タイマー1を設定	14
	自動切断タイマー2を設定	14
2-7	着信(ISDNのみ)	15
	着信設定	15
	着信電話番号チェックを設定	15
	着信通信チャンネルを設定	15
	PIAFSによる着信を設定	15
	着信コールバック許可を設定	16
	着信コールバック電話番号を設定	16
	着信ユーザーIDを設定	16
	着信パスワードを設定	16
	着信認証プロトコルを設定	16
	着信を許可する時間帯を設定	16

2-8	WAN設定	17
	WAN側IPアドレスの設定	17
	Numberedの設定	17
	Numbered時に相手のWAN側 IPアドレスを設定	17
2-9	アドレス変換	18
	NAT設定	18
	マスカレードIPアドレスを設定	18
	静的マスカレードテーブルの一覧表示	18
	静的マスカレードテーブルのエントリを設定	19
	静的マスカレードテーブルのエントリを削除	19
	静的NATテーブルを一覧表示	19
	静的NATテーブルのエントリを設定	20
	静的NATテーブルのエントリを削除	20
2-10	メール着信通知機能	21
	メール着信通知機能の設定	21
	メールサーバの設定	21
	メールアカウントの設定	21
	メールパスワードの設定	21
	着信確認のタイミング設定	21
	メール着信の接続先設定	21
	メール転送機能の設定	21
	メール転送時に使用するSMTPサーバの設定	22
	転送先メールアドレス設定	22
	発信元メールアドレス設定	22
	メールフィルタエントリの一覧	22
	メールフィルタエントリの設定	22
	メールフィルタエントリの削除	23
	メールフィルタに該当しないメールの処理を設定	23
	着信メール一覧	23
	着信メール削除	23
	表示ランプのリセット	23
2-11	無線LAN設定	24
	ESS ID 設定	24
	MACアドレス一覧	24
	MACアドレスセキュリティ設定	24
	MACアドレステーブルのエントリ設定	24
	MACアドレステーブルのエントリ削除	24
	無線チャンネル設定	24
	Rts/Ctsスレッシュホールの設定	25
	キージェネレータの設定	25
	WEPキーの編集	25
	WEP使用	25
	WEPキーの選択	25

2-12 ネットワーク設定	26
本体の名称設定	26
本体のIPアドレス/サブネットマスクを設定	26
DHCPサーバ設定	26
DHCPスコープの設定	26
リース期間の設定	26
割り当てるドメイン名の設定	26
通知するDNSサーバアドレスの設定	27
通知するWINSサーバアドレスの設定	27
静的DHCPサーバのエントリー一覧	27
静的DHCPサーバのエントリ設定	27
静的DHCPサーバのエントリ削除	27
リモートアクセスサーバの設定	27
リモートアクセス用 IPアドレスを設定	27
RADIUSサーバに関する設定	28
2-13 簡易DNSサーバ設定	29
DNSサーバの設定	29
DNSサーバのエントリー一覧	29
DNSサーバのエントリ設定	29
DNSサーバのエントリ削除	29
2-14 IPフィルタ設定	30
IPフィルタエントリの一覧	30
IPフィルタエントリの設定	30
IPフィルタのエントリを削除	30
2-15 RIP設定	31
LAN側RIP設定	31
WAN側RIP設定	31
RIPフィルタのエントリー一覧	31
RIPフィルタのエントリ設定	31
RIPフィルタのエントリ削除	31
2-16 ルーティング設定	32
ネットワークインターフェイスリスト/ IP経路情報を表示	32
スタティックルーティングエントリー一覧	32
スタティックルーティングエントリ設定	32
スタティックルーティングエントリを削除	32
2-17 セレクトルーティング	33
セレクトルーティングのエントリー一覧	33
セレクトルーティングのエントリ設定	33
セレクトルーティングのエントリ削除	33
2-18 管理者設定	34
管理者IDを設定	34
管理者パスワードを設定	34
使用者IDを設定	34

					34
					34
					34
2-19	通信記録			35
		通信記録の表示		35
		通信記録の初期化		35
2-20	時計設定			36
		内部時計設定		36
		自動時刻設定		36
		NTPサーバのIPアドレスを設定		36
		NTPサーバへのアクセス間隔を設定		36
		NTPサーバへのアクセス予定を表示		36
2-21	SYSLOG設定			37
		DEBUGタイプ出力の設定		37
		INFOタイプ出力の設定		37
		NOTICEタイプ出力の設定		37
		ファシリティの設定		37
		SYSLOGホストのIPアドレスを設定		37
2-22	アナログポート共通設定			38
		内線通話の設定		38
		内線転送の設定		38
		フレックスホン機能の設定		38
		コールウェイティングの設定		38
		通信中転送の設定		38
		三者通話の設定		39
		着信転送の設定		39
		優先着信の設定		39
		時間差優先着信の設定		39
		リソースBOD発信割り込みの設定		39
		リソースBOD着信割り込みの設定		40
		着信転送番号の一覧		40
		短縮ダイヤルの名前設定		40
		短縮ダイヤルブリダイヤルの設定		40
		短縮ダイヤル電話番号の設定		40
		セレクト着信番号の一覧		41
		セレクト着信動作の設定		41

セレクト着信呼出音の設定	41
セレクトダイヤル登録の設定	41
セレクトダイヤル番号の設定	41
2-23 アナログポート設定	42
接続する機器の設定	42
ナンバーディスプレイの設定	42
ダイヤルイン番号/サブアドレスの設定	42
i ナンバーポートの設定	42
グローバル着信の設定	43
無鳴動着信の設定	43
発信者番号通知の設定	43
通話中着信の通知の設定	43
受話音量の設定	43
送話音量の設定	44
ポートの使用条件の設定	44
セレクト着信の設定	44
内線呼出音の設定	44
なりわけ着信の設定	44
なりわけ着信呼出音の設定	45
高位レイヤ整合性の設定	45
ダイヤル待ち時間の設定	45
フッキング判定時間の設定	45
転送トーキの設定	45
送信元トーキの設定	46
着信転送のタイミングをの設定	46
着信転送番号の一覧	46
着信転送先名1の設定	46
着信転送先名2の設定	46
着信転送先電話番号1の設定	46
着信転送先電話番号2の設定	46

1-1 バージョンについて

対応ハードウェア	: SR-11
対応ファームウェア	: Ver. 1.00

1-2 Telnetの仕様

同時ログイン可能なクライアント数	: 3
ログイントライアウト	: 3回

1-3 コマンドリファレンスの見かた

コマンド分類

Telnet制御	Telnet機能を制御します。
メンテナンス	設定保存、再起動、設定内容表示をおこないます。
回線設定	回線種別、使用回線番号を設定します。
回線接続設定	接続先やコールバックの設定、手動接続および手動切断をおこないます。
自動接続	自動接続、自動接続制限を設定します。
自動切断	自動切断を設定をします。
着信	着信設定、リモートアクセスサーバ設定をおこないます。
WAN設定	WANインターフェースや、Numbered使用を設定します。
アドレス変換	NAT、IPマスカレードの設定をします。
メール着信通知機能	メール着信通知、メール転送、メールフィルタを設定します。
無線LAN設定	無線LAN基本設定をおこないます。
ネットワーク設定	名称、IPアドレス、DHCPサーバを設定します。
簡易DNSサーバ設定	DNSサーバを設定をします。
IPフィルタ設定	IPフィルタを設定します。
RIP設定	RIP設定、RIPフィルタを設定します。
ルーティング設定	スタティックルーティングの設定をおこないます。
セレクトルーティング	セレクトルーティングを設定します。
管理者設定	管理者ID設定、権限を設定します。
通信記録	通信記録の表示、クリアをおこないます。
時計設定	内部時計、自動時計を設定します。
SYSLOG設定	SYSLOGの設定をおこないます。
アナログポート共通設定	アナログ/デジタルの両ポートに関わる設定をおこないます。
アナログポート設定	アナログポートの設定をおこないます。

コマンドリファレンスの書式

[書式]	コマンドの書式を説明します。
[引数]	コマンドの引数の種類と意味を説明します。
[説明]	コマンドの概要を説明します。
[備考]	コマンド使用時の備考です。
[規定値]	引数省略時の規定値です。
[初期値]	初期化時の設定値です。

1-4 Telnetによる接続

Telnetでの接続について説明します。

ここでは、Windows98に付属する Telnet.exe の使用を例に説明しています。ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

- ①Windows98を起動します。
- ②[スタート]メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択します。名前欄に「Telnet.exe」と入力し、<OK> をクリックします。
- ③Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]-[リモートシステム]を選択します。
- ④[接続]ダイアログボックスが表示されます。ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択し、<接続> ボタンをクリックします。

ホスト名	:	本製品のIPアドレス (初期値 : 192.168.0.1)
ポート	:	telnet(23)
ターミナルの種類	:	vt100
- ⑤[User]と[Password]が要求されます。設定したユーザ名とパスワードを入力してログインしてください。
(初期値では [User]、[Password] ともに設定されていません。何も入力せずに [Enter] キーを押してください。)
- ⑥ログインメッセージが表示されます。
一般ユーザー権限でログインした場合には コマンドプロンプト [\$] が、管理者権限でログインした場合には、「You are administrator!」のメッセージの後にコマンドプロンプト [#] が表示されます。
コマンドプロンプトに続いてコマンドを入力できます。

1-5 オンラインヘルプ

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

- | | |
|----------|--|
| コマンド一覧 | [Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて [Tab] キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。 |
| コマンドヘルプ | コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて [?] キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。 |
| コマンド名の補完 | コマンド名を先頭から数文字入力し [Tab] キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。
例) cl [Tab] clear
複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。さらに [Tab] キーを押すと、コマンドの候補を表示します。
例) r [Tab] re
re [Tab] restart remote
res [Tab] restart |

1 Telnet機能の使いかた

1-6 ショートカットキー

管理作業を効率的に行うために、下記のショートカットキーが使用できます。

カーソルの移動

[Ctrl]+[a]	行頭に移動
[Ctrl]+[e]	行末に移動
[Ctrl]+[b]	左へ一文字分移動
[Ctrl]+[f]	右へ一文字分移動

コマンドラインの編集

[Ctrl]+[k]	カーソル以降の文字をカット
[Ctrl]+[u]	カーソル以前の文字をカット
[Ctrl]+[z]	カーソル以前の文字をコピー
[Ctrl]+[d]	カーソル上の一文字を削除
[Ctrl]+[h]	カーソル左の一文字を削除
[Ctrl]+[y]	カットまたはコピーした文字列をペースト

コマンド入力・実行

[Ctrl]+[i]	コマンド一覧表示、コマンド入力補完機能
[Ctrl]+[n]	ヒストリー機能（次の入力コマンドに進む）
[Ctrl]+[p]	ヒストリー機能（前の入力コマンドに戻る）
[Ctrl]+[m]	実行
[Ctrl]+[j]	実行

1-7 ユーザーモード

ユーザーモードには、管理者モードと使用者モードがあります。

管理者モード	コマンドリファレンスに記載されているすべての機能が使用できます。 管理者モード時のプロンプトは [#] になります。
使用者モード	初期設定では表示や設定変更の権限が与えられていないため、設定変更などはできません。 管理者モードで権限を与えることで、ログ表示と接続先の変更が可能になります。 使用者モード時のプロンプトは [\$] になります。

Telnet機能のコマンドリファレンスを次に示します。

2-1 Telnet 機能制御

Telnet 機能を制御するコマンドです。

Telnet を終了する	[書式] [引数] [説明] [備考]	exit 終了 administrator コマンドで管理者モードに入っている場合は、 使用者モードに復帰 変更内容は、save コマンドを実行しないと保存されませんの でご注意ください
管理者モードへ移行する	[書式] [引数] [説明] [備考]	administrator 管理者モードへ移行
警告音の設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	bell [bool] bool - on する - off しない Telnet端末操作時の警告音を使用する/しないを設定
画面表示のクリア	[書式] [引数] [説明] [備考]	clear 画面表示をクリア
1画面表示機能	[書式] [引数] [説明] [備考]	more [bool] bool - on する - off しない more (1画面表示機能) を使用する/しないを設定
タイムアウト	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	timeout [time] time タイムアウトまでの時間(秒) 設定した時間コマンド入力等の操作がないと、接続を切る 0でタイムアウトしない 180
バージョン表示	[書式] [説明] [備考]	ver ファームウェアのバージョンを表示

2-2 メンテナンス

各設定内容の保存、再起動、初期化、および設定内容を表示するコマンドです。

設定の保存	[書式] [引数] [説明] [備考]	save 設定内容を不揮発メモリに保存 設定初期化モード時は初期化を実行
再起動	[書式] [引数] [説明] [備考]	restart システムを再起動 変更内容は、save コマンドを実行しないと保存されませんのでご注意ください
設定初期化	[書式] [引数] [説明] [備考]	init [function] function 初期化方法 - all 全設定初期化 - analog アナログ設定初期化 - wireless 無線部初期化 設定を初期化
累積通信料金の表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total charge [number] number 接続先番号 指定した接続先の累積通信料金の表示 ISDNのみ
累積通信料金の初期化	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total charge clear [number] number 接続先番号 - all 全接続先 累積通信料金のクリア ISDNのみ
累積接続回数の表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total count [number] number 接続先番号 累積接続回数の表示 ISDNのみ
累積接続回数の初期化	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total count clear [number] number 接続先番号 - all 全接続先 累積接続回数のクリア ISDNのみ

2 コマンドリファレンス

累積通信時間の表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total time [number] number 接続先番号 累積通信時間の表示 ISDNのみ
累積通信時間の初期化	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total time clear [number] number 接続先番号 - all 全接続先 累積通信時間のクリア ISDNのみ
累積情報の表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total すべての累積情報の表示 ISDNのみ
累積情報の初期化	[書式] [引数] [説明] [備考]	remote total clear [number] number 接続先番号 指定された接続先の、すべての累積情報をクリア ISDNのみ
ネットワーク・ルーティング設定の一括表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	network ネットワーク設定 (本体ネットワーク設定、ルーティング設定)の内容を一括表示 既定値は表示されません
各種設定の一括表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	system 各種設定 (無線LAN、無線LAN詳細設定、管理者設定、SYSLOG設定)の内容を一括表示 既定値は表示されません
アナログ設定の一括表示	[書式] [引数] [説明] [備考]	analog アナログポートの各種の内容を一括表示 既定値は表示されません

2-3 回線設定

使用する回線の種別やISDNの着信識別番号を設定するコマンドです。

回線種別設定	[書式]	system remote connect [method]
	[引数]	method
		- isdn ISDN
		- flets フレッツISDN
		- ocn OCN
	- ex64k 専用線(64kbps)	
	- ex128k 専用線(128kbps)	
	[説明]	回線種別を設定
	[備考]	
ISDN着信番号識別	[書式]	system remote isdn [dial[*subadr]]
	[引数]	dial 電話番号
		subadr サブアドレス
	[説明]	ISDN着信識別番号の設定
	[備考]	ISDN接続のみ

2 コマンドリファレンス

2-4 回線接続設定

接続先の設定や接続、切断を行うコマンドです。

回線接続設定の一括表示	[書式] remote [number] [引数] number 接続先番号 [説明] 回線接続設定を一括表示 [備考]
接続先の追加	[書式] remote set [number] [line] [引数] number 接続先番号 line 回線種別 - isdn - flets [説明] 接続先を追加 [備考]
接続先の削除	[書式] remote delete [number] [引数] number 接続先番号 [説明] 接続先を削除 [備考]
回線の接続	[書式] remote connect [number] [connect] [引数] number 接続先番号 connect 接続制御 [1b / 2b] [説明] 回線の接続/回線の接続状態の表示 [備考] 接続操作はISDN/フレッツISDN接続のみ 引数無しで接続状態の表示(すべての回線種別で可能)
回線の切断	[書式] remote disconnect [ch] [引数] ch 切断する回線 - b1 B1チャンネル - b2 B2チャンネル - all 両チャンネル [説明] 切断 [備考] ISDN/フレッツISDN接続のみ
接続先名称の設定	[書式] remote name [number ! method] [name] [引数] number 接続先番号 method 回線種別 -ocn -ex64k -ex128k name 名称文字列 [説明] 接続先名称を設定 [備考] 引数 numberは、ISDN/フレッツISDN接続のみ 引数 methodは、OCN/専用線接続のみ

接続先電話番号の設定	[書式]	remote call number [number] [dial1[*subadr1] [dial2[*subadr2] [dial3[*subadr]]]]
	[引数]	number 接続先番号 dial1 電話番号 1 subadr1 サブアドレス 1 dial2 電話番号 2 subadr2 サブアドレス 2 dial3 電話番号 3 subadr3 サブアドレス 3
	[説明]	接続先の電話番号を設定
	[備考]	ISDN/フレックスISDN接続のみ
	[書式]	remote call auth [number] [auth]
	[引数]	number 接続先番号 auth 認証プロトコル -auto 自動認識 -none なし -pap PAP -chap CHAP
	[説明]	認証プロトコルを設定
	[備考]	ISDN/フレックスISDN接続のみ
発信側ユーザーIDの設定	[書式]	remote call id [number] [id]
	[引数]	number 接続先番号 id ユーザID
	[説明]	発信ユーザーIDを設定
	[備考]	ISDN/フレックスISDN接続のみ
発信側パスワードの設定	[書式]	remote call password [number]
	[引数]	number 接続先番号
	[説明]	発信パスワードを設定
	[備考]	対話型入力/ISDN/フレックスISDN接続のみ
デフォルトゲートウェイの構築	[書式]	remote call defaultgw [number] [bool]
	[引数]	number 接続先番号 bool -on する -off しない
	[説明]	デフォルトゲートウェイを構築する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	on 構築する

2 コマンドリファレンス

コールバックの要求方法を設定	[書式] [引数]	remote call callback request [number] [request] number 接続先番号 request - no しない - cbcP CBCP - free 無課金
	[説明] [備考] [初期値]	コールバック要求方法を設定 ISDN接続のみ no コールバックしない
コールバック電話番号を設定	[書式] [引数]	remote call callback number [number] [dial[*subadr]] number 接続先番号 dial 電話番号 subad サブアドレス
	[説明] [備考]	コールバック電話番号を設定 ISDN接続のみ
DNSサーバのアドレスを設定	[書式] [引数]	remote call dns [number method] [dns1 [dns2]] number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN method 回線種別 OCN/専用線接続 - ocn - ex64k - ex128k dns1 プライマリDNSサーバアドレス dns2 セカンダリDNSサーバアドレス
	[説明] [備考]	DNSサーバアドレスを設定
スループットBODの設定	[書式] [引数]	remote bod [number] [bool] number 接続先番号 bool - on する - off しない
	[説明] [備考]	スループットBODを使用する/しないを設定 ISDN接続のみ
移行トラフィック量を設定 (1B 2B)	[書式] [引数]	remote bod 1Bto2B [number] [value] number 接続先番号 value トラフィック量(%)
	[説明] [備考]	移行トラフィック量を設定(1B 2B) ISDN接続のみ
移行トラフィック量を設定 (2B 1B)	[書式] [引数]	remote bod 2Bto1B [number] [value] number 接続先番号 value トラフィック量(%)
	[説明] [備考]	移行トラフィック量の設定(2B 1B) ISDN接続のみ

2-5 自動接続(ISDN/フレッツISDN接続のみ)

自動接続の設定を行うコマンドです。

自動接続設定	[書式]	remote auto connect permit [number] [bool]	
	[引数]	number	接続先番号
		bool	
		- on	する
		- off	しない
	[説明]	自動接続する/しないを設定	
	[備考]	ISDN/フレッツISDN接続のみ	
	[初期値]	off	自動接続しない
通信速度設定	[書式]	remote auto connect speed [number] [speed]	
	[引数]	number	接続先番号
		speed	
		- 64	64kbps固定
		- 128m	128kbps固定
		- 64mb	64kbps可変
		- 128mb	128kbps可変
	[説明]	通信速度を設定	
	[備考]	ISDN/フレッツISDN接続のみ	
	[初期値]	64mb	
自動接続制限リセット	[書式]	remote auto connect limit reset [number]	
	[引数]	number	接続先番号
	[説明]	自動接続制限をリセット	
	[備考]	ISDN接続のみ	
自動接続制限を設定 (料金による)	[書式]	remote auto connect limit charge [number] [charge [mwd]]	
	[引数]	number	接続先番号
		charge	料金(円) 0 ~ 999999
		mwd	
		- month	月
		- week	週
		- day	日
	[説明]	料金による自動接続制限を設定 (0で制限なし)	
	[備考]	ISDN接続のみ	

2 コマンドリファレンス

自動接続制限を設定 (接続回数による)

[書式]	remote auto connect limit count [number] [count [mwd]]
[引数]	number 接続先番号 count 接続回数(回) 0 ~ 65535 mwd - month 月 - week 週 - day 日
[説明]	接続回数による自動接続制限を設定 (0で制限なし)
[備考]	ISDN接続のみ

自動接続制限を設定 (通算接続時間による)

[書式]	remote auto connect limit time [number] [time]
[引数]	number 接続先番号 time 通算接続時間(分) 0 ~ 65535
[説明]	通算接続時間による自動接続制限を設定 (0で制限なし)
[備考]	ISDN接続のみ

自動接続制限を設定 (時間帯による)

[書式]	remote auto connect limit timezone [number] [time1] [time2]
[引数]	number 接続先番号 time1 開始時刻[hh:mm] 00:00 ~ 23:59 time2 終了時刻[hh:mm] 00:00 ~ 23:59
[説明]	時間帯による自動接続制限を設定 (0で制限なし)
[備考]	ISDN接続のみ

終了時刻での強制切断設定

[書式]	remote auto connect limit timeout [number] [bool]
[引数]	number 接続先番号 bool - on する - off しない
[説明]	終了時刻での強制切断する/しないを設定
[備考]	ISDN接続のみ
[初期値]	off

自動接続制限の状態を表示

[書式]	remote auto connect limit status [number]
[引数]	number 接続先番号
[説明]	自動接続制限の状態を表示
[備考]	ISDN接続のみ

2-6 自動切断(ISDN/フレッツISDN接続のみ)

自動切断の設定を行うコマンドです。

自動切断設定	[書式]	remote auto disconnect permit [number] [bool]		
	[引数]	number	接続先番号	
		bool		
		- on	する	
		- off	しない	
	[説明]	自動切断する/しないを設定		
[備考]	ISDN/フレッツISDN接続のみ			
[初期値]	on	(ISDN)		
	off	(フレッツISDN)		
自動切断タイマー1を設定	[書式]	remote auto disconnect timer [number] [timer1 [timer2]]		
	[引数]	number	接続先番号	
		timer1	タイマー1(秒)	0 ~ 65535
		timer2	タイマー2(秒)	0 ~ 65535
	[説明]	自動切断タイマー1を設定		
	[備考]	ISDN/フレッツISDN接続のみ		
[初期値]	timer1	0		
	timer2	0		
自動切断タイマー2を設定	[書式]	remote auto disconnect timezone [number] [time1] [time2]		
	[引数]	number	接続先番号	
		time1	開始時刻[hh:mm]	00:00 ~ 23:59
		time2	終了時刻[hh:mm]	00:00 ~ 23:59
	[説明]	自動切断タイマー2を使用する時間帯を設定		
	[備考]	ISDN/フレッツISDN接続のみ		
[初期値]	time1	0		
	time2	0		

2 コマンドリファレンス

2-7 着信(ISDNのみ)

着信設定やリモートアクセスサーバ (ISDN、PIAFS 対応)の設定を行うコマンドです。

着信設定	[書式] remote answer permit [number] [bool] [引数] number 接続先番号 bool - on する - off しない
	[説明] 着信する/しないを設定 [備考] ISDN接続のみ [初期値] off
着信電話番号チェックを設定	[書式] remote answer numbercheck [number] [bool] [引数] number 接続先番号 bool - on する - off しない
	[説明] 着信電話番号チェックする/しないを設定 [備考] ISDN接続のみ [初期値] off
着信通信チャンネルを設定	[書式] remote answer channel [number] [channel] [引数] number 接続先番号 channel - 1b 1Bに限定 - 2b 2Bまで許可
	[説明] 着信通信チャンネルを設定 [備考] ISDN接続のみ [初期値] 2B
PIAFSによる着信を設定	[書式] remote answer piafs [number] [speed] [引数] number 接続先番号 speed - no しない - 32k 32kのみ可 - 64k 64kのみ可 - both 32k/64kともに可
	[説明] PIAFSによる着信を設定 [備考] ISDN接続のみ [初期値] no

着信コールバック許可を設定	[書式]	remote answer callback permit [number] [permit]
	[引数]	number 接続先番号 permit
		- disable 不許可 - enable 許可 - force コールバックのみ
	[説明]	着信コールバック許可を設定
	[備考]	ISDN接続のみ
	[初期値]	disable
着信コールバック電話番号を設定	[書式]	remote answer callback number [number] [dial[*subadr]]
	[引数]	number 接続先番号 dial 電話番号 subadr サブアドレス
	[説明]	着信コールバック電話番号を設定
	[備考]	ISDN接続のみ
着信ユーザーIDを設定	[書式]	remote answer id [number] [id]
	[引数]	number 接続先番号 id ユーザーID
	[説明]	着信ユーザーIDを設定
	[備考]	ISDN接続のみ
着信パスワードを設定	[書式]	remote answer password [number]
	[引数]	number 接続先番号
	[説明]	着信パスワードを設定
	[備考]	対話型入力/ISDN接続のみ
着信認証プロトコルを設定	[書式]	remote answer auth [number] [auth]
	[引数]	number 接続先番号 auth 認証プロトコル - no 認証なし - pap PAP - chap CHAP - both PAPまたはCHAP - radius RADIUSサーバ使用
	[説明]	着信認証プロトコルを設定
	[備考]	ISDN接続のみ
	[初期値]	both PAPまたはCHAP
着信を許可する時間帯を設定	[書式]	remote answer timezone [number] [time1] [time2]
	[引数]	number 接続先番号 time1 開始時刻[hh:mm] time2 終了時刻[hh:mm]
	[説明]	着信を許可する時間帯を設定
	[備考]	ISDN接続のみ

2 コマンドリファレンス

2-8 WAN設定

WAN側のIPアドレスやNumberedの設定をおこないます。

WAN側IPアドレスの設定

[書式]	remote wan ip [number method] [address[/netmask]]
[引数]	number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN
	method 回線種別 OCN/専用線接続
	- ocn
	- ex64k
	- ex128k
	address/netmask IPアドレス/ネットマスク
[説明]	本体のWAN側IPアドレスを設定
[備考]	

Numberedの設定

[書式]	remote wan numbered [number method] [bool]
[引数]	number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN
	method 回線種別 専用線接続
	- ex64k
	- ex128k
	bool
	- on する
	- off しない
[説明]	Numberedで使用する/しないを設定
[備考]	OCNでは利用できません
[初期値]	off

Numbered時に相手のWAN側 IPアドレスを設定

[書式]	remote wan numbered ip [number method] [address]
[引数]	number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN
	method 回線種別 専用線接続
	- ex64k
	- ex128k
	address IPアドレス
[説明]	Numbered時の相手のWAN側IPアドレスを設定
[備考]	OCNでは利用できません

2-9 アドレス変換

アドレス変換の設定を行うコマンドです。

NAT設定	[書式]	remote nat [number method] [bool]		
	[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
		method	回線種別	OCN/専用線接続
		- ocn		
		- ex64k		
		- ex128k		
		bool		
		- on	する	
		- off	しない	
	[説明]	アドレス変換する/しないを設定		
	[備考]			

マスカレードIPアドレスを設定 (グローバルIPアドレス)

	[書式]	remote nat global [number method] [address]		
	[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
		method	回線種別	OCN/専用線接続
		- ocn		
		- ex64k		
		- ex128k		
		address	IPアドレス	
	[説明]	マスカレードIPアドレスを設定		
	[備考]	グローバルIPアドレス与えられているときに設定してください。		

静的マスカレードテーブルの一覧表示

	[書式]	remote nat masquerade [number method]		
	[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
		method	回線種別	OCN/専用線接続
		- ocn		
		- ex64k		
		- ex128k		
	[説明]	静的マスカレードテーブルを一覧表示		
	[備考]			

2 コマンドリファレンス

静的マスカレードテーブルのエントリを設定

[書式]	remote nat masquerade set [number ! method] [index] [ip] [protocol] [port1[-port2]]		
[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
	method	回線種別	OCN/専用線接続
	- ocn		
	- ex64k		
	- ex128k		
	index	エントリ番号	1 ~ 32
	ip	ローカルIPアドレス	
	protocol	プロトコル	
	- tcp	TCP	
	- udp	UDP	
	- both	TCP/UDP	
	port1	開始ポート	
	port2	終了ポート	
[説明]	静的マスカレードテーブルのエントリを設定		
[備考]			

静的マスカレードテーブルのエントリを削除

[書式]	remote nat masquerade delete [number ! method] [index]		
[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
	method	回線種別	OCN/専用線接続
	- ocn		
	- ex64k		
	- ex128k		
	index	エントリ番号	1 ~ 32
[説明]	静的マスカレードテーブルのエントリを削除		
[備考]			

静的NATテーブルを一覧表示

[書式]	remote nat static [number ! method]		
[引数]	number	接続先番号	ISDN/フレッツISDN
	method	回線種別	OCN/専用線接続
	- ocn		
	- ex64k		
	- ex128k		
[説明]	静的NATテーブルを一覧表示		
[備考]			

静的NATテーブルのエントリを設定

[書式] remote nat static set [number | method] [index]
 [global IP] [local IP]

[引数] number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN
 method 回線種別 OCN/専用線接続
 - ocn
 - ex64k
 - ex128k

[引数] number 接続先番号
 index エントリ番号
 global IP グローバルIPアドレス
 local IP ローカルIPアドレス

[説明] 静的NATテーブルのエントリを設定

[備考]

静的NATテーブルのエントリを削除

[書式] remote nat static delete [number | method] [index]

[引数] number 接続先番号 ISDN/フレッツISDN
 method 回線種別 OCN/専用線接続
 - ocn
 - ex64k
 - ex128k

index エントリ番号

[説明] 静的NATテーブルのエントリを削除

[備考]

2 コマンドリファレンス

2-10 メール着信通知機能 (ISDN/フレッツISDN接続のみ)

メール着信機能を設定するコマンドです。メール転送やメールフィルタの機能が利用できます。

メール着信通知機能の設定	[書式] system mailchk [bool] [引数] bool - on する - off しない
	[説明] メール着信通知機能を使用する/しないを設定 [備考] [初期値] off
メールサーバの設定	[書式] system mailchk server [pop] [引数] pop サーバ名
	[説明] メールサーバ(POP)を設定 [備考]
メールアカウントの設定	[書式] system mailchk id [id] [引数] id アカウント
	[説明] メールアカウントを設定 [備考]
メールパスワードの設定	[書式] system mailchk password [引数]
	[説明] メールパスワードを設定 [備考] 対話型入力
着信確認のタイミング設定	[書式] system mailchk timing [[interval] [hh:mm]] [引数] interval 間隔(分) hh:mm 時刻
	[説明] メール着信の確認タイミングを設定 [備考] 間隔または時刻
メール着信の接続先設定	[書式] system mailchk connect [number] [引数] number 接続先番号
	[説明] メール着信に使用する接続先を設定 [備考]
メール転送機能の設定	[書式] system mailchk forward [bool] [引数] bool - on する - off しない
	[説明] メール転送機能を使用する/しないを設定 [備考] [初期値] off

メール転送時に使用するSMTPサーバの設定

[書式] system mailchk forward server [smtp]
 [引数] smtp サーバ名
 [説明] メール転送に使用するSMTPサーバを設定
 [備考]

転送先メールアドレス設定

[書式] system mailchk forward dest [dest]
 [引数] dest アドレス
 [説明] 転送先メールアドレスを設定
 [備考]

発信元メールアドレス設定

[書式] system mailchk forward src [src]
 [引数] src アドレス
 [説明] 発信元メールアドレスを設定
 [備考]

メールフィルタエントリの一覧

[書式] system mailchk filter
 [引数]
 [説明] メールフィルタのエントリを一覧表示
 [備考]

メールフィルタエントリの設定

[書式] system mailchk filter set [number] [use] [action] [key]
 [condition] [pattern]
 [引数] number フィルタ番号 1 ~ 5
 use 使用
 - enable 使用する
 - disable 使用しない
 action 動作
 - trans_disp 転送+表示
 - disp 表示
 - ignore 無視
 key 検索 [対象]
 - to
 - cc
 - from
 - subject
 condition 検索 [条件]
 - equall 全体が一致
 - include 一部が一致
 - begin 先頭が一致
 - end 末尾が一致
 - not equall 全体が一致しない
 - not include 一部が一致しない
 - not begin 先頭が一致しない
 - not end 末尾が一致しない
 pattern 検索 [文字列]
 [説明] メールフィルタのエントリを設定
 [備考] 使用/動作/検索はそれぞれ省略可能

2 コマンドリファレンス

メールフィルタエントリの削除	[書式] [引数] [説明] [備考]	system mailchk filter delete [number] number フィルタ番号 メールフィルタのエントリを削除	1 ~ 5
メールフィルタに該当しないメールの処理を設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system mailchk filter default [action] action 動作 - trans_disp 転送+表示 - disp 表示 - ignore 無視 メールフィルタに該当しないメールの処理を設定	
着信メール一覧	[書式] [引数] [説明] [備考]	system mailchk list view [number] number エントリ番号 着信メール一覧を表示 エントリ番号の指定なしでヘッダー一覧を表示	
着信メール削除	[書式] [引数] [説明] [備考]	system mailchk list delete [number] number エントリ番号 - all 全てのエントリ 着信メールを削除	
MSGランプのリセット	[書式] [引数] [説明] [備考]	system mailchk lamp MSGランプをリセット	

2-11 無線LAN設定

無線LANに関する設定を行うコマンドです。

ESS ID 設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	system wireless id ESS IDを設定（対話入力） LG	
MACアドレス一覧	[書式] [引数] [説明] [備考]	system wireless mac 登録済みMACアドレスおよび通信状況を一覧表示	
MACアドレスセキュリティ設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	system wireless mac secure [bool] bool - on する - off しない MACアドレスセキュリティを使用する/しないを設定	
MACアドレステーブルのエントリ設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system wireless mac set [number] [macid] number エントリ番号 macid MACアドレス MACアドレステーブルのエントリを設定	
MACアドレステーブルのエントリ削除	[書式] [引数] [説明] [備考]	system wireless mac delete [number] number エントリ番号 MACアドレステーブルのエントリを削除	
無線チャンネル設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	system wireless channel [number] number チャンネル番号 無線チャンネルを設定 14	1 ~ 14

2 コマンドリファレンス

Rts/Cts スレッシュホールの設定

[書式] system wireless threshold [subject]
[引数] subject
- no 無し
- 500 500バイト
- 1000 1000バイト
[説明] Rts/Cts スレッシュホールを設定
[備考]

キージェネレータの設定

[書式] system wireless wep generate key [string]
[引数] string 文字列
[説明] 文字列からWEPキーを生成
[備考]

WEPキーの編集

[書式] system wireless wep key [num] [str]
[引数] num 番号 1 ~ 4
str 文字列
[説明] WEPキーを設定
[備考]

WEP使用

[書式] system wireless wep [sw]
[引数] sw
- on する
- off しない
[説明] WEPを使用する/しないを設定
[備考]
[初期値] off

WEPキーの選択

[書式] system wireless wep use [num]
[引数] num 番号 1 ~ 4
[説明] 使用するWEPキーを選択
[備考]
[初期値] 1

2-12 ネットワーク設定

本体のネットワークやDHCPサーバの設定を行うコマンドです。

本体の名称設定

[書式] network local name [name]
 [引数] name 本体名称
 [説明] ネットワーク上の本体名称を設定
 [備考]
 [初期値] SR-11

本体のIPアドレス/サブネットマスクを設定

[書式] network local ip [address[/netmask]]
 [引数] address IPアドレス
 netmask サブネットマスク
 [説明] 本体のIPアドレス/サブネットマスクを設定
 [備考]
 [初期値] 192.168.0.1/24

DHCPサーバ設定

[書式] network dhcp [bool]
 [引数] bool
 - on する
 - off しない
 [説明] DHCPサーバ機能を使用する/しないを設定
 [備考]
 [初期値] on

DHCPスコープの設定

[書式] network dhcp address [address/netmask] [number]
 [引数] address/netmask IPアドレス/サブネットマスク
 number 個数 5 ~ 128
 [説明] DHCPの割り当て開始IPアドレス/サブネットマスクおよび割り当て個数を設定
 [備考]
 [初期値] 192.168.0.10/24
 30個

リース期間の設定

[書式] network dhcp leasetime [time]
 [引数] time リース期間(日)
 [説明] DHCPで割り当てるIPアドレスのリース期間を設定
 [備考]
 [初期値] 3日

割り当てるドメイン名の設定

[書式] network dhcp domain [name]
 [引数] name ドメイン名
 [説明] DHCPで割り当てるドメイン名を設定
 [備考]

2 コマンドリファレンス

通知するDNSサーバアドレスの設定

[書式]	network dhcp dnsserver [dns1 [dns2]]
[引数]	dns1 プライマリDNSサーバのIPアドレス dns2 セカンダリDNSサーバのIPアドレス
[説明]	DHCPで通知するDNSサーバアドレスを設定
[備考]	DNSサーバの代理応答機能を使用する場合は無効

通知するWINSサーバアドレスの設定

[書式]	network dhcp winsserver [wins1 [wins2]]
[引数]	wins1 プライマリWINSサーバのIPアドレス wins2 セカンダリWINSサーバのIPアドレス
[説明]	DHCPで通知するWINSサーバアドレスを設定
[備考]	

静的DHCPサーバのエントリー一覧

[書式]	network dhcp static
[引数]	
[説明]	静的DHCPサーバのエントリーを一覧表示
[備考]	

静的DHCPサーバのエントリー設定

[書式]	network dhcp static set [number] [mac] [ip]
[引数]	number エントリー番号 mac MACアドレス ip IPアドレス
[説明]	静的DHCPサーバのエントリーを設定
[備考]	

静的DHCPサーバのエントリー削除

[書式]	network dhcp static delete [number]
[引数]	number エントリー番号
[説明]	静的DHCPサーバのエントリーを削除
[備考]	

リモートアクセスサーバの設定

[書式]	network remote [bool]
[引数]	bool - on する - off しない
[説明]	リモートアクセスサーバを使用する/しないを設定
[初期値]	off

リモートアクセス用 IPアドレスを設定

[書式]	network remote address [address1 [address2]]
[引数]	address1 IPアドレス1 address2 IPアドレス2
[説明]	リモートアクセス用IPアドレスを設定
[備考]	

RADIUSサーバに関する設定	[書式]	network radius auth server [entry] [address][/[port]] [secret]
	[引数]	entry エントリ番号[1/2] address RADIUSサーバIPアドレス port 使用ポート番号(省略可) secret シークレットKEY(半角15文字まで)
	[説明]	RADIUSサーバに関する設定
	[備考]	クリアする場合は、IPアドレスの項目を"0.0.0.0"に設定する

2 コマンドリファレンス

2-13 簡易DNSサーバ設定

簡易DNSサーバの設定を行うコマンドです。

DNSサーバの設定	[書式] [引数]	network dns proxy [bool] bool - on する - off しない
	[説明] [備考] [初期値]	DNSサーバの代理応答する/しないを設定 on
DNSサーバのエントリー一覧	[書式] [引数] [説明] [備考]	network dns hosts 簡易DNSサーバのエントリーを一覧表示
DNSサーバのエントリー設定	[書式] [引数]	network dns hosts set [number] [ip] [name] number エントリー番号 ip 簡易DNSに登録するIPアドレス name IPアドレスに関連付けるホスト名
	[説明] [備考]	簡易DNSサーバのエントリーを設定 簡易DNSサーバを使用するには、DNSサーバの代理応答機能を有効にしておく必要があります。
DNSサーバのエントリー削除	[書式] [引数] [説明] [備考]	network dns hosts delete [number] number エントリー番号 簡易DNSサーバのエントリーを削除

2 コマンドリファレンス

2-15 RIP設定

RIP設定を行うコマンドです。LAN側、WAN側に分けて設定できます。

LAN側RIP設定	[書式] network rip lan [bool] [引数] bool - on する - off しない [説明] LAN側にRIPを使用する/しないを設定 [備考] [初期値] on
WAN側RIP設定	[書式] network rip wan [bool] [引数] bool - on する - off しない [説明] WAN側にRIPを使用する/しないを設定 [備考] [初期値] off
RIPフィルタのエンタリー一覧	[書式] network rip filter [引数] [説明] RIPフィルタのエンタリーを一覧表示 [備考]
RIPフィルタのエンタリー設定	[書式] network rip filter set [number] [func] [address/mask] [引数] number エンタリー番号 1~20 func - reject 無視する address 発信元のIPアドレス mask 発信元のサブネットマスク [説明] RIPフィルタのエンタリーを設定 [備考]
RIPフィルタのエンタリー削除	[書式] network rip filter delete [number] [引数] number エンタリー番号 1~20 [説明] RIPフィルタのエンタリーを削除 [備考]

2-16 ルーティング設定

スタティックルーティングの設定を行うコマンドです。

ネットワークインターフェイスリスト/IP経路情報を表示

[書式] network route
 [引数]
 [説明] ネットワークインターフェイスリストとIP経路情報を表示
 [備考]

スタティックルーティングエントリー一覧

[書式] network route static
 [引数]
 [説明] スタティックルーティングのエントリーを一覧表示
 [備考]

スタティックルーティングエントリー設定

[書式] network route static set [number] [route] [address /mask] [gateway] [metric]
 [引数] number エントリー番号 1~20
 route 経路
 - local
 - n 接続先番号
 address 宛先IPアドレス
 mask 宛先サブネットマスク
 gateway ゲートウェイのIPアドレス
 metric メトリック値
 [説明] スタティックルーティングのエントリーを設定
 [備考]

スタティックルーティングエントリーを削除

[書式] network route static delete [number]
 [引数] number エントリー番号 1~20
 [説明] スタティックルーティングのエントリーを削除
 [備考]

2 コマンドリファレンス

2-17 セレクトルーティング (ISDN/フレッツISDN接続のみ)

セレクトルーティングの設定を行うコマンドです。

セレクトルーティングのエントリ一覧

[書式]	network route select
[引数]	
[説明]	セレクトルーティングのエントリを一覧表示
[備考]	

セレクトルーティングのエントリ設定

[書式]	network route select set [number] [route] [action] [src] [proto] [port] [time1] [time2] [bool]
[引数]	number エントリ番号 1 ~ 16
	route 経路
	- n 接続先番号
	action 動作
	- auto 自動接続
	- static 静的経路
	- reject 拒絶する
	src 発信元IPアドレス
	- ip 開始アドレス-終点アドレス
	proto プロトコル制御
	- off 使用しない
	- tcp TCP
	- udp UDP
	- both TCP/UDP
	port ポート番号
	- n 始点ポート-終点ポート
	dst 宛先IPアドレスまたはドメイン名
	- str 指定ドメイン名
	time1 開始時刻[hh:mm] 00:00 ~ 23:59
	time2 終了時刻[hh:mm] 00:00 ~ 23:59
	bool
	- on 終了時刻で強制切断する
	- off しない
[説明]	セレクトルーティングのエントリを設定
[備考]	

セレクトルーティングのエントリ削除

[書式]	network route resource delete [number]
[引数]	number エントリ番号 1 ~ 16
[説明]	セレクトルーティングのエントリを削除
[備考]	

2-18 管理者設定

管理者のID/パスワードの設定を行うコマンドです。

管理者IDを設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system local administrator id [id] id 管理者名 管理者名を設定	
管理者パスワードを設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system local administrator password 管理者パスワードを設定 対話型入力	
使用者IDを設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system local user id [number] [id] number 使用者番号 id 使用者ID 使用者IDを設定	1 ~ 4
使用者パスワードを設定	[書式] [説明] [引数] [備考]	system local user password [number] 使用者パスワードを設定 number 使用者番号 対話型入力	1 ~ 4
使用者による接続設定変更	[書式] [引数] [説明] [備考]	system local user edit [number] [bool] number 使用者番号 bool - on する - off しない 使用者による接続設定変更を許可する/しないを設定	1 ~ 4
使用者によるログ表示の許可	[書式] [引数] [説明] [備考]	system local user logview [number] [bool] number 使用者番号 bool - on する - off しない 使用者によるログ表示を許可する/しないを設定	1 ~ 4

2 コマンドリファレンス

2-19 通信記録

通信記録の表示、初期化を行うコマンドです。

通信記録の表示	[書式]	log view
	[引数]	
	[説明]	ログを表示
	[備考]	
通信記録の初期化	[書式]	log clear
	[引数]	
	[説明]	ログをクリア
	[備考]	

2-20 時計設定

内部時計の設定、および自動時刻設定を行うコマンドです。

内部時計設定	[書式]	system local timer [[yyyy-]mm-dd] [hh:mm]
	[引数]	[[yyyy-]mm-dd] 年月日（年は省略可能） [hh:mm] 時分
	[説明]	内部時計を設定
	[備考]	年月日のみまたは時分のみでも設定可能
自動時刻設定	[書式]	system ntp [bool]
	[引数]	bool - on する - off しない
	[説明]	自動時刻設定を使用する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	on
NTPサーバのIPアドレスを設定	[書式]	system ntp server [address1 [address2]]
	[引数]	address1 IPアドレス1 address2 IPアドレス2
	[説明]	NTPサーバのIPアドレスを設定
	[備考]	
	[初期値]	IPアドレス1 133.100.9.2
NTPサーバへのアクセス間隔を設定	[書式]	system ntp interval [day]
	[引数]	day 間隔(日)
	[説明]	NTPサーバへのアクセス間隔を設定
	[備考]	
	[初期値]	1日
NTPサーバへのアクセス予定を表示	[書式]	system ntp schedule
	[引数]	
	[説明]	NTPサーバへのアクセス予定を表示
	[備考]	

2 コマンドリファレンス

2-21 SYSLOG設定

SYSLOGの設定を行うコマンドです。
ログ情報をSYSLOGホストに出力します。

DEBUGタイプ出力の設定	[書式] [引数]	system syslog debug [bool] bool - on する - off しない
	[説明] [備考] [初期値]	DEBUGタイプのSYSLOGを出力する/しないを設定 on
INFOタイプ出力の設定	[書式] [引数]	system syslog info [bool] bool - on する - off しない
	[説明] [備考] [初期値]	INFOタイプのSYSLOGを出力する/しないを設定 on
NOTICEタイプ出力の設定	[書式] [引数]	system syslog notice [bool] bool - on する - off しない
	[説明] [備考] [初期値]	NOTICEタイプのSYSLOGを出力する/しないを設定 off
ファシリティの設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	system syslog facility [facility] facility ファシリティ SYSLOGのファシリティを設定 1
SYSLOGホストのIPアドレスを設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	system syslog host [address] address IPアドレス SYSLOGを受けるホストのIPアドレスを設定

2-2.2 アナログポート共通設定

アナログポートとデジタルポートの双方に関する設定を行うコマンドです。

内線通話の設定	[書式]	analog set extension [sw]
	[引数]	sw - off しない - on する
	[説明]	内線通話を許可する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	on
内線転送の設定	[書式]	analog set forward [sw]
	[引数]	sw - off しない - on する
	[説明]	内線転送を許可する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	on
フレックスホン機能の設定	[書式]	analog set flex [sw]
	[引数]	sw - off 擬似フレックスホンを使用 - on NTTとの契約によるフレックスホン
	[説明]	フレックスホン機能の設定
	[備考]	
	[初期値]	off
コールウェイトニングの設定	[書式]	analog set waiting [sw]
	[引数]	sw - off しない - on する
	[説明]	コールウェイトニングを使用する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	off
通信中転送の設定	[書式]	analog set transfer [sw]
	[引数]	sw - off しない - on する
	[説明]	通信中転送をする/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	off

2 コマンドリファレンス

三者通話の設定	[書式] [引数]	analog set mixer [sw] sw - off しない - on する
	[説明] [備考] [初期値]	三者通話を使用する/しないを設定 off
着信転送の設定	[書式] [引数]	analog set redirect [sw] sw - off しない - on する
	[説明] [備考] [初期値]	着信転送を使用する/しないを設定 off
優先着信の設定	[書式] [引数]	analog set priority [subject] subject - all すべてのポートに着信 - pri 1 ポート1を優先 - pri 2 ポート2を優先 - port 1 ポート1のみ着信 - port 2 ポート2のみ着信 - no どちらにも着信しない
	[説明] [備考] [初期値]	優先着信の機能を設定 all
時間差優先着信の設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [初期値]	analog set ptime [timer] timer 優先時間 (秒) 時間差優先着信の設定 0 で優先ポートのみ着信 2
リソースBOD発信割り込みの設定	[書式] [引数]	analog set resourcebod tx [number] [bool] number 接続先番号 bool - on する - off しない
	[説明] [備考] [初期値]	リソースBOD発信割り込みを使用する/しないを設定 ISDN接続のみ有効 off

リソースBOD着信割り込みの設定

[書式] analog set resourcebod rx [number] [bool]
 [引数] number 接続先番号
 bool
 - on する
 - off しない
 [説明] リソースBOD着信割り込みを使用する/しないを設定
 [備考] ISDN接続のみ有効
 [初期値] off

着信転送番号の一覧

[書式] analog set speeddial
 [引数]
 [説明] 着信転送番号を一覧表示
 [備考]

短縮ダイヤルの名前設定

[書式] analog set speeddial name [num] [name]
 [引数] num 短縮登録番号 10~29
 name 名称文字列
 [説明] 短縮登録先名称を設定
 [備考]

短縮ダイヤルプリダイヤルの設定

[書式] analog set speeddial pre [num] [pre]
 [引数] num 短縮登録番号 10~29
 pre プリダイヤル
 [説明] 短縮登録プリダイヤルを設定
 [備考]

短縮ダイヤル電話番号の設定

[書式] analog set speeddial number [num] [dial[*subadr]]
 [引数] num 短縮登録番号 10~29
 dial 電話番号
 subadr サブアドレス
 [説明] 短縮登録電話番号を設定
 [備考]

2 コマンドリファレンス

セレクト着信番号の一覧	[書式] [引数] [説明] [備考]	analog set selectcall セレクト番号を一覧表示	
セレクト着信動作の設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [既定値]	analog set selectcall motion [num] [subject] num 登録番号 subject 着信動作 - all すべてのポートに着信 - pri1 ポート1を優先 - pri2 ポート2を優先 - port1 ポート1のみ着信 - port2 ポート2のみ着信 - no どちらにも着信しない セレクト着信時の着信動作を設定	1 ~ 20
セレクト着信呼出音の設定	[書式] [引数] [説明] [備考] [既定値]	analog set selectcall ring [num] [ring] num 登録番号 ring 呼出音 - bell1 呼出音1 - bell2 呼出音2 - bell3 呼出音3 セレクト着信呼出音の設定	1 ~ 20
セレクトダイヤル登録の設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	analog set selectcall name [num] [name] num 登録番号 name 名称文字列 セレクト着信登録登録名称を設定	1 ~ 20
セレクトダイヤル番号の設定	[書式] [引数] [説明] [備考]	analog set selectcall number [num] [dial[*subadr]] num 登録番号 dial 電話番号 subadr サブアドレス セレクト着信電話番号を設定	1 ~ 20

2-23 アナログポート設定

アナログポートに関する設定を行うコマンドです。

接続する機器の設定	[書式]	analog port equipment [num] [premit]	
	[引数]	num	ポート番号 1 ~ 2
		premit	接続機器
		- default	標準
		- tel	電話
		- fax	F A X
		- modem	モデム
[説明]	アナログポートに接続する機器を設定		
[備考]			
[初期値]	default		
ナンバーディスプレイの設定	[書式]	analog port numdisplay [num] [premit]	
	[引数]	num	ポート番号 1 ~ 2
		premit	対応
		- off	対応しない
		- ndisp	iN Sナンバーディスプレイ
		- catch	キャッチホンナンバーディスプレイ
	[説明]	ナンバーディスプレイの対応を設定	
[備考]			
[初期値]	off		
ダイヤルイン番号/サブアドレスの設定	[書式]	analog port number [num] [dial[*subadr]]	
	[引数]	num	ポート番号
		dial	電話番号
		subadr	サブアドレス
	[説明]	ポートの回線番号 (ダイヤルイン番号) * サブアドレス	
	[備考]	ボイスワープ、なりわけサービス、迷惑電話お断りサービスをご利用の場合は、電話番号を設定してください。	
i ナンバーポートの設定	[書式]	analog port inumber [num] [iport]	
	[引数]	num	アナログポート番号
		iport	i ナンバーポート
		- off	全ポートOFF
		- 1	ポート1
		- 2	ポート2
		- 3	ポート3
[説明]	i ナンバーポートの設定		
[備考]			
[初期値]	off		

2 コマンドリファレンス

グローバル着信の設定	[書式] analog port grobal [num] [sw] [引数] num ポート番号 sw - off しない - on する [説明] グローバル着信をする/しないを設定 [備考] [初期値] on
無鳴動着信の設定	[書式] analog port silent [num] [sw] [引数] num ポート番号 sw - off しない - on する [説明] 無鳴動着信をする/しないを設定 [備考] [初期値] off
発信者番号通知の設定	[書式] analog port notification [num] [sw] [引数] num ポート番号 sw - off しない - on する [説明] 発信者番号通知をする/しないを設定 [備考] [初期値] on
通話中着信の通知の設定	[書式] analog port announce [num] [sw] [引数] num ポート番号 sw - off しない - on する [説明] 通話中に着信があると音で知らせる/知らせないを設定 [備考] [初期値] on
受話音量の設定	[書式] analog port rxvolume [num] [vol] [引数] num ポート番号 vol 受話音量 - max 最大 - mid 標準 - min 最小 [説明] 受話音量の設定 [備考] [初期値] mid

送話音量の設定	[書式]	analog port txvolume [num] [vol]
	[引数]	num ポート番号 vol 送話音量 - max 最大 - mid 標準 - min 最小
	[説明]	送話音量の設定
	[備考]	
	[初期値]	mid
ポートの使用条件の設定	[書式]	analog port use [num] [func]
	[引数]	num ポート番号 func 使用設定 - trx 発着信で使用 - rx 着信で使用 - tx 送信で使用 - not 使用しない
	[説明]	ポート使用条件設定
	[備考]	
	[初期値]	trx
セレクト着信の設定	[書式]	analog port selectcall [num] [sw]
	[引数]	num ポート番号 sw - off しない - on する
	[説明]	セレクト着信を使用する/しないを設定
	[備考]	
	[初期値]	off
内線呼出音の設定	[書式]	analog port incallingring [num] [ring]
	[引数]	num ポート番号 ring 呼出音 - bell1 呼出音1 - bell2 呼出音2 - bell3 呼出音2
	[説明]	内線呼出音の設定
	[備考]	
	[初期値]	bell1
なりわけ着信の設定	[書式]	analog port classcall [num] [sw]
	[引数]	num ポート番号 sw - refuse 着信を拒否する - catch 通話中は着信しない - on 通常時/通話中ともに着信する
	[説明]	なりわけ着信を使用する/しないを設定
	[備考]	

2 コマンドリファレンス

なりわけ着信呼出音の設定	[書式]	analog port classring [num] [ring]	
	[引数]	num	ポート番号
		ring	呼出音
		- bell1	呼出音1
		- bell2	呼出音2
		- bell3	呼出音3
	[説明]	なりわけ着信呼出音の設定	
	[備考]		
	[初期値]	bell1	
高位レイヤ整合性の設定	[書式]	analog port hlc [num] [sw]	
	[引数]	num	ポート番号
		sw	
		- off	しない
		- on	する
	[説明]	高位レイヤ整合性をつけて発信する/しないを設定	
	[備考]		
	[初期値]	off	
ダイヤル待ち時間の設定	[書式]	analog port waittimer [num] [timer]	
	[引数]	num	ポート番号
		timer	待ち時間 (秒)
	[説明]	ダイヤル待ち時間の設定	
	[備考]		
	[初期値]	5	
フッキング判定時間の設定	[書式]	analog port hooktimer [num] [timer]	
	[引数]	num	ポート番号
		timer	待ち時間 (秒)
	[説明]	フッキング判定時間の設定	
	[備考]		
	[初期値]	1	
転送トーキの設定	[書式]	analog port talkie [num] [sw]	
	[引数]	num	ポート番号
		sw	
		- off	しない
		- on	する
	[説明]	転送トーキを使用する/しないを設定	
	[備考]		
	[初期値]	on	

送信元トーキの設定	[書式] [引数]	analog port transtaklie [num] [sw] num ポート番号 sw - off しない - on する	1 ~ 2
	[説明] [備考] [初期値]	送信元トーキを使用する/しないを設定 on	
着信転送のタイミングの設定	[書式] [引数]	analog port call [num] [times] [option] num ポート番号 times 呼出回数 option 起動タイミング - immed 即、起動 - aleat 呼出し後起動	1 ~ 2
	[説明] [備考] [初期値]	着信転送が行われるタイミングを設定 immed	
着信転送番号の一覧	[書式] [引数] [説明] [備考]	analog port transfer 着信転送番号を一覧表示	
着信転送先名1の設定	[書式] [引数]	analog port transfer name1 [num] [name] num ポート番号 name 名称文字列	1 ~ 2
	[説明] [備考]	転送先電話番号1の着信転送先名を設定	
着信転送先名2の設定	[書式] [引数]	analog port transfer name2 [num] [name] num ポート番号 name 名称文字列	1 ~ 2
	[説明] [備考]	転送先電話番号2の着信転送先名を設定	
着信転送先電話番号1の設定	[書式] [引数]	analog port number1 [num] [dial[*subadr]] num ポート番号 dial 電話番号 subadr サブアドレス	1 ~ 2
	[説明] [備考]	着信転送先電話番号1を設定 サブアドレス設定は、疑似フレックスホン設定時のみ有効	
着信転送先電話番号2の設定	[書式] [引数]	analog port number2 [num] [dial[*subadr]] num ポート番号 dial 電話番号 subadr サブアドレス	1 ~ 2
	[説明] [備考]	着信転送先電話番号2を設定 疑似フレックスホンを設定時のみ有効	

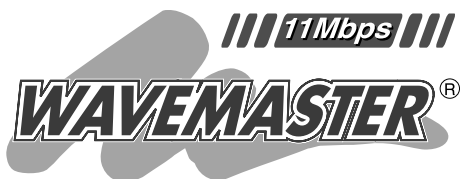
高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本 社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

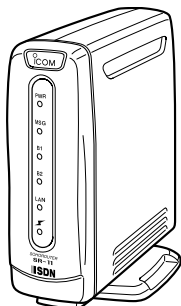
、サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

ブロードバンド説明書



SOHOROUTER SR-11

本書は、本製品をブロードバンドルータとして使うための基本的な内容や制限事項について説明しています。
設定画面の説明やISDN回線も同時にご使用の場合は、本製品に付属の取扱説明書[基本編/応用編]も併せてご覧ください。



ご使用になる前に

1

パソコンを設定する

2

簡単設定ソフトで設定する

3

WWWブラウザで設定する

4

インターネットにつなぐ

5

設定画面について

6

はじめに

本製品の概要について

本製品の設定を、本書で説明する「簡単設定ソフト」または「WWWブラウザ」を使って変更することで、ブロードバンドルータとして機能します。

ブロードバンドルータとして使用する場合、WAN側(モデム接続)は[Ethernet]ポートを使用し、LAN側(パソコン接続)は無線および[USB]ポートを使用します。

ブロードバンドルータ機能とISDNルータ機能(アナログ電話を含む)は同時に使用できません。

制限事項について(重要)

ブロードバンドルータとして使用する場合、以下の制限があります。

[USB]ポートをEthernetとして使用できるのは、簡単設定ソフト(同梱のフロッピーディスクに収録)または本製品の[回線設定]画面で、Ethernetポートの設定を「PPPoE」または「DHCP」に設定しているときだけです。

それ以外の設定では、[Ethernet]ポートとして使用するためのドライバーをインストールされていても、TAでしか使用できません。TAで使用する場合は、付属のCD-ROMに収められた「USBを使うかたへ」(PDF形式)で説明しています。

RIP設定にてWAN側のRIPを「使用しない」に設定した場合、PPP(ISDN)側にもRIPを出しません。

PPP(ISDN)側に対してデフォルトゲートウェイを作成できません。

メール着信通知設定の接続先はブロードバンド側だけになります。

PPP(ISDN)での接続時に取得したDNSサーバに対してリクエストは行いますが、経路によっては通信できないことがあります。これは、PPP(ISDN)側に対してデフォルトゲートウェイを作成することができないためです。

はじめに	i
もくじ	ii
1. ご使用になる前に	1
1-1. 接続ポートについて	2
1-2. フェライトコアについて	2
1-3. プロバイダーとの契約について	3
1-4. 出荷時の回線設定について	4
2. パソコンを設定する	5
USBをつなぐ手順	6
USBドライバーのインストール	6
本製品の[USB]ポートと接続する	8
TCP/IPプロトコルの設定	9
[USB]ポートから取り外すには	9
3. 簡単設定ソフトで設定する	11
3-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	12
3-2. 簡単設定ソフトを起動する	12
3-3. 設定をはじめると	13
4. WWWブラウザで設定する	17
4-1. 本製品とパソコンの電源を入れる	18
4-2. 回線種別とETHERNETポートの変更	18
4-3. インターネットに[PPPoE]方式で接続する	19
4-4. インターネットに[DHCP]方式で接続する	20
4-5. 本体MACアドレスの確認方法	21
5. インターネットにつなぐ	23
5-1. [ETHERNET]ポートへのモデム接続	24
5-2. インターネット接続を開始する	25
5-3. インターネット接続を終了する	27
6. 設定画面について	29
1. [接続状況]画面	30
2. [ETHERNETポート設定]画面	31
3. [回線設定]画面	36
4. 工場出荷時に設定されているフィルターについて	37

この章では、
本製品をブロードバンドルータでご使用になる前に必要な準備などを説明しています。

1-1.接続ポートについて	2
1-2.フェライトコアについて	2
1-3.プロバイダーとの契約について	3
「DHCP」方式に対応している場合	3
「PPPoE」方式に対応している場合	3
ご契約プロバイダーへの申請事項	3
1-4.出荷時の回線設定について	4

【ご注意】

本製品のUSBドライバーは、本製品の[USB]ポートをTAとして使用するドライバー(同梱のCD-ROMに収録)と[Ethernet]ポートとして使用するドライバー(同梱のフロッピーディスクに収録)の2種類あります。

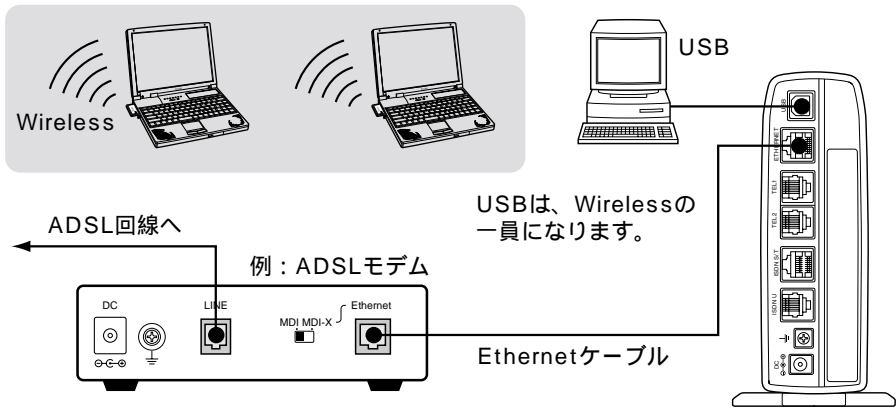
TAとして使用するドライバーでは、PPPoEまたはDHCP以外の回線設定のとき使用できます。また、PPPoEまたはDHCPを設定しているときは、[Ethernet]ポートとして使用するドライバーを使用できます。このとき、本製品は、TAとしてとして使用できませんのでご注意ください。

1 ご使用になる前に

1-1 接続ポートについて

本製品の回線をブロードバンド単独、または併用してご使用の場合、モデム(ADSL/CATVケーブル)を[Ethernet]ポートに接続して使用します。この場合、本製品の[Ethernet]ポートに接続するパソコンで本製品の回線設定を変更(PPPoE、DHCP)したあとの接続は、[USB]ポートおよび無線LANカード(弊社製)でしか行えません。また、回線設定変更後、パソコンを[USB]ポートに接続して無線で本製品に接続されたネットワークに含めて使用する場合は、本書で説明する手順にしたがってUSBドライバーをインストールする必要があります。

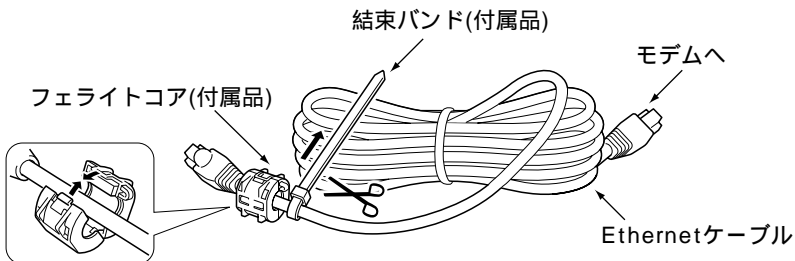
PDF形式の「USBを使うかたへ」で説明するUSBドライバーのインストールは、[USB]ポートをTA機能として使用する(PPPoE、DHCP以外を設定)ときのドライバーのインストール手順ですので、注意して使用してください。



1-2 フェライトコアについて

モデム(ADSL/CATVケーブル)を本製品の[Ethernet]ポートに接続する場合も、本体側に接続する方の[Ethernet]プラグの端にフェライトコアをしっかりと固定する必要があります。

フェライトコアは、プラグの端に固定しないと電波障害を引き起こすことがあります。



1-3 プロバイダーとの契約について

インターネットに接続するためには、プロバイダーとの契約が必要です。

ご契約のプロバイダーやサービスによって、接続方式(PPPoE、DHCP)が異なります。接続方式についてご不明な場合は、ご契約のプロバイダーやお買い上げの販売店などにご相談ください。

「DHCP」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「DHCP」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- IPアドレス(固定割り当ての指示がある場合)
- サブネットマスク(固定割り当ての指示がある場合)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

「PPPoE」方式に対応している場合

ご契約のプロバイダーが、「PPPoE」方式での接続を要求している場合です。

本製品の設定に必要ですので、あらかじめ以下の項目を確認しておいてください。

- ログインユーザー名
- ログインパスワード
- [PPPoE]接続のサービス名(本製品では設定不要です。)
- IPアドレス(固定的に割り当てる方式の場合は必要です。)
- DNSサーバのIPアドレス(複数指定されている場合もあります。)

ご契約プロバイダーへの申請事項

ご契約のプロバイダーや提供を受けるサービスによっては、本製品を含めインターネット接続できる機器(パソコンなど)の事前申請が必要になります。

この場合、CATVインターネットではケーブルモデム、ADSLインターネットではADSLモデムに直接接続するネットワーク機器(パソコンなど)がそれぞれ独自に持っているMACアドレス(機器固有の番号)を、プロバイダーに対して事前申請する必要があります。そのときは、本製品のMACアドレスを通知してください。確認のしかたは、「本体MACアドレスの確認方法」(本書[※]4-5章)をご覧ください。

【ご注意】

MACアドレスの事前申請が必要なサービスをプロバイダーからお受けになるときは、プロバイダーへの申請および登録が完了するまで、本製品を利用したインターネットアクセスはできません。

1 ご使用になる前に

1-4 出荷時の回線設定について

出荷時や全設定内容を初期化したとき、本製品で使用する回線種別は、「ISDNダイヤルアップ」に設定されています。また、本製品の[Ethernet]ポートの設定は、「LANに使用する」に設定されています。

ブロードバンドルータとしてご使用になるときは、本製品の[Ethernet]ポートに接続する(無線で本製品に接続している場合も可能)パソコンからアクセスして、本製品の回線設定([Ethernet]ポートの設定)を変更する必要があります。

本製品にアクセスして設定を変更するには、2とおりの方法があります。

「簡単設定ソフトで設定する」(☞3章)、または「WWWブラウザで設定する」(☞4章)の方法で行います。

「PPPoE」または「DHCP」に設定後、パソコンを[USB]ポートに接続して使用する場合は、「パソコンを設定する」(本書☞2章)にしたがってUSBドライバーをインストールする必要があります。

この章では、

ブロードバンドルータとして使う場合、本製品と通信を行うパソコンの設定について説明します。

本製品とパソコンのつなぎかたに応じて、次の箇所をお読みください。

Ethernetでつなく 「取扱説明書[基本編]」

無線でつなく 「取扱説明書[基本編]」

USBでつなく 「本章」(本書[※]1-1章のように使用するとき)

お買い上げ時、回線設定をPPPoEまたはDHCPに変更するまでは、この章を参考に本製品のフロッピーディスクに同梱のUSBドライバーをインストールしても使用できません。

取扱説明書[基本編]([※]1-14章)のようにTA機能で使うときは、本製品のCD-ROMに収められた「USBを使うかたへ」(PDF形式)で説明しています。

USBをつなぐ手順	6
USBドライバーのインストール	6
本製品の[USB]ポートと接続する	8
TCP/IPプロトコルの設定	9
[USB]ポートから取り外すには	9

2 パソコンを設定する

USBをつなぐ手順

USBケーブルを[USB]ポートに接続してパソコンをつなぐ場合の設定のしかたについて説明します。なお、対応OSは、Windows 98、Windows 98SE、Windows Me、Windows 2000です。

本製品とパソコンの接続は、無線LANを使って行うこともできます。

ステップ1	USBドライバーのインストール	30
ステップ2	本製品とパソコンを接続する	14、32
ステップ3	TCP/IPを設定する	32
ステップ4	WWWブラウザを用意する	取扱説明書[基本編]
ステップ5	本製品から割り当てられたIPアドレスの確認	[基本編]

USBドライバーのインストール

Windows Me、Windows 2000を例に、USBドライバーをインストールする手順について説明します。

本製品の[USB]ポートと接続するコンピューターにインストールしてください。

Windows2000をご使用の場合は、Administrator権限でログオンしてください。

【Windows Me/Windows2000の場合】

- 1.現在、起動しているアプリケーションをすべて終了します。
- 2.本製品のフロッピーディスクをコンピューターのフロッピーディスクドライブ[A:]に挿入して表示しているメニュー画面から、USBドライバ インストール ボタンをクリックします。

ご使用のOSを認識しますので、次の手順にしたがって操作をします。

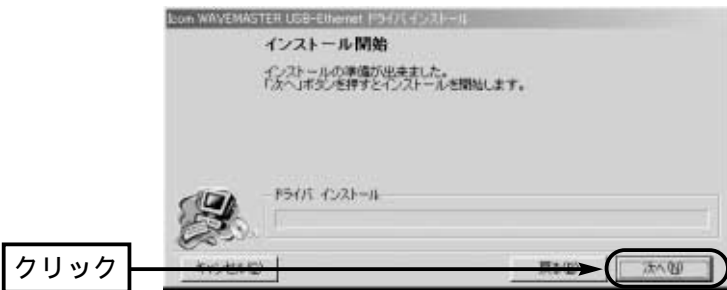


3. 次へ(N) をクリックします。

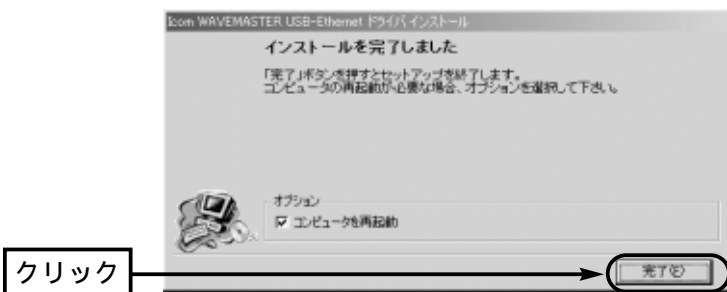


4. 次へ(N) をクリックします。

- インストールを開始します。



5. 完了(E) をクリックします。



【ご参考に】

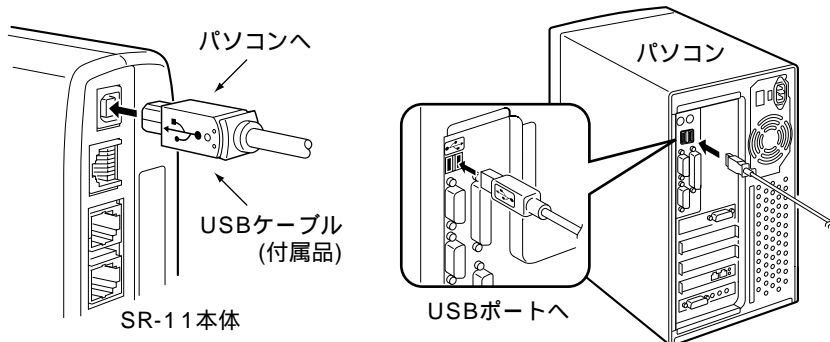
ご使用のパソコンに[USB]ポートがあることを確認してください。
 また、その[USB]ポートが使用できる状態に設定されている必要があります。
 確認は、Windows Meの場合、「コントロールパネル」画面の[システム]アイコンをダブルクリックして表示される「デバイスマネージャ」で行えます。
 パソコンのBIOSにUSB機能を選択する項目がある場合は、それを有効にする必要があります。詳しくは、ご使用のパソコンの取扱説明書でご確認ください。

2 パソコンを設定する

本製品の[USB]ポートと接続する

【接続の手順】

- 1.USBドライバーのインストール後、パソコンの再起動が完了したことを確認します。
- 2.本製品に付属するUSBケーブルで本製品とパソコンと接続します。



- 3.USBケーブルのもう片方の端を本製品の[USB]ポートに差し込みます。

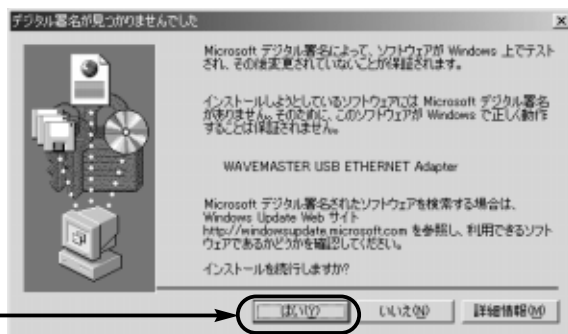
パソコンが本製品を自動的に認識して、次の画面を表示します。

Windows2000をご使用の場合、Administrator権限でログオンしてください。



- 4.Windows Meでご使用の場合は、本製品に付属のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すと完了です。

Windows2000でご使用の場合は、次の画面で はい(Y) をクリックして、本製品に付属のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから取り出すと完了です。



TCP/IPプロトコルの設定

「USBドライバーをインストール」の操作(※P6)を行ったあと、「3-1 Ethernetでつなぐには(TCP/IPプロトコルを使うようにする)」(※取扱説明書[基本編])の手順を参考に設定を行ってください。

USBドライバーがインストールされていると、本製品の「TCP/IP」プロトコルには、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」と表示されます。

[USB]ポートから取り外すには

【Windows 98/98SE/Windows Meの場合】

USBケーブルの取り外しは、必ずプラグの部分を持って行ってください。

ケーブルの部分を持って引っ張ると、本製品のUSBポートやケーブルが破損する恐れがあります。

【Windows 2000の場合】

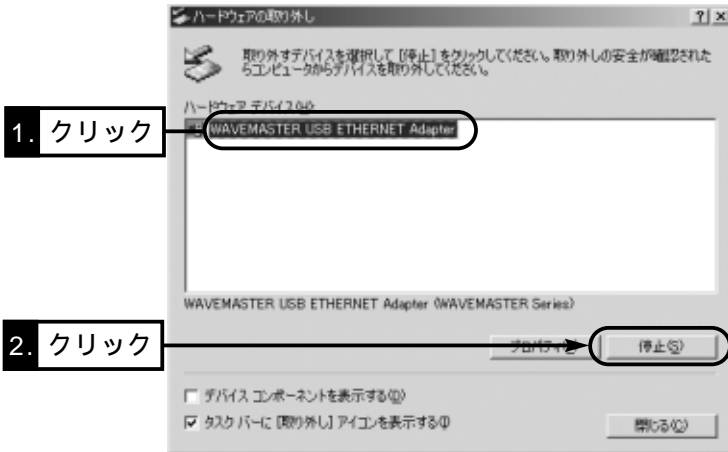
USBケーブルを取り外すには、次の操作を行う必要があります。

【取り外しの手順】

- 1.タスクバー上の[取り外し]アイコンをダブルクリックします。



- 2.[ハードウェアの取り外し]画面に表示された、「WAVEMASTER USB ETHERNET Adapter」をクリックしてから、 停止(S) をクリックします。



この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、ADSL対応プロバイダーへの回線接続設定について、本製品の「簡単接続設定ウィザード」を使用する方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「簡単接続設定ウィザード」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(取扱説明書[基本編] 6-4章)をご覧になり、パソコン側の無線LAN設定内容が本製品と一致していることと、本製品から自動でそのパソコンにIPアドレスが割り当てられていることを確認(取扱説明書[基本編] 4-3章)してから、本章で設定を行うことをお勧めします。

パソコンを[USB]ポートに接続して無線で本製品に接続されたネットワークに含めて使用する場合(お買い上げ時状態では、[USB]ポートはTA機能でしか動作しません。)は、あらかじめ[Ethernet]ポートまたは無線LANで接続するパソコンから回線設定をPPPoEまたはDHCP変更(本書 3章、4章)してから、USBドライバーのインストール(本書 2章)を行うと、[USB]ポートはEthernetとして機能します。

3-1.本製品とパソコンの電源を入れる	12
3-2.簡単設定ソフトを起動する	12
3-3.設定をはじめると	13

【ご注意】

回線設定をPPPoEまたはDHCPに変更するときは、同梱のフロッピーディスクに収録された簡単設定ソフトで行います。(本書 3章)

ISDNダイヤルアップ接続やフレッツISDNを使用する場合は、同梱のCD-ROMに収録された簡単設定ソフトで行います。(取扱説明書[基本編] 5章)

3 簡単設定ソフトで設定する

3-1 本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができたら、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

1. 本製品の電源を入れます。
2. 本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
3. 本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(取扱説明書[基本編]※4章)を確認してください。
4. 本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(取扱説明書[基本編]※4-3章)ことを確認します。
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(取扱説明書[基本編]※3章)で確認してください。

3-2 簡単設定ソフトを起動する

簡単設定ソフトは、本製品のフロッピーディスクに収められています。

右のメニューから 簡単接続設定ウィザード クリックします。

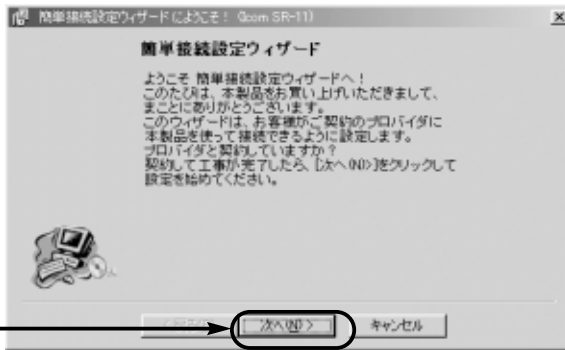
- 「簡単接続設定ウィザード」が起動します。



3-3 設定をはじめる

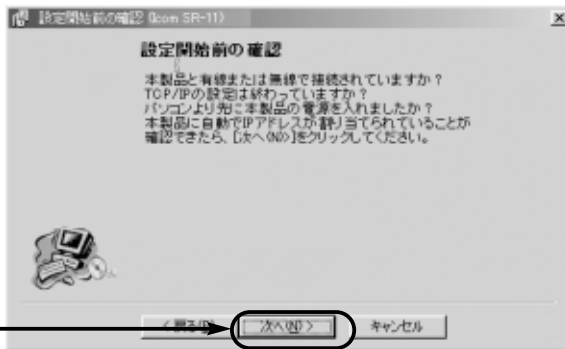
「簡単接続設定ウィザード」を起動したら、つぎの手順にしたがって設定を行います。

1. 次の画面が表示されたら、内容を確認して、次へ(N) をクリックします。



2. 内容を確認して、次へ(N) をクリックします。

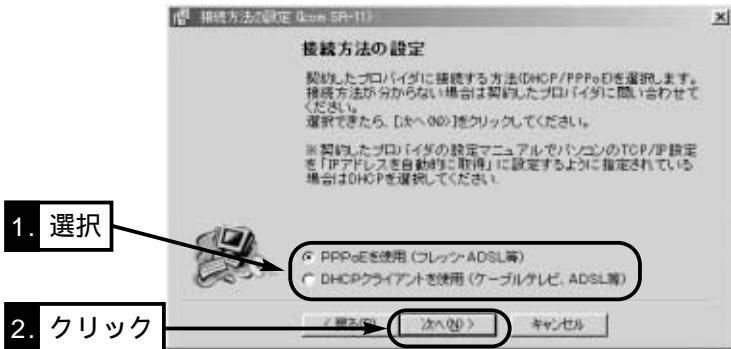
パソコンのIPアドレスをあらかじめ手動で指定しているときは、自動的に取得できるように変更(取扱説明書[基本編][※]3章)してから、やり直してください。



3 簡単設定ソフトで設定する

3-3 設定をはじめめる(つづき)

- 3.ご契約のプロバイダーが指定する接続方式を選択して、次へ(N) をクリックします。
本製品の回線種別(ISDN、専用線、OCNエコノミー)の設定は、自動で「使用しない」に変更されます。

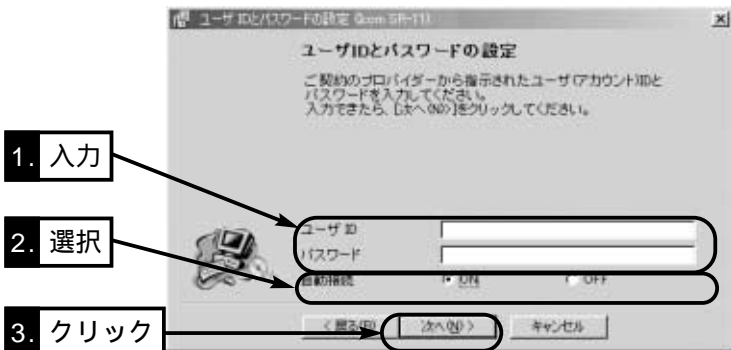


上記画面で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を選択した場合は、契約しているプロバイダーから指定された[ユーザーID]と[パスワード]をテキストボックスに入力します。パソコンからホームページやメールを見る操作を行ったときなど、自動的にインターネットへ自動接続をする場合は、「ON」のラジオボタンをクリックしてから、次へ(N) をクリックします。

「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を選択時は、次の設定はありません。

「OFF」に設定したときの接続操作は、WWWブラウザの設定画面で行います。

詳しくは、「インターネット接続を開始する」(本書 5-2章)をご覧ください。



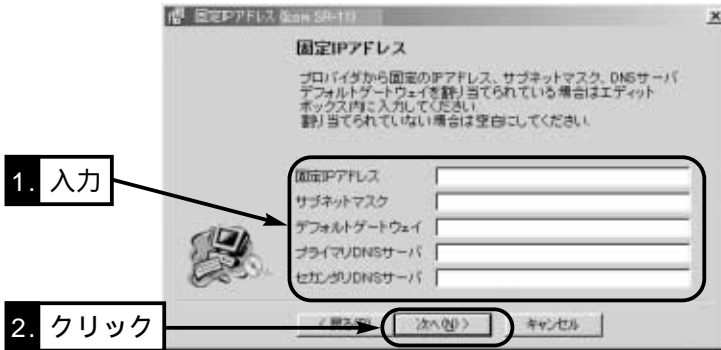
【△注意】

「簡単接続設定ウィザード」では、テキストボックスに入力する文字数制限は、「wwwブラウザ」を使って設定するときの文字数制限と同じです。「簡単接続設定ウィザード」で制限以上の文字を入力されても、制限を超えた分は、破棄されます。

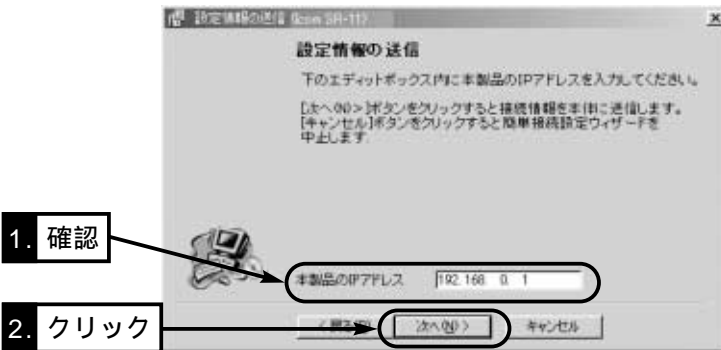
4.プロバイダーからIPアドレスを指定された場合は、そのアドレスとそれ以外に指定された内容を、該当する欄に入力して、次へ(N) をクリックします。

特に指定がない場合は、何も入力しないで、次へ(N) をクリックします。

ご不明な場合は、ご契約のプロバイダーにご確認ください。



5.本製品に設定されたIPアドレス(出荷時は、192.168.0.1)が正しいかを確認して、次へ(N) をクリックします。



6.「確認」のダイアログが表示されますので、はい(Y) をクリックします。



3 簡単設定ソフトで設定する

3-3 設定をはじめめる(つづき)

7. 完了 をクリックします。



8. 手順3.で「PPPoEを使用(フレッツ・ADSL等)」を設定したときは、「5.インターネットにつなぐ」に進みます。

手順3.で「DHCPクライアント使用(ケーブルテレビ・ADSL等)」を設定したときは、「[ETHERNET]ポートへのモデム接続」(本書5-1章)を行ってから、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、お好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力して、接続を確認します。

手順6.で、「ユーザー認証」画面が表示されたときは、本製品に設定されている管理者IDを入力します。管理者IDを設定していないのに、以前設定した内容が表示されるときは、その内容を消してから OK をクリックします。



【プロバイダーから配布のPPPoE接続ソフトウェアについて】

本製品でプロバイダーへの接続方式の設定をPPPoE方式に設定する場合は、プロバイダーから配布されるPPPoE接続用ソフトウェアのインストールは不要です。すでに、ご使用のパソコンにインストールされているときは、そのソフトウェアのアンインストールを行うか自動接続設定を無効に変更してから、本製品をご使用ください。

この章では、

Ethernetで本製品に接続するパソコンを例に、ADSL対応プロバイダーへの回線接続設定について、「WWWブラウザ」を使って行う方法を説明します。

無線で本製品に接続するパソコンから「WWWブラウザ」を使用して設定を行う場合は、最初に「無線LANを設定する」(取扱説明書[基本編] 6-4章)をご覧ください。無線LAN設定内容が本製品と一致していることと、本製品から自動でそのパソコンにIPアドレスが割り当てられていることを確認(取扱説明書[基本編] 4-3章)してから、本章で設定を行うことをお勧めします。

パソコンを[USB]ポートに接続して無線で本製品に接続されたネットワークに含めて使用する場合(お買い上げ時状態では、[USB]ポートはTA機能でしか動作しません。)は、あらかじめ[Ethernet]ポートまたは無線LANで接続するパソコンから回線設定をPPPoEまたはDHCP変更(本書 3章、4章)してから、USBドライバーのインストール(本書 2章)を行うと、[USB]ポートはEthernetとして機能します。

本製品の「簡単接続設定ウィザード」を使って設定を行う場合は、「簡単設定ソフトで設定する」(本書 3章)をご覧ください。

4-1.本製品とパソコンの電源を入れる	18
4-2.回線種別とETHERNETポートの変更	18
4-3.インターネットに[PPPoE]方式で接続する	19
4-4.インターネットに[DHCP]方式で接続する	20
4-5.本体MACアドレスの確認方法	21

4 WWWブラウザで設定する

4-1 本製品とパソコンの電源を入れる

設定に使うパソコンの準備ができたら、本製品とそのパソコンの電源を入れます。

- 1.本製品の電源を入れます。
- 2.本製品に接続されたパソコンの電源を入れます。
- 3.本製品の[LAN]ランプが点灯していることを確認します。
消灯している場合は、[ETHERNET]スイッチの設定(取扱説明書[基本編] 4章)を確認してください。
- 4.本製品からパソコンにIPアドレスが割り当てられている(取扱説明書[基本編] 4-3章)ことを確認します。

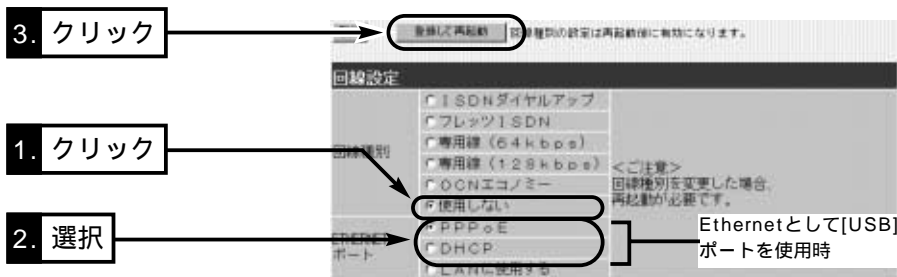
IPアドレスが割り当てられないときは、本製品の設定画面を呼び出せませんので、もう一度「パソコンを設定する」(取扱説明書[基本編] 3章)で確認してください。

4-2 回線種別とETHERNETポートの変更

ここでは、ブロードバンドだけを回線に使用する場合について説明します。

変更する

- 1.本製品の取扱説明書[基本編](6-2章)を参考に設定画面を呼び出します。
- 2.「回線設定」画面を表示させます。
- 3.[回線種別]の中から、「使用しない」のラジオボタンをクリックします。
「使用しない」を選ぶことで、ブロードバンドで使用時、不要になる[B1]/[B2]ランプの機能を停止できます。
- 4.[ETHERNETポート]の中から、ご契約のプロバイダーへの接続方式を選択します。
します。
5. 登録して再起動 をクリックします。
 - 再起動後、設定した回線の接続先が登録できる状態になります。



【回線設定に伴うUSBポートの使用制限】

[回線設定]画面の[ETHERNETポート]項目で「PPPoE」または「DHCP」を設定するときだけ、本製品の[USB]ポートは、同梱のフロッピーに収められたドライバーをインストールすることで、Ethernetとして使用できます。

4-3 インターネットに[PPPoE]方式で接続する

[PPPoE]方式に対応するプロバイダーにモデムを使って接続(本書 5-1章)するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。また、回線種別とETHERNETポートが、本書4-2章の説明にしたがって、「PPPoE」に変更されていることを前提として説明しています。

【プロバイダーから指定される情報の例】

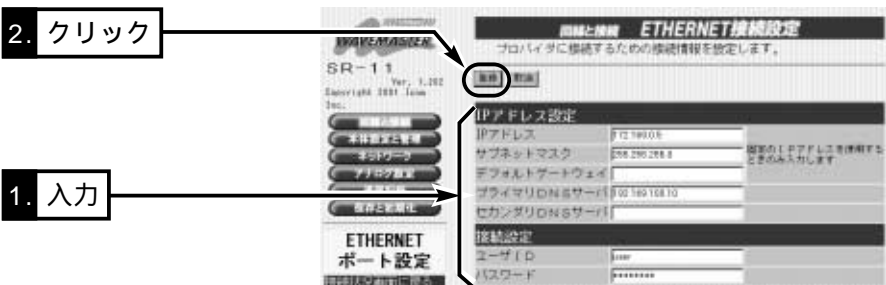
- ユーザID : user(ログインユーザ名またはアカウント名と記載の場合があります。)
- パスワード : userpass(ログインパスワードと記載の場合があります。)
- IPアドレス : 172.169.0.5(固定で設定するように指定された場合は必要です。)
- プライマリDNSサーバ : 192.169.100.10(DNSサーバIPアドレスと記載の場合があります。)
プライマリ、セカンダリとして、複数指定される場合があります。

設定のしかた

- 1.メニューから 回線と接続 「ETHERNETポート設定」の順番にクリックします。
 - 「ETHERNET接続設定」画面を表示します。



- 2.プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の該当する項目に入力します。
3. 登録 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。



4 WWWブラウザで設定する

4-4 インターネットに[DHCP]方式で接続する

[DHCP]方式(ご契約のプロバイダーからIPアドレスの指定がない)に対応するプロバイダーに、ADSLモデムまたはCATVケーブルモデム(本書5-1章)を使って接続するとき、最低限必要と思われる設定項目について説明します。また、回線種別とETHERNETポートが、本書4-2章の説明にしたがって、「DHCP」に変更されていることを前提として説明しています。

【プロバイダーから指定される情報の例】

ご契約のプロバイダーから下記の項目についての指定がないときは、「回線設定」画面で接続方式[DHCP]だけを設定します。

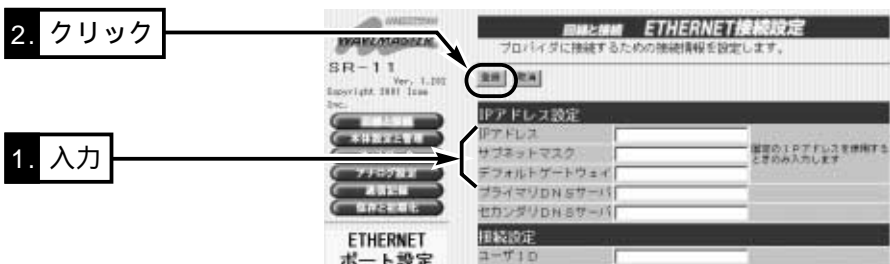
- IPアドレス(指定された場合は入力します。)
- サブネットマスク(指定された場合は入力します。)
- デフォルトゲートウェイのIPアドレス(指定された場合は入力します。)
- DNSサーバのIPアドレス(指定された場合は入力します。)

設定のしかた

- 1.メニューから 回線と接続 「ETHERNETポート設定」の順番にクリックします。
 - 「ETHERNET接続設定」画面を表示します。



- 2.プロバイダーから指定された項目があるときは、画面の該当する項目に入力します。
3. 登録 をクリックします。
 - 設定した内容が有効になります。



4-5 本体MACアドレスの確認方法

ご契約のプロバイダーにMACアドレスの申請および登録が必要な場合(※ 1-3章)など、次の手順を参考に本製品のMACアドレスを確認してください。

確認のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(取扱説明書[基本編]※6-2章)します。
 - 「ETHERNETポート接続状況」画面を表示します。
- 4.メニューから ネットワーク 「無線LAN設定」をクリックします。
 - 「無線LAN設定」画面を表示します。



この章では、

ADSLモデムまたはCATVケーブルモデムへの接続と、本製品に登録した[PPPoE]方式対応のプロバイダーへ自動または手動で接続する方法について説明します。

[DHCP]方式対応のプロバイダーへの接続は、この章の説明にしたがってモデムを接続して、WAN側とLAN側のIPアドレスが取得できている状態であれば、好きなURLを起動したWWWブラウザのアドレスバーに入力すると接続されます。

5-1.[ETHERNET]ポートへのモデム接続	24
ADSLインターネットの場合	24
CATVインターネットの場合	24
5-2.インターネット接続を開始する	25
手動で接続する	25
自動で接続する	26
意図しない接続に注意	26
5-3.インターネット接続を終了する	27
自動で切断する	27
手動で切断する	28

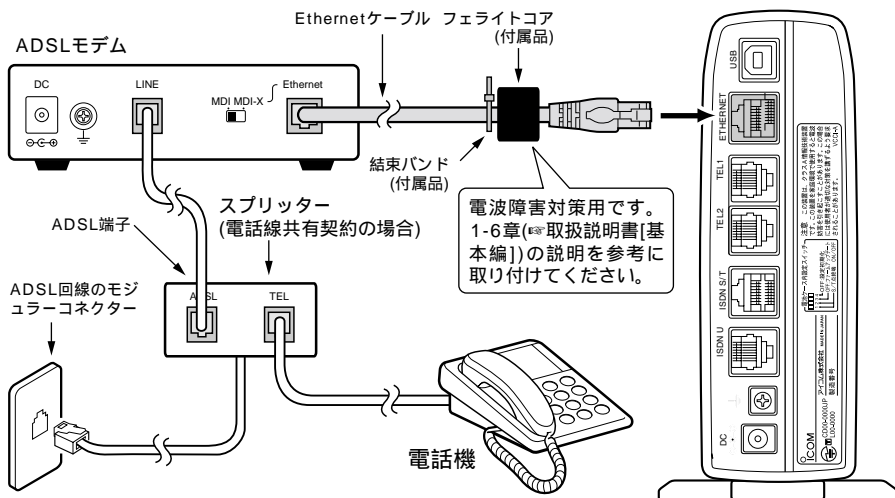
5 インターネットにつなぐ

5-1 [ETHERNET]ポートへのモデム接続

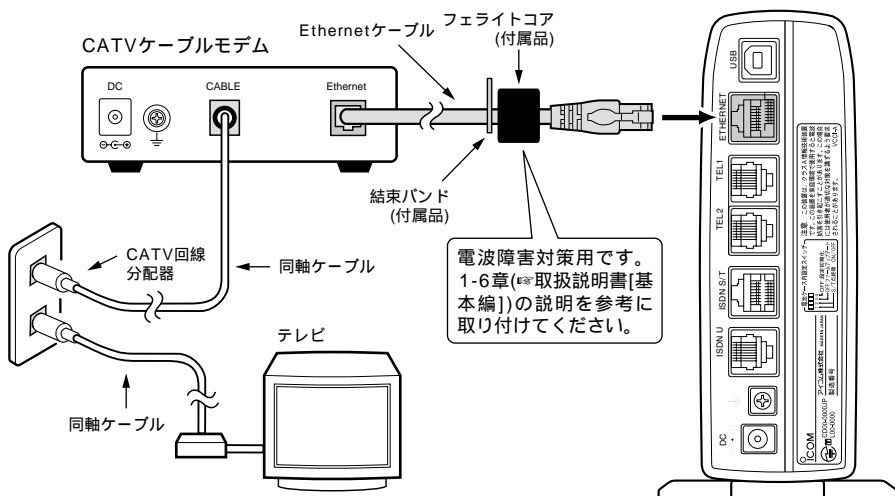
「簡単設定ソフト」(本書 3章)、または「WWWブラウザ」(本書 4章)で本製品の回線設定を変更後、次の図を参考にモデムを接続します。

【△警告】 接続は、本製品および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

ADSLインターネットの場合



CATVインターネットの場合



5-2 インターネット接続を開始する

本製品は、ネットワーク内の情報を監視して、インターネットへのアクセス要求があると自動的に接続する機能を備えています。

出荷時の状態から[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われます。なお、[自動接続]の設定は、[PPPoE]方式で接続するプロバイダーに対して有効です。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

手動で接続する

[自動接続]の設定が「しない」(出荷時の設定)のときは、次の手順で接続を行います。

接続のしかた

1. WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(取扱説明書[基本編] 6-2章)します。
 - 「ETHERNETポート接続状況」画面を表示します。
2. 「ETHERNETポート接続状況」欄に表示された 接続 をクリックします。
 - 前各項目にそのときの状態が表示されます。



3. WWWブラウザを起動して、お好きなURLをアドレスバーに入力します。
 - 通信中は、点灯している[LAN]ランプが点滅に替わります。
4. アドレスバーに入力したURLのホームページが表示されたことを確認します。
 - 手順3.で点滅しているランプが点灯に替わります。

5 インターネットにつなぐ

5-2 インターネット接続を開始する(つづき)

自動で接続する

次の手順で[自動接続]の設定を「する」に変更すると、パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的にインターネットの自動接続が行われますので、接続の操作は必要ありません。

[自動接続]設定を「する」に変更するには
変更のしかた

1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(取扱説明書[基本編]6-2章)します。

●「ETHERNETポート接続状況」画面を表示します。

2.メニューから 回線と接続 「ETHERNETポート設定」の順番にクリックします。

●「ETHERNET接続設定」画面を表示します。



3.[PPPoE詳細設定]をクリックします。

●「PPPoE詳細設定」画面を表示します。

4.[自動接続]欄の「する」のラジオボタンをクリックして、 登録 をクリックします。



意図しない接続に注意

プロバイダーから配布されたPPPoE接続ソフトウェアの自動接続機能が有効になっているときは、知らないうちに自動発信を繰り返すことがあります。

5-3 インターネット接続を終了する

本製品は、ネットワーク内からインターネットへ接続されているとき、新たにアクセス要求をしない状態が続くと、自動的に切断する機能を備えています。

出荷時の状態では、タイマーの設定値(出荷時の設定：10分)にしたがって自動切断が行われます。

【△注意】

[自動接続]や[自動切断]の設定を出荷時の状態から変更したときは、ご使用になられる機器、ソフトウェア、またはLANの利用状況により回線が接続されて、知らないうちに長時間の接続となるおそれがありますのでご注意ください。

自動で切断する

[自動切断]の設定が「する」(出荷時の設定)のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が10分(タイマ：出荷時の状態)以上続くと、自動的に切断しますので、切断の操作は必要ありません。

[自動切断]設定を「しない」に変更するには
変更のしかた

- 1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(取扱説明書[基本編]※6-2章)します。
 - 「ETHERNETポート接続状況」画面を表示します。
- 2.メニューから 回線と接続 「ETHERNETポート設定」の順番にクリックします。
 - 「ETHERNET接続設定」画面を表示します。



.....次ページにつづく

5 インターネットにつなぐ

5-3 インターネット接続を終了する

自動で切断する [自動切断]設定を「しない」に変更するには
変更のしかた (つづき)

3.[PPPoE詳細設定]をクリックします。

- 「PPPoE詳細設定」画面を表示します。

4.[自動切断]欄の「しない」のラジオボタンをクリックして、登録 をクリックします。



手動で切断する

[自動切断]の設定が「しない」のときは、ブラウザによるアクセスやメールソフトでの送受信操作を行わない状態が続いても、切断操作が行われるまで自動的に回線を切断しません。

出荷時設定では、[自動切断]が「する」に設定変更されていますので、「 [自動切断]設定を「しない」に変更するには 」の手順で設定を変更してください。

回線を切断するときは、次の手順で行います。

切断のしかた

1.WWWブラウザを起動して、本製品の設定画面にアクセス(取扱説明書[基本編]^{※6} 6-2章)します。

- 「ETHERNETポート接続状況」画面を表示します。

2.接続状況」欄に表示された 切断 をクリックします。

- 前面パネルの[LAN]ランプが消灯して、各項目にそのときの状態が表示されます。



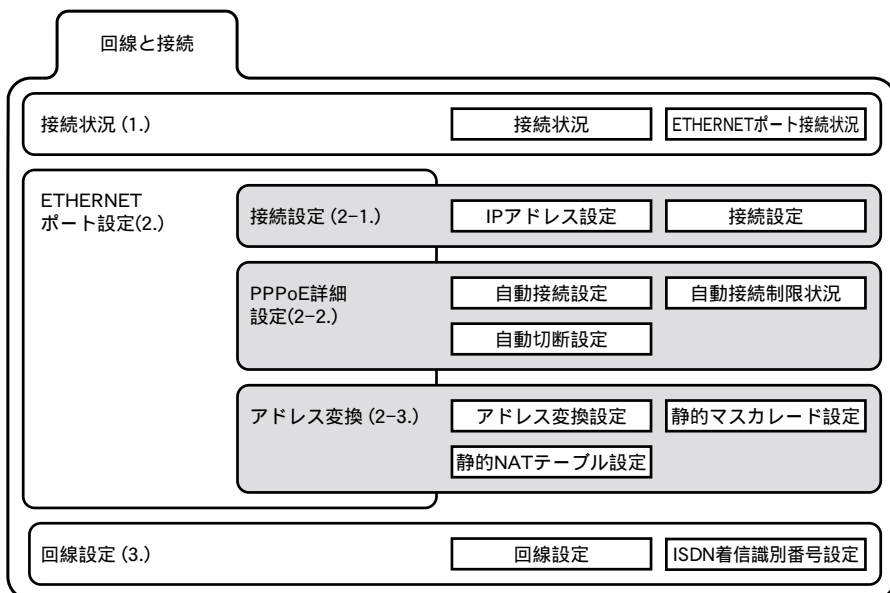
設定画面について

第6章

この章では、
本製品のブロードバンド対応に伴い追加された設定画面の各項目について説明します。

1.[接続状況]画面.....	30
2.[ETHERNETポート設定]画面.....	31
2-1.[接続設定]画面.....	31
2-2.[PPPoE詳細設定]画面.....	32
2-3.[アドレス変換]画面.....	34
3.[回線設定]画面.....	36
4.工場出荷時に設定されているフィルターについて.....	37

「PPPoE」または「DHCP」を設定したときの 回線と接続 メニューの構成です。



6 設定画面について

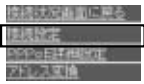
1. [接続状況]画面



- ①<切断> 本製品に登録した接続先への接続、切断を手動で行うためのボタンです。そのときの接続状況を左に表示します。
接続先への接続方法が[DHCP]の場合は、接続する相手先からIPアドレスを手動で解放するときだけに使用します。
- ②接続設定 「PPPoE」と表示する場合
WAN側の接続に[PPPoE]を使用していることを意味します。
「DHCP」と表示する場合
WAN側の接続に[DHCP]クライアントを使用していることを意味します。
- ③DNSサーバ 契約するプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。
- ④本体側のIPアドレス 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。
- ⑤相手先のIPアドレス 通信している接続先(プロバイダーなど)のIPアドレスを表示します。
- ⑥接続時間 通信が開始されてから、本画面にアクセスした時点までの接続時間を表示します。
最新の接続時間を表示するには、WWWブラウザの<更新>ボタンをクリックしてください。
- ⑦回線 WAN側の接続に[PPPoE]、あるいは[DHCP]クライアントを使用していることを表示します。
- ⑧接続方法 WAN側の接続に[PPPoE]を設定している場合、回線への接続方法が[自動]か[手動]かを表示します。
なお、WAN側の接続に[DHCP]を設定している場合は、何も表示しません。("-")を表示します。)
- ⑨接続制御 登録した接続先に、手動で接続するときのボタンです。

2.[ETHERNETポート設定]画面

2-1.[接続設定]画面

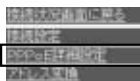


- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③IPアドレス 接続先から指定されたIPアドレスを入力します。指定されていない場合は、空欄のままにしておきます。
- ④サブネットマスク 接続先から指定されたサブネットマスクを入力します。指定されていない場合は、空欄のままにしておきます。
- ⑤デフォルトゲートウェイ 接続先から指定されたデフォルトゲートウェイを入力します。指定されていない場合は、空欄のままにしておきます。
- ⑥プライマリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.101.34)
- ⑦セカンダリDNSサーバ 接続先からDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。
(入力例：123.114.151.64)
接続先への接続方法が[DHCP]で、DHCPサーバから通知される場合は、⑥、⑦の設定は不要です。
接続先への接続方法が[PPPoE]で、IPCP(DNSアドレス送信)に対応している場合は、回線接続時にDNSアドレスを自動取得できますので、⑥、⑦の設定は不要です。
- ⑧ユーザID 接続先から指定されたユーザー名(ログイン名)を入力します。
(入力例：user)
- ⑨パスワード 接続先から指定されたパスワードを入力します。
入力された文字は、すべて「*」または「 」で表示されます。
(表示例：****)

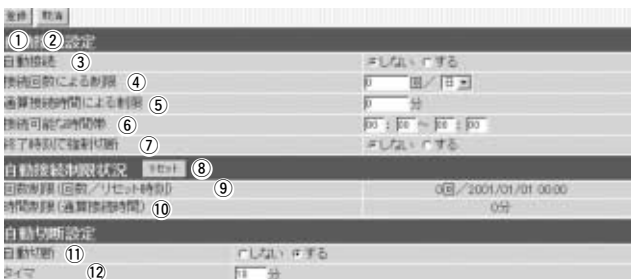
6 設定画面について

2.[ETHERNETポート設定]画面(つづき)

2-2.[PPPoE詳細設定]画面



この画面での設定は、PPPoE選択時のみ有効です。



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③自動接続 ネットワーク上のパソコンから、インターネットにアクセスする操作をすると、自動で回線を接続するかしないかを選択します。
「する」を設定した場合、インターネットへアクセスする操作を行うだけで、自動的に回線に接続されます。
- ④接続回数による制限 一定期間当たりの自動接続の回数を制限できます。
積算された接続回数が制限を超えると、自動接続できなくなります。
0(制限なし)回～65535回まで入力できます。
積算の期間は、「日」「週」「月」の中から選択できます。
積算期間を過ぎた時点で、設定した積算回数に対する制限は自動的に再始動します。
接続回数による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続回数もゼロに戻ります。
- ⑤通算接続時間による制限 期間を制限せず、自動接続の時間を制限できます。
回線接続後、制限時間を経過すると、通信中でも回線を切断します。
0(制限なし)分～65535分まで入力できます。
通算接続時間による制限を設定するときは、必ず、[接続状況]画面に表示される日付と時刻を確認してください。
日付と時刻は、停電対策用電池が消耗すると、初期値に戻ります。また、積算された接続時間もゼロに戻ります。
回線接続中に制限時間を経過した場合でも、回線は強制切断されません。
- ⑥接続可能な時間帯 自動接続を可能とする時間帯を設定します。
開始時刻より終了時刻が早い時間の場合、終了時刻は次の日の時刻となります。

2.[ETHERNETポート設定]画面(つづき)

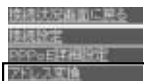
2-2.[PPPoE詳細設定]画面(つづき)

- ⑦終了時刻で強制切断 接続可能な時間帯を超えると、通信中でも強制的に自動切断するかどうかを選択します。
- ⑧<リセット> 以下の[自動接続制限状況]に表示する回数および時間を、「0」に戻します。
- ⑨回数制限(回数/リセット時刻) 表示する時刻までの自動接続回数と、次回リセットされる日時について表示します。
- ⑩時間制限(通算接続時間) 表示する時刻までの自動接続による通信時間について表示します。
- ⑪自動切断 接続中の回線を自動で切断するか、<切断>ボタン([接続状況]画面内)をクリックするまで、切断しないかを選択します。
自動切断を「する」に設定すると、一定時間、回線上で通信がなかったときは、自動的に切断されます。
自動切断は、回線に流れるデータの無い状態が10分(出荷時の設定)以上経過すると、自動的に切断します。

6 設定画面について

2.[ETHERNETポート設定]画面(つづき)

2-3.[アドレス変換]画面



- ①<登録> この画面の設定内容を変更したとき、その内容を確定するボタンです。
- ②<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。なお、一度<登録>をクリックすると、変更前の状態には戻りません。
- ③アドレス変換 NAT、IPマスカレード機能を使用して、グローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。
- ④マスカレードIPアドレス IPマスカレードで、WAN側に使用するグローバルIPアドレスを指定するときに入力します。
プロバイダーから自動で取得したIPアドレスをマスカレードIPアドレスとして使用する場合は、入力の必要はありません。
- ⑤DMZホストIPアドレス 静的マスカレードの設定から漏れたパケットが届くホストのIPアドレスを指定するときに入力します。
- ⑥静的マスカレード WAN側を起点としたパケットに対して、そのパケットのポート番号からローカルホストを特定します。マスカレードIP(アクセスポイントのグローバルIP)に対して、WANを起点としてアクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。
- ローカルIP : プライベートIPアドレスを入力します。
 - プロトコル : TCP、UDP、TCP/UDPから選択します。
 - ポート : 「開始ポート」、「終了ポート」に番号を入力するときは指定を選択します。 印をクリックしてプルダウンメニューより選択します
 - 開始ポート : 選択したプロトコルの開始ポート番号を入力します。
 - 終了ポート : 選択したプロトコルの終了ポート番号を入力します。
- 入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

2.[ETHERNETポート設定]画面

2-3.[アドレス変換]画面(つづき)

⑦静的NATテーブル設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行うための設定です。プロバイダーとのLAN型契約などで、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。

最大32個のNATテーブルを設定できます。

- グローバルIP : 指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
(入力例 : 172.16.0.49)
- ローカルIP : 任意のプライベートIPアドレスを入力します。
(入力例 : 192.168.0.10)

入力後は、<追加>をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認後、<登録>をクリックしてください。

6 設定画面について

3.[回線設定]画面



- ①<取消> この画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
- ②<登録して再起動> この画面中の設定内容を変更したとき、その内容を有効にするため、本製品を再起動します。
- ③回線種別 以下の6つから、使用する回線を選択します。
- ISDNダイヤルアップ(出荷時の設定)
「INSネット64」を利用して、ダイヤルアップ接続をする設定を行います。
 - フレッツISDN
NTTが提供するフレッツISDNを利用して、ご契約のプロバイダーと定額接続するための設定を行います。
 - 専用線(64kbps)
通信速度が64kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - 専用線(128kbps)
通信速度が128kbpsの専用線を利用するための設定を行います。
 - OCNエコノミー
NTTが提供するプロバイダーと契約してインターネット接続のための専用線サービスを利用する設定を行います。
OCNには「ダイヤルアクセスサービス」もありますが、この場合の設定は、「ISDNダイヤルアップ」を選択してください。
 - 使用しない
ブロードバンド回線(ADSL、CATV等)だけを利用するときを選択します。
- ④ETHERNETポート [ETHERNET]ポートの使用用途を選択します。
- PPPoE
ブロードバンドルータのWANポートとして、PPPoEを使用する回線(ADSLなど)に接続する場合に選択します。
 - DHCP
ブロードバンドルータのWANポートとして、DHCPクライアントを使用する回線(CATVなど)に接続する場合に選択します。
 - LAN(出荷時の設定)
ISDNルータのLANポートとして使用する場合に選択します。
- 【ご参考】**
PPPoEまたはDHCPを設定した場合、[USB]ポートは、ETHERNETとして機能します。

3.[回線設定]画面(つづき)

- ⑤電話番号 ブロードバンドルータとして使用する場合、入力是不要です。
ISDN回線での通信を併用する場合で、NTTのダイヤルインサービス(有料)を利用して着信識別するとき、ダイヤルイン番号を入力します。
ダイヤルイン番号は、市外局番から入力してください。
契約電話番号だけを入力すると、本製品への着信がすべて拒否されますので、ご注意ください。
電話番号は、半角31文字まで入力できます。
電話番号を次のように入力すると、すべて同じ番号として処理します。
1111-22-3333、1111(22)3333、1111223333
ダイヤルイン番号は、NTTのダイヤルインサービス(有料)と契約している場合だけ有効です。
- ⑥サブアドレス ブロードバンドルータとして使用する場合、入力是不要です。
ISDN回線での通信を併用する場合で、サブアドレスを利用して着信識別するときに入力します。
NTTとの契約は不要で、ISDN回線契約者が、ここに入力したサブアドレスを契約電話番号と一緒にダイヤルしてきたとき、着信が可能になります。
サブアドレスは、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

4.工場出荷時に設定されているフィルターについて

ブロードバンド用として、ネットワークメニューの[IPフィルター設定]画面に、あらかじめ設定されたフィルターについて説明します。

設定されているフィルターの目的は、以下のとおりです。

- 61番：本体への不正パケット防止
- 62番：プライベートIPアドレスへの不正パケット防止
- 63、64番：Windowsが行う定期的な通信によって起こる「意図しない自動接続」を防止

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547-0003	大阪市平野区加美南1-1-32	
北海道営業所	060-0041	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	983-0857	仙台市宮城野区東十番丁54-1	TEL 022-298-6211
東京営業所	130-0021	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466-0015	名古屋市昭和区御器所通2-24	TEL 052-842-2288
大阪営業所	547-0004	大阪市平野区加美鞍作1-6-19	TEL 06-6793-0331
広島営業所	733-0842	広島市西区井口3-1-1	TEL 082-501-4321
四国営業所	760-0071	高松市藤塚町3-19-43	TEL 087-835-3723
九州営業所	815-0032	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。

ブロードバンド対応について

本製品にはブロードバンド接続に対応した拡張版のソフトウェアが搭載されています。
ブロードバンド接続を行うための取扱説明書は付属のフロッピーディスクに納められていますので
以下の方法でご覧下さい。

Windows の [スタート] ボタンを押す

[ファイル名を指定して実行] を選択

A:¥AUTORUN と入力

[OK] を押す

表示されたメニューの [取扱説明書] を選択

なお、取扱説明書の表示には Acrobat Reader が必要です。パソコンに Acrobat Reader がインストールされていない場合は、付属のCDを使用してインストールを行って下さい。